

# I. 県民アンケート結果

# 1 調査の概要

## 1-1 調査の目的

この調査は、ごみに対する県民の取組や考え方を把握することにより「ごみゼロ社会実現プラン」の改定に必要な基礎資料を得るため、実施する。

## 1-2 調査対象

地域特性などを考慮して選んだ県内15市町から500名ずつ、合計7,500名を無作為抽出し調査対象とした。

## 1-3 調査方法

調査票を郵送、回収した。回収期限前にはがきによる督促を行った。

## 1-4 調査期間

平成22年5月21日に調査票を発送し、6月11日を回答期限として回収した。なお、督促により回答期限後も回答があったため、7月5日を最終回収期限として有効回答に含めた。

## 1-5 回収状況

番号	市町名	発送数	宛先不明	有効発送数	有効回収数	有効回収率
1	津市	500	10	490	223	45.5%
2	四日市市	500	11	489	202	41.3%
3	伊勢市	500	6	494	216	43.7%
4	松阪市	500	13	487	214	43.9%
5	桑名市	500	11	489	219	44.8%
6	鈴鹿市	500	13	487	203	41.7%
7	名張市	500	3	497	237	47.7%
8	尾鷲市	500	5	495	165	33.3%
9	鳥羽市	500	8	492	166	33.7%
10	熊野市	500	7	493	203	41.2%
11	志摩市	500	7	493	185	37.5%
12	伊賀市	500	4	496	228	46.0%
13	東員町	500	3	497	229	46.1%
14	菰野町	500	6	494	217	43.9%
15	紀宝町	500	3	497	191	38.4%
	不明	-	-	-	56	-
	全体	7,500	110	7,390	3,154	42.7%

※「不明」の56件は、設問での「住まいの市町」が無回答の分である。

表 1-1 市町別回収状況

## 1-6 回収状況：市町別平成 19 年度との比較

市町名	平成 19 年度	平成 22 年度	平成 19 年度との差
津市	49.9%	45.5%	-4.4%
四日市市	45.2%	41.3%	-3.9%
伊勢市	48.1%	43.7%	-4.4%
松阪市	48.8%	43.9%	-4.9%
桑名市	51.3%	44.8%	-6.5%
鈴鹿市	46.1%	41.7%	-4.4%
名張市	55.8%	47.7%	-8.1%
尾鷲市	43.3%	33.3%	-10.0%
鳥羽市	43.3%	33.7%	-9.6%
熊野市	45.5%	41.2%	-4.3%
志摩市	43.9%	37.5%	-6.4%
伊賀市	49.3%	46.0%	-3.3%
東員町	52.2%	46.1%	-6.1%
菰野町	48.0%	43.9%	-4.1%
紀宝町	50.0%	38.4%	-11.6%
全体	49.7%	42.7%	-7.0%

市町別の回収率を前回調査の平成 19 年度と比較すると、全体では 7% 下がっている。  
市町別では、すべての市町で前回調査の回収率より下がっている。

表 1-2 回収状況：市町別平成 19 年度との比較

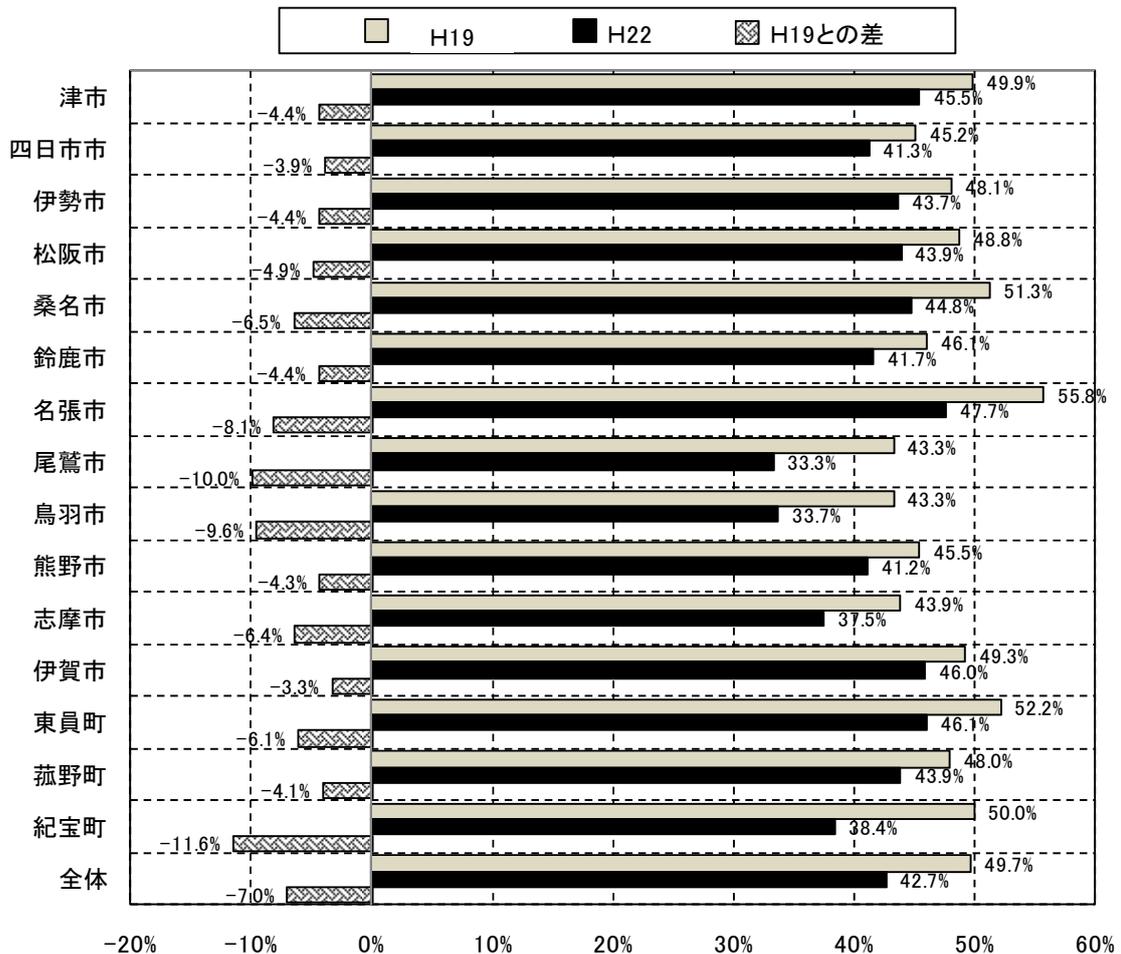


図 1-1 回収状況：市町別平成 19 年度との比較

## 1-7 分析結果の見方

- ① 各比率は、各設問の回答数を有効回答数の100分率で示している。比率は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならないことがある。
- ② 複数回答の場合の各比率は、その項目を選んだ人が有効回答数の何%に当たるかを算出している。従って各項目の比率の合計は100%を超える場合がある。
- ③ ある設問の指定された回答を選んだ人を対象回答者としている場合がある。このような場合、指定回答者以外の回答は無効回答としている。

## 1-8 標本誤差の範囲

県民意識調査を実施する場合、本来は全県民を対象とすることが望ましいが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになる。今回は3,154人の県民から回答を得た。

この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート結果に対する標本誤差を算定することで検証できる。

統計学的には、標本誤差が3%以下であれば精度の高い調査結果であるとされている。

標本誤差が3%ということは、調査結果が母集団の真値に対し、ある信頼度（今回の信頼度は95%とした）でプラス・マイナス3%の範囲にあるということである。

標本誤差 $\sigma$ は次式で算定される。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

記号	項目	内容
$\sigma$	標本誤差	上記による
M	母集団	全人口数：1,855,177人（平成22年4月1日現在）
n	有効回収数	3,154人
$\kappa$	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時が最も大きな値となる

表 1-3 記号の説明

### 標本誤差算定結果

結果の比率 P:(1-P)	50%:50%	40%:60%	30%:70%	20%:80%	10%:90%
標本誤差 ( $\sigma$ )	1.74%	1.71%	1.60%	1.39%	1.05%

表 1-4 標本誤差算定結果

標本誤差の算定結果は、最も大きな値を示す結果の比率が50%:50%で1.74%であった。調査結果が母集団の真値に対し、プラス・マイナス1.74%の範囲にあるといえる。結果の比率が50%・50%以外のポイントでは、更に小さな標本誤差となっている。

## 2 調査結果（属性）

### 2-1 年代

問 36 あなたの年代は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「年代」は、「60代」が25.8%で最も高く、「20代以下」が6.6%で最も低い。  
 「20代以下」を除くと、各年代に大きな偏りは見られない。  
 市町別では、極端な隔たりは見られないが、鳥羽市の「20代以下」の比率が低い。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	20代以下	207	6.6%
2	30代	416	13.2%
3	40代	444	14.1%
4	50代	638	20.2%
5	60代	815	25.8%
6	70代以上	582	18.5%
99	無回答	52	1.6%
	計	3,154	100.0%

表 2-1 「年代回答状況」

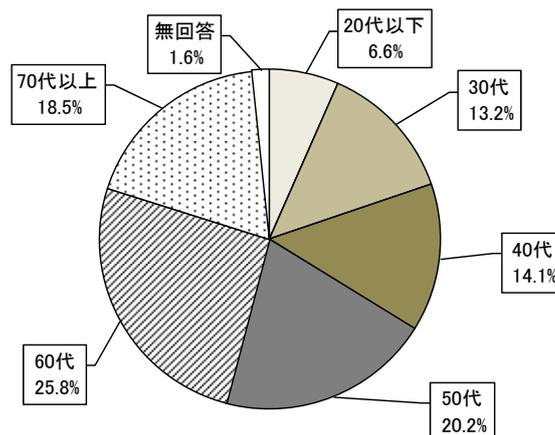


図 2-1 「年代回答率」

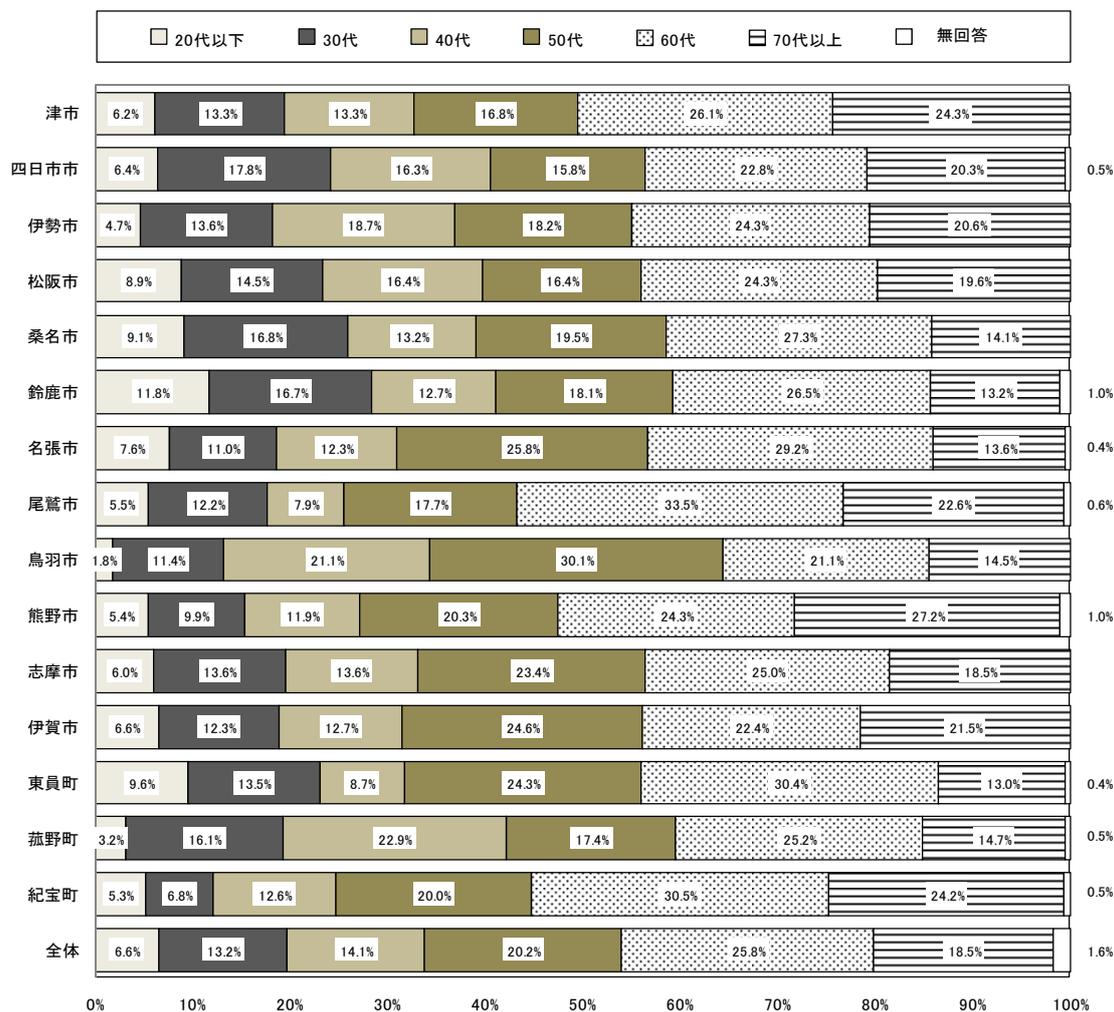


図 2-2 「市町別年代回答率」

## 2-2 性別

問 37 あなたの性別は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「性別」は、「女性」が59.6%、「男性」が38.5%となっている。  
 「女性」の回答率が「男性」の1.5倍となっており、本調査は「女性」の方がごみの問題に関心が高いことがわかる。  
 市町別では、すべての市町で「女性」の回答率が高い。伊賀市は「女性」の回答数が「男性」の2倍強となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	女性	1,881	59.6%
2	男性	1,214	38.5%
99	無回答	59	1.9%
計		3,154	100.0%

表 2-2 「性別回答状況」

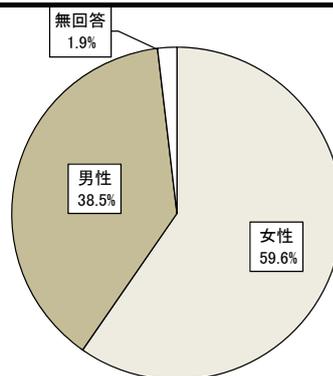


図 2-3 「性別回答率」

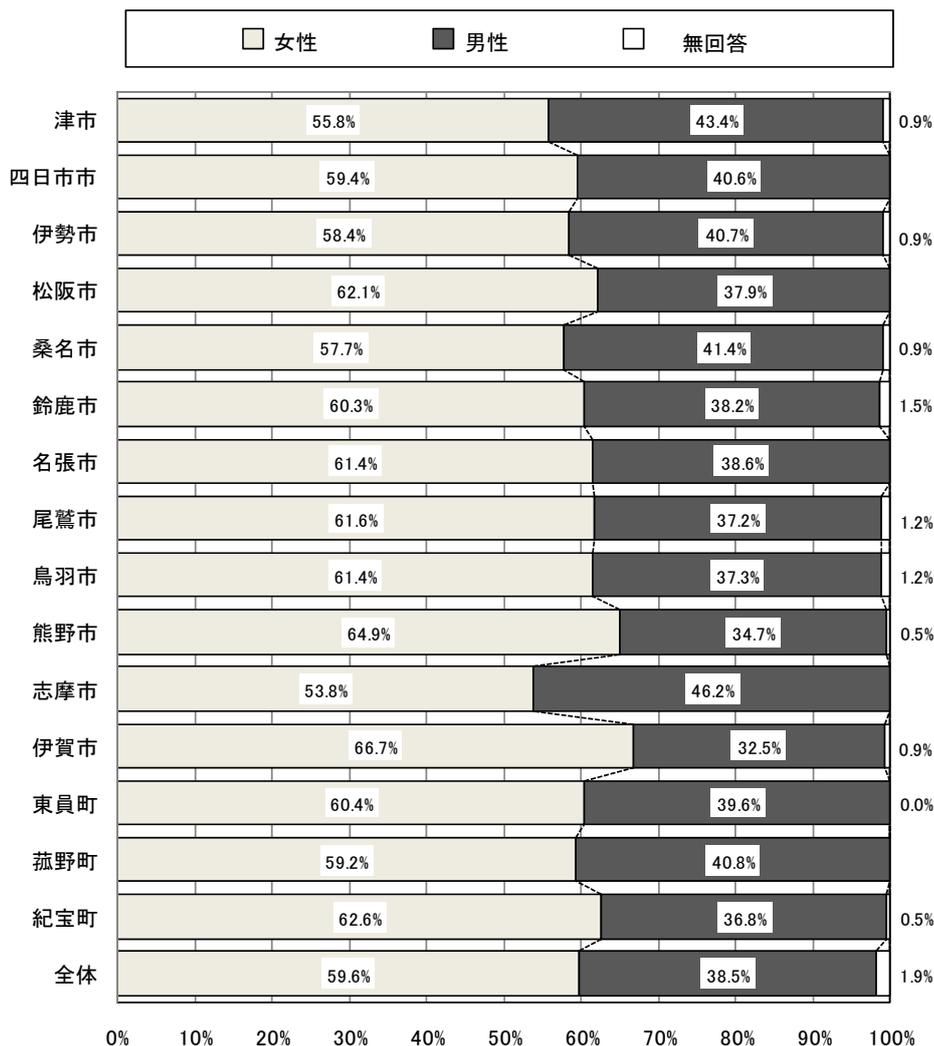


図 2-4 「市町別性別回答率」

## 2-3 職業

問 38 あなたのお仕事は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「仕事」は、「無職」が29.4%で最も高く、次いで「会社員・公務員」の27.1%となっている。  
他の「仕事」は、1.0%から14.6%であり職業別の回答率には偏りが見られる。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	会社員・公務員	854	27.1%
2	パート・アルバイト	461	14.6%
3	農林水産業	74	2.3%
4	自営業	261	8.3%
5	家事・家事手伝い	360	11.4%
6	学生	30	1.0%
7	無職	927	29.4%
8	その他	128	4.1%
99	無回答	59	1.9%
計		3,154	100.0%

表 2-3 「職業回答状況」

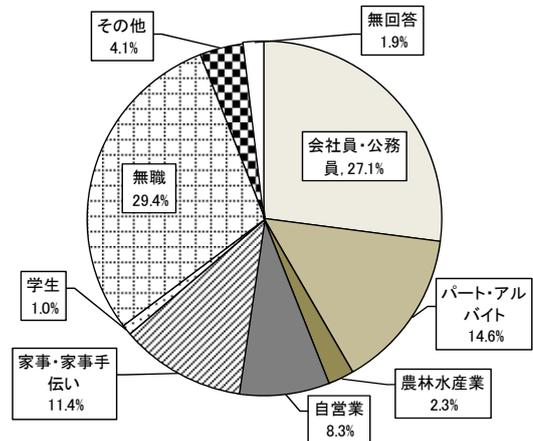


図 2-5 「職業回答率」

## 2-4 家族人員

問 39 いっしょに住んでいる家族の人数は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「家族の人員」は、「2人」が29.1%で最も高い。全体的には「家族の人員」での大きな偏りは見られない。  
市町別では、「3人」が最も多い市町は「鈴鹿市」、「東員町」で、「松阪市」は「2人」と同数である。他の市町は、「2人」が最も多い。  
年代別では、「40代以下」は「3人」、「50代以上」は「2人」が最も多い。年代が高くなると少人数となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	1人	530	16.8%
2	2人	918	29.1%
3	3人	717	22.7%
4	4人	479	15.2%
5	5人以上	452	14.3%
99	無回答	58	1.8%
計		3,154	100.0%

表 2-4 「家族人員回答状況」

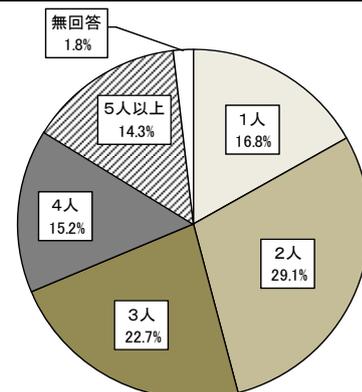


図 2-6 「家族人員回答率」

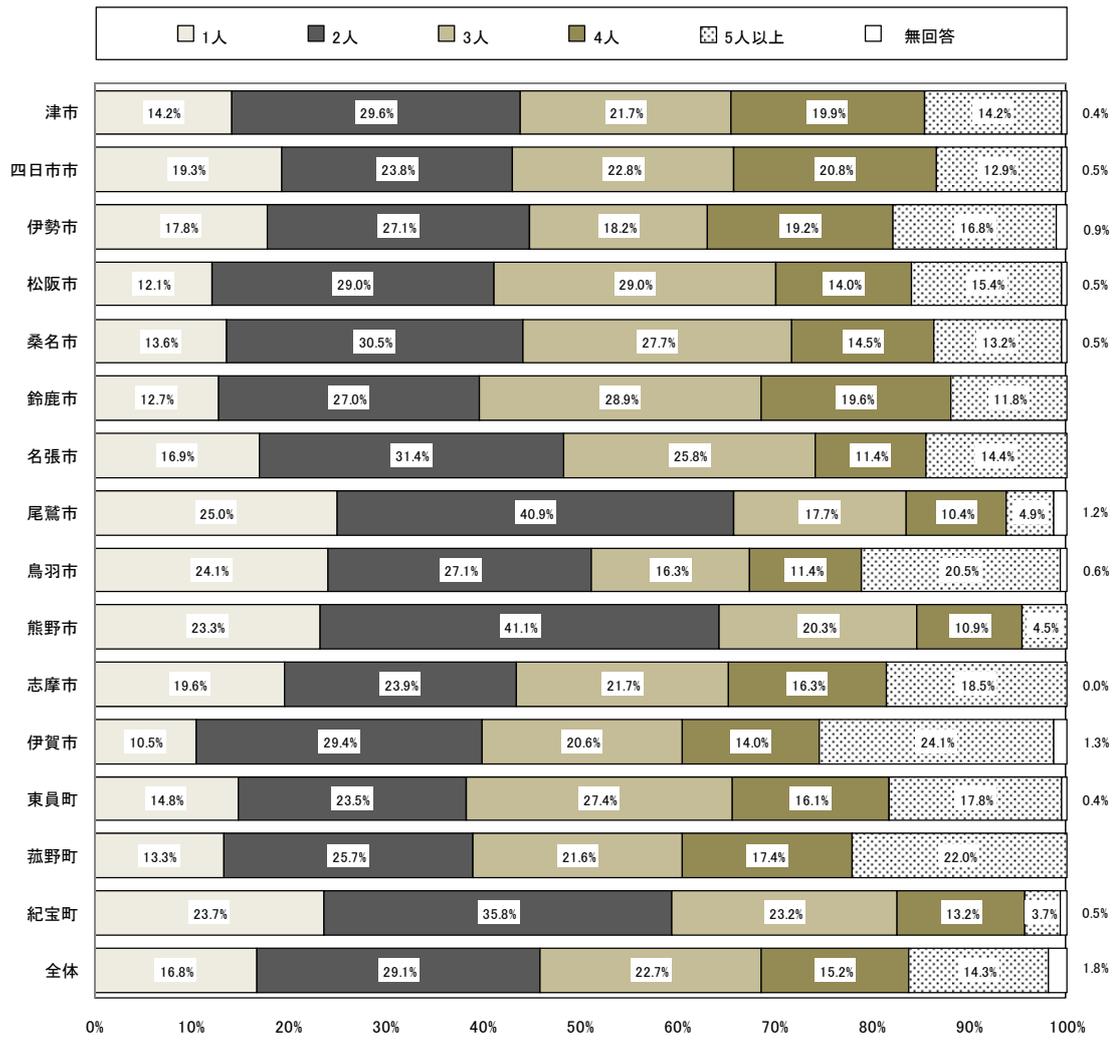


図 2-7 「市町別家族人員回答率」

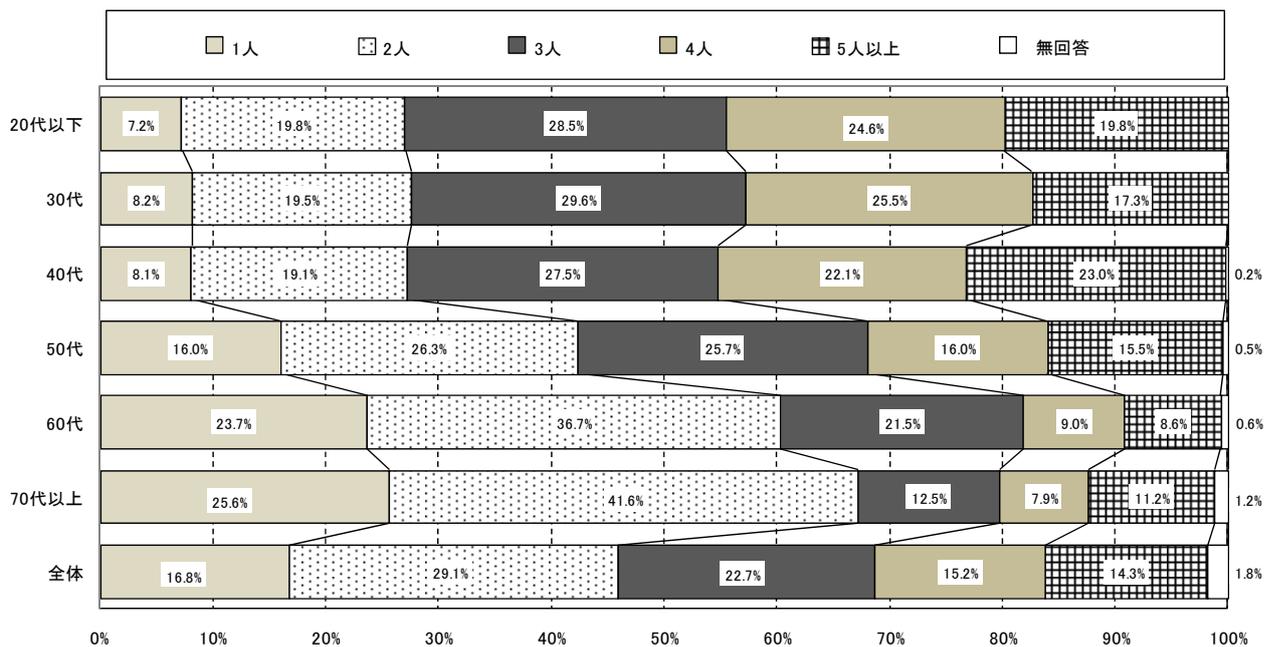


図 2-8 「年代別家族人員回答率」

## 2-5 住まいの市町

問 40 お住まいの市町は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「住まいの市町」は、5.2%から7.5%であり、「住まいの市町」による大きな偏りは見られない。

番	選択肢	回答数	回答率
1	津市	226	7.2%
2	四日市市	202	6.4%
3	伊勢市	214	6.8%
4	松阪市	214	6.8%
5	桑名市	220	7.0%
6	鈴鹿市	204	6.5%
7	名張市	236	7.5%
8	尾鷲市	164	5.2%
9	鳥羽市	166	5.3%
10	熊野市	202	6.4%
11	志摩市	184	5.8%
12	伊賀市	228	7.2%
13	東員町	230	7.3%
14	菰野町	218	6.9%
15	紀宝町	190	6.0%
99	無回答	56	1.8%
計		3,154	100.0

表 2-5 「市町回答状況」

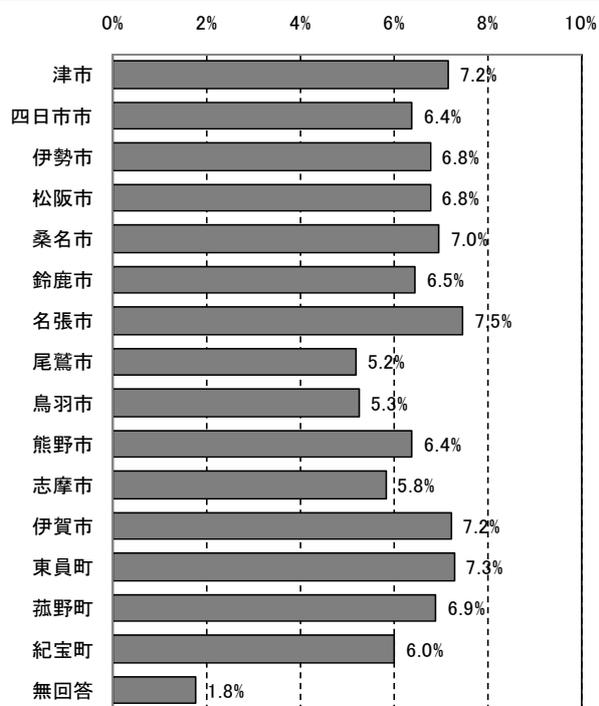


図 2-9 「市町回答率」

## 2-6 住まいの形態

問 41 お住まいの形態は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「住まいの形態」は、「戸建住宅」が89.5%で圧倒的に高い。  
「戸建住宅」以外の住まいの形態は、0.4%から5.8%となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	戸建住宅	2823	89.5%
2	ワンルームのマンションやアパート	40	1.3%
3	学校や会社の寮	14	0.4%
4	その他のマンションやアパート	184	5.8%
5	その他	38	1.2%
99	無回答	55	1.7%
計		3,154	100.0%

表 2-6 「住まいの形態回答状況」

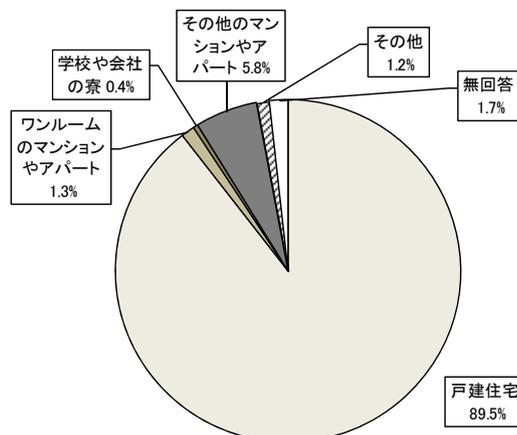


図 2-10 「住まいの形態回答率」

## 2-7 住まい周辺の様子

問 42 お住まいの周辺の様子は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「住まいの周辺の様子」は、「住宅地」が60.2%で最も高い。次いで「住宅が点在する農山漁村」が26.9%で、合わせると87.1%を占めている。  
市町別では、「熊野市」は、「住宅が点在する農山漁村」が最も高くなっている以外はいずれの市町も「住宅地」が最も高い。しかし、「鳥羽市」、「志摩市」、「伊賀市」、「紀宝町」では「住宅地」が50%以下となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	住宅地	1900	60.2%
2	住宅とお店や工場などが混	260	8.2%
3	住宅が点在する農山漁村	847	26.9%
4	その他	75	2.4%
99	無回答	72	2.3%
計		3,154	100.0

表 2-7 「住まいの周辺の様子回答状況」

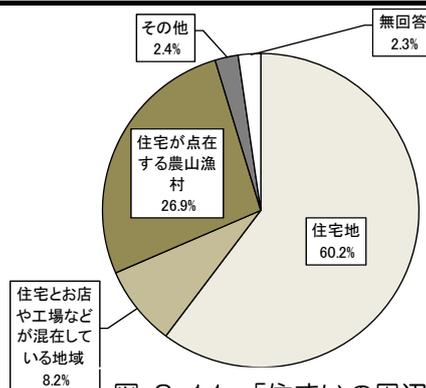


図 2-11 「住まいの周辺の様子回答率」

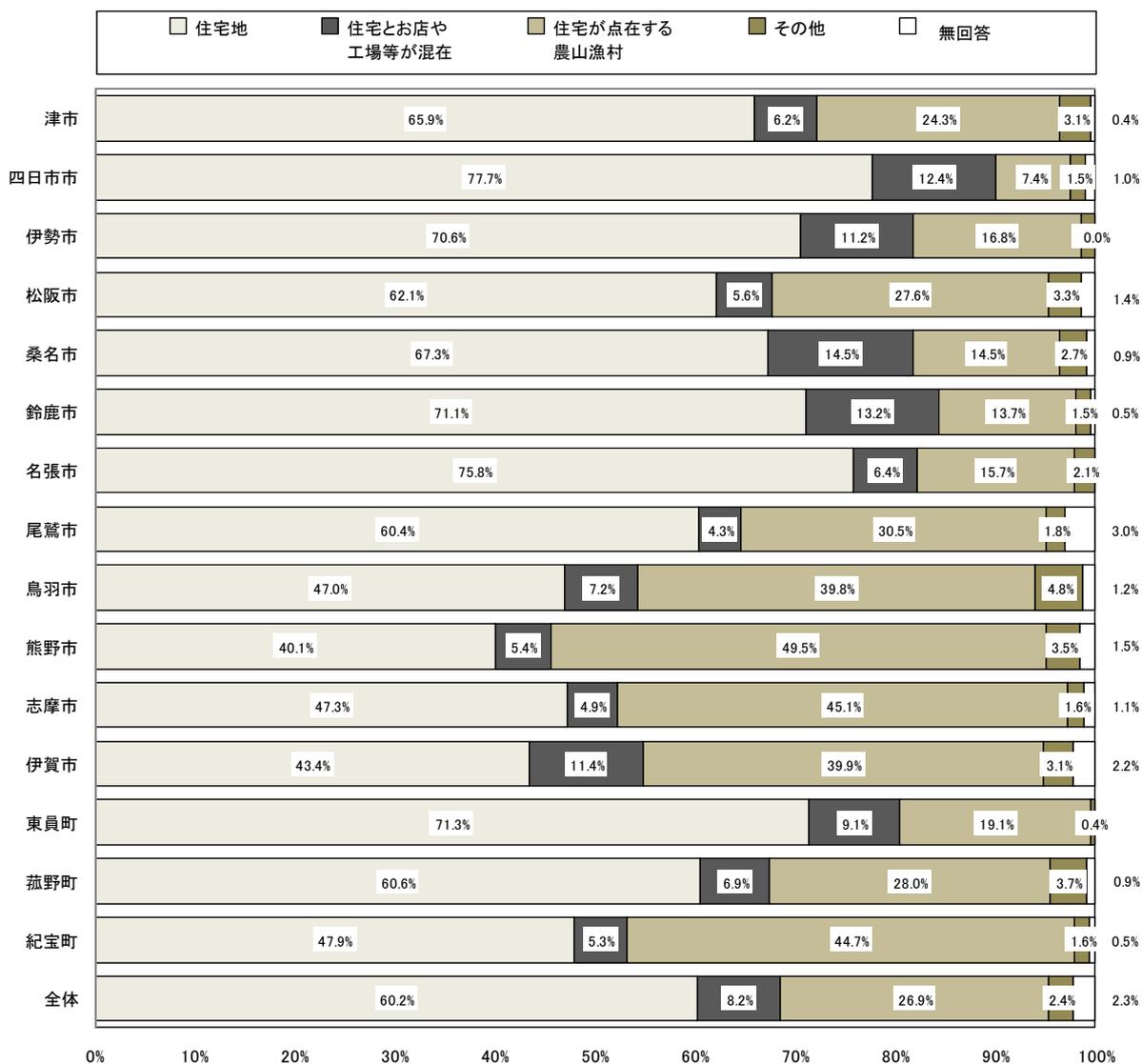


図 2-12 「市町別住まいの周辺の様子回答率」

## 2-8 家庭にあてはまること

問 43	次のうち、あなたの家庭にあてはまることはありますか？ あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。 (複数回答)
------	--

「家庭にあてはまること」については、「いずれにもあてはまらない」が34.9%で最も高く、次いで「夫婦共働き」が31.4%となっている。

市町別では、「いずれにもあてはまらない」が一番高い市町は9市町で、「夫婦共働き」が一番高い市町は6市町となっている。「家族は全員60歳以上」が25%を超えている市町は「尾鷲市」と「紀宝町」となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	夫婦共働き	990	31.4%
2	就学前の乳幼児がいる	293	9.3%
3	小中学生がいる	442	14.0%
4	家族は全員60歳以上	692	21.9%
5	いずれにもあてはまらない	1,101	34.9%
総回答数		3,518	111.5%
有効回答者数		3,154	—

表 2-8 「家庭にあてはまること回答状況」

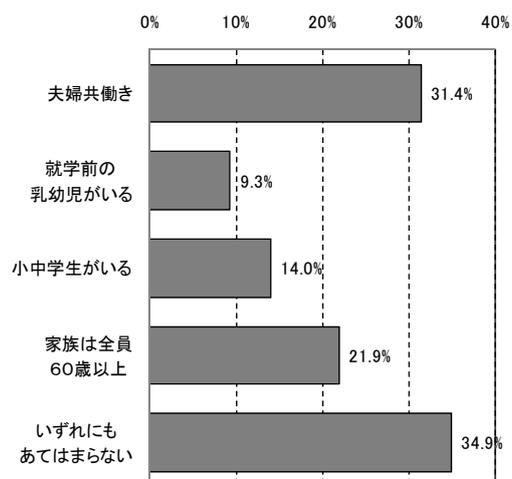


図 2-13 「家庭にあてはまること回答率」

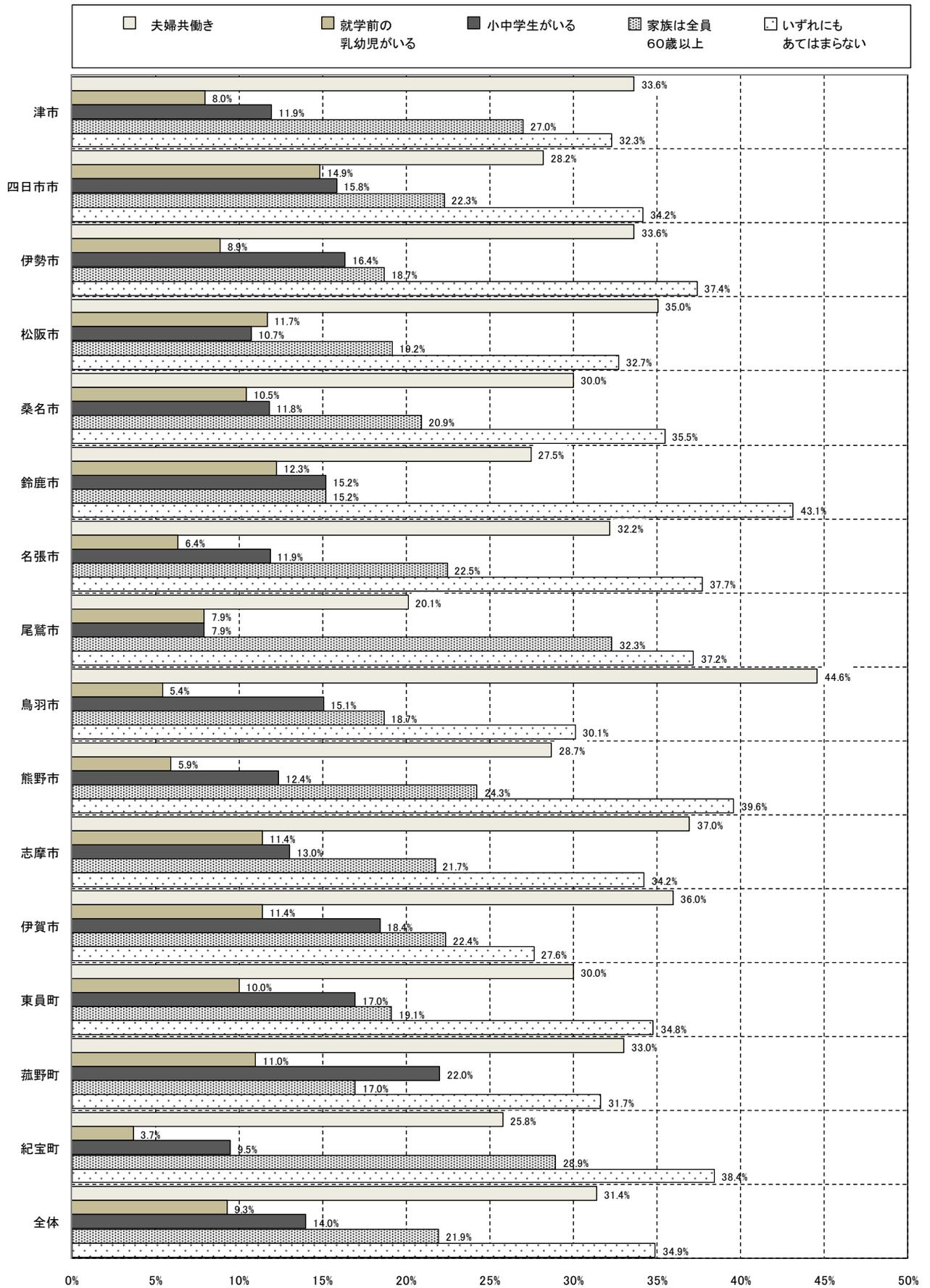


図 2-14 「市町別家庭にあてはまること回答率」

## 2-9 地域活動

問 44	あなたの住んでいる地域では、自治会や子供会などの地域活動は盛んですか？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
------	--

「地域活動」については、「比較的盛ん」が46.2%で最も高い。  
 「とても盛ん」、「比較的盛ん」を合わせると53.1%を占めている。  
 市町別では「とても盛ん」、「比較的盛ん」の計が50%を超えている市町は9市町となっている。  
 年代別では「とても盛ん」、「比較的盛ん」の計が50%を超えている年代は「30代以上」で「20代以下」のみが45%となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とても盛ん	219	6.9%
2	比較的盛ん	1458	46.2%
3	あまり盛んでない	1138	36.1%
4	まったく盛んでない	231	7.3%
99	無回答	108	3.4%
計		3,154	100.0%

表 2-9 「地域活動回答状況」

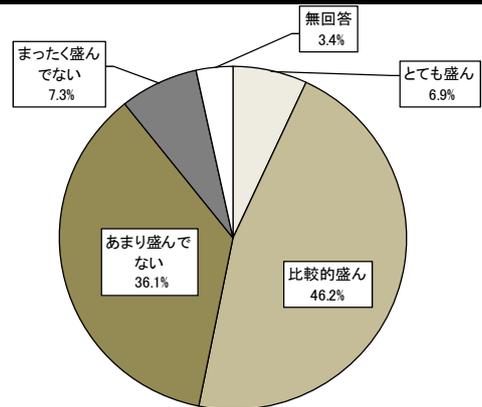


図 2-15 「地域活動回答率」

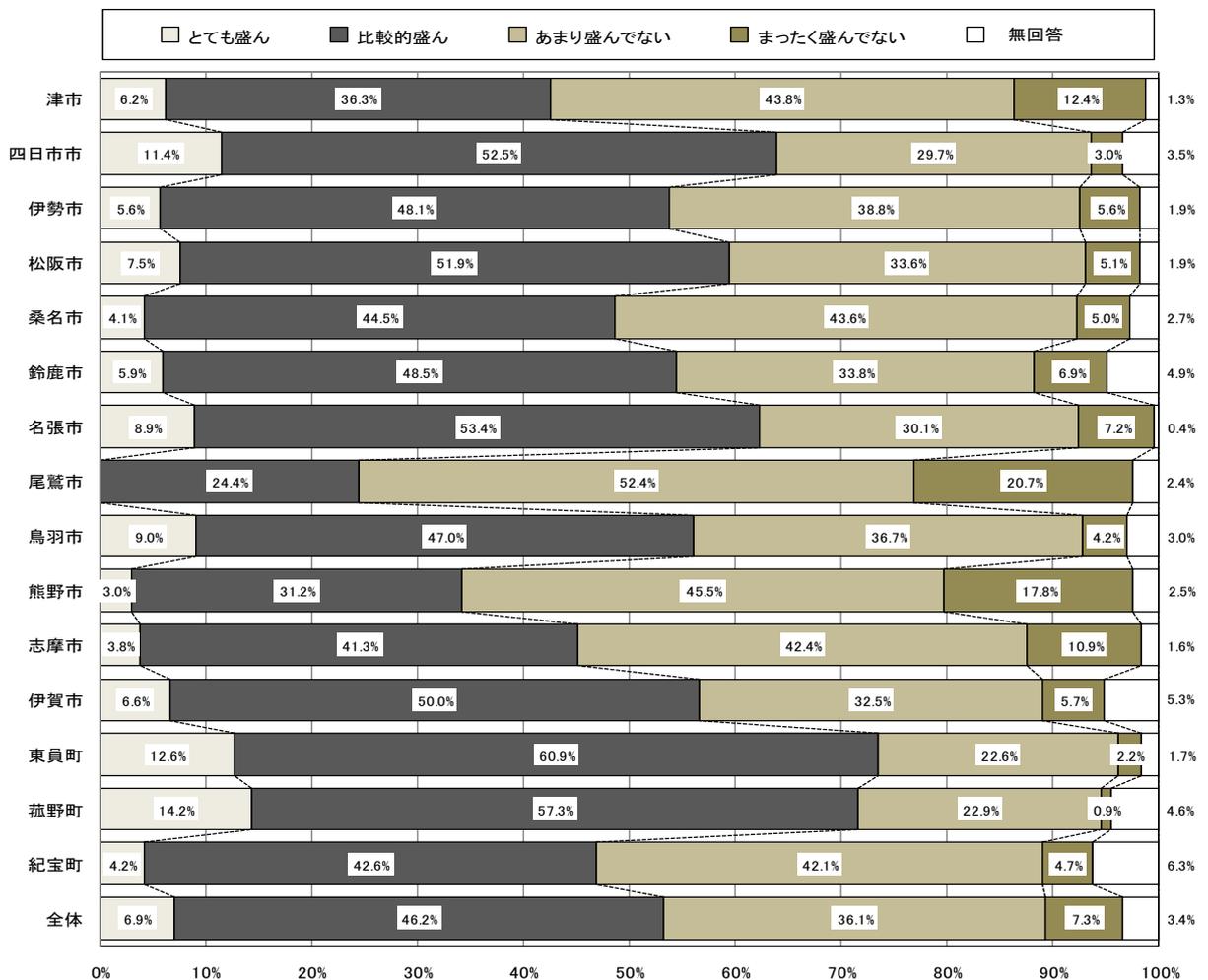


図 2-16 「市町別地域活動回答率」

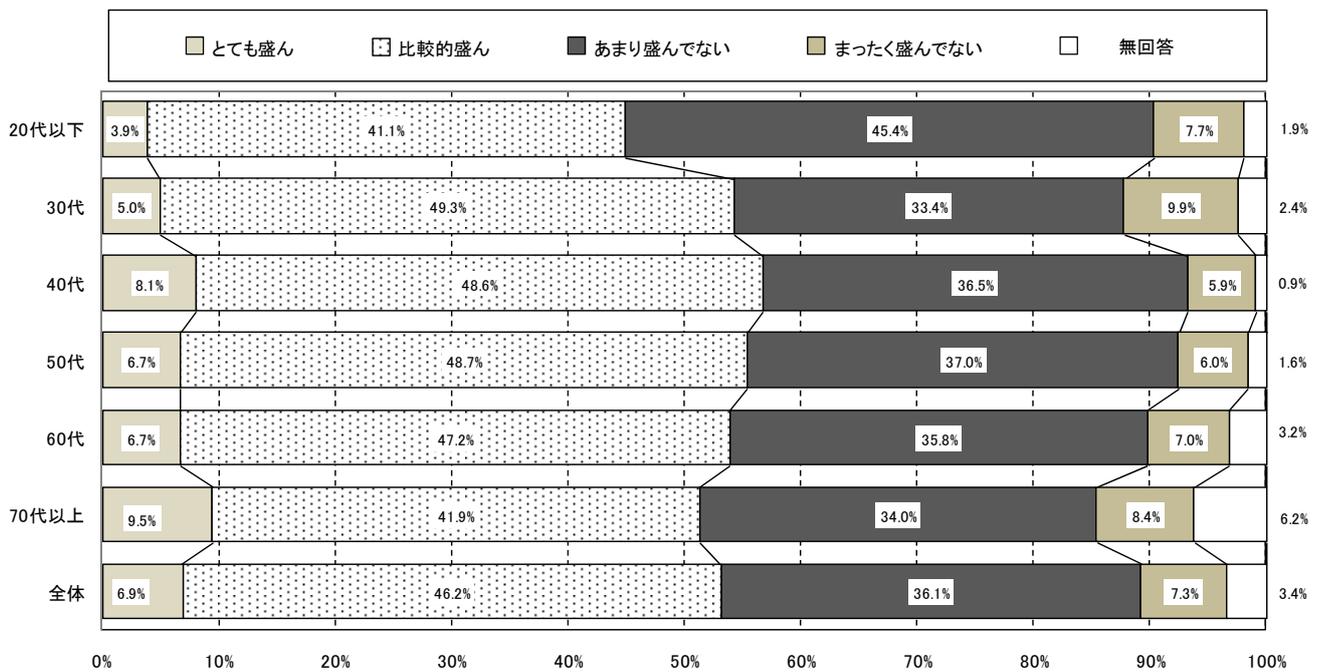


図 2-17 「年代別地域活動回答率」

## 2-10 ごみの分別へのかかわり

問 45 あなた自身は家庭でごみの分別にどうかかわっていますか？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「ごみ分別へのかかわり」については、「家族の中心ではないがごみは分別している」が47.9%で最も高い。  
分別にかかわっている率は92.5%でほとんどの人が分別活動をしている。  
市町別、年代別、性別の中で、年代別の「20代以下」を除いて、9割以上が分別に関わっている結果となっている。  
性別では「家族の中心になって熱心に分別している」が女性で60.5%に対し、男性は21.0%となっている。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	家族の中心になって熱心に分別している	1408	44.6%
2	家族の中心ではないがごみは分別している	1512	47.9%
3	ごみの分別にはあまりかかわらない	178	5.6%
99	無回答	56	1.8%
計		3,154	100.0%

表 2-10 「ごみ分別へのかかわり回答状況」

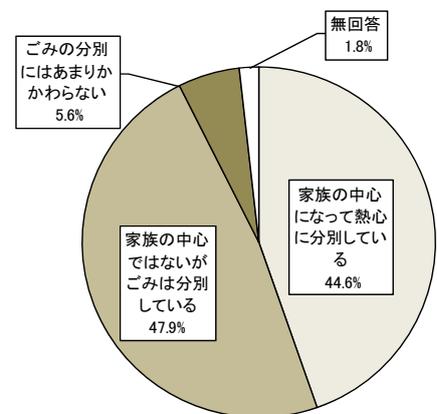


図 2-18 「ごみ分別へのかかわり回答率」

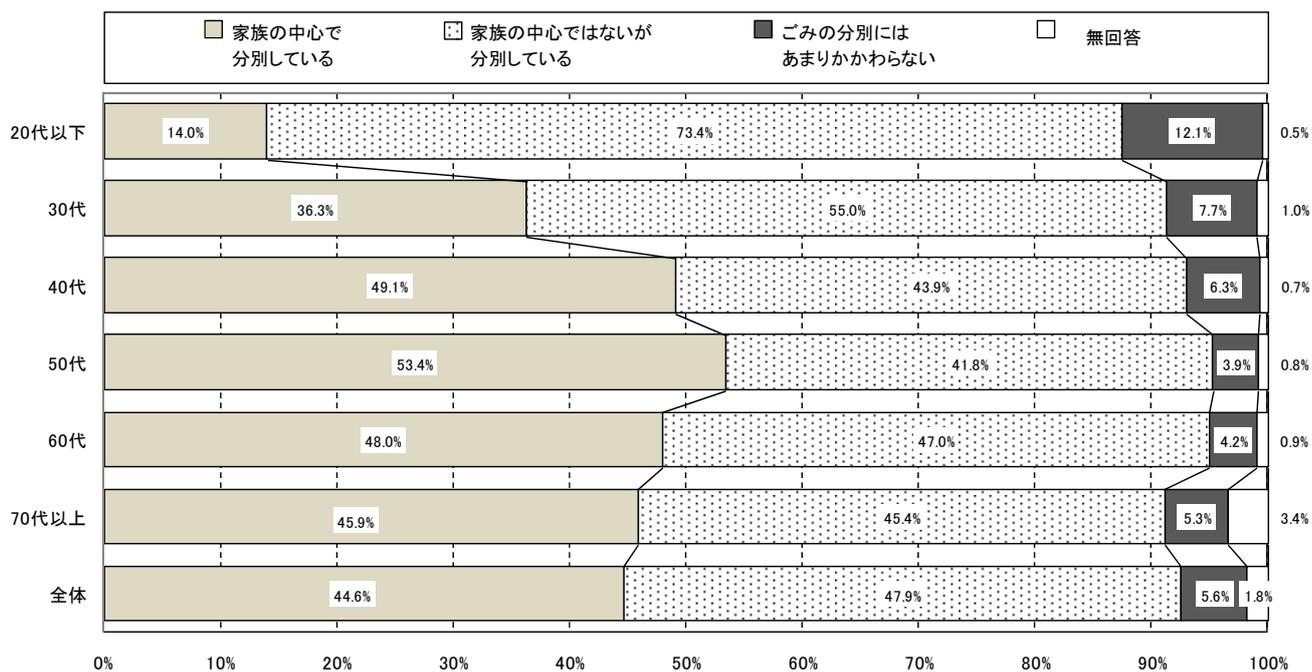


図 2-19 「年代別分別活動回答率」

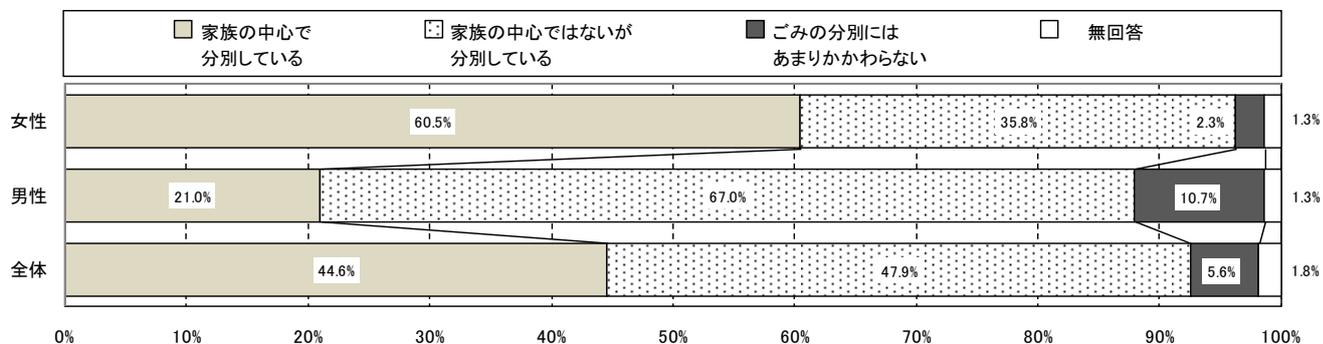


図 2-20 「性別別分別活動回答率」

### 3 「ごみゼロ社会実現プラン」における目標指標達成状況

#### 3-1 目標指標

「ごみゼロ社会実現プラン」（平成17年3月策定）では、プランの趣旨を踏まえ「ごみの減量化」、「多様な主体の参画・協働」、「ごみ処理に伴う環境負荷の抑制」の3つの観点から数値目標を設定している。その中で「多様な主体の参画・協働」については、ごみ減量化やごみ問題に関する県民の意識、行動の変化を表す目標として県民アンケートの結果から目標を設定している。

指標名	平成16年度調査	平成19年度調査	目標値
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.2%	58.3%	100%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4%	40.2%	100%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5%	40.6%	100%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6%	100%

表 3-1 目標指標（平成16・平成19調査結果および目標値）

#### 3-2 今回調査結果からみた目標指標現況値の算出

平成22年度 環境関連行動に関する質問項目			よくあてはまる	少しあてはまる	①+②	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	③+④
			よくある ①	たまにある ②		あまりない ③	ほとんどない ④	
A	問2(1)	必要なくても買ってしまう	6.5%	31.3%	37.8%	38.2%	23.4%	61.6%
B	問2(2)	修理するより買い替える	12.0%	29.9%	41.9%	37.6%	19.7%	57.3%
C	問2(3)	環境のことは考えずに商品を選ぶ	16.9%	44.4%	61.3%	30.2%	7.9%	38.0%
D	問2(4)	新品を購入する	20.2%	34.1%	54.3%	28.0%	16.5%	44.5%
E	問4(1)	賞味期限切れ等で食材を捨ててしまう	12.7%	49.8%	62.6%	19.8%	17.2%	36.9%
F	問4(2)	食べきれず、料理を捨ててしまう	6.3%	35.5%	41.8%	28.1%	29.5%	57.6%
「ごみゼロ社会実現プラン」の認知			知っている ①	名前は聞いたことがある ②	①+②	知らない ③		
			4.9%	31.9%		36.8%	60.9%	
G	問33	「ごみゼロ社会実現プラン」の認知	4.9%	31.9%	36.8%	60.9%		



数値目標の指標	目標とする数値の根拠	現状値 (平成22年度)
ものを大切に長く使おうとする県民の率	A+Bの「③+④」の加重平均	59.4%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	C+Dの「③+④」の加重平均	41.3%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	E+Fの「③+④」の加重平均	47.3%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	「知っている」および「名前は聞いたことがある」の率	36.8%

表 3-2 目標指標現況値の算出

### 3-3 目標指標の達成状況

目標指標について、「ものを大切に長く使おうとする県民の率」、「環境に配慮した消費行動をとる県民の率」は、平成19年度対比で1.1%増加している。「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」は、平成19年度対比で6.7%増加している。ごみ減量化やごみ問題に関する県民の意識は高まっているものと思われる。

しかしながら「ごみゼロ社会実現プランの認知率」は、平成19年度対比で8.8%減少し、36.8%となっている。

目標指標	平成 16 年度	平成 19 年度		平成 22 年度		
	率	率	対平成 16 年度	率	対平成 19 年度	対平成 16 年度
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.2%	58.3%	0.1%	59.4%	1.1%	1.2%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4%	40.2%	0.8%	41.3%	1.1%	1.9%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5%	40.6%	2.1%	47.3%	6.7%	8.8%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6%	—	36.8%	-8.8%	—

表 3-3 目標指標の達成状況

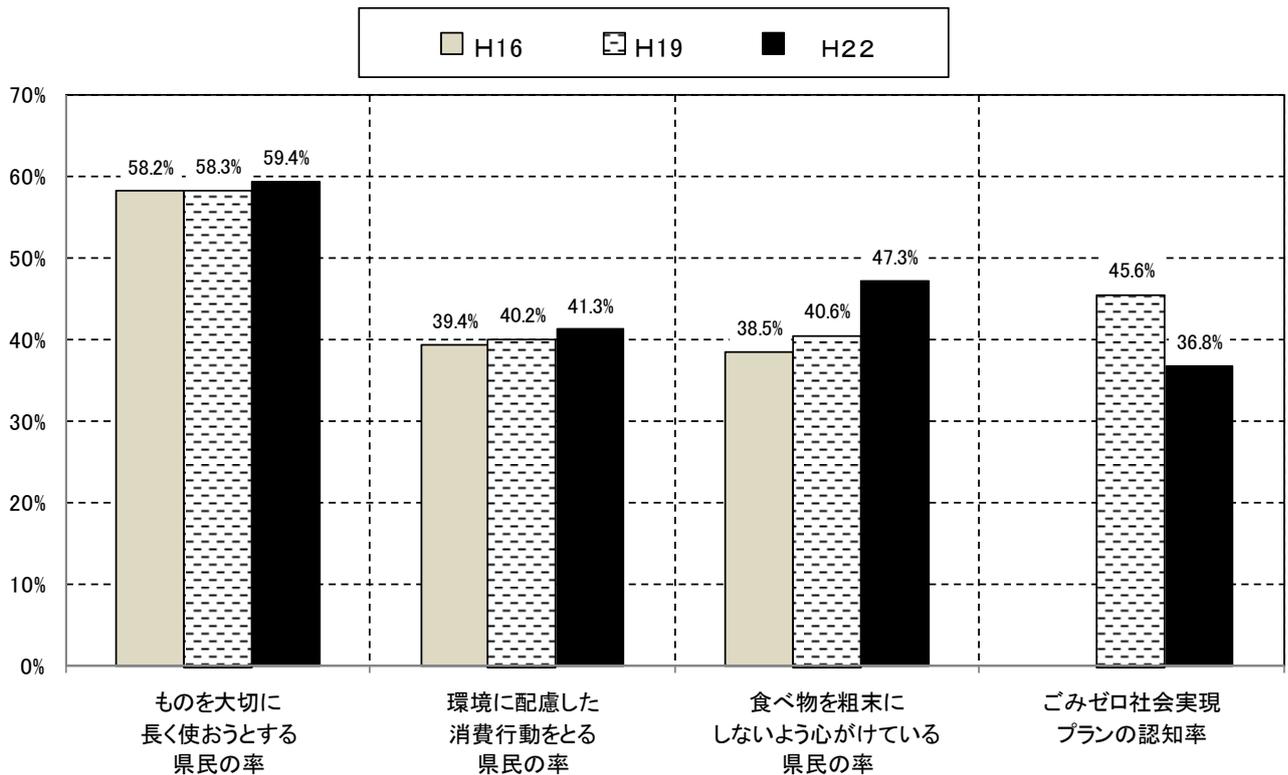


図 3-1 目標指標の達成状況

### 3-4 目標指標別、市町別に見た平成 19 年度との比較

#### ① ものを大切に長く使おうとする県民の率

ものを大切に長く使おうとする県民の率は 50%を超えており、平成 22 年度では、平成 19 年度との差が-3.5%から 7.0%となっている。

ものを大切に長く使おう とする県民の率		平成 19 年度	平成 22 年度	
		率	率	平成 19 年度との差
1	津市	52.4%	58.2%	5.7%
2	四日市市	59.8%	56.9%	-2.9%
3	伊勢市	60.8%	63.1%	2.3%
4	松阪市	59.0%	59.1%	0.2%
5	桑名市	58.1%	62.3%	4.1%
6	鈴鹿市	60.6%	57.8%	-2.7%
7	名張市	57.2%	58.7%	1.5%
8	尾鷲市	58.4%	60.4%	2.0%
9	鳥羽市	57.0%	55.4%	-1.6%
10	熊野市	62.9%	59.4%	-3.5%
11	志摩市	55.7%	62.8%	7.0%
12	伊賀市	54.1%	54.2%	0.1%
13	東員町	61.0%	59.8%	-1.2%
14	菰野町	59.5%	61.7%	2.2%
15	紀宝町	61.3%	63.9%	2.7%

表 3-4 目標指標1の市町別状況

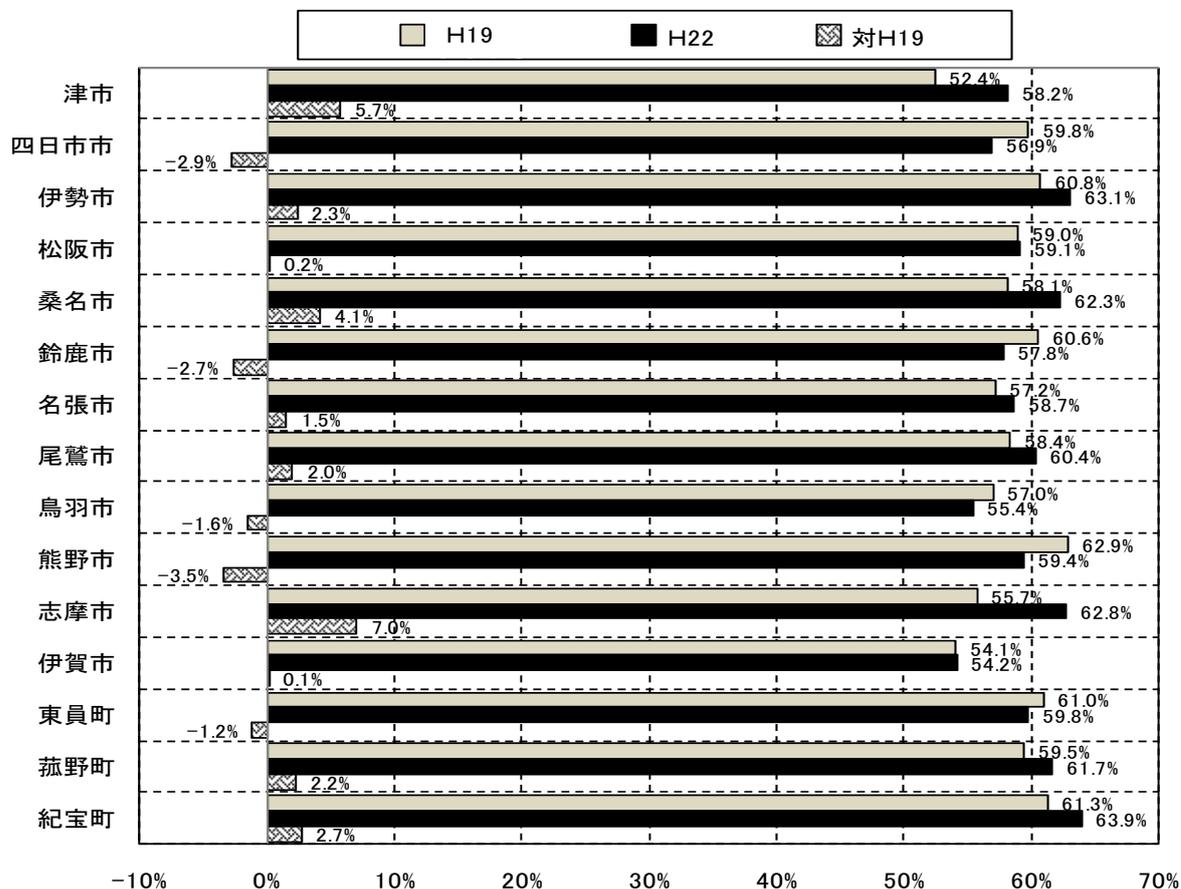


図 3-2 目標指標1の市町別状況

② 環境に配慮した消費行動をとる県民の率

環境に配慮した消費行動をとる県民の率は 30%を超えており、平成 22 年度では、平成 19 年度との差が-4.5%から 5.0%となっている。

環境に配慮した消費行動をとる県民の率		平成 19 年度		
		率	率	平成 19 年度との差
1	津市	35.7%	40.7%	5.0%
2	四日市市	42.5%	41.3%	-1.1%
3	伊勢市	40.3%	41.6%	1.3%
4	松阪市	41.3%	39.0%	-2.2%
5	桑名市	39.5%	44.1%	4.6%
6	鈴鹿市	39.2%	37.0%	-2.2%
7	名張市	36.4%	39.2%	2.8%
8	尾鷲市	44.7%	45.7%	1.1%
9	鳥羽市	40.0%	44.9%	4.9%
10	熊野市	48.0%	44.8%	-3.2%
11	志摩市	40.4%	44.3%	3.9%
12	伊賀市	34.4%	37.1%	2.6%
13	東員町	38.5%	38.0%	-0.4%
14	菰野町	40.5%	44.7%	4.2%
15	紀宝町	43.8%	39.2%	-4.5%

表 3-5 目標指標2の市町別状況

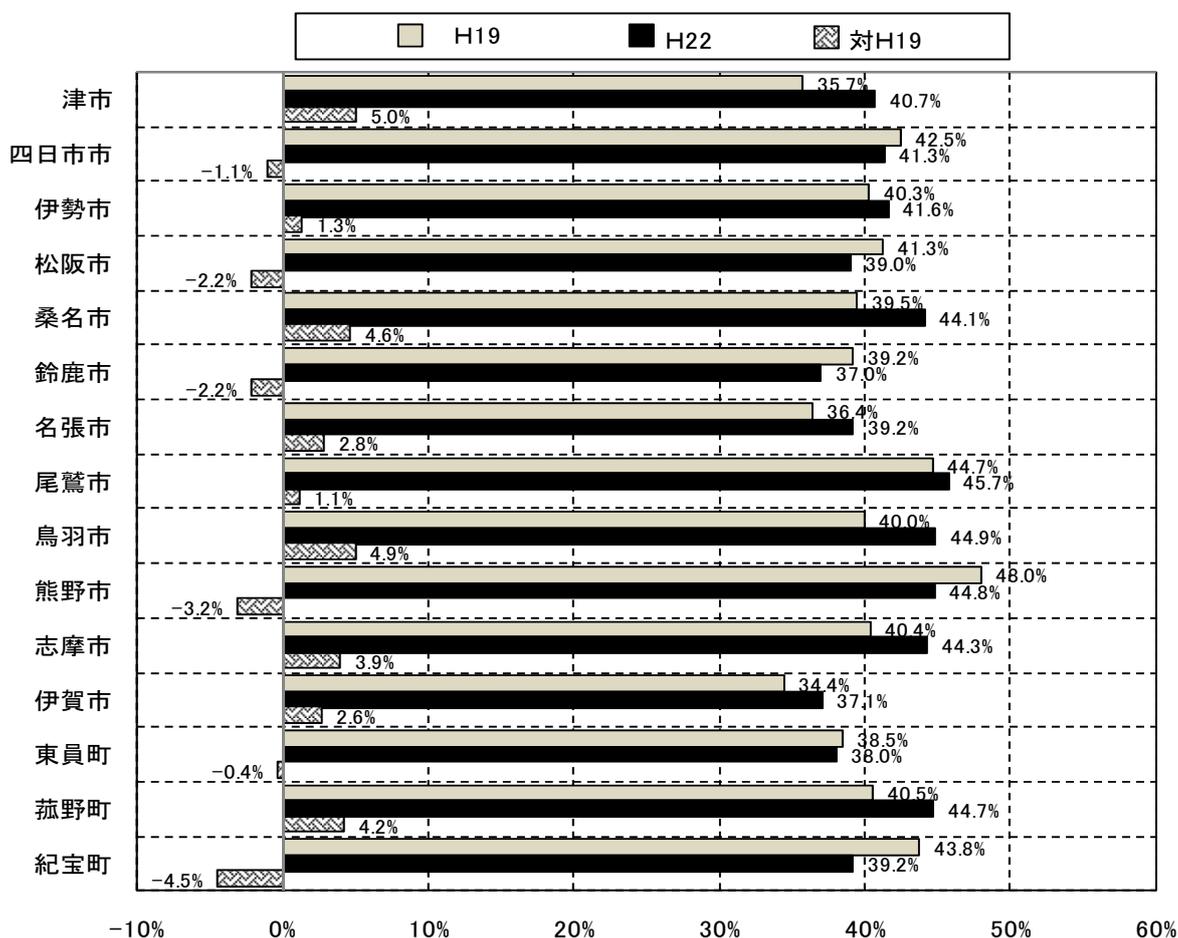


図 3-3 目標指標2の市町別状況

③ 食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率

食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率は 30%を超えており、平成 22 年度では、平成 19 年度との差が-0.9%から 11.5%となっている。

食べ物を粗末にしないよう 心がけている県民の率		平成 19 年度		
		率	率	平成 19 年度との差
1	津市	40.4%	45.1%	4.7%
2	四日市市	39.5%	49.5%	10.0%
3	伊勢市	41.1%	51.2%	10.0%
4	松阪市	37.9%	46.3%	8.3%
5	桑名市	41.9%	45.0%	3.1%
6	鈴鹿市	39.4%	46.6%	7.1%
7	名張市	37.6%	49.2%	11.5%
8	尾鷲市	41.9%	53.4%	11.5%
9	鳥羽市	40.2%	46.4%	6.2%
10	熊野市	43.3%	50.0%	6.7%
11	志摩市	41.3%	47.3%	6.0%
12	伊賀市	36.7%	43.9%	7.2%
13	東員町	40.0%	45.4%	5.4%
14	菰野町	42.9%	42.0%	-0.9%
15	紀宝町	44.0%	50.8%	6.8%

表 3-6 目標指標3の市町別状況

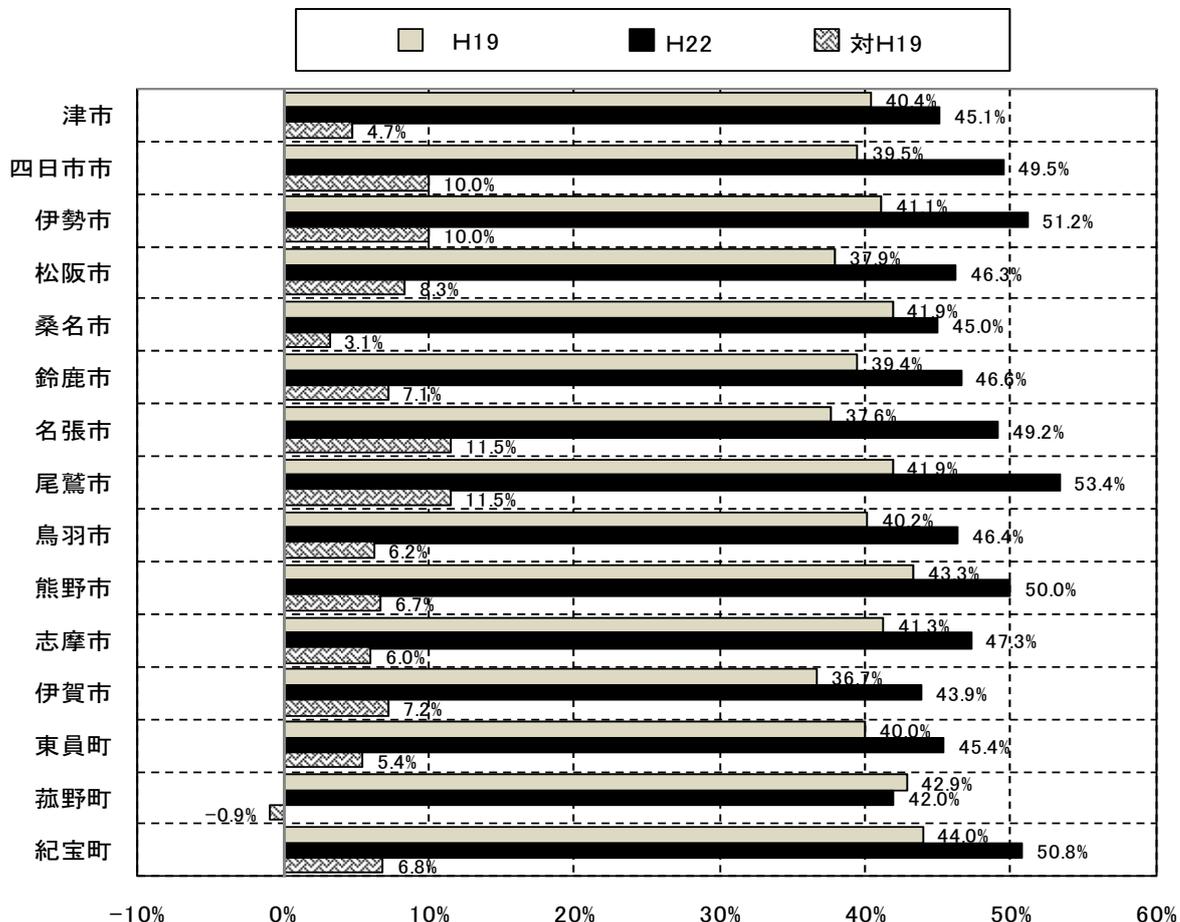


図 3-4 目標指標3の市町別状況

④ ごみゼロ社会実現プランの認知率

ごみゼロ社会実現プランの認知率は 30%を超えており、平成 22 年度では、平成 19 年度との差が-16.4%から 1.5%となっている。

ごみゼロ社会実現プランの 認知率		平成 19 年度		
		率	率	平成 19 年度との差
1	津市	46.5%	36.3%	-10.2%
2	四日市市	42.0%	33.2%	-8.8%
3	伊勢市	55.7%	39.3%	-16.4%
4	松阪市	50.0%	39.3%	-10.7%
5	桑名市	38.1%	35.5%	-2.6%
6	鈴鹿市	42.3%	31.9%	-10.4%
7	名張市	52.7%	41.5%	-11.2%
8	尾鷲市	42.8%	40.9%	-1.9%
9	鳥羽市	42.5%	37.3%	-5.2%
10	熊野市	44.4%	37.1%	-7.3%
11	志摩市	46.8%	33.7%	-13.1%
12	伊賀市	49.6%	43.9%	-5.7%
13	東員町	46.5%	34.3%	-12.2%
14	菰野町	48.3%	39.0%	-9.3%
15	紀宝町	34.3%	35.8%	1.5%

表 3-7 目標指標4の市町別状況

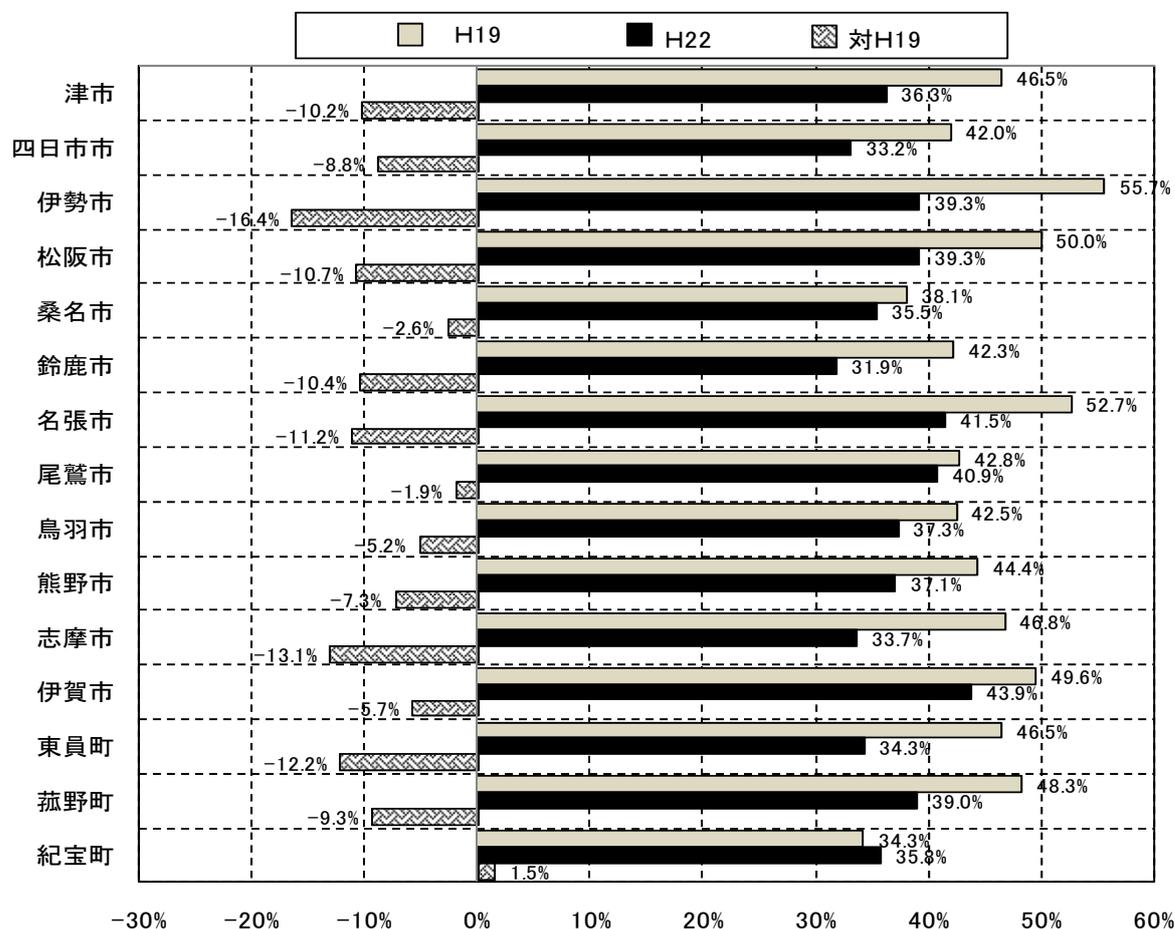


図 3-5 目標指標4の市町別状況

## 4 調査結果（総括：意識度）

県民アンケートの結果の総括は、意識に関する設問で、評価点方法を取り入れ意識度として評価した。

意識度の算定方法は以下の通りである。

- ①：設問に対し選択肢が4個あり、選択肢が意識程度を示すものを抽出する。
- ②：各設問の回答数を単純集計する。
- ③：集計回答数に次の評価点を乗じ、合計点を算定する。
- ④：評価点

意識レベル	非常に高い	高い	低い	非常に低い
評価点	2	1	-1	-2

- ⑤：③の合計点を総回答数で除し平均点を求める。
- ⑥：⑤の平均点を満点の2点で除し、意識度とする。

意識度はゼロ%が平均値で、プラスであれば意識度は高く、マイナスであれば意識度は低いと判断した。究極の目標値は100%である。

意識度には無回答をゼロ点として含めている。無回答が多いと意識度が下がるようにしている。

平成16年度、平成19年度の調査で平成22年度と比較できるものは、上記と同じ算定方法で意識度を求め年度間の比較を行った（p.34 4-2、p.39 4-3）。

### 4-1 平成22年度 意識度解析

意識度	50%以上	20 ~50%	0 ~20%	-20 ~0%	-20 ~-50%	-50%以下	計
質問数	7	6	5	4	0	2	24
割合	29.2%	25.0%	20.8%	16.7%	0.0%	8.3%	100.0%
質問数	18			6			24
割合	75.0%			25.0%			100.0%

表 4-1 平成22年度 意識度分布

平成22年度の県民調査では、意識度算定該当設問が24ある（表4-2）。内訳は、プラス意識度が18件（75%）、マイナス意識度が6件（25%）である（表4-3）。

特に意識度の高いもの（50%以上）は次の7件である。

- ・問1-2 （ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう）：53.2%
- ・問1-3 （商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う）：73.7%
- ・問1-5 （日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う）：80.6%
- ・問1-6 （環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う）：65.0%
- ・問8 （ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？）：65.1%
- ・問15 （ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？）：50.0%

- ・問32-1（計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？）  
：57.5%

特に意識度の低いもの（-50%以下）は次の2件である。

- ・問24（家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？）：-64.2%
- ・問32-5（あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？）  
：-51.9%

マイナス意識度6件に対し、適切な施策を講じてプラス意識に変化させる必要がある。

選択肢	問 1						問 2				問 4	
	問 1-1	問 1-2	問 1-3	問 1-4	問 1-5	問 1-6	問 2-1	問 2-2	問 2-3	問 2-4	問 4-1	問 4-2
1	1,013	1,098	1,882	556	2,230	1,702	204	379	533	637	402	199
2	1,535	1,626	1,078	1,364	769	1,074	988	942	1,399	1,076	1,571	1,119
3	520	357	156	878	109	303	1,205	1,185	952	883	624	886
4	71	54	17	301	19	36	738	621	248	520	541	930
5	15	19	21	55	27	39	19	27	22	38	16	20
計	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154
選択肢	問 8	問 13	問 15	問 21	問 24	問 26	問 32					
							問 32-1	問 32-2	問 32-3	問 32-4	問 32-5	問 32-6
1	1,474	348	1,152	396	81	744	1,317	865	942	593	929	224
2	1,402	817	1,449	1,211	251	1,353	1,381	1,718	1,418	1,802	1,786	1,487
3	196	1,195	410	1,113	1,106	644	335	423	566	558	275	1,038
4	25	747	94	299	1,677	309	28	51	110	85	48	279
5	57	47	49	135	39	104	93	97	118	116	116	126
計	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154

表 4-2 平成22年度 回答数

平成 22 年度	問 1						問 2				問 4	
	問 1-1	問 1-2	問 1-3	問 1-4	問 1-5	問 1-6	問 2-1	問 2-2	問 2-3	問 2-4	問 4-1	問 4-2
	不要な ものが多い	捨てる ともっ たいない	包装材 は少し でよい	レンタ ル品に 抵抗感 なし	一人の 行動が 大きな 影響	技術開 発等が 重要	不要な ものを 買う	修理よ り買換 え	環境等 考えず に選ぶ	新品を 購入	食材を 捨てる	食べ残 しを捨 てる
合計点	2,899	3,357	4,652	996	5,082	4,103	1,285	727	-1,017	-427	-669	1,229
平均点	0.919	1.064	1.475	0.316	1.611	1.301	0.407	0.231	-0.322	-0.135	-0.212	0.390
意識度	46.0%	53.2%	73.7%	15.8%	80.6%	65.0%	20.4%	11.5%	-16.1%	-6.8%	-10.6%	19.5%
平成 22 年度	問 8	問 13	問 15	問 21	問 24	問 26	問 32					
							問 32-1	問 32-2	問 32-3	問 32-4	問 32-5	問 32-6
	資源と して有 効利用	処理・リ サイクル の方法	分別数 の増加	リユース カップの 使用	ごみの 処理費用	ごみ収 集の有 料化	住民 参加	要望・意 見の反 映	市町が 主体	情報 入手	時間・ 手間が かかり 大変	計画づ くりへ の参画
合計点	4,104	-1,176	3,155	292	-4,047	1,579	3,624	2,923	2,516	2,260	-3,273	339
平均点	1.301	-0.373	1.000	0.093	-1.283	0.501	1.149	0.927	0.798	0.717	-1.038	0.107
意識度	65.1%	-18.6%	50.0%	4.6%	-64.2%	25.0%	57.5%	46.3%	39.9%	35.8%	-51.9%	5.4%

表 4-3 平成22年度 算定結果

## H22: 意識度

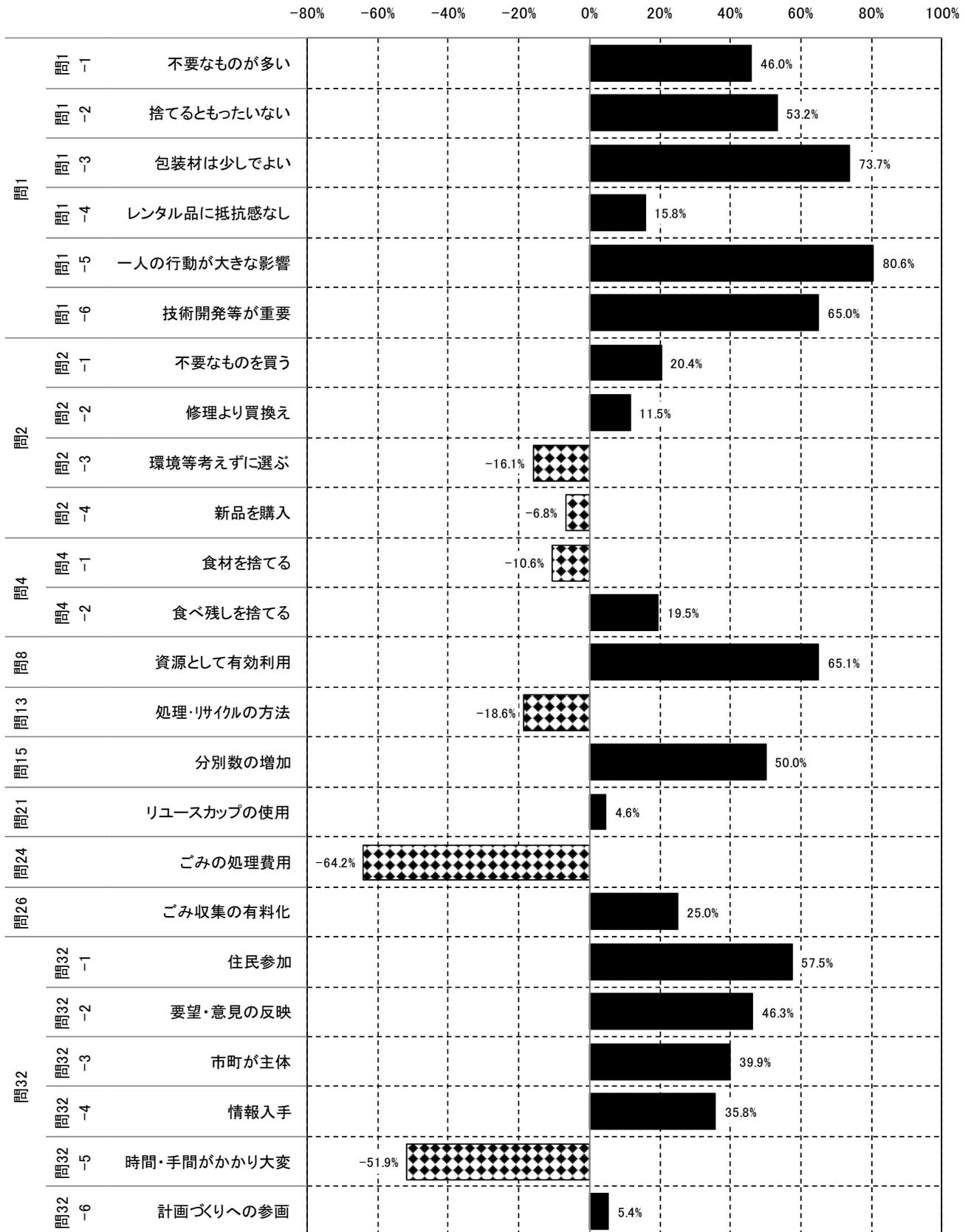


図 4-1 平成22年度 意識度

4-2 平成16年度・平成19年度・平成22年度 意識度比較

**問1** 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？  
それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問1-1「家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う」、問1-2「ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。」についての意識度は年々高くなっているが、50%前後にとどまっている。  
問1-3「商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。」については、約75%で問1の中では最も高い意識度となっている。ただし、平成22年度は平成16、19年度よりも若干低下している。  
問1-4「レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。」については、問1の中では15%前後で最も低い意識度となっている。  
問1全体での意識度は全てプラスであり、毎日の暮らしの中での「もの」に対する意識度は比較的高いと思われる。

年度	選択肢	問1			
		問1-1	問1-2	問1-3	問1-4
		家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。	ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。	商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。	レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。
平成22年度	1 とてもそう思う	1,013	1,098	1,882	556
	2 少しそう思う	1,535	1,626	1,078	1,364
	3 あまりそうは思わない	520	357	156	878
	4 まったくそうは思わない	71	54	17	301
	5 無回答	15	19	21	55
	計	3,154	3,154	3,154	3,154
平成19年度	1 とてもそう思う	1,137	1,265	2,356	637
	2 少しそう思う	1,824	1,888	1,069	1,578
	3 あまりそうは思わない	577	375	166	1,003
	4 まったくそうは思わない	73	87	19	338
	5 無回答	71	67	72	126
	計	3,682	3,682	3,682	3,682
平成16年度	1 とてもそう思う	1,192	1,277	2,444	622
	2 少しそう思う	1,831	1,980	1,055	1,543
	3 あまりそうは思わない	587	355	161	1,118
	4 まったくそうは思わない	83	79	29	334
	5 無回答	142	144	146	218
	計	3,835	3,835	3,835	3,835

表 4-4 問1 回答数

問 1		問 1-1	問 1-2	問 1-3	問 1-4
合計点	平成 16 年度	3,462	4,021	5,724	1,001
	平成 19 年度	3,375	3,869	5,577	1,173
	平成 22 年度	2,899	3,357	4,652	996
平均点	平成 16 年度	0.9027	1.0485	1.4926	0.2610
	平成 19 年度	0.9166	1.0508	1.5147	0.3186
	平成 22 年度	0.9192	1.0644	1.4750	0.3158
意識度	平成 16 年度	45.1%	52.4%	74.6%	13.1%
	平成 19 年度	45.8%	52.5%	75.7%	15.9%
	平成 22 年度	46.0%	53.2%	73.7%	15.8%
意識度差	対平成 16 年度	0.8%	0.8%	-0.9%	2.7%
	対平成 19 年度	0.1%	0.7%	-2.0%	-0.1%

表 4-5 問1 算定結果

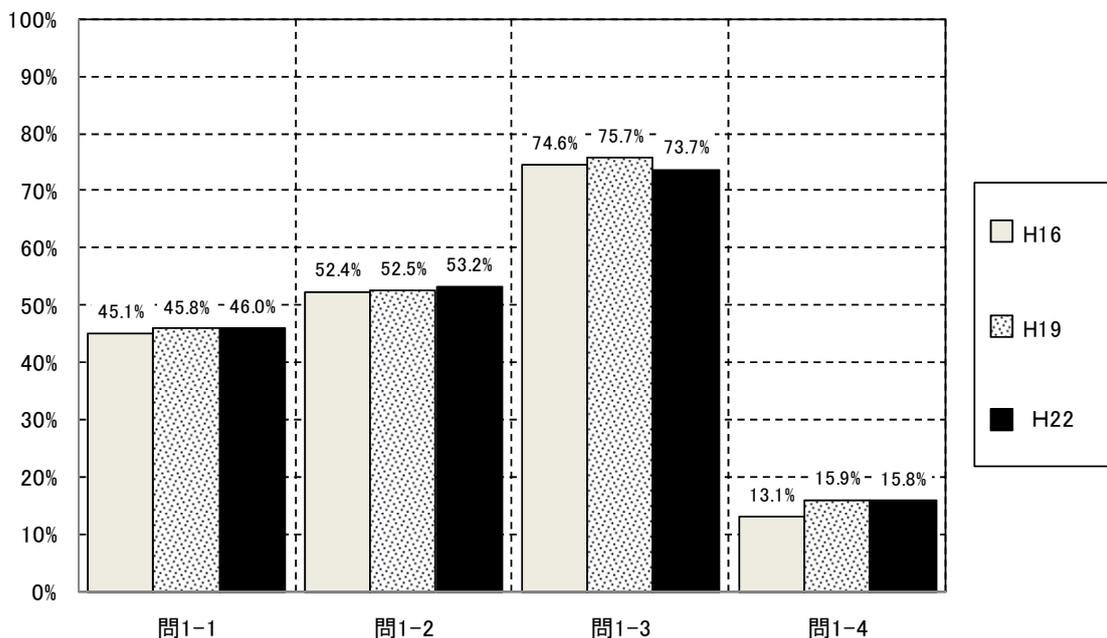


図 4-2 問1 意識度年度比較

## 問2

次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？

それぞれの場合について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問2-1 「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ。」については、問2の中で最も高く、各年度ともに20%強で大きな差は見られない。

問2-2 「買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。」については、各年度ともに12%前後で大きな差は見られないが、若干減少傾向である。

問2-3 「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。」、問2-4 「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。」については、意識度はマイナスであり、特に問2-3は-17%前後で低い値を示しており「環境やごみを意識した商品選び」の意識度は低い。

「購入に関する行動」の意識度は、あまり高くないと思われる。

年度	選択肢		問2			
			問2-1	問2-2	問2-3	問2-4
			特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう。	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。
平成22年度	1	よくあてはまる	204	379	533	637
	2	少しあてはまる	988	942	1,399	1,076
	3	あまりあてはまらない	1,205	1,185	952	883
	4	まったくあてはまらない	738	621	248	520
	5	無回答	19	27	22	38
		計	3,154	3,154	3,154	3,154
平成19年度	1	よくあてはまる	240	431	652	771
	2	少しあてはまる	1,131	1,108	1,601	1,209
	3	あまりあてはまらない	1,350	1,293	1,089	1,043
	4	まったくあてはまらない	888	764	260	567
	5	無回答	73	86	80	92
		計	3,682	3,682	3,682	3,682
平成16年度	1	よくあてはまる	215	455	670	789
	2	少しあてはまる	1,174	1,060	1,624	1,235
	3	あまりあてはまらない	1,450	1,432	1,121	1,050
	4	まったくあてはまらない	852	734	256	595
	5	無回答	144	154	164	166
		計	3,835	3,835	3,835	3,835

表 4-6 問2 回答数

問2		問2-1	問2-2	問2-3	問2-4
合計点	平成16年度	1,550	930	-1,331	-573
	平成19年度	1,515	851	-1,296	-574
	平成22年度	1,285	727	-1,017	-427
平均点	平成16年度	0.4042	0.2425	-0.3471	-0.1494
	平成19年度	0.4115	0.2311	-0.3520	-0.1559
	平成22年度	0.4074	0.2305	-0.3224	-0.1354
意識度	平成16年度	20.2%	12.1%	-17.4%	-7.5%
	平成19年度	20.6%	11.6%	-17.6%	-7.8%
	平成22年度	20.4%	11.5%	-16.1%	-6.8%
意識度差	対平成16年度	0.2%	-0.6%	1.2%	0.7%
	対平成19年度	-0.2%	0.0%	1.5%	1.0%

表 4-7 問2 算定結果

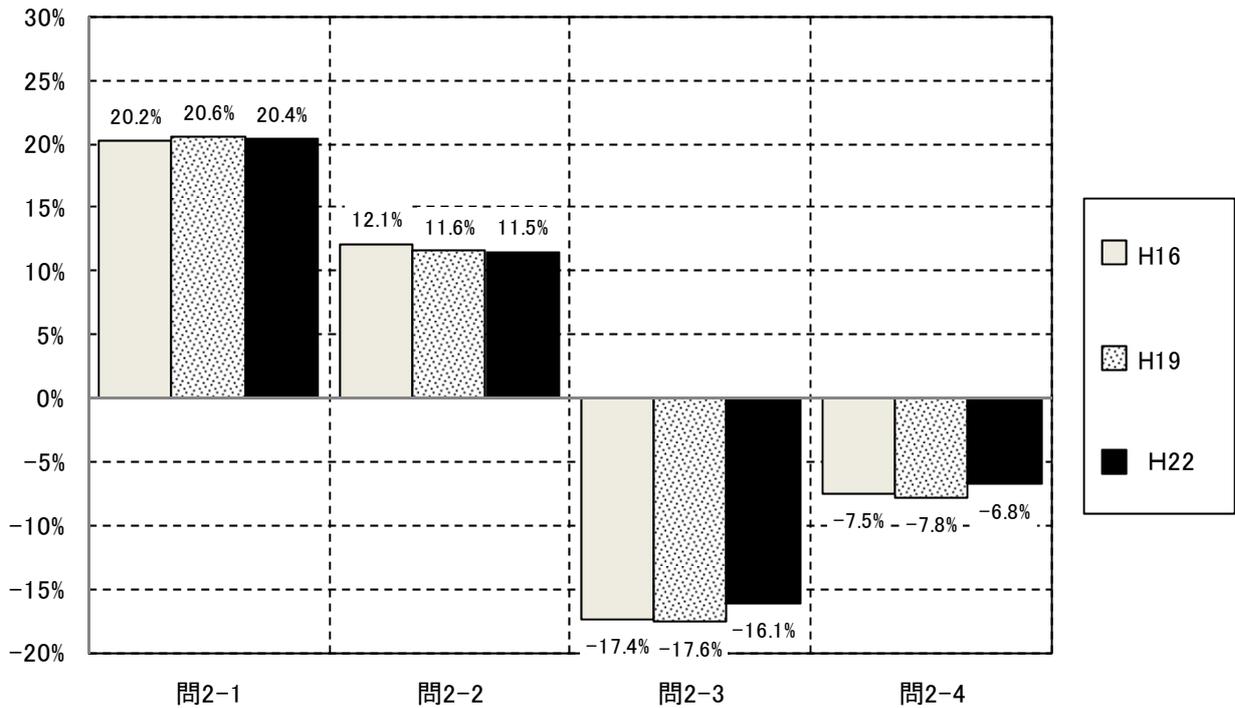


図 4-3 問2 意識度年度比較

問4	食べ物のごみについてお聞きします。(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか。(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
問8	ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。
問26	出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問4-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？」については、意識度は各年度でマイナスであるが年々上がってきている。食材の購入量や食材の選び方に改善が必要と思われる。

問4-2「食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？」についての意識度は年々上がってきており、平成22年度で約20%となっている。

食材の購入量や、作る量等について改善の余地があると思われる。

問8の「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきか」に対しては、意識度は70%前後で高いが、年々低下してきている。

問26の「出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化」に対しては、意識度は30%前後であり、平成22年度は平成19年度に対し約10%下がっている。

年度	選択肢				問4		問8	問26
	番号	問4 選択肢	問8 選択肢	問26 選択肢	問4-1	問4-2		
					使い切れ なかったり賞味期 限が切れ たために 食材を捨 ててしま うことは あります か？	食べきれ ず、料理を 捨ててし まうこと はありま すか？	ごみは手 間やコス トをかけ ても、で きるだけ 資源とし て有効利 用すべき だと思っ ますか？	出したご みの量に 応じて、多 く出した 者が多く 負担する ごみの有 料化につ いてどう 思います か？
平成 22 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	402	199	1,474	744
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	1,571	1,119	1,402	1,353
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	624	886	196	644
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	541	930	25	309
	5	無回答	無回答	無回答	16	20	57	104
	計					3,154	3,154	3,154
平成 19 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	624	368	2,057	1,149
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	1,843	1,410	1,333	1,474
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	651	928	194	577
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	502	906	26	316
	5	無回答	無回答	無回答	62	70	72	166
	計					3,682	3,682	3,682
平成 16 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	651	400	2,293	1,064
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	2,004	1,578	1,320	1,460
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	642	970	142	653
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	494	845	28	400
	5	無回答	無回答	無回答	44	42	52	258
	計					3,835	3,835	3,835

表 4-8 問4・問8・問26 回答数

		問4-1	問4-2	問8	問26
合計点	平成16年度	-1,676	282	5,708	2,135
	平成19年度	-1,436	594	5,201	2,563
	平成22年度	-669	1,229	4,104	1,579
平均点	平成16年度	-0.4370	0.0735	1.4884	0.5567
	平成19年度	-0.3900	0.1613	1.4125	0.6961
	平成22年度	-0.2121	0.3897	1.3012	0.5006
意識度	平成16年度	-21.9%	3.7%	74.4%	27.8%
	平成19年度	-19.5%	8.1%	70.6%	34.8%
	平成22年度	-10.6%	19.5%	65.1%	25.0%
意識度差	対平成16年	11.2%	15.8%	-9.4%	-2.8%
	対平成19年	8.9%	11.4%	-5.6%	-9.8%

表 4-9 問4・問8・問26 算定結果

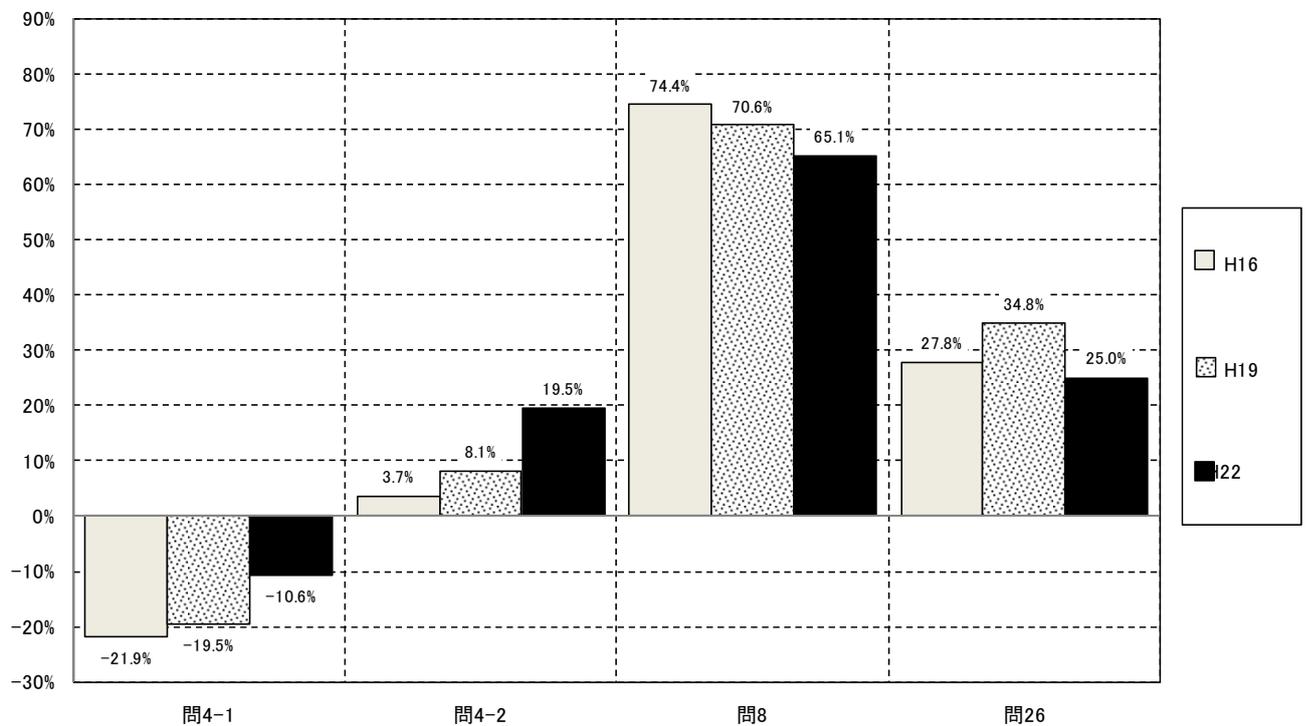


図 4-4 問4・問8・問26 意識度年度比較

### 4-3 平成19年度・平成22年度 意識度比較

問15	<p>ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどうお考えですか？</p> <p>あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。</p>
問32 1・2・3	<p>ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きします。</p> <p>それぞれの意見について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。</p>

問15「ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？」については、賛成の意識度は50%強である。分別に対しては、かなり高い意識度と思われるが、平成22年度は平成19年度より若干低下している。

問32-1「計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？」については、「住民参画が必要」の意識度は60%前後で比較的高いが、平成22年度は平成19年度に対し、約4%低下している。

問32-2「計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？」についての意識度47%前後であるが、問32-1と同様に平成22年度は平成19年度に対し、約2.4%低下している。

問32-3「計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？」についての意識度は40%弱であり、平成22年度は平成19年度に対し、5.5%上昇している。

年度	選択肢			問 15	問 32		
				ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？	問 32-1	問 32-2	問 32-3
	番号	問 15 選択肢	問 32 選択肢				
平成22年度	1	賛成	とてもそう思う	1,152	1,317	865	942
	2	どちらかという 賛成	少しそう思う	1,449	1,381	1,718	1,418
	3	どちらかという 反対	あまり そうは思わない	410	335	423	566
	4	反対	まったく そうは思わない	94	28	51	110
	5	無回答	無回答	49	93	97	118
	計			3,154	3,154	3,154	3,154
平成19年度	1	賛成	とてもそう思う	1,411	1,715	1,172	1,077
	2	どちらかという 賛成	少しそう思う	1,584	1,466	1,835	1,495
	3	どちらかという 反対	あまり そうは思わない	446	320	481	747
	4	反対	まったく そうは思わない	70	37	54	185
	5	無回答	無回答	171	144	140	178
	計			3,682	3,682	3,682	3,682

表 4-10 問15・問32-1・2・3 回答数

		問 15	問 32-1	問 32-2	問 32-3
合計点	平成 19 年度	3,820	4,502	3,590	2,532
	平成 22 年度	3,155	3,624	2,923	2,516
平均点	平成 19 年度	1.0375	1.2227	0.9750	0.6877
	平成 22 年度	1.0003	1.1490	0.9268	0.7977
意識度	平成 19 年度	51.9%	61.1%	48.8%	34.4%
	平成 22 年度	50.0%	57.5%	46.3%	39.9%
意識度差	対平成 19 年度	-1.9%	-3.7%	-2.4%	5.5%

表 4-11 問15・問32-1・2・3 算定結果

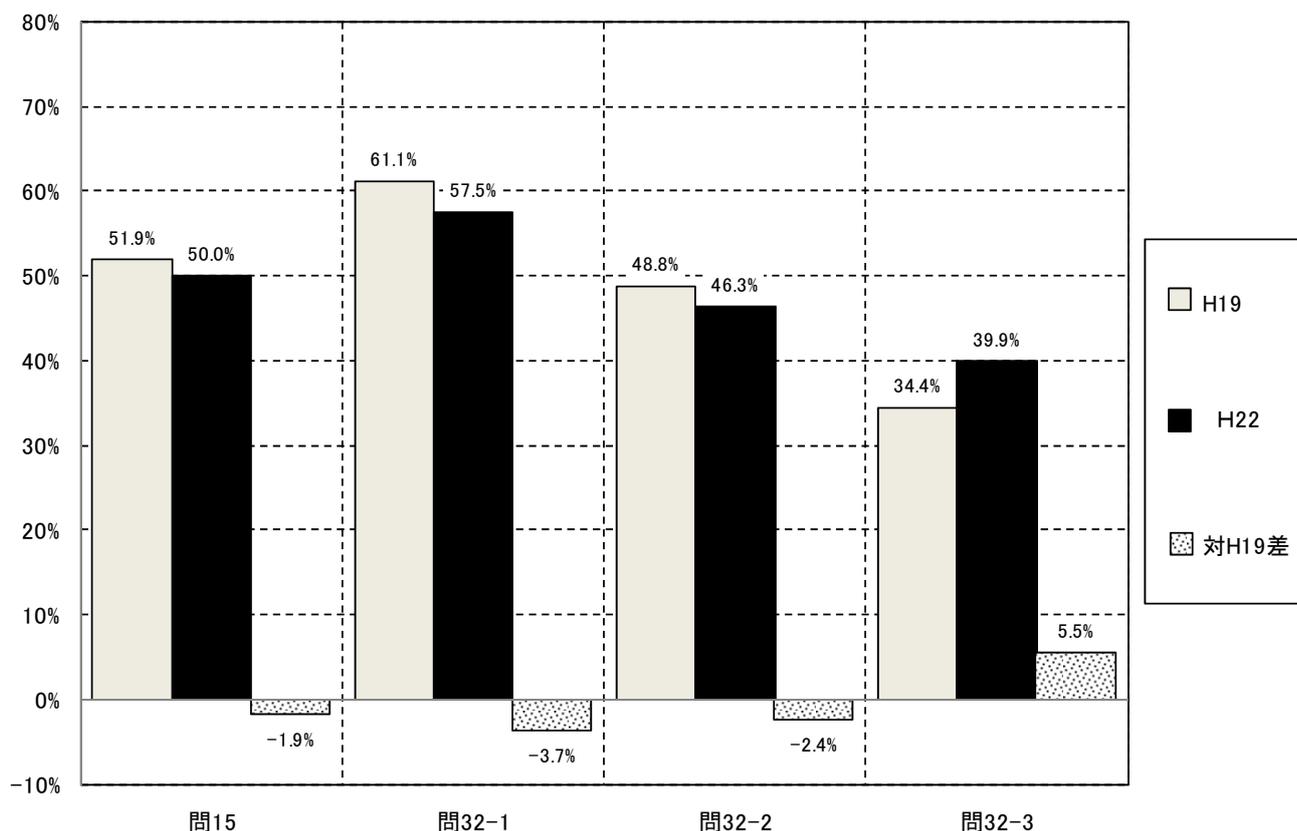


図 4-5 問15・問32-1・2・3 意識度年度比較

<p><b>問 32</b> 4・5・6</p>	<p>ごみ処理のあり方や具体的にごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。 それぞれの意見について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。</p>
------------------------------	---

問32-4「あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？」については、平成19・22年度ともに意識度は36%前後であるが、平成22年度は平成19年度対比で1.2%下がっている。

問32-5「あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？」については、平成19・22年度ともに意識度は-51%前後でかなり低い。平成22年度は平成19年度対比で1.2%下がっている。

問32-6「今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？」については、平成19・22年度ともに意識度は10%に達せず、平成22年度は平成19年度の約半分に下がっている。

年度	選択肢		問 32		
			問 32-4	問 32-5	問 32-6
			あなたが計画づくりに参画すること で、様々な情報を入 手できると思いま すか？	あなたが計画づくりに参画すると、時 間や手間がかかり 大変だと思います か？	今後、このような計 画づくりに住民参 画の機会があった 場合、あなたは参画 したいですか？
平成 22 年度	1	とてもそう思う	593	929	224
	2	少しそう思う	1,802	1,786	1,487
	3	あまりそうは思わない	558	275	1,038
	4	まったくそうは思わない	85	48	279
	5	無回答	116	116	126
	計		3,154	3,154	3,154
平成 19 年度	1	とてもそう思う	809	1,063	323
	2	少しそう思う	1,955	2,061	1,772
	3	あまりそうは思わない	671	327	1,134
	4	まったくそうは思わない	88	65	277
	5	無回答	159	166	176
	計		3,682	3,682	3,682

表 4-12 問32-4・5・6 回答数

		問 32-4	問 32-5	問 32-6
合計点	平成 19 年度	2,726	-3,730	730
	平成 22 年度	2,260	-3,273	339
平均点	平成 19 年度	0.7404	-1.0130	0.1983
	平成 22 年度	0.7166	-1.0377	0.1075
意識度	平成 19 年度	37.0%	-50.7%	9.9%
	平成 22 年度	35.8%	-51.9%	5.4%
意識度差	対平成 19 年度差	-1.2%	-1.2%	-4.5%

表 4-13 問32-4・5・6 算定結果

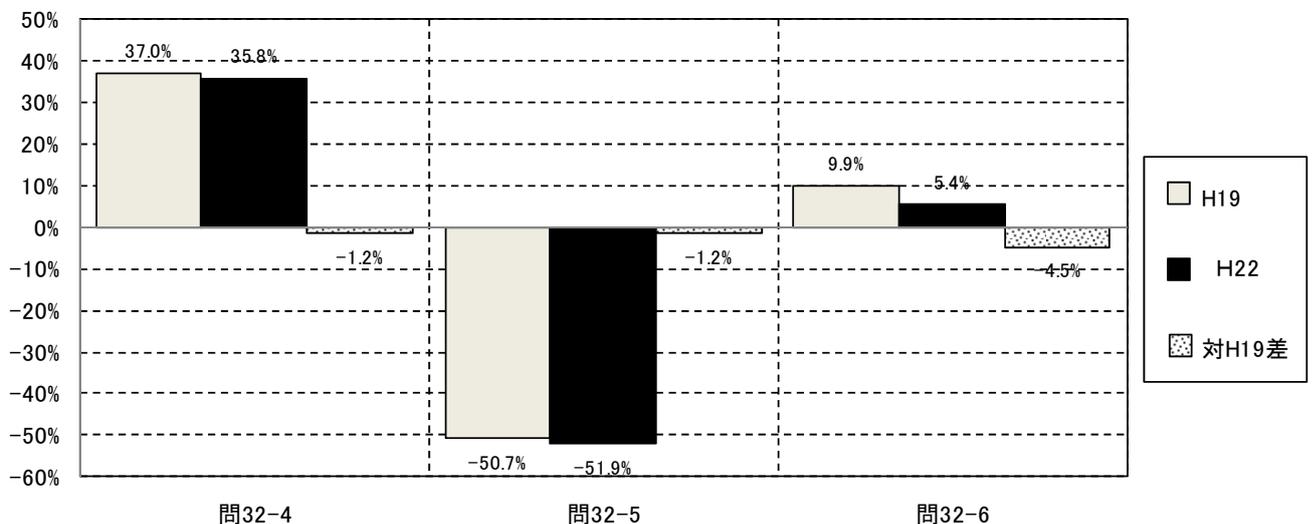


図 4-6 問32-4・5・6 意識度年度比較

## 5 調査結果（詳細）

### 5-1 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

問 1 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？（○は1つずつ）

(1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

「あまり必要ないものがたくさんあると思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が80.8%となっている。

市町別では、上記の計が78.7%から84.3%で大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が78.1%から84.6%で大きな隔たりはみられない。

分別行動別では、上記の計が78.1%から82.1%で大きな偏りはみられない。

全体的に、「あまり必要ないものがたくさんある」が高い。

#### ① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,013	32.1%
2	少しそう思う	1,535	48.7%
3	あまりそうは思わない	520	16.5%
4	まったくそうは思わない	71	2.3%
99	無回答	15	0.5%
有効回答数		3154	100.0%

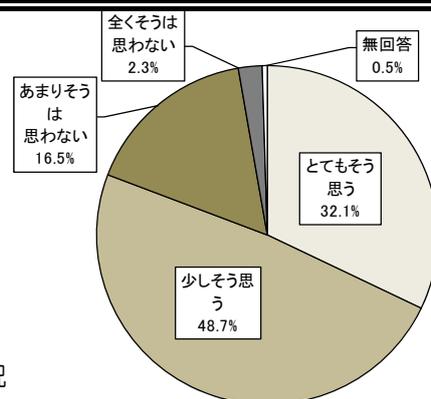


表 5-1-1 「あまり必要ないものがたくさんある」回答状況

図 5-1-1 「あまり必要ないものがたくさんある」回答率

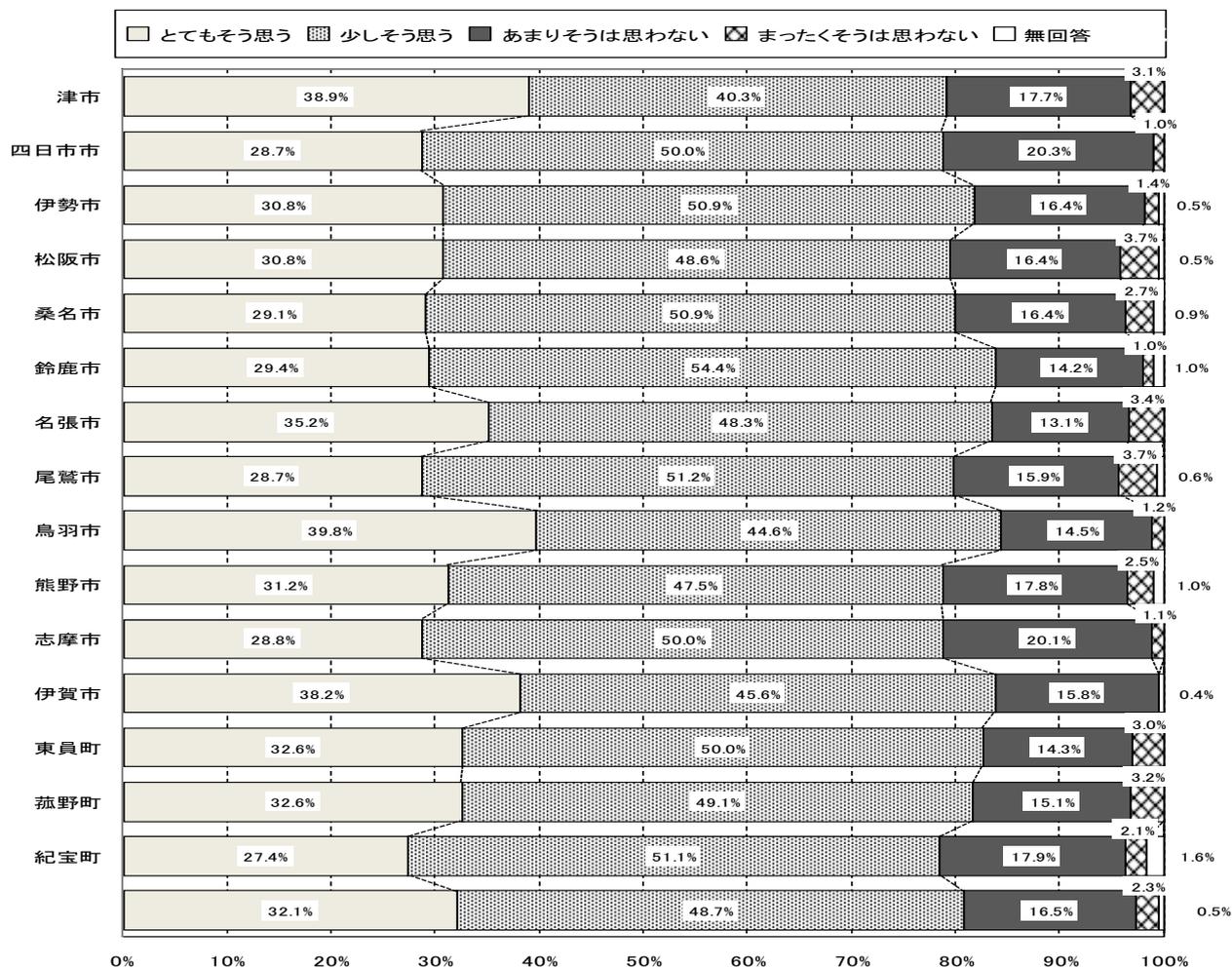


図 5-1-2 「あまり必要ないものがたくさんある」市町別回答率

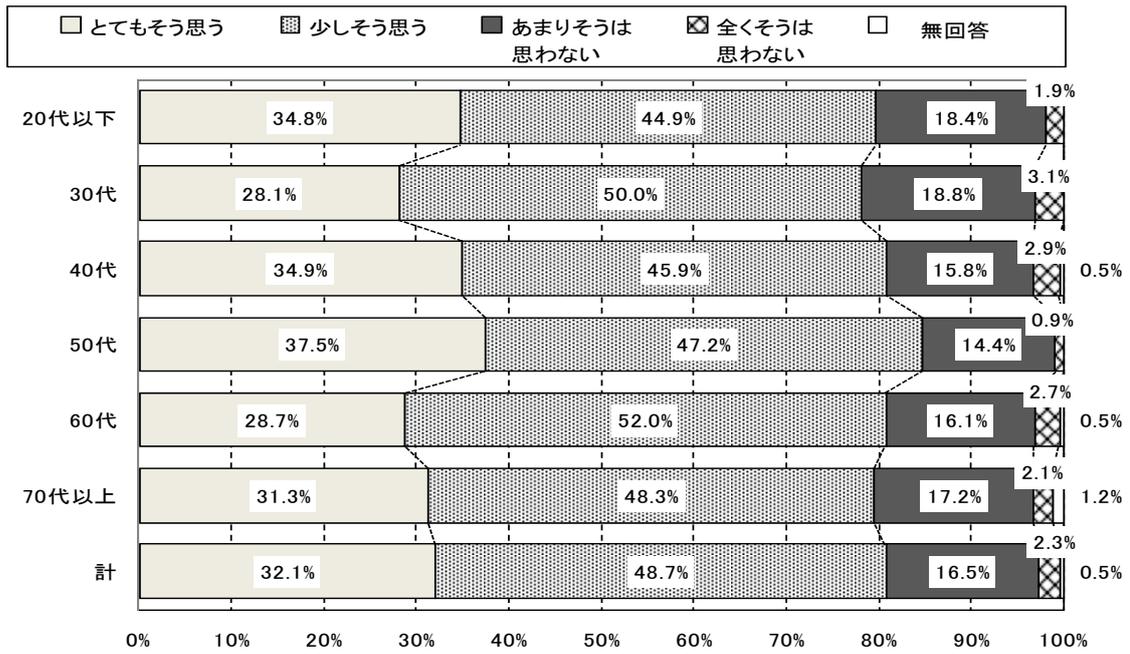


図 5-1-3 「あまり必要ないものがたくさんある」年代別回答率

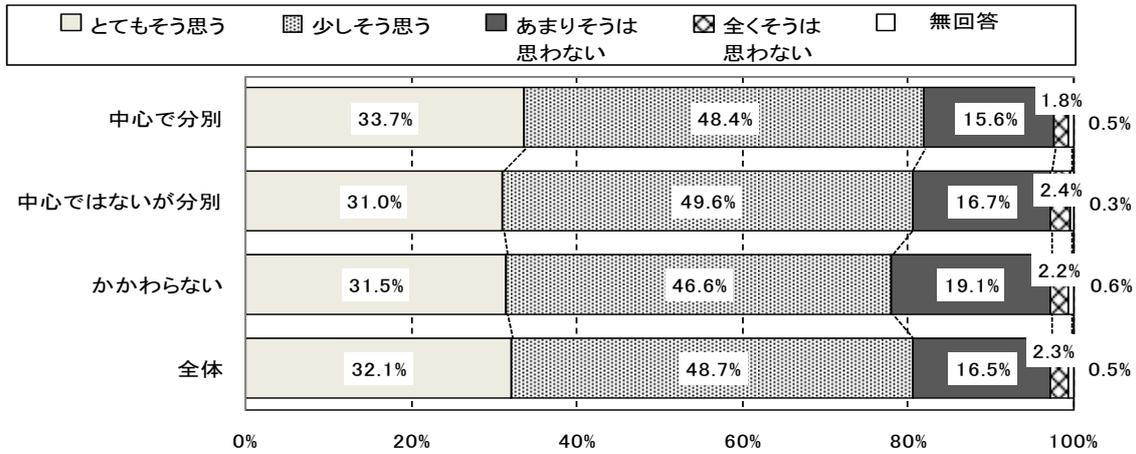


図 5-1-4 「あまり必要ないものがたくさんある」分別行動別回答率

(2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思う。

「ものを捨てるときに『もったいない』と思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が86.4%となっている。  
 市町別では、上記の計が82.6%から89.9%で大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が82.0%から88.9%で大きな隔たりはみられないが、70代以上では「とてもそう思う」が他の年代よりも高くなっている。  
 分別行動別では、上記の計が84.7%から88.4%で大きな偏りはみられない。  
 全体的に「ものを捨てる時、つい『もったいない』と思う」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,098	34.8%
2	少しそう思う	1,626	51.6%
3	あまりそうは思わない	357	11.3%
4	まったくそうは思わない	54	1.7%
99	無回答	19	0.6%
	全体	3,154	100%

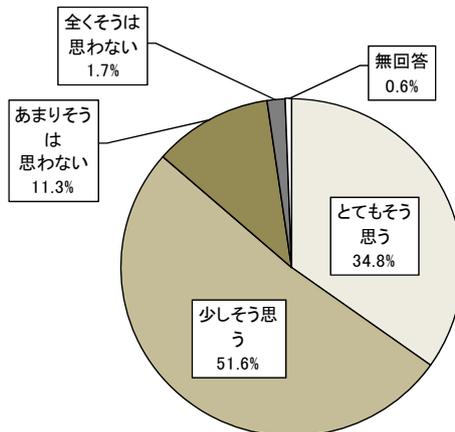


表 5-1-2 「捨てる時『もったいない』と思う」回答状況

図 5-1-5 「捨てる時『もったいない』と思う」回答率

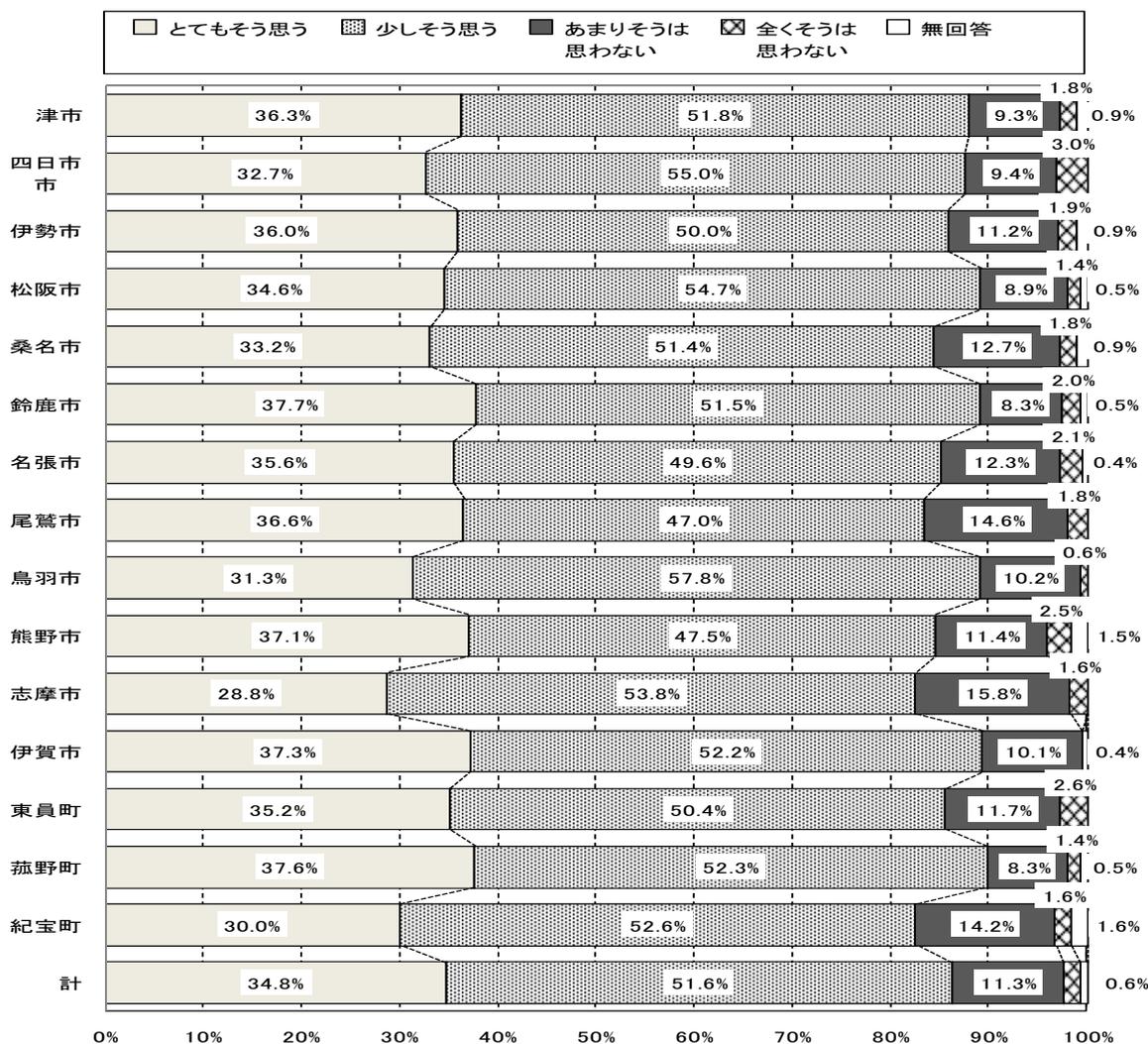


図 5-1-6 「捨てる時『もったいない』と思う」市町別回答率

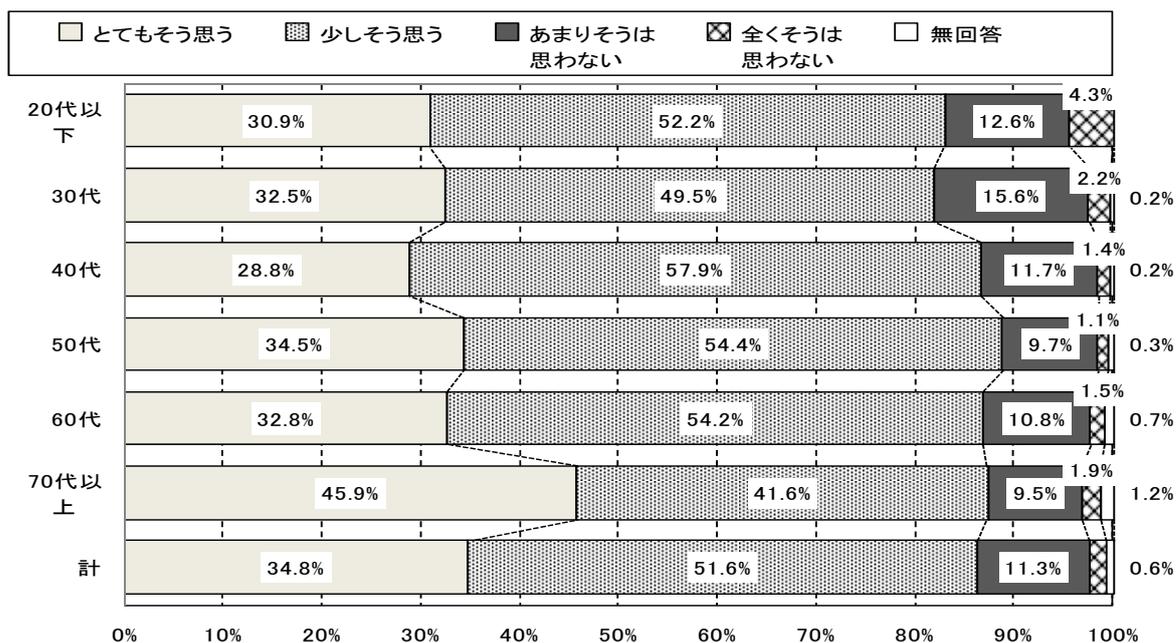


表 5-1-7 「捨てる時『もったいない』と思う」年代別回答率

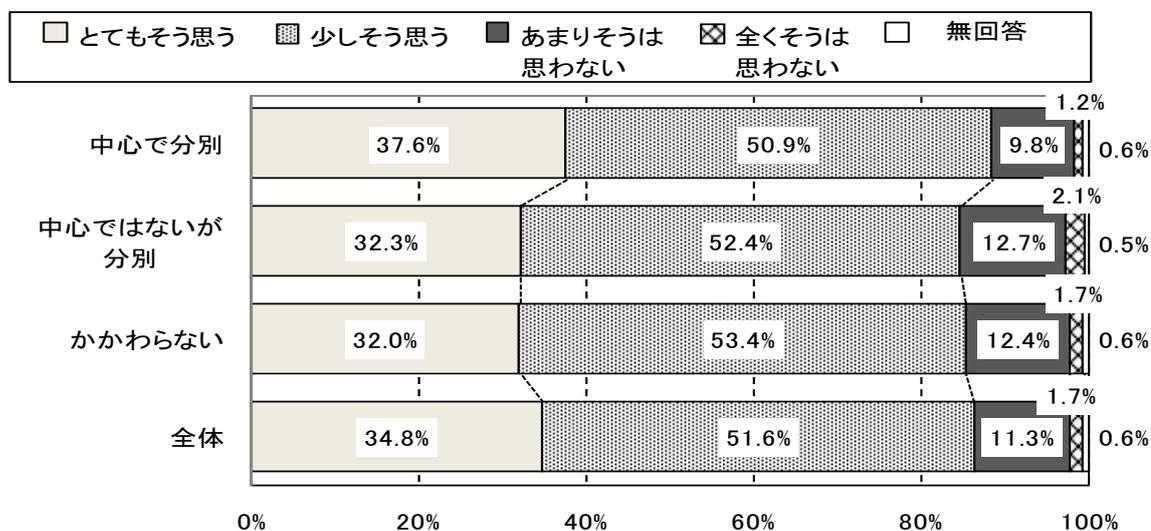


図 5-1-8 「捨てる時『もったいない』と思う」分別行動別回答率

(3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。

商品の過剰包装については、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が93.9%となっている。市町別では、上記の計が90.9%から97.5%で大きな偏りはみられないが、鳥羽市では「とてもそう思う」が他の市町よりも高い。年代別では、上記の計が90.3%から95.9%で大きな隔たりはみられないが、「分別にかかわらない」ほど、「とてもそう思う」の比率が低くなっている。分別行動別では、上記の計が89.9%から94.8%で大きな偏りはみられない。全体的に「容器や包装材はもっと少なくていい」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,882	59.7%
2	少しそう思う	1,078	34.2%
3	あまりそうは思わない	156	4.9%
4	まったくそうは思わない	17	0.5%
99	無回答	21	0.7%
有効回答数		3,154	100.0%

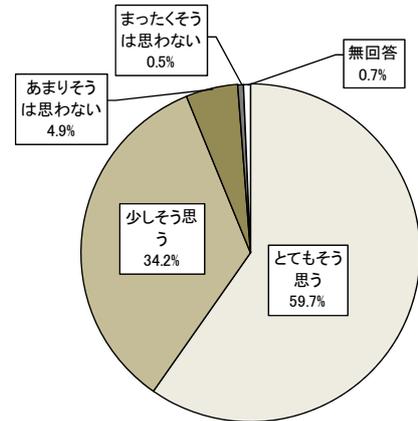


表 5-1-3 「容器や包装材は少なくていい」回答状況

図 5-1-9 「容器や包装材は少なくていい」回答率

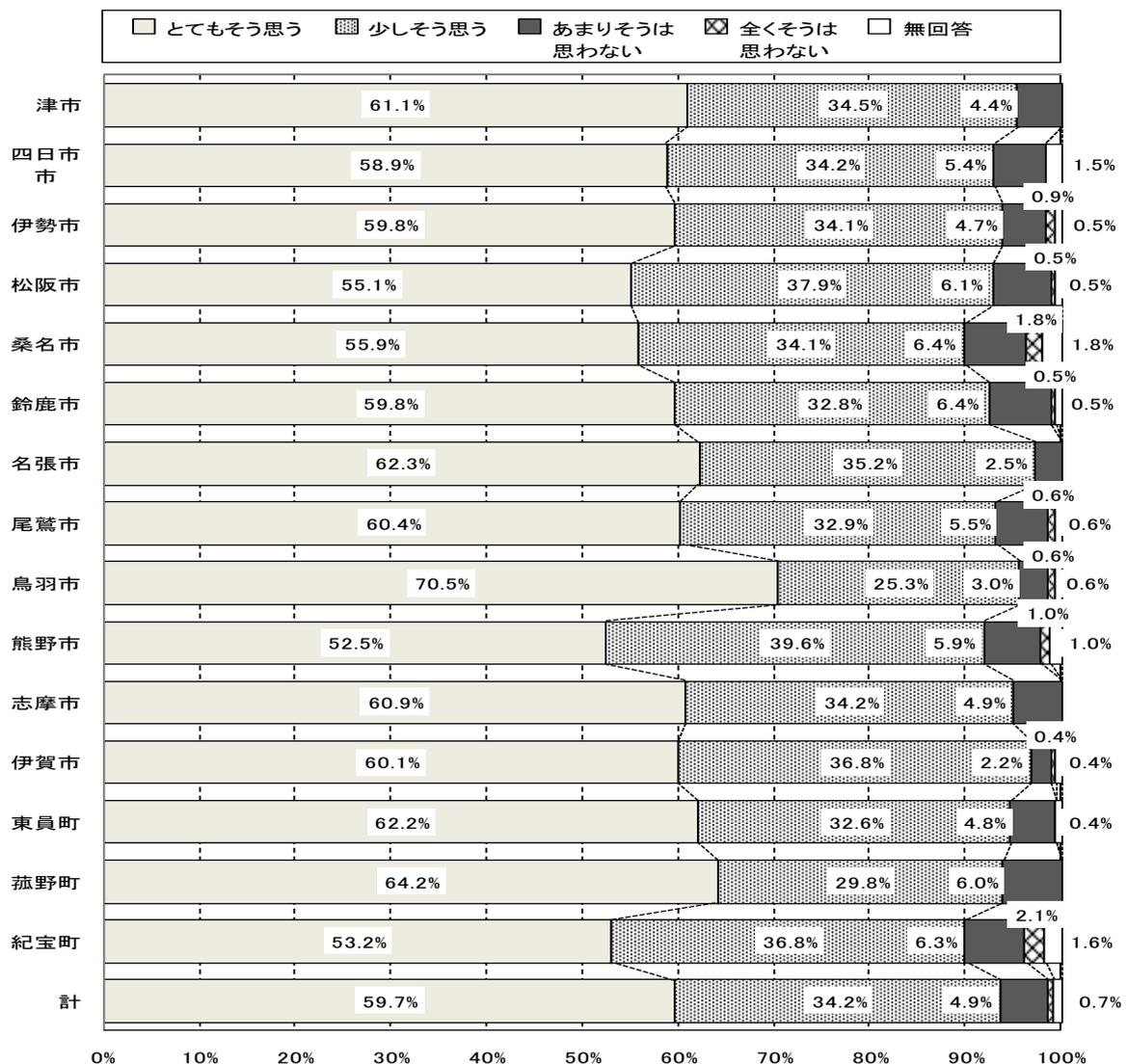


図 5-1-10 「容器や包装材は少なくていい」市町別回答率

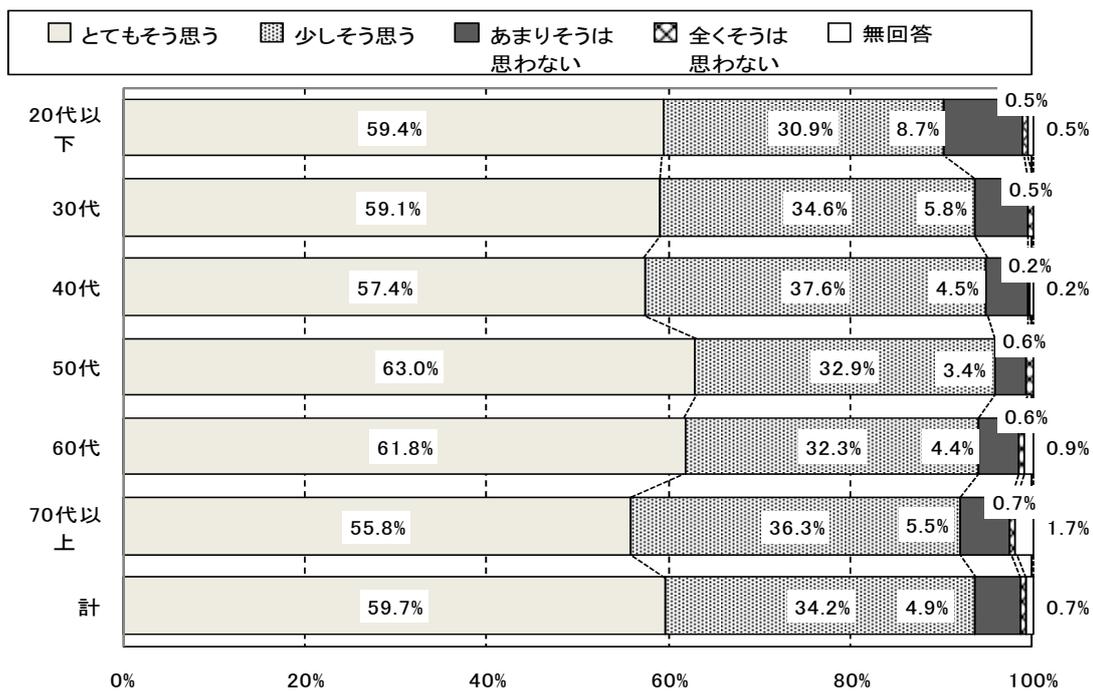


図 5-1-11 「容器や包装材は少なくていい」年代別回答率

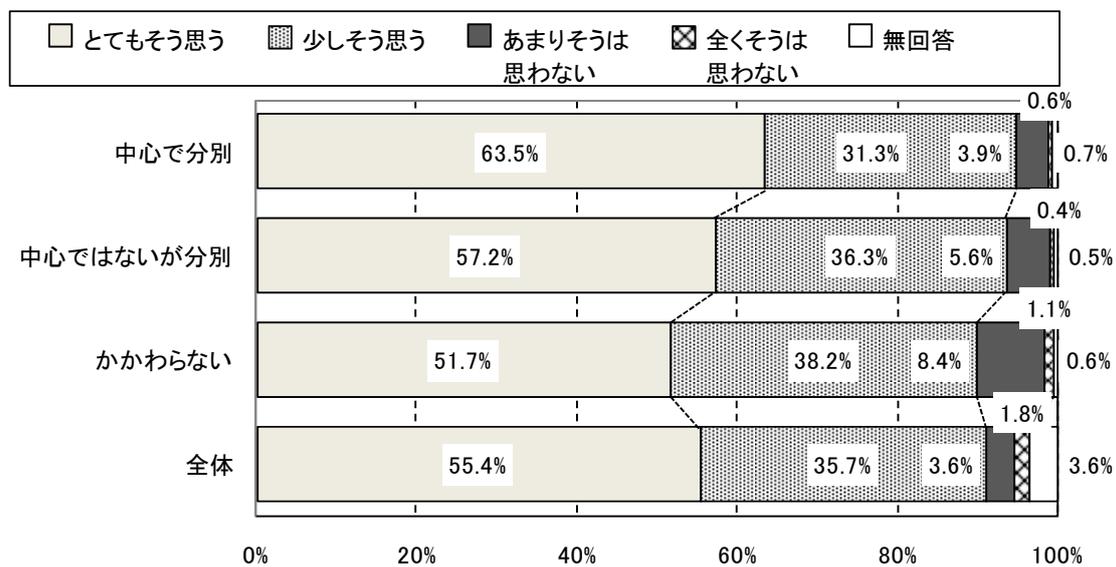


図 5-1-12 「容器や包装材は少なくていい」分別行動別回答率

(4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

「多くの人が使いまわすものに抵抗感はないか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が60.8%となっている。  
 市町別では、上記の計が55.3%から64.5%で大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が57.9%から63.6%で大きな隔たりはみられないが、若い世代ほど「とてもそう思う」が高い傾向になっている。  
 分別行動別では、上記の計が51.1%から62.5%であり、分別にかかわる人ほど高くなる傾向が見られる。  
 全体的に「使いまわすものでも、抵抗感はない」がやや高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	556	17.6%
2	少しそう思う	1,364	43.2%
3	あまりそうは思わない	878	27.8%
4	まったくそうは思わない	301	9.5%
99	無回答	55	1.7%
有効回答数		3,154	100.0%

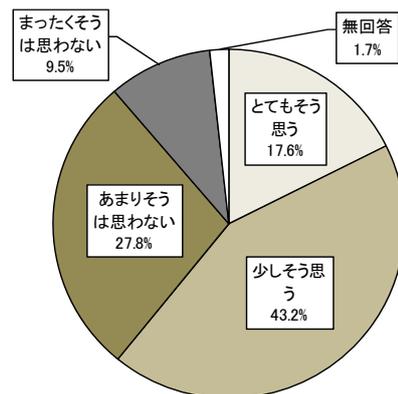


表 5-1-4 「使いまわすものでも、抵抗感はない」回答状況

図 5-1-13 「使いまわすものでも、抵抗感はない」回答率

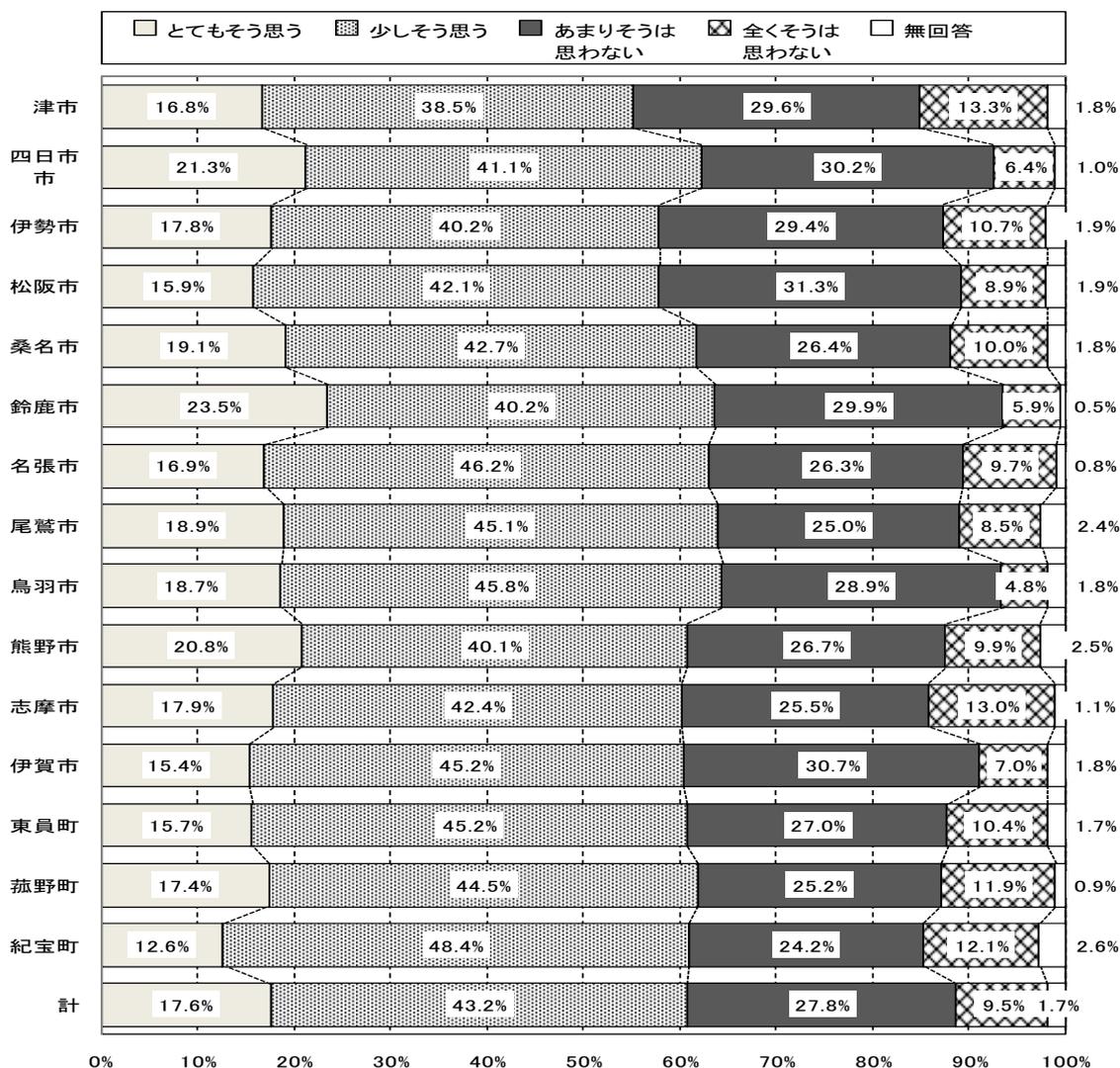


表 5-1-14 「使いまわすものでも、抵抗感はない」市町別回答状況

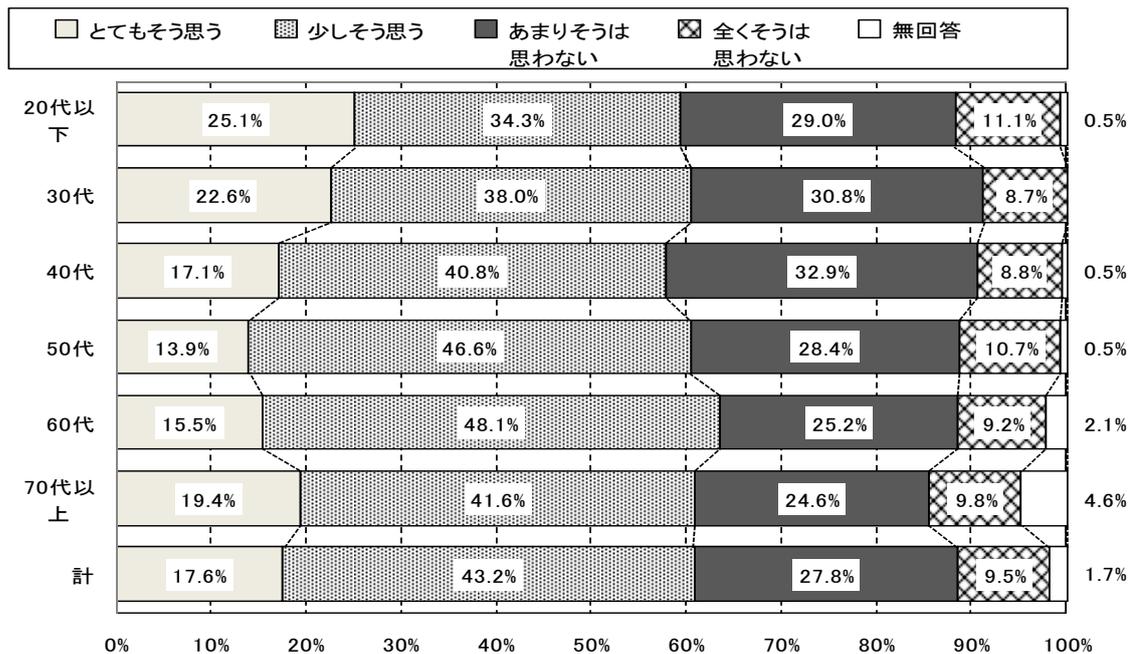


表 5-1-15 「使いまわすものでも、抵抗感はない」年代別回答率

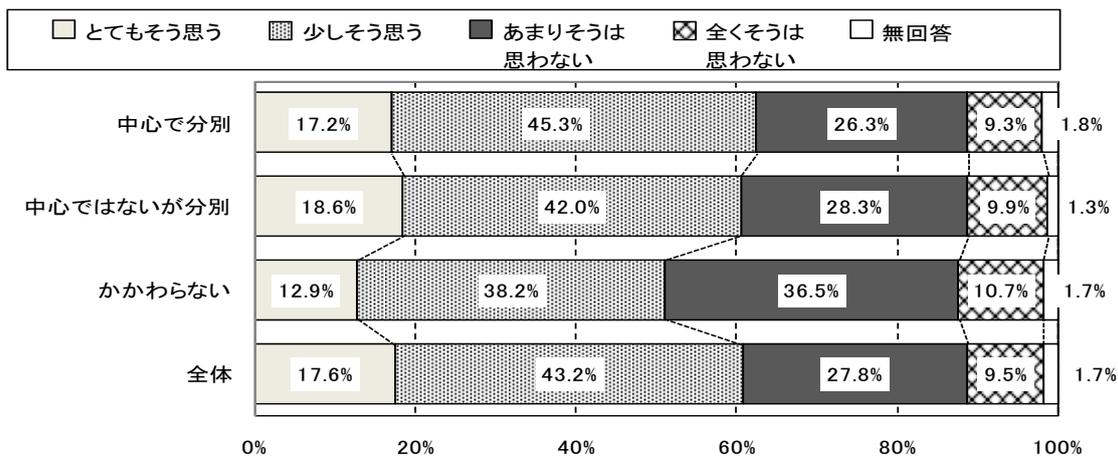


図 5-1-16 「使いまわすものでも、抵抗感はない」分別行動別回答率

(5) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」という問いに対しては、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が94.8%となっている。  
 市町別では、上記の計が91.5%から97.8%で大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が91.2%から96.6%で大きな隔たりはみられない。  
 分別行動別では、上記の計が89.9%から96.1%であり、分別にかかわる人ほど高くなる傾向が見られる。  
 全体的に「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	2,230	70.7%
2	少しそう思う	769	24.4%
3	あまりそうは思わない	109	3.5%
4	まったくそうは思わない	19	0.6%
99	無回答	27	0.9%
有効回答数		3,154	100.0%

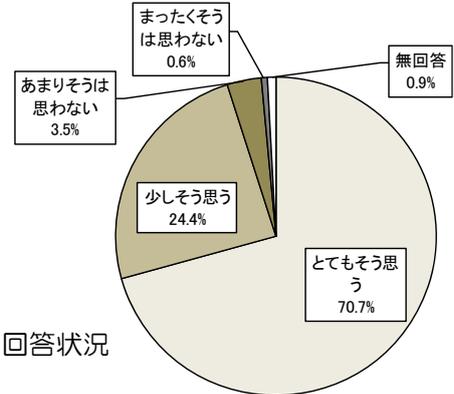


表 5-1-5 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答状況

図 5-1-17 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答率

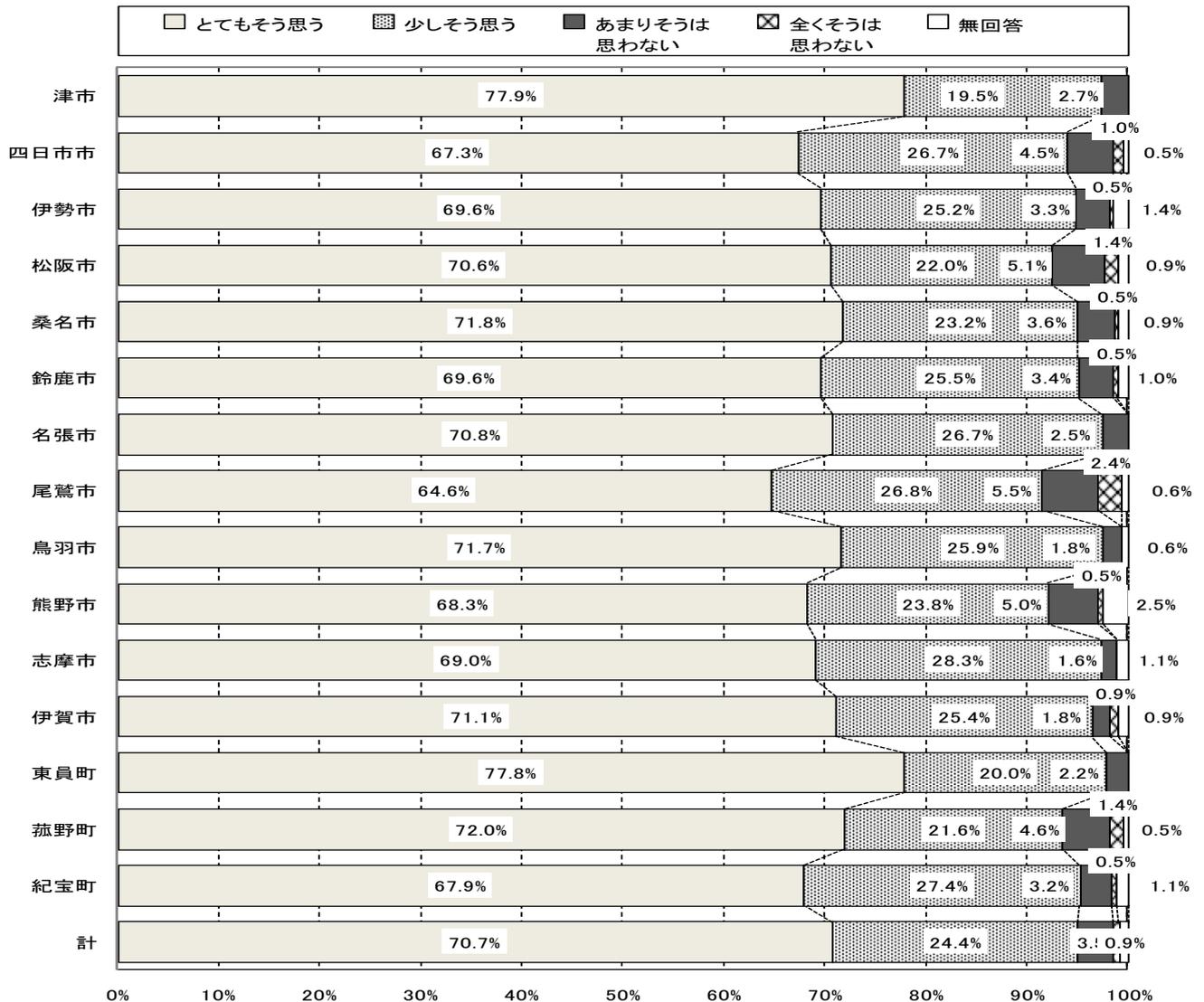


図 5-1-18 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」市町別回答率

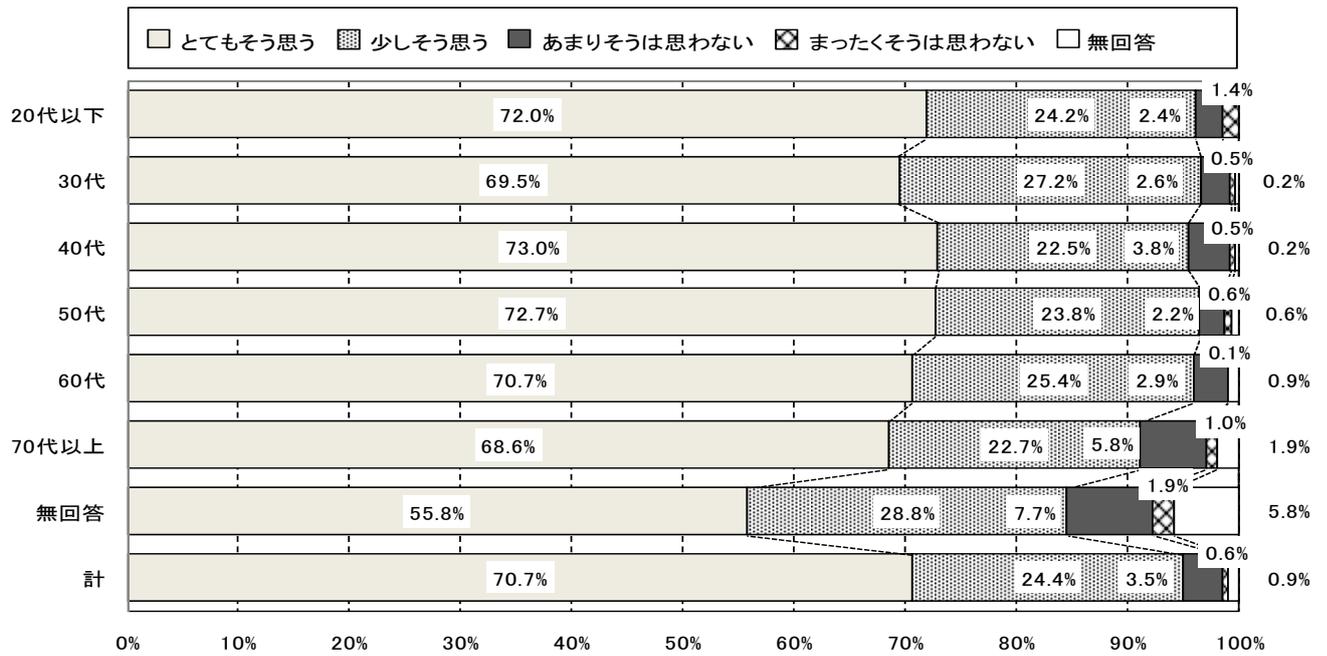


表 5-1-19 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」年代別回答率

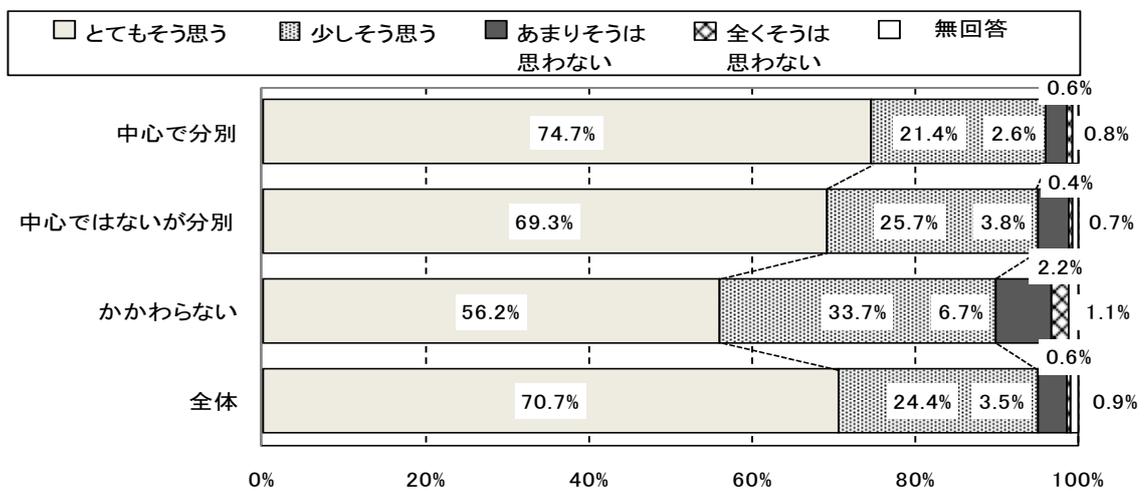


図 5-1-20 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」分別行動別回答率

(6) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が88.1%となっている。  
 市町別では、上記の計が82.6%から92.1%で大きな偏りは見られない。  
 年代別では、上記の計が81.6%から92.3%で大きな隔たりは見られないが、年代が高くなるほど「とてもそう思う」が高くなる傾向が見られる。  
 分別行動別では、上記の計が87.9%から88.8%で大きな偏りは見られないが、分別にかかわる人ほど「とてもそう思う」が高くなっている。  
 全体的に「技術開発や研究の充実が必要と思う」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,702	54.0%
2	少しそう思う	1,074	34.1%
3	あまりそうは思わない	303	9.6%
4	まったくそうは思わない	36	1.1%
99	無回答	39	1.2%
有効回答数		3,154	100.0%

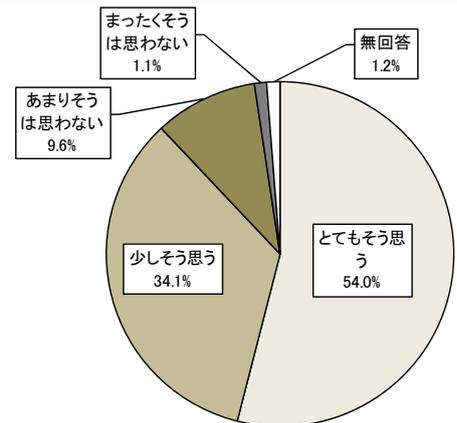


表 5-1-6 「技術開発や研究の充実が必要と思う」回答状況

図 5-1-21 「技術開発や研究の充実が必要と思う」回答率

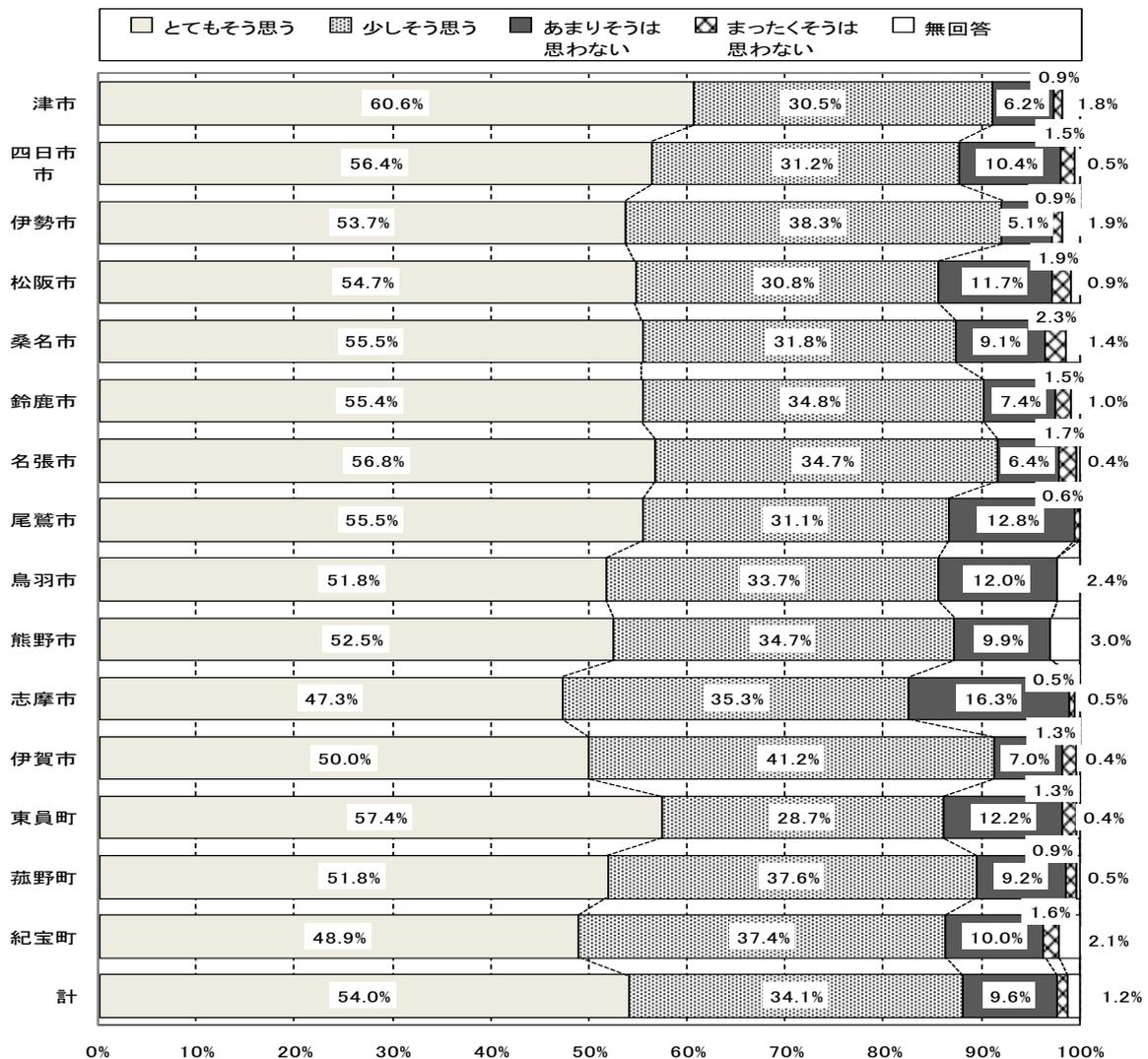


図 5-1-22 「技術開発や研究の充実が必要と思う」市町別回答状況

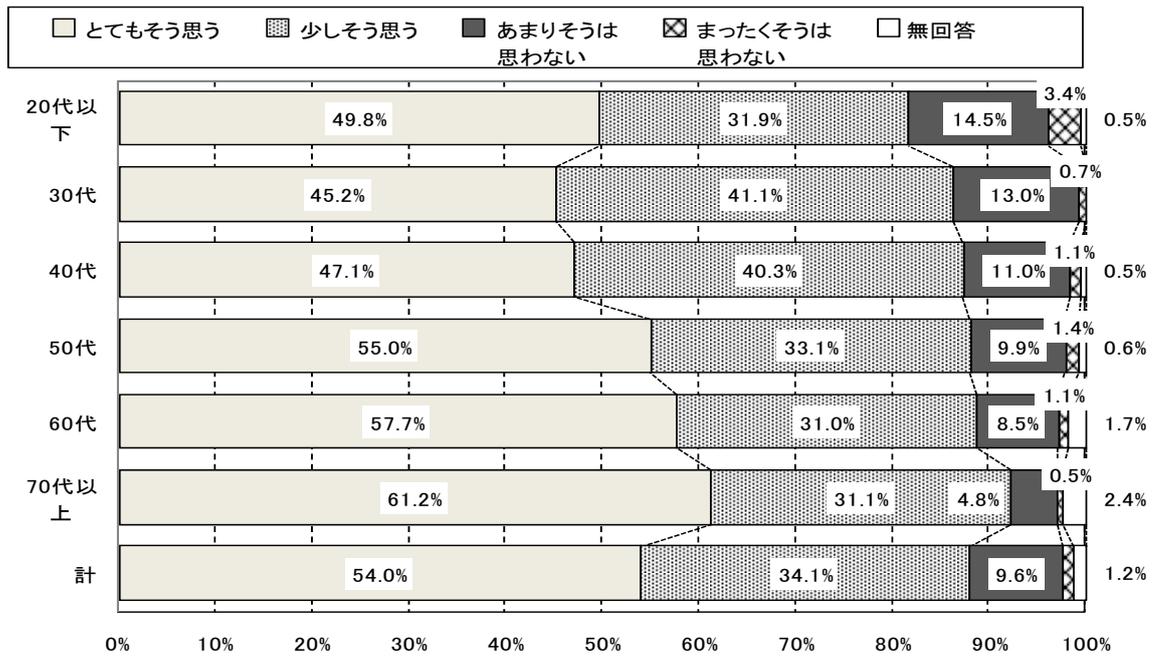


表 5-1-23 「技術開発や研究の充実が必要と思う」年代別回答率

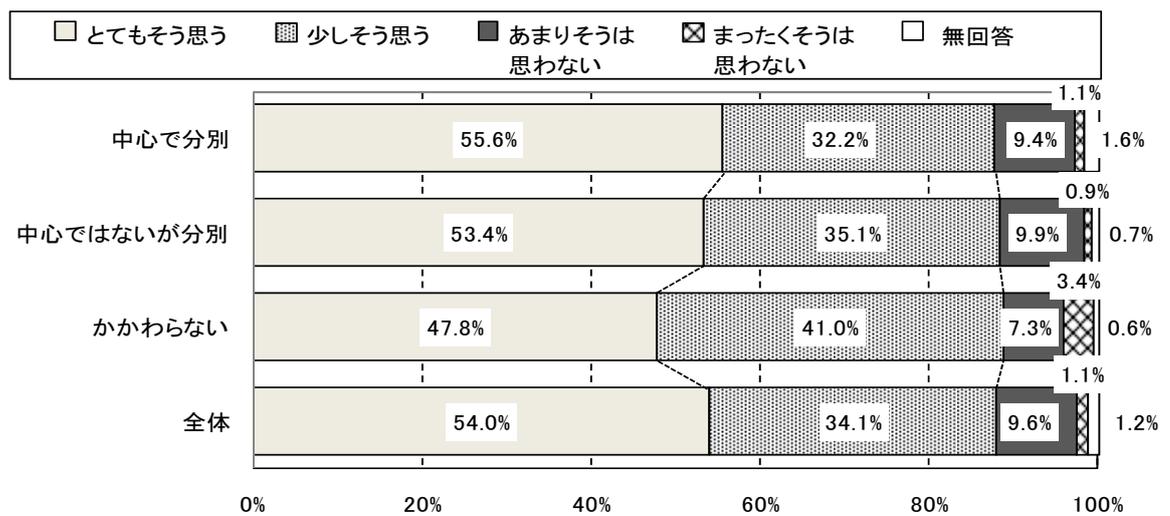


図 5-1-24 「技術開発や研究の充実が必要と思う」分別行動別回答率

問 2 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？（〇は1つずつ）

(1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう。

「特価品や新商品をすぐには必要なくても買ってしまおうか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が37.8%となっている。  
 市町別では、上記の計が32.1%から42.5%で大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が33.0%から44.4%で大きな隔たりはみられない。  
 分別行動別では、上記の計が36.8%から40.4%で大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	204	6.5%
2	少しあてはまる	988	31.3%
3	あまりあてはまらない	1,205	38.2%
4	まったくあてはまらない	738	23.4%
99	無回答	19	0.6%
有効回答数		3,154	100.0%

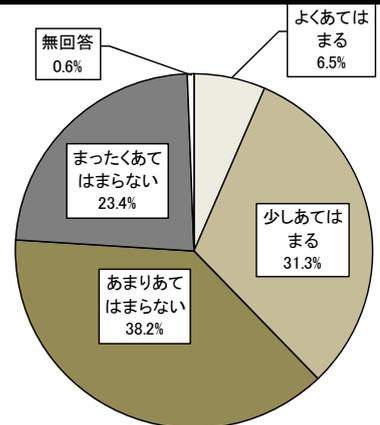


表 5-1-7 「必要なくても買ってしまおう」回答状況

図 5-1-25 「必要なくても買ってしまおう」回答率

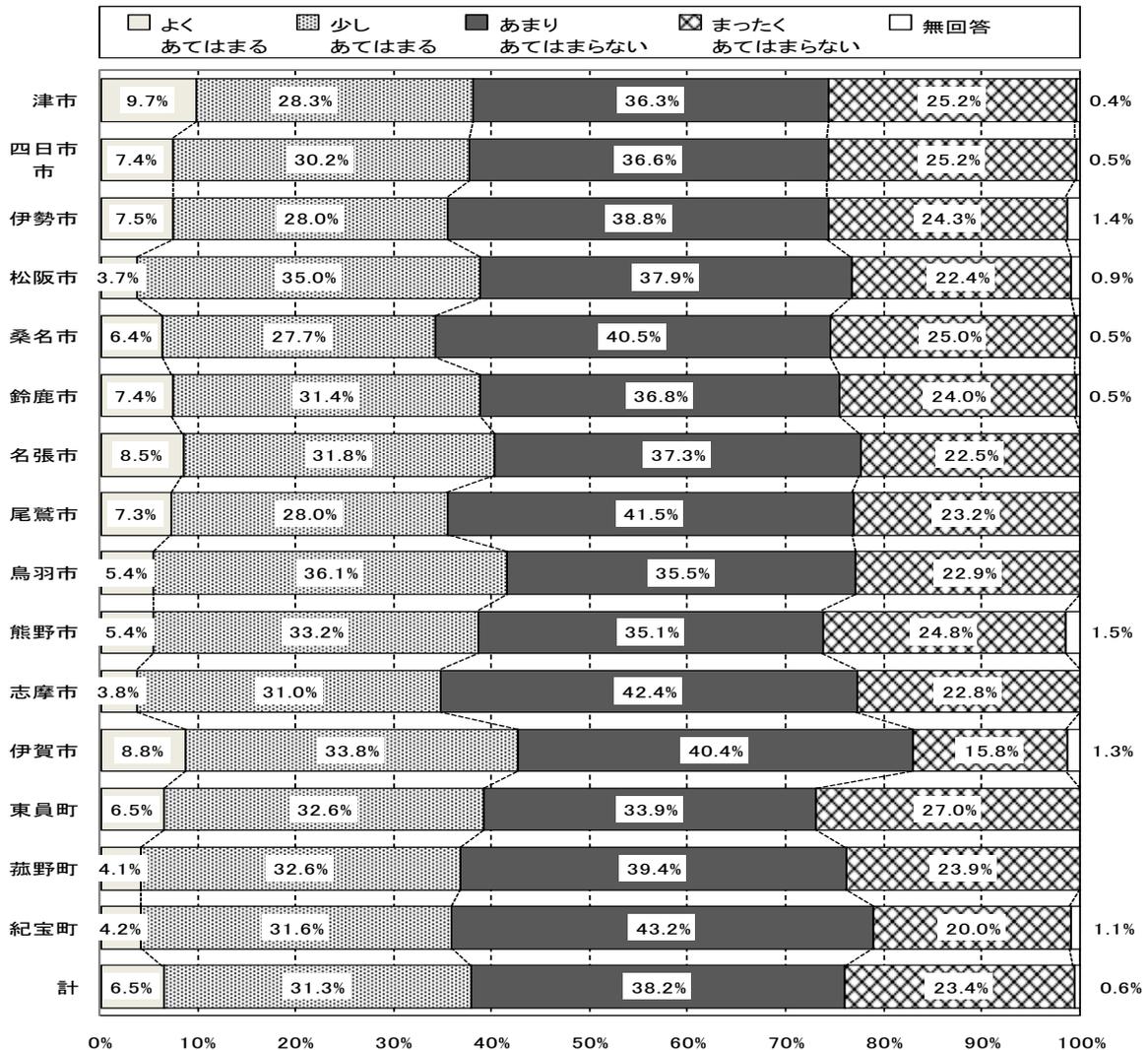


図 5-1-26 「必要なくても買ってしまおう」市町別回答率

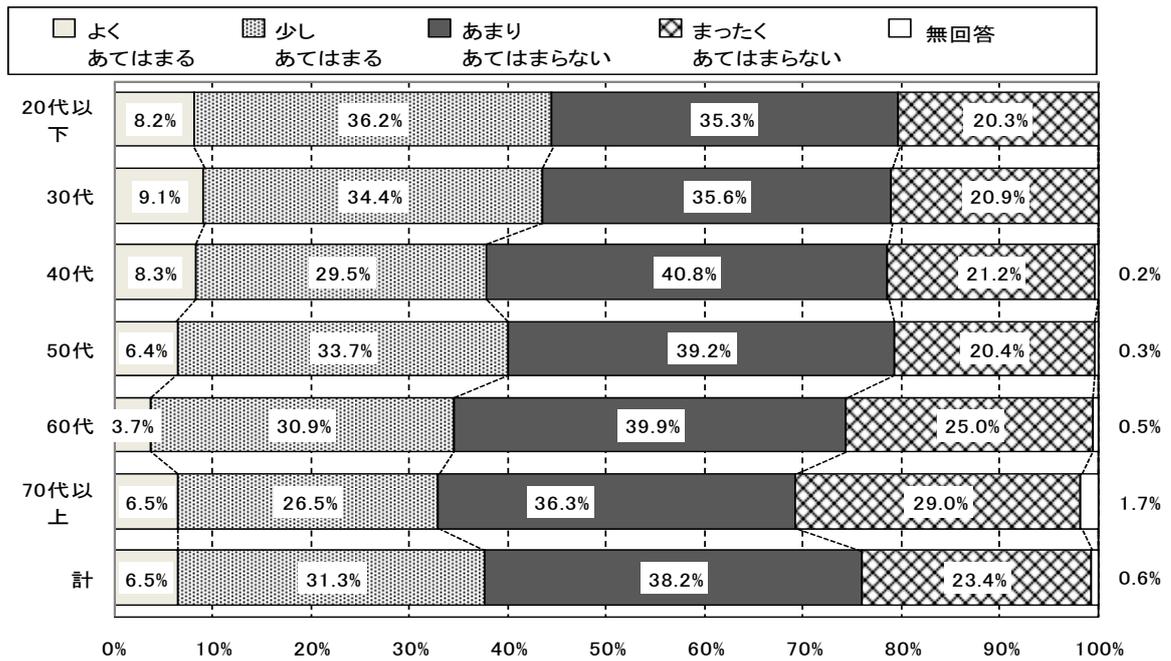


図 5-1-27 「必要なくても買ってしまおう」年代別回答率

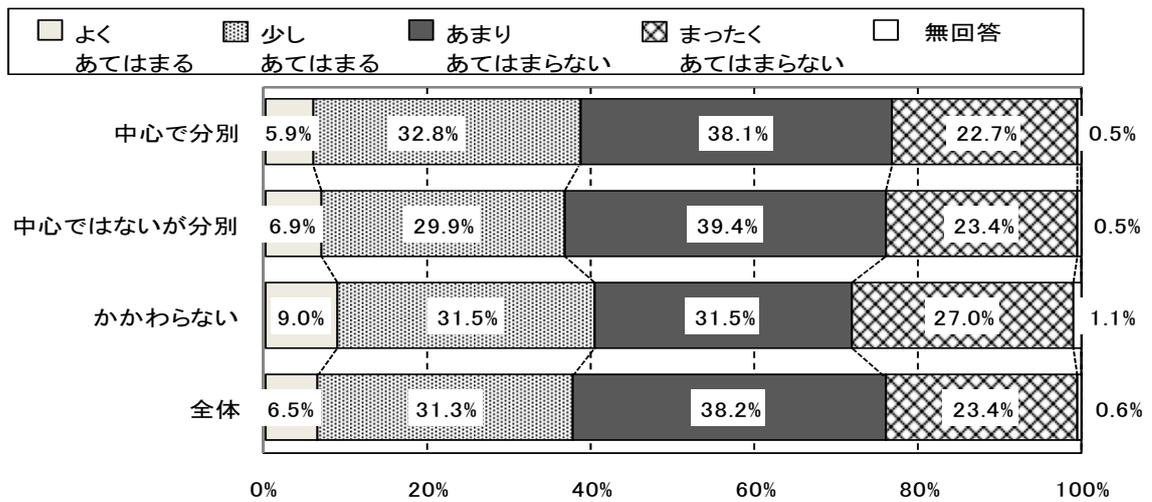


図 5-1-28 「必要なくても買ってしまおう」分別行動別回答率

(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。

「壊れたら修理するより買い替えるか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が41.9%となっている。  
 市町別では、上記の計が33.7%から47.6%で大きな偏りは見られないが、「よくあてはまる」では、紀宝町で6.3%に対し、鳥羽市では16.3%であり2倍以上の差が見られる。  
 年代別では、上記の計が39.0%から45.9%で大きな隔たりは見られない。  
 分別行動別では、上記の計が38.7%から44.9%であり、「ごみの分別にかかわらない」では、「よくあてはまる」が一番高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	379	12.0%
2	少しあてはまる	942	29.9%
3	あまりあてはまらない	1,185	37.6%
4	まったくあてはまらない	621	19.7%
99	無回答	27	0.9%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-1-8 「修理するより買い替える」回答状況

図 5-1-29 「修理するより買い替える」回答率

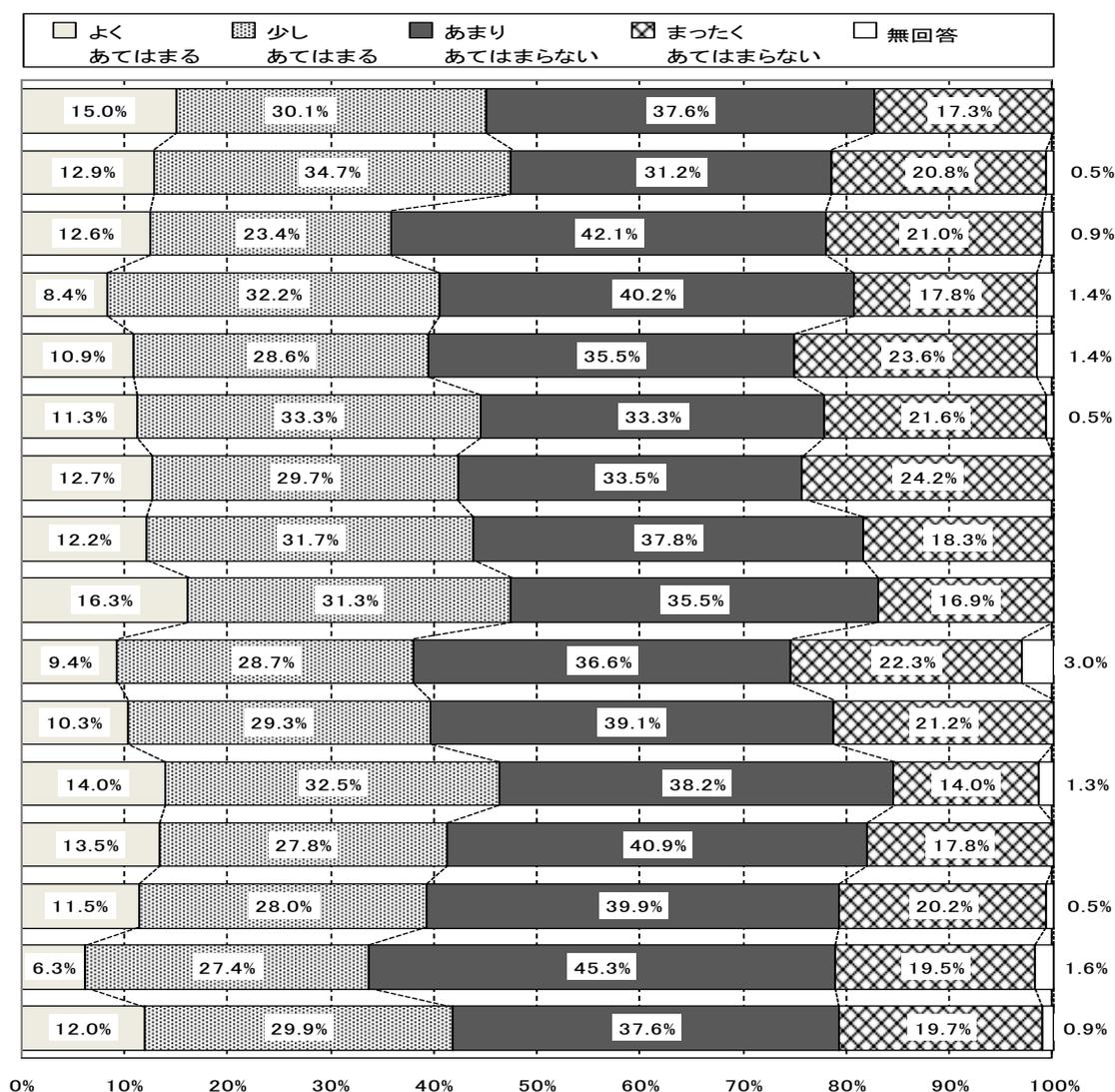


図 5-1-30 「修理するより買い替える」市町別回答率

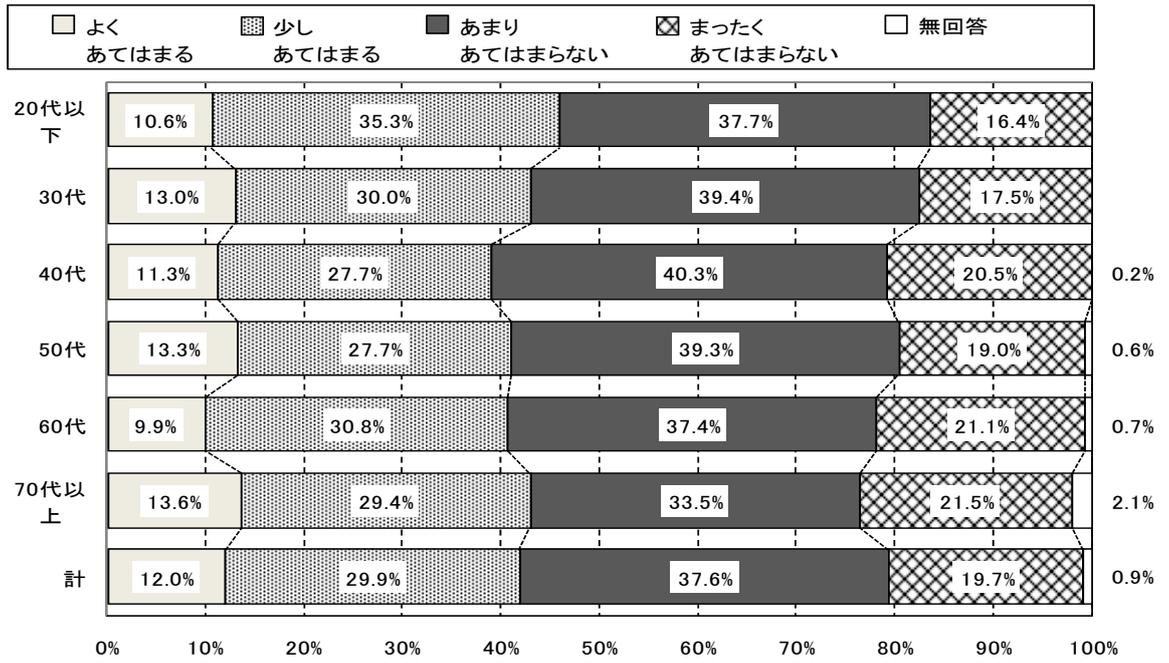


図 5-1-31 「修理するより買い替える」年代別回答率

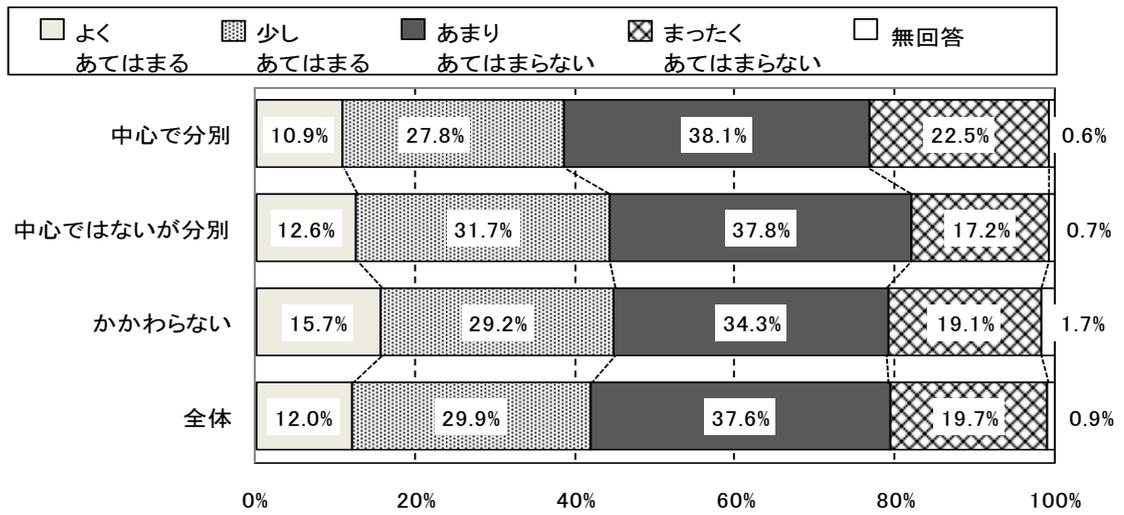


図 5-1-32 「修理するより買い替える」分別行動別回答率

(3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。

「環境やごみのことを考えずに商品を選ぶか」という問いに対して、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が61.3%となっている。

市町別では、上記の計が58.4%から64.6%で大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が57.0%から68.6%で若い世代ほど高くなっている傾向がみられる。

分別行動別では、上記の計が57.7%から69.7%で分別に関わらない人ほど高くなっている傾向がみられる。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	533	16.9%
2	少しあてはまる	1,399	44.4%
3	あまりあてはまらない	952	30.2%
4	まったくあてはまらない	248	7.9%
99	無回答	22	0.7%
有効回答数		3,154	100.0%

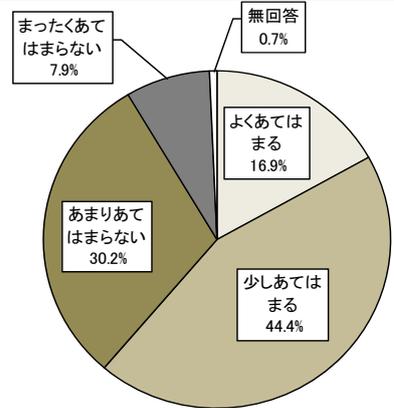


表 5-1-9 「環境等を考えずに商品を選ぶ」回答状況

図 5-1-33 「環境等を考えずに商品を選ぶ」回答率

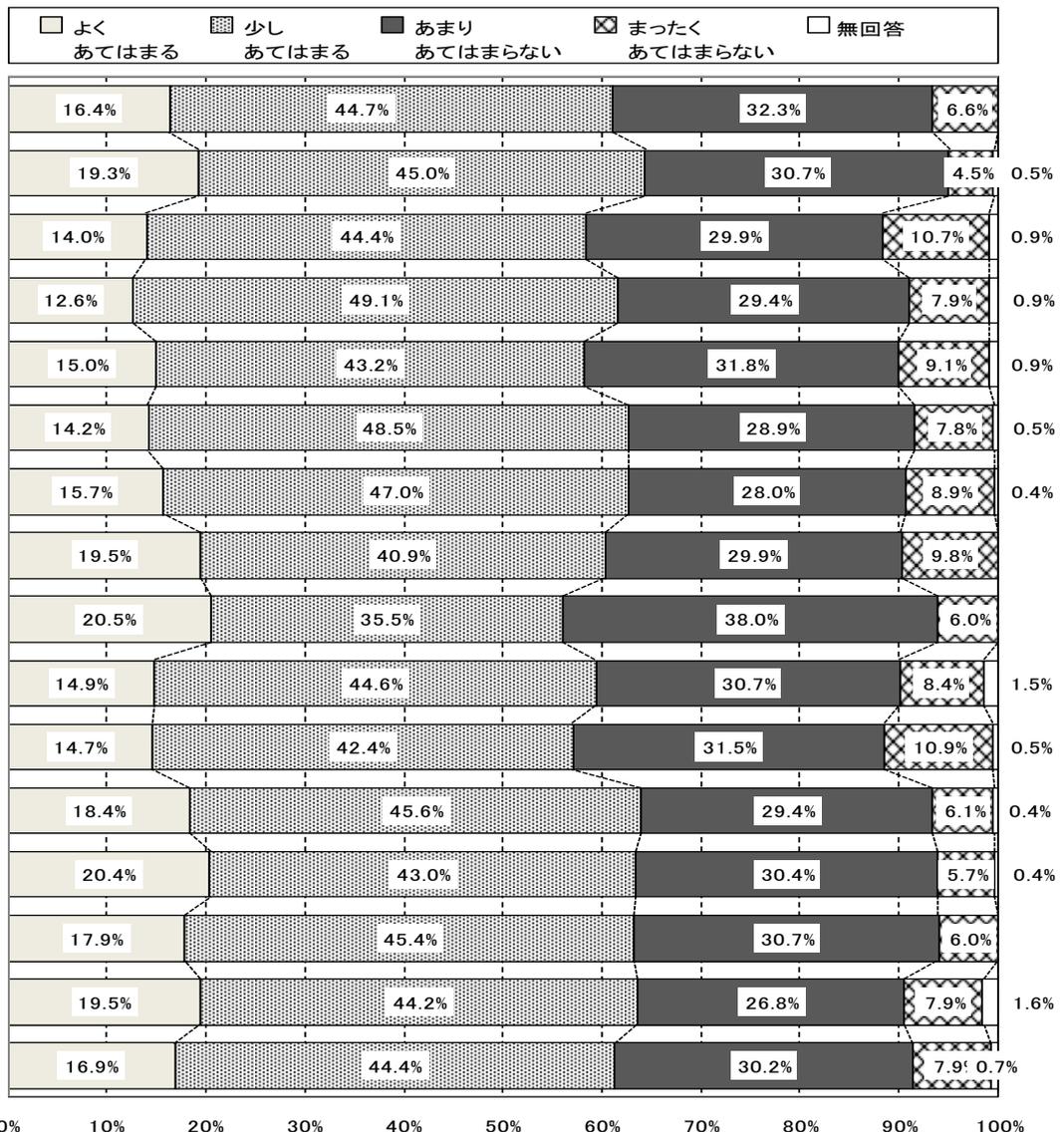


図 5-1-34 「環境等を考えずに商品を選ぶ」市町別回答率

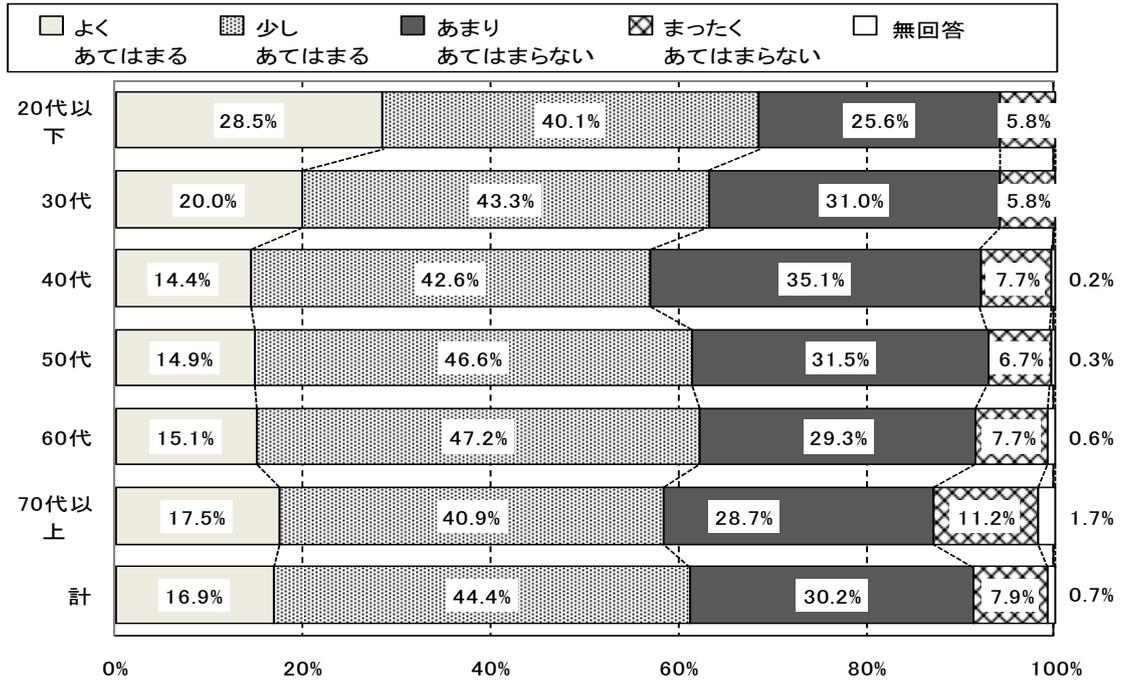


図 5-1-35 「環境等を考えずに商品を選ぶ」年代別回答率

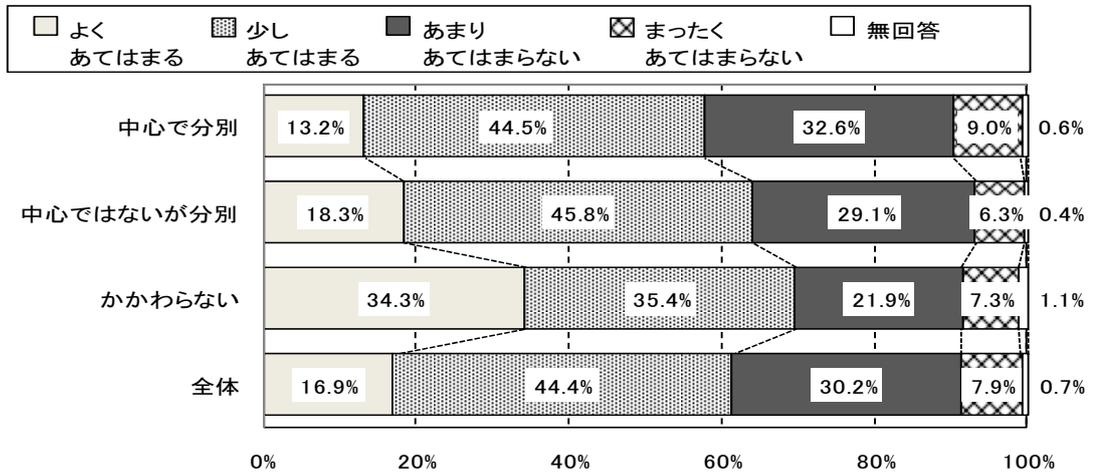


図 5-1-36 「環境等を考えずに商品を選ぶ」別行動別回答率

(4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

「レンタル品などは使わず、新品を購入するか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が54.3%となっている。  
 市町別では、上記の計が45.5%から61.3%であり、大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が44.8%から59.7%であり、年代が高くなるほど「まったくあてはまらない」が高くなっており、2倍以上の差が見られる。  
 分別行動別では、上記の計が54.7%から57.3%であり「分別にかかわらない」人ほど「よくあてはまる」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	637	20.2%
2	少しあてはまる	1,076	34.1%
3	あまりあてはまらない	883	28.0%
4	まったくあてはまらない	520	16.5%
99	無回答	38	1.2%
有効回答数		3,154	100.0%

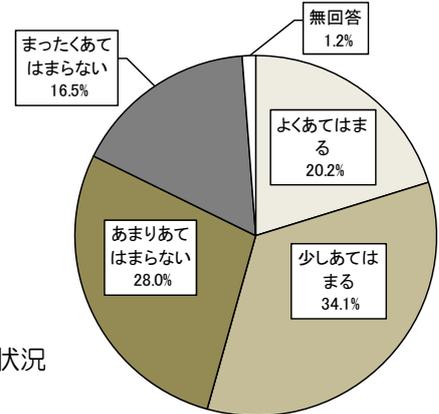


表 5-1-10 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答状況

図 5-1-37 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答率

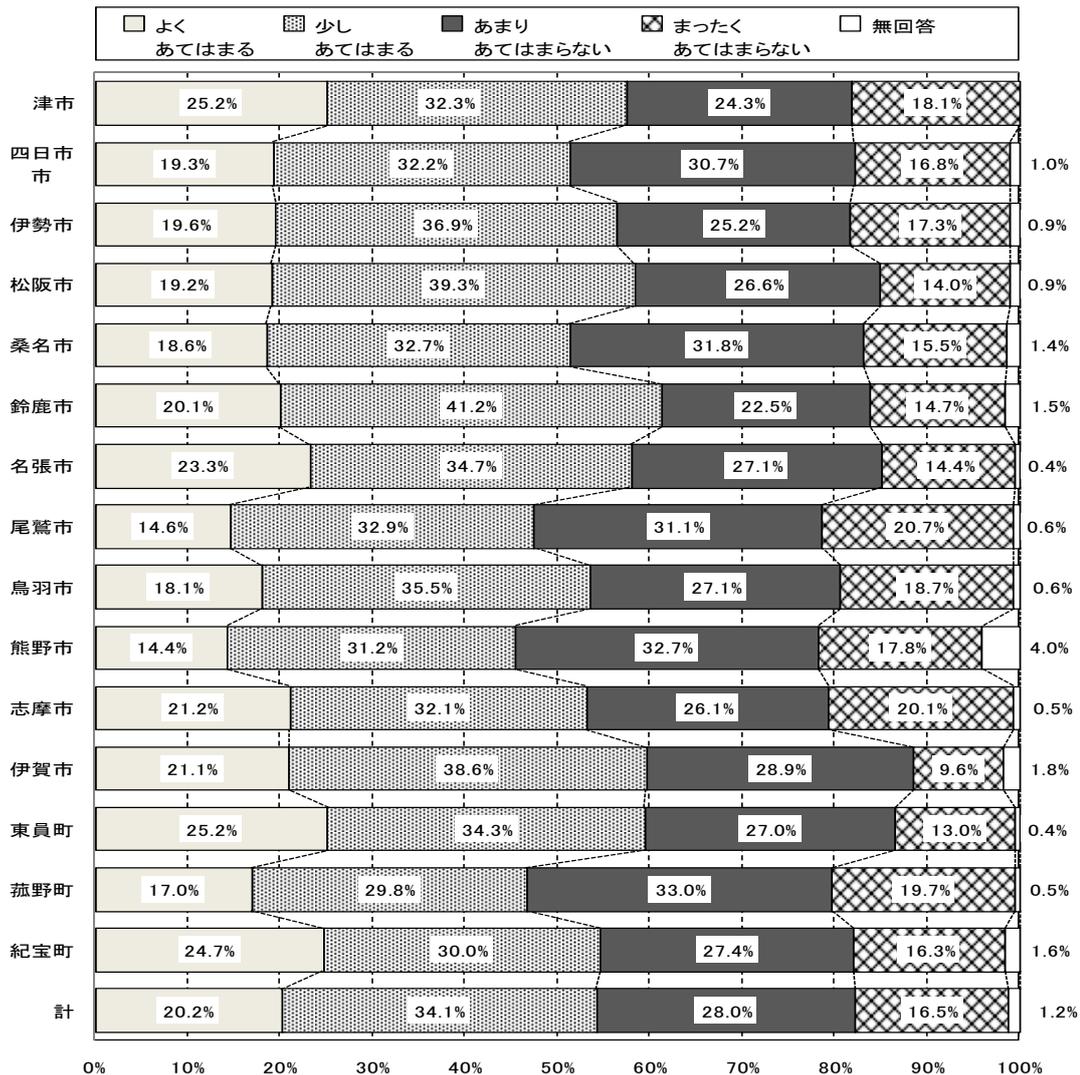


図 5-1-38 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」市町別回答率

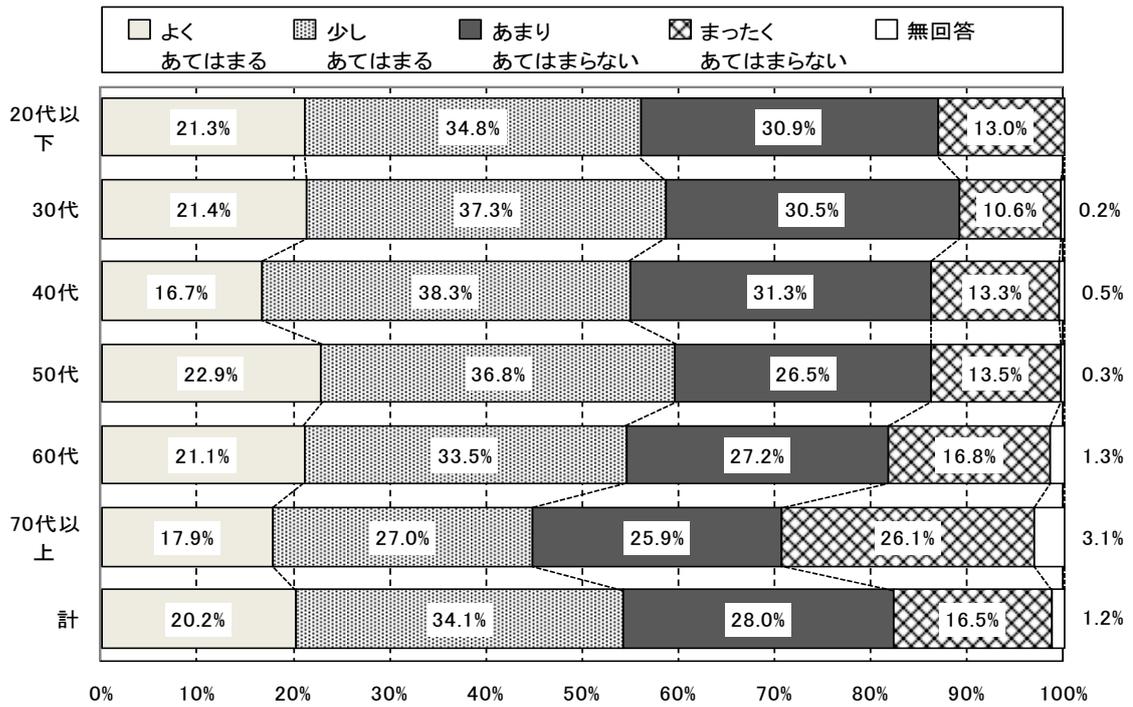


図 5-1-39 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」年代別回答率

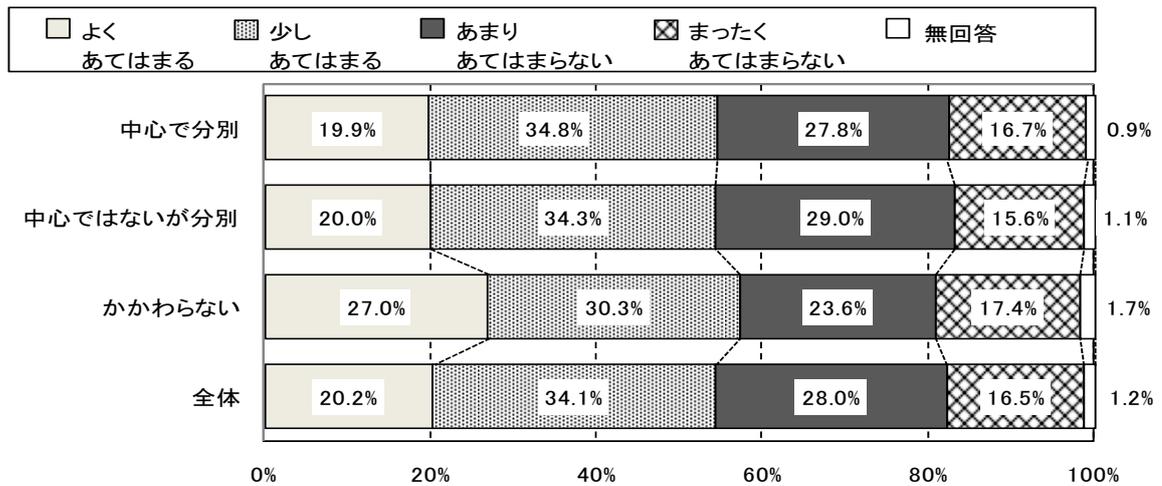


図 5-1-40 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」分別行動別回答率

問 3 物を買うときの環境への配慮について、あなたはどのように感じていますか？（〇は1つ）

「物を買うときの環境への配慮」については、「環境保全のために良いことなので、常に意識している」、「習慣になっており、特に意識することではない」、「店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する」の計で80.5%となっている。  
 市町別では、上記の計が74.7%から84.1%と大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が74.9%から85.6%であり、年代が高いほど「環境保全のために良いことなので、常に意識している」、「習慣になっており、特に意識することではない」が高い傾向となっている。また、「店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する」は「70代以上」で一番低い。  
 分別行動別では、上記の計が66.3%から84.5%であり、「分別にかかわる」人ほど高くなっている。また、「手間や時間がかかる・面倒だ」は「分別にかかわらない」が一番高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	環境保全のために良いことなので、常に意識している	466	14.8%
2	習慣になっており、特に意識することではない	549	17.5%
3	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する	1513	48.2%
4	家計の圧迫につながるのを避けたい	184	5.9%
5	手間や時間がかかる・面倒だ	72	2.3%
6	生活の便利さや快適さを損なう	32	1.0%
7	その他	58	1.8%
8	わからない	227	7.2%
9	無回答	39	1.2%
	有効回答数	3,154	100.0%

表 5-1-11 「物を買うときの環境への配慮」回答状況

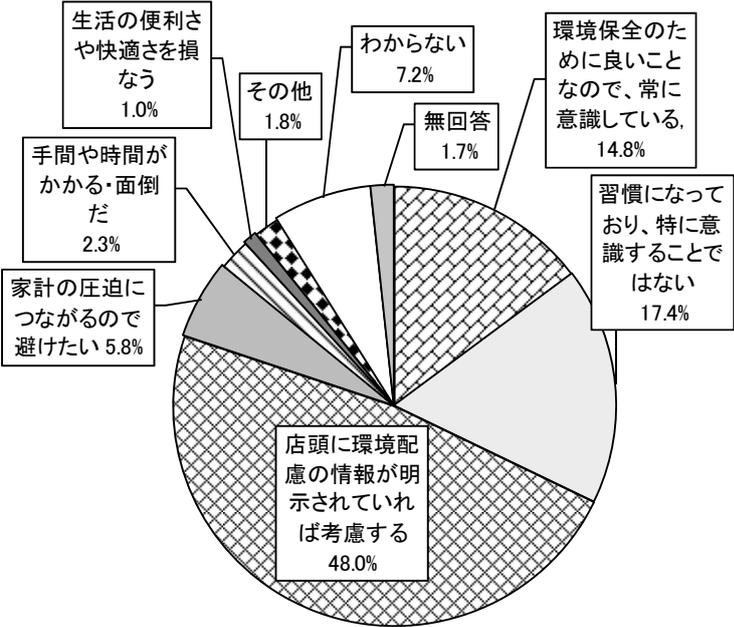


図 5-1-41 「物を買うときの環境への配慮」回答率

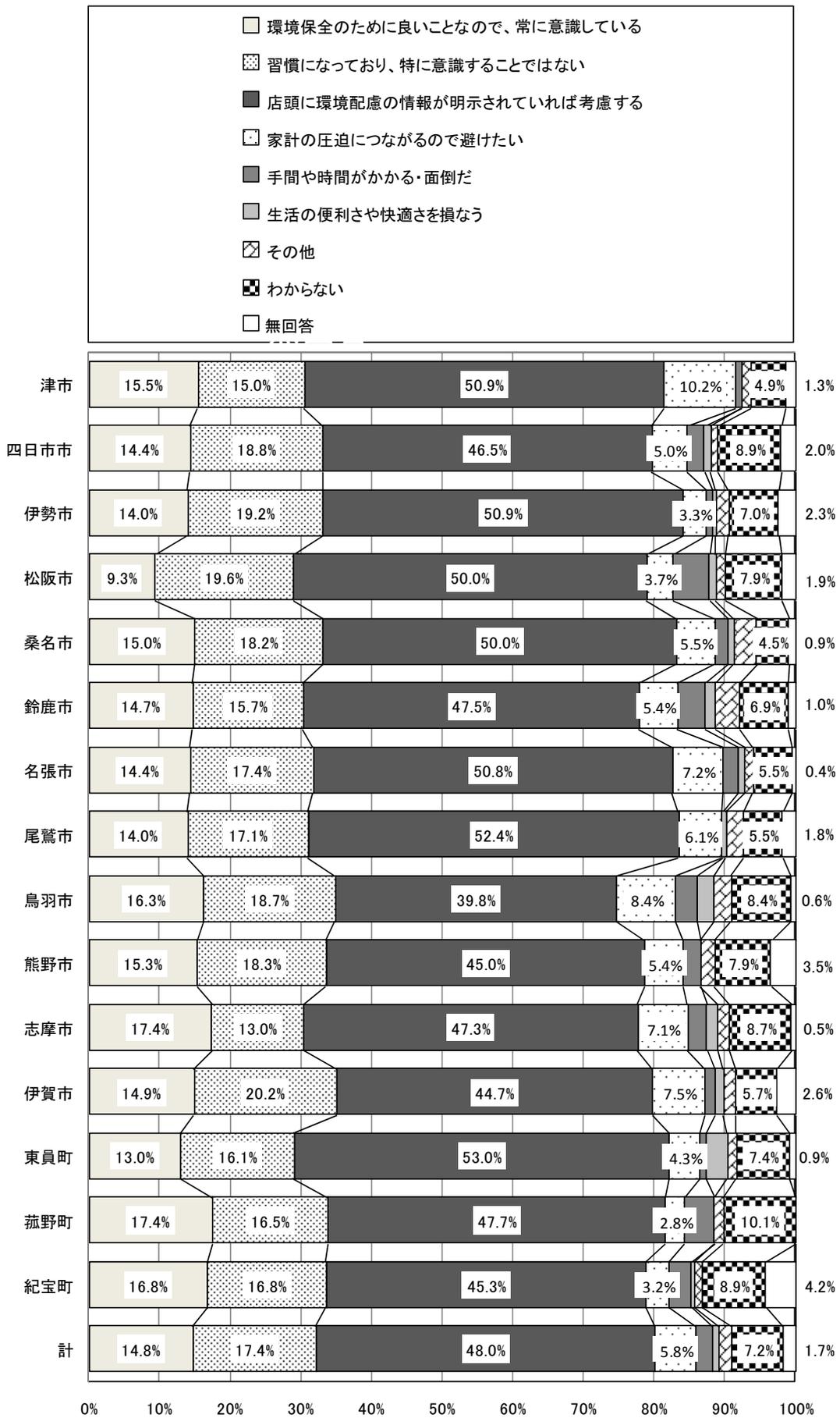


図 5-1-42 「物を買うときの環境への配慮」市町別回答率

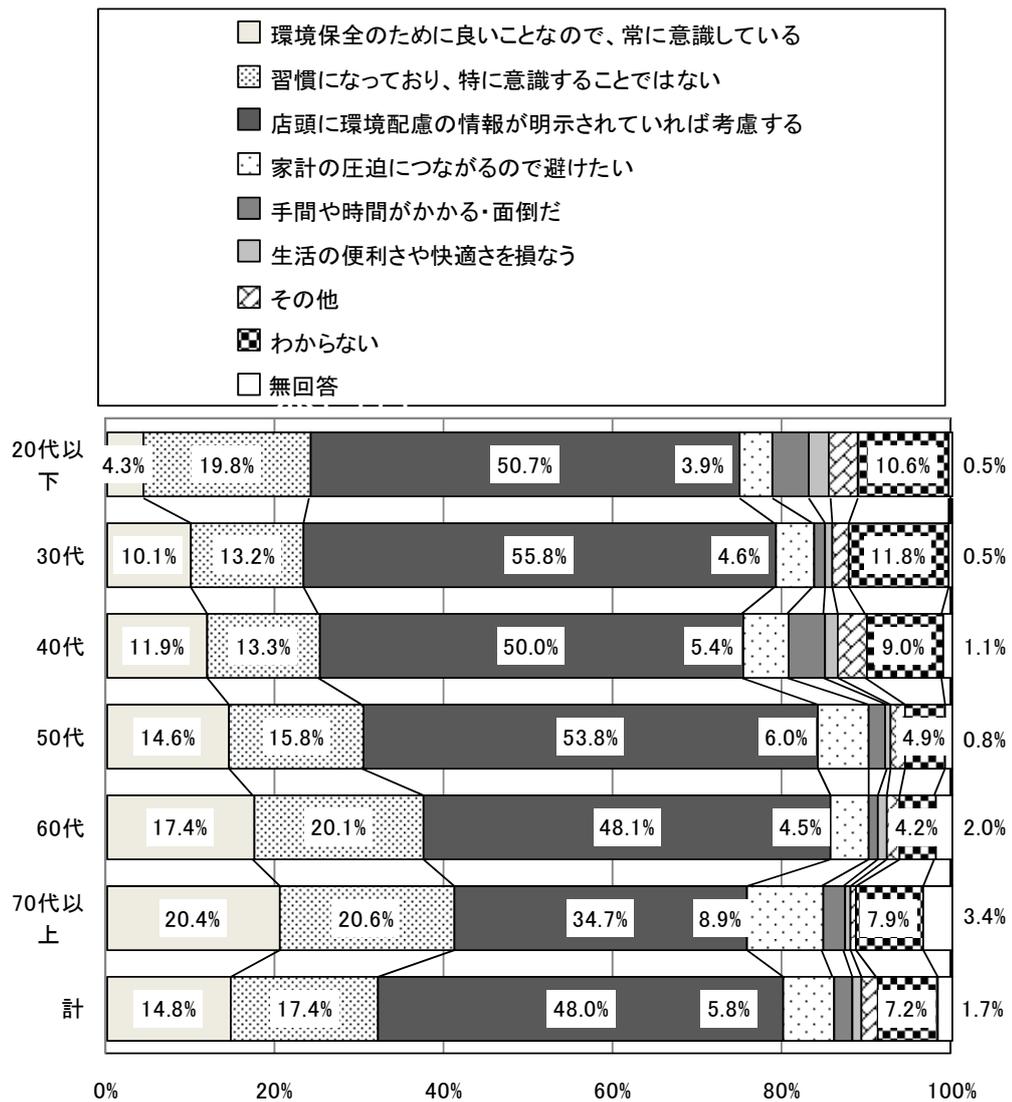


図 5-1-43 「物を買うときの環境への配慮」年代別回答率

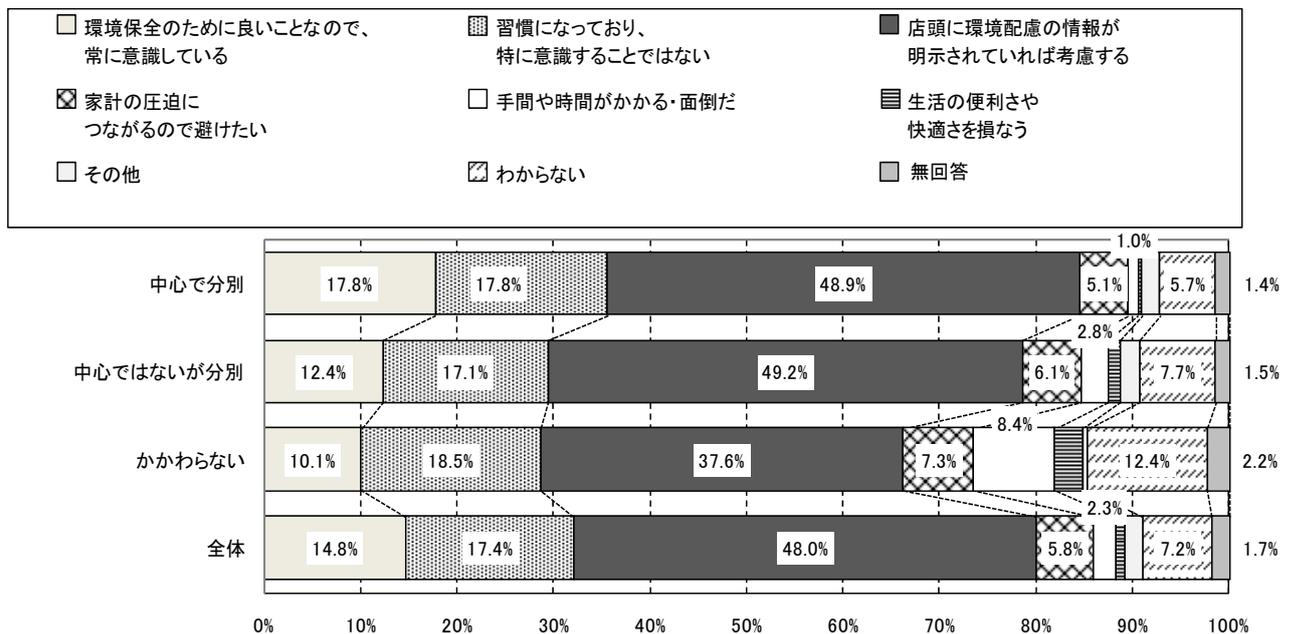


図 5-1-44 「物を買うときの環境への配慮」分別行動別回答率

問 4 食べ物のごみについてお聞きします。(〇は1つずつ)

(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

「食材を捨ててしまうことがあるか」については、「よくある」、「たまにある」、の計で62.5%となっている。全体的に「食材を捨ててしまう」は「たまにある」人の割合が大きい。市町別では、上記の計が58.9%から70.2%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記の計が52.2%から69.6%であり、「70代以上」は「ほとんどない」が高い。分別行動別では、上記の計が61.5%から68.5%であり、「分別にかかわらない」人ほど「よくある」が高い。世帯人員別では、上記の計が58.7%から69.5%であり、一人暮らしの人は「ほとんどない」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくある	402	12.7%
2	たまにある	1,571	49.8%
3	あまりない	624	19.8%
4	ほとんどない	541	17.2%
99	無回答	16	0.5%
有効回答数		3,154	100.0%

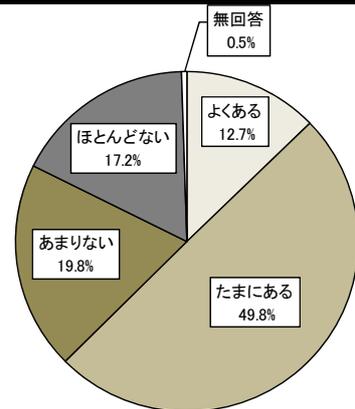


表 5-1-12 「食材を捨ててしまうことがある」回答状況

図 5-1-45 「食材を捨ててしまうことがある」回答率

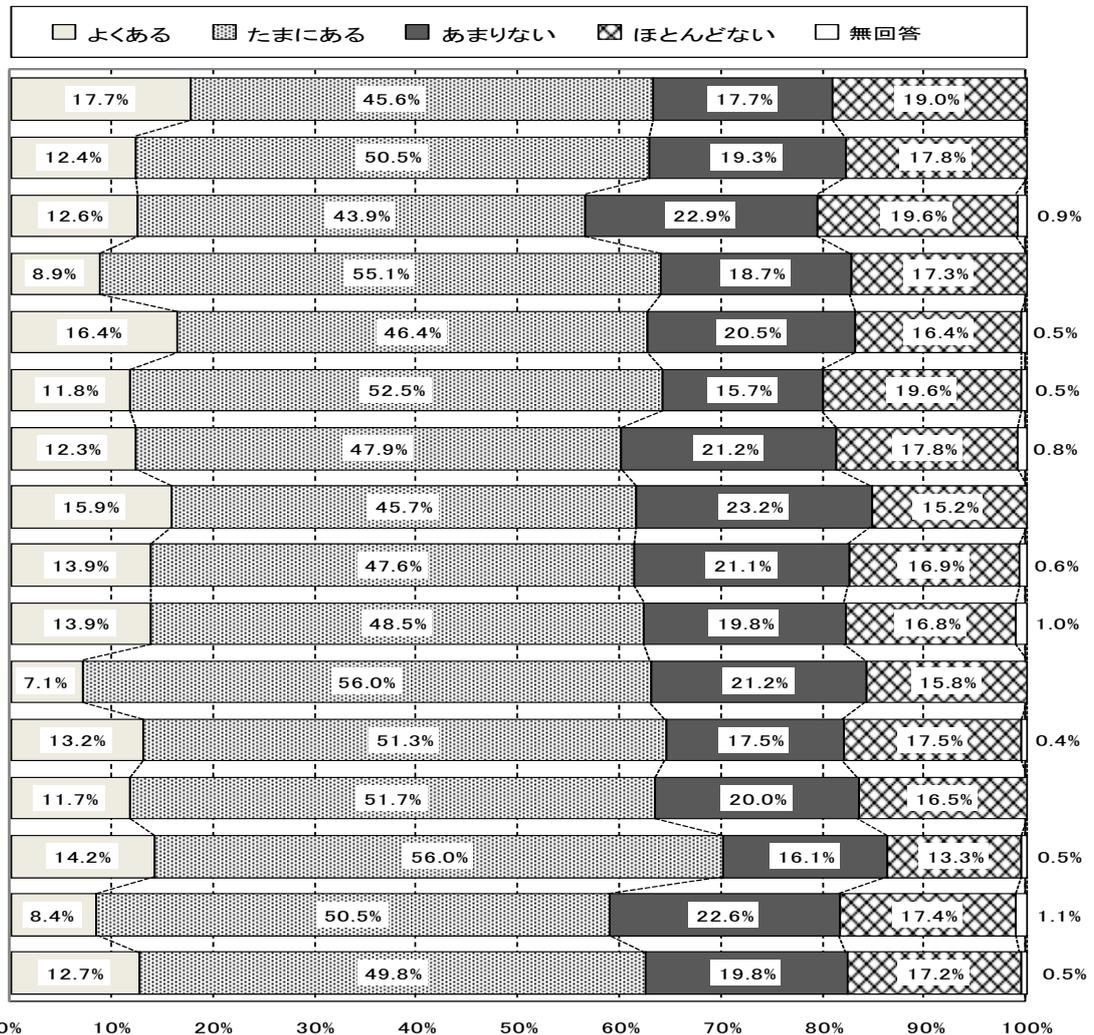


図 5-1-46 「食材を捨ててしまうことがある」市町別回答率

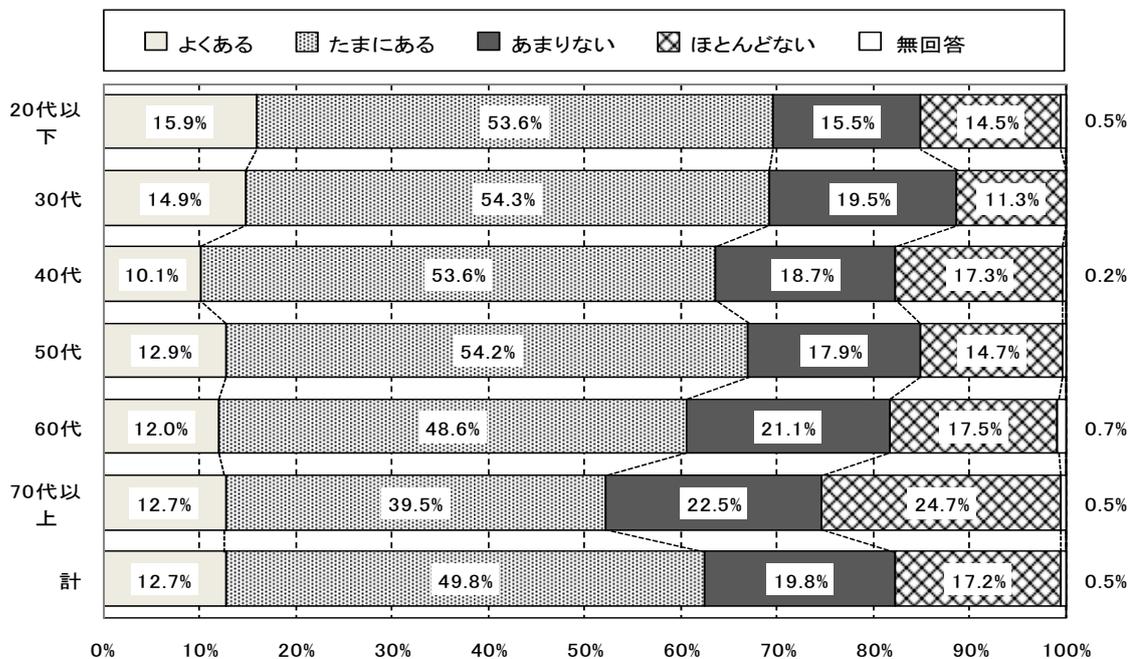


図 5-1-47 「食材を捨ててしまうことがある」年代別回答率

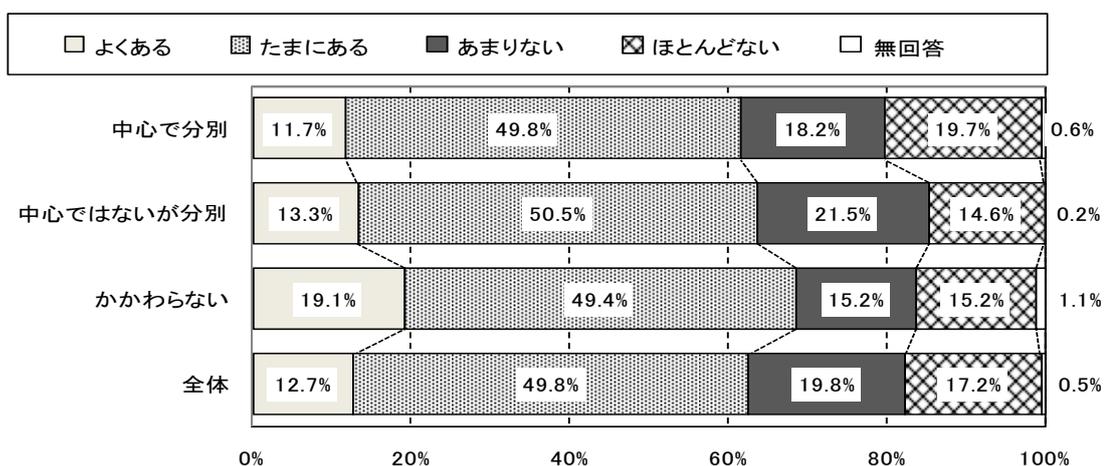


図 5-1-48 「食材を捨ててしまうことがある」分別行動別回答率

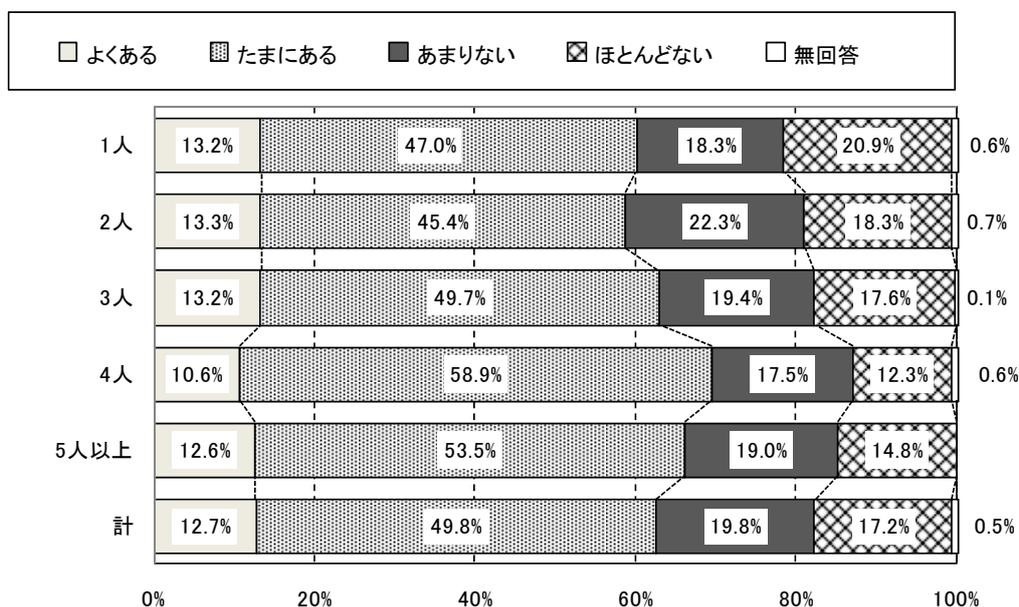


図 5-1-49 「食材を捨ててしまうことがある」世帯人員別回答率

(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

「料理を捨ててしまうことがあるか」については、「よくある」、「たまにある」の計が 41.8% となっている。

市町別では、上記の計が 30.5%から 46.9%であり、大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が 35.9%から 47.6%であり、「70 代以上」は「ほとんどない」が高い。

分別行動別では、上記の計が 37.6%から 48.3%であり、分別にかかわらない人ほど高い。

世帯人員別では、上記の計が 36.4%から 48.0%となっており、人員が多くなるほど高い。

全体的に「料理を捨ててしまうことがある」は、「よくある」の割合は低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくある	199	6.3%
2	たまにある	1,119	35.5%
3	あまりない	886	28.1%
4	ほとんどない	930	29.5%
99	無回答	20	0.6%
有効回答数		3,154	100.0%

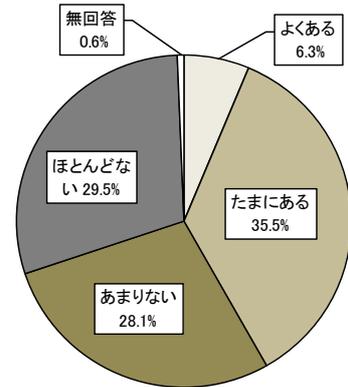


表 5-1-13 「料理を捨ててしまうことがある」回答状況

図 5-1-50 「料理を捨ててしまうことがある」回答率

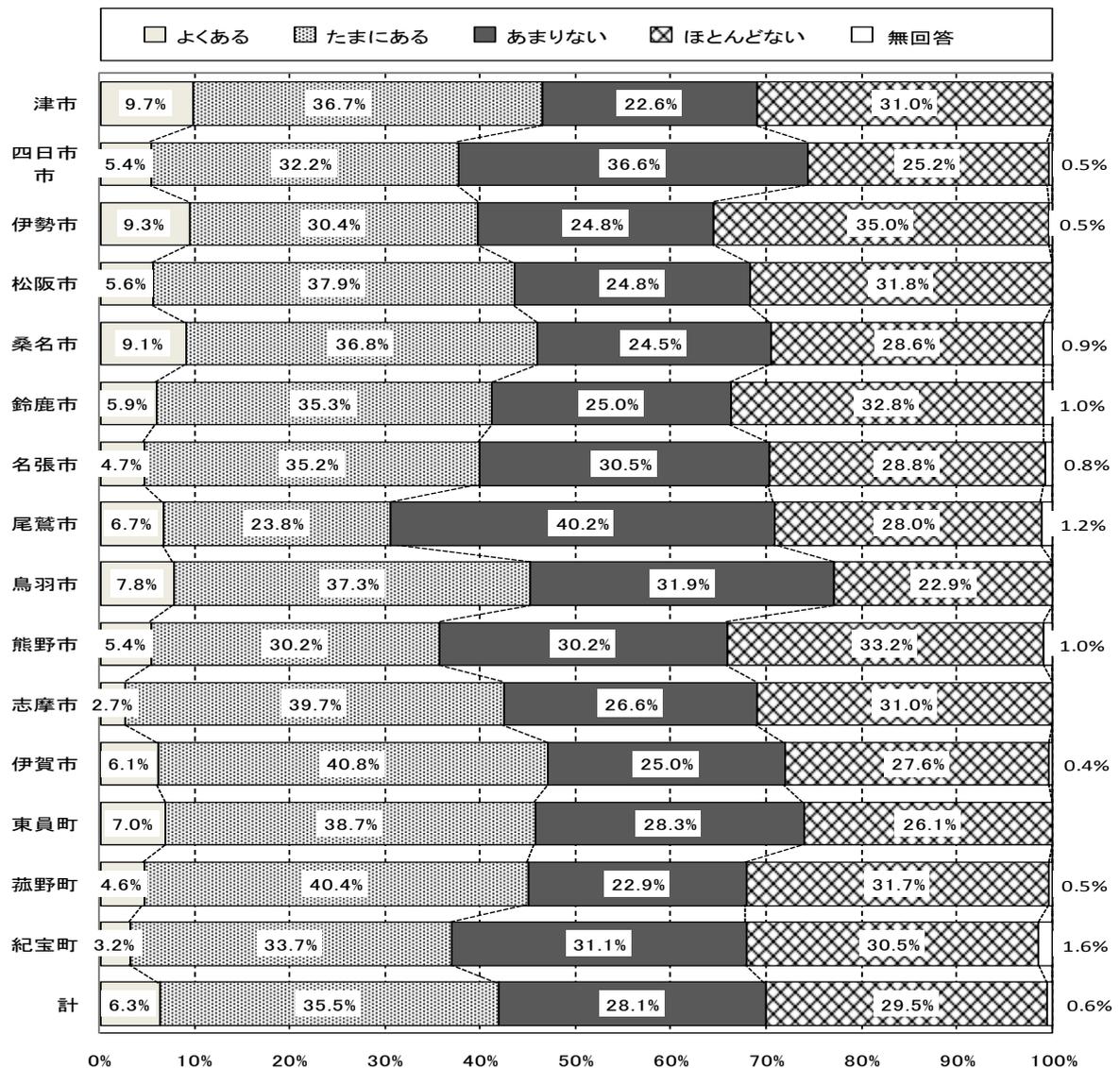


図 5-1-51 「料理を捨ててしまうことがある」市町別回答率

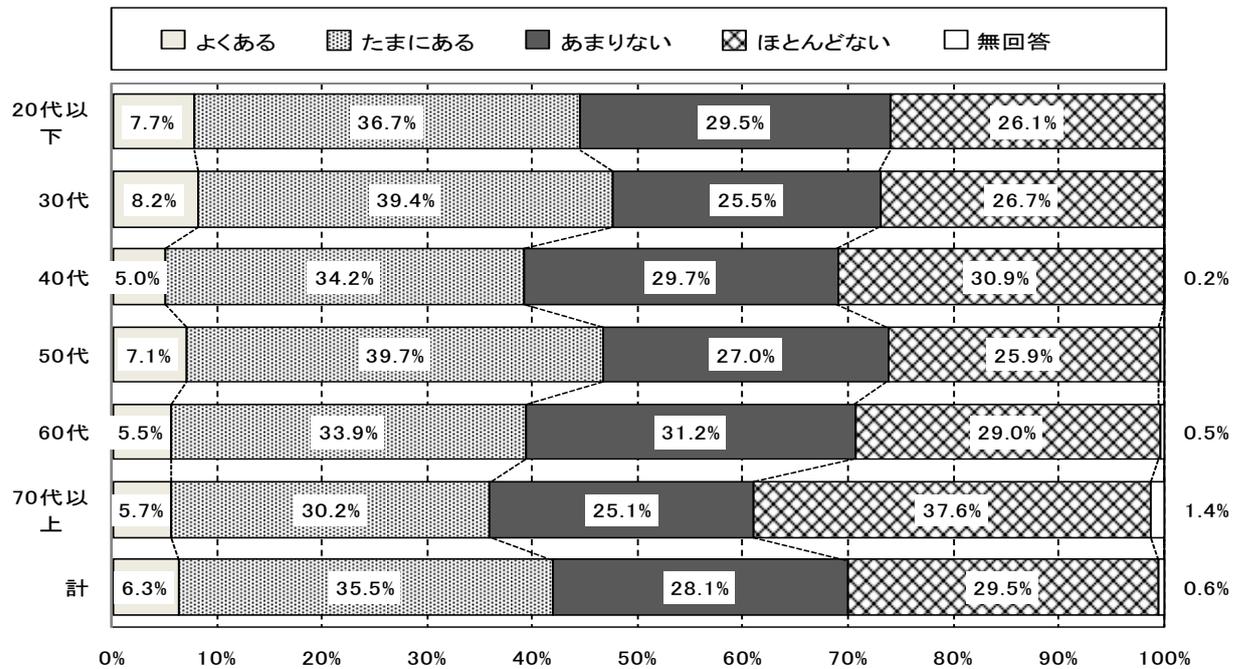


図 5-1-52 「料理を捨ててしまうことがある」年代別回答率

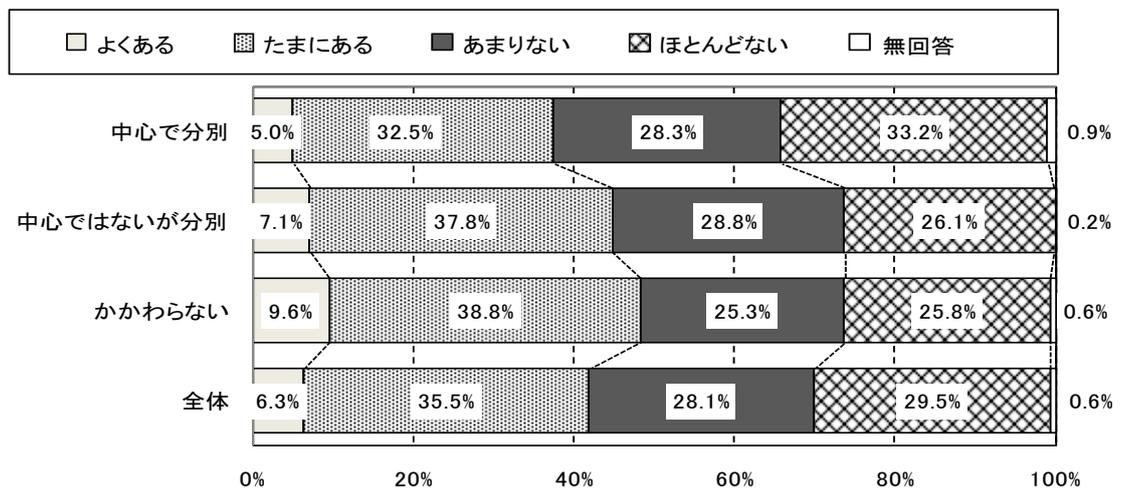


図 5-1-53 「料理を捨ててしまうことがある」分別行動別回答率

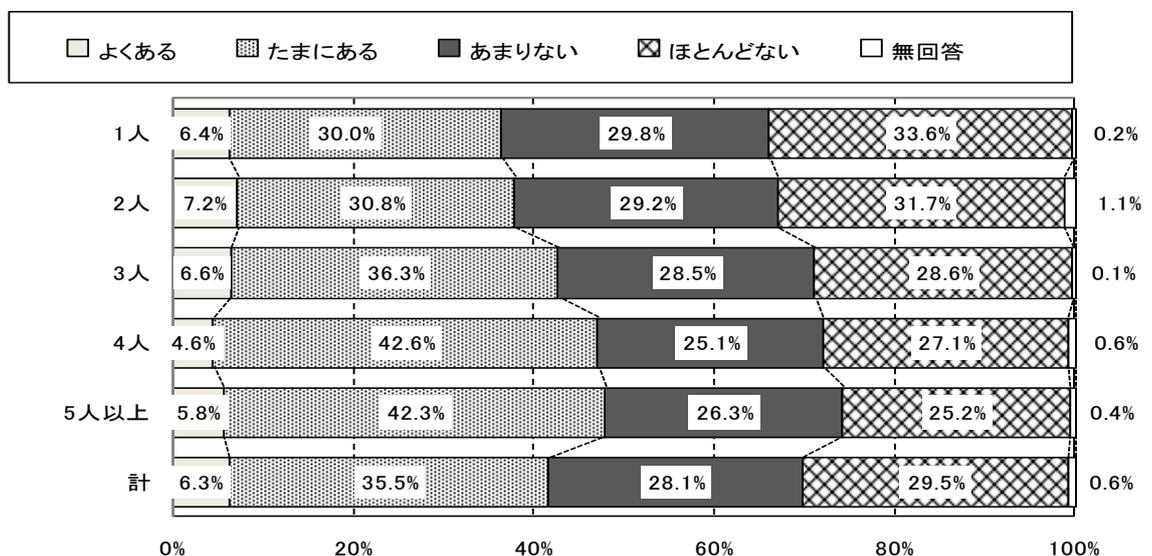


図 5-1-54 「料理を捨ててしまうことがある」世帯人員別回答率

問 5 次のうち、だいたい意味がわかる言葉はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

「意味がわかる言葉」については、「リサイクル」（91.6%）、「マイバッグ」（93.3%）、「レジ袋の有料化」（95.5%）の回答率が90%より大きくなっている。市町別、年代別についても、「リサイクル」、「マイバッグ」、「レジ袋の有料化」の割合が高い。しかし、70代以上では、他の年代と比べるとこれらの回答率が低くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	循環型社会	1,407	44.6%
2	低炭素社会	647	20.5%
3	ごみゼロ社会	2,401	76.1%
4	リデュース	849	26.9%
5	リユース	1,204	38.2%
6	リサイクル	2,890	91.6%
7	3R(さんアール、スリーアール)	676	21.4%
8	エコライフ	2,351	74.5%
9	スローライフ	1,406	44.6%
10	容器包装リサイクル法	1,971	62.5%
11	家電リサイクル法	2,712	86.0%
12	食品リサイクル法	1,168	37.0%
13	排出者責任	976	30.9%
14	拡大生産者責任	324	10.3%
15	マイバッグ	2,944	93.3%
16	レジ袋の有料化	3,013	95.5%
17	ごみの有料化	2,557	81.1%
18	どれも知らない	5	0.2%
総回答数		29,501	935.4%
有効回答数		3,154	-

表 5-1-14 「だいたい意味がわかる言葉」回答状況

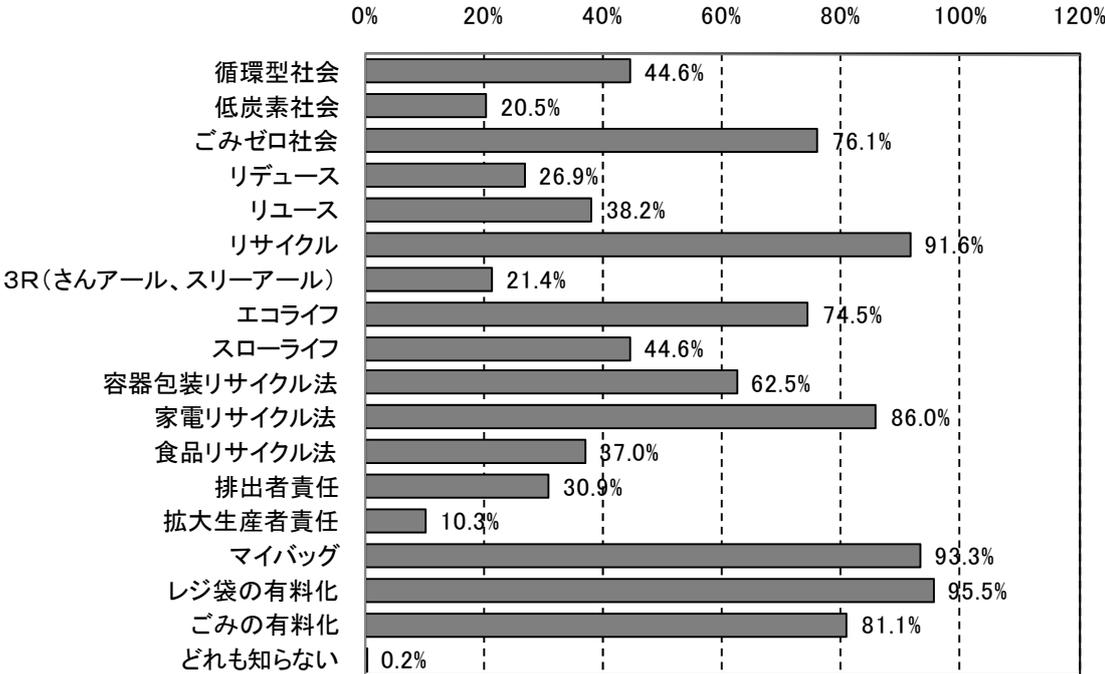


図 5-1-55 「だいたい意味がわかる言葉」回答率

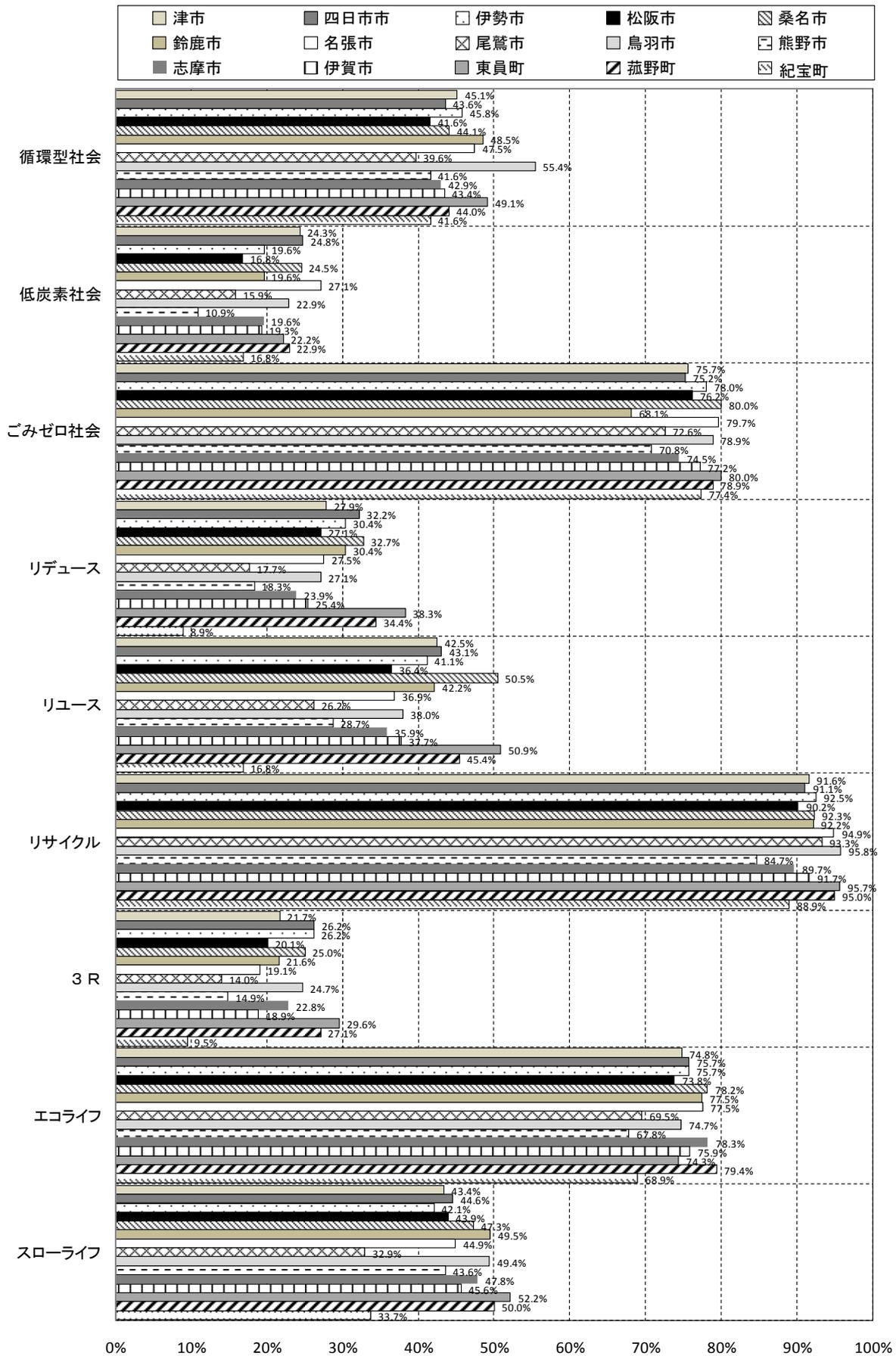


図 5-1-56 (1/2) 「だいたい意味がわかる言葉」市町別回答率

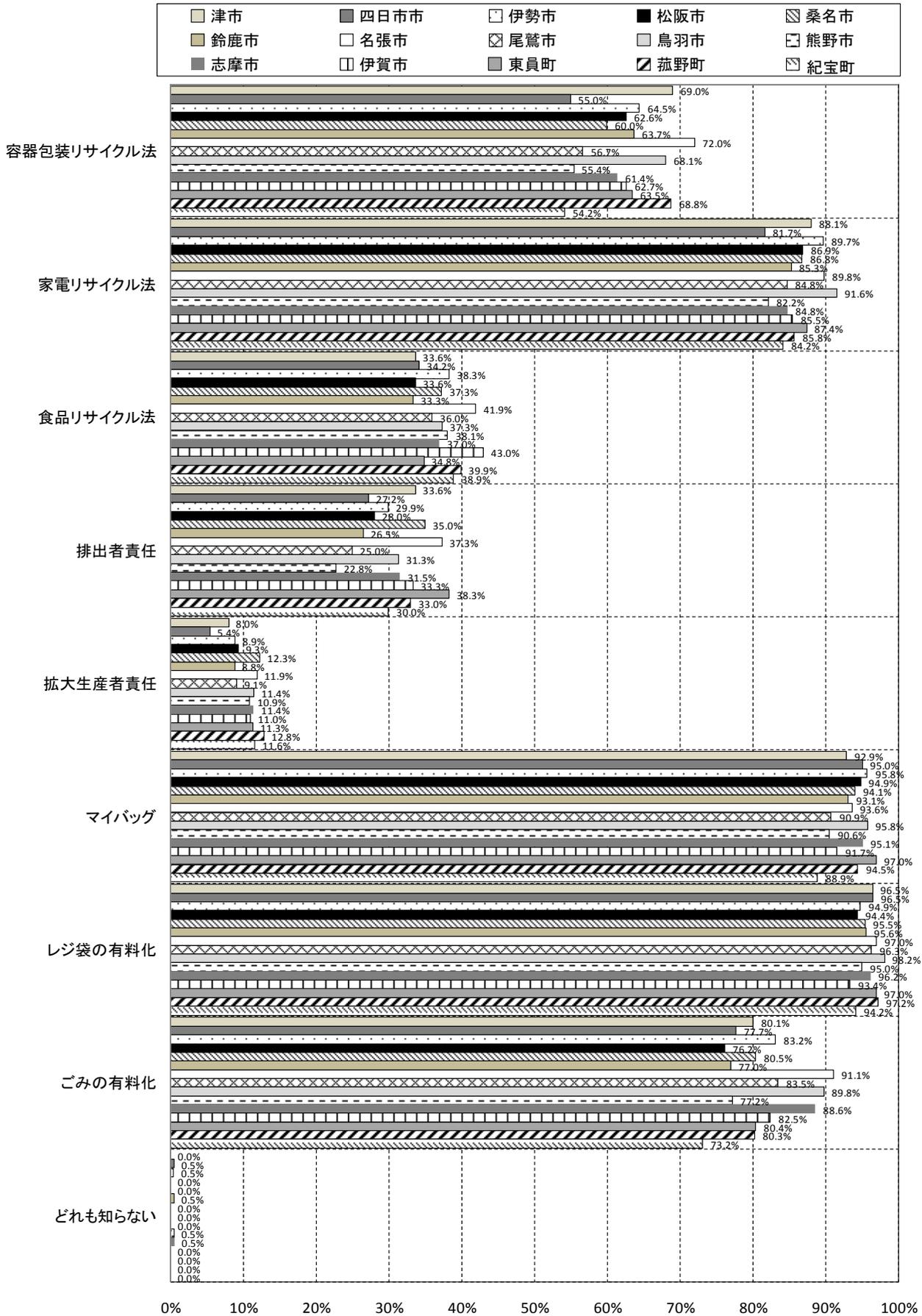


図 5-1-56 (2/2) 「だいたい意味がわかる言葉」市町別回答率

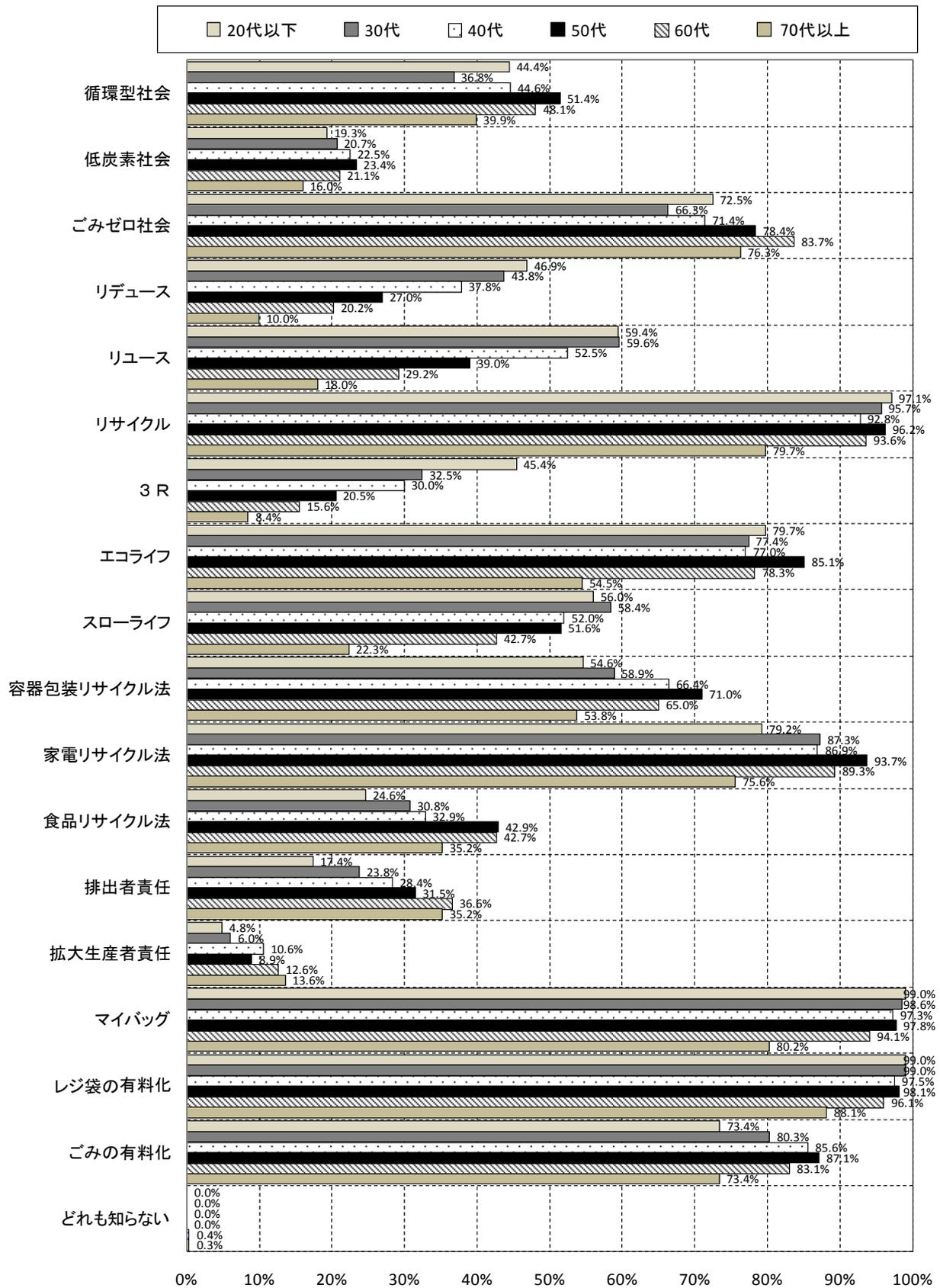


図 5-1-57 「だいたい意味がわかる言葉」年代別回答率

問 6	あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？（あてはまるものすべてに○）
-----	--

① 単純集計

「ごみ問題について知っていること」については、「野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題になっている」（83.7%）、「海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている」（80.6%）の回答率が80%より高くなっている。

市町別に見ると、これら2つの選択肢はいずれも回答率が高い。しかし、「ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対すると考えている人が多い」については、一番高い津市で81.3%に対し、紀宝町では54.2%、また「ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている」では、一番高い津市で71.7%に対し、一番低い紀宝町では34.7%と大きな差が見られる。

年代別については、いずれの選択肢についても「50代」、「60代」が高い。

分別行動別については、いずれの選択肢についても、ごみの分別に関わっている人は高い。

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている	1,817	57.6%
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対すると考えている人が多い	2,177	69.0%
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されている	1,344	42.6%
4	野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題になっている	2,641	83.7%
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの名目で、放置されている	1,225	38.8%
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている	2,542	80.6%
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしていないものがある	1,165	36.9%
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じている	1,300	41.2%
9	その他	43	1.4%
10	特に知っているものはない	56	1.8%
総回答数		14,310	453.7%
有効回答数		3,154	-

表 5-1-15 「ごみ問題について知っていること」回答状況

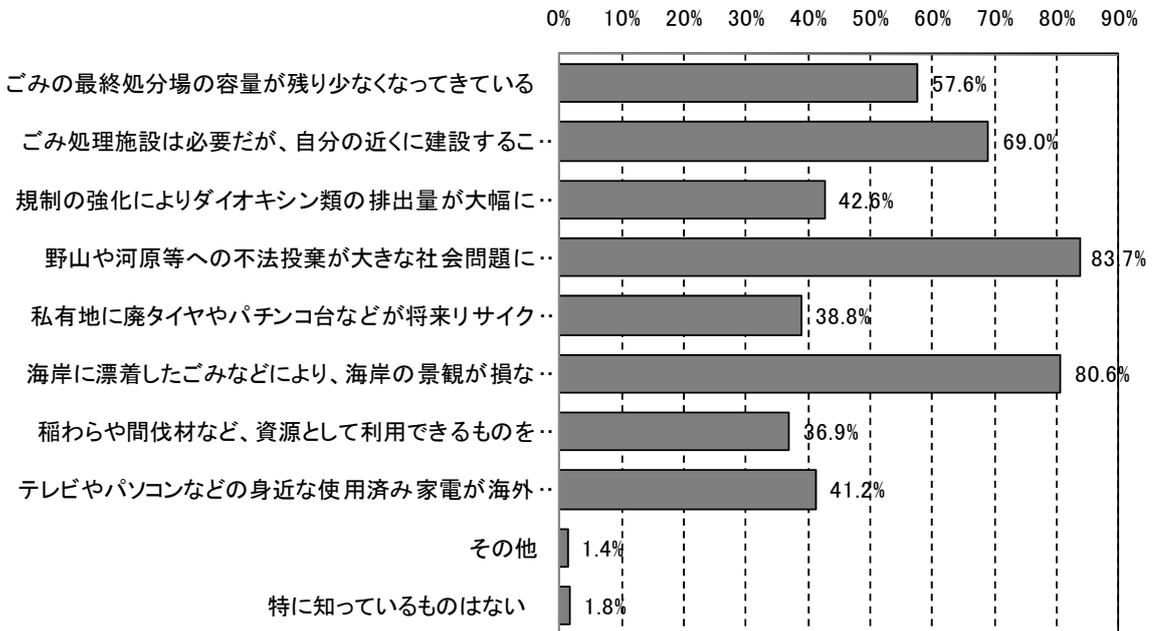


図 5-1-58 「ごみ問題について知っていること」回答率

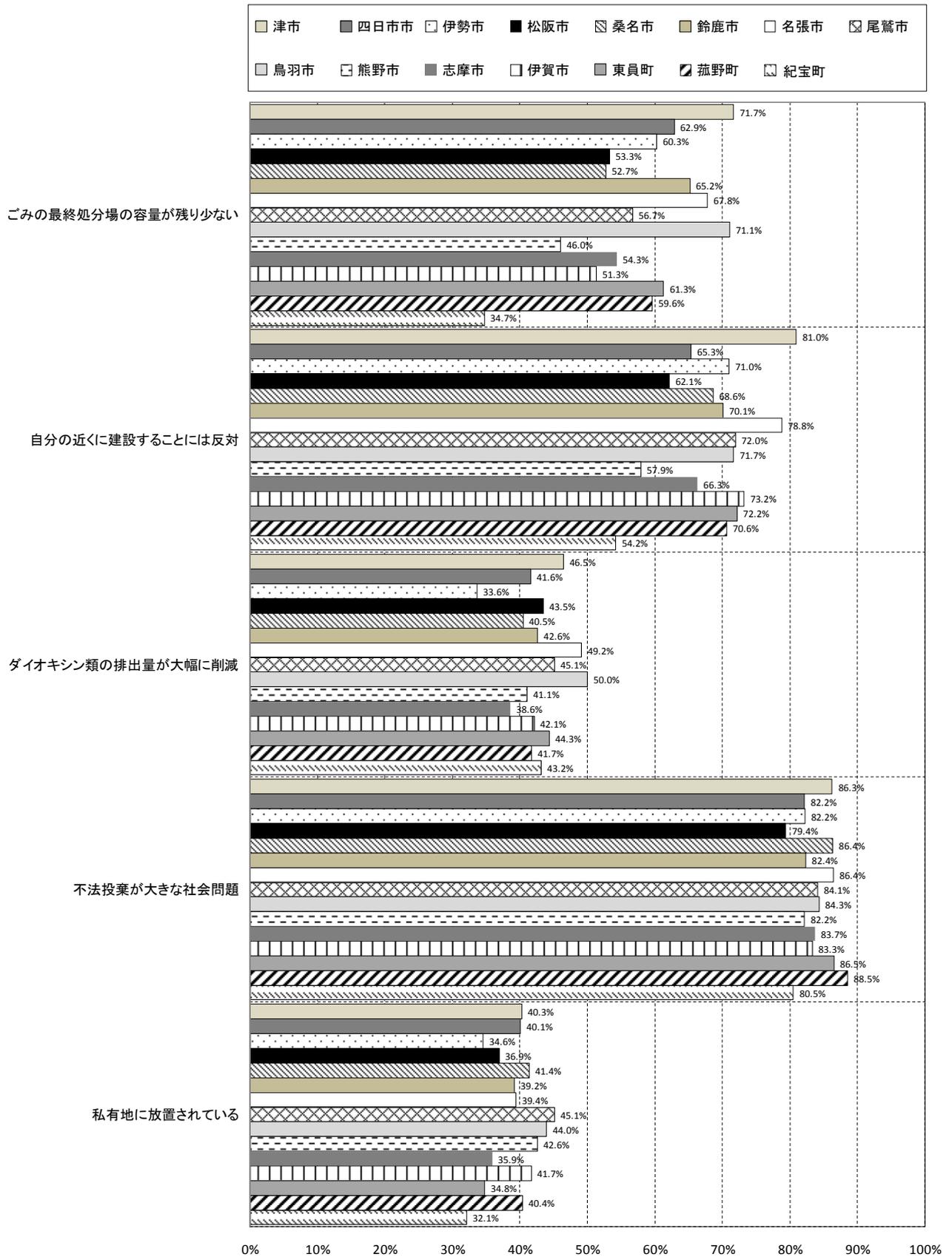


図 5-1-59 (1/2) 「ごみ問題について知っていること」市町別回答率

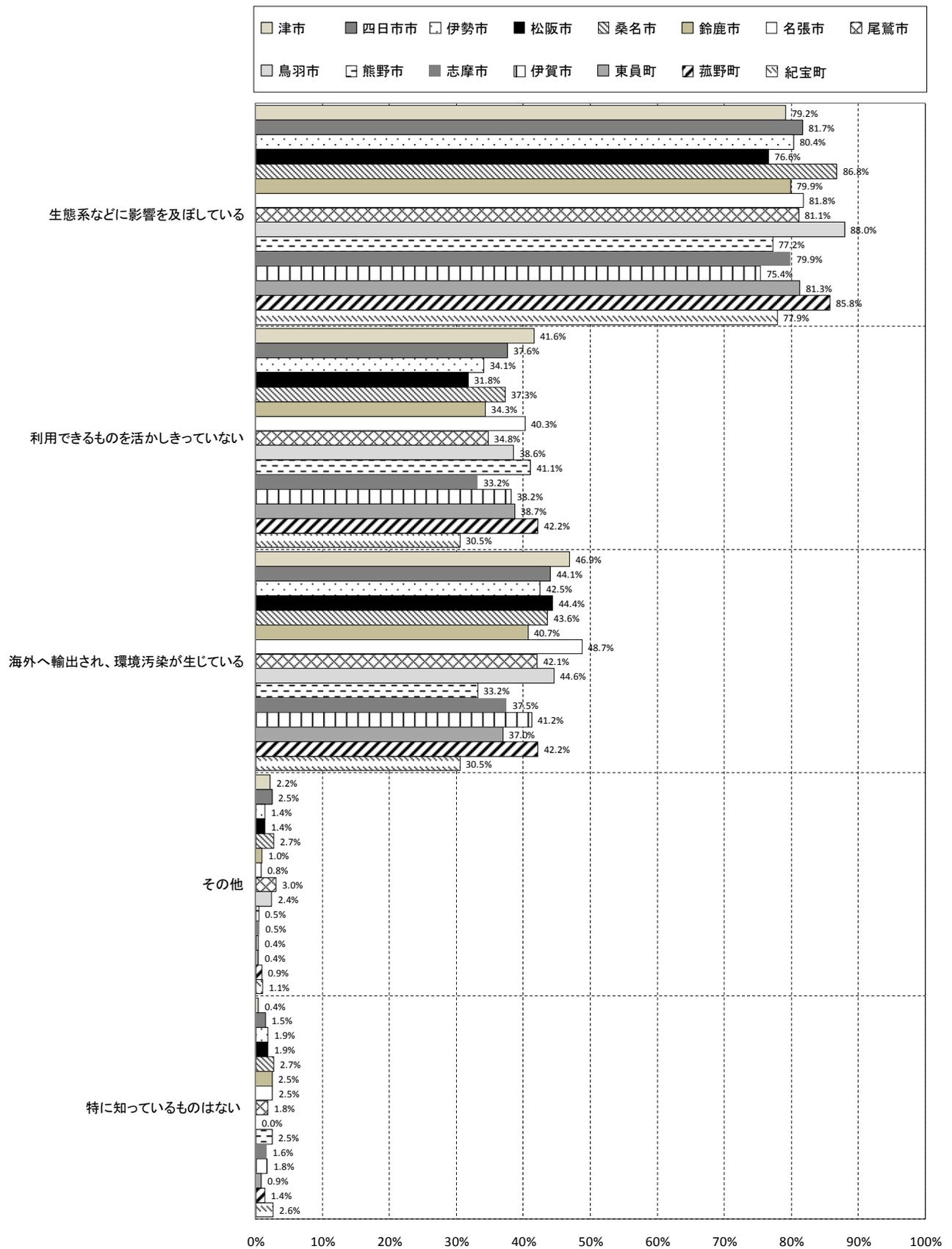


図 5-1-59 (2/2) 「ごみ問題について知っていること」市町別回答率

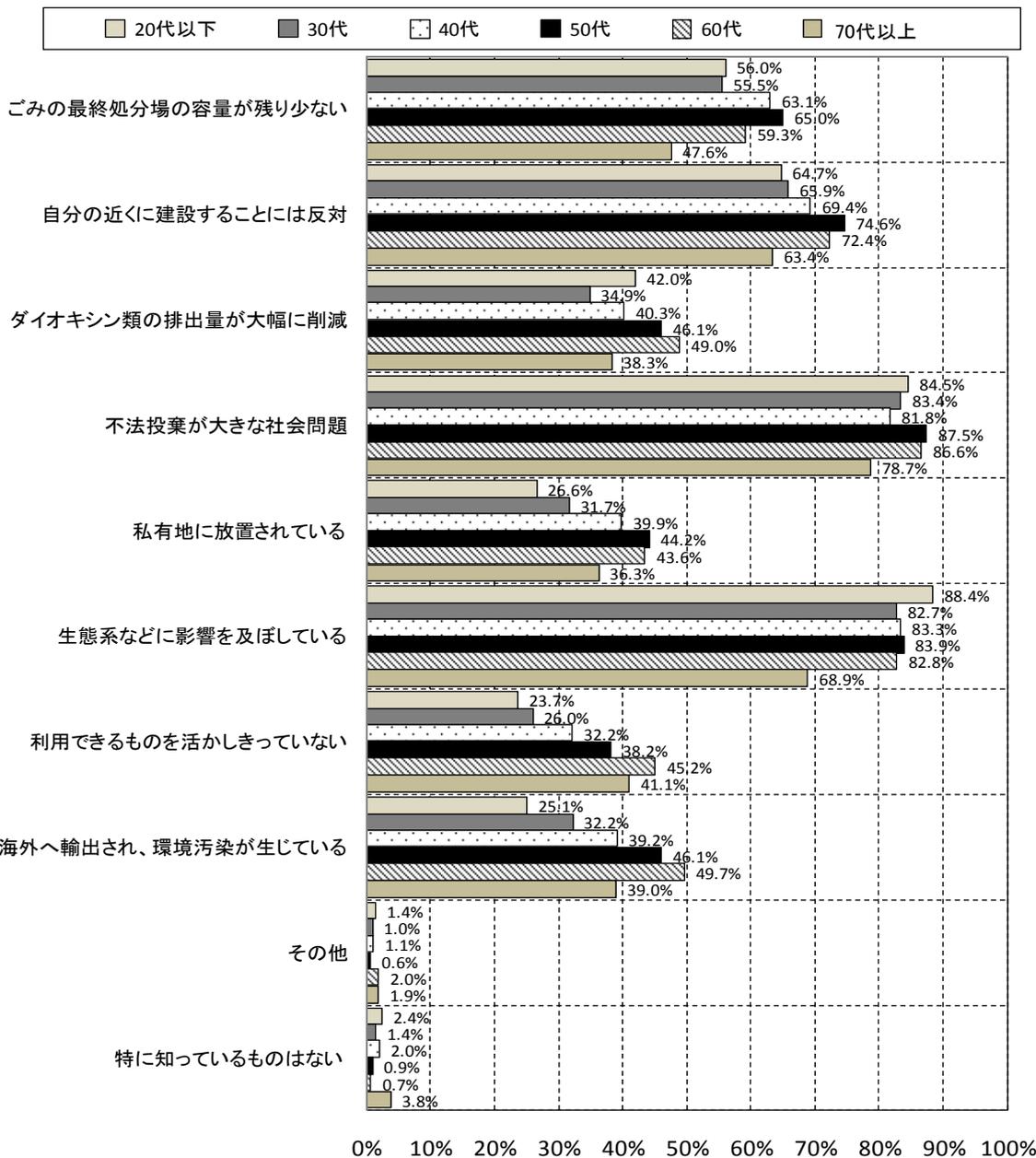


図 5-1-60 「ごみ問題について知っていること」年代別回答率

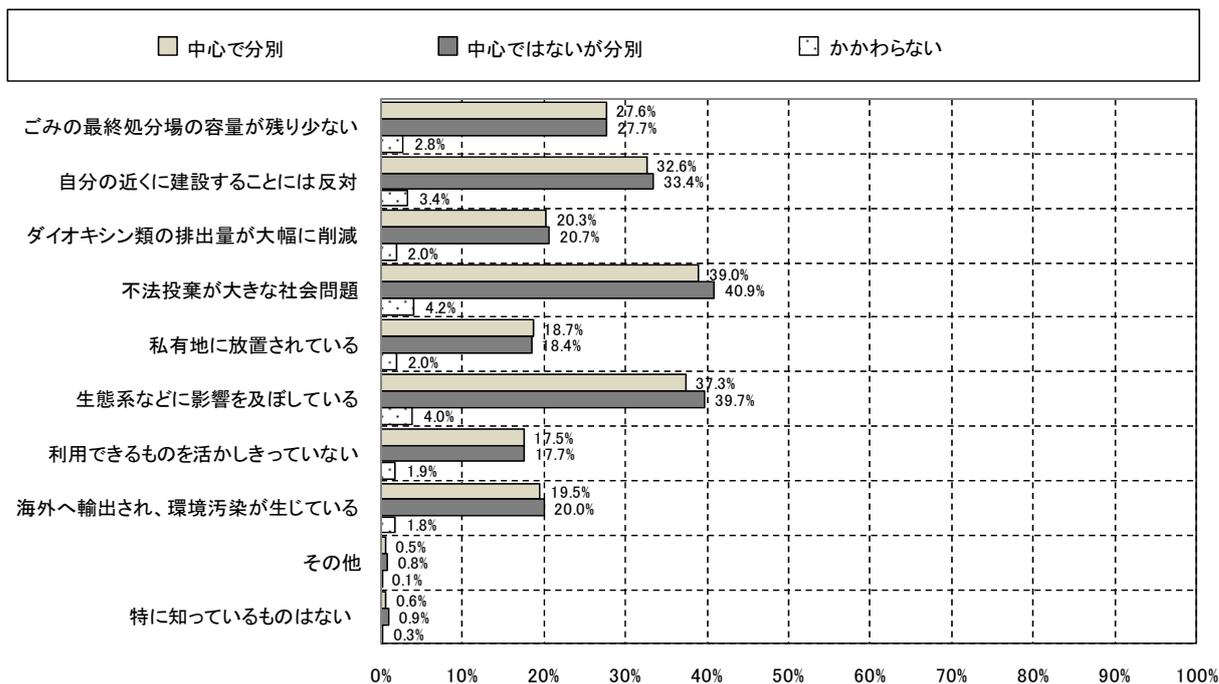


図 5-1-61 「ごみ問題について知っていること」分別行動別回答率

問 7	使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？（〇は1つ）
-----	--

「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」に対し、「どちらかという、将来のことを考えると『このままでいいのか』という疑問を感じる」が86.9%となっている。市町別では、上記が78.9%から94.0%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記が82.1%から92.0%であり、年代が高くなるほど高くなる傾向がみられる。また、「特に疑問は感じていない」が20代以下では9.2%と他の年代より高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	どちらかという、便利で暮らしやすく、特に疑問は感じていない	141	4.5%
2	どちらかという、将来のことを考えると「このままでいいのか」という疑問を感じる	2,741	86.9%
3	よくわからない	226	7.2%
99	無回答	46	1.5%
有効回答数		3,154	100.0%

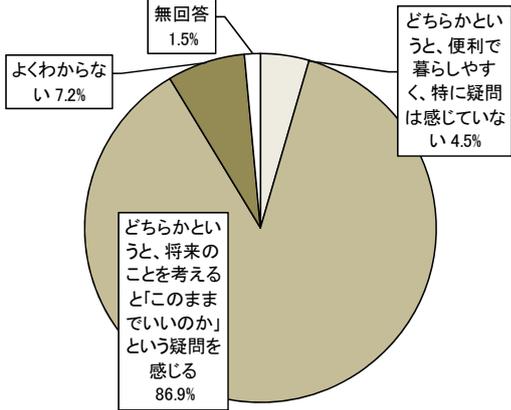


表 5-1-16 「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答状況

図 5-1-62 「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答率

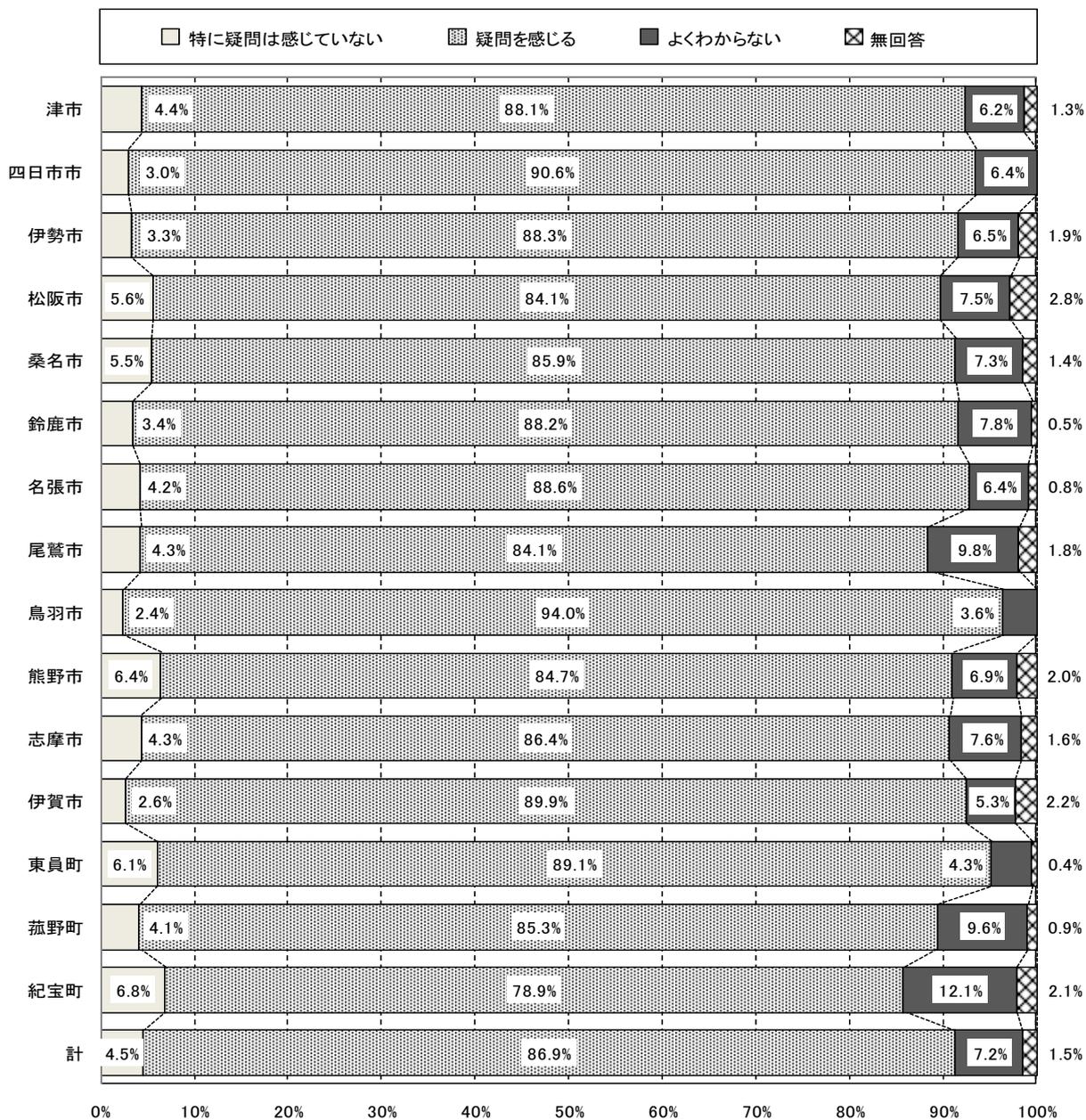


図 5-1-63 「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」市町別回答率

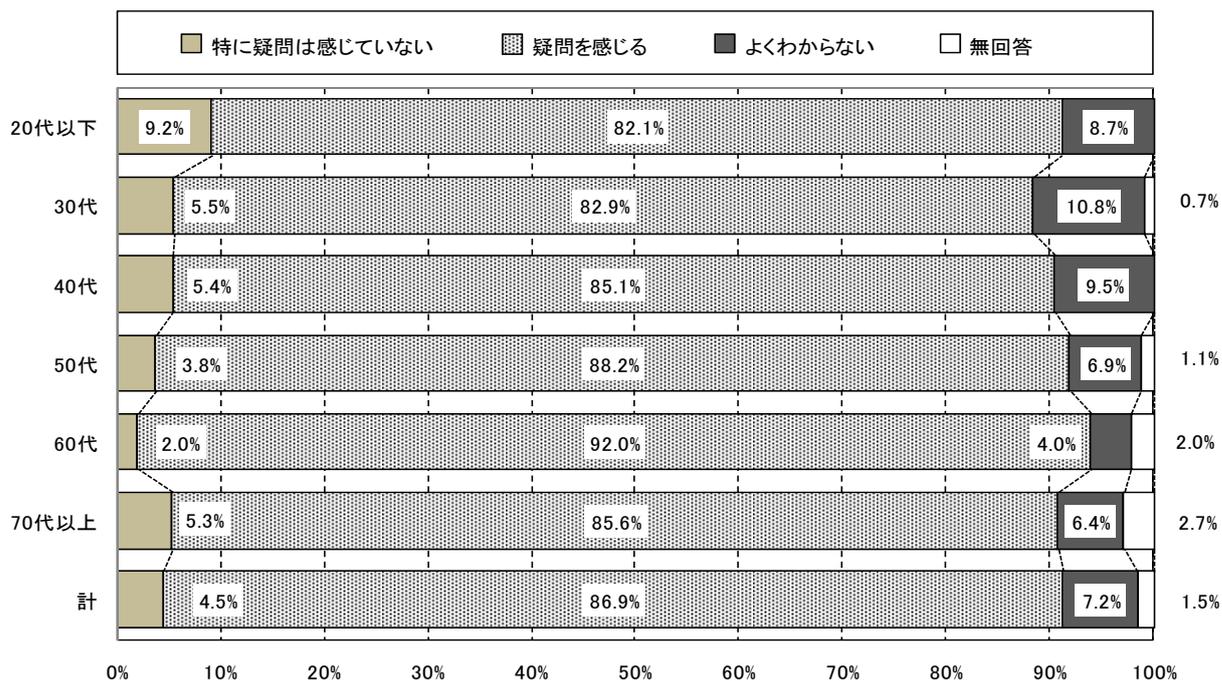


図 5-1-64 「現代の社会をどう感じているか」年代別回答率

問 8	ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？（○は1つ）
-----	---

「手間やコストをかけてでもごみは有効利用すべきか」については、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が 91.2%となっており、「ごみは有効利用すべき」という意識が高いと考えられる。

市町別では、上記の計が 87.6%から 95.6%であり、大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が 86.5%から 92.3%であり、「とてもそう思う」では年代が高いほど高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,474	46.7%
2	少しそう思う	1,402	44.5%
3	あまりそうは思わない	196	6.2%
4	まったくそうは思わない	25	0.8%
5	無回答	57	1.8%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-1-17 「ごみは有効利用すべきか」回答状況

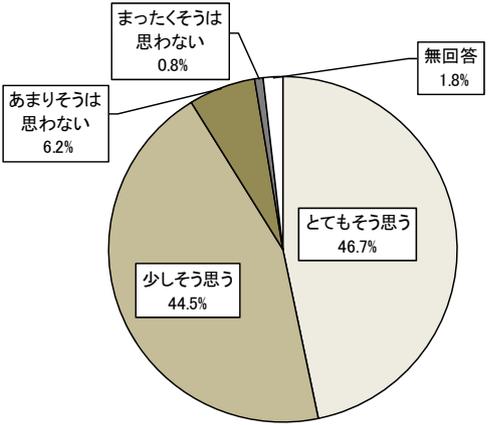


図 5-1-65 「ごみは有効利用すべきか」回答率

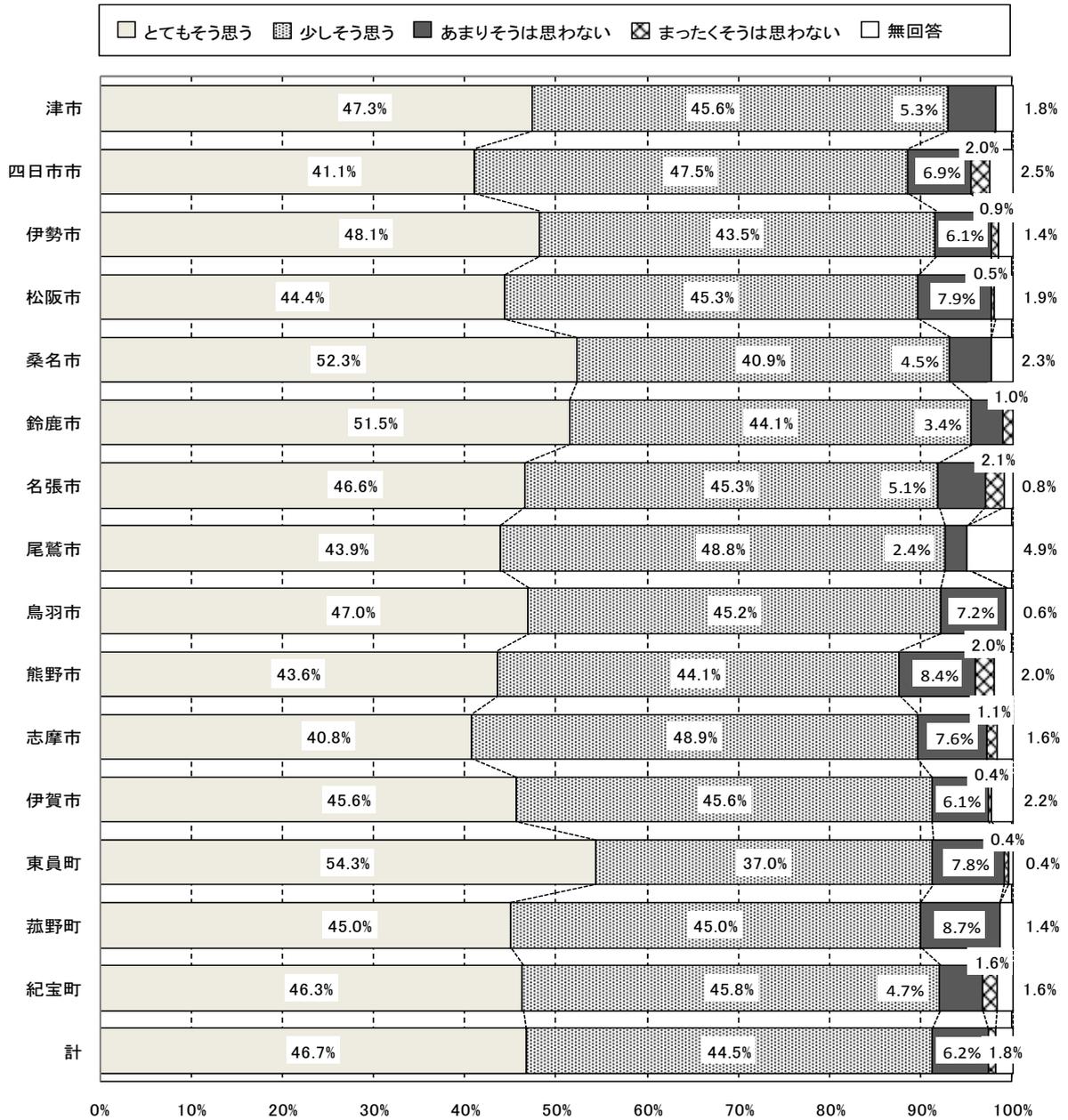


図 5-1-66 「ごみは有効利用すべきか」市町別回答率

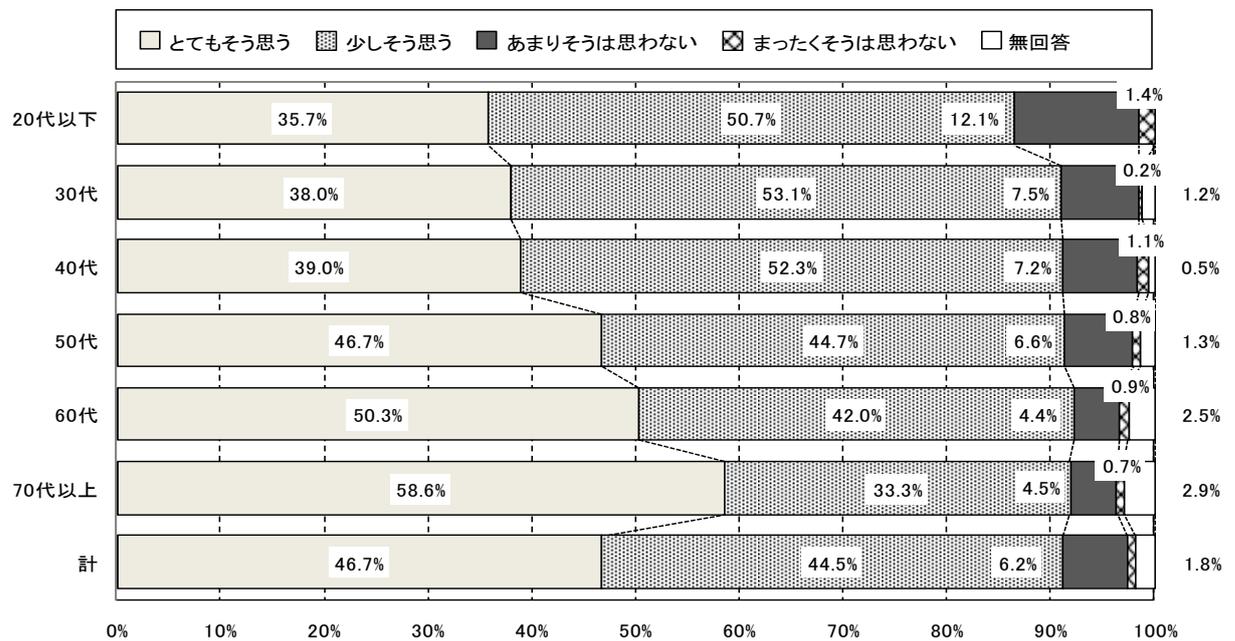


図 5-1-67 「ごみは有効利用すべきか」年代別回答率

## 5-2 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組について

問 9 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？（○は1つずつ）

「ごみを減らす取組の中で最も大切なこと」については、「ごみそのものの発生を減らすこと」の割合が57.4%で最も高い。

市町別では、上記の計が、51.9%から63.7%であり、大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が、46.6%から62.7%であり、「20代以下」と「70代以上」では50%程度であるが、それ以外の世代は60%程度となっている。

また、「ごみを減らす取組の中で次に大切なこと」については、「ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること」が38.4%と高く、次いで「まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと」の35.3%となっている。

「ごみそのものの発生を減らすこと」という意識は比較的高いと考えられる。

### ① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみそのものの発生を減らすこと	1,811	57.4%
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと	451	14.3%
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること	791	25.1%
4	無回答	101	3.2%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-2-1 「取組の中で最も大切なこと」回答状況

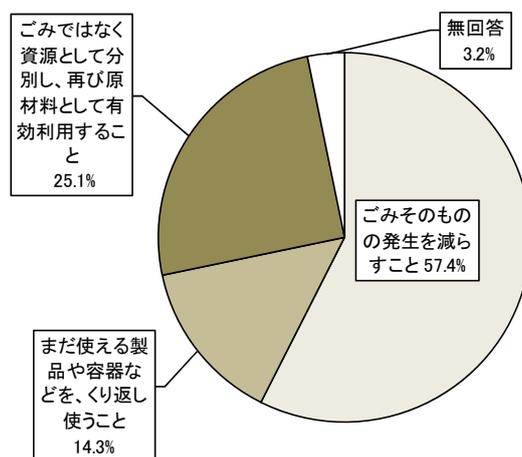


図 5-2-1 「取組の中で最も大切なこと」回答率

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみそのものの発生を減らすこと	481	15.3%
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと	1,114	35.3%
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること	1,211	38.4%
4	無回答	348	11.0%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-2-2 「取組の中で次に大切なこと」回答状況

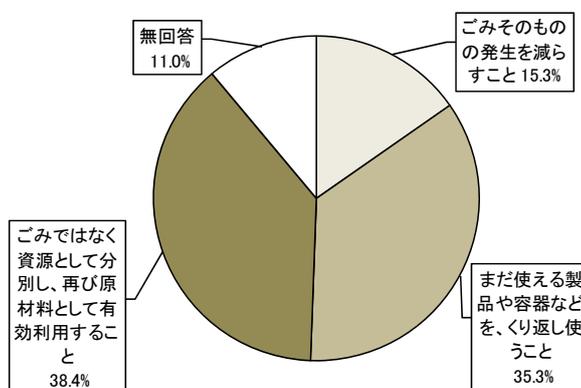


図 5-2-2 「取組の中で次に大切なこと」回答率

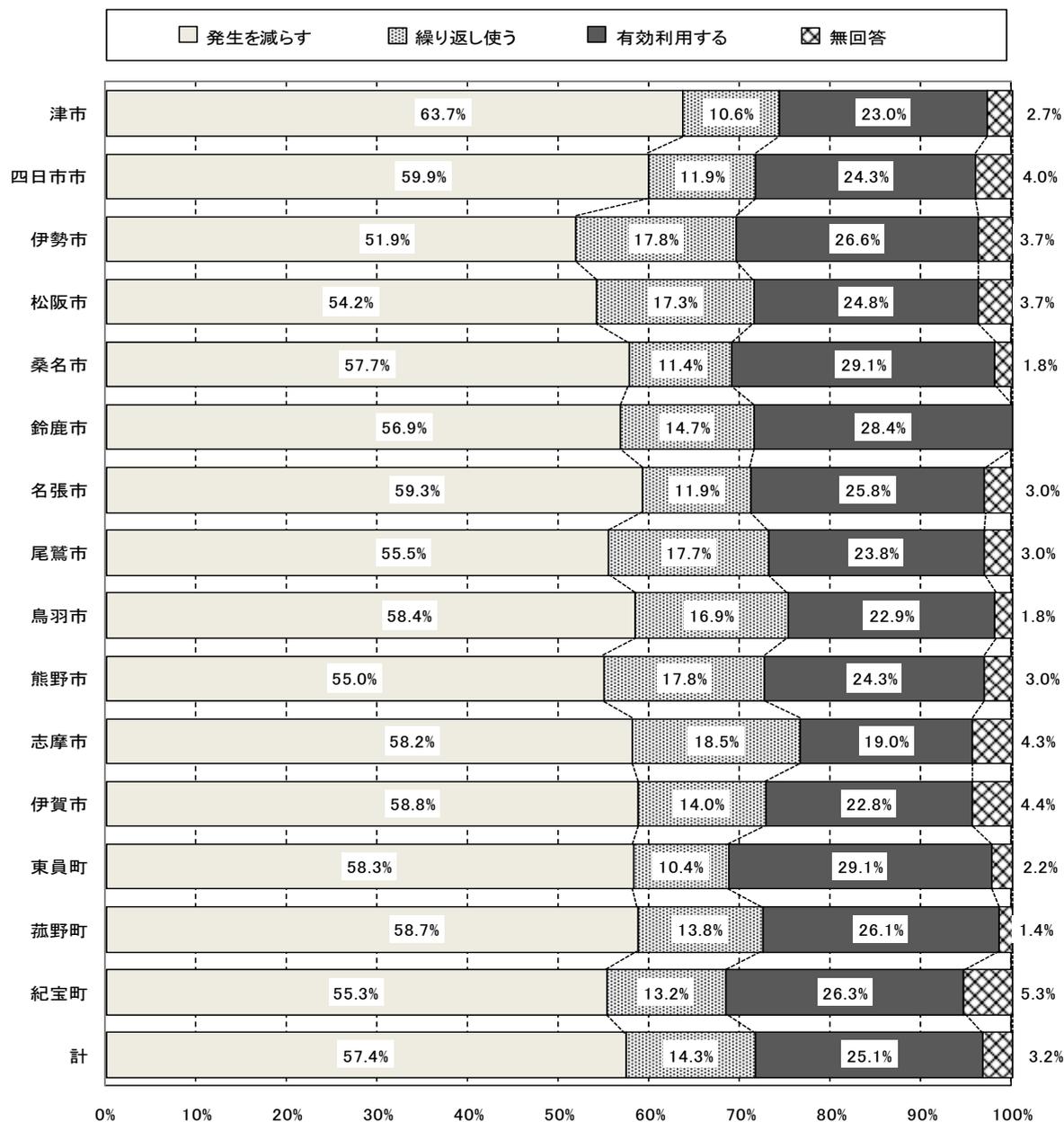


図 5-2-3 「取組の中で最も大切なこと」市町別回答率

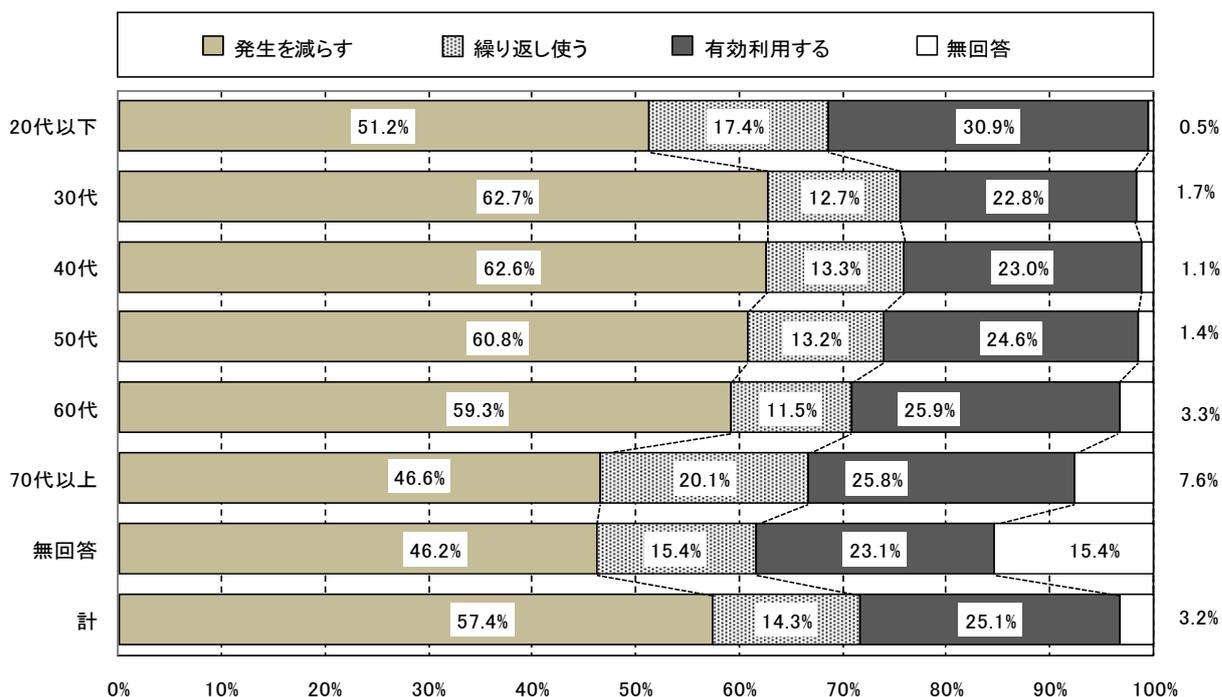


図 5-2-4 「取組の中で最も大切なこと」年代別回答率

問 10	あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）
------	--

「資源ごみとして市町の収集に出している品目」については、「アルミ缶」（86.0%）、「空きびん」（86.0%）、「ペットボトル」（84.6%）、「新聞」（81.4%）、「雑誌」（80.6%）の回答率が80%より高くなっている。

市町別について見ると、上記のいずれの品目も数値の差はあるものの高い。その一方で、牛乳パック、古布や衣類、食品トレイ、蛍光管及び電池類では、市町間での差が大きい。また、伊勢市、名張市、菟野町ではすべての品目で6割以上となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	2,567	81.4%
2	雑誌	2,542	80.6%
3	牛乳パック	1,811	57.4%
4	古布や衣類	2,133	67.6%
5	食品トレイ	1,863	59.1%
6	ペットボトル	2,669	84.6%
7	アルミ缶	2,711	86.0%
8	スチール缶	2,464	78.1%
9	空きびん	2,713	86.0%
10	蛍光管	1,716	54.4%
11	電池類	2,066	65.5%
12	あてはまるものなし	36	1.1%
総回答数		25,291	801.9%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-2-3 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」回答状況

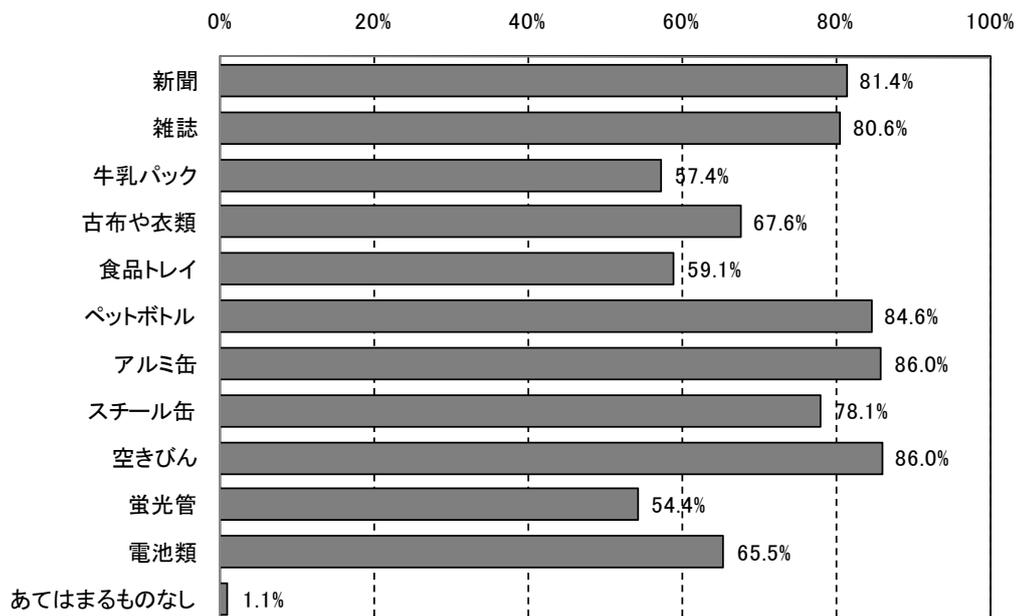


図 5-2-5 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」回答率

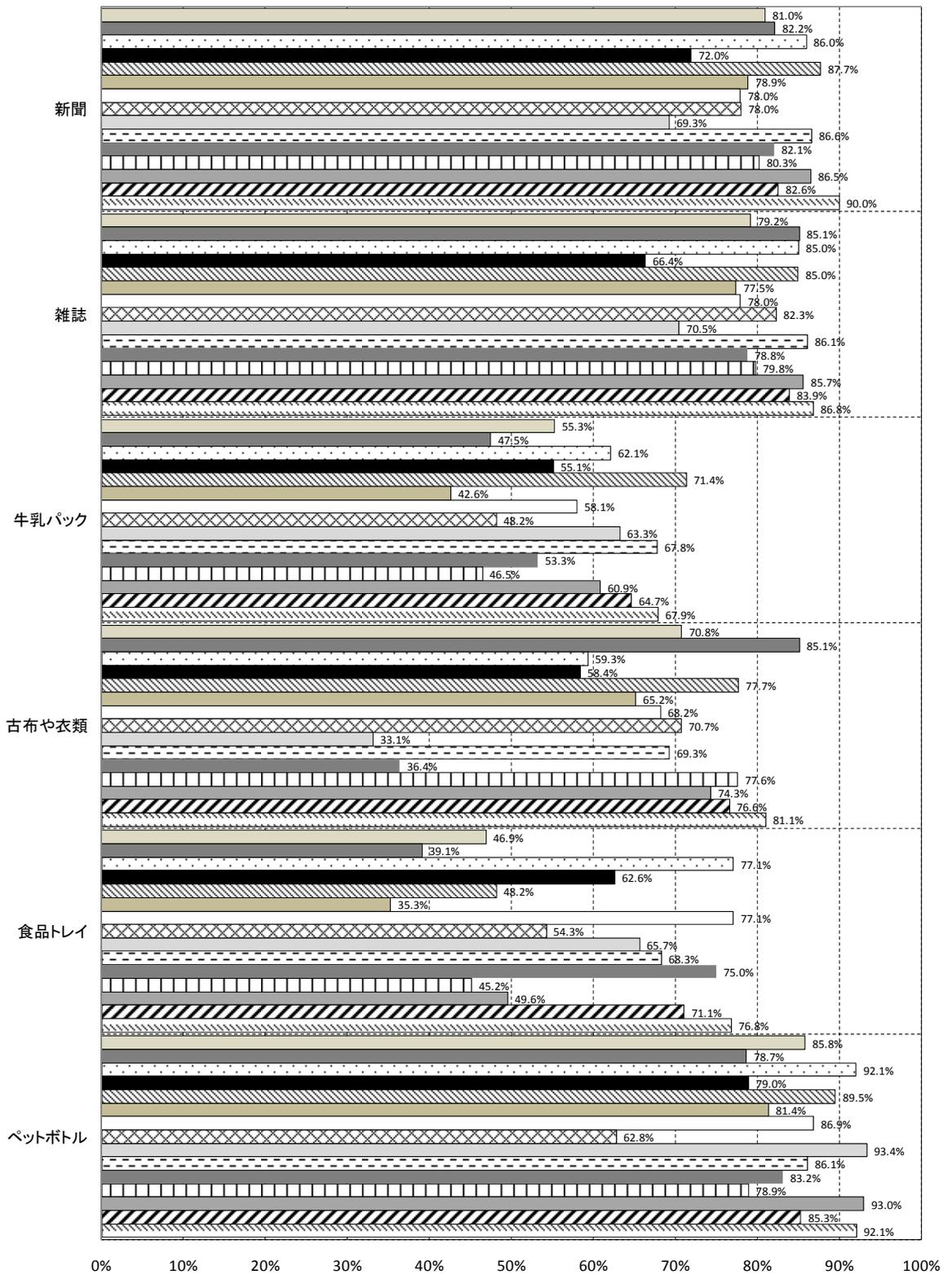


図 5-2-6 (1/2) 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」市町別回答率

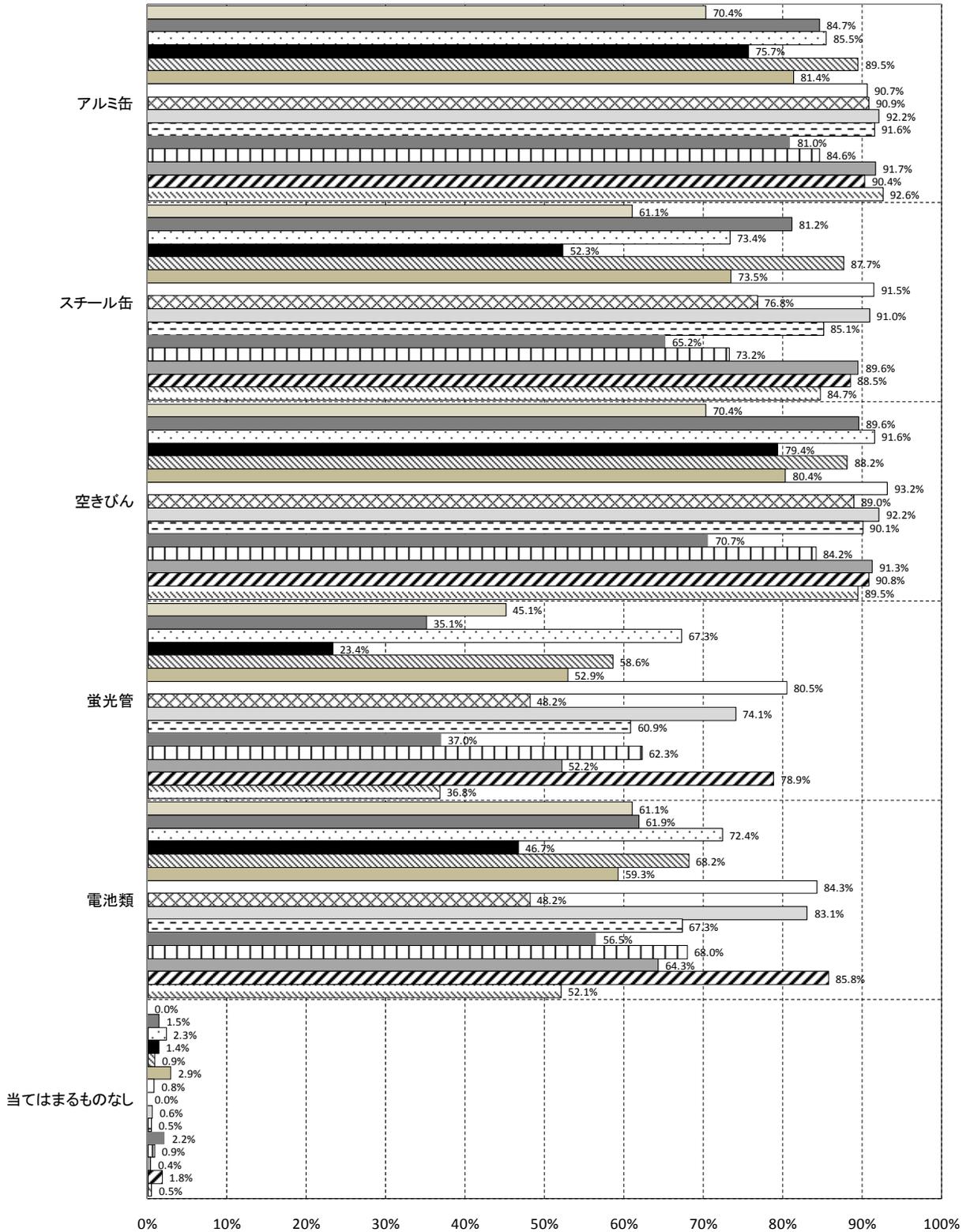


図 5-2-6 (2/2) 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」市町別回答率

問 11	あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）
------	---

「お店で回収してもらっている品目」については、「食品トレイ」（41.2%）、「ペットボトル」（32.6%）の回答率が30%より高くなっている。

市町別では、ほとんどの市町で上記2品目の割合が高くなっているが、数値としてはかなり差がある。尾鷲市では、上記2品目に加え、「蛍光管」、「電池類」についても5割を超えており、「あてはまるものなし」も7.9%と市町間で一番低い。一方、紀宝町では、上記2品目も含めていずれも2割に満たず、「あてはまるものなし」が53.2%と市町間で一番高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	288	9.1%
2	雑誌	226	7.2%
3	牛乳パック	899	28.5%
4	古布や衣類	134	4.2%
5	食品トレイ	1298	41.2%
6	ペットボトル	1029	32.6%
7	アルミ缶	619	19.6%
8	スチール缶	321	10.2%
9	空きびん	355	11.3%
10	蛍光管	288	9.1%
11	電池類	453	14.4%
12	あてはまるものなし	943	29.9%
総回答数		6,853	217.3%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-2-4 「お店で回収してもらっている品目」回答状況

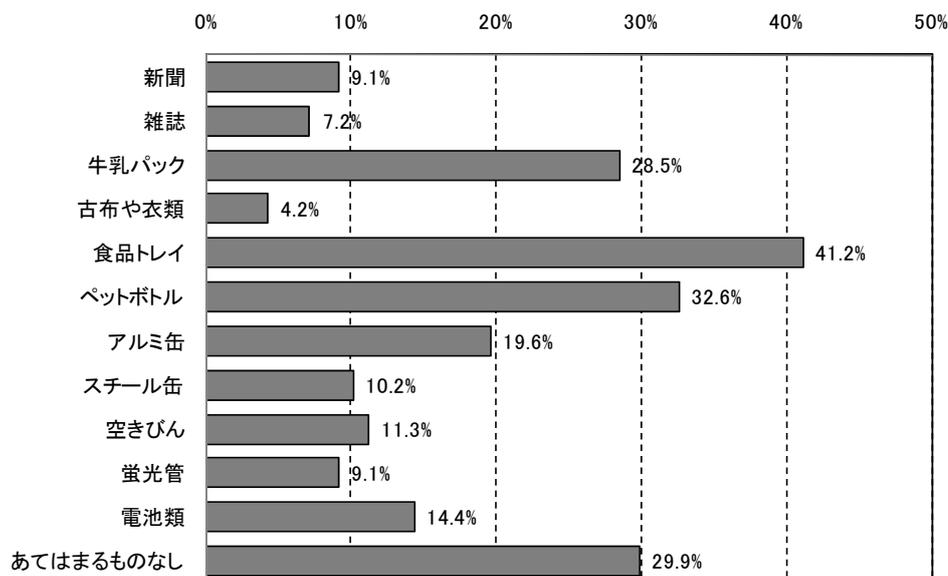


図 5-2-7 「お店で回収してもらっている品目」回答率

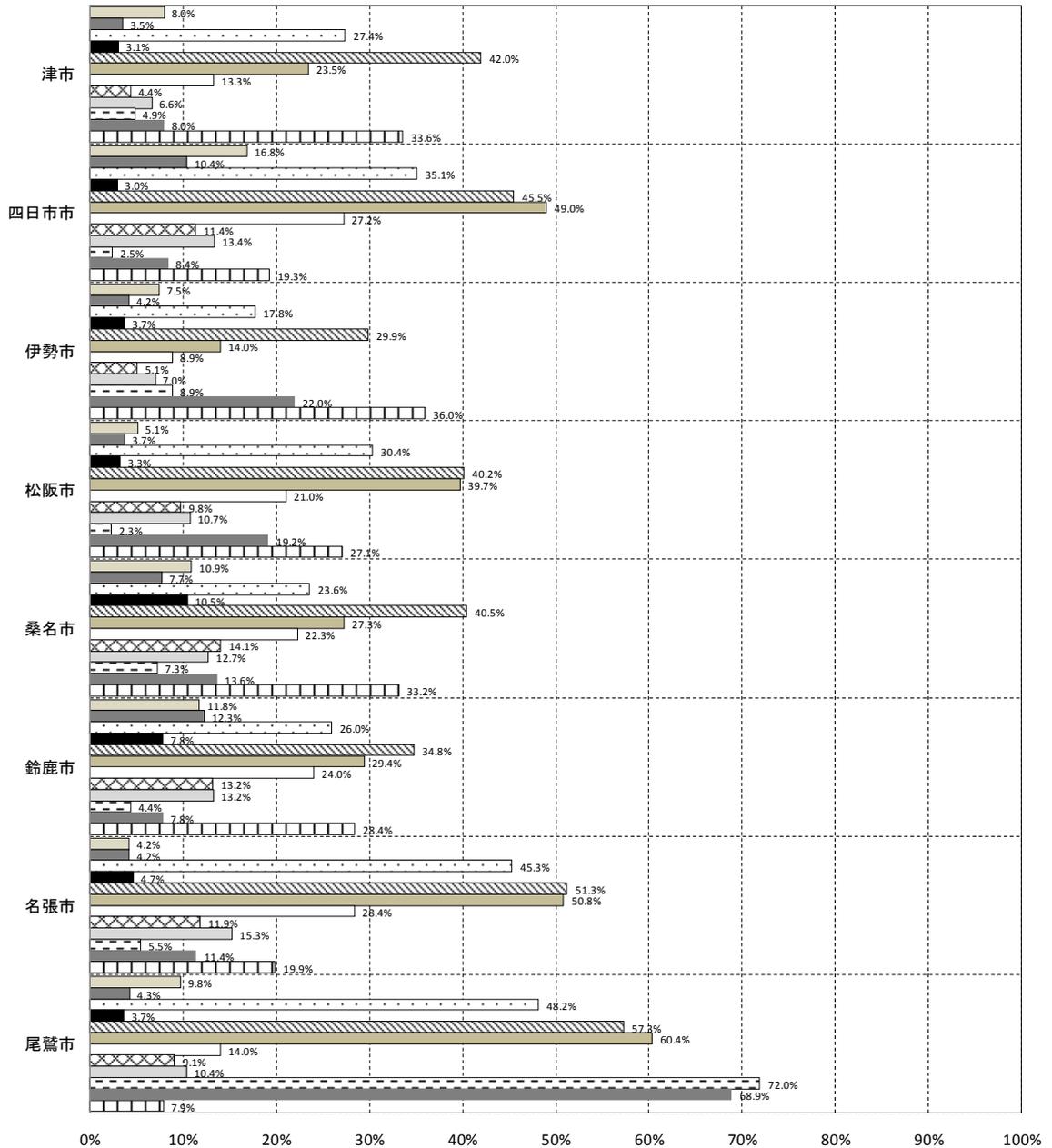


図 5-2-8 (1/2) 「お店で回収してもらっている品目」市町別回答率

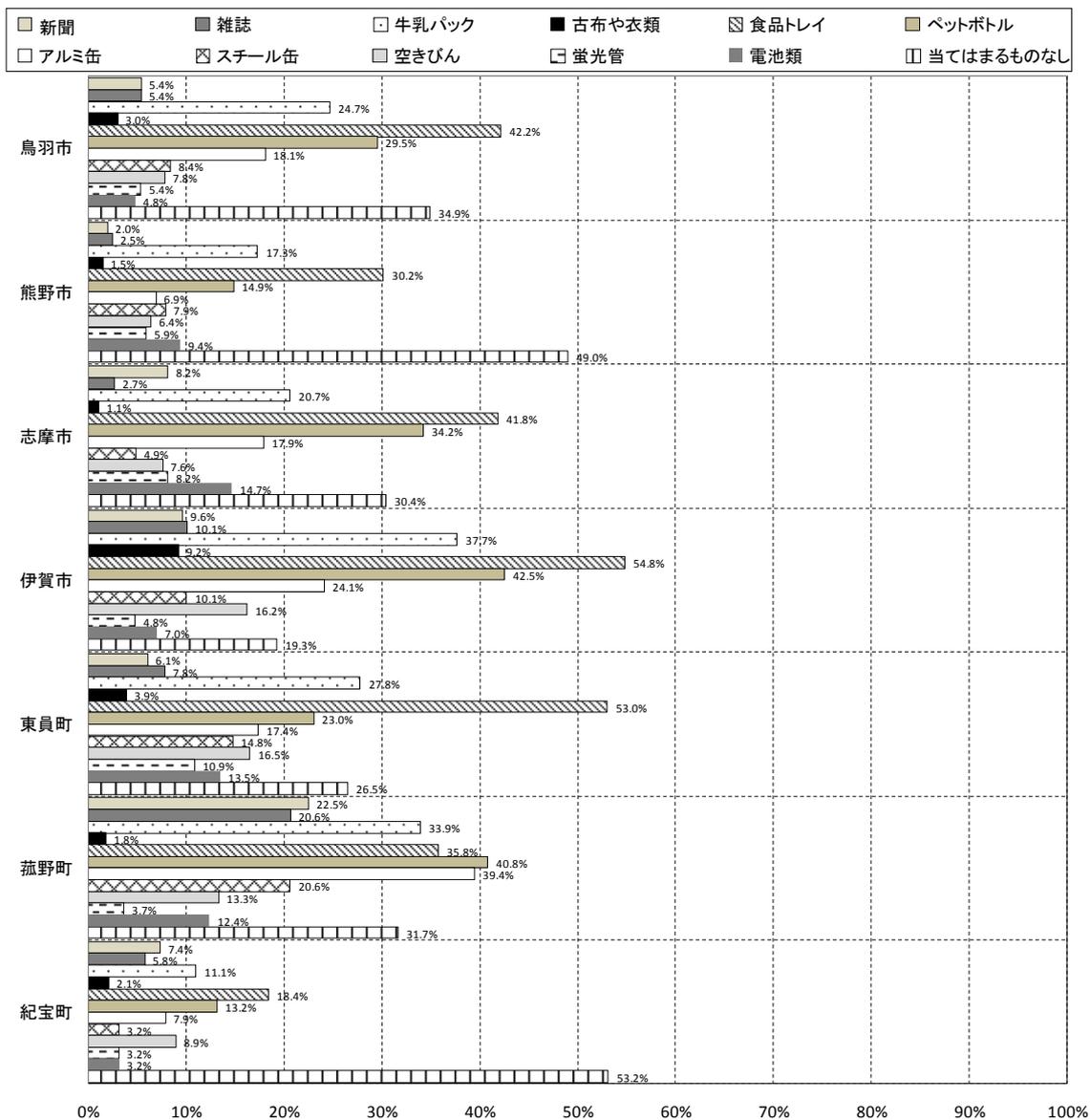


図 5-2-8 (2/2) 「お店で回収してもらっている品目」市町別回答率

問 12	あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）
------	---

地域の廃品回収（集団回収）に出している品目について、「新聞」（62.1%）、「雑誌」（56.9%）の回答率が50%より高くなっている。  
市町別に見ると上記2品目はいずれの市町でも高い割合となっているが、最も高い名張市と低い紀宝町では倍以上の開きがあるなど、市町によってかなり差がある。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	1,958	62.1%
2	雑誌	1,794	56.9%
3	牛乳パック	765	24.3%
4	古布や衣類	1170	37.1%
5	食品トレイ	580	18.4%
6	ペットボトル	969	30.7%
7	アルミ缶	1367	43.3%
8	スチール缶	967	30.7%
9	空きびん	1140	36.1%
10	蛍光管	675	21.4%
11	電池類	715	22.7%
12	あてはまるものなし	696	22.1%
総回答数		6,853	405.7%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-2-5 「廃品回収に出している品目」回答状況

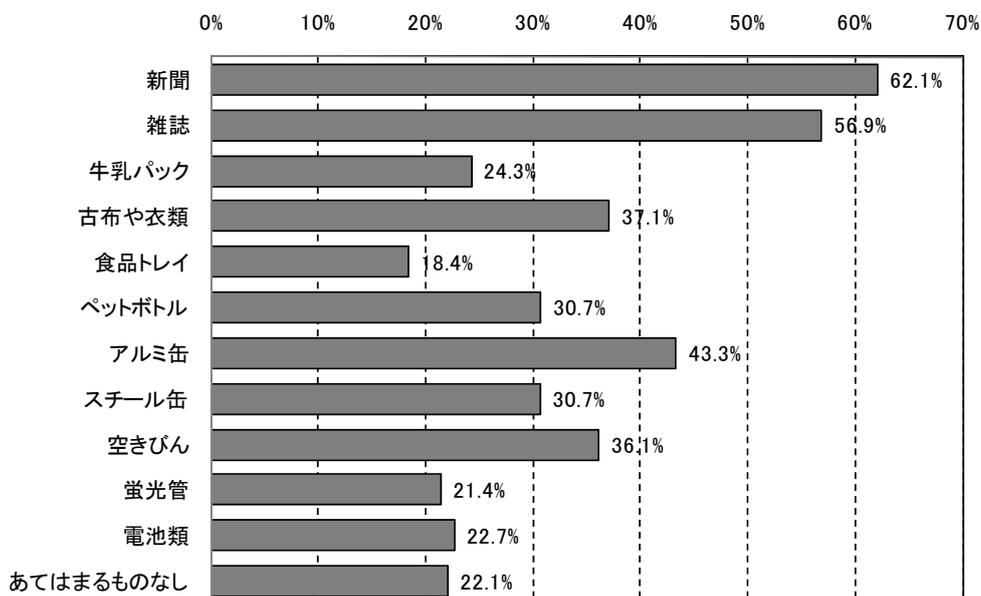


図 5-2-9 「廃品回収に出している品目」回答率

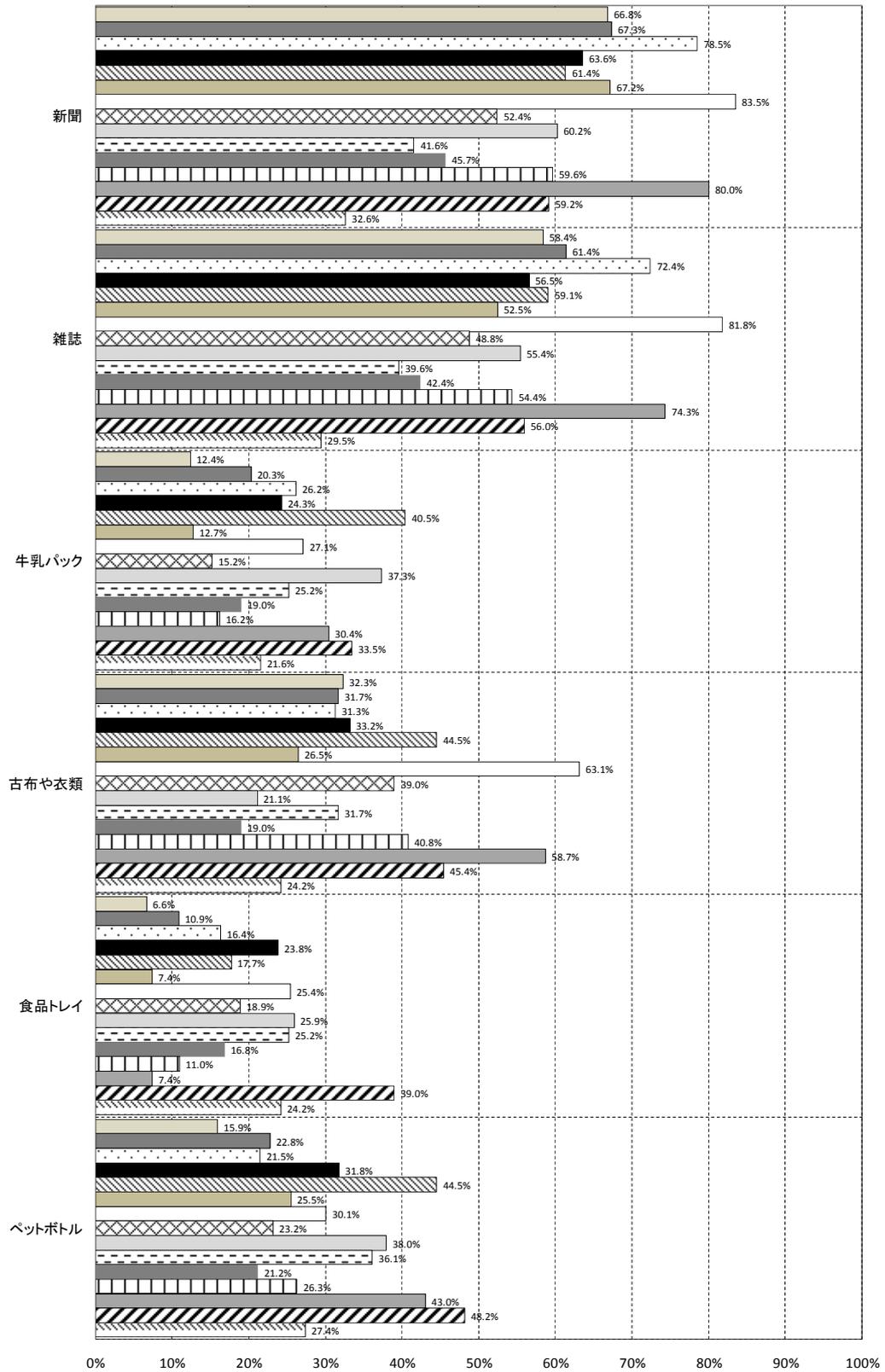


図 5-2-10 (1/2) 「廃品回収に出している品目」市町別回答率

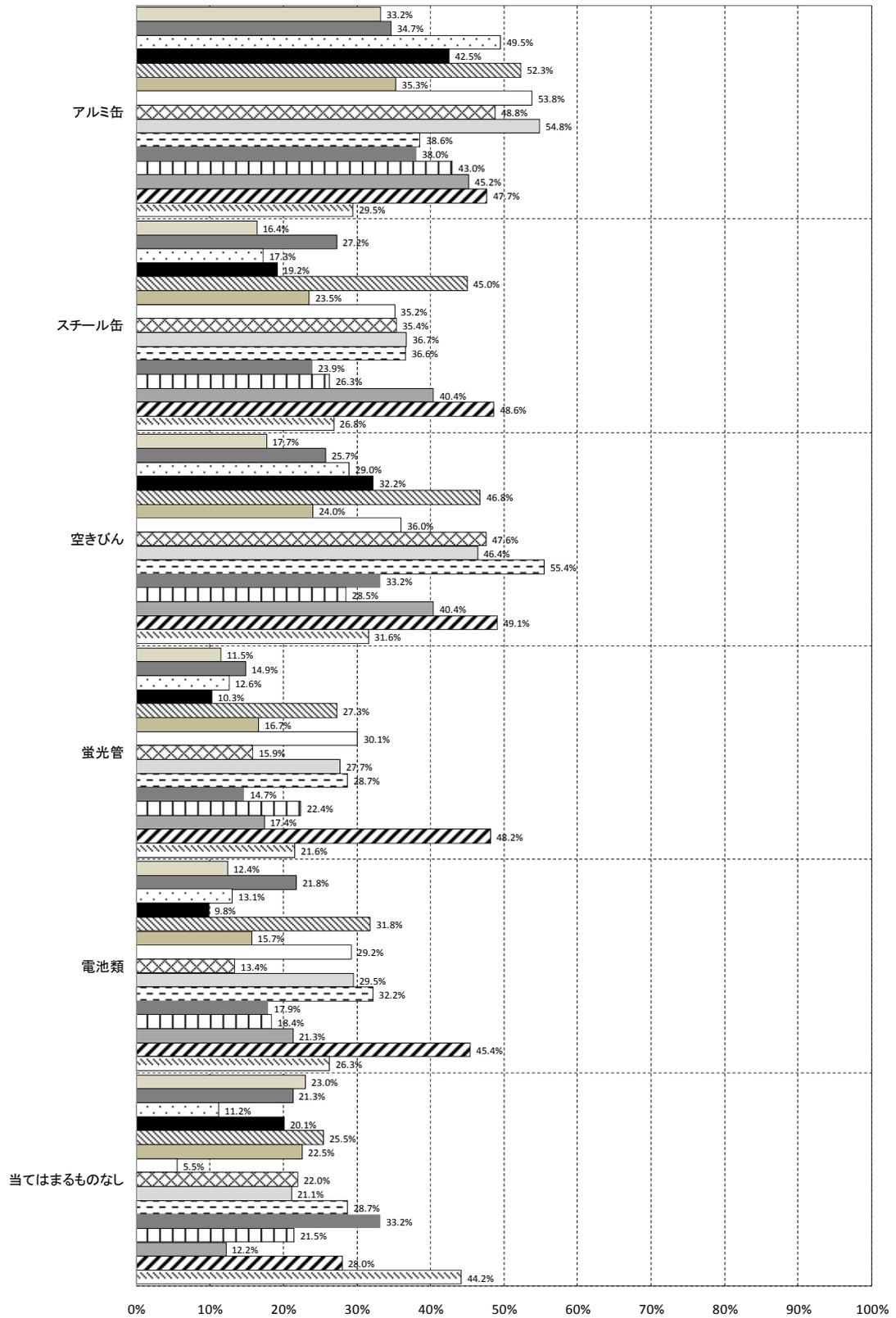


図 5-2-10 (2/2) 「廃品回収に出している品目」市町別回答率

問 13 あなたは、分別したごみがあなただの市町でどのように処理・リサイクルされるかご存知ですか？（〇は1つ）

「ごみの処理・リサイクルの仕方」については、「あまり知らない」、「まったく知らない」、の計で61.6%となっている。  
 市町別では、上記の計が47.6%から69.8%であり、市町により差が生じている。また、「紀宝町」、「熊野市」及び「鳥羽市」では「知っている」が比較的高い。  
 年代別では、上記の計が46.0%から79.2%であり、年代が低いほど高い。  
 分別行動別では、上記の計が60.9%から74.9%であり、分別にかかわらないほど高く、「まったく知らない」が41.0%と非常に高い。

① 単純集計

番号		回答数	回答率
1	知っている	348	11.0%
2	少し知っている	817	25.9%
3	あまり知らない	1195	37.9%
4	まったく知らない	747	23.7%
5	無回答	47	1.5%
有効回答数		3,154	100.0%

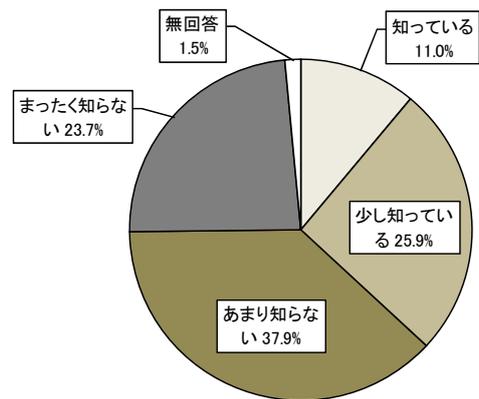


表 5-2-6 「ごみの処理・リサイクルの仕方」回答状況

図 5-2-11 「ごみの処理・リサイクルの仕方」回答率

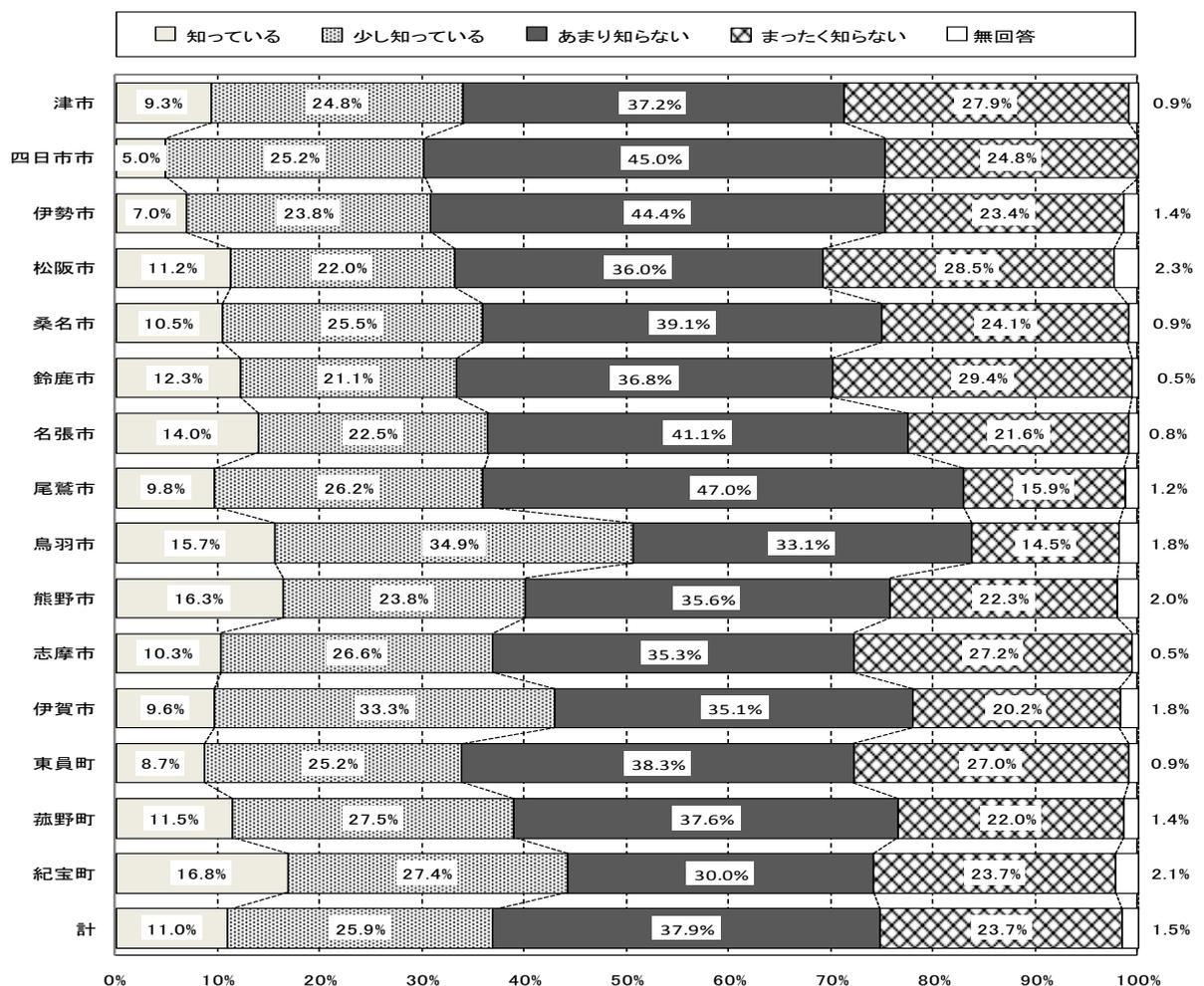


図 5-2-12 「ごみの処理・リサイクルの仕方」市町別回答率

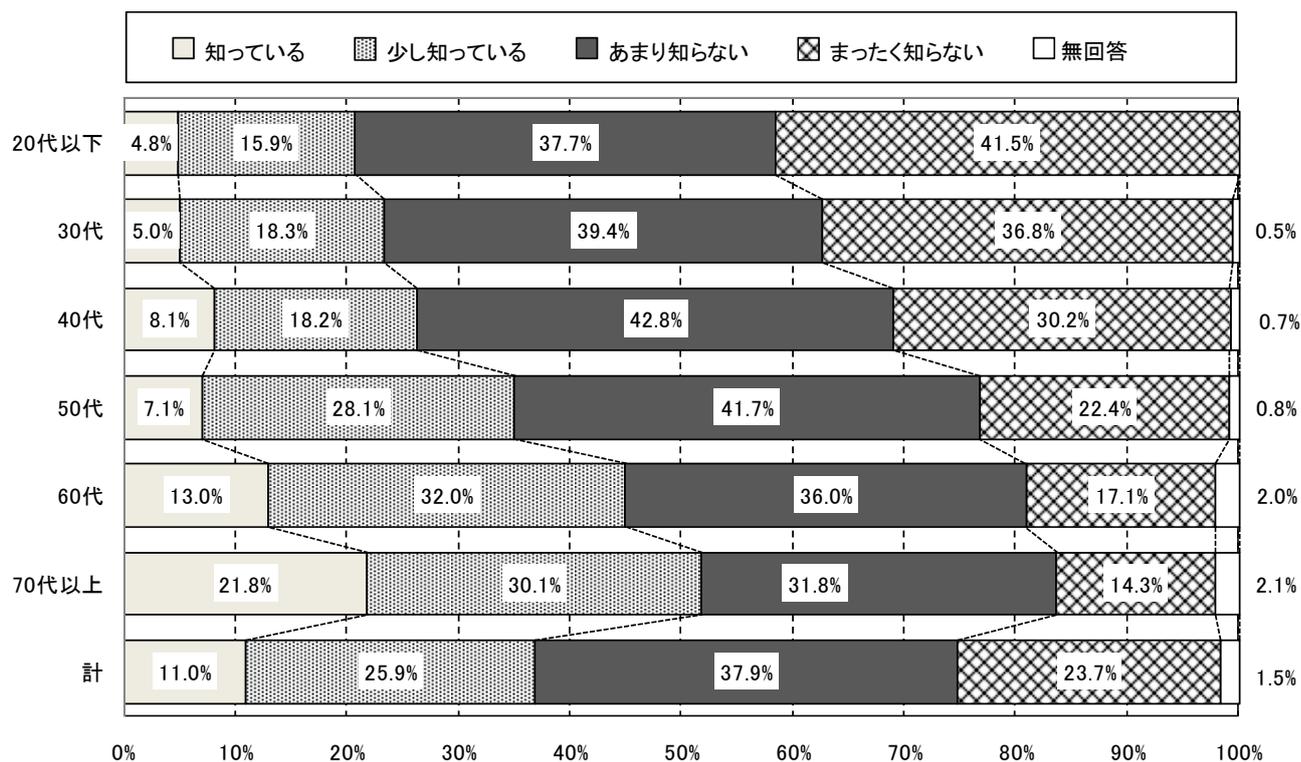


図 5-2-13 「ごみの処理・リサイクルの仕方」年代別回答率

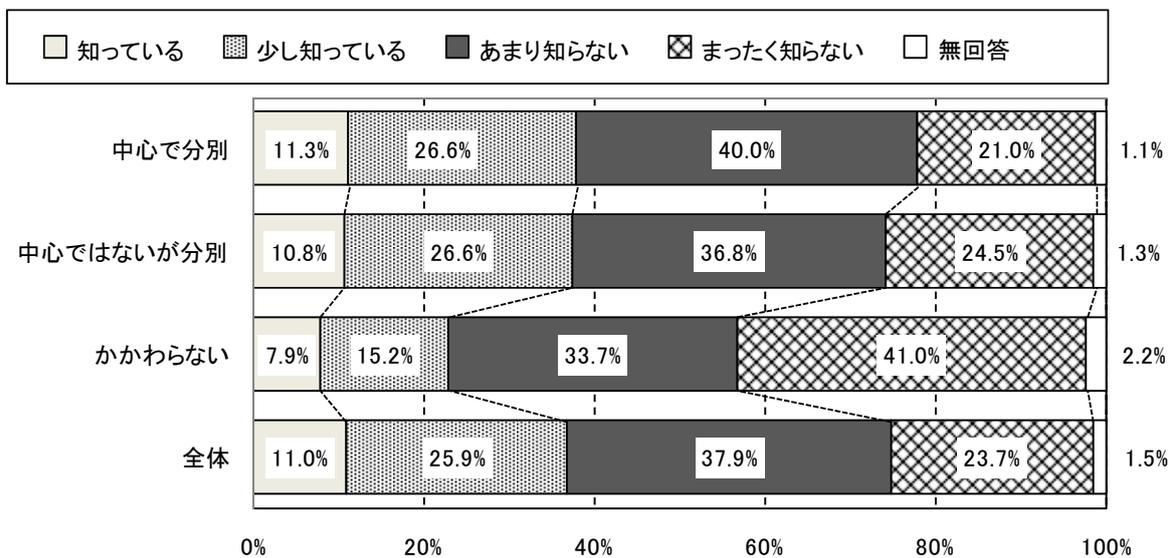


図 5-2-14 「ごみの処理・リサイクルの仕方」分別行動別回答率

問 14 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？（〇は1つ）

家庭内でごみの分別に要している時間は、「数分程度」が45.4%と高く、次いで「10分～30分くらい」が27.7%となっている。  
 市町別については、大きな偏りはみられない。  
 世帯特徴別については、A-5「夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる」は「1時間以上」が高い。

① 単純集計

番号		回答数	回答率
1	1時間以上	269	8.5%
2	30分～1時間くらい	173	5.5%
3	10分～30分くらい	874	27.7%
4	数分程度	1433	45.4%
5	ほとんどかけていない	341	10.8%
6	無回答	64	2.0%
有効回答数		3,154	100.0%

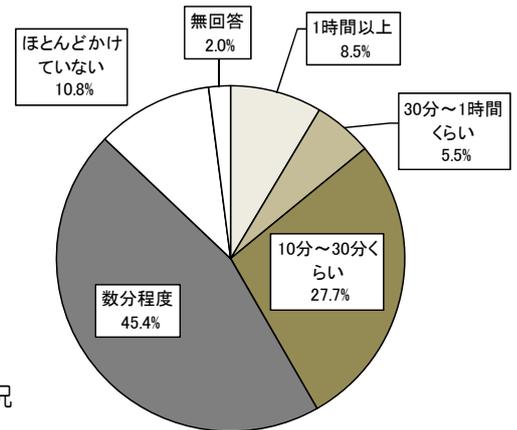


表 5-2-7 「ごみを分別するのにかけている時間」回答状況

図 5-2-15 「ごみを分別するのにかけている時間」回答率

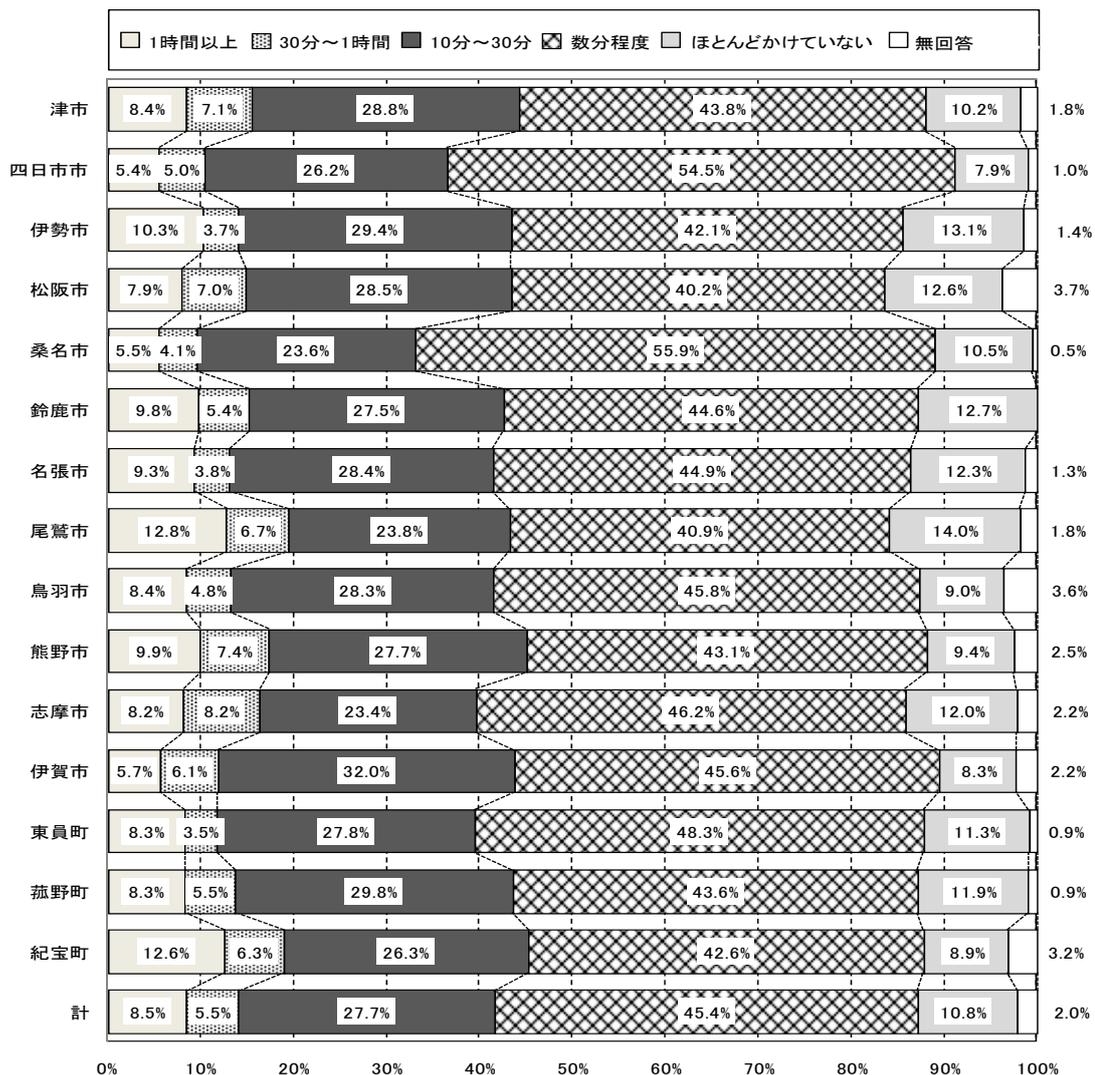
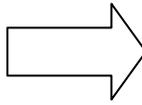


図 5-2-16 「ごみを分別するのにかけている時間」市町別回答率

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査票は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-8 「ごみを分別するのにかけている時間」世帯特徴別回答率

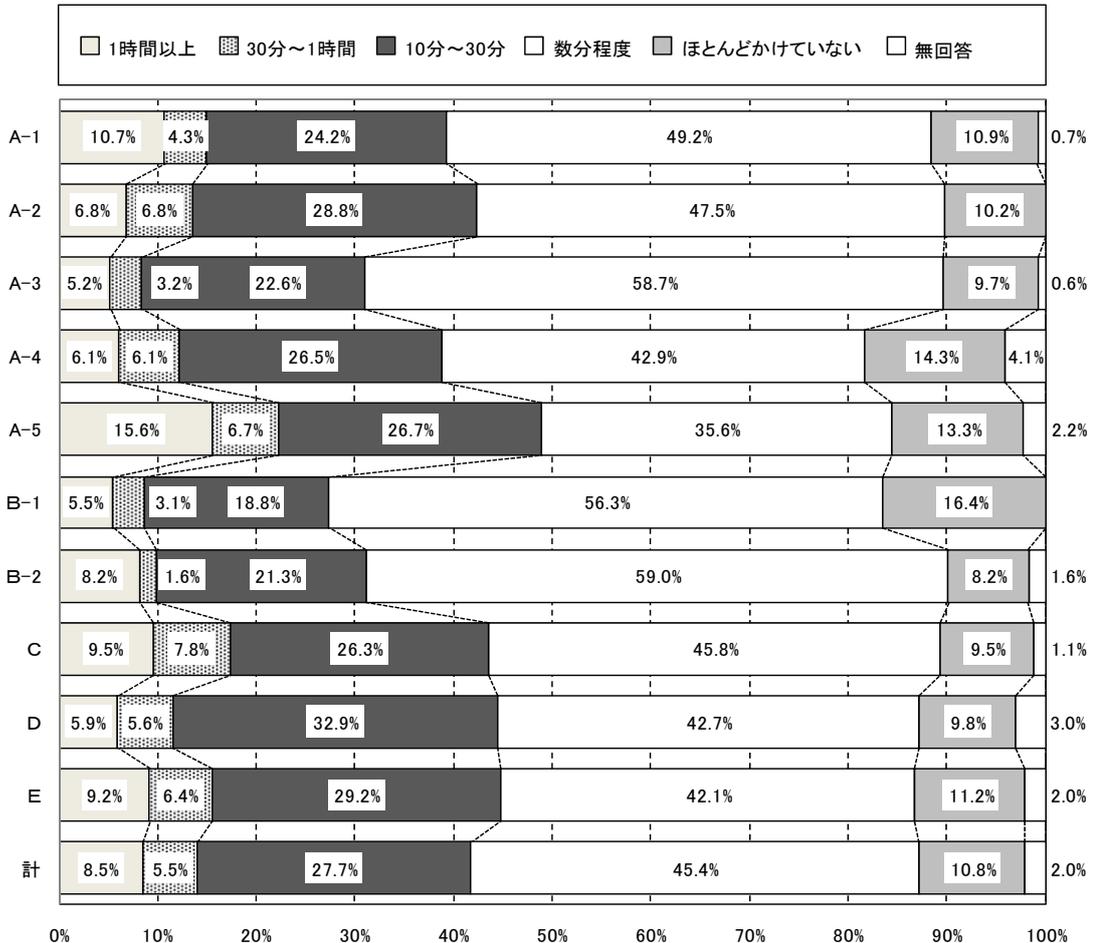


図 5-2-17 「ごみを分別するのにかけている時間」世帯特徴別回答率

問 15 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？（〇は1つ）

ごみの分別数が増えることについて、「賛成」、「どちらかという賛成」の計で 82.4%となっている。  
 市町別では、上記の計が 79.2%から 90.9%となっており、大きな偏りはみられない。  
 世帯特徴別では、上記の計が 73.5%から 89.4%となっており、A-4「夫婦共働き、家族は全員 60 歳以上」は、上記の計が一番低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	賛成	1,152	36.5%
2	どちらかという賛成	1,449	45.9%
3	どちらかという反対	410	13.0%
4	反対	94	3.0%
99	無回答	49	1.6%
有効回答数		3,154	100.0%

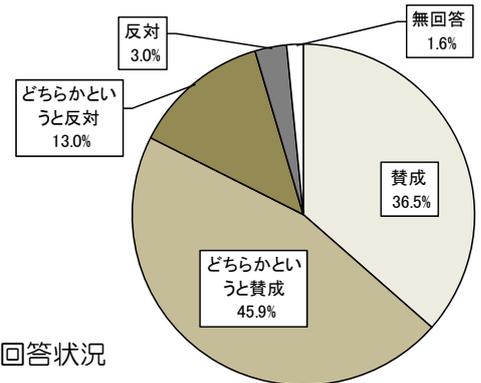


表 5-2-9 「資源やごみの分別が増えることなどについて」回答状況

図 5-2-18 「資源やごみの分別が増えることなどについて」回答率

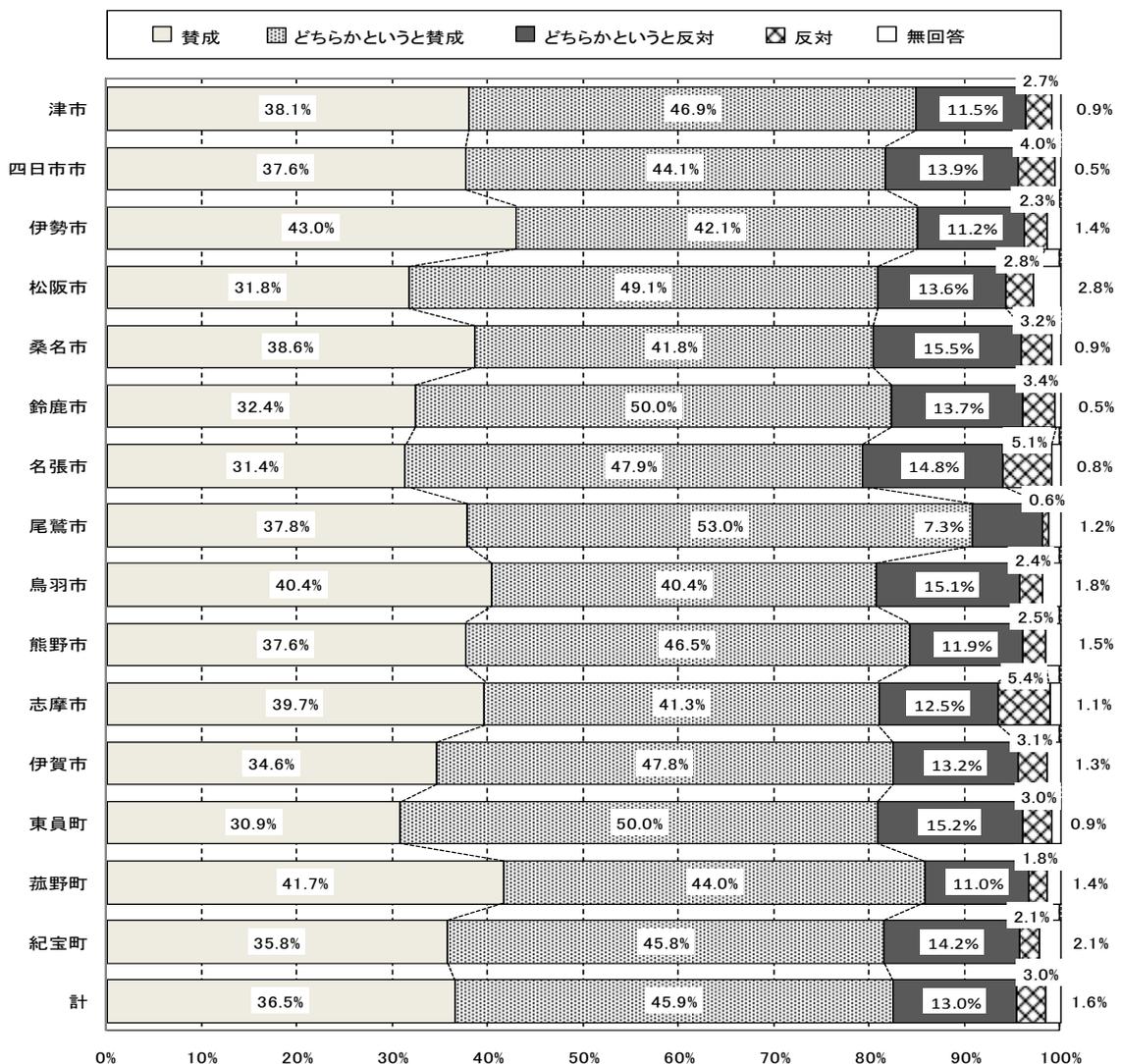
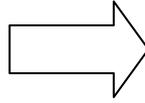


図 5-2-19 「資源やごみの分別が増えることなどについて」市町別回答率

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査票は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-10 「資源やごみの分別が増えることなどについて」世帯特徴別回答率

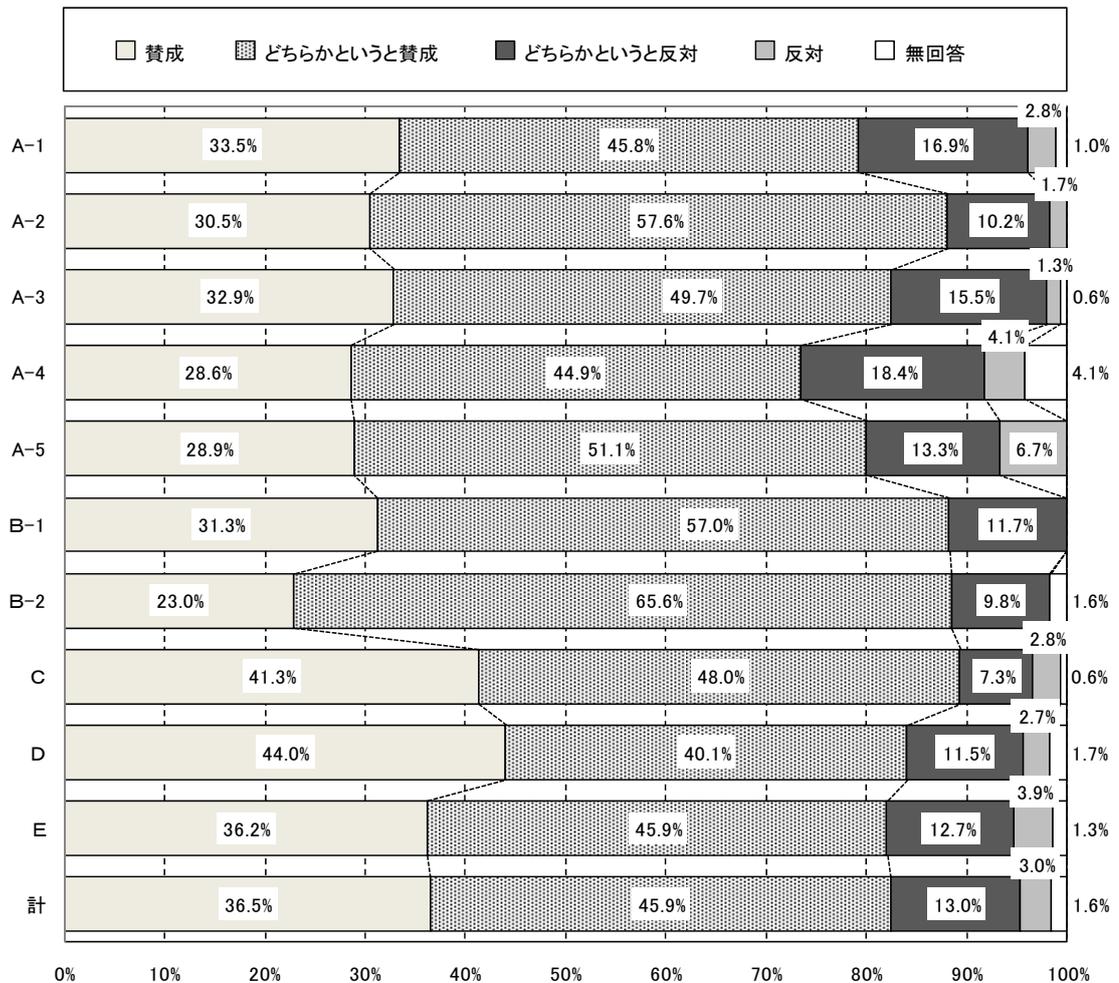


図 5-2-20 「資源やごみの分別が増えることなどについて」世帯特徴別回答率

問 16	次のうち、あなたのご家庭でやっていることはどれですか？（あてはまるものすべてに○）
------	---

家庭で実践していることとしては、「買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」の回答率が91.6%で最も高く、次いで、「台所ごみの水切りをしている」（84.9%）となっている。「食事を食べ残さないようにしている」（69.8%）、「資源とごみの分別を徹底している」（60.6%）、「食品は買いすぎないように注意している」（59.9%）、「地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」（56.2%）も5割を超えている。

市町別についても、上記項目はいずれも高いが、「レジ袋をもらわない」では菟野町が、「店頭回収を利用している」では、熊野市及び紀宝町が他市町と比べて低い。

これら以外について高いものとして、「市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」の鳥羽市（11.4%）、「生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている」の志摩市（24.5%）、「不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」の鈴鹿市（27.5%）等がある。

世帯特徴別については、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	台所ごみの水切りをしている	2,678	84.9%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	419	13.3%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理	332	10.5%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	74	2.3%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	197	6.2%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	417	13.2%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	244	7.7%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	2,889	91.6%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	1,876	59.5%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	482	15.3%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	335	10.6%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	1,192	37.8%
13	食品は買いすぎないように注意している	1,890	59.9%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	156	4.9%
15	食事を食べ残さないようにしている	2,202	69.8%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりして	544	17.2%
17	資源とごみの分別を徹底している	1,911	60.6%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	1,774	56.2%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	301	9.5%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	859	27.2%
21	マイ箸を携帯している	310	9.8%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	646	20.5%
23	その他	30	1.0%
24	これらいずれもやっていない	4	0.1%
総回答数		21,762	690.0%
有効回答数		3,154	-

表 5-2-11 「あなたの家庭でやっていることについて」回答状況

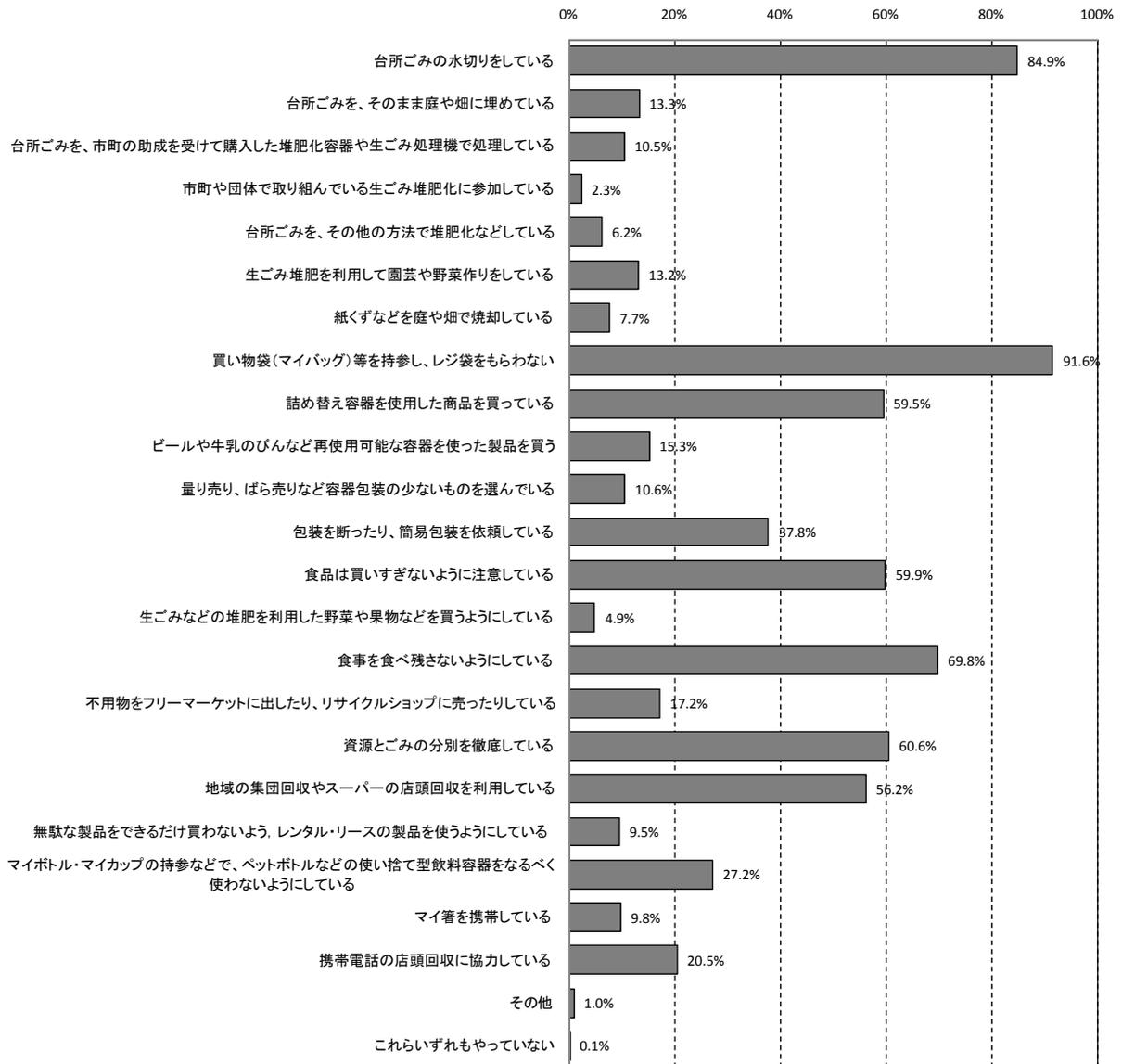


図 5-2-21 「あなたの家庭でやっていることについて」回答率

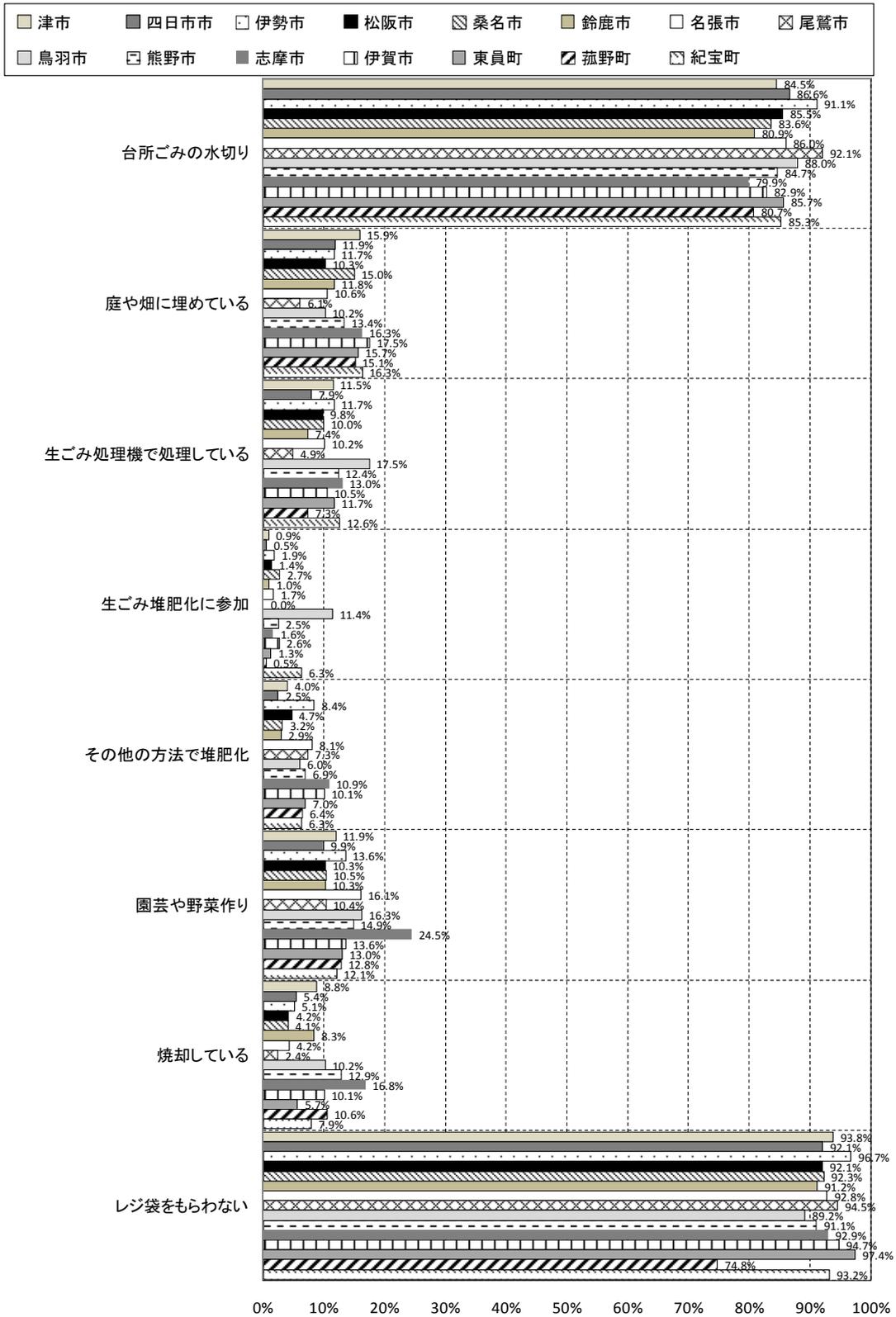


図 5-2-22 (1/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」市町別回答率

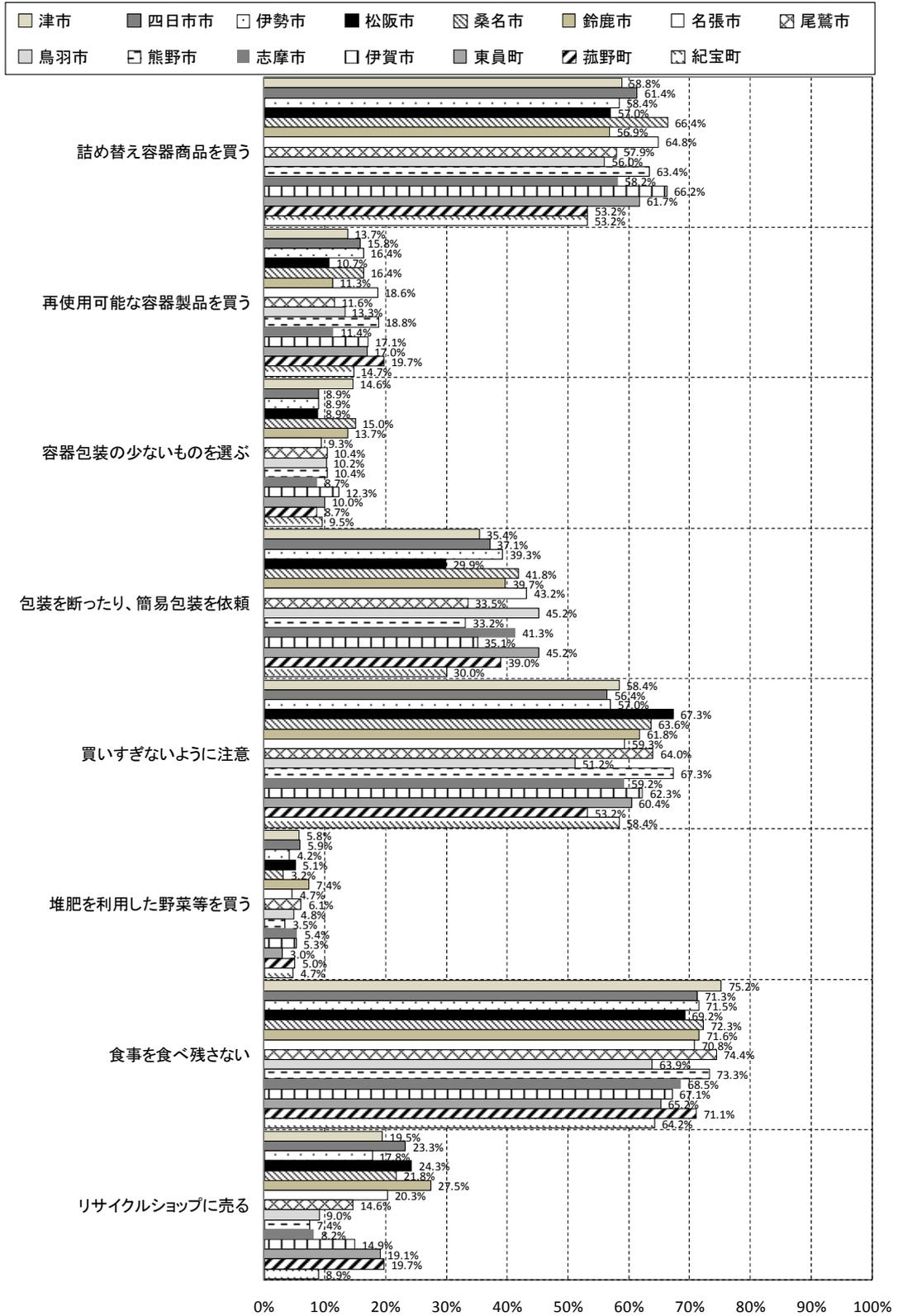


図 5-2-22 (2/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」市町別回答率

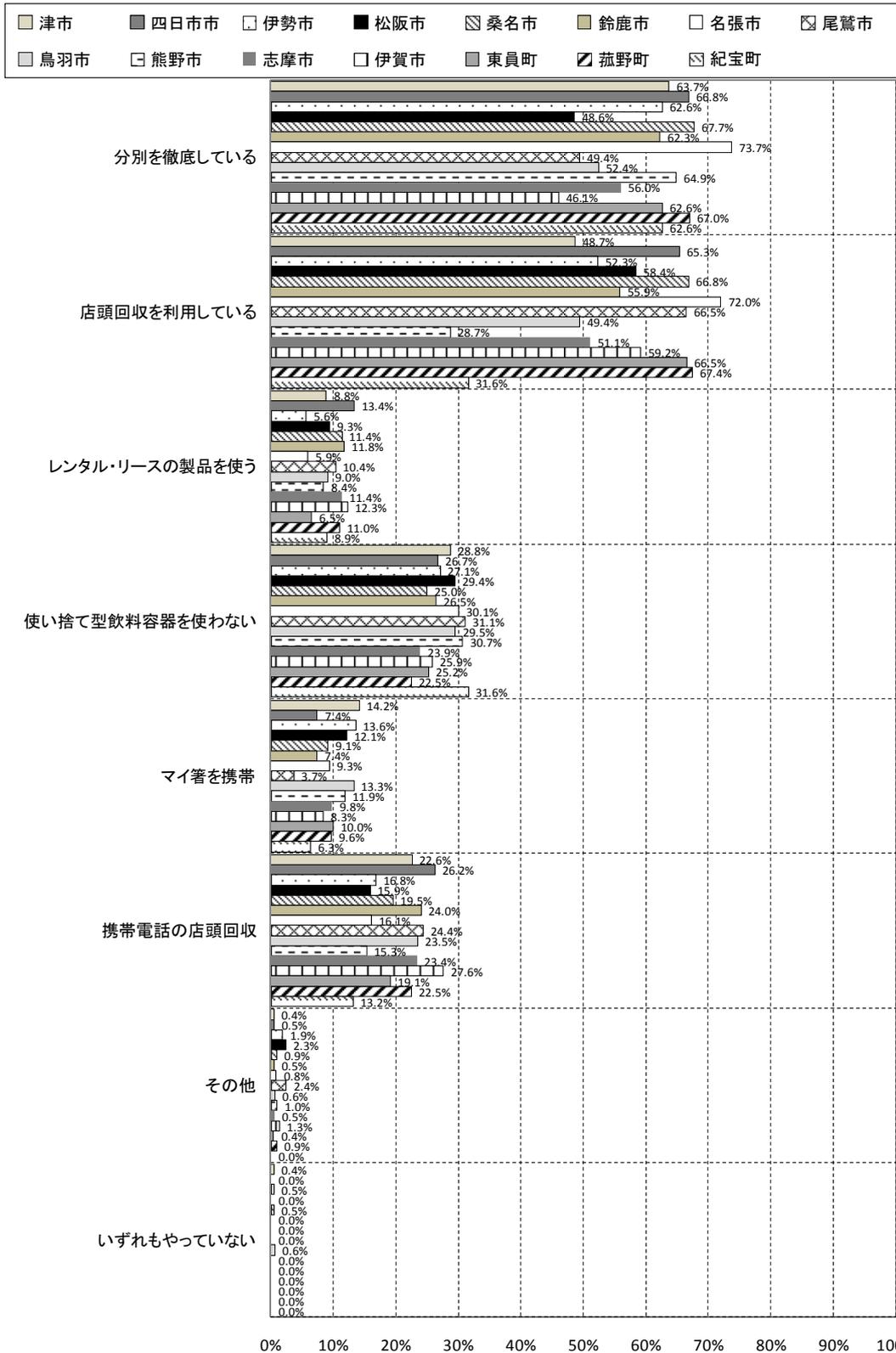
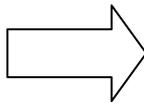


図 5-2-22 (3/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」市町別回答率

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査票は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-12 「あなたの家庭でやっていることについて」世帯特徴別回答率

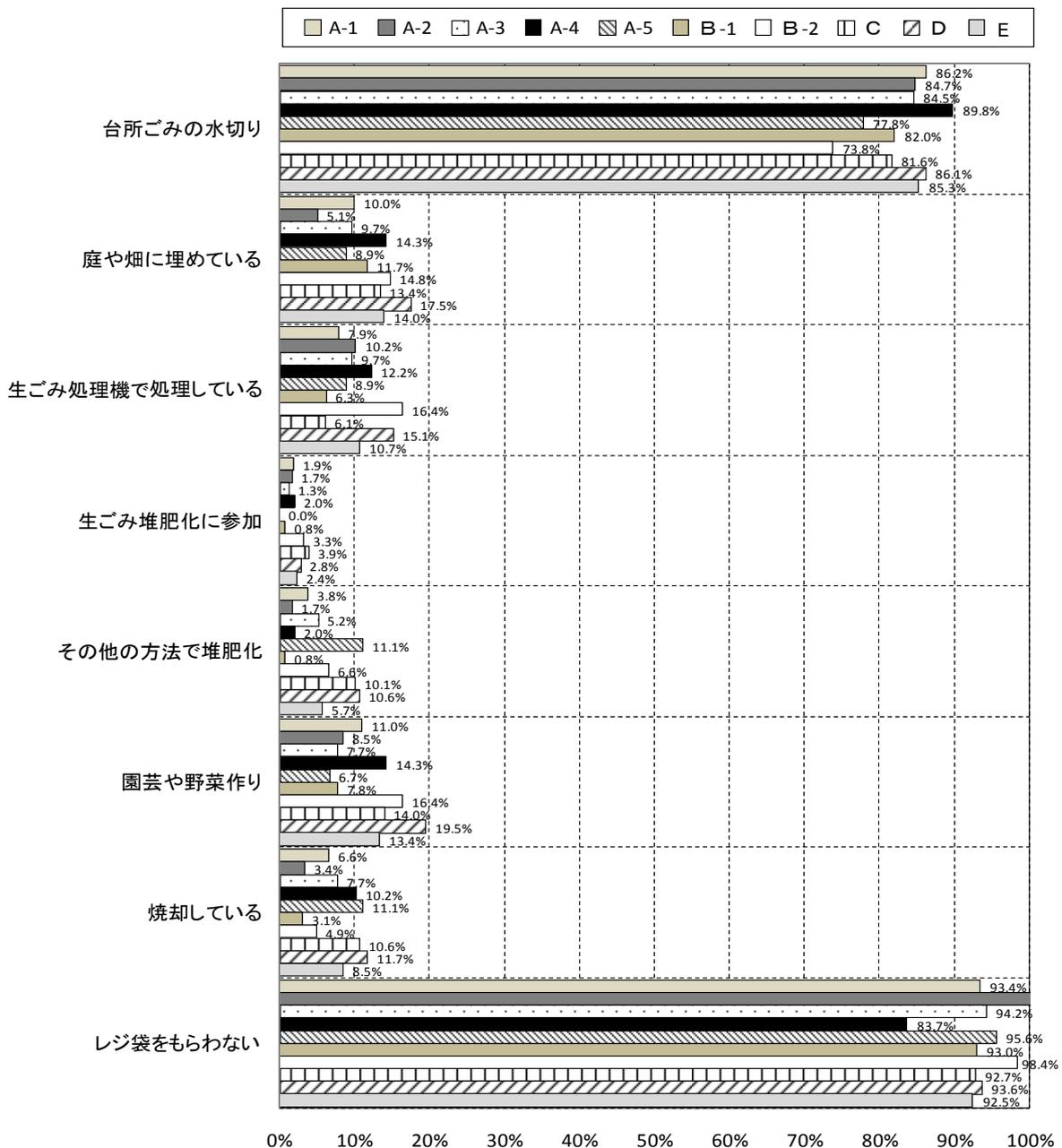


図 5-2-23 (1/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」世帯特徴別回答率

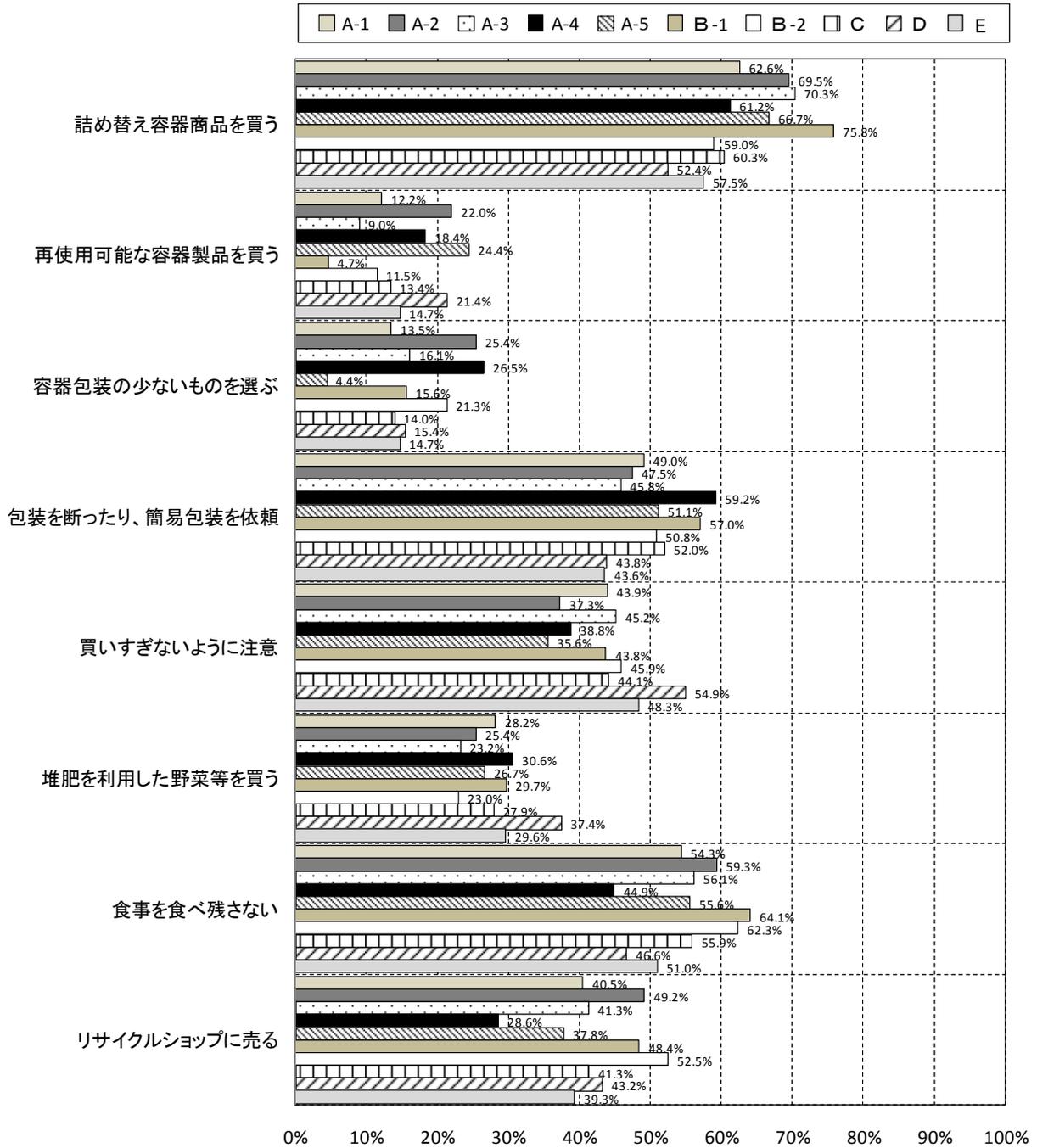


図 5-2-23 (2/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」世帯特徴別回答率

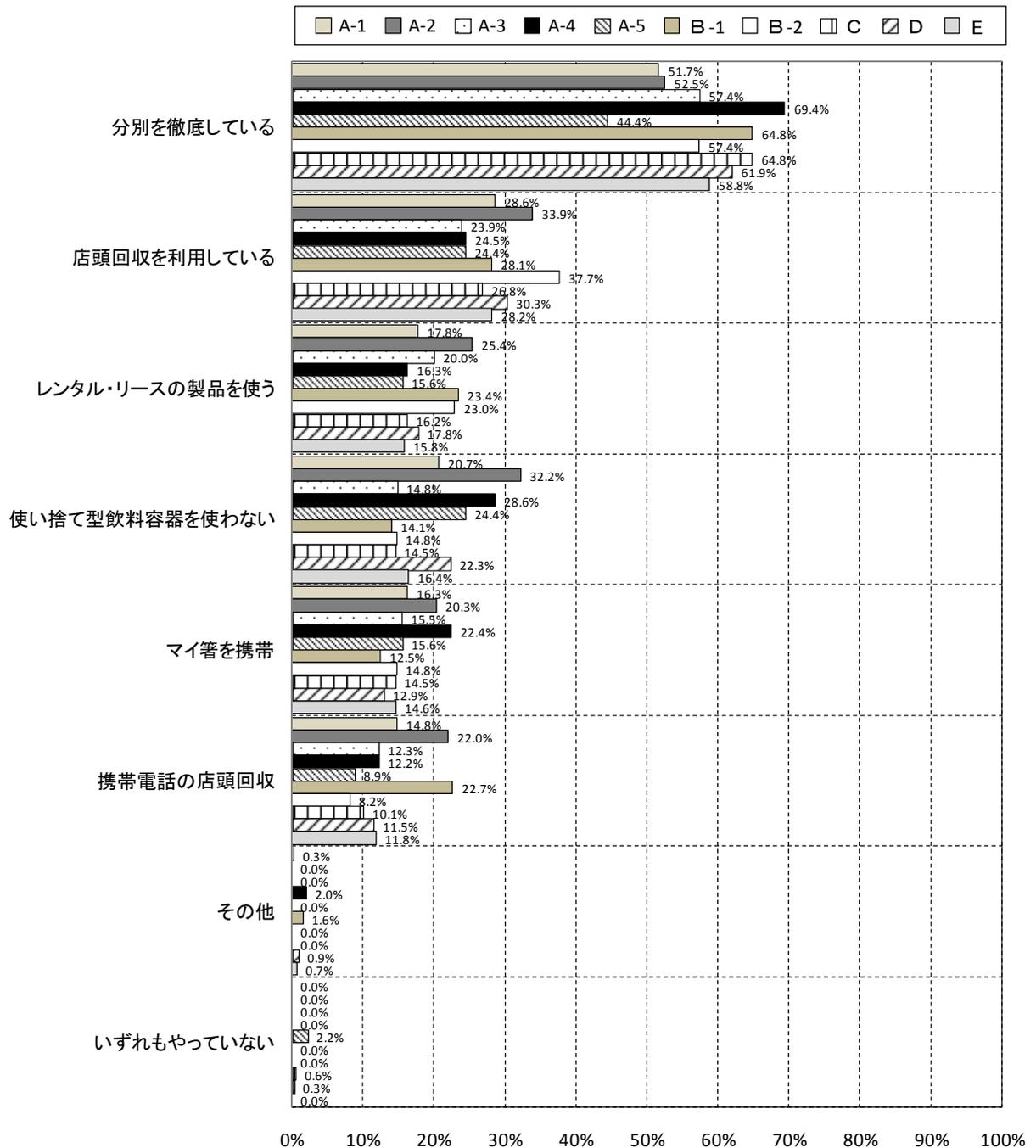


図 5-2-23 (3/3) 「あなたの家庭でやっていることについて」世帯特徴別回答率

問 17	あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？（〇は3つまで）
------	--

ごみ出しで困っていることについては、「収集日時が限られている」（38.0%）、「特に問題はない」（31.7%）の回答率が30%より高くなっている。

市町別については、いずれの市町においても、「収集日時が限られている」が最も高い。また、「分別ルールが複雑でわかりにくい」では、伊賀市及び鈴鹿市で3割を超え、尾鷲及び熊野市で1割に満たないなど市町により差が生じている。

年代別については、年代が低いほど「分別ルールが複雑でわかりにくい」、「市町ごとにルールが異なり覚えにくい」、「次の収集日までごみを保管しておく場所がない」が高くなっている。

分別行動別については、「次の収集日までごみを保管しておく場所がない」と「特に問題はない」を除くと「分別にかかわる」人ほど低い。

世帯特徴別については、「次の収集日までごみを保管しておく場所がない」で「家族は全員60歳以上」が低いことを除いては、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	分別ルールが複雑でわかりにくい	700	22.2%
2	市町ごとにルールが異なり覚えにくい	378	12.0%
3	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	639	20.3%
4	収集日時が限られている	1,197	38.0%
5	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	284	9.0%
6	洗ったり束ねたり手間がかかる	753	23.9%
7	その他	137	4.3%
8	特に問題はない	1,000	31.7%
総回答数		5,088	161.3%
有効回答数		3,154	-

表 5-2-13 「ごみ出しで困っていること」回答状況

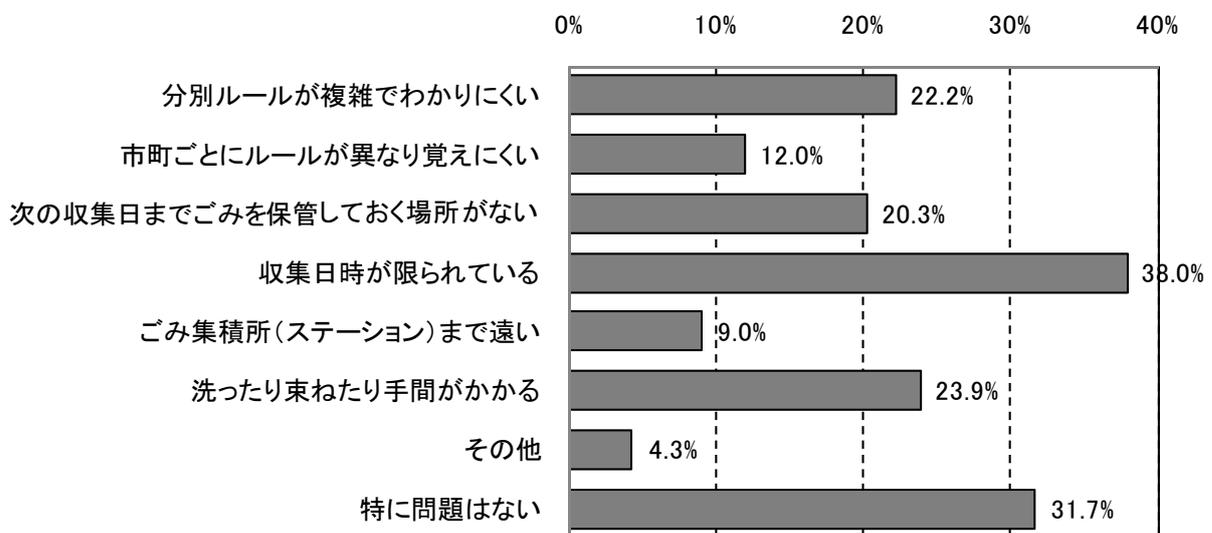


図 5-2-24 「ごみ出しで困っていること」回答率

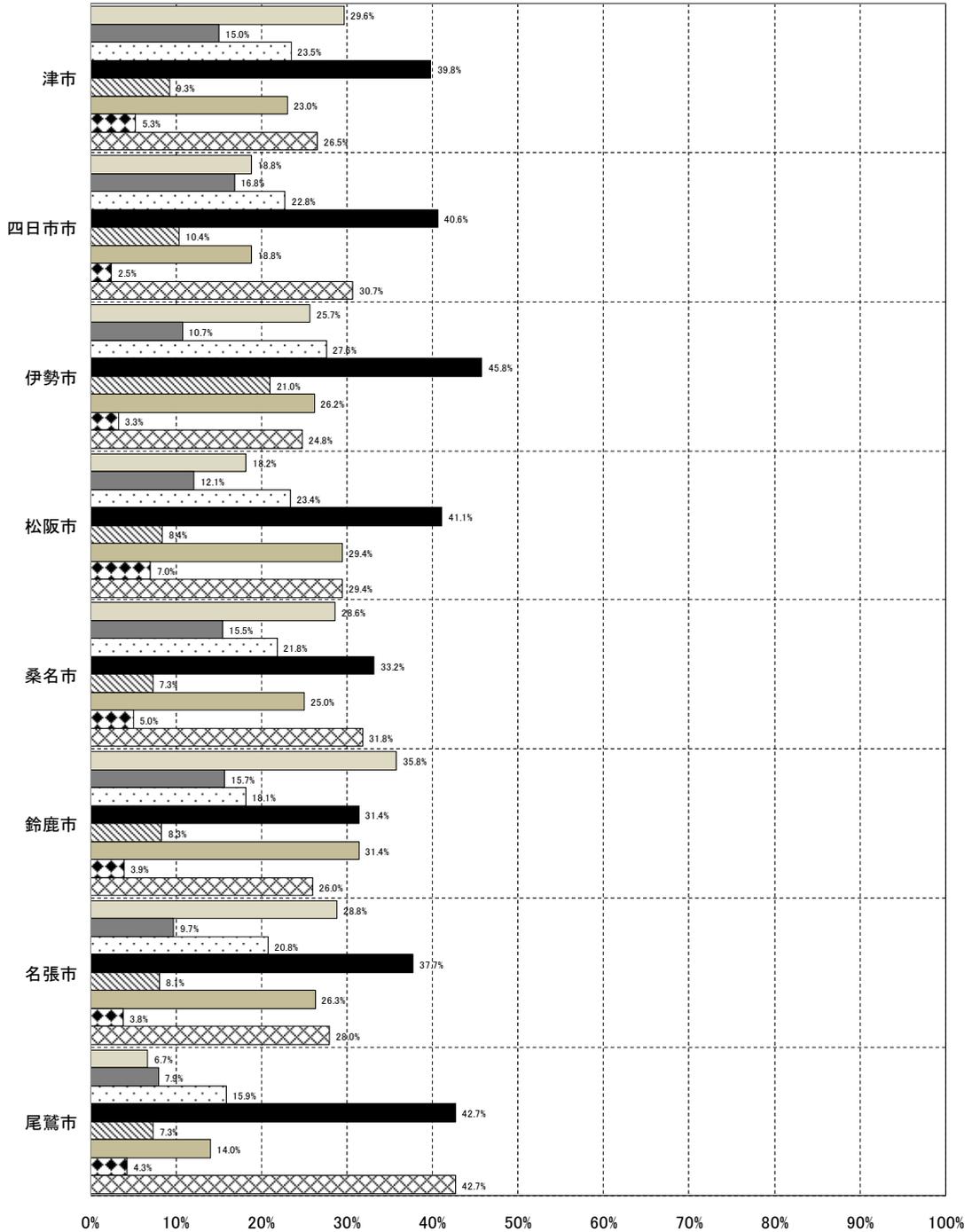


図 5-2-25-2 (1/2) 「ごみ出しで困っていること」市町別回答率

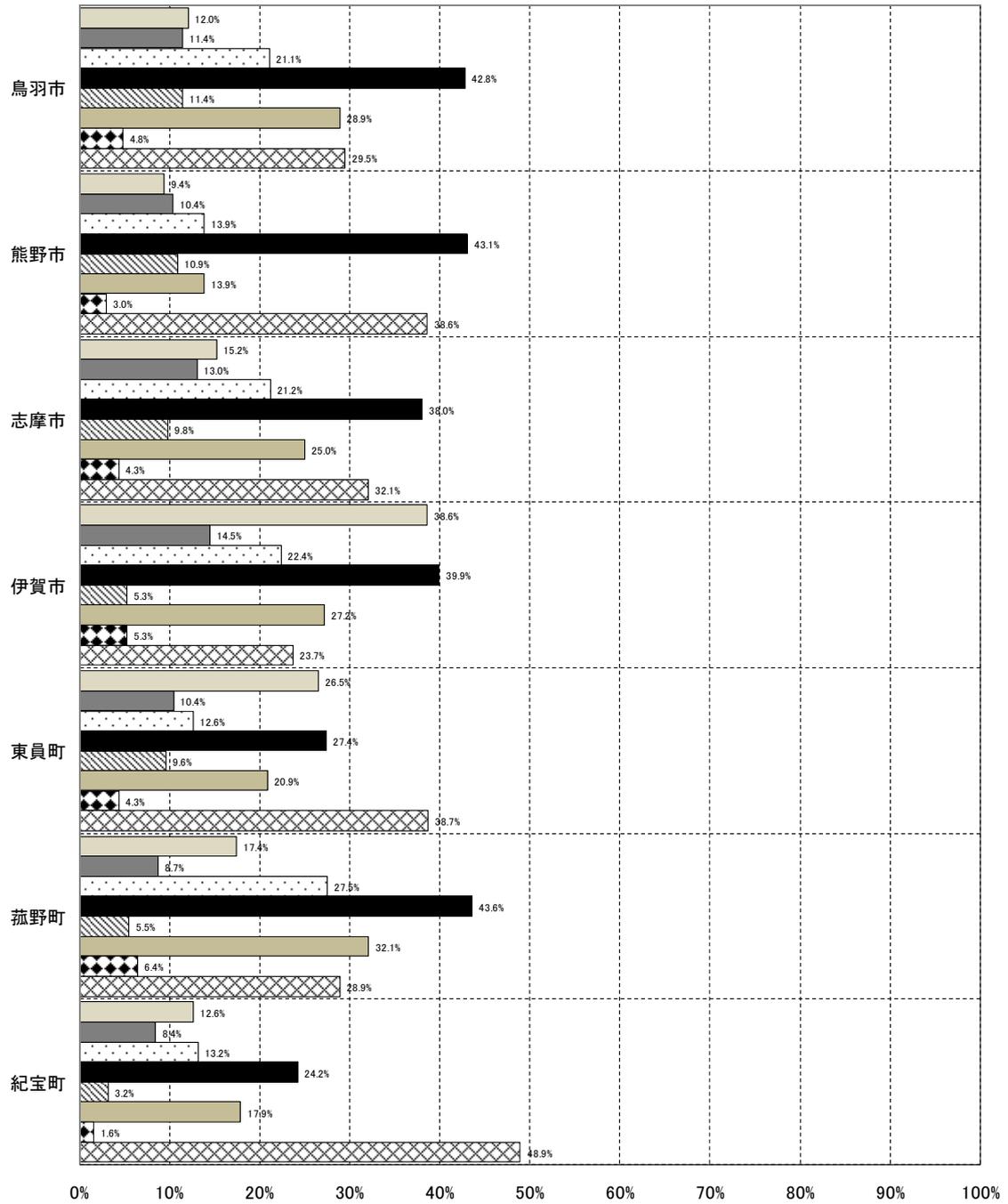
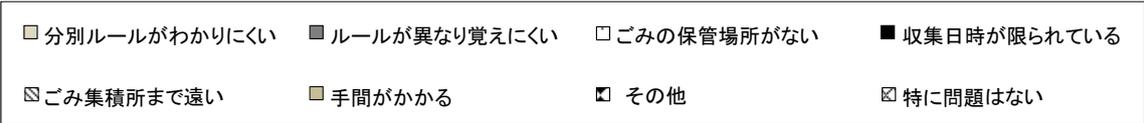


図 5-2-25 (2/2) 「ごみ出で困っていること」市町別回答率

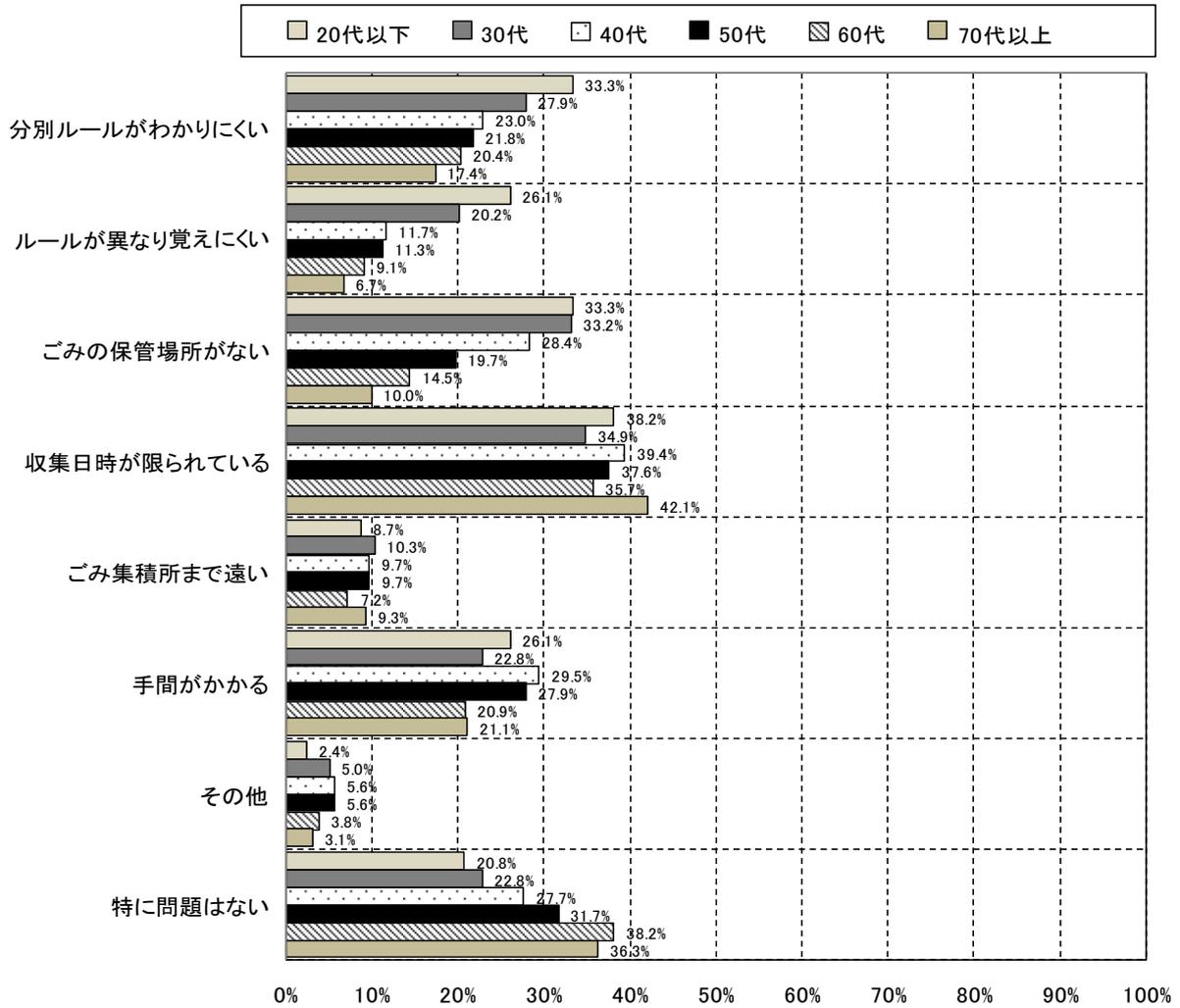


図 5-2-26 「ごみ出しで困っていること」年代別回答率

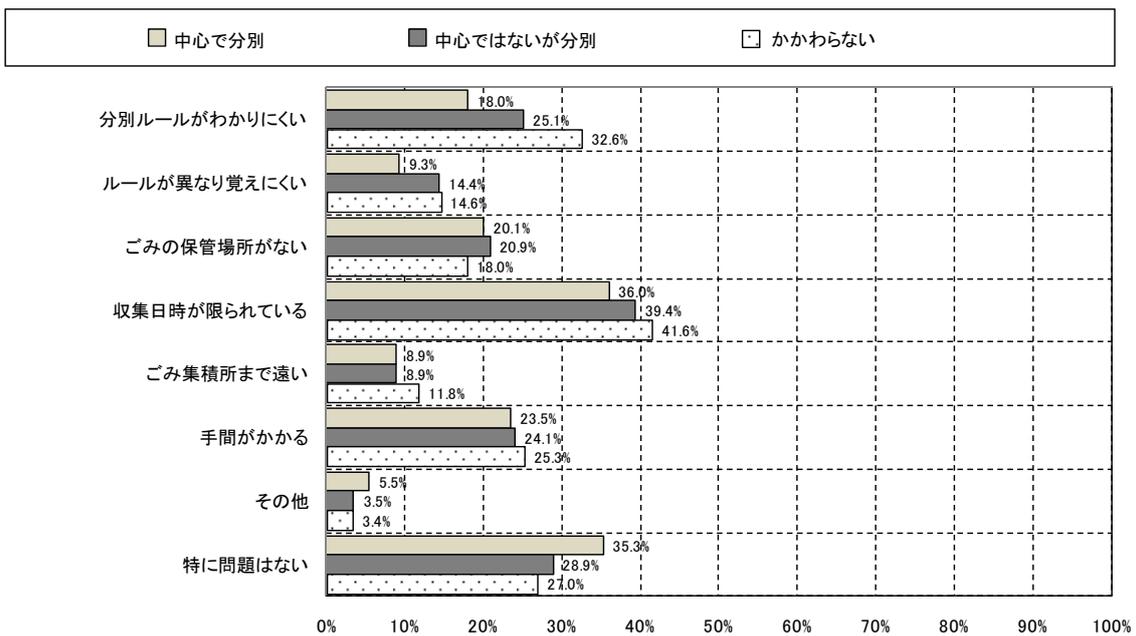
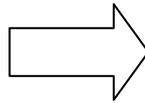


図 5-2-27 「ごみ出しで困っていること」分別行動別回答率

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査票は上の表のたずね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-14 「ごみ出しで困っていること」世帯特徴別回答率

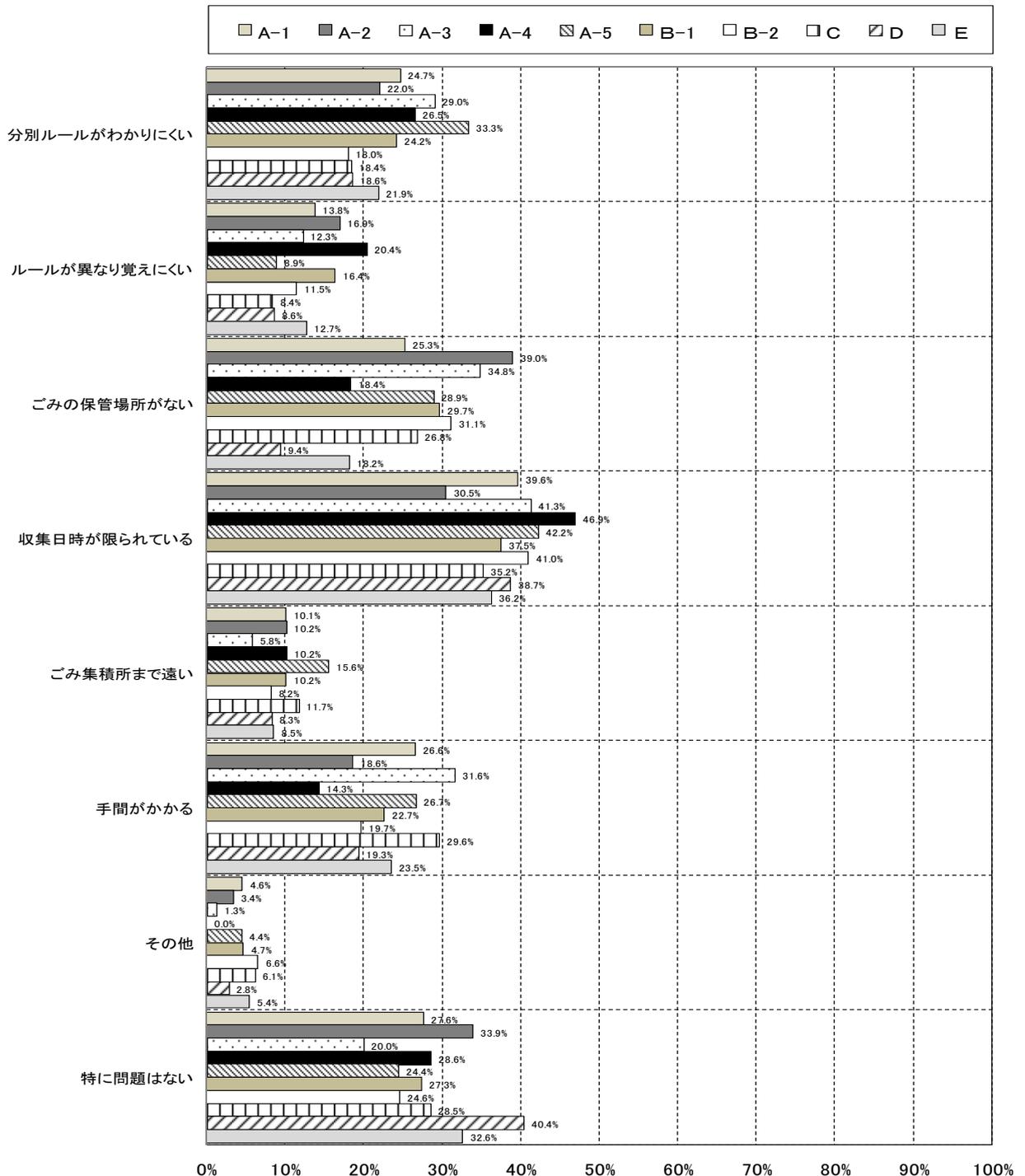


図 5-2-28 「ごみ出しで困っていること」世帯特徴別回答率

### 5-3 今後の方策に対する意向について

問 18 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？（あてはまるものすべてに○）

暮らしの工夫で減らせるごみについては、「食べ残し」の割合が高く63.4%であり、次いで「賞味期限切れ食品」（60.4%）、「調理くず」（45.4%）の順となっている。  
市町別、年代別については、それぞれ項目により傾向に違いが生じているものの、大きな偏りは見られない。  
世帯人員別については、「食べ残し」について「5人以上」の家庭が一番高く70%近くを占めている。

#### ① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	調理くず	1,432	45.4%
2	食べ残し	2,001	63.4%
3	賞味期限切れ食品	1,906	60.4%
4	紙容器、紙袋や包装紙	906	28.7%
5	新聞	371	11.8%
6	チラシ	597	18.9%
7	雑誌	586	18.6%
8	段ボール	487	15.4%
9	紙パック	383	12.1%
10	古着類	701	22.2%
11	ペットボトル	900	28.5%
12	レジ袋	1,404	44.5%
13	プラスチック容器	611	19.4%
14	びん	376	11.9%
15	缶	431	13.7%
16	粗大ごみ	623	19.8%
17	その他	63	2.0%
総回答数		13,778	436.8%
有効回答数		3,154	-

表 5-3-1 「暮らしの工夫で減らせるごみ」回答状況

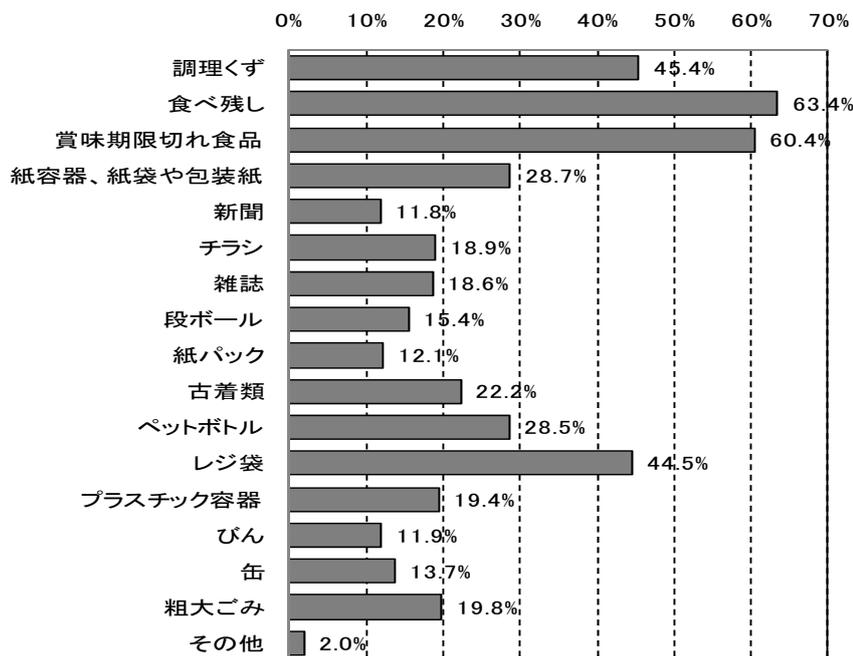


図 5-3-1 「暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

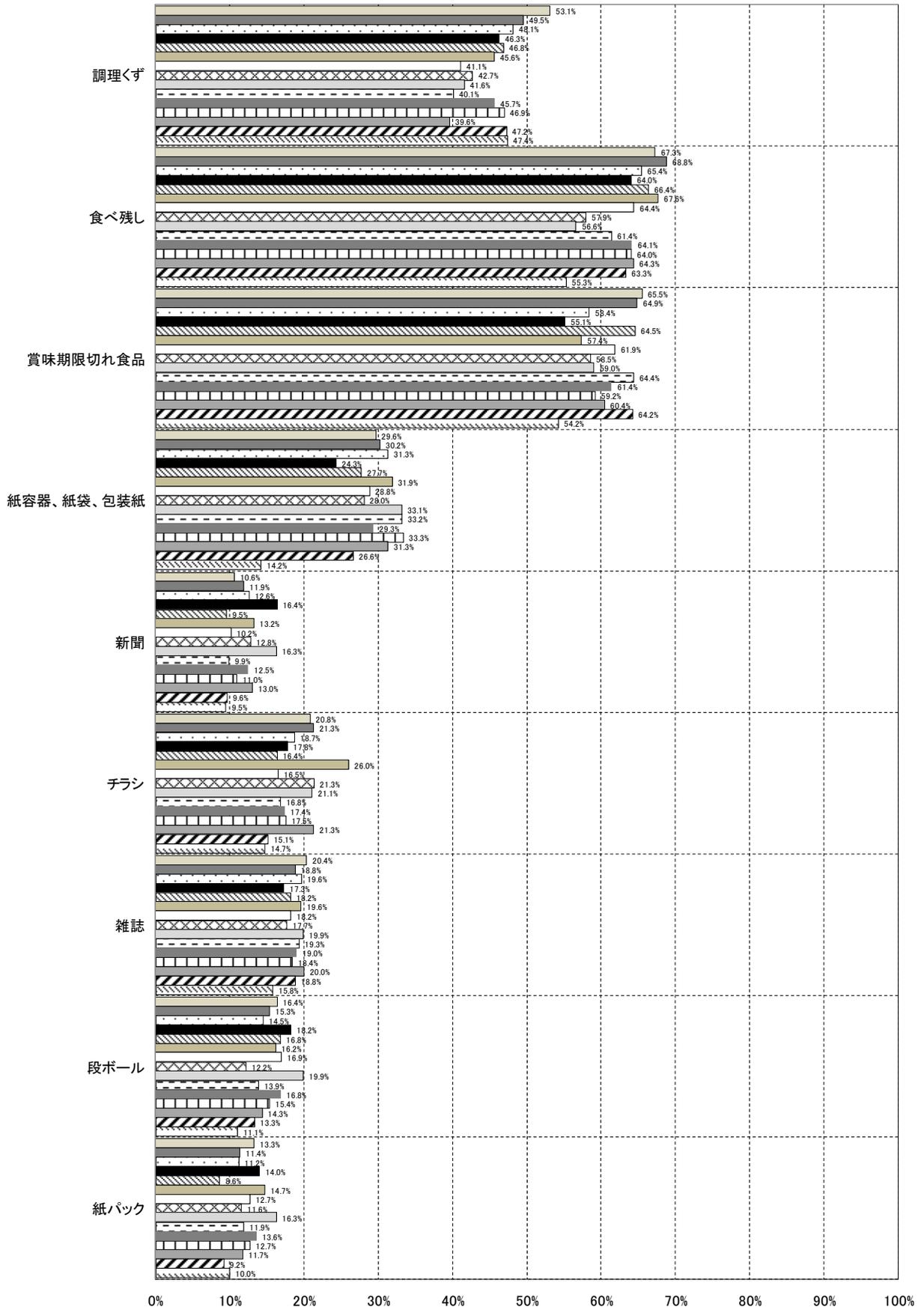
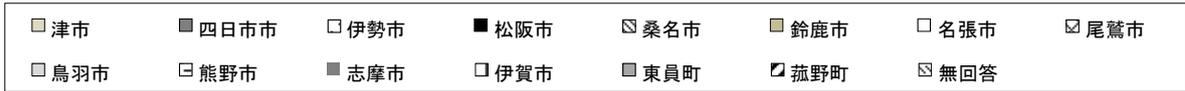


図 5-3-2 (1/2) 「暮らしの工夫で減らせるごみ」市町別回答率

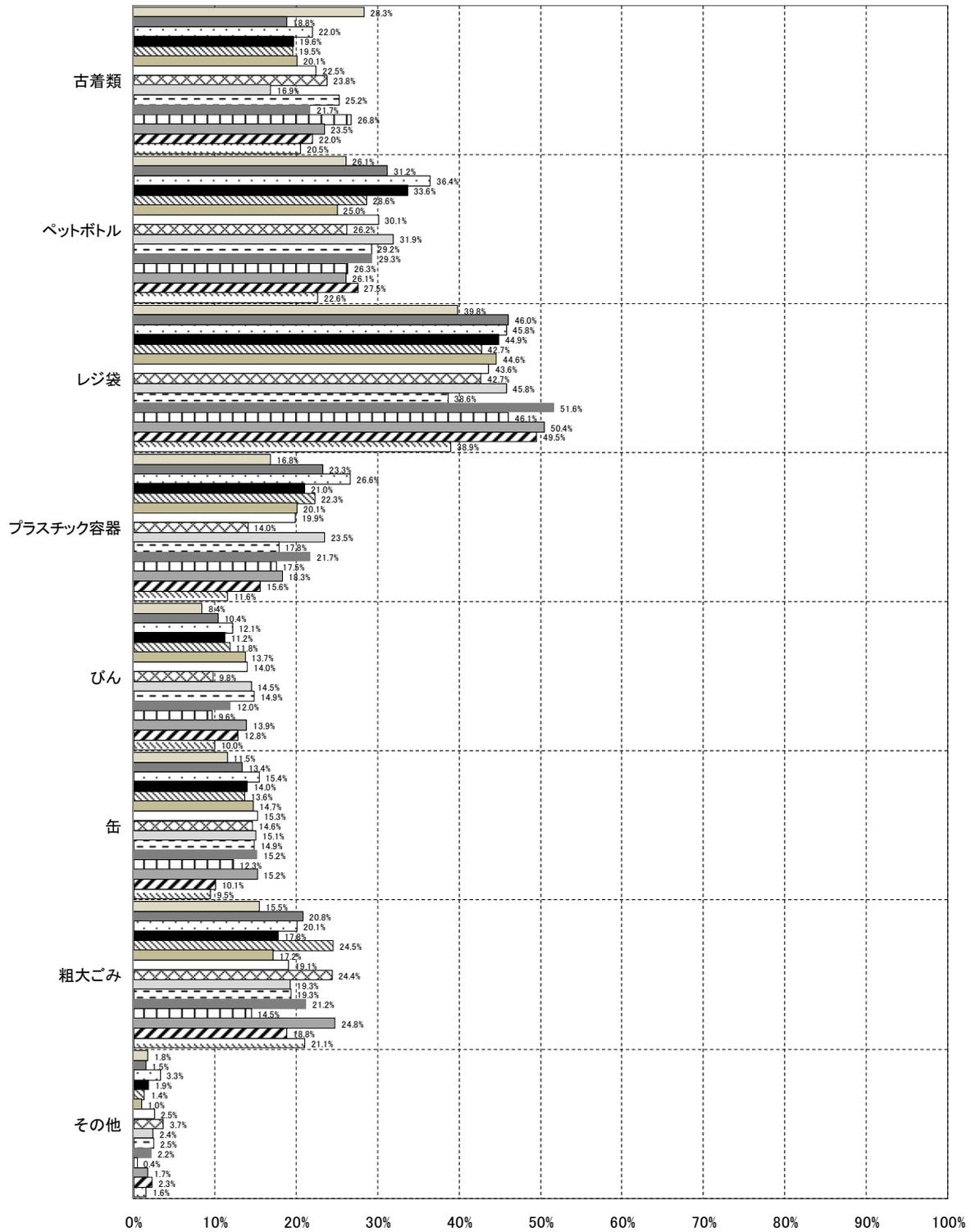


図 5-3-2 (2/2) 「暮らしの工夫で減らせるごみ」市町別回答率

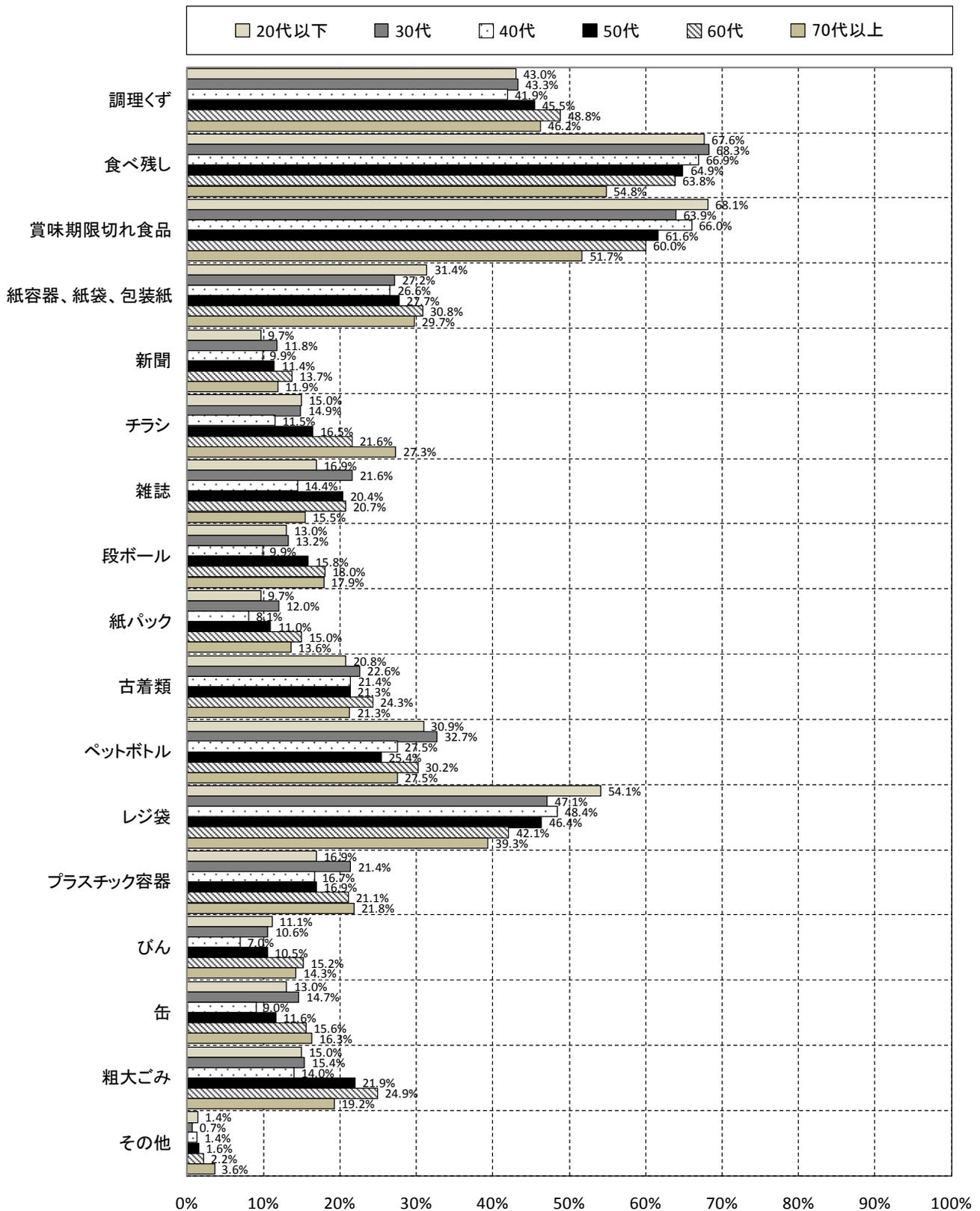


図 5-3-3 「暮らしの工夫で減らせるごみ」年代別回答率

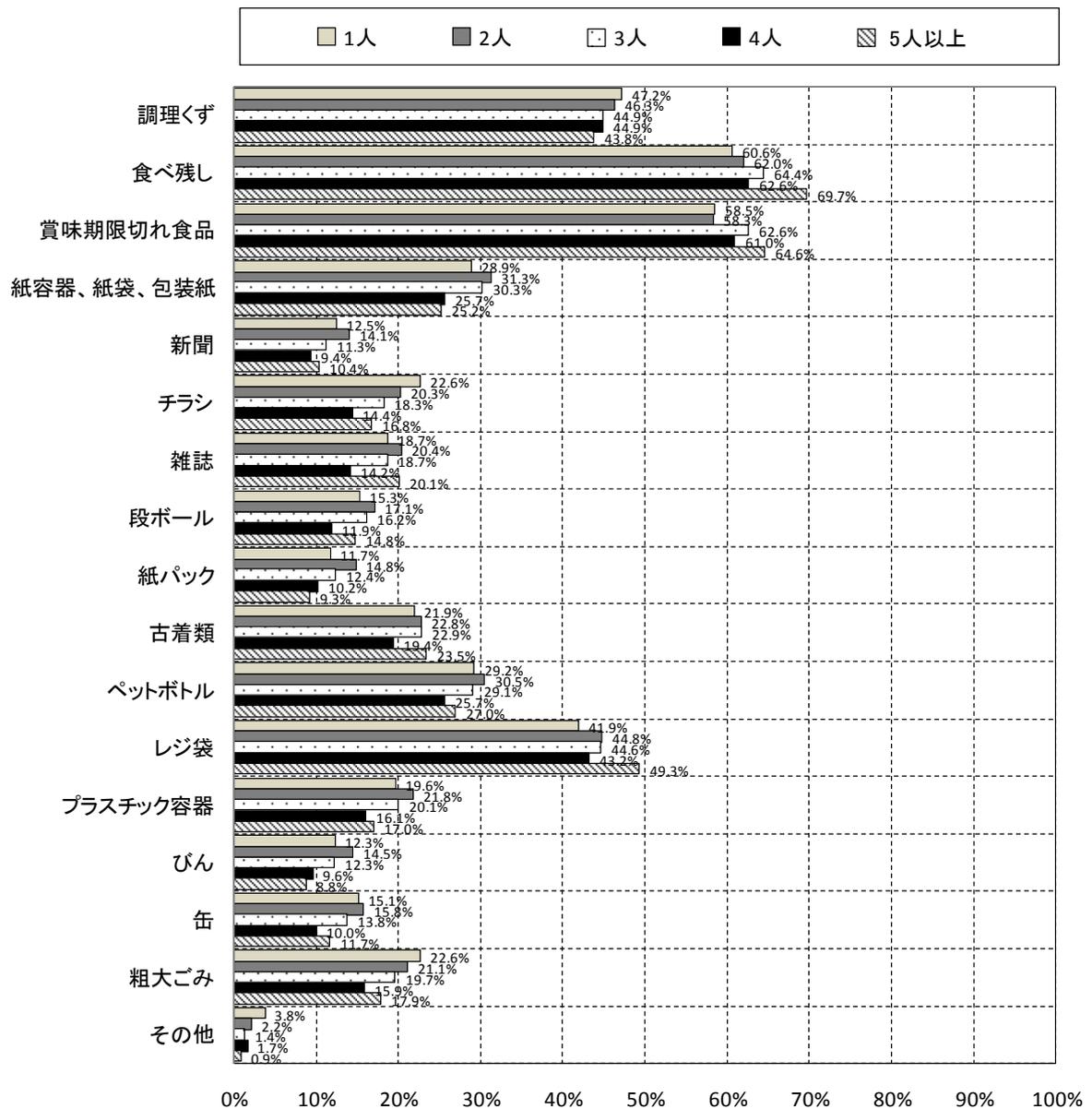


図 5-3-4 「暮らしの工夫で減らせるごみ」世帯人員別回答率

問 19	ごみに関する情報を、あなたはどのような方法で手に入れていますか？（あてはまるものすべてに○）
------	--

ごみ関連情報の入手方法として、「市町の広報や分別マニュアルを通じて」の回答率が 84.6%と最も高く、次いで「地域の回覧板や掲示物を通じて」が 51.8%、「新聞などマスコミを通じて」が 31.9%となっている。

市町別については、いずれの市町においても上記項目の割合が高いが、「地域の回覧板や掲示物を通じて」は、29.3%から 64.8%の範囲にわたっている。

年代別については、「20 代以下」では、「新聞などマスコミを通じて」、「家族や友人・知人を通じて」が最も高く、「市町の広報や分別マニュアルを通じて」、「地域の回覧板や掲示物を通じて」が最も低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	市町の広報や分別マニュアルを通じて	2,669	84.6%
2	市町のホームページを通じて	296	9.4%
3	公共施設などでのポスターやチラシを通じて	544	17.2%
4	地域の回覧板や掲示物を通じて	1,635	51.8%
5	防災無線や広報スピーカーで	175	5.5%
6	住民説明会を通じて	194	6.2%
7	新聞などマスコミを通じて	1,006	31.9%
8	企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書で	295	9.4%
9	家族や友人・知人を通じて	586	18.6%
10	子供（学校などの情報）を通じて	89	2.8%
11	書籍で	78	2.5%
12	スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者を通じて	372	11.8%
13	エコ製品やサービスを展示するイベントを通じて	222	7.0%
14	PTA・自治会などの地域の活動を通じて	487	15.4%
15	勤務先・取引先など仕事を通じて	223	7.1%
16	環境保護団体・環境 NGO の広報誌やパンフレットを通じて	111	3.5%
17	生協活動・ボランティア活動など社会活動を通じて	128	4.1%
18	シンポジウムや講演会、市民大学などで	27	0.9%
19	その他	12	0.4%
20	あてはまるものなし	28	0.9%
総回答数		9,177	291.0%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-3-2 「情報をどのような方法で手に入れているか」回答状況

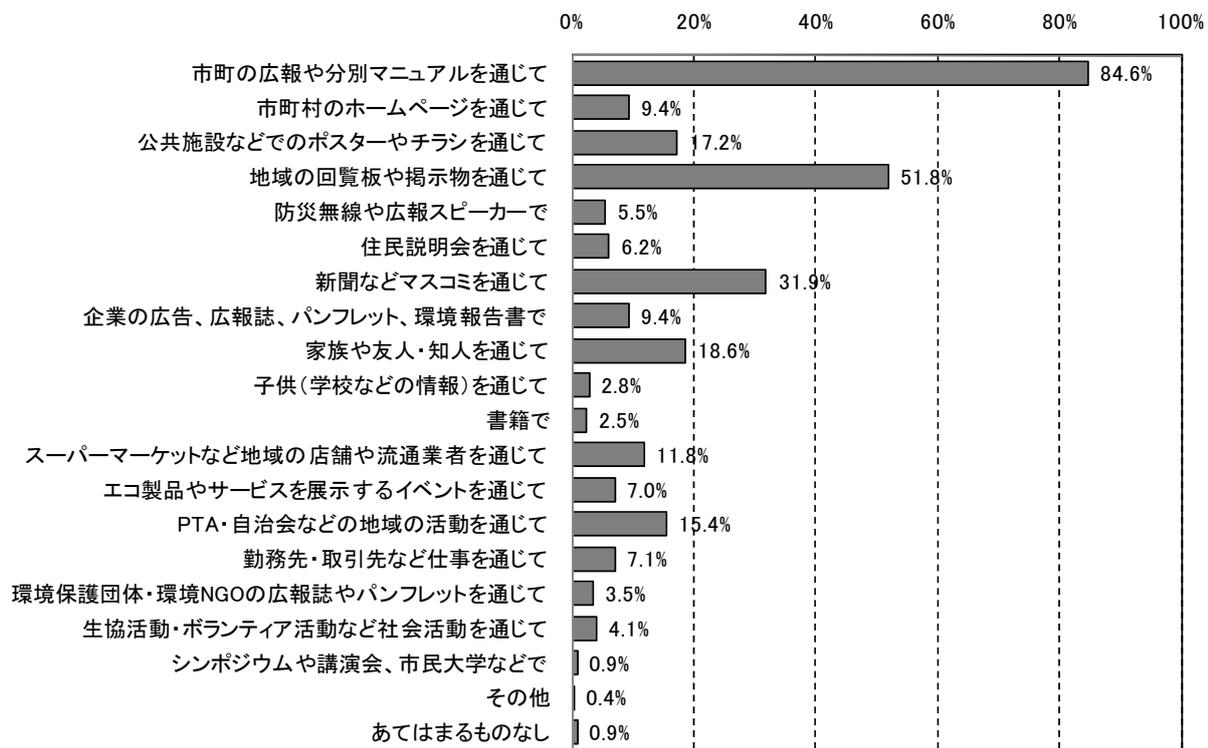


図 5-3-5 「情報をどのような方法で手に入れているか」回答率

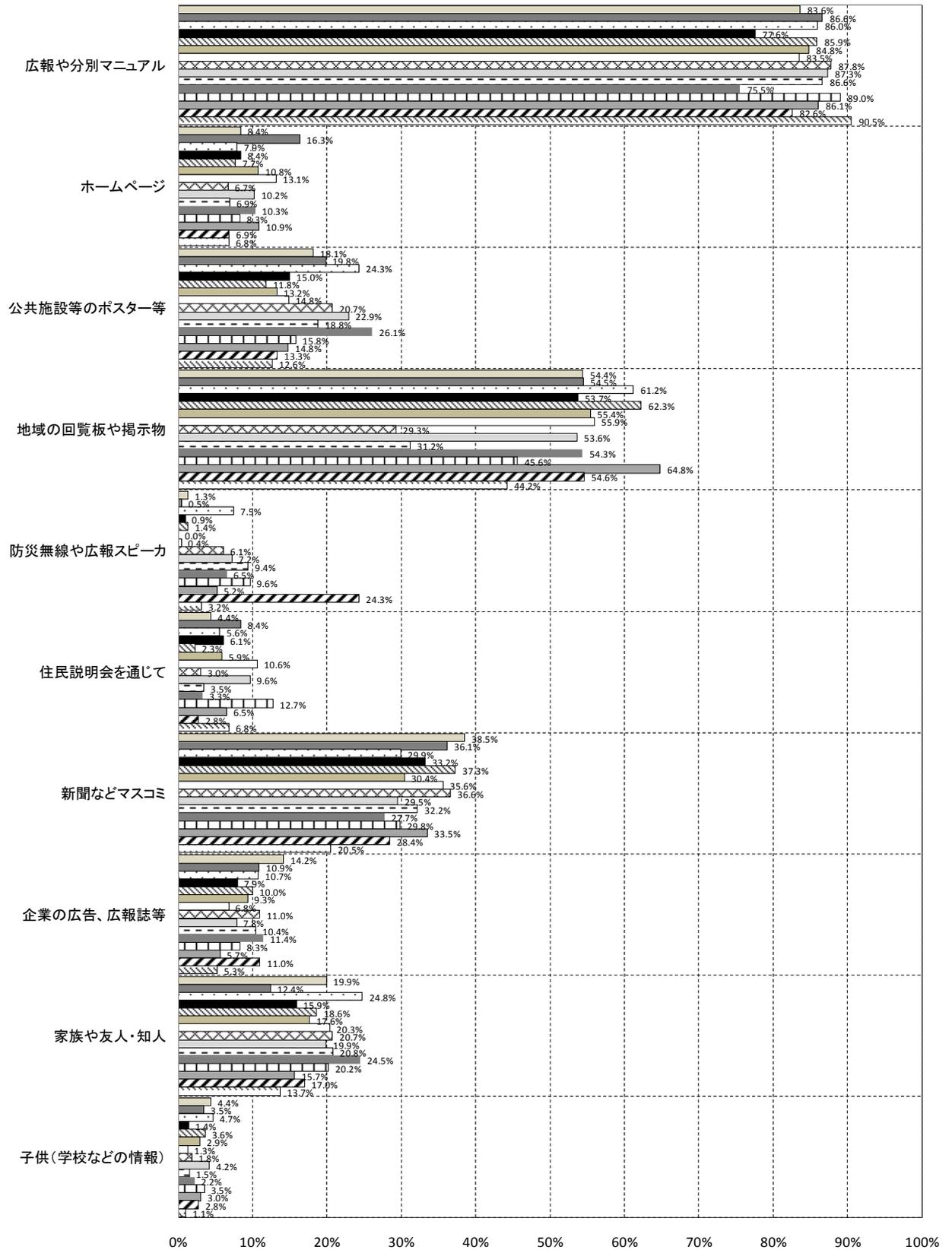
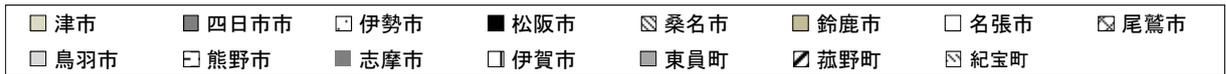


図 5-3-6 (1/2) 「情報をどのような方法で手に入れているか」市町別回答率

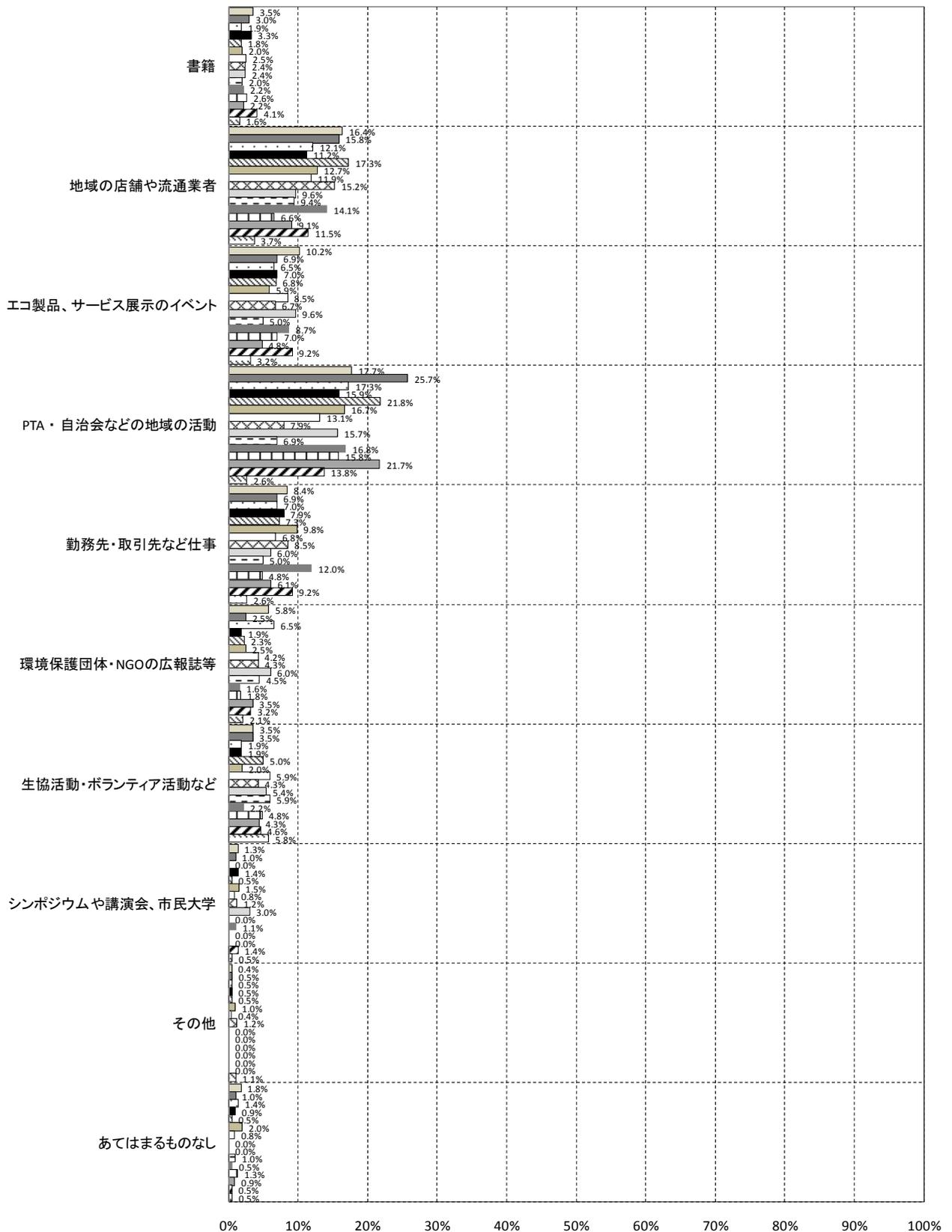
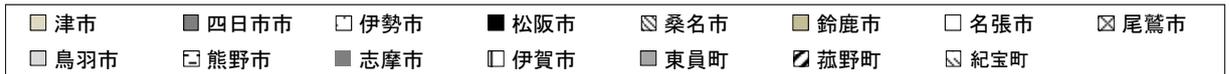


図 5-3-6 (2/2) 「情報をどのような方法で手に入れているか」市町別回答率

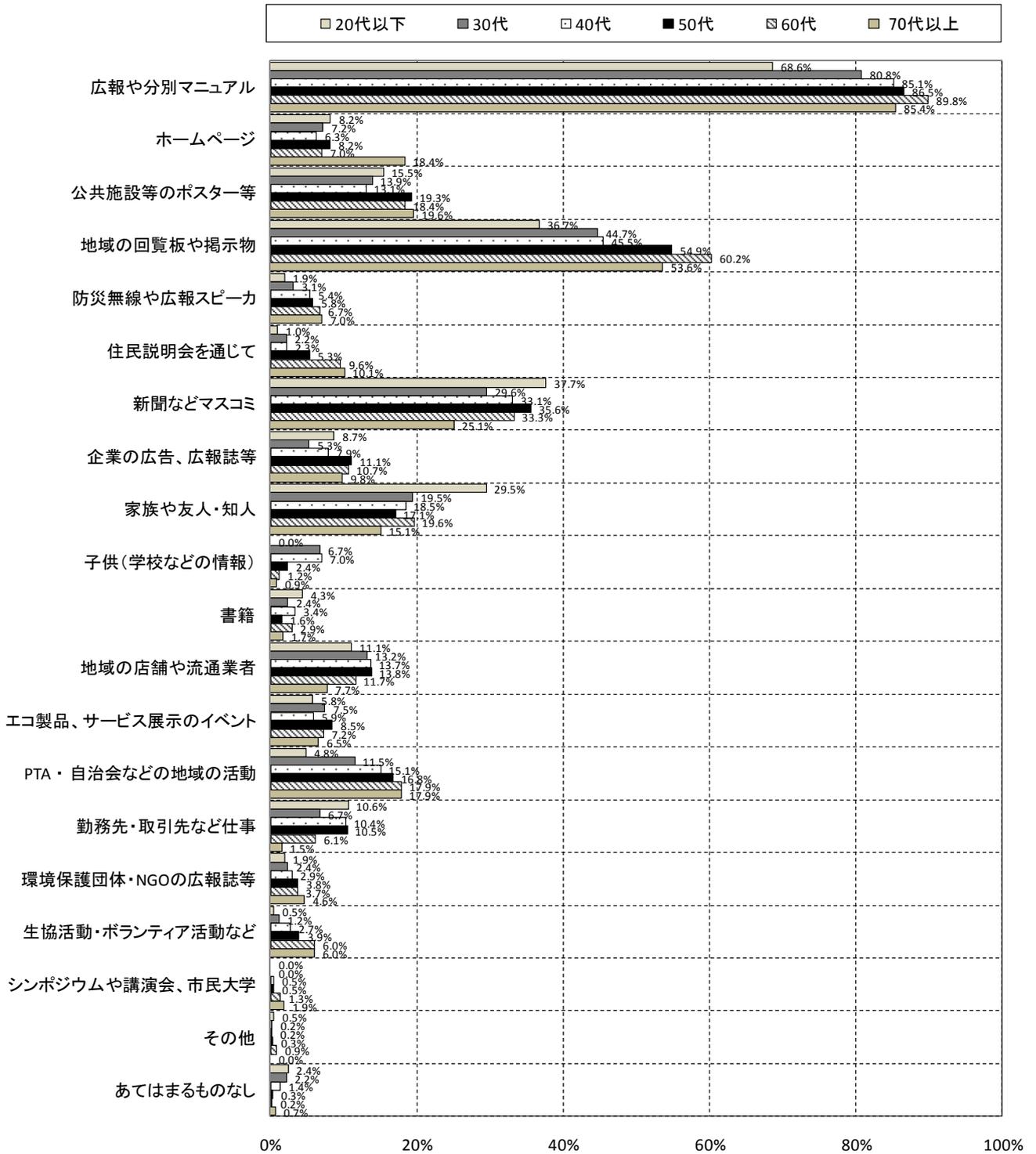


図 5-3-7 「情報をどのような方法で手に入れているか」年代別回答率

問 20 今後、ごみに関してどのような情報がほしいですか？（あてはまるものすべてに○）

「どのような情報がほしいか」については、「わかりやすい分別方法」の回答率が 59.1%と大きく、次いで「ごみの減量方法」が 38.6%、「市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況」が 24.6%となっている。  
 市町別については、「わかりやすい分別方法」は 41.5%から 74.6%の範囲にわたっており、「津市」（72.1%）、「伊賀市」（74.6%）では 70%を超えている。  
 年代別については、「わかりやすい分別方法」は 54.1%から 70.5%の範囲にわたっており、60代以下では、年代が低くなるほど高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	わかりやすい分別方法	1,863	59.1%
2	ごみ処理コスト	550	17.4%
3	ごみの減量方法	1,216	38.6%
4	地域の集団回収（資源回収）	645	20.5%
5	生ごみ処理機等の購入費助成制度	502	15.9%
6	ごみ減量・リサイクル推進活動団体の紹介	153	4.9%
7	ごみ減量・リサイクルに関する講座・セミナー	178	5.6%
8	ごみ減量によるCO <sub>2</sub> 削減量を表示するなど、地球温暖化防止効果の見える化	441	14.0%
9	市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況	776	24.6%
10	その他	66	2.1%
11	あてはまるものなし	184	5.8%
総回答数		6,574	208.4%
有効回答数		3,154	-

表 5-3-3 「どのような情報がほしいか」回答状況

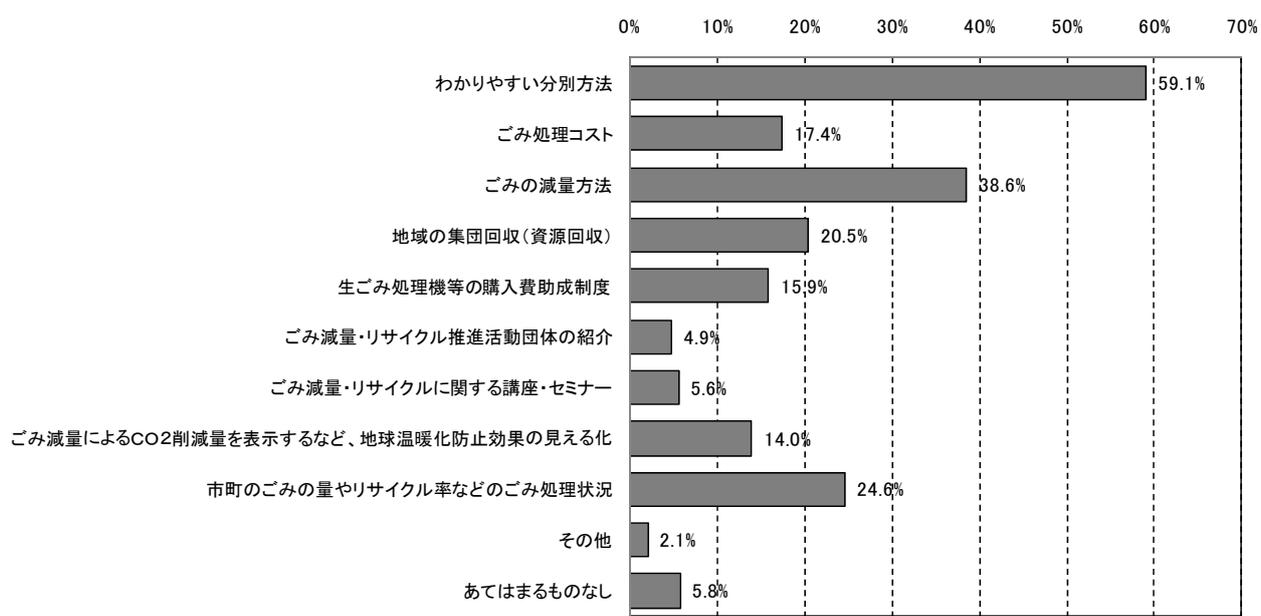


図 5-3-8 「どのような情報がほしいか」回答率

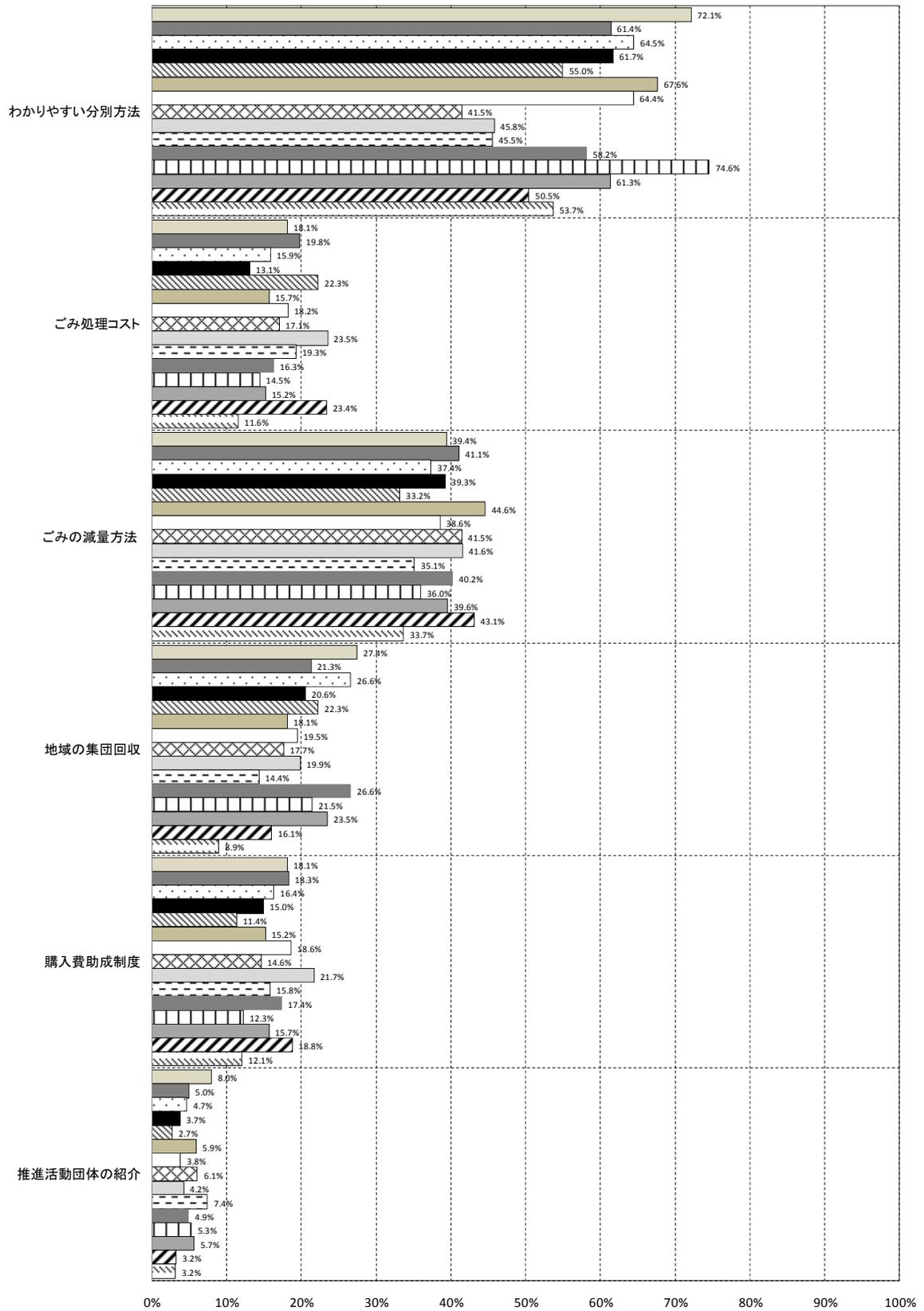
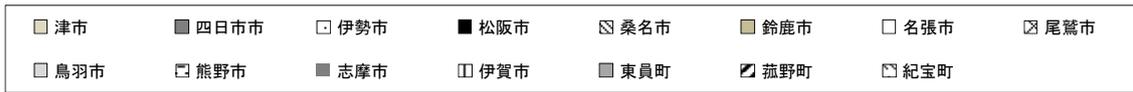


図 5-3-9 (1/2) 「どのような情報がほしいか」市町別回答率

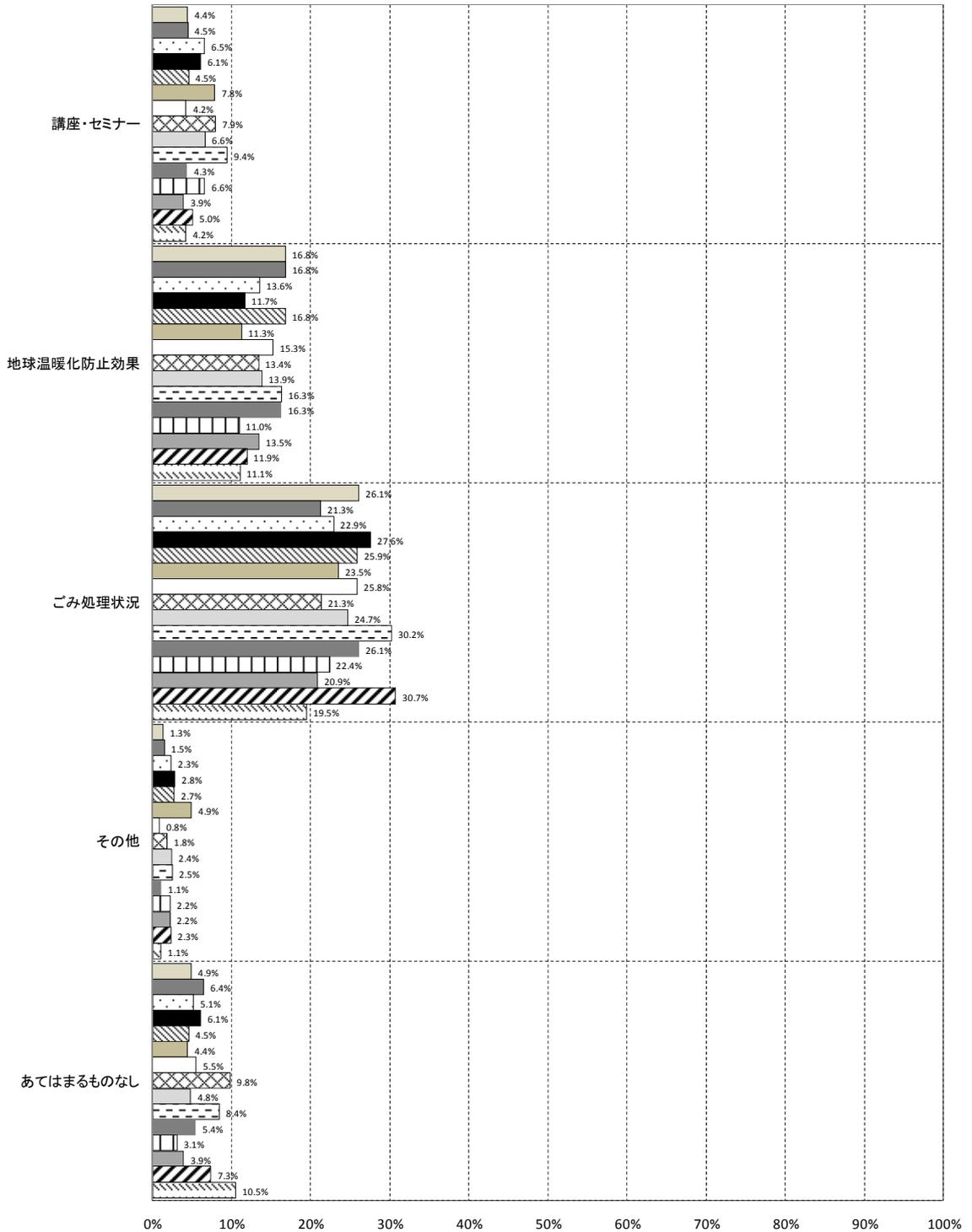
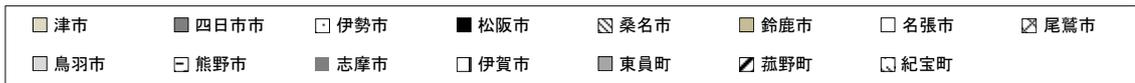


図 5-3-9 (2/2) 「どのような情報がほしいか」市町別回答率

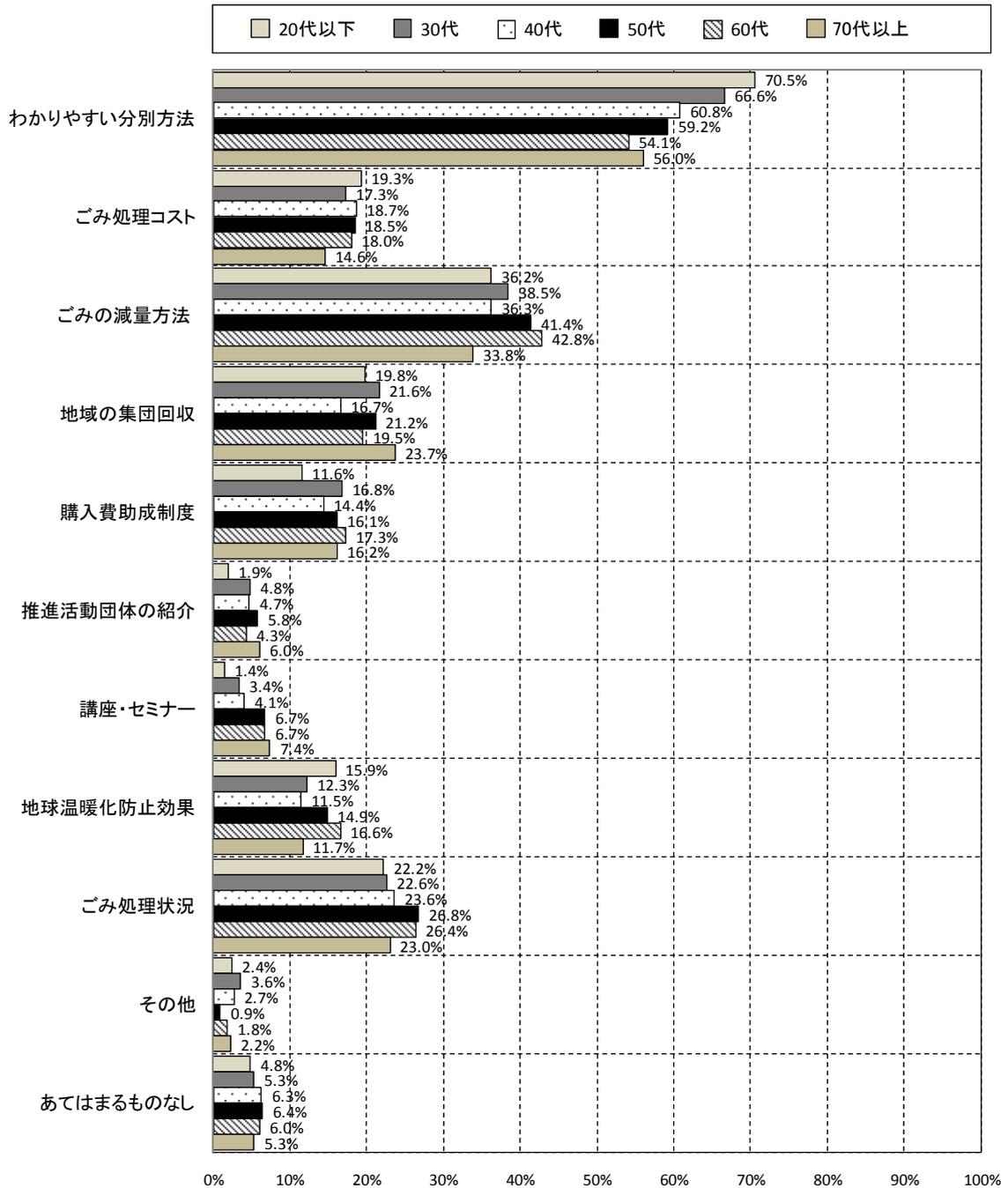


図 5-3-10 「どのような情報がほしいか」年代別回答率

問 21 イベント等において、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどのように思いますか？（〇は1つ）

「リユースカップ」については、「ぜひ使うべきである」と「できれば使った方がよい」の計が51.0%、「どちらかというと思ってほしくない」と「使うべきでない」の計が44.8%となっている。「賛成派」、「反対派」で、意見がわかれている。  
市町別及び年代別についても同じ傾向であるが、「20代以下」と「30代」では、「ぜひ使うべきである」がやや高い。  
分別行動別については、「分別にかかわらない」人は「使うべきでない」が高い。

① 単純集計

	選択肢	回答数	回答率
1	ぜひ使うべきである	396	12.6%
2	できれば使った方がよい	1,211	38.4%
3	どちらかというと思ってほしくない	1,113	35.3%
	使うべきでない	299	9.5%
99	無回答	135	4.3%
	有効回答数	3,154	100.0%

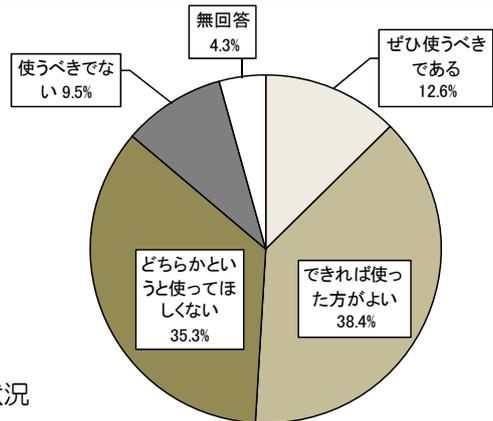


表 5-3-4 「リユースカップを使うことについて」回答状況

図 5-3-11 「リユースカップを使うことについて」回答率

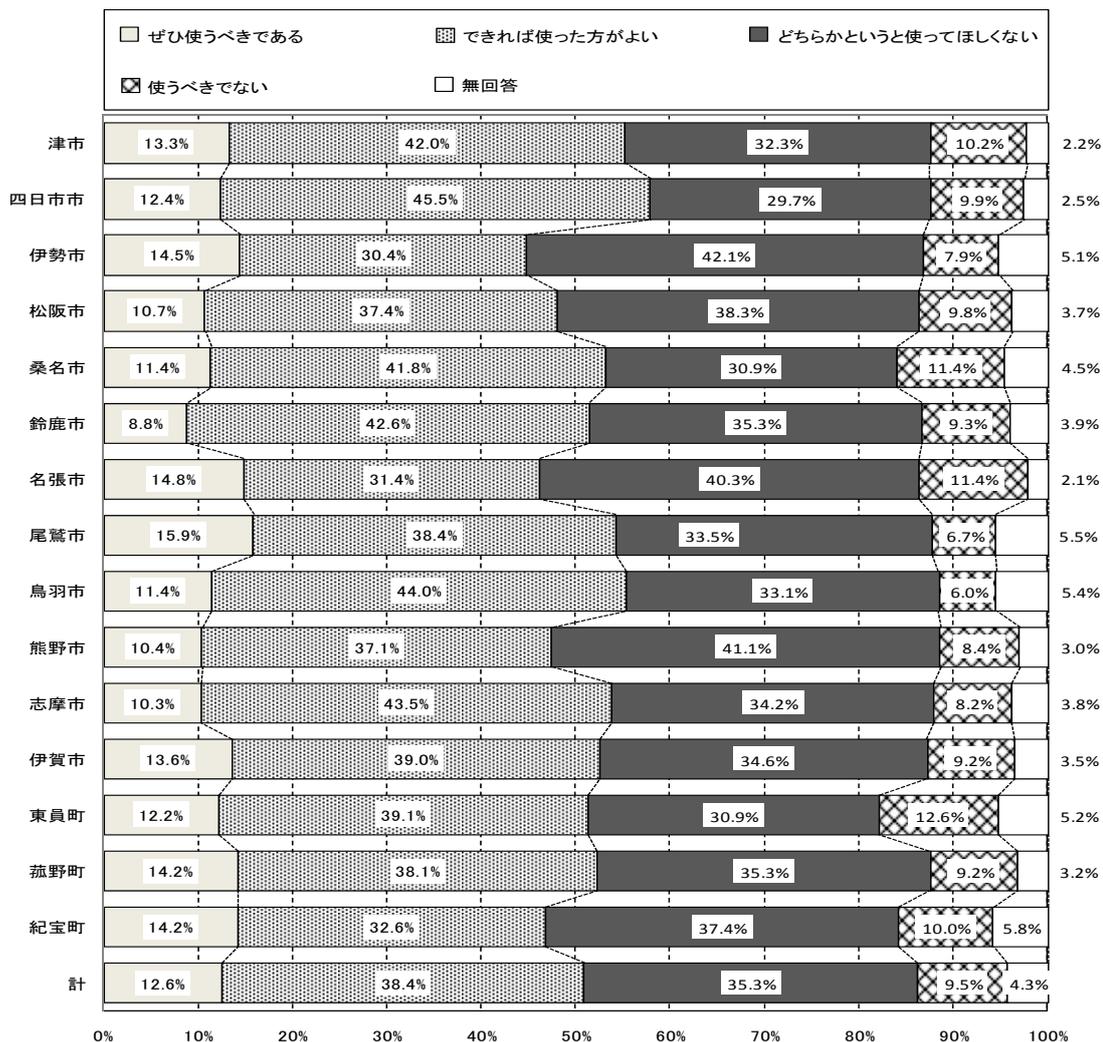


図 5-3-12 「リユースカップを使うことについて」市町別回答率

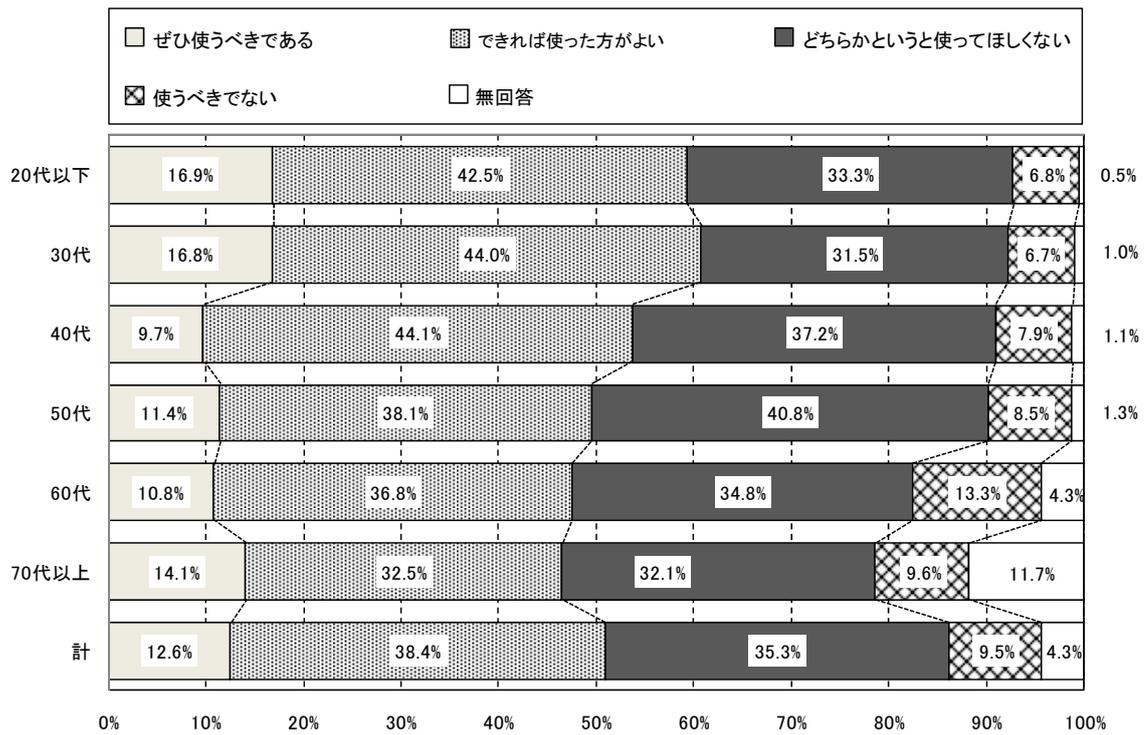


図 5-3-13 「リユースカップを使うことについて」年代別回答率

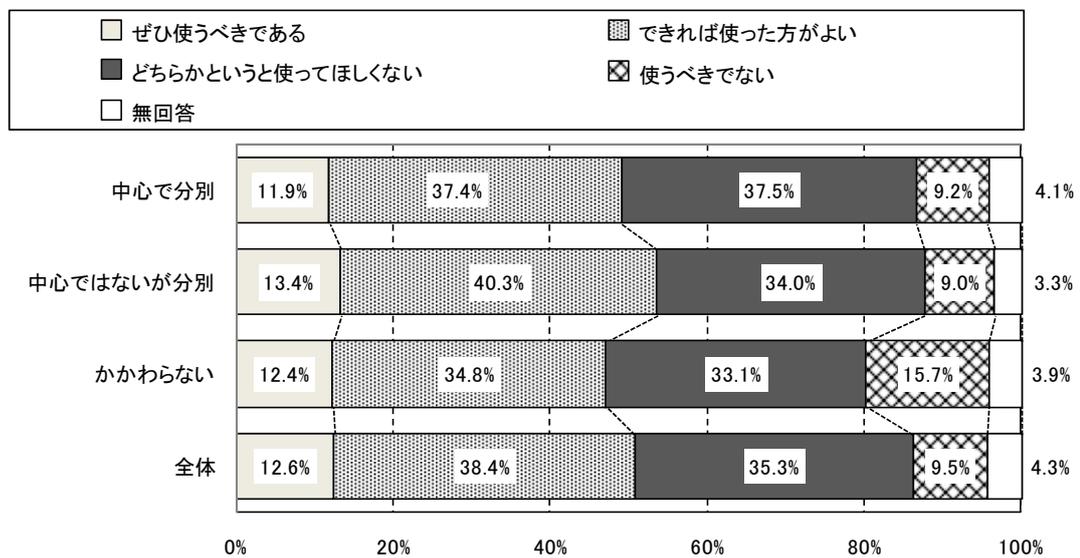


図 5-3-14 「リユースカップを使うことについて」別行動別回答率

問 22	(問 21 で「1  ぜひ使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ) 「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？ (あてはまるものすべてに○)
------	--

「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由については、「資源の有効利用につながるから（使い捨てコップはもったいない）」と「ごみの減量化につながるから」の回答率が約 8 割となっている。

市町別については、大きな偏りはみられない。

年代別については、「資源の有効利用につながるから（使い捨てコップはもったいない）」「ごみの減量化につながるから」は年代が低くなるほど高くなる傾向にある。

分別行動別については、どの項目も分別にかかわる人の回答率が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	資源の有効利用につながるから（使い捨てコップはもったいない）	1,253	78.0%
2	ごみの減量化につながるから	1,354	84.3%
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	490	30.5%
4	環境問題への意識向上に役立つから	696	43.3%
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから	31	1.9%
6	その他	28	1.7%
7	特にない	3	0.2%
総回答数		3,855	239.9%
有効回答数		1,607	100.0%

表 5-3-5 「『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答状況

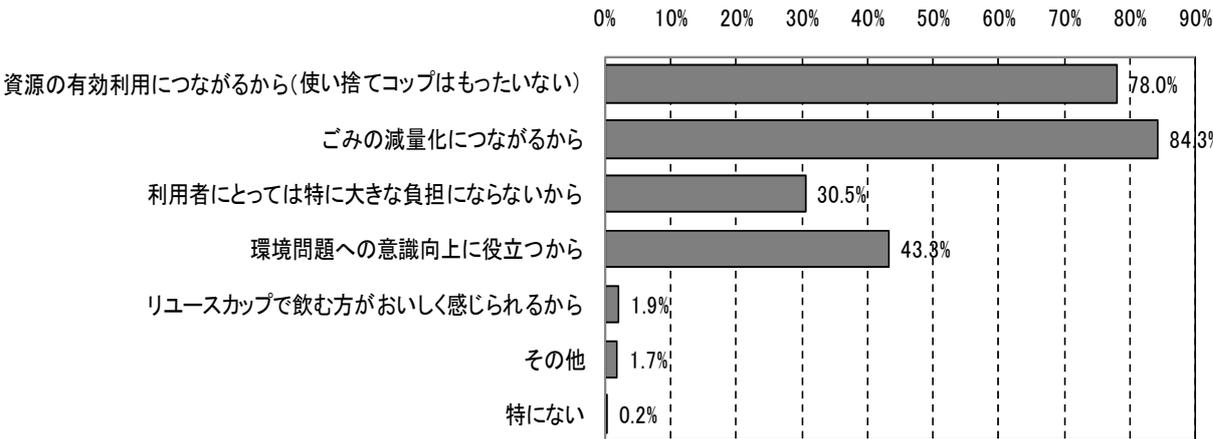


図 5-3-15 「『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答率

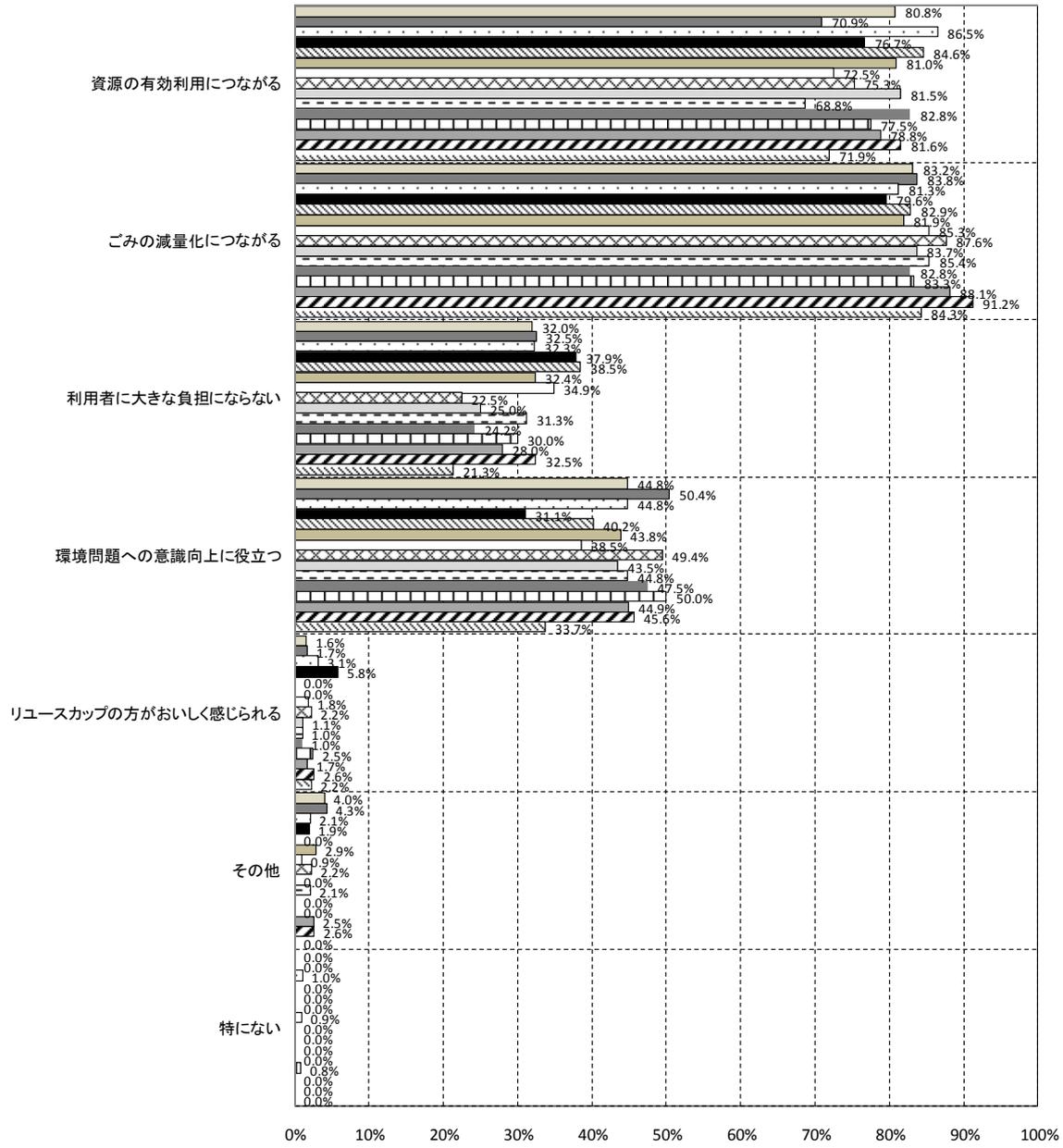
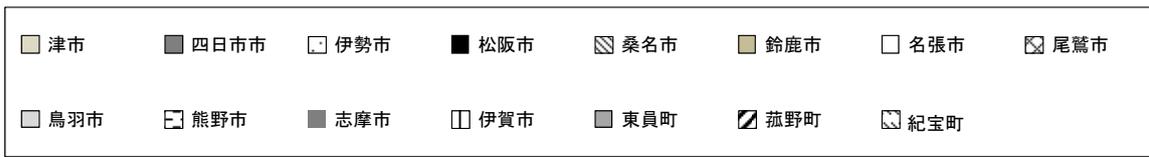


図 5-3-16 「『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」市町別回答率

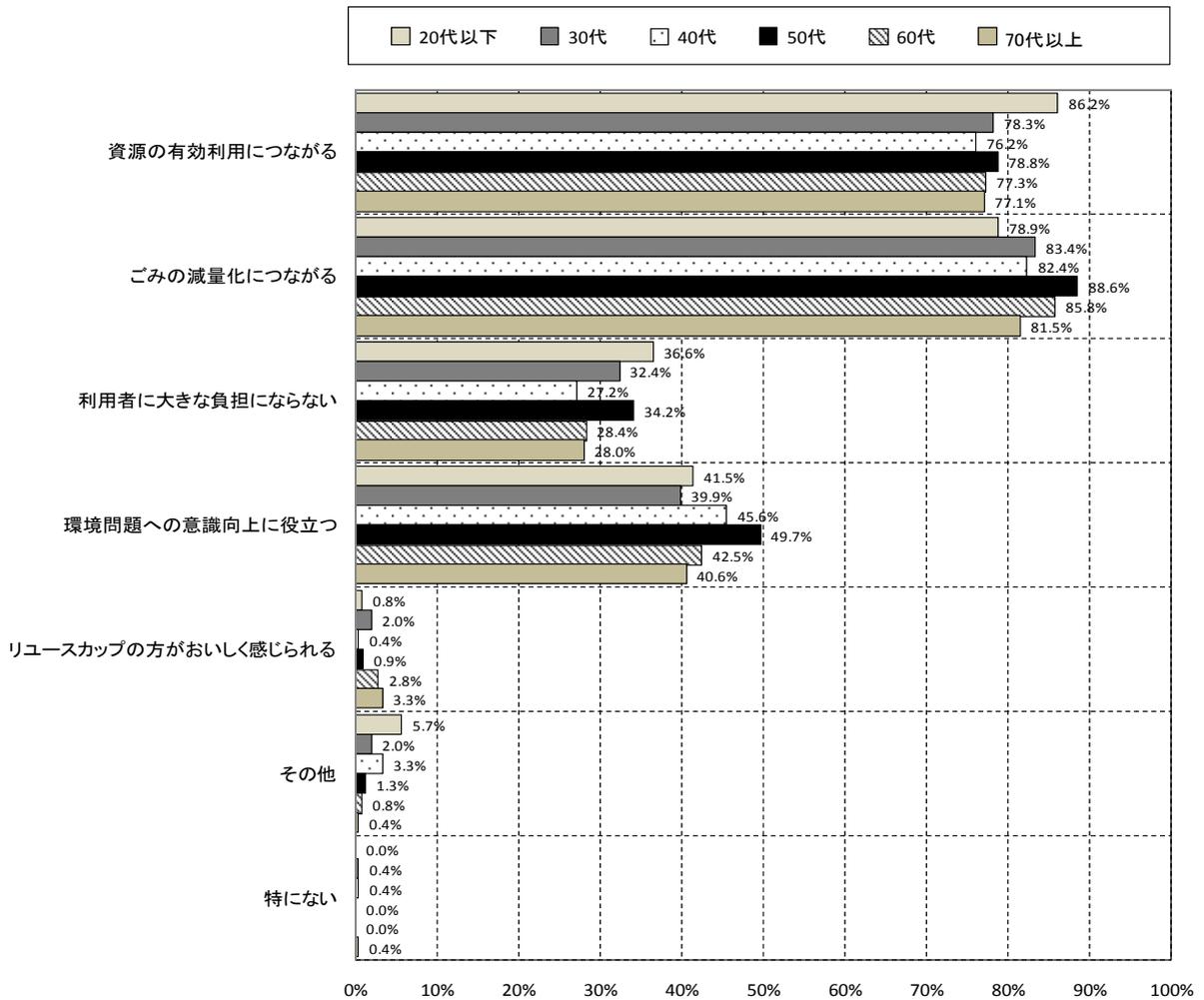


図 5-3-17 「『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」年代別回答率

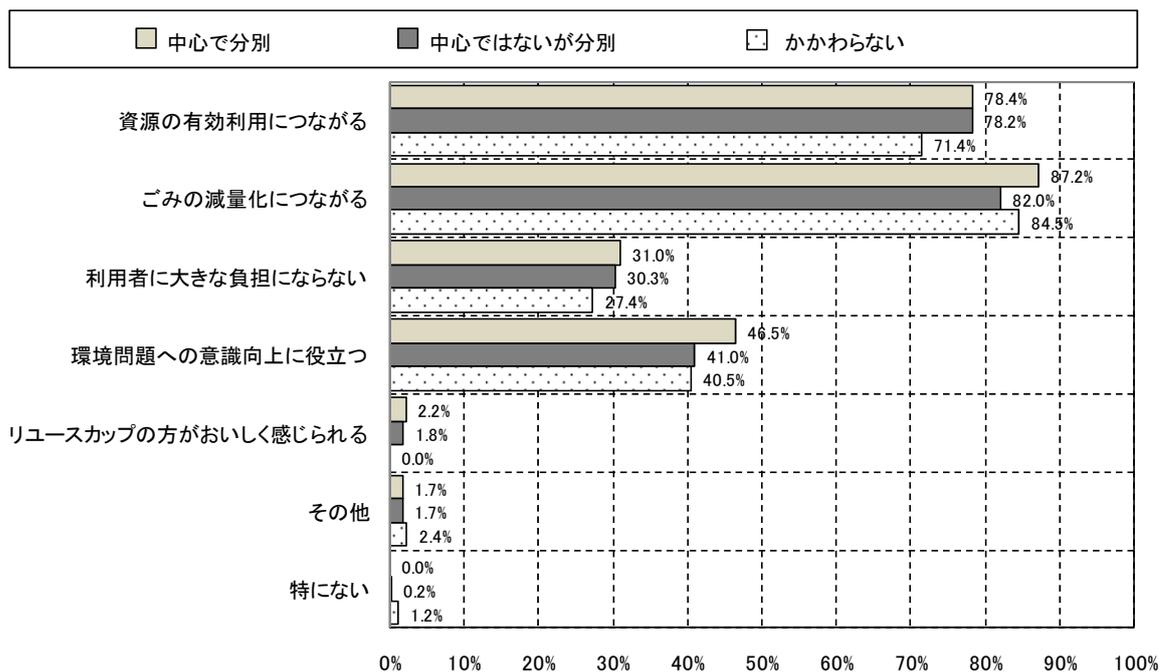


図 5-3-18 「『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」分別行動別回答率

問 23	(問 21 で「3 どちらかというと思ってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ) 「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由はなんで すか? (あてはまるものすべてに○)
------	--

「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由については、「衛生上の不安があるから」の回答率が89%と高くなっている。

市町別については、大きな偏りはみられない。

年代別については、「衛生上の不安があるから」は、50代から60代が高い。

分別行動別については、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	指定場所への返却など、手間がかかるから	107	7.6%
2	商品の値上げにつながる可能性があるから	42	3.0%
3	衛生上の不安があるから	1,257	89.0%
4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから	595	42.1%
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから	95	6.7%
6	その他	57	4.0%
7	特になし	9	0.6%
総回答数		2,162	153.1%
有効回答数		1,412	100.0%

表 5-3-6 「『どちらかというと思ってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答状況

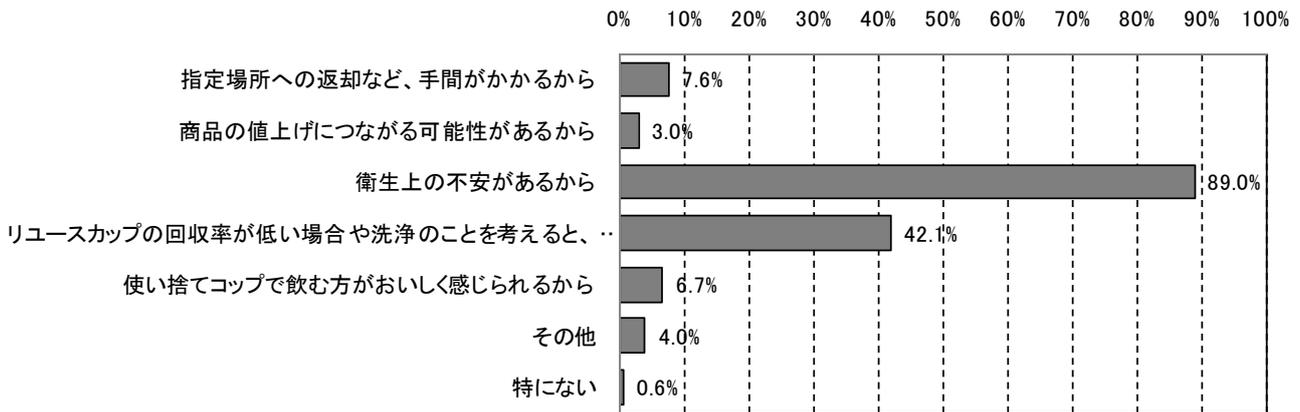


図 5-3-19 「『どちらかというと思ってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答率

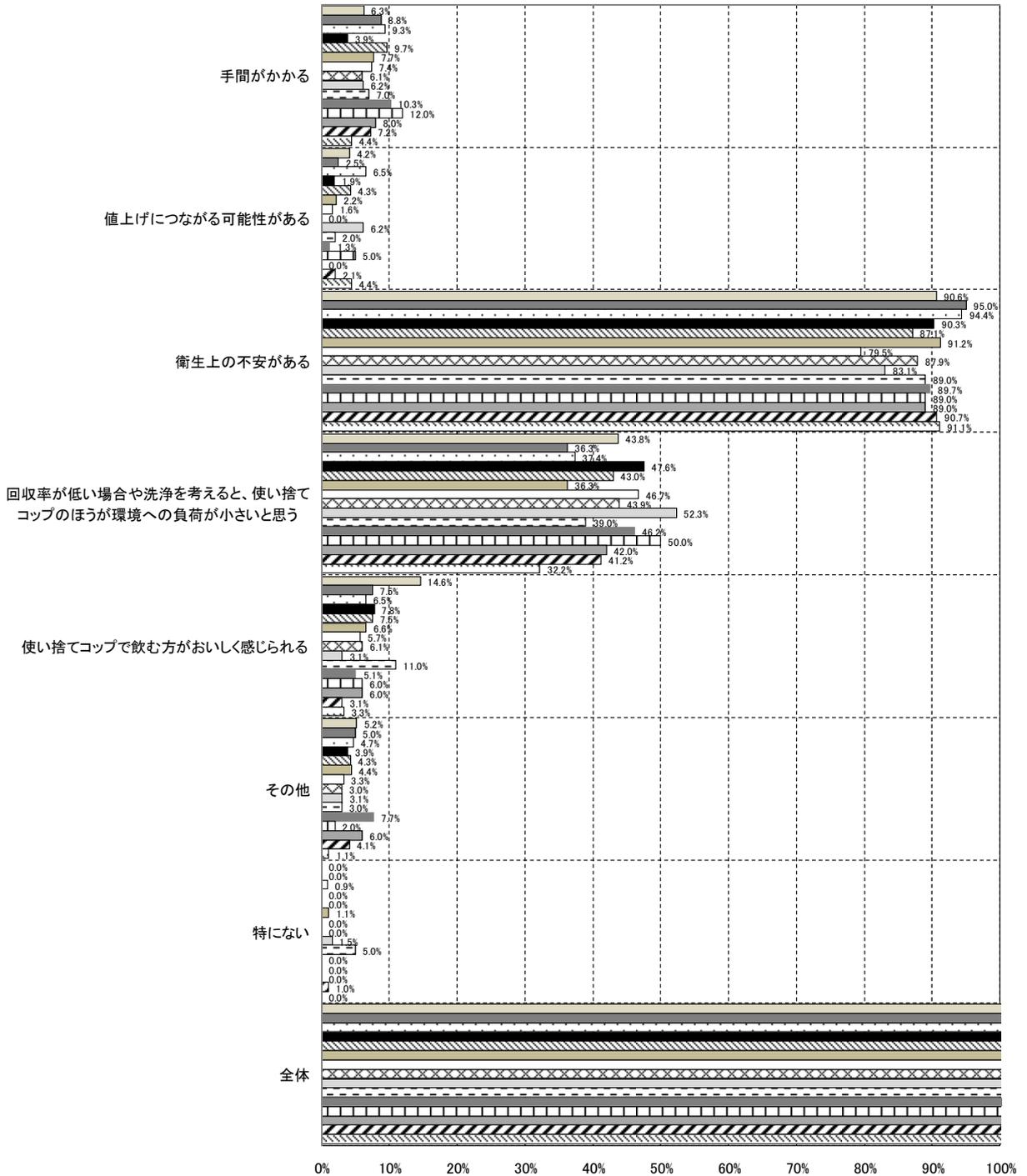
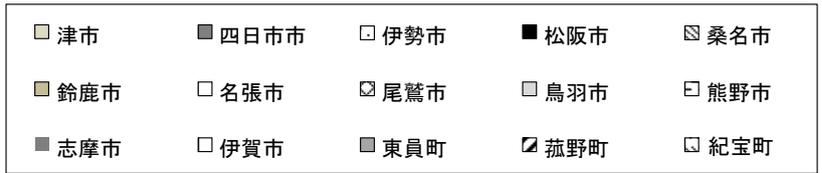


図 5-3-20 「『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」市町別回答率

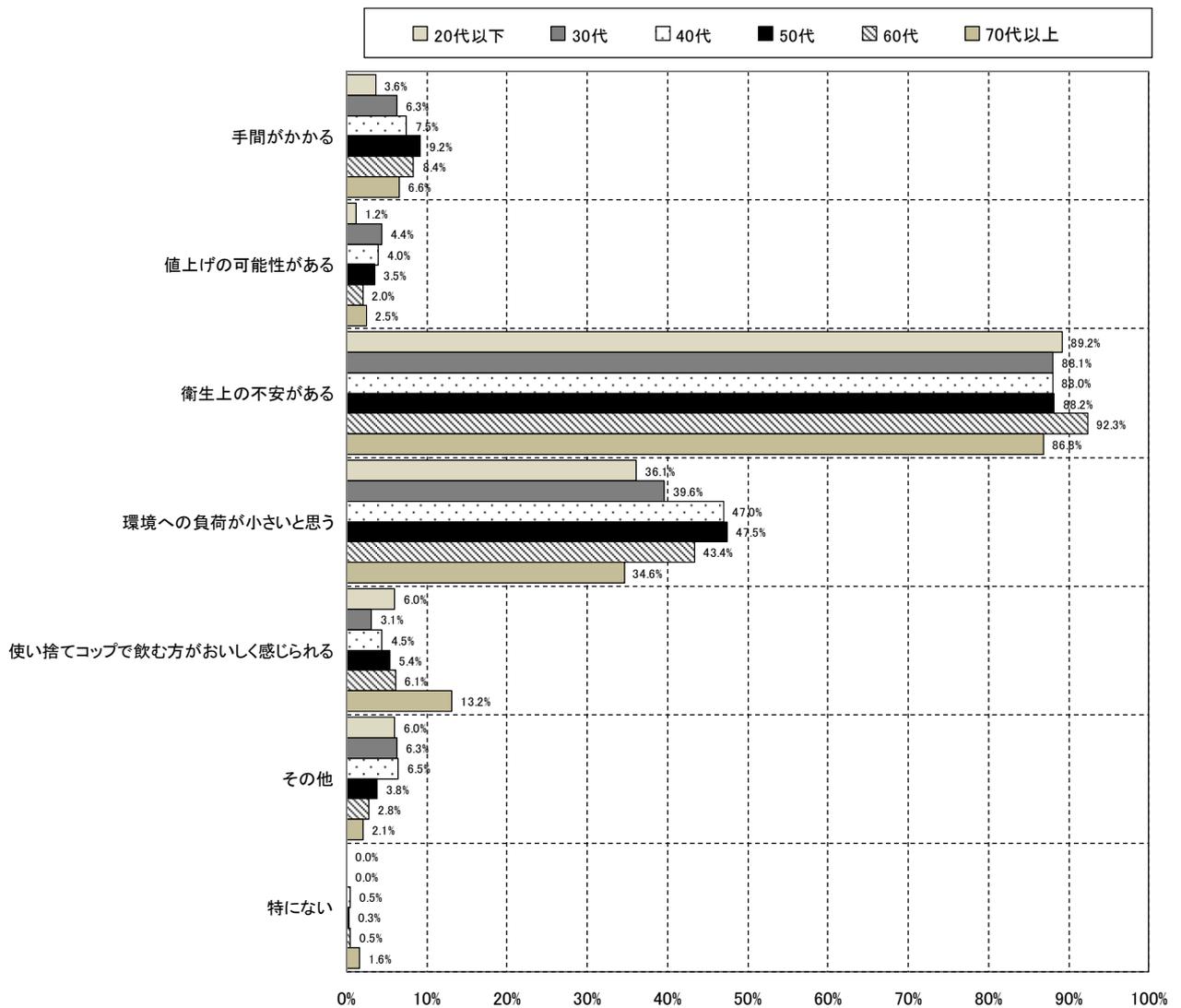


図 5-3-21 「『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」年代別回答率

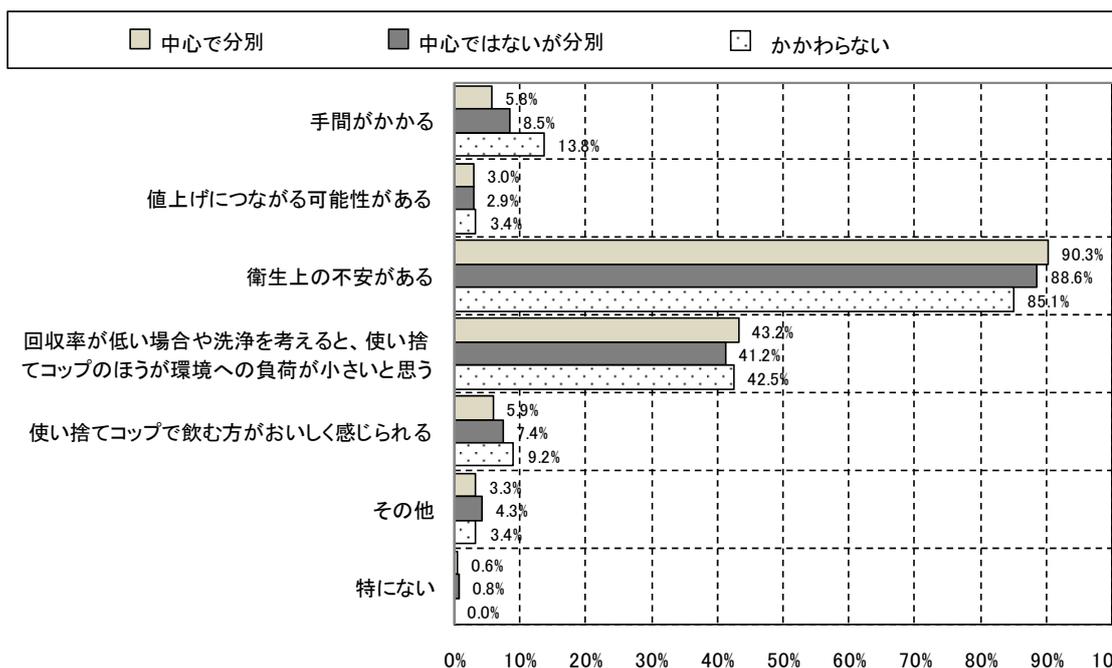


図 5-3-22 「『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」分別行動別回答率

問 24 家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？（〇は1つ）

「ごみ処理費用を知っているか」については、「あまり知らない」、「まったく知らない」の計が88.3%となっている。  
 市町別では、上記の計が84.2%から92.9%であり、大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が79.4%から94.2%であり、年代が低い方が知らない傾向がみられる。  
 分別行動別では、上記の計が87.6%から89.9%となっており、特に「分別にかかわらない」では、「まったく知らない」が71.3%と非常に高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	81	2.6%
2	少し知っている	251	8.0%
3	あまり知らない	1106	35.1%
4	まったく知らない	1677	53.2%
99	無回答	39	1.2%
有効回答数		3,154	100.0%

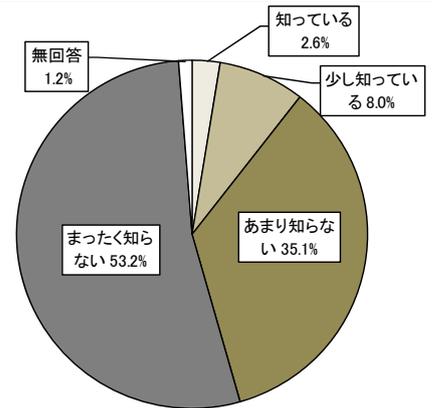


表 5-3-7 「ごみ処理費用を知っているか」回答状況

図 5-3-23 「ごみ処理費用を知っているか」回答率

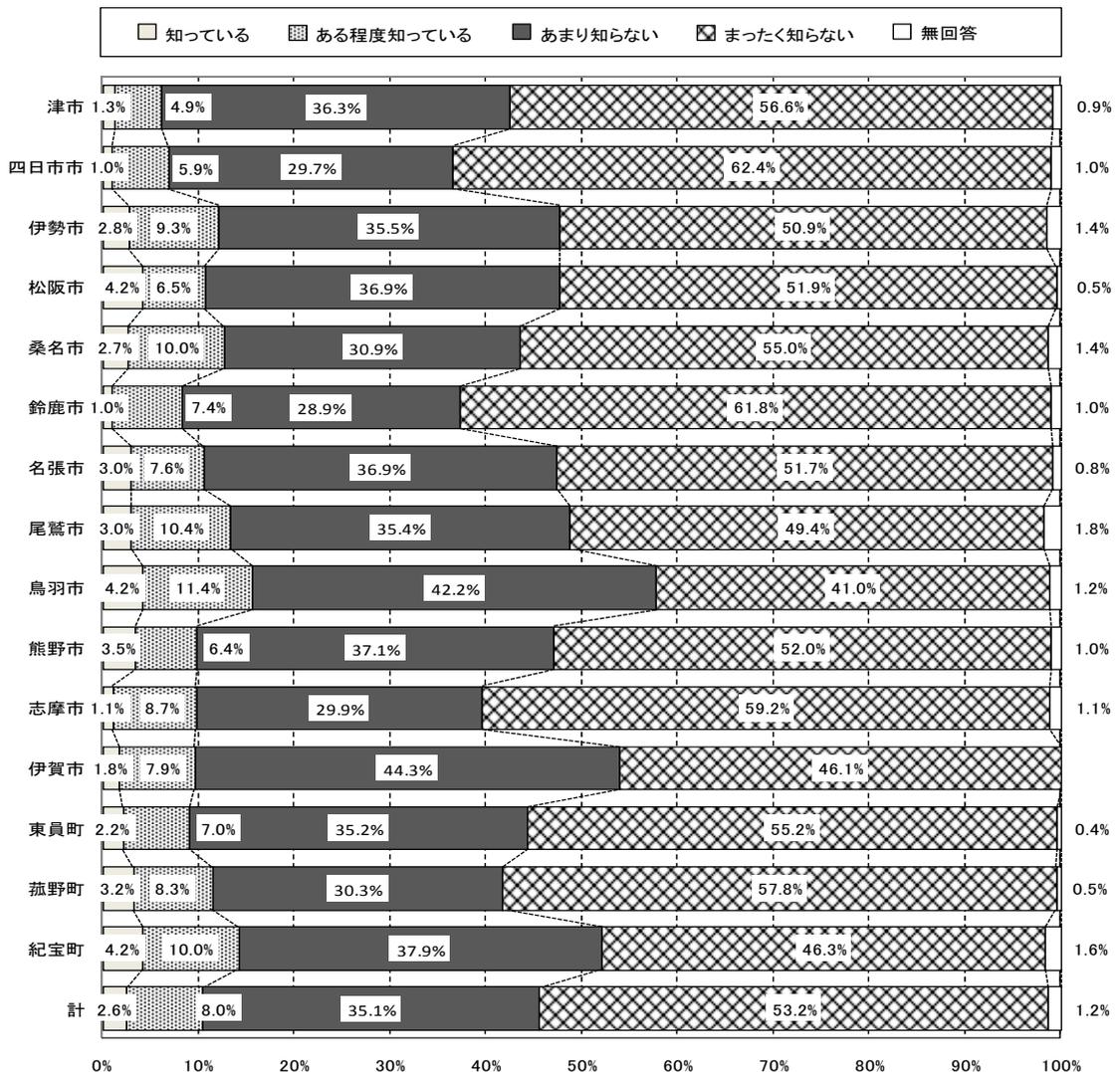


図 5-3-24 「ごみ処理費用を知っているか」市町別回答率

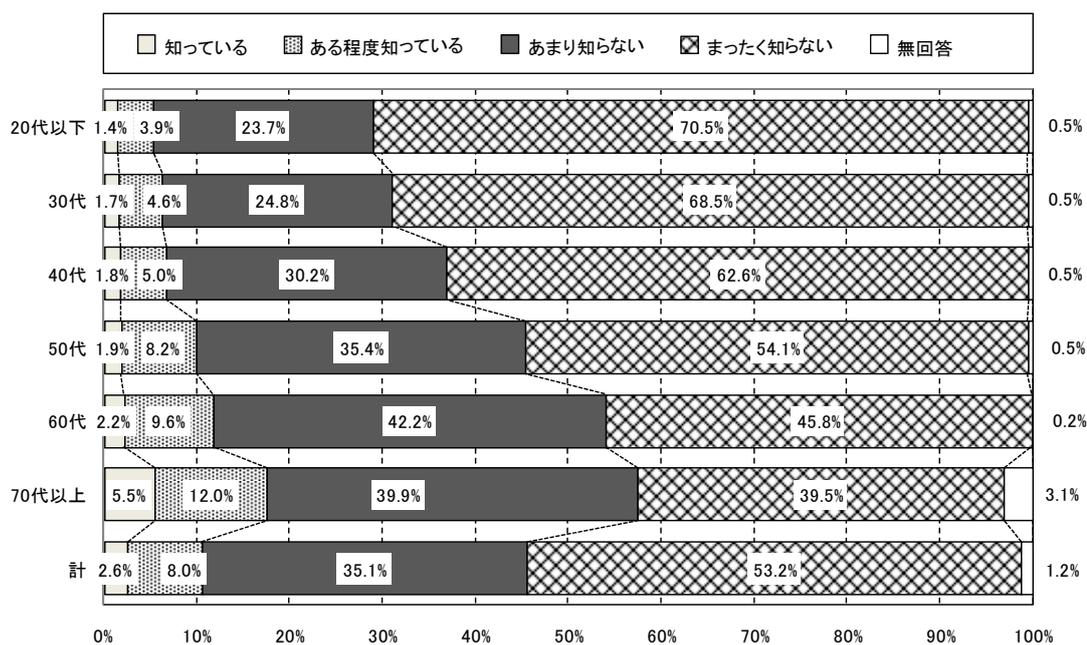


図 5-3-25 「ごみ処理費用を知っているか」年代別回答率

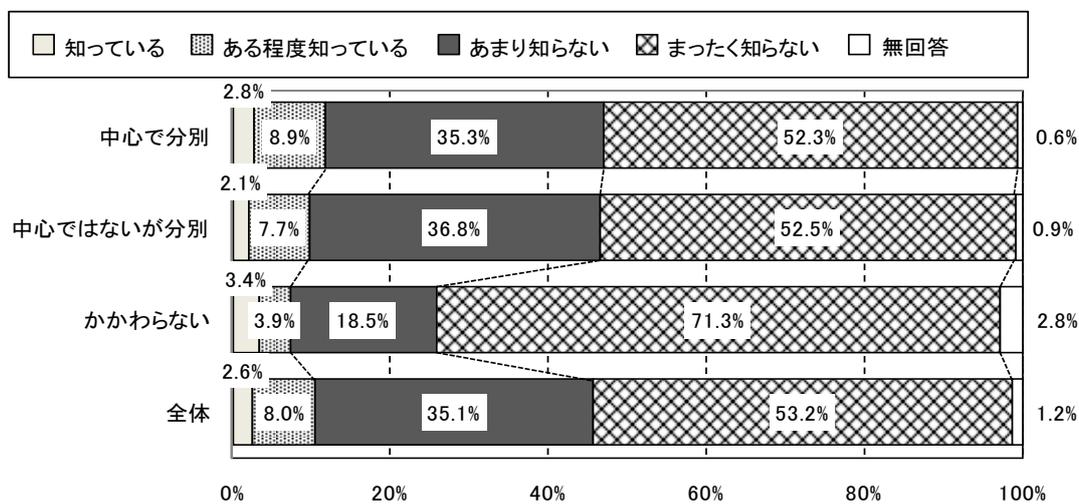


図 5-3-26 「ごみ処理費用を知っているか」分別行動別回答率

問 25	<p>増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えています。</p> <p>税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？（〇は1つ）</p>
------	---

「税金を使ってごみ処理を行うこと」については、「最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい」が46.8%と高くなっている。市町別では、上記が38.4%から51.8%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記が41.5%から50.3%であり、大きな隔たりはみられない。分別行動別では、上記が37.1%から48.9%であり、「分別にかかわらない」ほど低くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい	773	24.5%
2	最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい	1,475	46.8%
3	ごみ処理費用はごみの量に応じて出す人が負担する仕組みとすることで、これまでごみ処理に使っていた税金を福祉や教育などにまわすのがよい	372	11.8%
4	よくわからない	403	12.8%
99	その他	53	1.7%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-3-8 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答状況

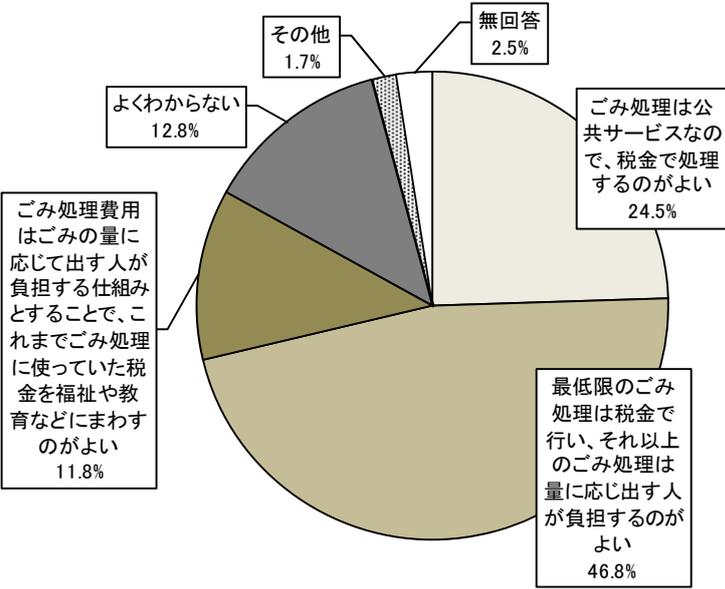


図 5-3-27 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答率

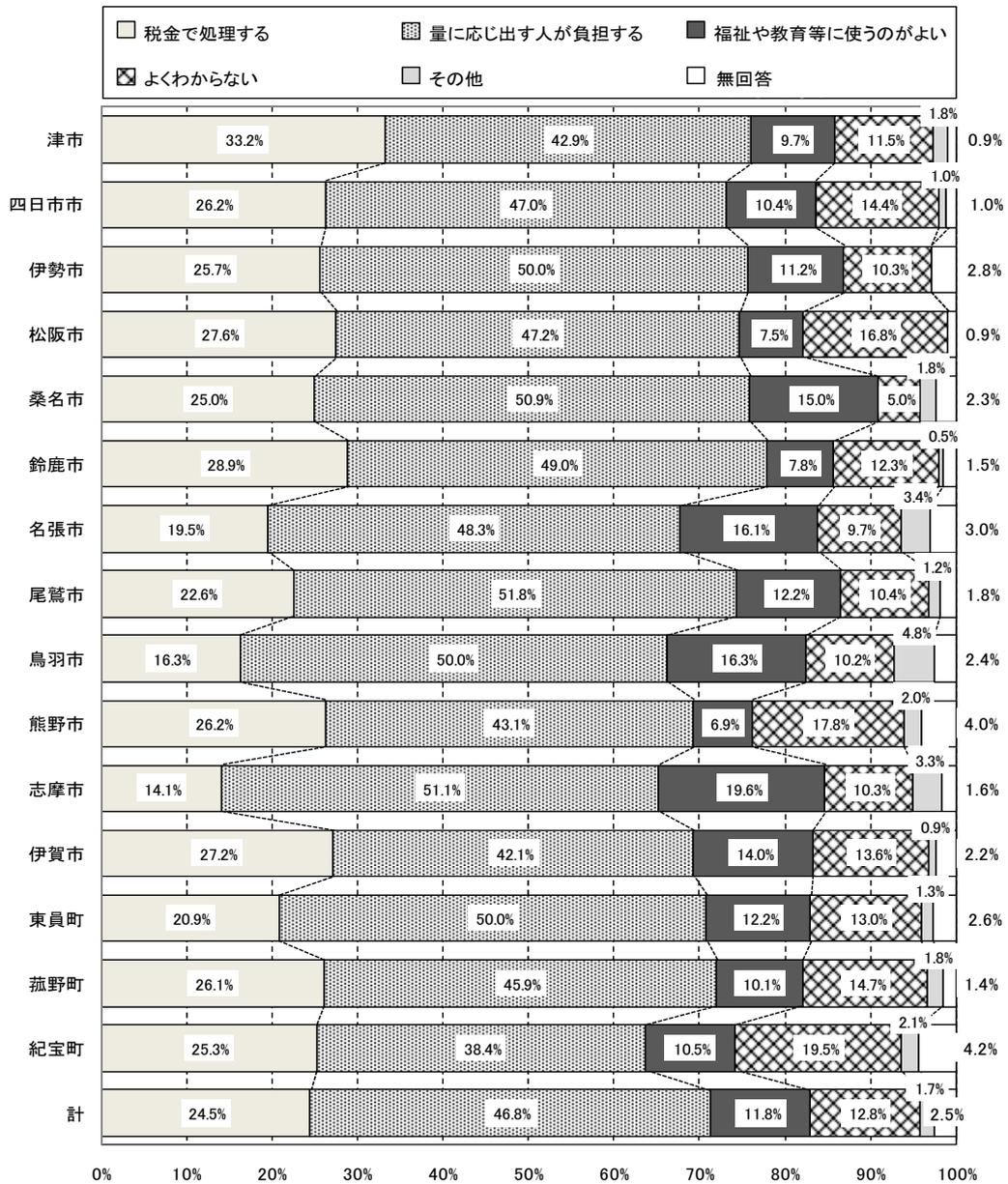


図 5-3-28 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」市町別回答率

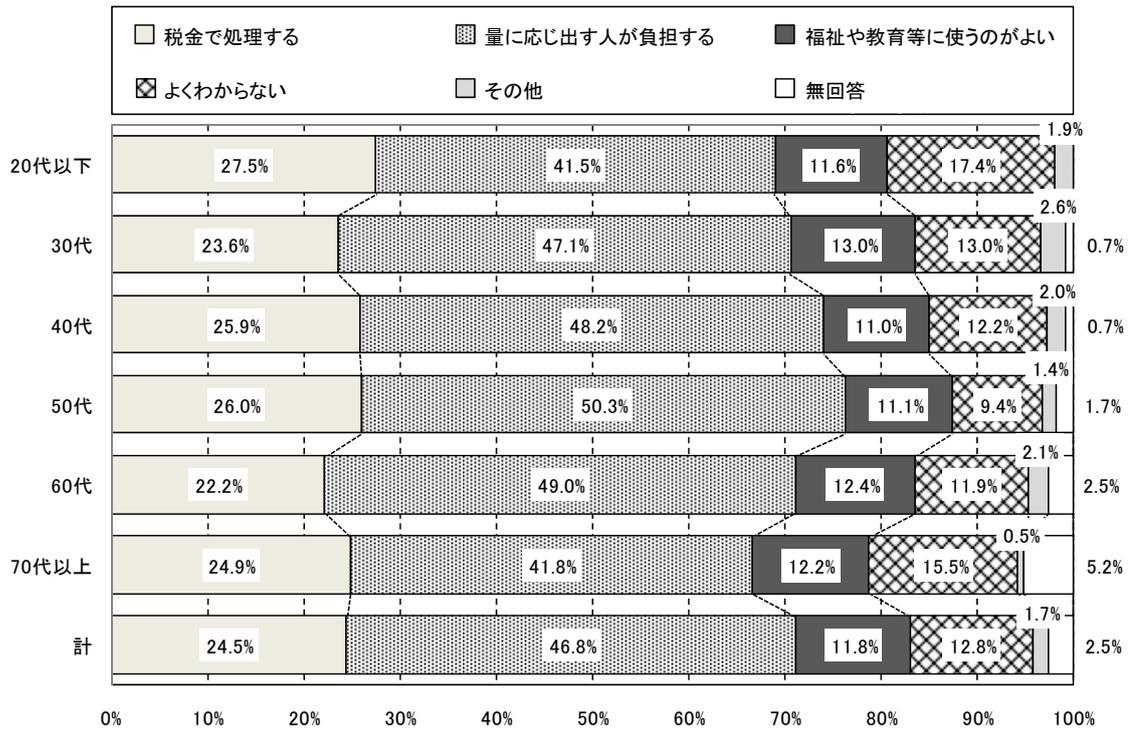


図 5-3-29 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」年代別回答率

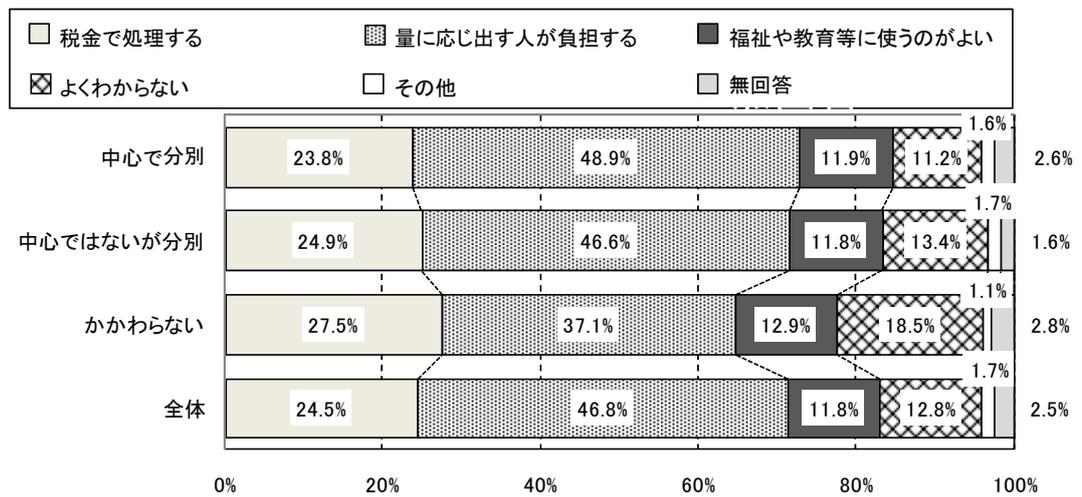


図 5-3-30 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」分別行動別回答率

問 26 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？（〇は1つ）

「ごみの有料化」については、「賛成」と「どちらかという賛成」の計が 66.5%となっている。  
 市町別では、上記の計が 56.8%から 81.5%であり、志摩市では 8 割以上（81.5%）を占めている。  
 年代別では、上記の計が 65.2%から 68.0%であり、大きな隔たりはみられない。  
 分別行動別では、上記の計が 61.2%から 67.8%となっており、分別に関わる人ほど大きくなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	賛成	744	23.6%
2	どちらかという賛成	1,353	42.9%
3	どちらかという反対	644	20.4%
4	反対	309	9.8%
5	無回答	104	3.3%
有効回答数		3,154	100.0%

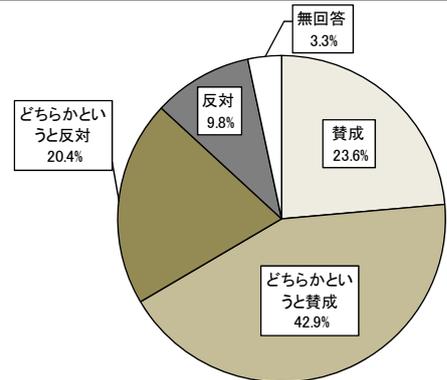


表 5-3-9 「ごみの有料化について」回答状況

図 5-3-31 「ごみの有料化について」回答率

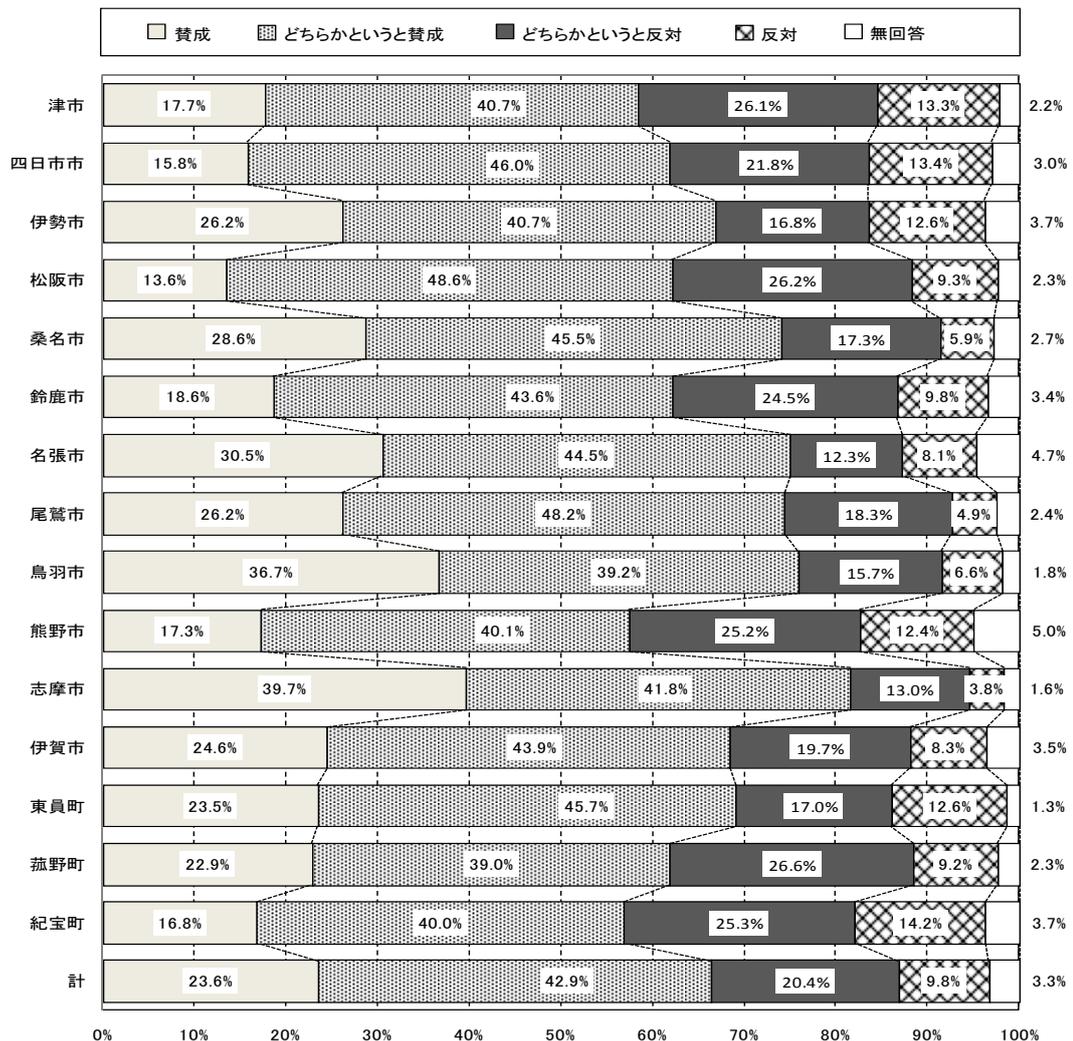


図 5-3-32 「ごみの有料化について」市町別回答率

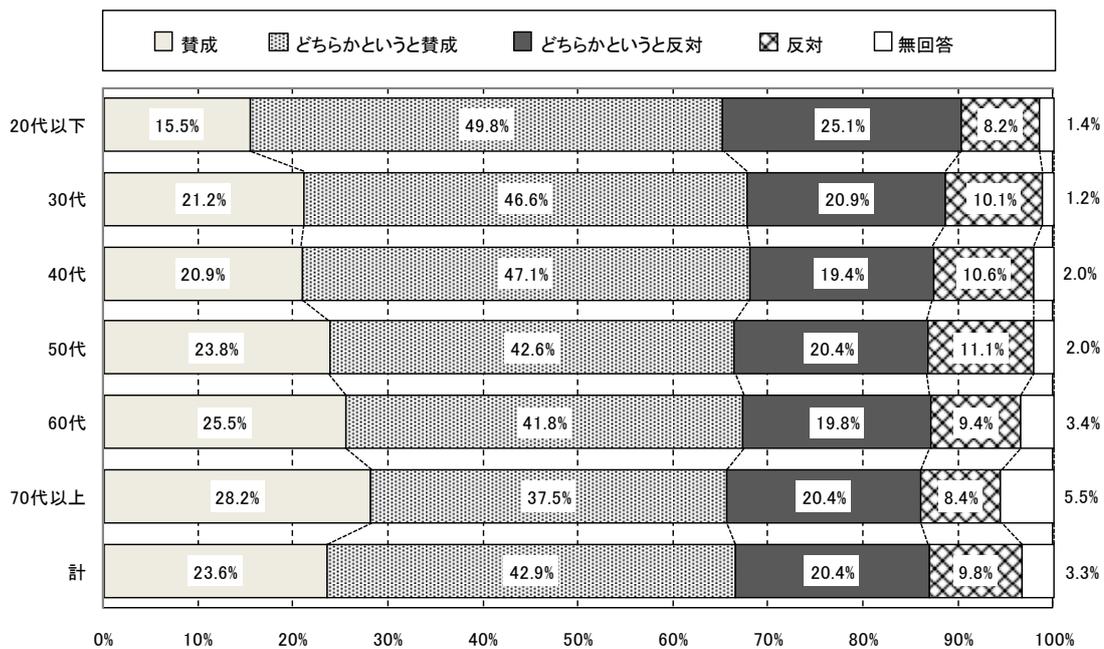


図 5-3-33 「ごみの有料化について」年代別回答率

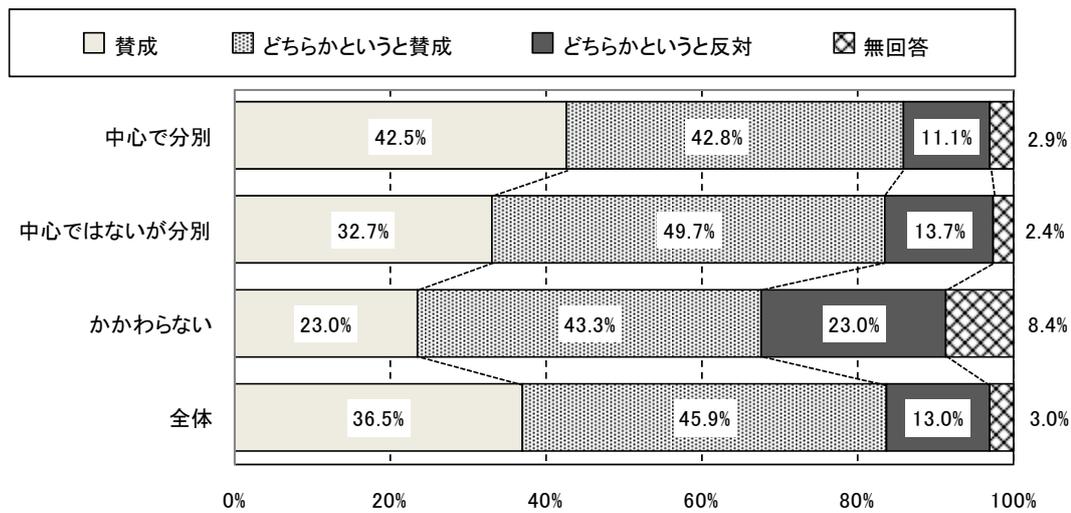


図 5-3-34 「ごみの有料化について」分別行動別回答率

問 27	ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？（〇は3つまで）
------	--

「有料化を検討する場合、重視すべきこと」については、「家計への負担が少ない料金とすること」の回答率が一番高く52.0%となっており、次いで「ルール違反（不法投棄など）を許さないこと」（42.2%）、「ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること」（36.8%）となっている。

市町別については、大きな隔たりはみられない。

年代別については、「家計への負担が少ない料金とすること」が「70代以上」の42.6%から「20代以下」の63.3%と年代が低いほど高くなっている。

分別行動別では、「家計への負担が少ない料金とすること」は「かかわらない」が高く、60.7%になっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なくみとすること	1,092	34.6%
2	家計への負担が少ない料金とすること	1,641	52.0%
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびにある程度の負担が感じられる料金とすること	404	12.8%
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること	669	21.2%
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	1,017	32.2%
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	1,160	36.8%
7	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	1,332	42.2%
8	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること	715	22.7%
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	338	10.7%
10	その他	59	1.9%
総回答数		8,427	267.2%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-3-10 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答状況

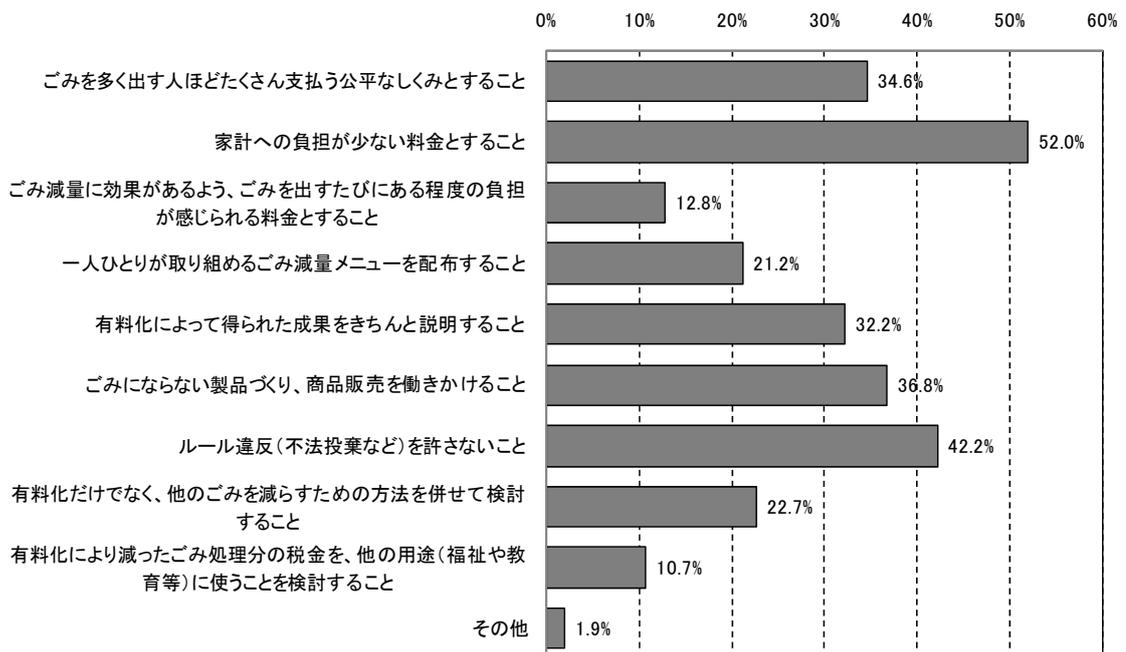


図 5-3-35 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

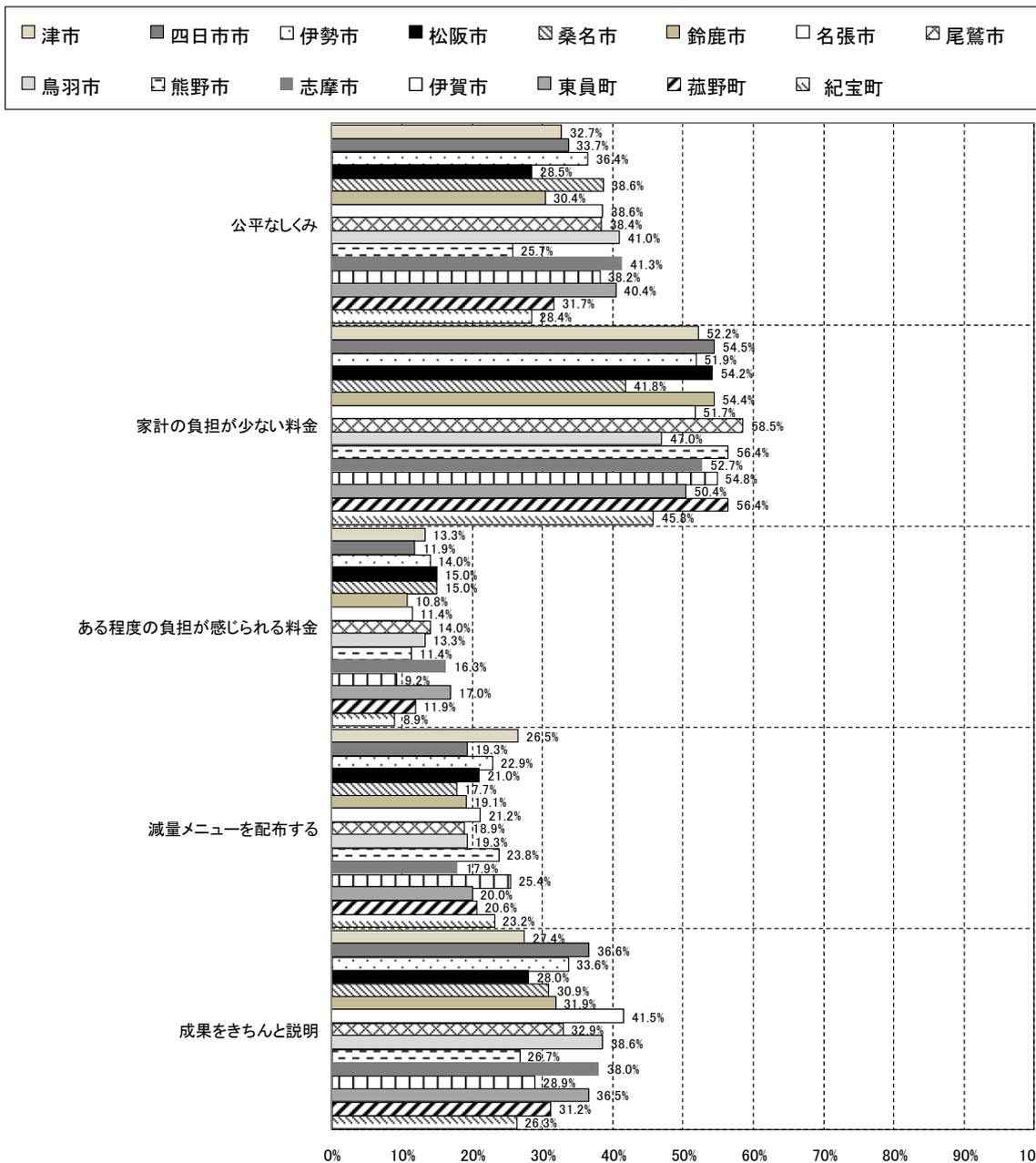


図 5-3-36 (1/2) 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」市町別回答率

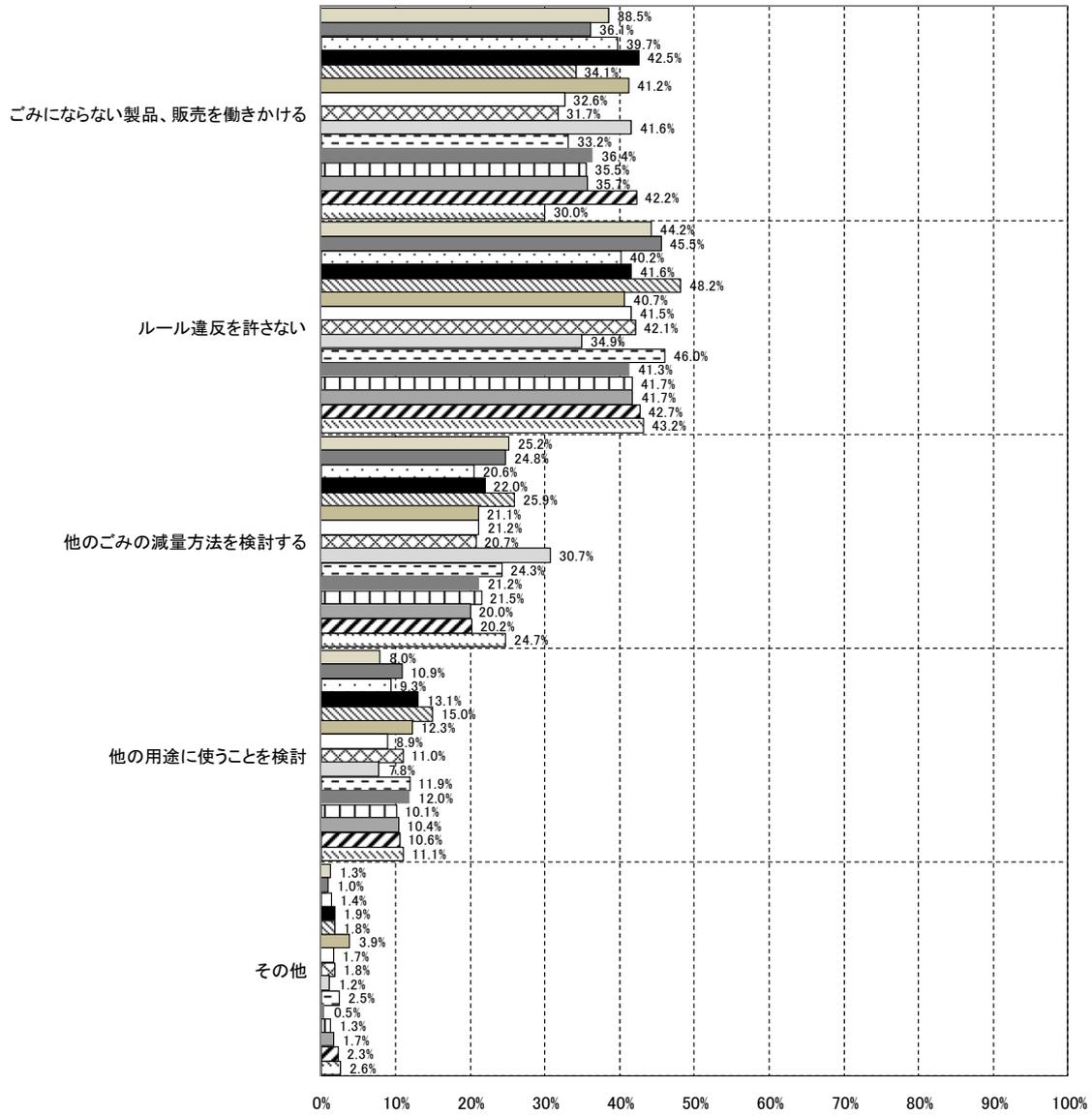
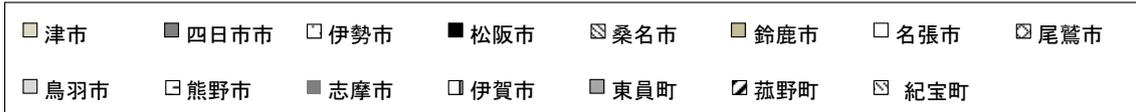


図 5-3-36 (2/2) 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」市町別回答率

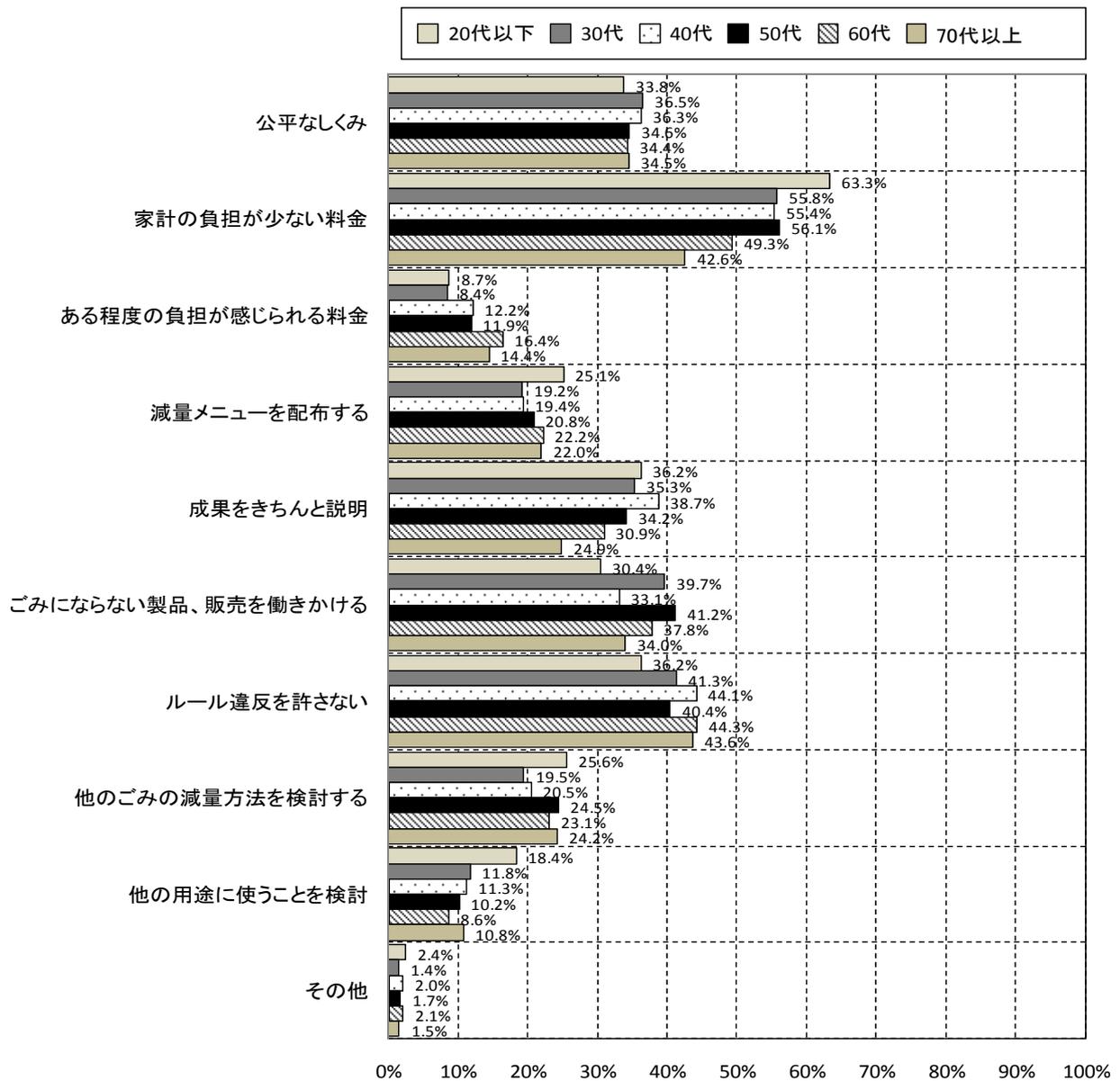


図 5-3-37 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」年代別回答率

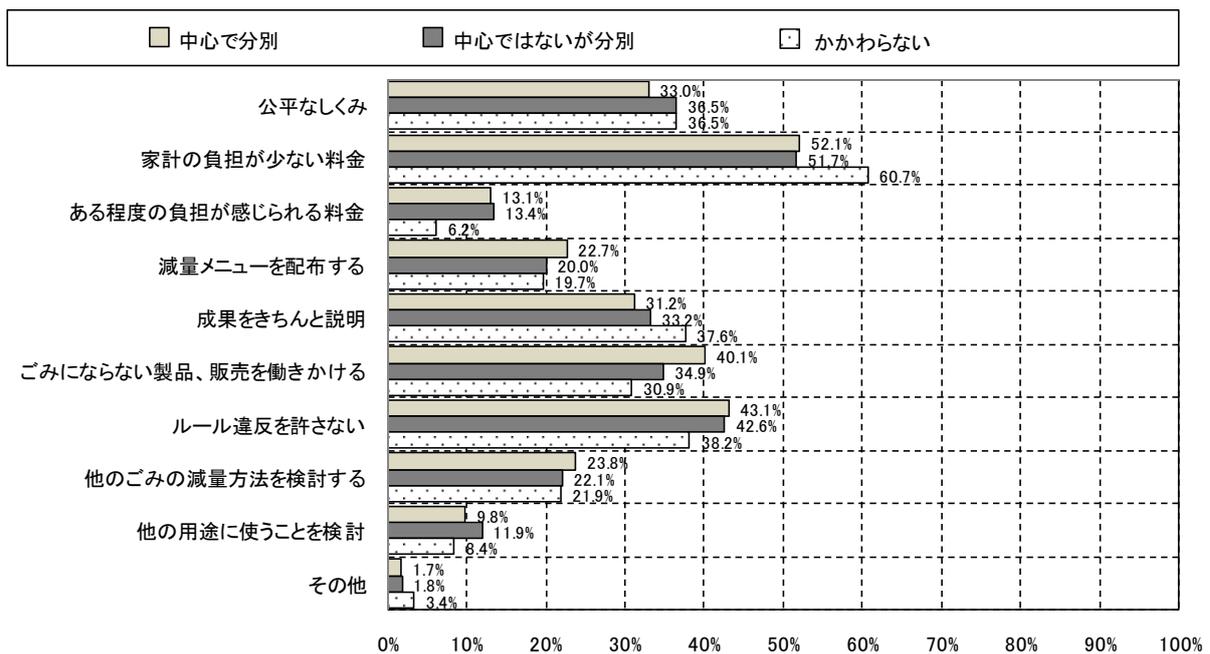


図 5-3-38 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」分別行動別回答率

問 28 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？（〇は1つ）

「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」については、「ごみ袋大（45リットル）が1袋10円」の回答率が55.6%と一番高くなっており、次いで「ごみ袋大が一袋50円程度」が28.5%となっている。全体的に安い料金の回答が多くなっている。名張市、鳥羽市及び志摩市については、「ごみ袋大が1袋50円程度」が一番高く、それ以外の市町では「ごみ袋大が1袋10円」が一番高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみ袋大（45リットル）が1袋10円	1,755	55.6%
2	ごみ袋大が1袋50円程度	900	28.5%
3	ごみ袋大が1袋100円程度	258	8.2%
4	ごみ袋大が1袋200円程度	50	1.6%
5	それ以上	11	0.3%
6	無回答	180	5.7%
有効回答数		3,154	100.0%

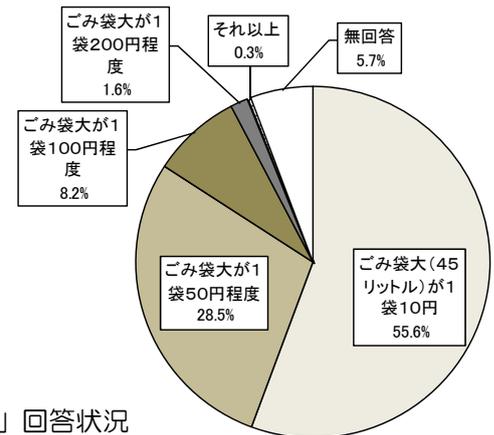


表 5-3-11 「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」回答状況

図 5-3-39 「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」回答率

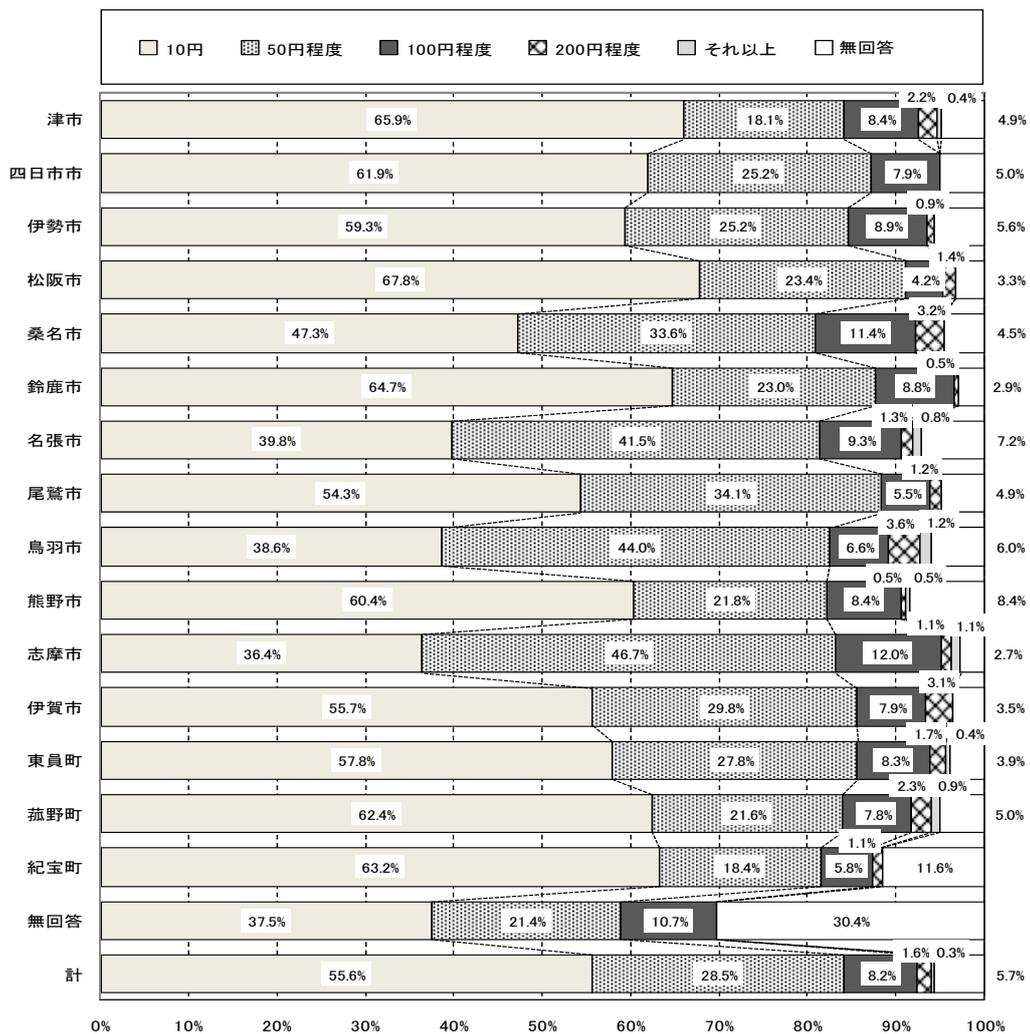


図 5-3-40 「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」市町別回答率

問 29	あなたの市町でごみの有料化が実施された場合、どのようにごみを減らしますか？ (あてはまるものすべてに○)
------	---

「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」については、「買い物袋（マイバッグ）等を持参しレジ袋をもらわない」の回答率が一番高く 81.6%を占め、次いで「食事を食べ残さないようにする」が 70.4%、「食品は買いすぎないように注意する」が 66.3%、「台所ごみの水切りをする」が 65.1%となっている。

市町別については、大きな偏りはみられない。

年代別については、「詰め替え容器を使用した商品を買う」、「包装を断ったり、簡易包装を依頼する」、「不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりする」は年代が低いほど高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	台所ごみの水切りをする	2,052	65.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋める	612	19.4%
3	台所ごみを堆肥化处理する	905	28.7%
4	紙くすなど少量のごみを庭や畑で焼却する	495	15.7%
5	買い物袋（マイバッグ）等を持参しレジ袋をもらわない	2,573	81.6%
6	詰め替え容器を使用した商品を買う	1,793	56.8%
7	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選ぶ	915	29.0%
8	包装を断ったり、簡易包装を依頼する	1,662	52.7%
9	食品は買いすぎないように注意する	2,092	66.3%
10	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにする	309	9.8%
11	食事を食べ残さないようにする	2,220	70.4%
12	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりする	872	27.6%
13	資源とごみの分別をより徹底する	1,686	53.5%
14	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用する	1,694	53.7%
15	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにする	649	20.6%
16	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにする	1,253	39.7%
17	マイ箸を携帯する	625	19.8%
18	その他	49	1.6%
19	これらいずれもしない	12	0.4%
総回答数		22,468	712.4%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-3-12 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答状況

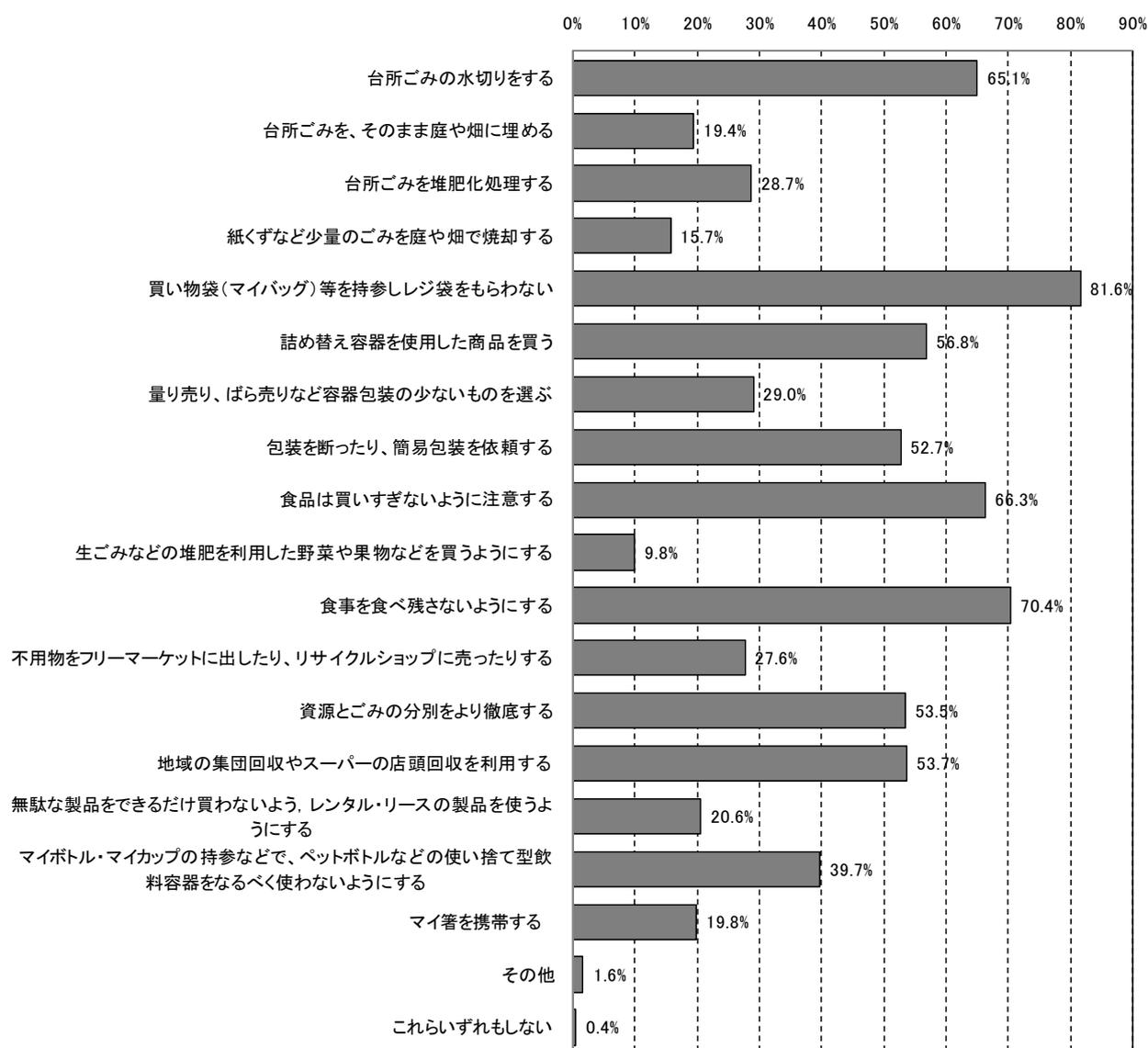


図 5-3-41 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

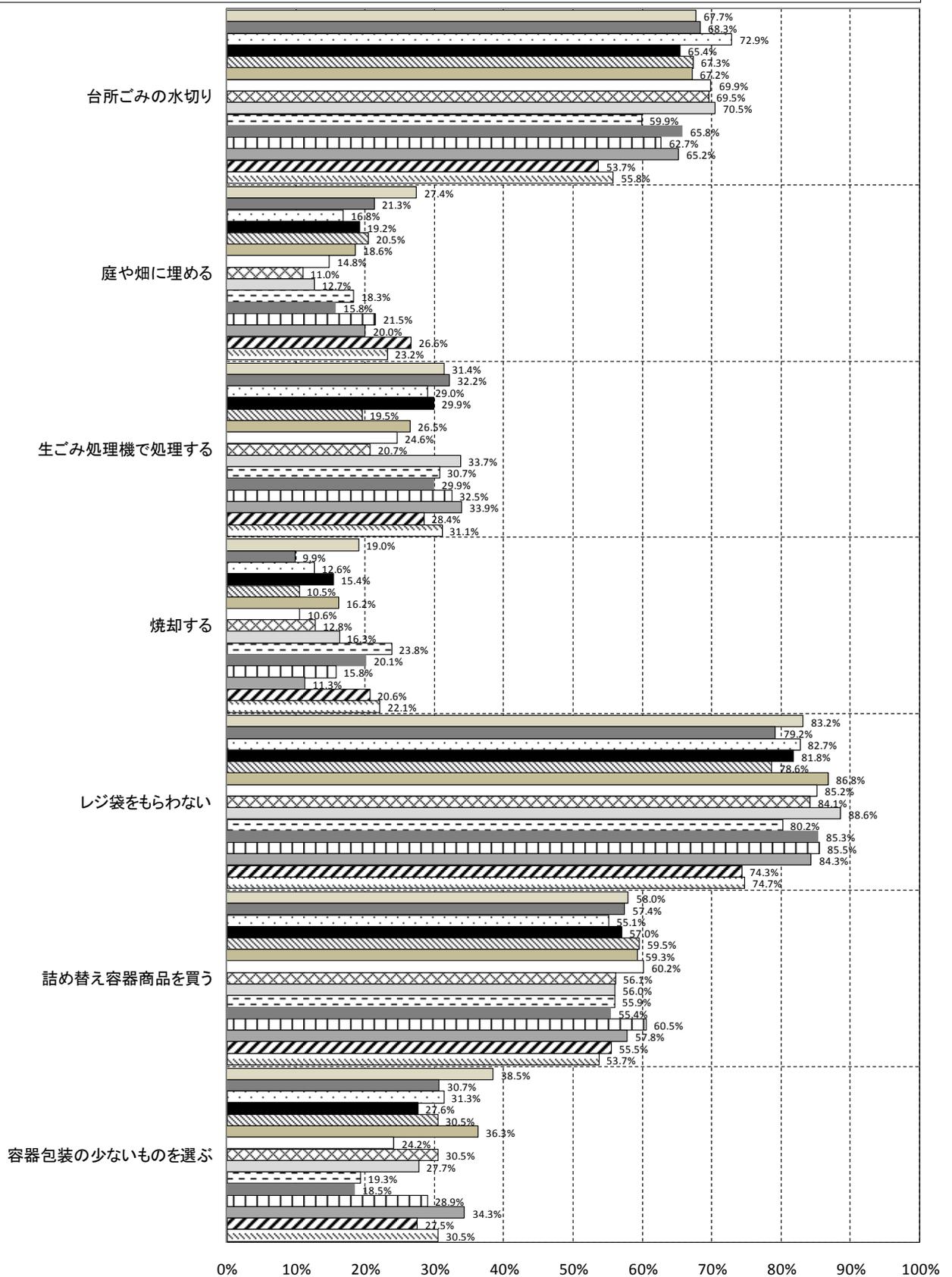


図 5-3-42 (1/3) 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」市町別回答率

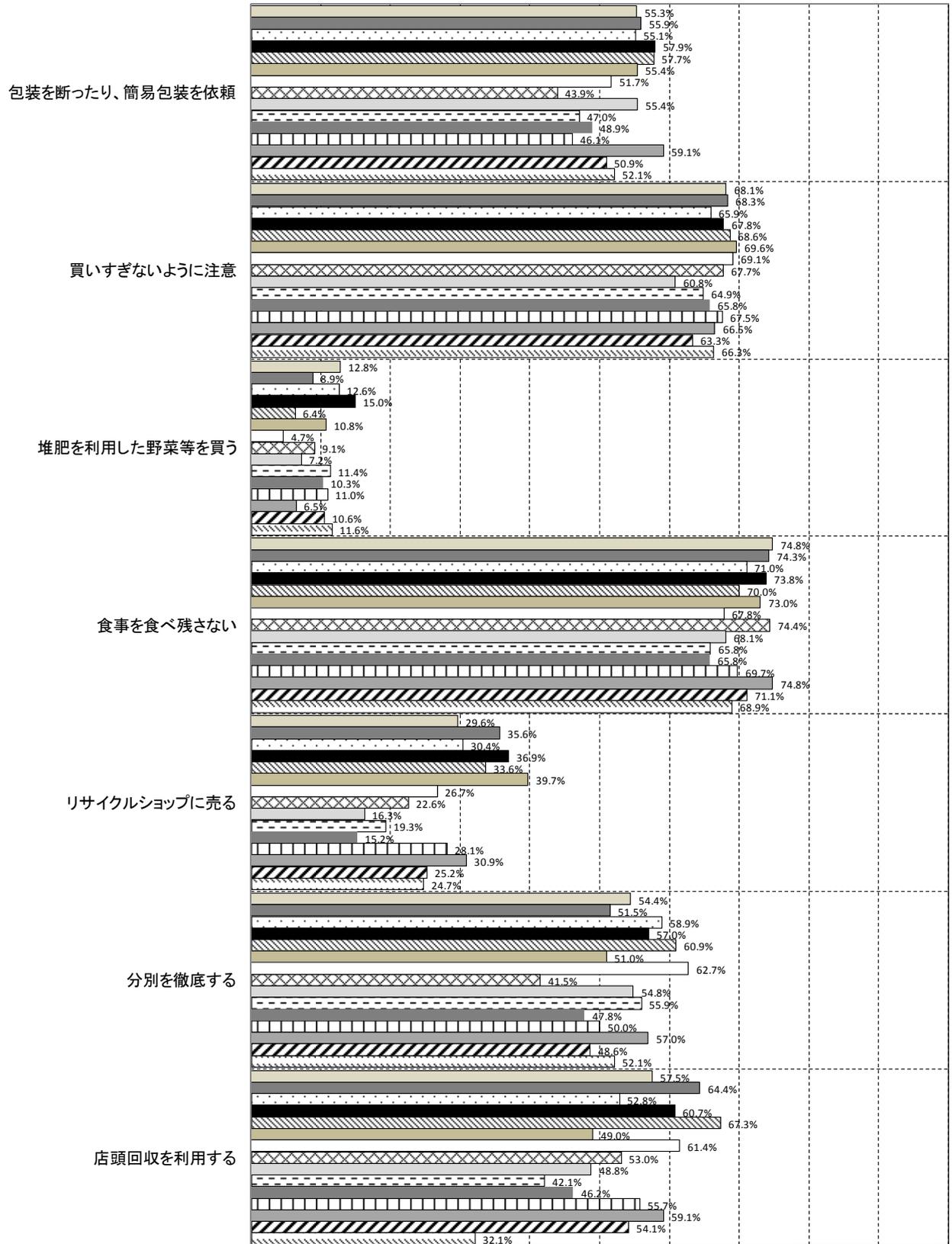


図 5-3-42 (2/3) 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」市町別回答率

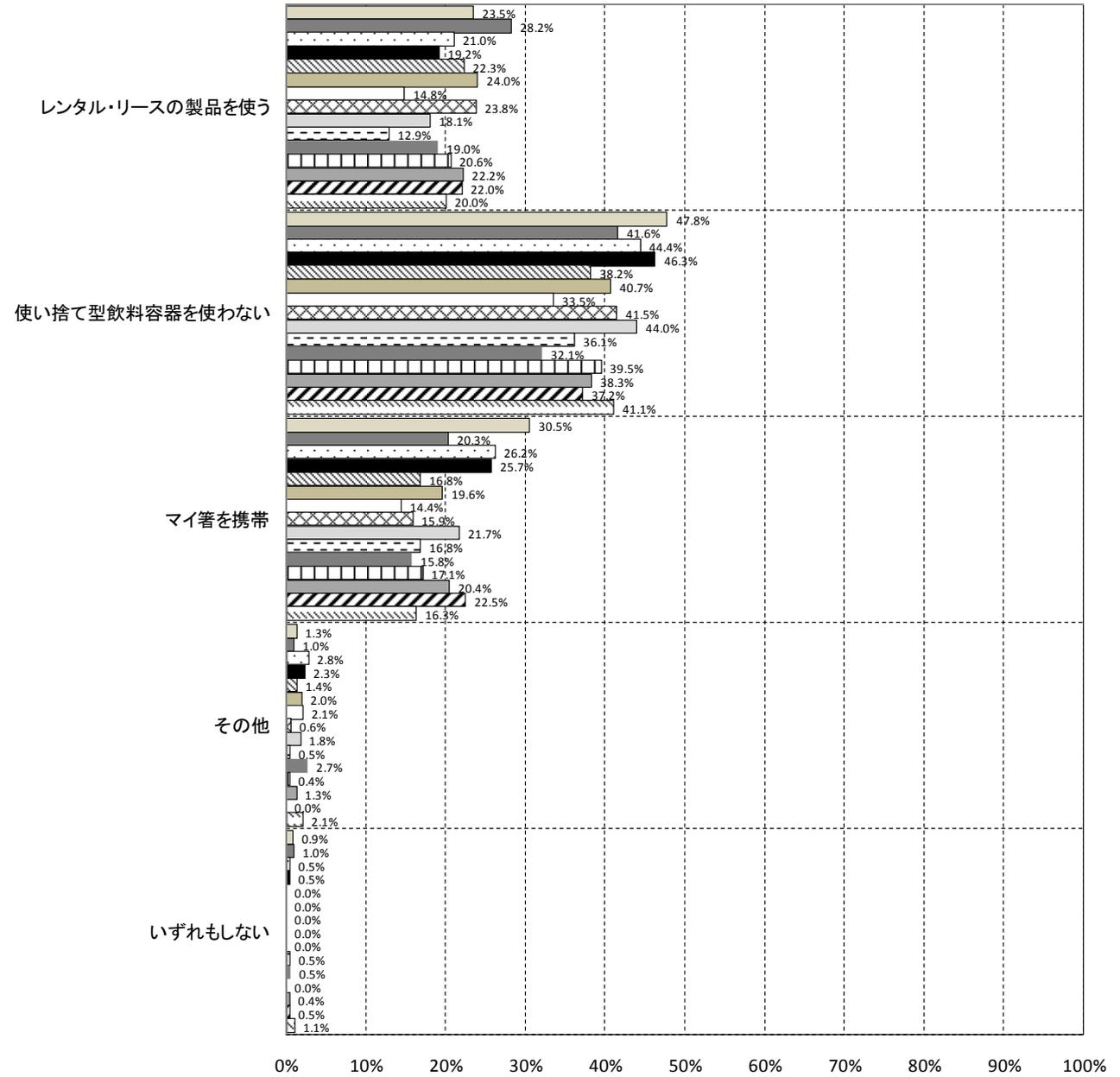


図 5-3-42 (3/3) 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」市町別回答率

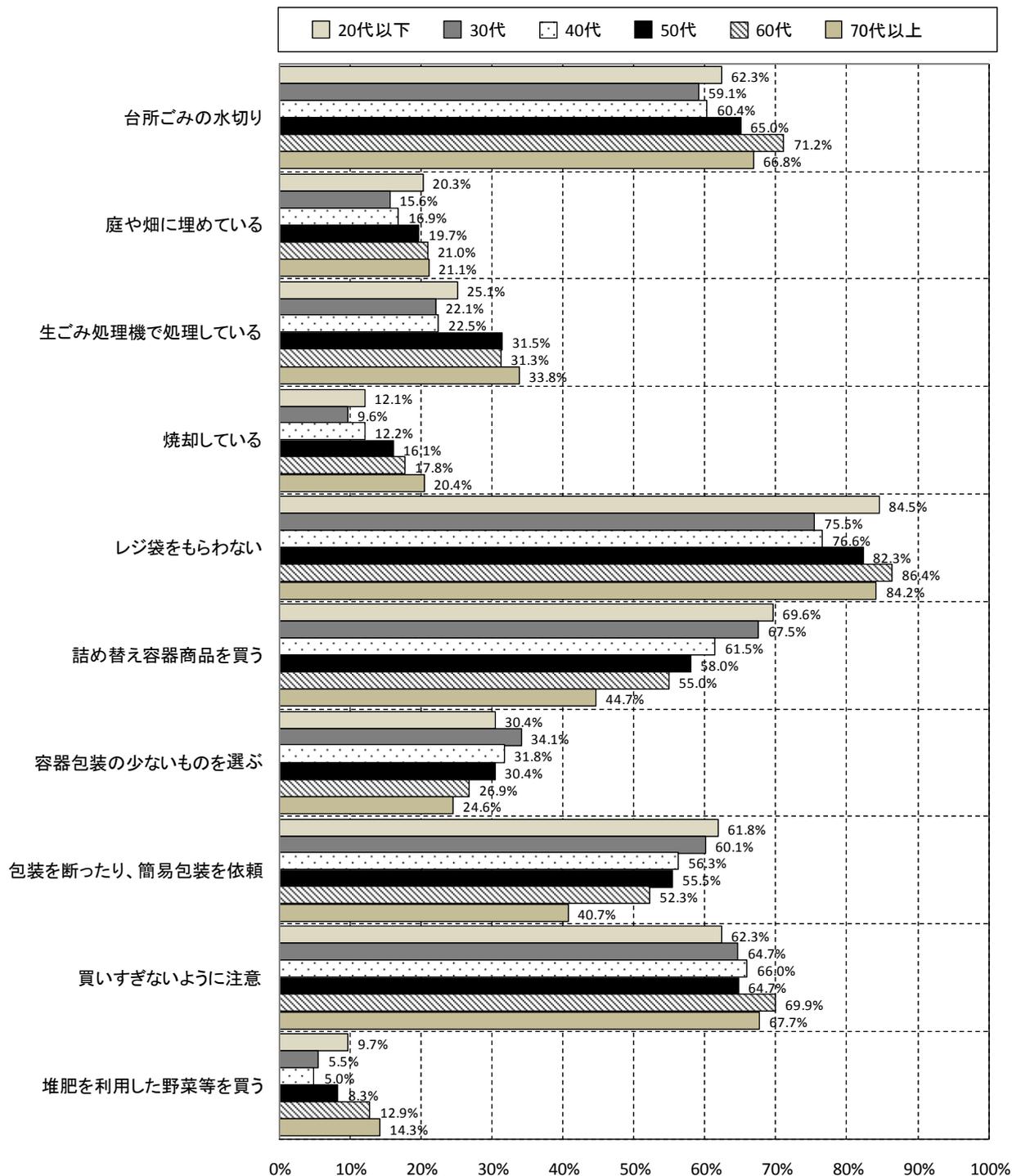


図 5-3-43 (1/2) 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」年代別回答

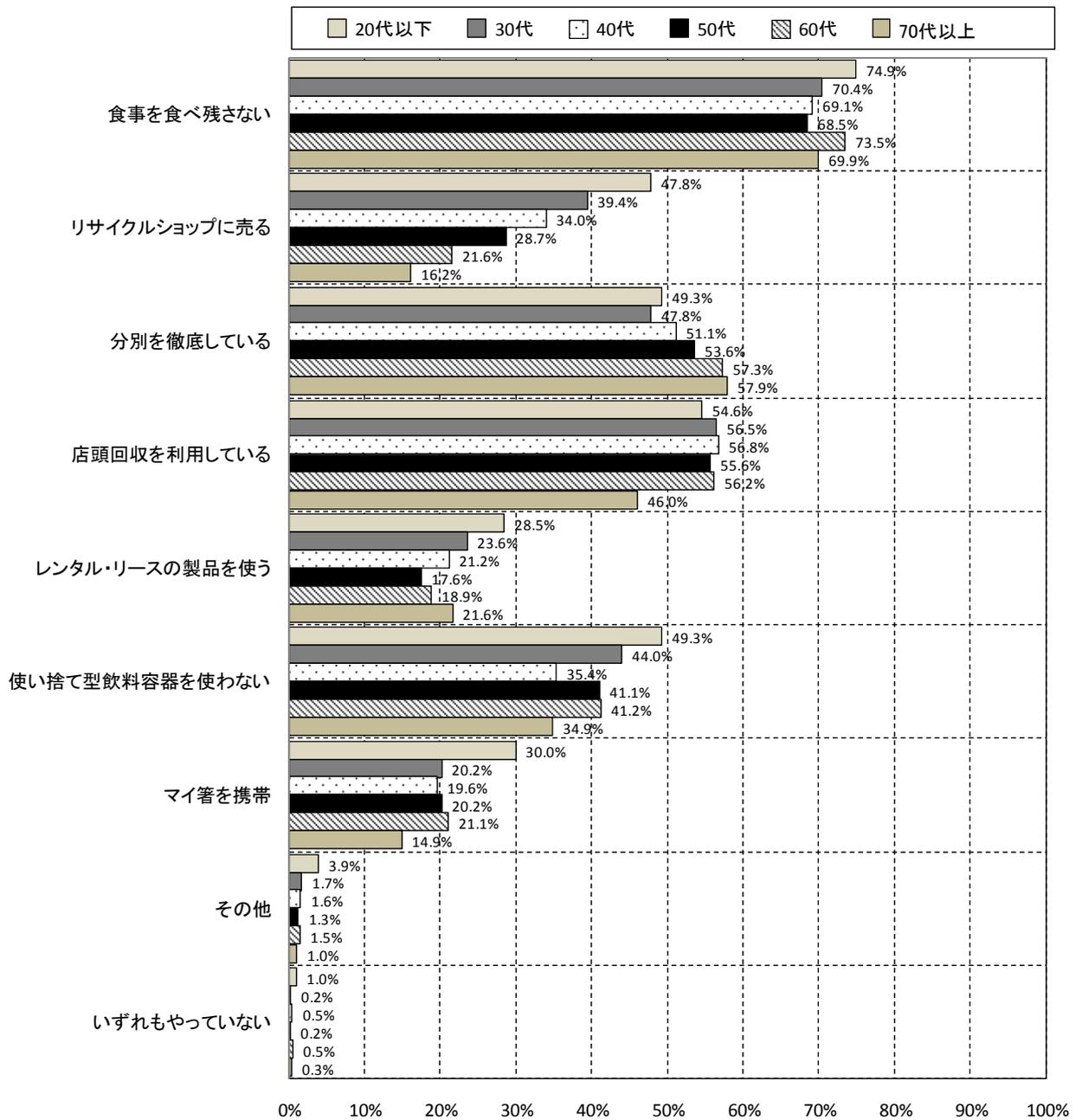


図 5-3-43 (2/2) 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」年代別回答

問 30	あなたの家の近くに中古の家電製品や家具を扱うお店（リサイクルショップ）ができたとします。この店がどんな店だったら、あなたは足を運んでみようと思いますか？（〇は3つまで）
------	--

「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」については、「品質など信頼できる」の回答率が一番高く67.0%であり、次いで、「取り扱っている商品がきれい」の回答が57.8%となっている。

市町別についても同様の傾向であるが、「品質など信頼できる」が58.9%から74.7%と差がみられる。また、「店舗がきれい、明るい」が21.1%から40.6%と約2倍の開きがある。

年代別についても、全体と同じ傾向であるが、「販売金額は安く、買取金額は高め」は年代が低い方が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	店舗がきれい、明るい	1,104	35.0%
2	取り扱っている商品がきれい	1,823	57.8%
3	商品の品ぞろえがある	1,196	37.9%
4	商品が探しやすい	362	11.5%
5	品質など信頼できる	2,113	67.0%
6	販売金額は安く、買取金額は高め	1,111	35.2%
7	その他	44	1.4%
8	どんな店でも足は運ばないと思う	165	5.2%
総回答数		7,918	251.0%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-3-13 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答状況

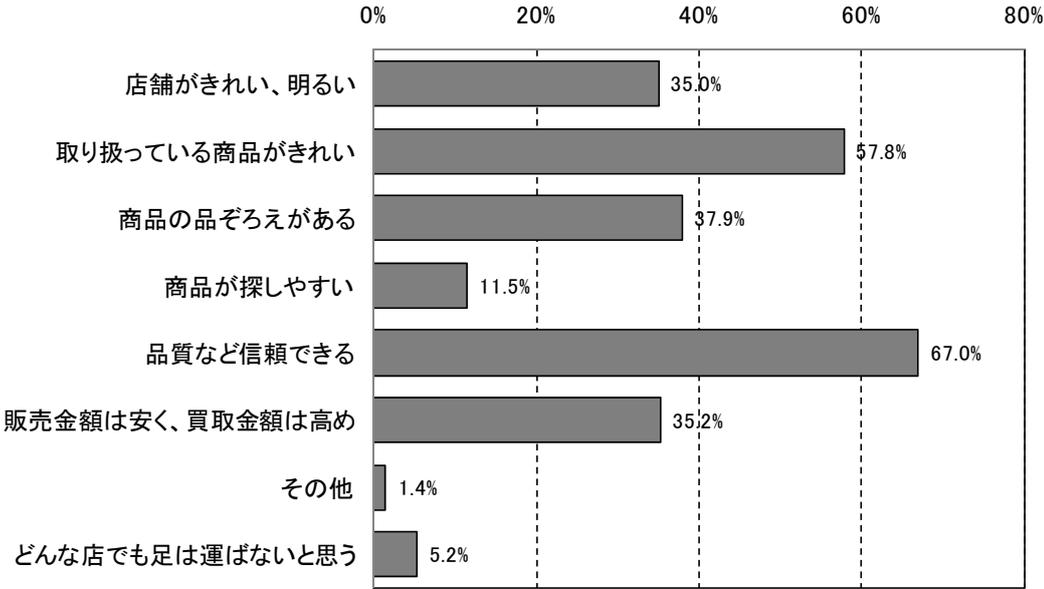


図 5-3-44 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答率

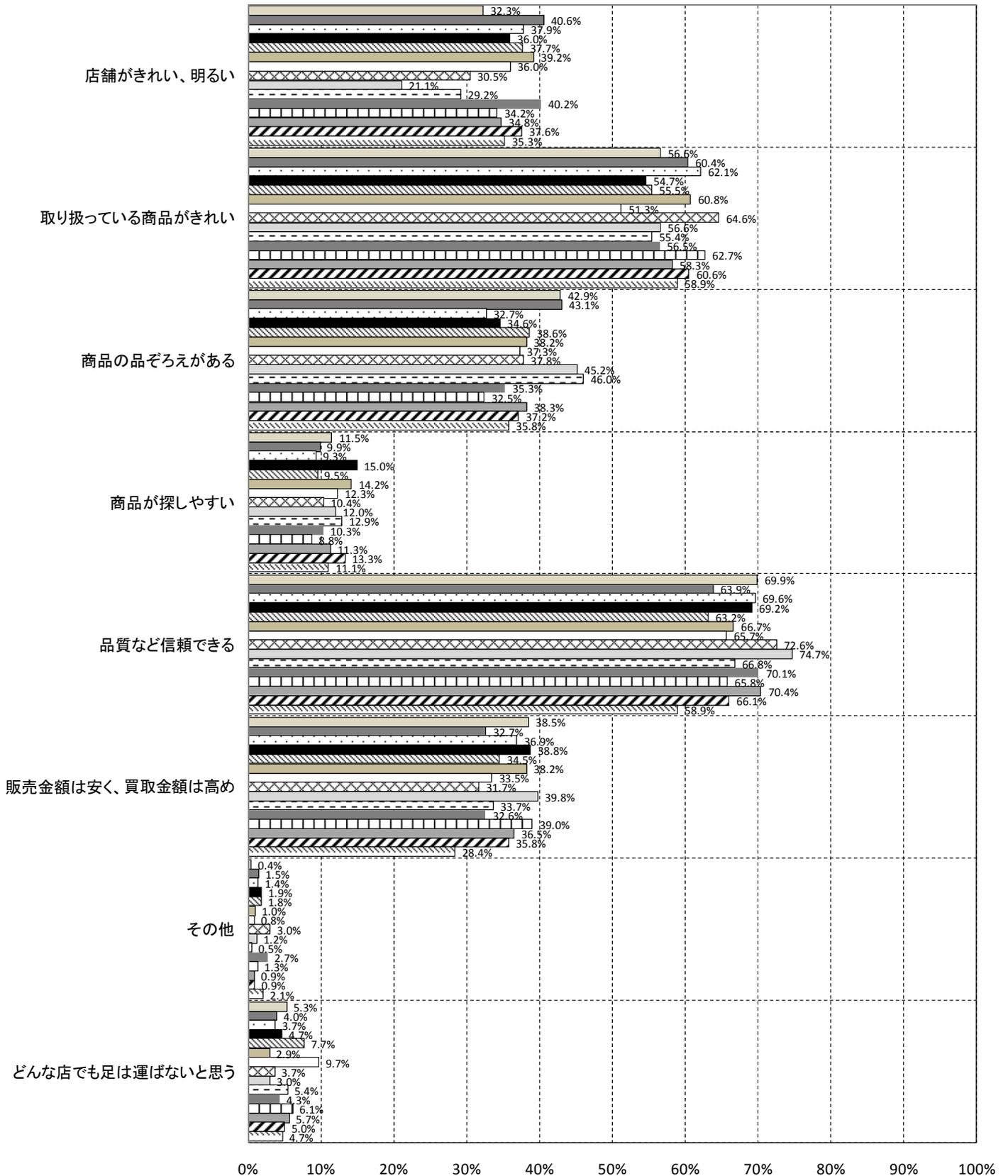
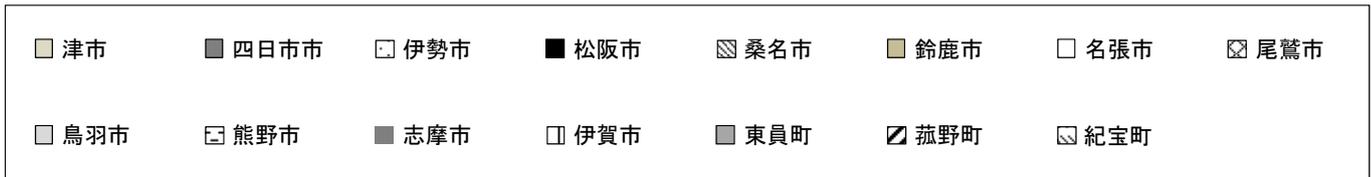


図 5-3-45 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」市町別回答率

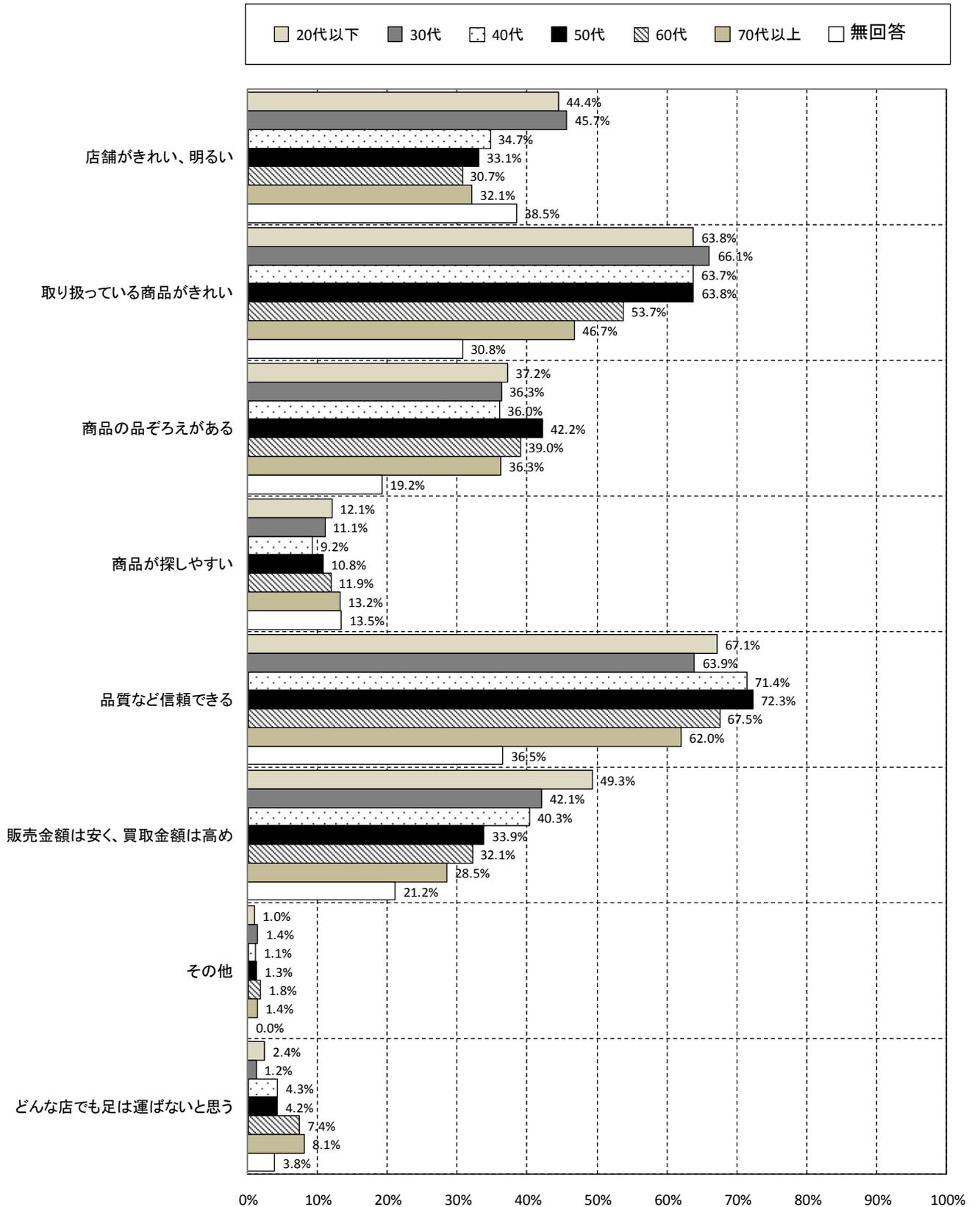


図 5-3-46 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」年代別回答率

問 31	あなたのご家庭から出る可燃ごみに限っていえば、努力によりどれだけ減らせると 思いますか？（〇は1つ）
------	---

「可燃ごみはどれだけ減らせるか」については、「10%～30%」の回答率が51.6%と一番高く、次いで、「10%未満」が23.5%となっており、これらの計が75.1%となっている。  
市町別では、上記の計が70.0%から80.9%であり、大きな偏りはみられない。  
年代別では、上記の計が65.6%から81.7%であり、「70代以上」が低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	10%未満	740	23.5%
2	10%～30%	1,629	51.6%
3	30%～50%	347	11.0%
4	50%～80%	70	2.2%
5	80%以上	17	0.5%
6	これ以上は減らせない	256	8.1%
7	無回答	95	3.0%
有効回答数		3,154	100.0%

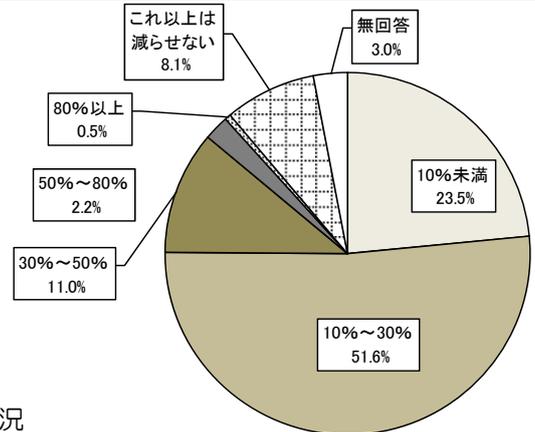


表 5-3-14 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」回答状況

図 5-3-47 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」回答率

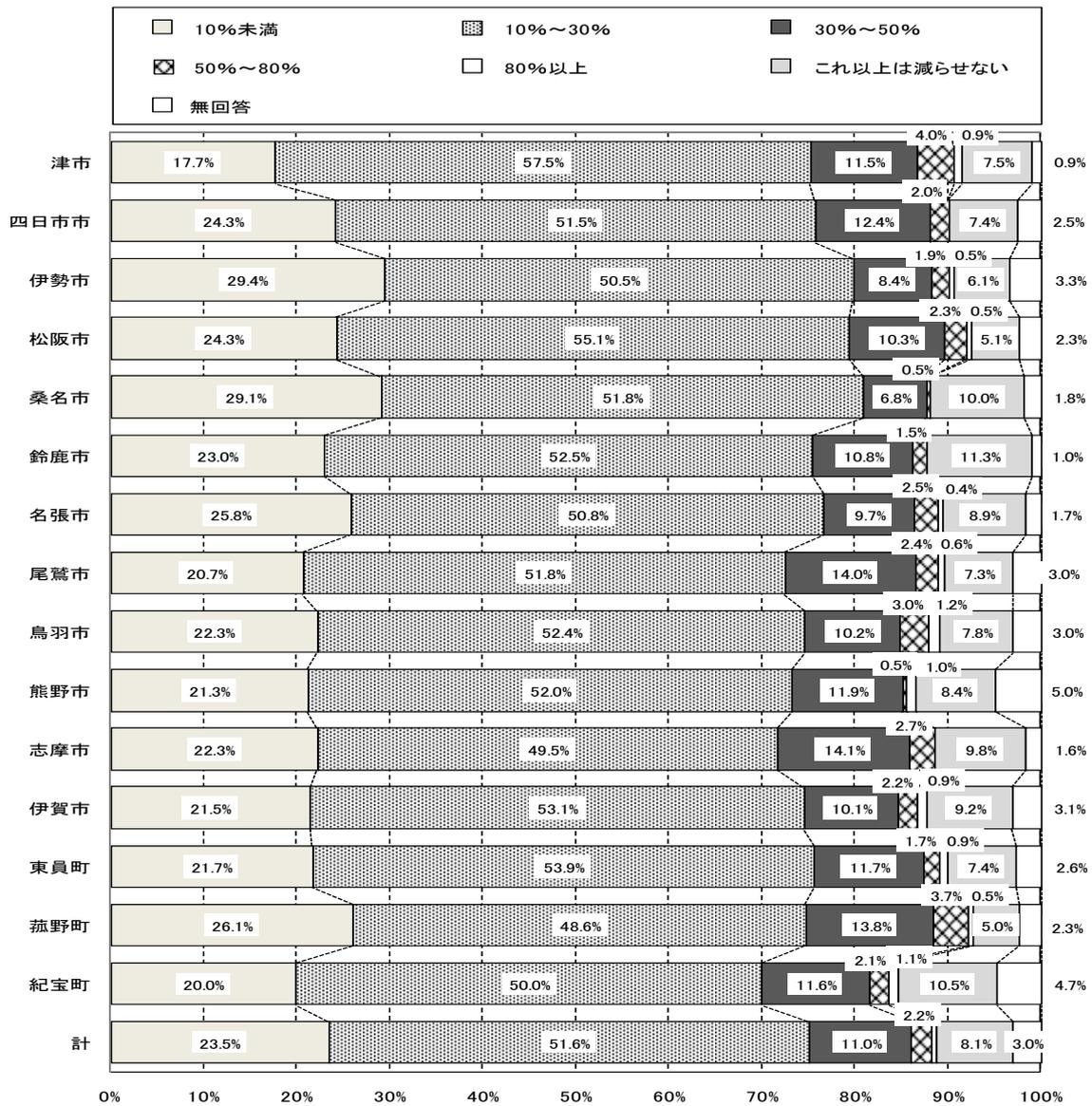


図 5-3-48 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」市町別回答率

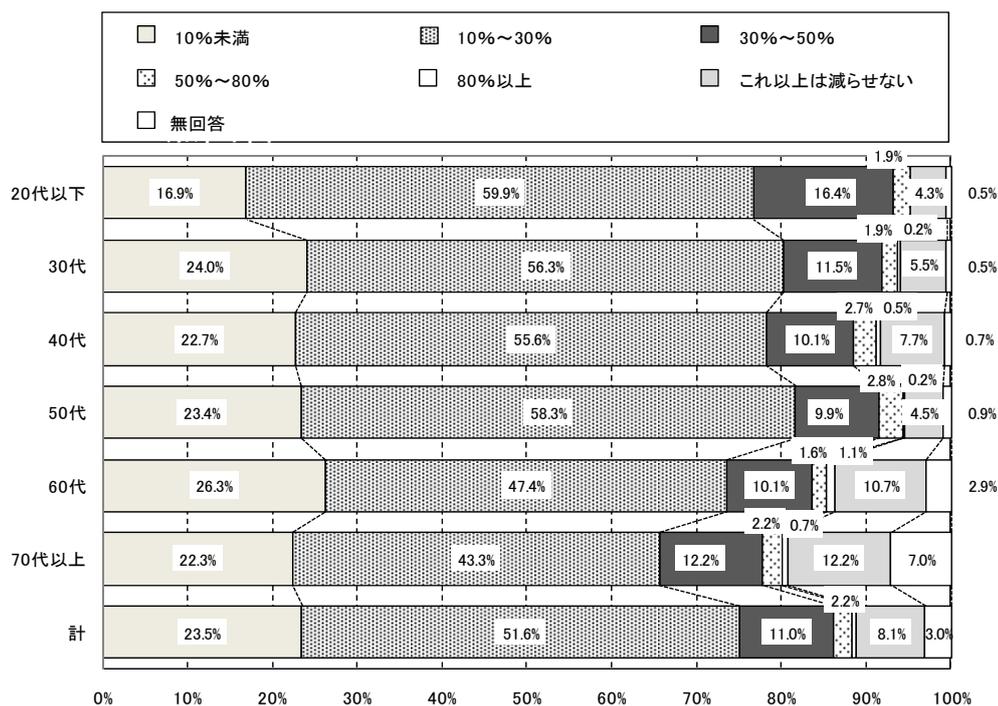


図 5-3-49 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」年代別回答率

## 5-4 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画について

問 32	ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。(〇は1つずつ)
------	--

(1) 計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？

「計画づくりには、多くの住民が参画することが必要か」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が85.6%となっている。

市町別では、上記の計が83.5%から90.2%であり、大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が84.9%から90.1%であり、大きな隔たりはみられない。

### ① 単純集計

番号		回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,317	41.8%
2	少しそう思う	1,381	43.8%
3	あまりそうは思わない	335	10.6%
4	まったくそうは思わない	28	0.9%
99	無回答	93	2.9%
有効回答数		3154	100.0%

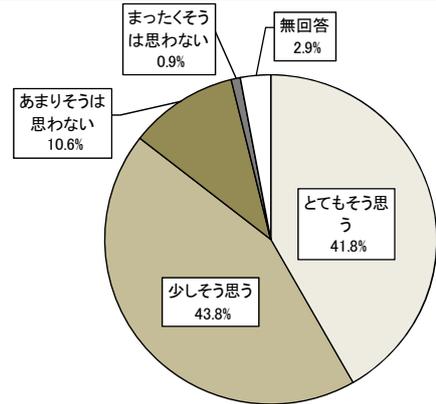


表 5-4-1 「多くの住民が参画することが必要か」回答状況

図 5-4-1 「多くの住民が参画することが必要か」回答率

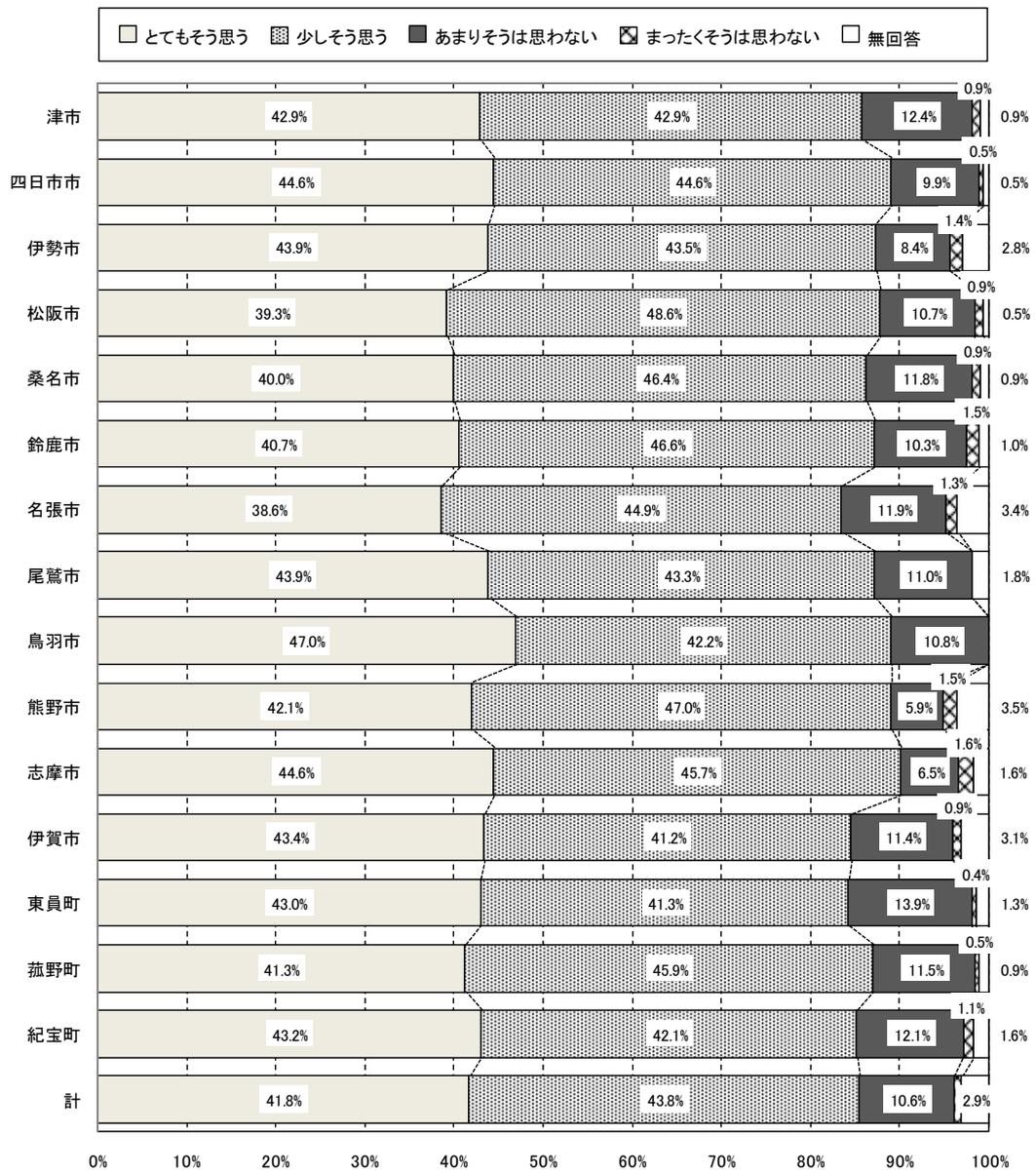


図 5-4-2 「多くの住民が参画することが必要か」市町別回答率

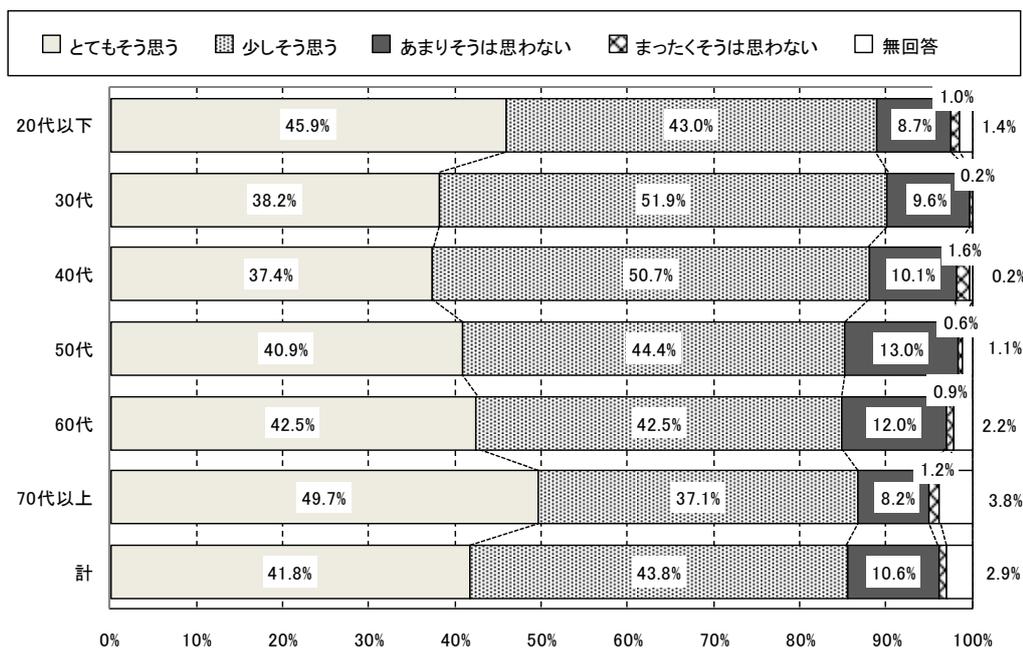


図 5-4-3 「多くの住民が参画することが必要か」年代別回答率

(2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

「住民参画すれば要望等を反映できるか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が81.9%となっている。  
 市町別では、上記の計が78.8%から87.5%であり、大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が81.3%から85.1%であり、大きな隔たりはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	865	27.4%
2	少しそう思う	1,718	54.5%
3	あまりそうは思わない	423	13.4%
4	まったくそうは思わない	51	1.6%
99	無回答	97	3.1%
有効回答数		3154	100.0%

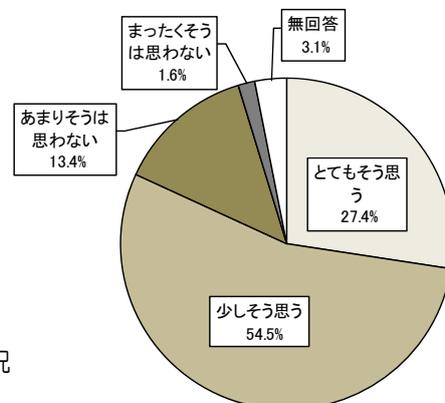


表 5-4-2 「住民参画すれば要望等を反映できるか」回答状況

図 5-4-4 「住民参画すれば要望等を反映できるか」回答率

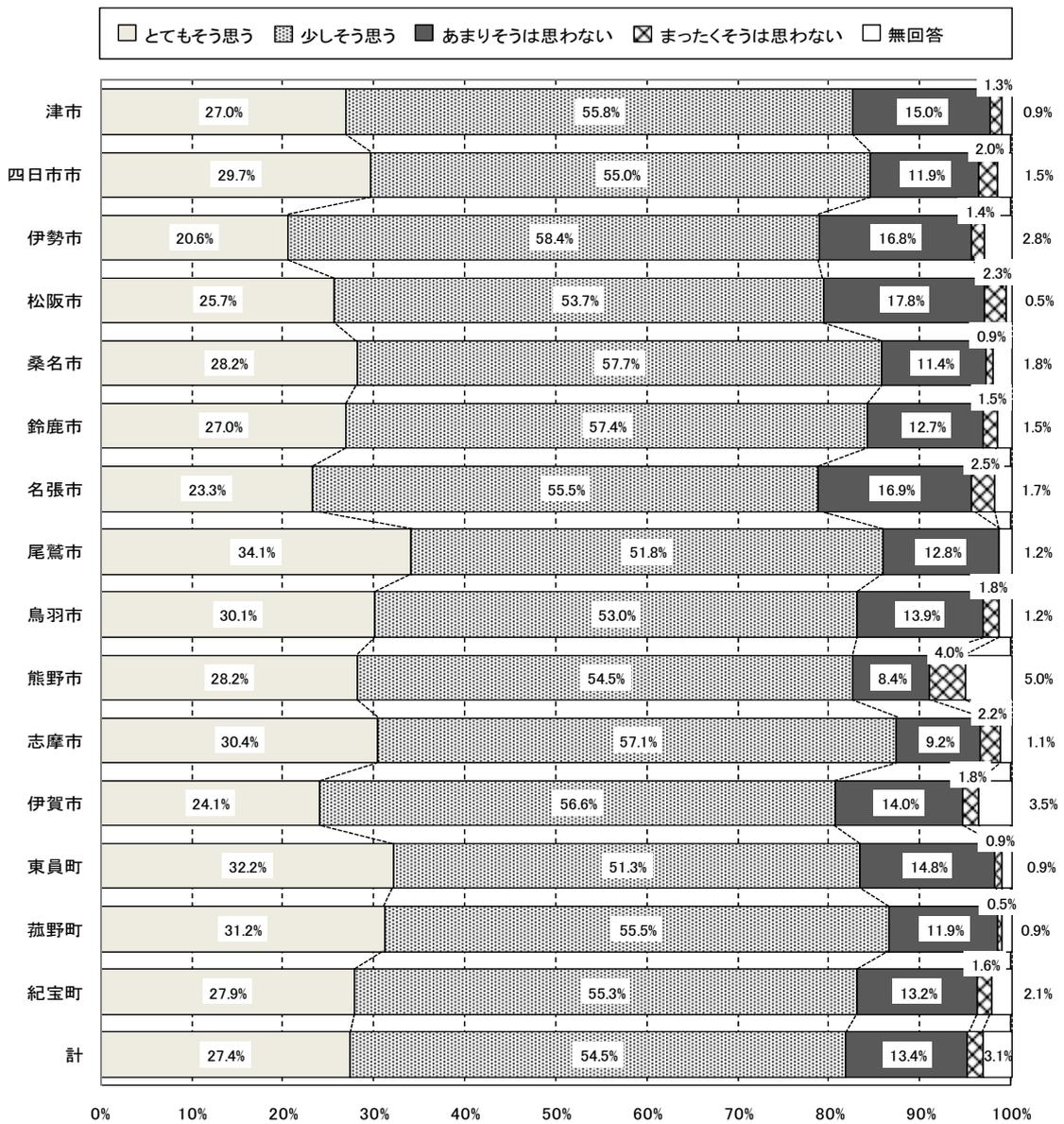


図 5-4-5 「住民参画すれば要望等を反映できるか」市町別回答率

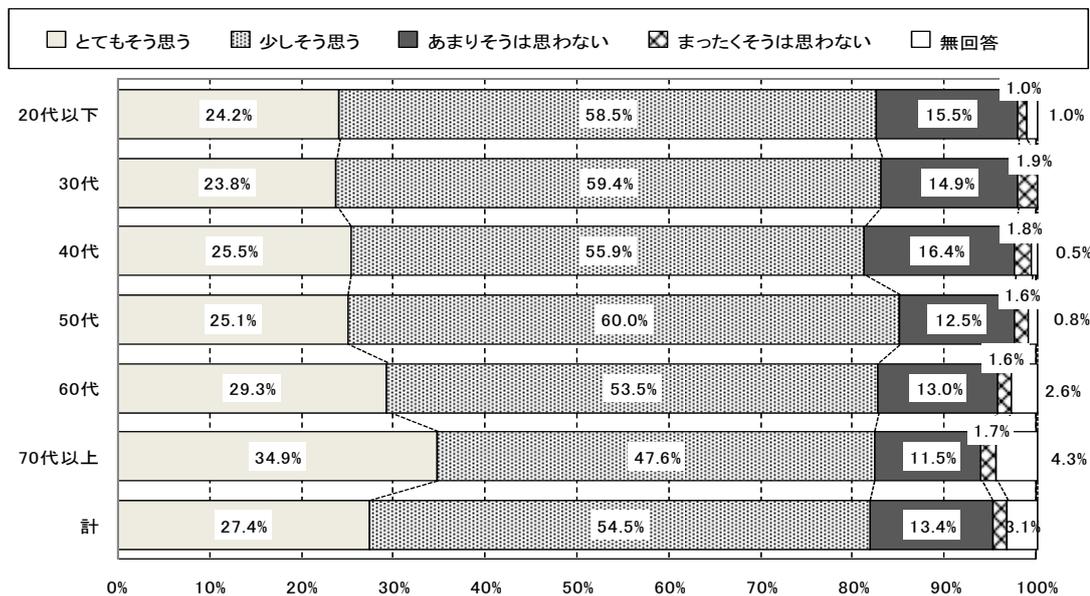


図 5-4-6 「住民参画すれば要望等を反映できるか」年代別回答率

(3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

「計画は市町が主体的につくる方がよいか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が74.9%となっている。  
 市町別では、上記の計が66.1%から81.7%と、市町間で差があり、「四日市市」（81.7%）と「伊勢市」（80.8%）では80%を超えている。  
 年代別では、上記の計が71.5%から80.1%であり、「とてもそう思う」は「70代以上」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	942	29.9%
2	少しそう思う	1,418	45.0%
3	あまりそうは思わない	566	17.9%
4	まったくそうは思わない	110	3.5%
99	無回答	118	3.7%
有効回答数		3154	100.0%

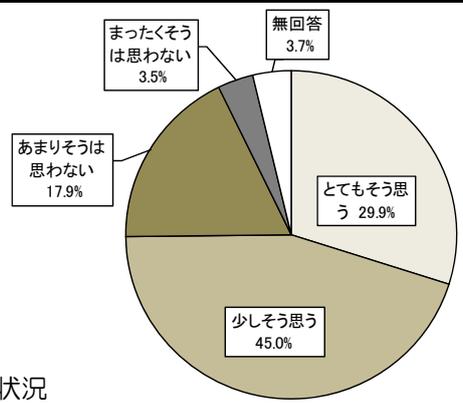


表 5-4-3 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答状況

図 5-4-7 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

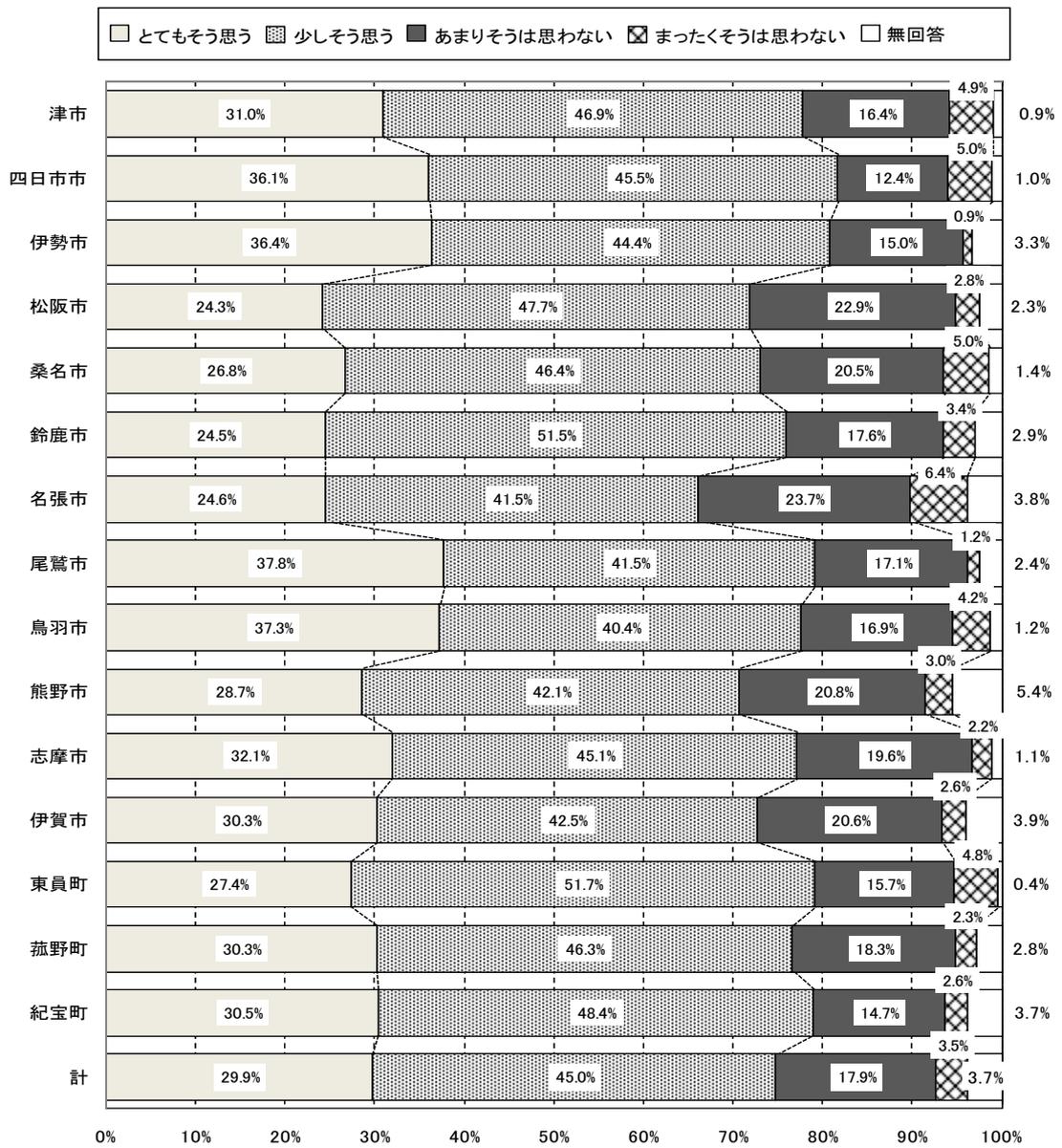


図 5-4-8 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」市町別回答率

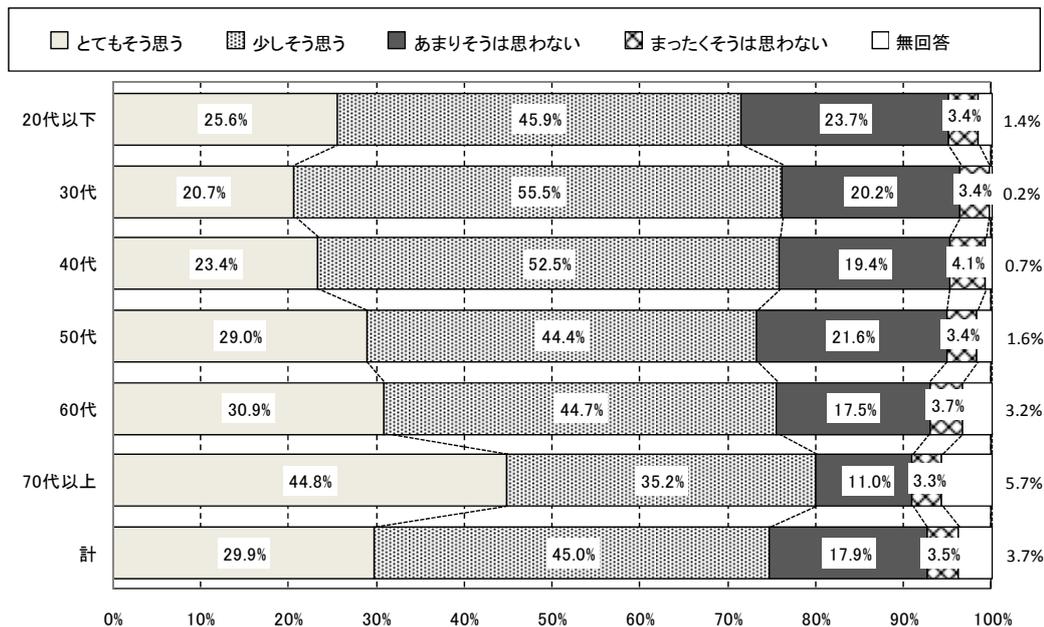


図 5-4-9 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」年代別回答率

(4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

「計画づくりに参画することで様々な情報を入手できると思うか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が75.9%となっている。  
 市町別では、上記の計が71.6%から82.6%であり、大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が73.2%から79.2%であり、大きな隔たりはみられない。

① 単純集計

番号		回答数	回答率
1	とてもそう思う	593	18.8%
2	少しそう思う	1,802	57.1%
3	あまりそうは思わない	558	17.7%
4	まったくそうは思わない	85	2.7%
99	無回答	116	3.7%
有効回答数		3154	100.0%

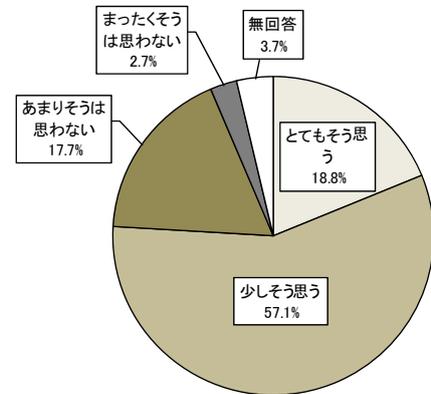


表 5-4-4 「様々な情報を入手できると思うか」回答状況

図 5-4-10 「様々な情報を入手できると思うか」回答率

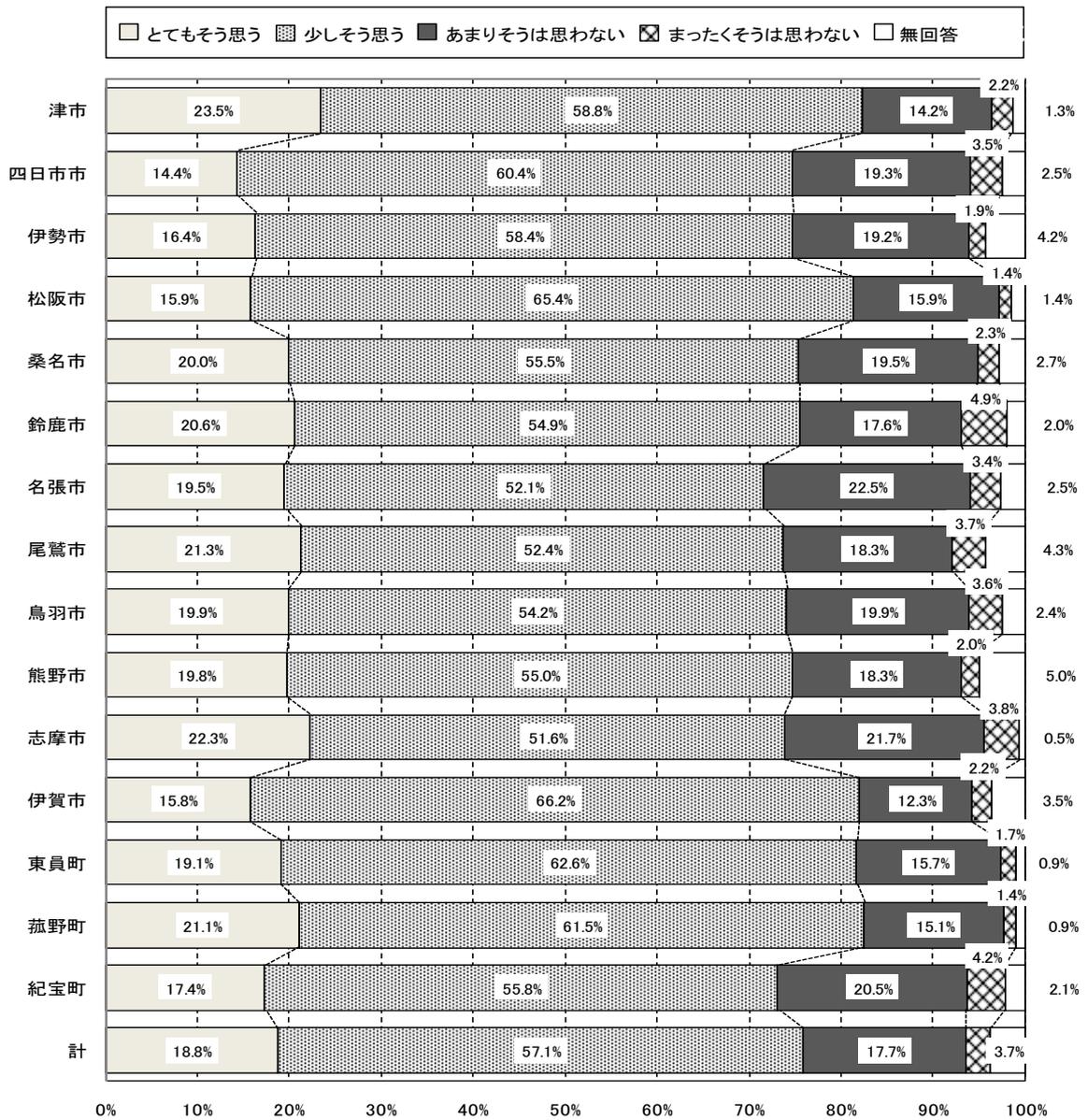


図 5-4-11 「様々な情報を入手できると思うか」市町別回答率

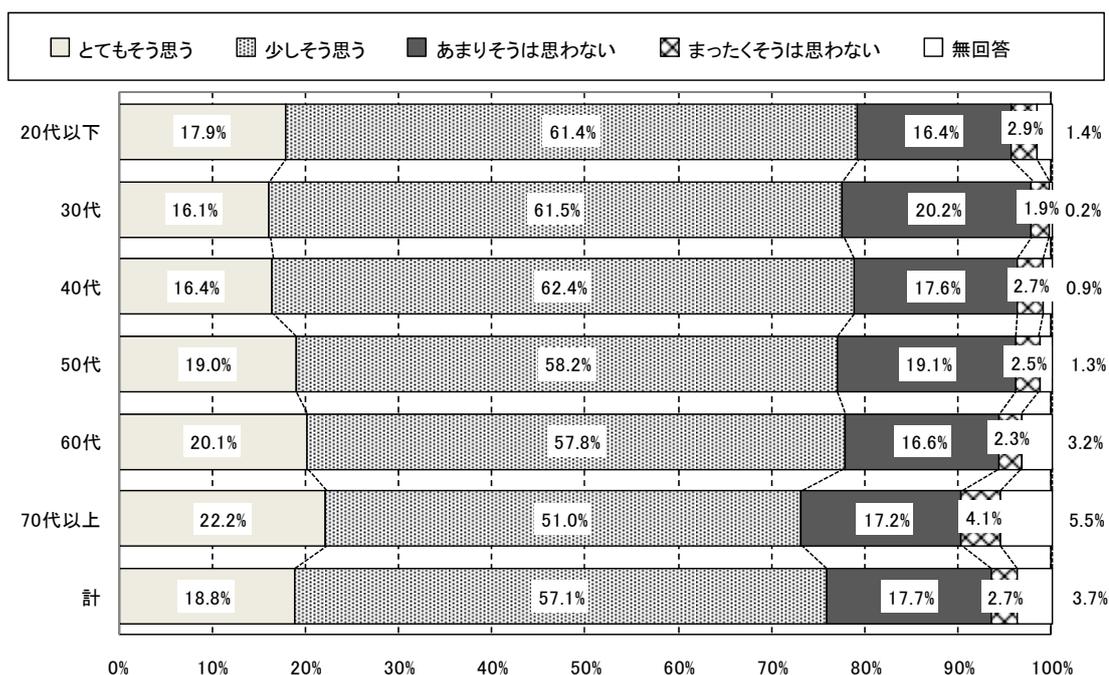


図 5-4-12 「様々な情報を入手できると思うか」年代別回答率

(5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

「計画づくりへの参加は時間や手間がかかり大変だと思うか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が86.1%となっている。  
 市町別では、上記の計が83.9%から91.7%であり、大きな偏りはみられない。  
 年代別では、上記の計が78.4%から91.8%であり、「70代以上」では低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	929	29.5%
2	少しそう思う	1,786	56.6%
3	あまりそうは思わない	275	8.7%
4	まったくそうは思わない	48	1.5%
99	無回答	116	3.7%
有効回答数		3,154	100.0%

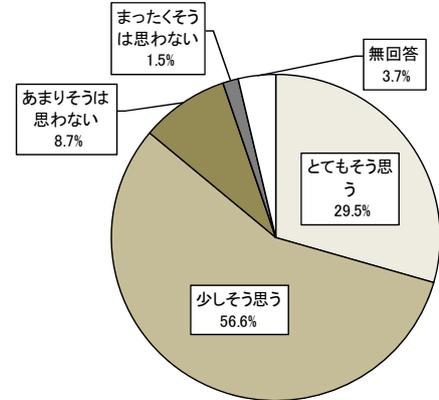


表 5-4-5 「時間や手間がかかり大変だと思うか」回答状況

図 5-4-13 「時間や手間がかかり大変だと思うか」回答率

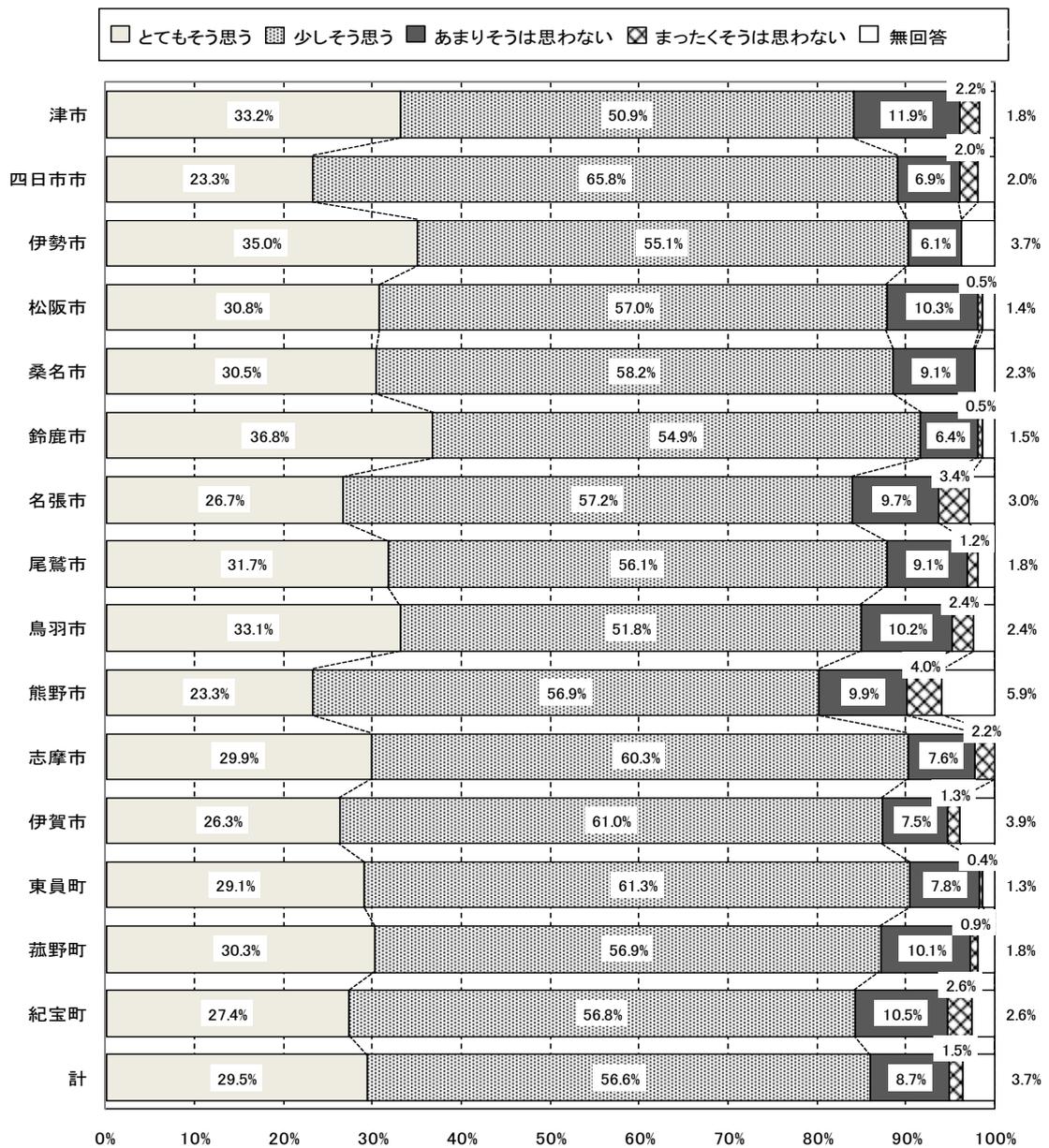


図 5-4-14 「時間や手間がかかり大変だと思うか」市町別回答率

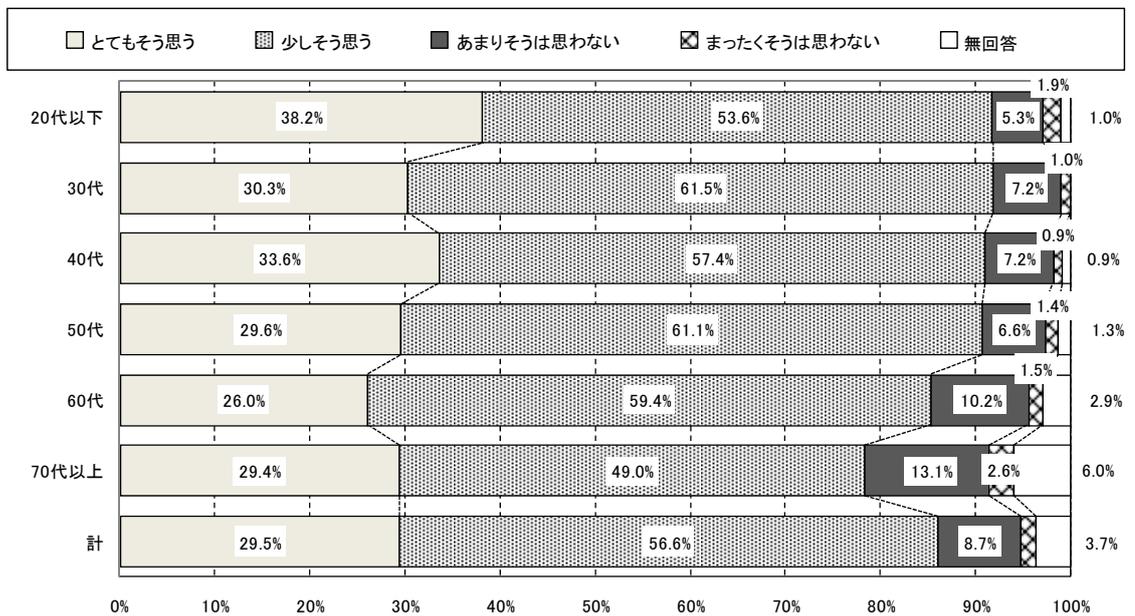


図 5-4-15 「時間や手間がかかり大変だと思うか」年代別回答率

(6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？

「住民参画の機会があれば、参画したいか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が54.2%となっている。  
 市町別では、上記の計が50.5%から59.5%であり、大きな偏りはみられない。  
 性別では、上記の計が53.4%から57.7%であり、大きな隔たりはみられない。  
 年代別では、上記の計が43.0%から61.3%であり、年代が高いほど高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	224	7.1%
2	少しそう思う	1,487	47.1%
3	あまりそうは思わない	1,038	32.9%
4	まったくそうは思わない	279	8.8%
99	無回答	126	4.0%
有効回答数		3,154	100.0%

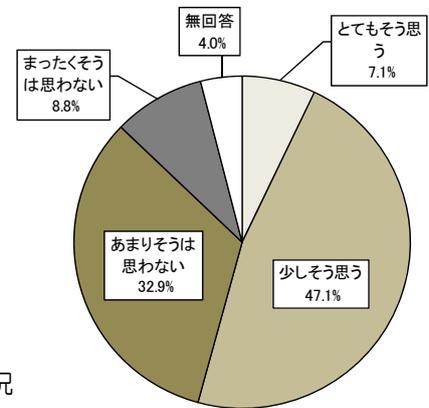


表 5-4-6 「住民参画の機会があれば、参画したいか」回答状況

図 5-4-16 「住民参画の機会があれば、参画したいか」回答

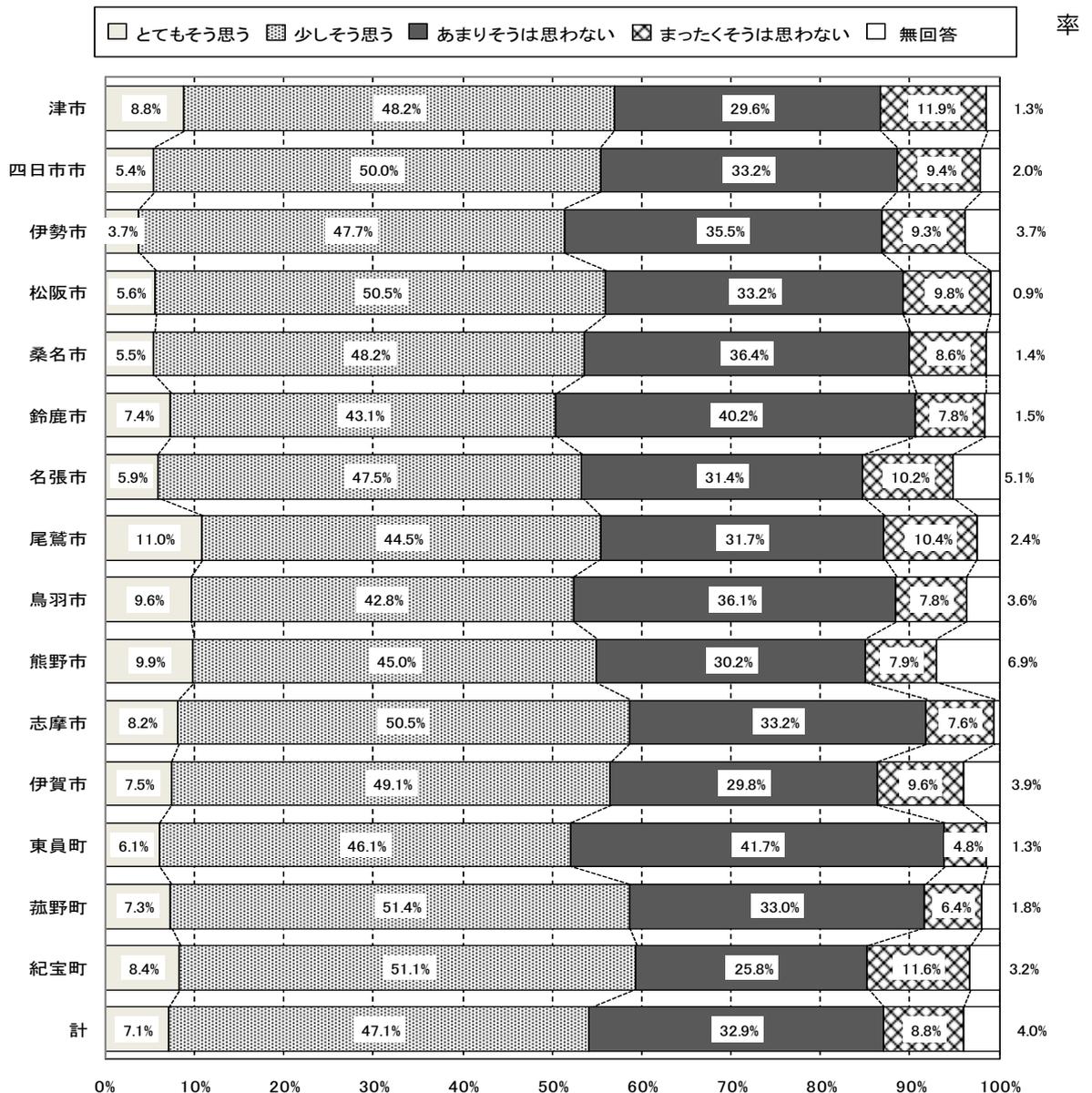


図 5-4-17 「住民参画の機会があれば、参画したいか」市町別回答率

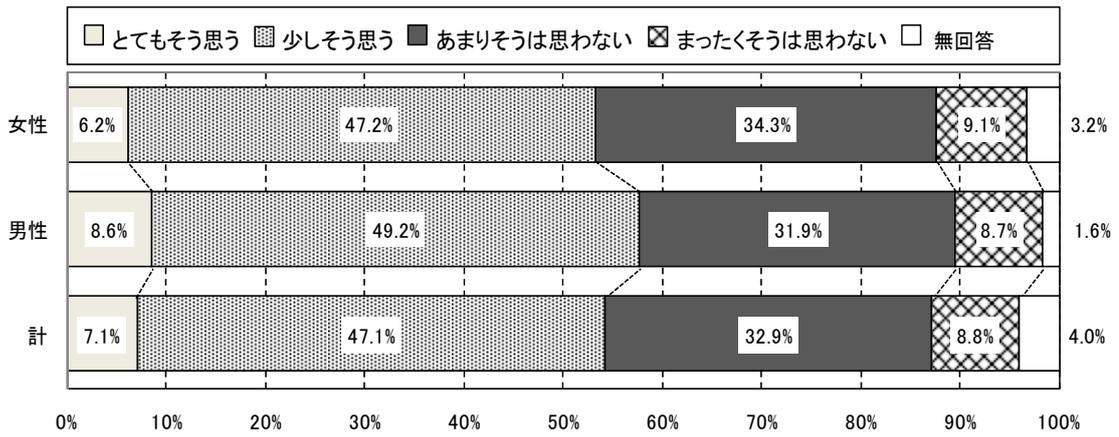


図 5-4-18 「住民参画の機会があれば、参画したいか」性別回答率

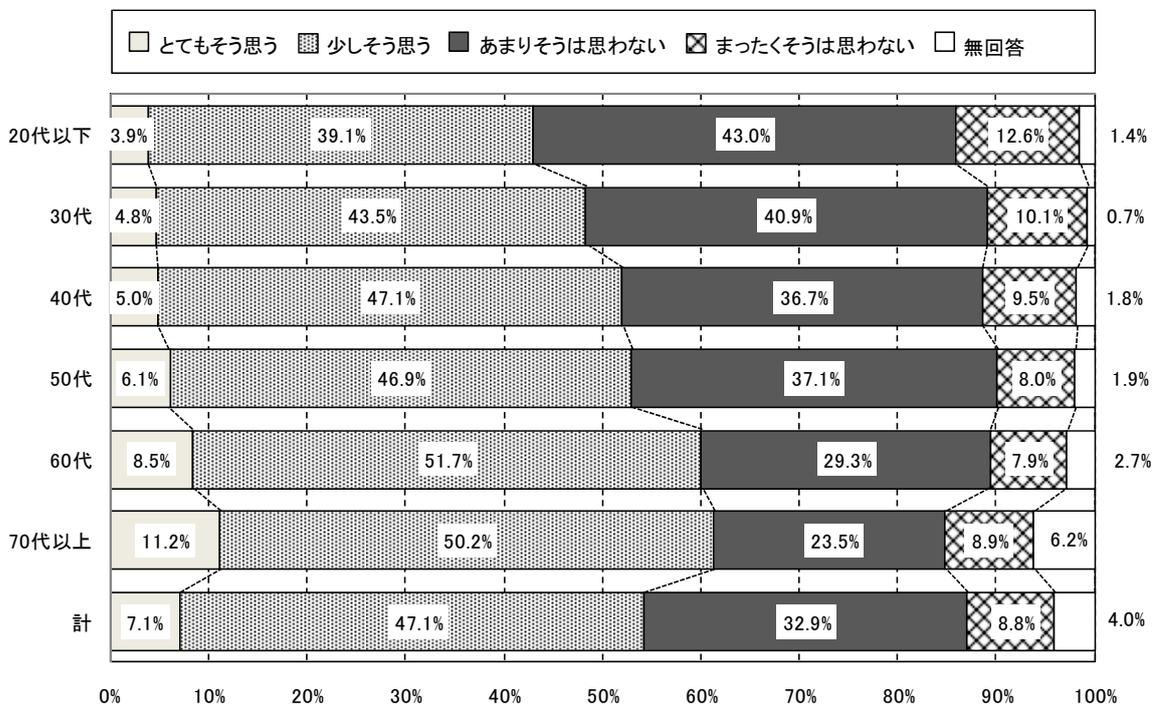


図 5-4-19 「住民参画の機会があれば、参画したいか」年代別回答率

## 5-5 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」について

問 33 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存じですか？（〇は1つ）

「ごみゼロ社会実現プランを知っているか」については、「知らない」が60.9%を占め、次いで「名前は聞いたことがある」が31.9%となっている。  
市町別については、「知っている」と「名前は聞いたことがある」の計が31.9%から43.9%であり、市町によって少し幅がある。  
年代別については、上記の計が「70代以上」で高い。

### ① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	156	4.9%
2	名前は聞いたことがある	1,006	31.9%
3	知らない	1,920	60.9%
4	無回答	72	2.3%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-5-1 「プランを知っているか」回答状況

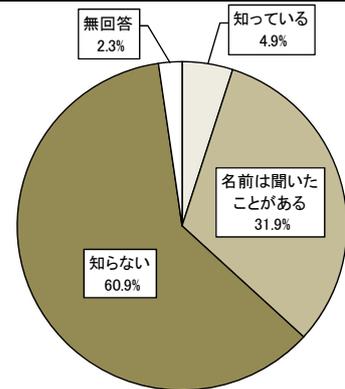


図 5-5-1 「プランを知っているか」回答率

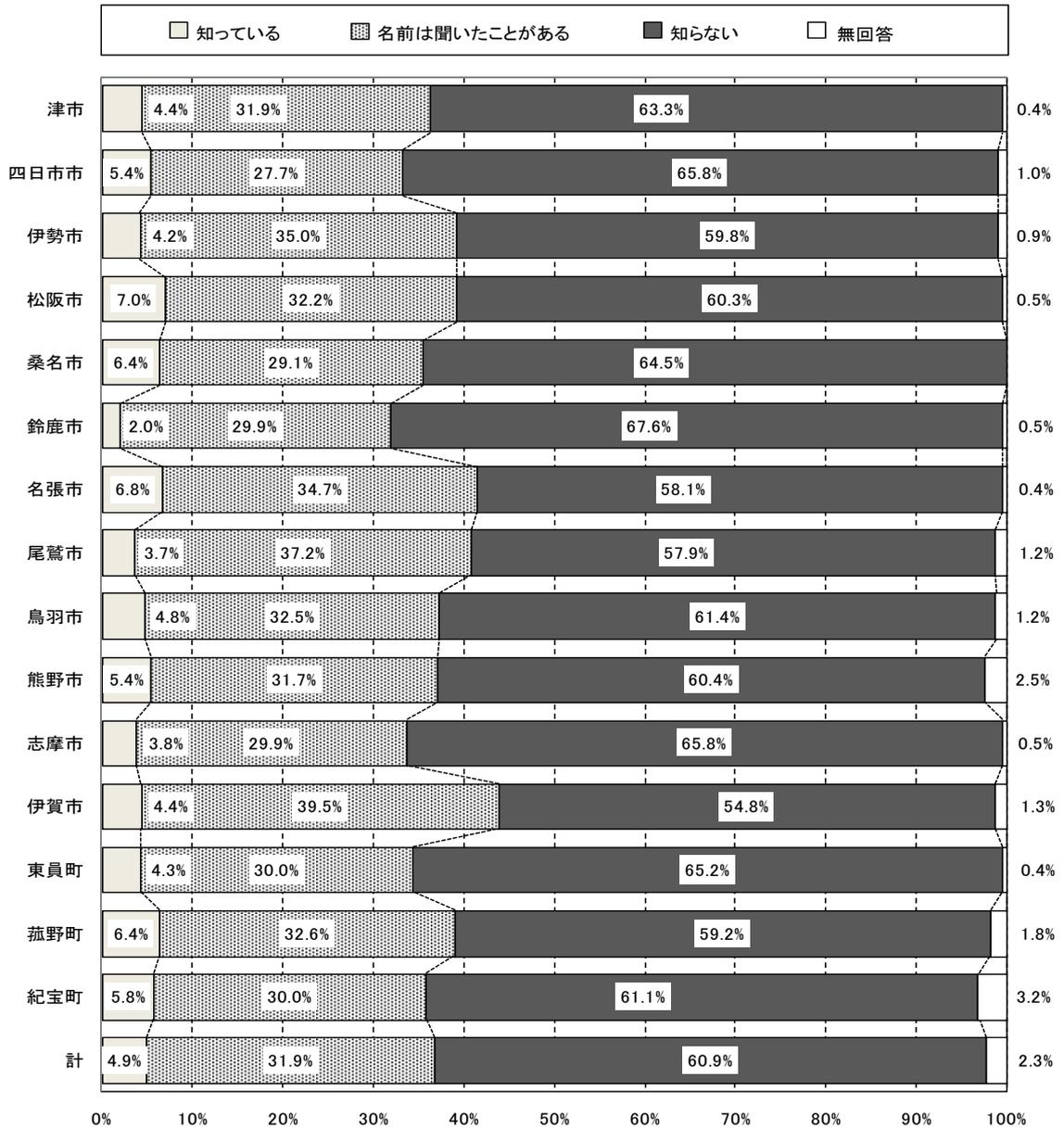


図 5-5-2 「プランを知っているか」市町別回答率

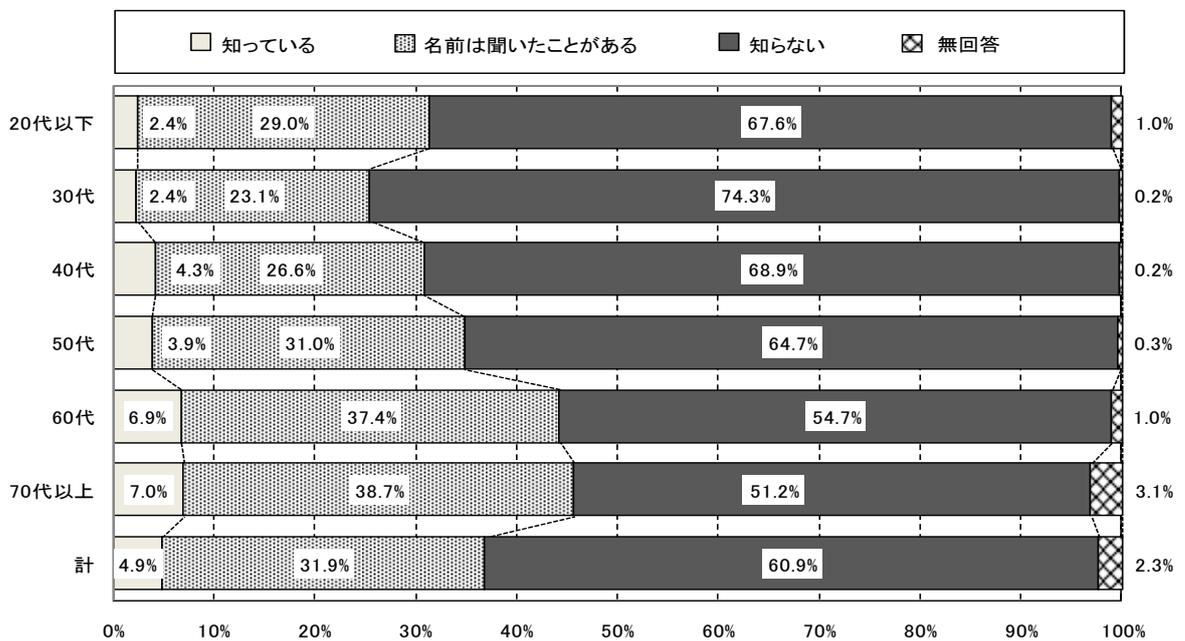


図 5-5-3 「プランを知っているか」年代別回答率

問 34 三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」をご存じですか？（〇は1つ）

「三重県のごみゼロキャラクター『ゼロ吉』を知っているか」については、「知らない」が78.8%を占め、次いで「見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった」が14.0%となっている。  
 市町別については、大きな隔たりはみられない。  
 年代別については、「知らない」が「70代以上」で69.6%と一番低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	162	5.1%
2	見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった	440	14.0%
3	知らない	2485	78.8%
4	無回答	67	2.1%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-5-2 「『ゼロ吉』を知っているか」回答状況

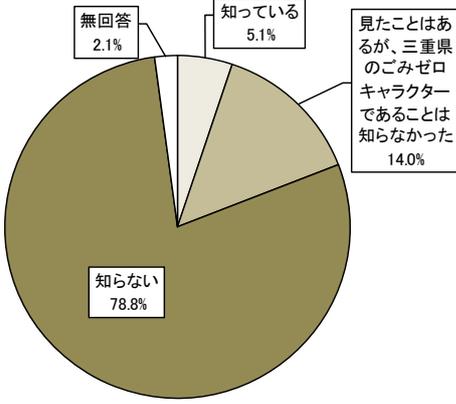
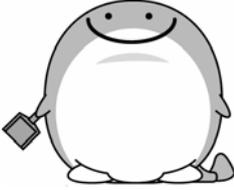


図 5-5-4 「『ゼロ吉』を知っているか」回答率



三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

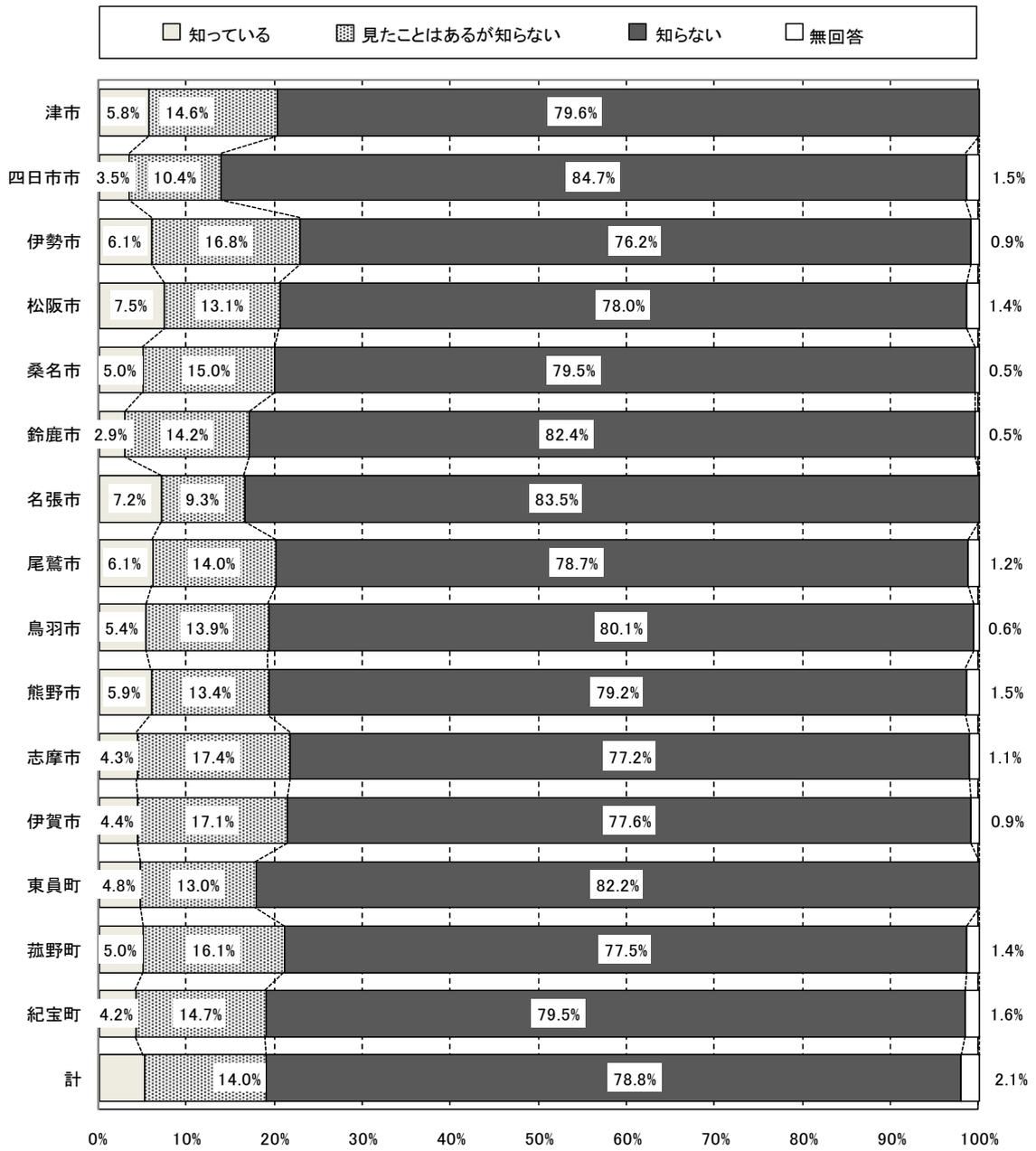


図 5-5-5 「『ゼロ吉』を知っているか」市町別回答率

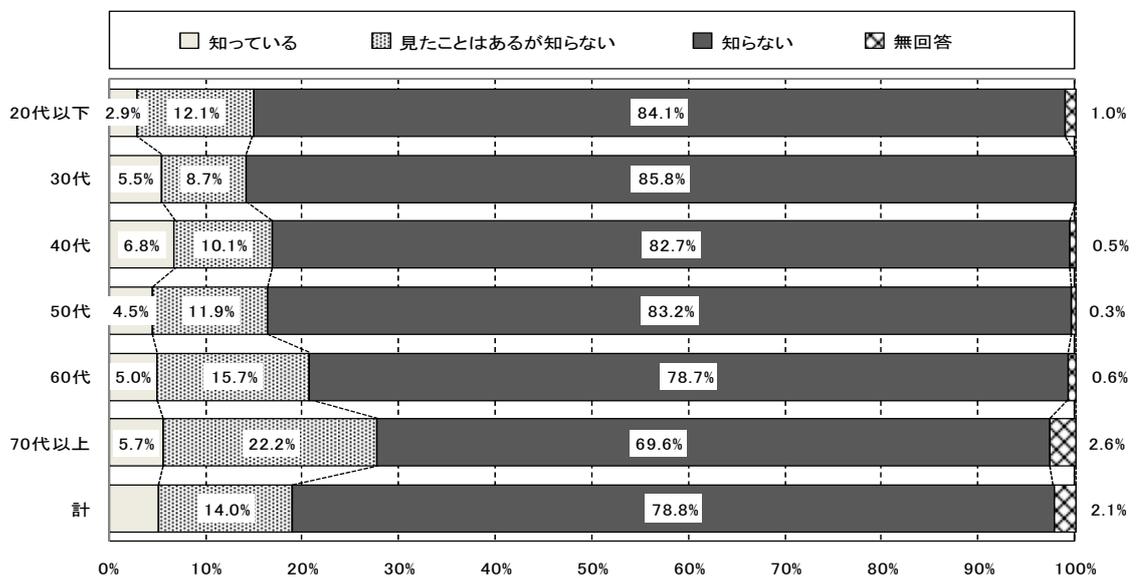


図 5-5-6 「『ゼロ吉』を知っているか」年代別回答率

問 35 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取組に参加したいと思いませんか？（あてはまるものすべてに○）

「三重県の『ごみゼロ社会実現プラン』に関する取組に参加したいか」については、「アンケートなどに協力したい」が一番高く 36.5%であり、次いで「いずれにも参加したいとは思わない」（24.2%）、「ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読みたい」（23.5%）となっている。  
市町別及び性別については、大きな差はみられない。  
年代別については、「20代以下」と「30代」で「アンケートなどに協力したい」がやや高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	地域ごみゼロ交流会に参加したい	289	9.2%
2	ごみゼロに関する講演会やセミナーに参加したい	352	11.2%
3	ごみゼロプランに関する情報をホームページ等で読みたい	619	19.6%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	215	6.8%
5	ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読みたい	741	23.5%
6	アンケートなどに協力したい	1,152	36.5%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	68	2.2%
8	ごみゼロプランの進捗状況などを評価検証する「ごみゼロプラン推進委員会」を傍聴したい	92	2.9%
9	いずれにも参加したいとは思わない	762	24.2%
10	その他	82	2.6%
総回答数		4,372	138.6%
有効回答数		3,154	100.0%

表 5-5-3 「県民参画の取組に参加したいか」回答状況

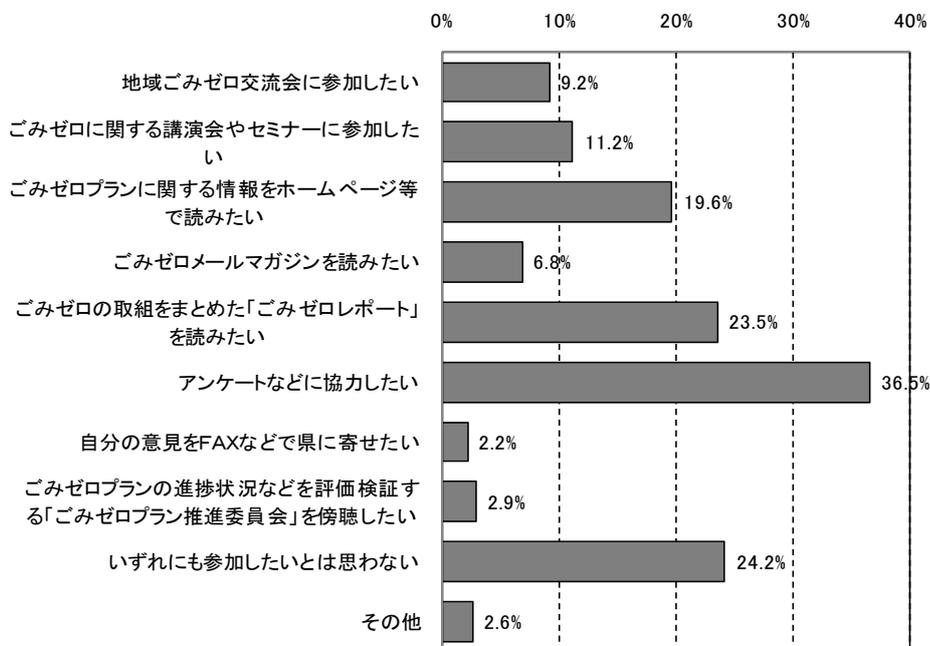


図 5-5-7 「県民参画の取組に参加したいか」回答率

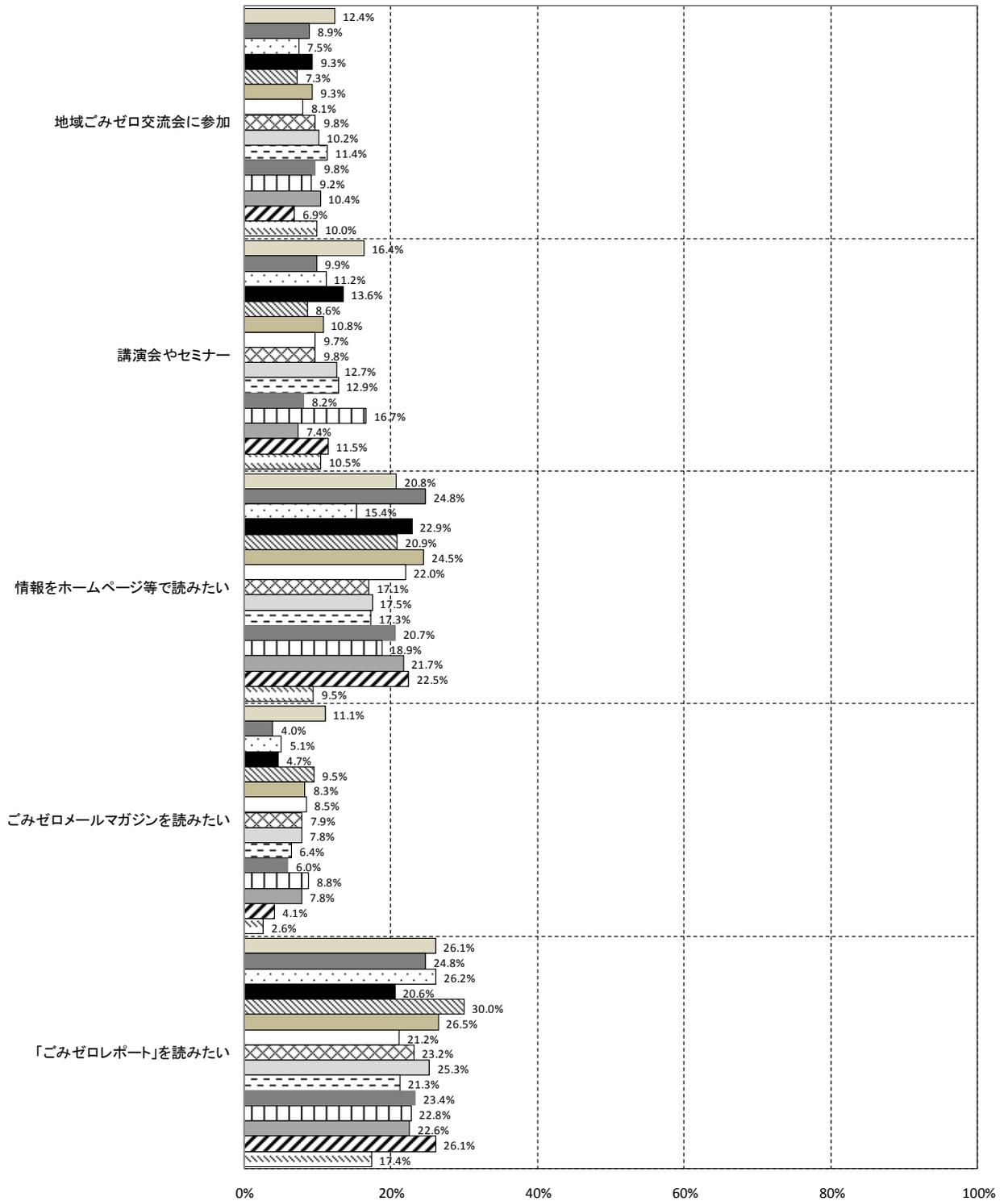
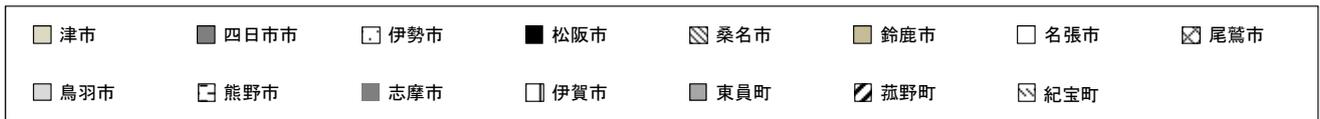


図 5-5-8 (1/2) 「県民参画の取組に参加したいか」市町別回答率

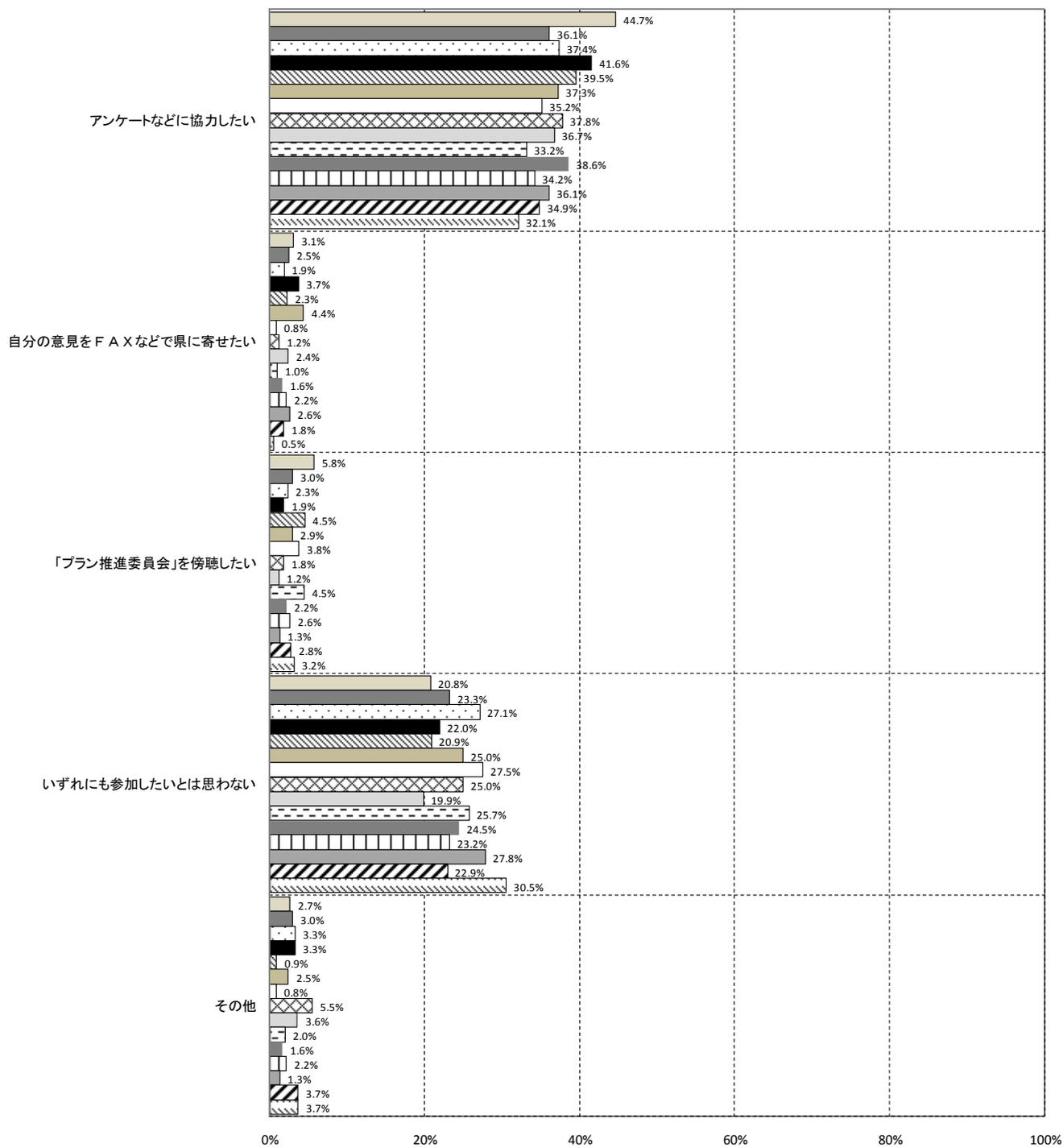


図 5-5-8 (2/2) 「県民参画の取組に参加したいか」市町別回答率

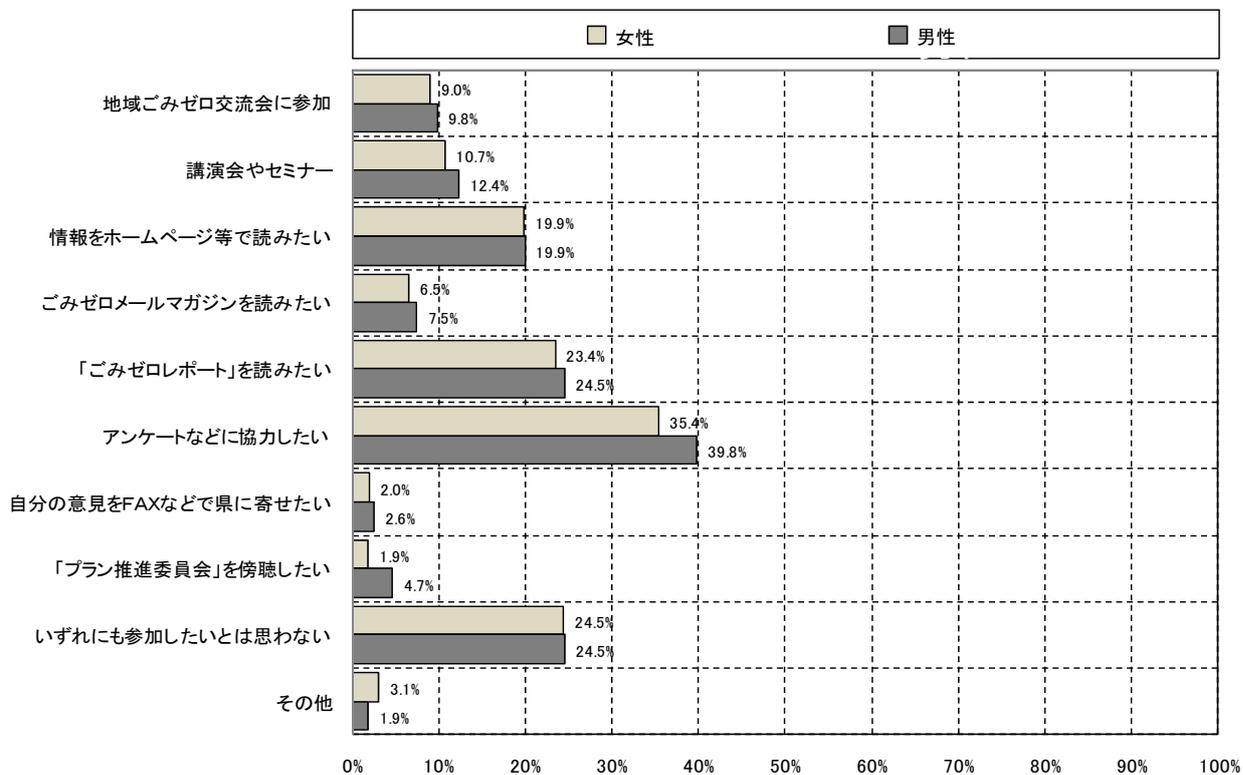


図 5-5-9 「県民参画の取組に参加したいか」性別回答率

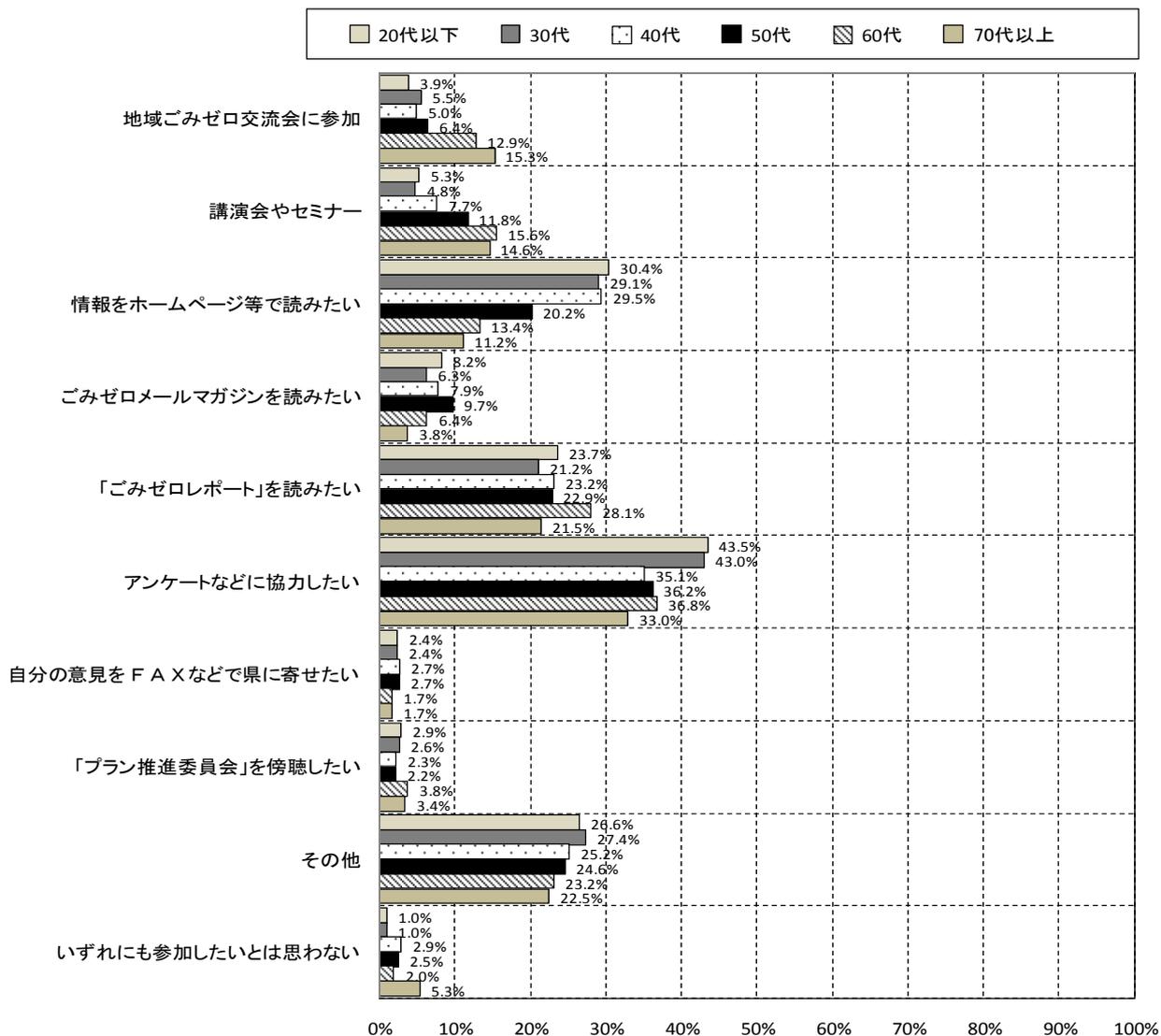


図 5-5-10 「県民参画の取組に参加したいか」年代別回答率

## 6 意識・行動解析

### 6-1 目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析

ここでは、目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析を行い、差が解消されることで目標指標の達成率の向上に資すると仮定して、今後県民に普及・周知を図るべき項目を検討する。計算方法は平成19年度調査と同じである。

#### 目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の計算方法

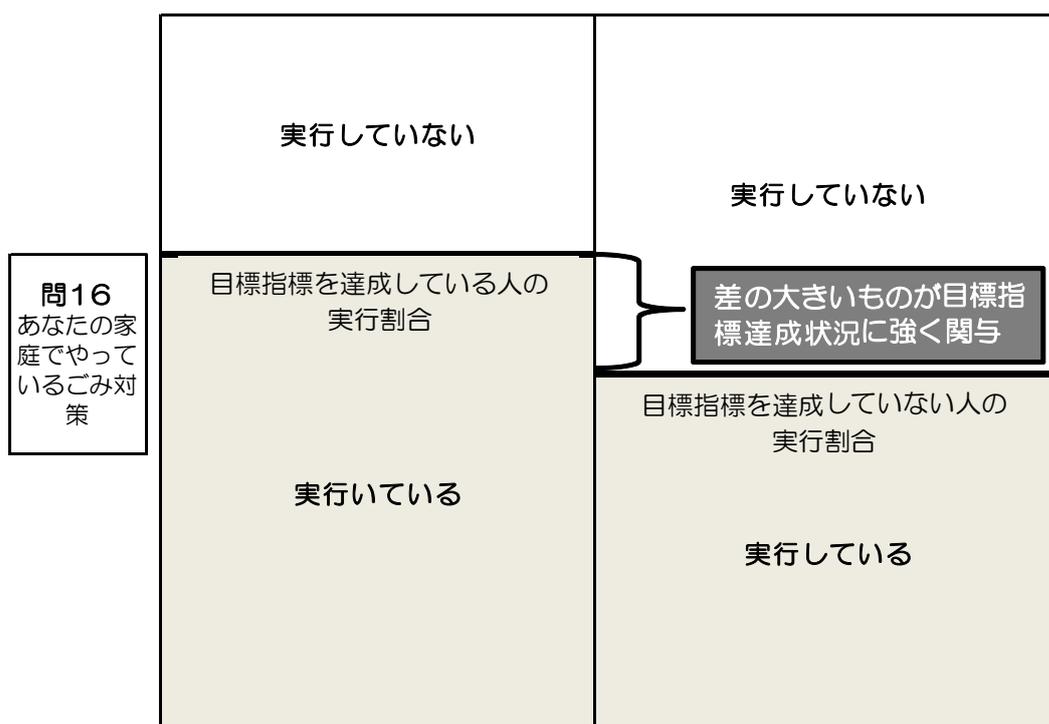
(問16 と問2-(1)における目標指標達成状況との相関で例示する)

- a. 問2-(1)「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう」について、目標指標を達成している人（「③あまり当てはまらない」＋「④まったく当てはまらない」）、目標指標を達成していない人（「①よく当てはまる」＋「②少し当てはまる」）ごとに回答数を計算し、それぞれについて回答者数を母数にして比率にする。
- b. aで出た比率を元に、目標指標を達成している人と目標指標を達成していない人の差をみる。

問2-(1) 価品や新製品をみると、  
すぐには必要なくてもつい買ってしまう

目標指標を達成している人  
(「③あまり当てはまらない」＋  
「④まったく当てはまらない」)

目標指標を達成していない人  
(「①よく当てはまる」＋  
「②少し当てはまる」)



1) 問16と問2-(1)における目標指標達成状況との相関

問16「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問2-(1)特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」における目標指標の達成状況をみる。  
 目標指標を達成している人の方が実行している割合が5ポイント以上高かったのは「13：食品は買いすぎないように注意している」、「17：資源とごみの分別を徹底している」の2項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目が「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「16：不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」など6項目あった。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	85.0%	85.2%	-0.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	13.3%	13.3%	0.1%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	11.3%	9.2%	2.0%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.2%	2.4%	-0.2%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	6.4%	6.0%	0.4%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	13.7%	12.1%	1.7%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	7.8%	7.7%	0.1%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	91.5%	92.3%	-0.8%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	58.6%	61.1%	-2.5%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	16.4%	13.4%	3.0%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	10.6%	11.5%	9.0%	2.6%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	39.5%	35.4%	4.1%
13	食品は買いすぎないように注意している	59.9%	65.3%	51.4%	13.9%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	5.4%	4.4%	1.0%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	71.1%	68.0%	3.1%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	16.5%	18.6%	-2.2%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	63.0%	56.9%	6.1%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	56.8%	55.6%	1.2%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	10.9%	7.4%	3.5%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	27.8%	26.2%	1.6%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	9.9%	9.6%	0.3%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	21.4%	19.1%	2.2%
23	その他	1.0%	1.0%	0.8%	0.2%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.1%	0.2%	-0.1%

表 6-1-1 問16と問2-(1)の相関表

2) 問16と問2- (2) における目標指標達成状況との相関

問16「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問2-(2)買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える」における目標指標の達成状況をみる。

目標指標を達成している人の方が実行している割合が5ポイント以上高かったのは「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の6項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「7：紙くすなどを庭や畑で焼却している」であった。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	86.0%	83.9%	2.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	13.5%	13.1%	0.4%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	11.1%	9.5%	1.5%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.3%	2.2%	0.1%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	6.4%	5.9%	0.5%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	14.3%	11.6%	2.7%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	7.3%	8.4%	-1.1%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	93.0%	90.2%	2.8%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	62.1%	56.3%	5.7%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	16.8%	13.3%	3.5%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んで	10.6%	11.6%	9.0%	2.6%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	42.0%	32.5%	9.6%
13	食品は買いすぎないように注意している	59.9%	63.1%	55.7%	7.4%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	5.1%	4.8%	0.3%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	73.2%	65.5%	7.7%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	17.6%	16.8%	0.8%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	63.3%	57.1%	6.2%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	58.2%	54.3%	3.9%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	11.2%	7.0%	4.1%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	29.3%	24.4%	5.0%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	10.0%	9.8%	0.2%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	20.9%	19.9%	1.0%
23	その他	1.0%	1.2%	0.7%	0.5%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%

表 6-1-2 問16と問2- (2) の相関表

3) 問16と問2-(3)における目標指標達成状況との相関

問16 「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問2-(3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」における目標指標の達成状況をみる。

目標指標を達成している人の方が実行している割合が5ポイント以上高かったのは「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の6項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「4：市町や団体に取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」など2項目であった。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	86.5%	84.3%	2.2%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	16.3%	11.5%	4.7%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	13.1%	8.9%	4.2%
4	市町や団体に取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.2%	2.3%	-0.2%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	6.7%	6.0%	0.7%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	14.6%	12.3%	2.3%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	8.3%	7.4%	0.9%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	92.6%	91.4%	1.2%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	61.4%	58.5%	2.9%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	18.3%	13.5%	4.7%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいく	10.6%	13.7%	8.7%	4.9%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	45.1%	33.5%	11.6%
13	食品は買いすぎないように注意している	59.9%	66.9%	56.0%	11.0%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	5.3%	4.8%	0.6%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	75.2%	67.0%	8.2%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	18.8%	16.4%	2.5%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	65.0%	58.1%	6.9%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	60.3%	54.1%	6.2%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	12.4%	7.8%	4.6%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	30.7%	25.2%	5.5%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	11.4%	9.0%	2.5%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	22.8%	19.1%	3.7%
23	その他	1.0%	1.4%	0.7%	0.7%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.1%	0.2%	-0.1%

表 6-1-3 問16と問2-(3)の相関表

4) 問16と問2-(4)における目標指標達成状況との相関

問16 「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問2-(4)一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」における目標指標の達成状況別にみている。

目標指標を達成している人の方が実行している割合が5ポイント以上高かったのは「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている」の3項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「8：買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」など3項目であった。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	85.1%	85.2%	-0.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	14.8%	12.2%	2.6%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	11.7%	9.5%	2.2%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.9%	1.8%	1.0%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	7.1%	5.5%	1.6%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	15.0%	11.6%	3.4%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	8.1%	7.5%	0.6%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	90.9%	92.6%	-1.7%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	57.1%	61.9%	-4.8%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	17.2%	13.8%	3.4%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	10.6%	12.1%	9.3%	2.8%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	39.8%	36.5%	3.2%
13	食品は買いすぎないように注意している	59.9%	64.7%	56.2%	8.5%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	6.0%	4.1%	1.8%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	73.4%	67.4%	6.0%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	19.5%	15.5%	4.0%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	62.9%	59.0%	4.0%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	58.3%	54.9%	3.4%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	15.2%	4.8%	10.3%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	29.2%	25.9%	3.4%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	11.6%	8.5%	3.1%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	20.6%	20.6%	0.0%
23	その他	1.0%	1.5%	0.5%	1.0%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%

表 6-1-4 問16と問2-(4)の相関表

5) 問16と問4-（1）における目標指標達成状況との相関

問16「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問4-(1)使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」における目標指標の達成状況をみている。

目標指標を達成している人の方が実行している割合が5ポイント以上高かったのは「6：生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている」、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「19：無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている」、「20：マイボトル・マイカップの持参などでペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の8項目であった。特に「15：食事を食べ残さないようにしている」は20.8%と高かった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」など3項目であった。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	86.0%	84.5%	1.5%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	16.2%	11.7%	4.6%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	11.5%	10.0%	1.5%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.6%	2.2%	0.3%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	7.3%	5.6%	1.7%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	16.8%	11.1%	5.7%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	7.7%	7.8%	0.0%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	93.5%	90.7%	2.8%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	59.0%	60.0%	-1.0%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	18.1%	13.6%	4.5%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	10.6%	12.4%	9.5%	2.8%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	41.4%	35.8%	5.6%
13	食品は買いすぎないように注意している	59.9%	69.3%	54.7%	14.5%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	5.8%	4.5%	1.3%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	83.1%	62.2%	20.8%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	18.7%	16.4%	2.3%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	67.5%	56.6%	10.9%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	59.7%	54.3%	5.4%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	12.8%	7.6%	5.2%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	32.4%	24.2%	8.3%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	10.9%	9.2%	1.7%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	20.3%	20.7%	-0.4%
23	その他	1.0%	1.5%	0.6%	0.9%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.1%	0.2%	-0.1%

表 6-1-5 問16と問4-（1）の相関表

6) 問16と問4-(2) における目標指標達成状況との相関

問16「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問4-(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか」における目標指標の達成状況をみている。

目標指標を達成している人の方が実行している割合が5 ポイント以上高かったのは、「2：台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている」、「6：生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている」、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いたすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「19：無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の9項目であった。特に「15：食事を食べ残さないようにしている」は33.0%と高い。

番号	問 16 選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.9%	86.6%	82.9%	3.7%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	13.3%	15.8%	10.0%	5.8%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.5%	11.4%	9.3%	2.1%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	2.3%	2.9%	1.6%	1.3%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	6.2%	7.4%	4.6%	2.8%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	13.2%	15.4%	10.3%	5.0%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	91.6%	93.3%	89.6%	3.7%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	59.5%	60.9%	57.8%	3.1%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	15.3%	17.2%	12.7%	4.4%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	10.6%	11.9%	8.7%	3.2%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	37.8%	40.4%	34.4%	6.0%
13	食品は買いたすぎないように注意している	59.9%	67.5%	49.8%	17.6%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	4.9%	5.9%	3.6%	2.4%
15	食事を食べ残さないようにしている	69.8%	83.9%	50.9%	33.0%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	17.2%	18.3%	15.9%	2.4%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.6%	66.7%	52.1%	14.6%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	59.8%	51.4%	8.4%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	9.5%	11.7%	6.6%	5.1%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	27.2%	32.0%	20.7%	11.3%
21	マイ箸を携帯している	9.8%	10.7%	8.8%	1.9%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	20.5%	20.8%	20.2%	0.6%
23	その他	1.0%	1.2%	0.6%	0.6%
24	これらいずれもやっていない	0.1%	0.1%	0.2%	-0.2%

表 6-1-6 問16と問4-(2) の相関表

7) 目標指標達成状況による差

目標指標を達成している人と達成していない人の差について全体的にみると、すべてが5ポイント以上は「13：食品は買いすぎないように注意している」となっている。

5ポイント以上が5つあるのは、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」の2項目であった。

5ポイント以上が4つあるのは、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の2項目であった。

以上の5項目の行動は、目標指標の達成と相関が強いといえる。

番号	目標指標	ものを大切に長く使おうとする県民の率		環境に配慮した消費行動をとる県民の率		食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	
	質問番号	問 2-1	問 2-2	問 2-3	問 2-4	問 4-1	問 4-2
1	台所ごみの水切りをしている	-0.1%	2.1%	2.2%	-0.1%	1.5%	3.7%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	0.1%	0.4%	4.7%	2.6%	4.6%	5.8%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	2.0%	1.5%	4.2%	2.2%	1.5%	2.1%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	-0.2%	0.1%	-0.2%	1.0%	0.3%	1.3%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	0.4%	0.5%	0.7%	1.6%	1.7%	2.8%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	1.7%	2.7%	2.3%	3.4%	5.7%	5.0%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	0.1%	-1.1%	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	-0.8%	2.8%	1.2%	-1.7%	2.8%	3.7%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	-2.5%	5.7%	2.9%	-4.8%	-1.0%	3.1%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	3.0%	3.5%	4.7%	3.4%	4.5%	4.4%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	2.6%	2.6%	4.9%	2.8%	2.8%	3.2%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	4.1%	9.6%	11.6%	3.2%	5.6%	6.0%
13	食品は買いすぎないように注意している	13.9%	7.4%	11.0%	8.5%	14.5%	17.6%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	1.0%	0.3%	0.6%	1.8%	1.3%	2.4%
15	食事を食べ残さないようにしている	3.1%	7.7%	8.2%	6.0%	20.8%	33.0%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	-2.2%	0.8%	2.5%	4.0%	2.3%	2.4%
17	資源とごみの分別を徹底している	6.1%	6.2%	6.9%	4.0%	10.9%	14.6%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	1.2%	3.9%	6.2%	3.4%	5.4%	8.4%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	3.5%	4.1%	4.6%	10.3%	5.2%	5.1%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	1.6%	5.0%	5.5%	3.4%	8.3%	11.3%
21	マイ箸を携帯している	0.3%	0.2%	2.5%	3.1%	1.7%	1.9%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	2.2%	1.0%	3.7%	0.0%	-0.4%	0.6%
23	その他	0.2%	0.5%	0.7%	1.0%	0.9%	0.6%
24	これらいずれもやっていない	-0.1%	0.0%	-0.1%	0.2%	-0.1%	-0.2%

表 6-1-7 目標指標達成状況による差

## 6-2 意識と行動の相関分析

ここでは、意識と行動の相関を点数化した。意識と行動の相関を見ることにより、どのような意識が行動に結びつくか、また、行動を高めるためにはどのような意識を向上させる必要があるかを分析する。

意識パターンと行動パターンの相関を下表に示した。

意識と行動の相関		行動パターン				
		1	2	3	4	
		よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	
意識パターン	1	とてもそう思う	全く相関なし	相関なし	相関あり	強い相関あり
	2	少しそう思う	相関なし	相関あり	強い相関あり	相関あり
	3	あまりそうは思わない	相関あり	強い相関あり	相関あり	相関なし
	4	全くそうは思わない	強い相関あり	相関あり	相関なし	全く相関なし

表 6-2-1 意識と行動の相関表

相関点数は、「強い相関あり」を2点、「相関あり」を1点、「相関なし」を-1点、「全く相関なし」を-2点とした。

意識と行動の相関		行動パターン				
		1	2	3	4	
		よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	
意識パターン	1	とてもそう思う	-2	-1	1	2
	2	少しそう思う	-1	1	2	1
	3	あまりそうは思わない	1	2	1	-1
	4	全くそうは思わない	2	1	-1	-2

表 6-2-2 意識と行動の相関点数表

### 6-2-1 計算例：問1-1 vs 問2-1

1) 問1-1と問2-1のクロス集計で回答数を算定する。

回答数		1	2	3	4	99	計
		よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	無回答	
1	とてもそう思う	99	370	353	188	3	1,013
2	少しそう思う	87	499	612	333	4	1,535
3	あまりそうは思わない	15	107	219	177	2	520
4	全くそうは思わない	2	11	20	38		71
99	無回答	1	1	1	2	10	15
計		204	988	1,205	738	19	3,154

表 6-2-3 問1-1 vs 問2-1 クロス集計

2) 表 6-2-3の回答数に表 6-2-2の相関点数を乗ずる。

相関点数の計を総回答数で除して平均相関点数を求める。

平均相関点数を相関点数の満点である2点で除して相関点数率を算定する。

相関点数		1	2	3	4	99	計	平均相関点数 相関点数計÷総回答数
		よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	無回答		
1	とてもそう思う	-198	-370	353	376	0	161	
2	少しそう思う	-87	499	1,224	333	0	1,969	
3	あまりそうは思わない	15	214	219	-177	0	271	
4	全くそうは思わない	4	11	-20	-76	0	-81	
99	無回答	0	0	0	0	0	0	
計		-266	354	1,776	456	0	2,320	0.74
相関点数率（平均相関点数/相関点数満点：2点）								36.8%

表 6-2-4 問1-1 v s 問2-1 相関点数表

以下同様の手段で、問1-1～6（意識に関する質問）と問2-1～4及び問4-1、2（行動に関する質問）の相関点数を求めることにより意識と行動の相関を分析した。

## 6-2-2 意識と行動の相関分析

1) 問1-1「家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う」と行動の相関

意識：問1-1と行動の相関は、問2-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう」が最も高く、問4-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」が最も低い。最大と最小の差は0.26あり、ばらつきが大きい。

			相関点数	率
問1-1 あまり必要ないものがたくさんあると思う	問2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう	0.74	36.8%
	問2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.69	34.7%
	問2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.55	27.6%
	問2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.49	24.4%
	問4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.48	23.8%
	問4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.68	34.1%
	最大値と最小値の差			0.26

表 6-2-5 問1-1と行動のまとめ

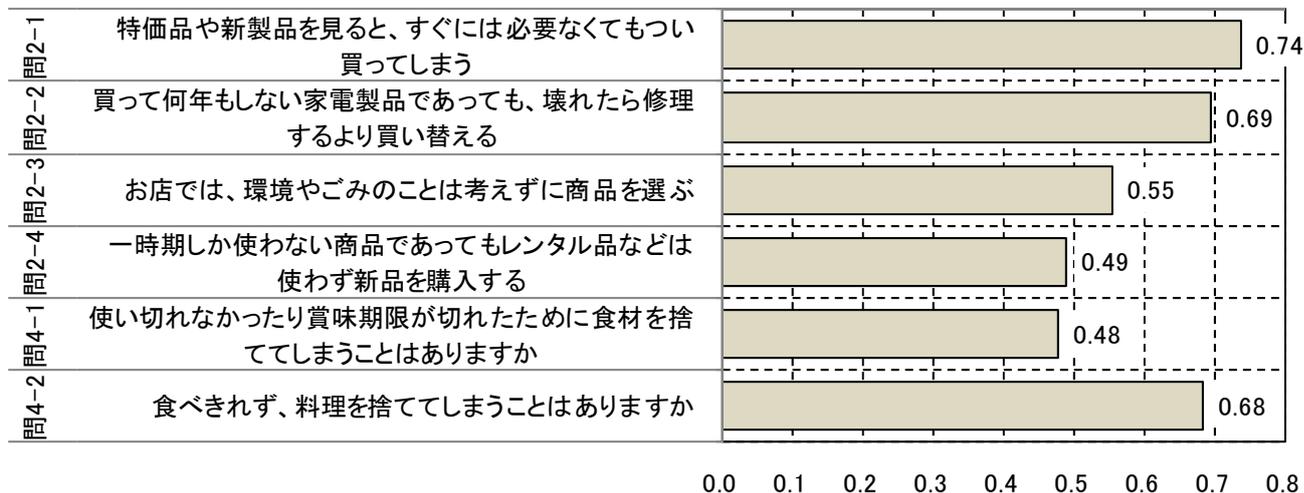


図 6-2-1 問1-1と行動のまとめ

2) 問1-2「ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまふ」と行動の相関

意識：問1-2と行動の相関は、問4-2「食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？」が最も高く、問2-4「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」が最も低い。最大と最小の差は0.32あり、ばらつきが大きい。

			相関点数	率
問1-2 ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまふ	問2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.81	40.7%
	問2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.78	39.2%
	問2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.57	28.3%
	問2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.52	26.0%
	問4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.55	27.7%
	問4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.84	42.2%
	最大値と最小値の差			0.32

表 6-2-6 問1-2と行動のまとめ



図 6-2-2 問1-2と行動のまとめ

3) 問1-3「商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う」と行動の相関

意識：問1-3と行動の相関は、問2-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」が最も高く、問2-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」が最も低い。最大と最小の差は0.50あり、ばらつきがかなり大きい。

			相関点数	率
問 1-3 商品について いる容器や包 装材は、もっ と少なくてい いと思う	問 2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.73	36.7%
	問 2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.62	30.8%
	問 2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.23	11.5%
	問 2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.31	15.4%
	問 4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.29	14.5%
	問 4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.70	34.8%
	最大値と最小値の差			0.50

表 6-2-7 問1-3と行動のまとめ

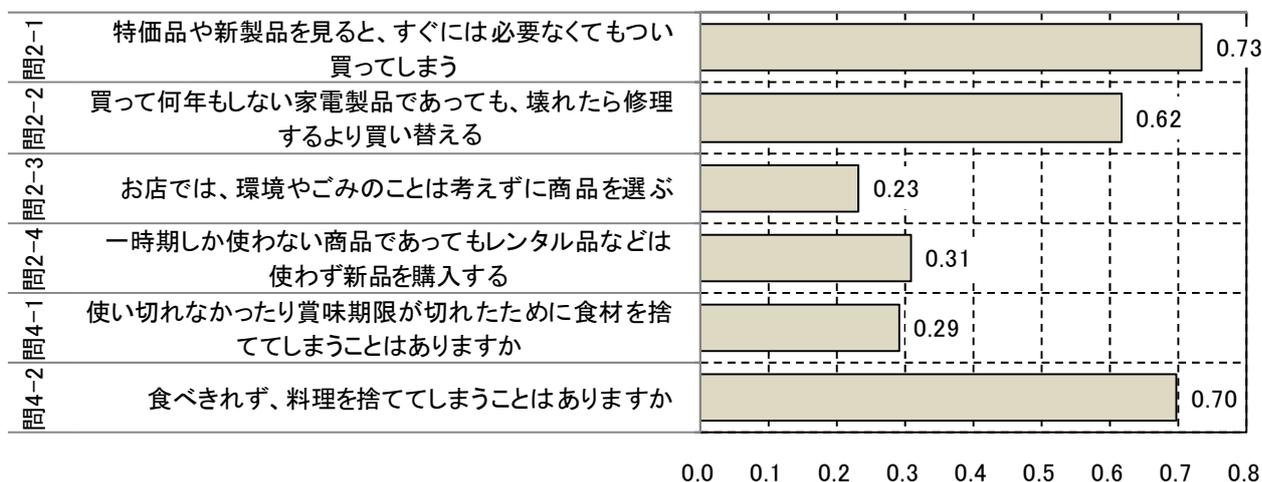


図 6-2-3 問1-3と行動のまとめ

4) 問1-4「レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない」と行動の相関

意識：問1-4と行動の相関は、問2-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」が最も高く、問2-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」が最も低い。最大と最小の差は0.09であり、ばらつきは小さい。

			相関点数	率
問 1-4 レンタル製品 など多くの人 が使いまわす ものでも、特 に抵抗感はない	問 2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.83	41.7%
	問 2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.80	39.9%
	問 2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.79	39.5%
	問 2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.80	39.9%
	問 4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.75	37.3%
	問 4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.78	39.1%
	最大値と最小値の差			0.09

表 6-2-8 問1-4と行動のまとめ

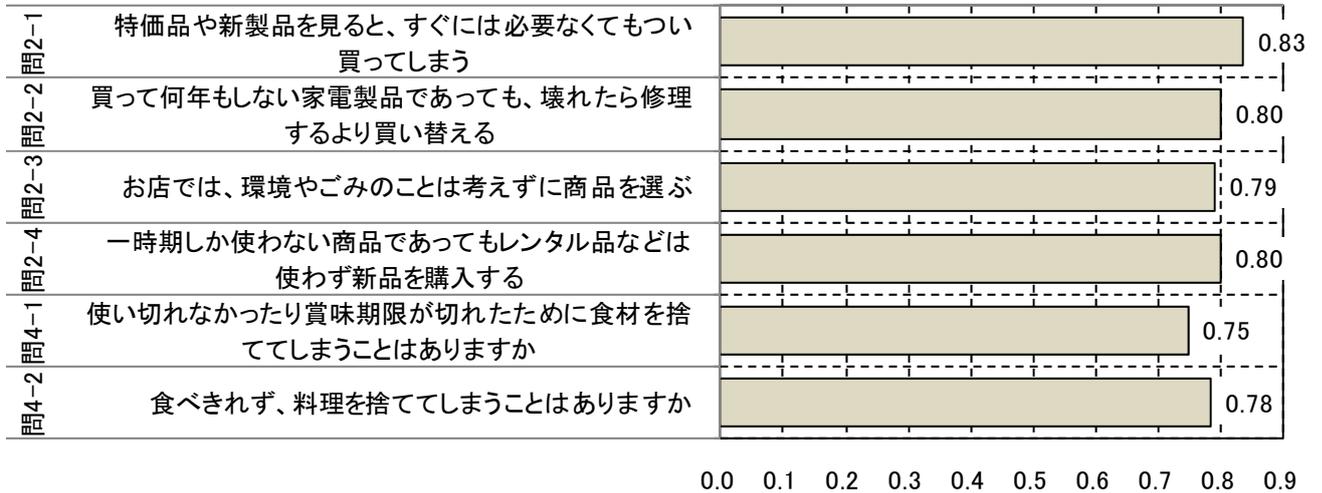


図 6-2-4 問1-4と行動のまとめ

5) 問1-5「日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」と行動の相関

意識：問1-5と行動の相関は、問2-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」が最も高く、問2-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」が最も低い。最大と最小の差は0.55あり、ばらつきはかなり大きい。最大値も0.62と低く、意識と行動の相関はかなり低いと思われる。

			相関点数	率
問1-5 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う	問2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.62	31.0%
	問2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.49	24.7%
	問2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.07	3.5%
	問2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.14	7.2%
	問4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.15	7.3%
	問4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.60	30.0%
	最大値と最小値の差			0.55

表 6-2-9 問1-5と行動のまとめ

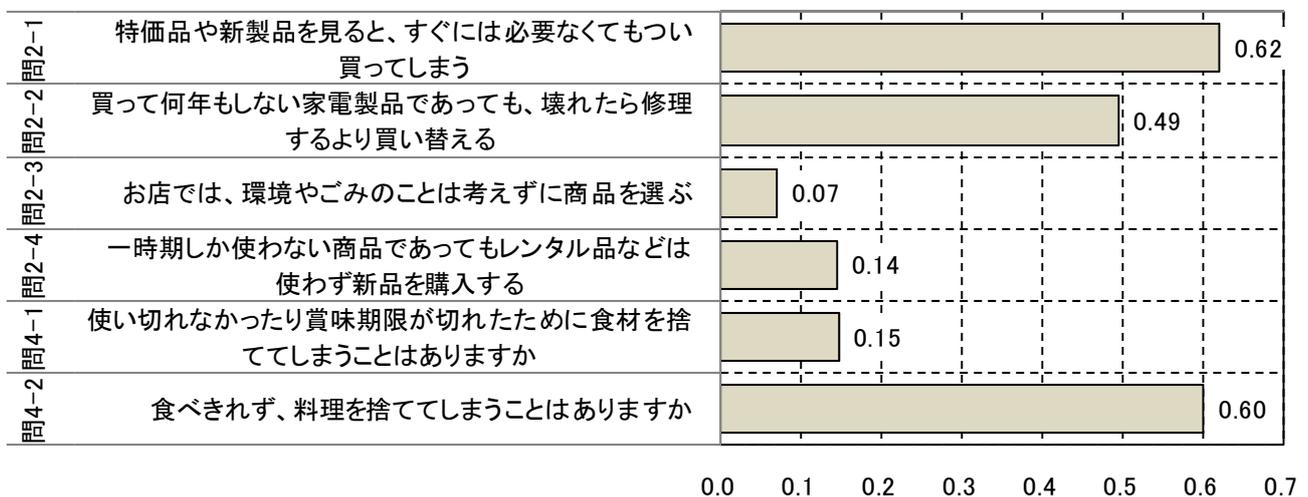


図 6-2-5 問1-5と行動のまとめ

6) 問1-6「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う」と行動の相関

意識：問1-6と行動の相関は、問2-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」が最も高く、問2-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」が最も低い。最大と最小の差は0.43あり、ばらつきはかなり大きい。

			相関点数	率
問 1-6 環境問題解決のためには、 技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う	問 2-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.71	35.7%
	問 2-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.58	29.0%
	問 2-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.28	14.2%
	問 2-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.31	15.6%
	問 4-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.34	16.8%
	問 4-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.66	33.1%
	最大値と最小値の差			0.43

表 6-2-10 問1-6と行動のまとめ

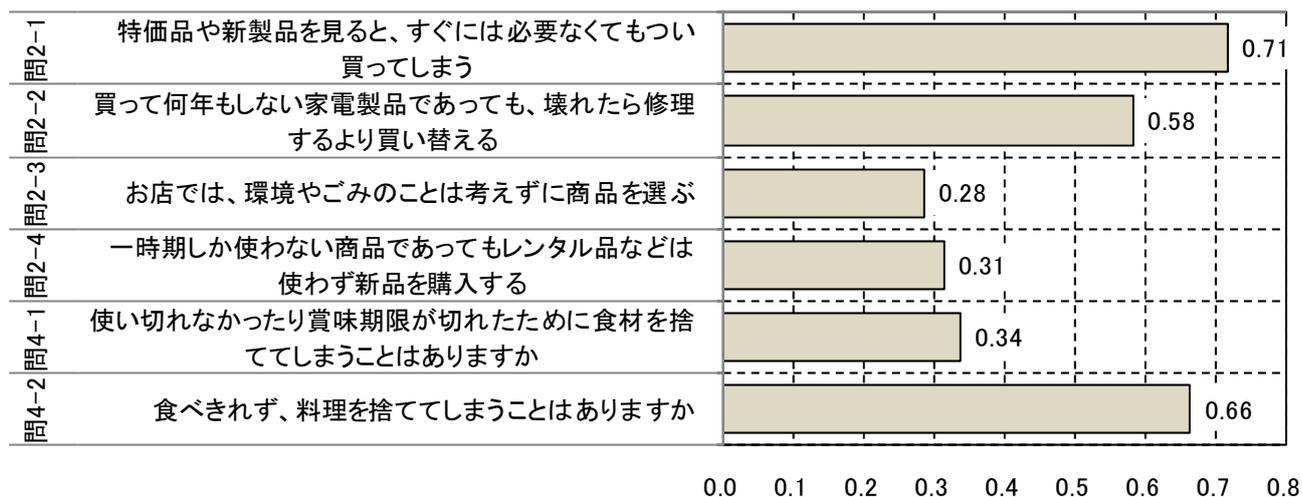


図 6-2-6 問1-6と行動のまとめ

7) 意識と行動の相関まとめ（意識・行動の相関点数の平均値）

意識から行動の相関をみると、問1-4「レンタル製品に抵抗感ない」の意識が行動に対し0.79と最も高い相関を示している。次いで問1-2「捨てるともったいない（0.68）」、問1-1「不要なものが多い（0.60）」となっている。

相関が最も低い意識は、問1-5「一人ひとりの行動が影響を及ぼす」で0.35、次いで問1-3「容器・包装材は少なくてよい（0.48）」、問1-6「技術開発・研究が大事（0.48）」となっている。

行動から意識をみると、相関の高い行動は、問2-1「必要なくても買ってしまう（0.74）」、問4-2「食べきれず料理を捨てる（0.11）」、問2-2「修理より買い替える（0.66）」となっている。

相関が低い行動は、問2-3「環境・ごみを考えず商品を選ぶ」、問4「期限切れで食材を捨てる」となっている。

意識・行動 相関		問 2-1	問 2-2	問 2-3	問 2-4	問 4-1	問 4-2	平均値
		必要なくても買ってしまう	修理より買い替え	環境・ごみを考えず商品を選ぶ	レンタル製品でなく新品を購入	期限切れで食材を捨てる	食べきれず料理を捨てる	
問 1-1	不要なものが多い	0.74	0.69	0.55	0.49	0.48	0.68	0.60
問 1-2	捨てるともったいない	0.81	0.78	0.57	0.52	0.55	0.84	0.68
問 1-3	容器・包装材は少なくてよい	0.73	0.62	0.23	0.31	0.29	0.70	0.48
問 1-4	レンタル製品に抵抗感ない	0.83	0.80	0.79	0.80	0.75	0.78	0.79
問 1-5	一人ひとりの行動が影響を及ぼす	0.62	0.49	0.07	0.14	0.15	0.60	0.35
問 1-6	技術開発・研究が大事	0.71	0.58	0.28	0.31	0.34	0.66	0.48
平均		0.74	0.66	0.42	0.43	0.42	0.71	0.56

表 6-2-9 意識と行動の相関まとめ 平均値

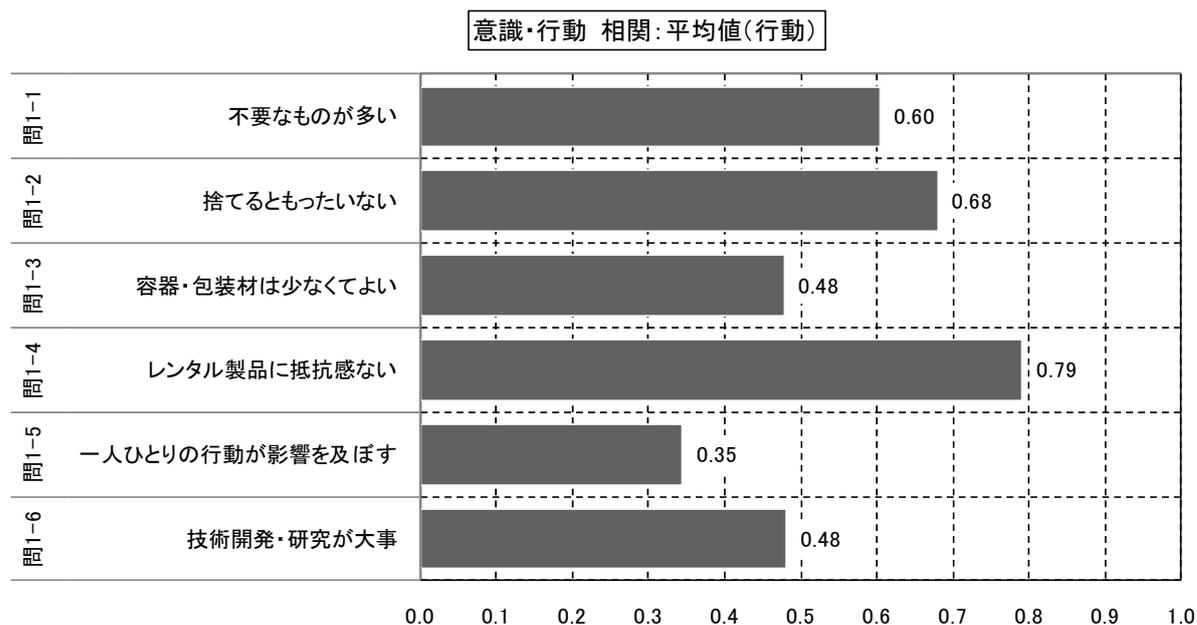


図 6-2-7 意識と行動の相関まとめ 平均値

## 7 平成 16 年度・平成 19 年度・平成 22 年度比較

平成 16 年度・平成 19 年度・平成 22 年度比較は、同一設問について行った。同一設問でも選択肢のことなるものは、除外してある。

### 7-1 属性

#### 1) 年代

年代構成比率は、20 代以下、50 代、60 代で若干差はあるものの、調査年度での大きな差異はない。

年代		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	20 代以下	207	6.6%	233	6.3%	99	2.6%
2	30 代	416	13.2%	466	12.7%	421	11.0%
3	40 代	444	14.1%	572	15.5%	604	15.7%
4	50 代	638	20.2%	847	23.0%	991	25.8%
5	60 代	815	25.8%	808	21.9%	910	23.7%
6	70 代以上	582	18.5%	646	17.5%	614	16.0%
99	無回答	52	1.6%	110	3.0%	196	5.1%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-1-1 年度別年代 構成比率

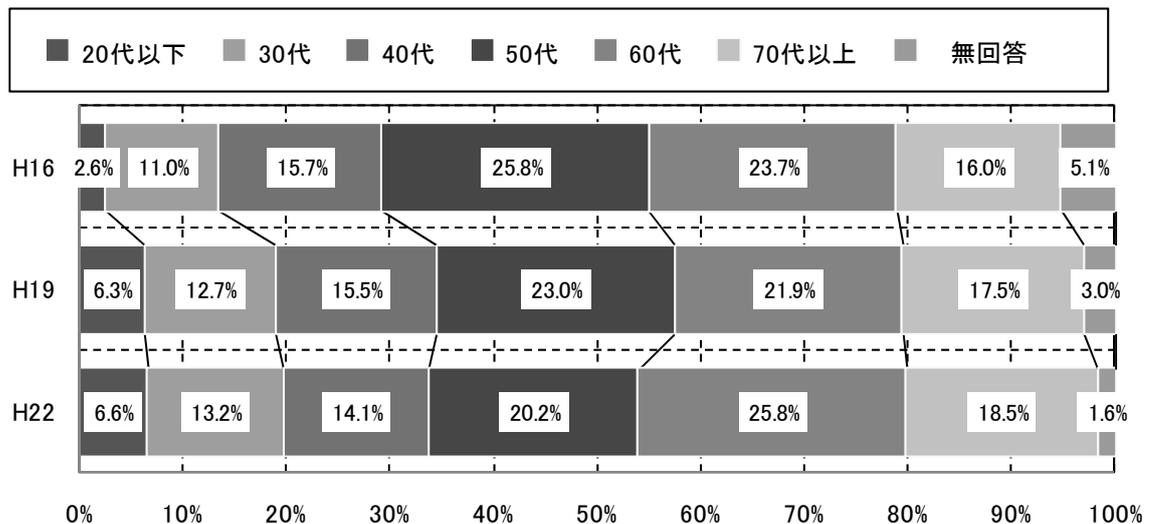


図 7-1-1 年度別年代 構成比率

#### 2) 性別

性別は、調査年度ごとに女性の比率が高くなってきている。

性別		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	女性	1,881	59.6%	2,097	57.0%	1,655	43.2%
2	男性	1,214	38.5%	1,461	39.7%	1,966	51.3%
99	無回答	59	1.9%	124	3.4%	214	5.6%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-1-2 年度別性別 構成比率

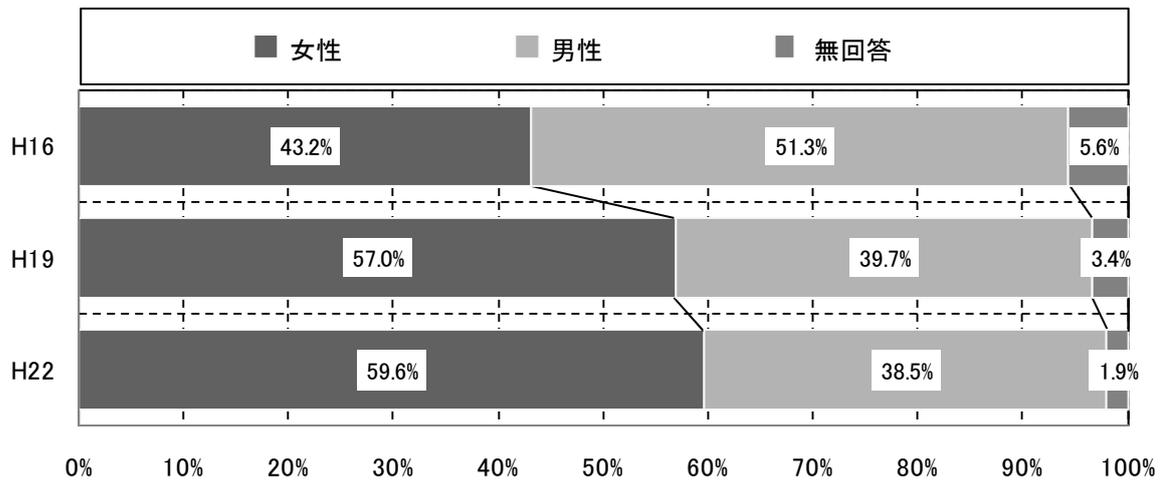


図 7-1-2 年度別性別 構成比率

3) 職業

職業の構成比率は、調査年度での大きな差は見られない。

職業	平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 会社員・公務員	854	27.1%	1,014	27.6%	1,087	28.3%
2 パート・アルバイト	461	14.6%	519	14.1%	421	11.0%
3 農林水産業	74	2.3%	81	2.2%	157	4.1%
4 自営業	261	8.3%	389	10.6%	510	13.3%
5 家事・家事手伝い	360	11.4%	400	10.9%	288	7.5%
6 学生	30	1.0%	40	1.1%	17	0.4%
7 無職	927	29.4%	968	26.3%	996	26.0%
8 その他	128	4.1%	143	3.9%	147	3.8%
99 無回答	59	1.9%	120	3.3%	212	5.5%
計	3,154	100%	3,674	100%	3,835	100%

表 7-1-3 年度別職業 構成比率

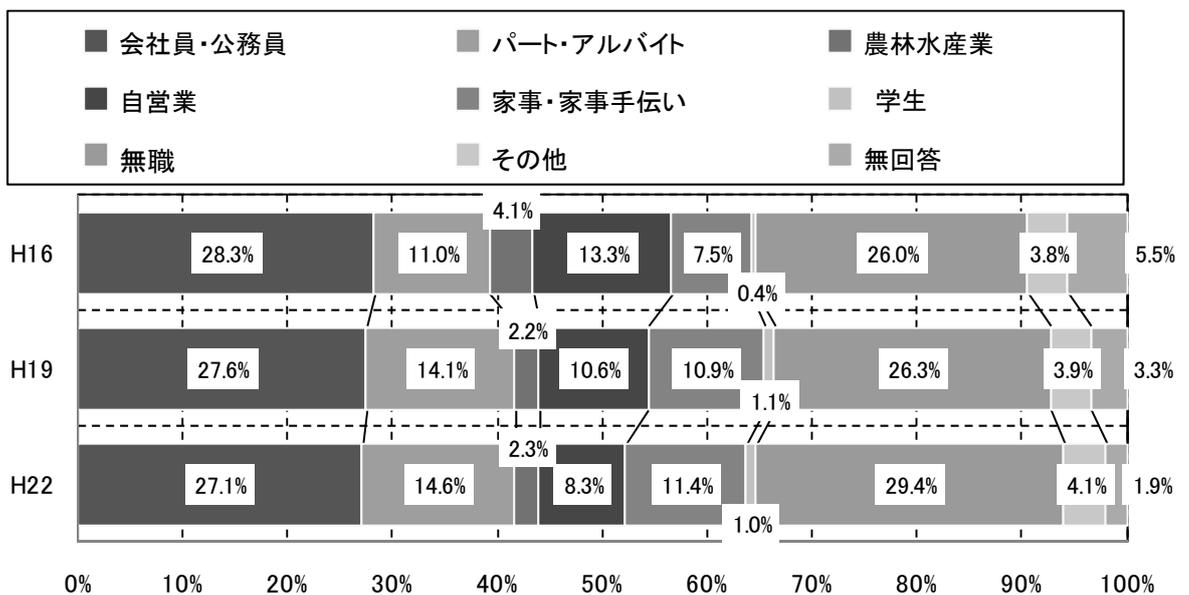


図 7-1-3 年度別職業 構成比率

#### 4) 世帯人員

世帯人員の構成比率は、調査年度ごとに少人数世帯比率が年々増加し、多人数世帯が年々減少している

世帯人員		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	1人	530	16.8%	517	14.0%	343	8.9%
2	2人	918	29.1%	1,033	28.1%	972	25.3%
3	3人	717	22.7%	837	22.7%	874	22.8%
4	4人	479	15.2%	593	16.1%	663	17.3%
5	5人以上	452	14.3%	575	15.6%	789	20.6%
99	無回答	58	1.8%	127	3.4%	194	5.1%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-1-4 年度別世帯人員 構成比率

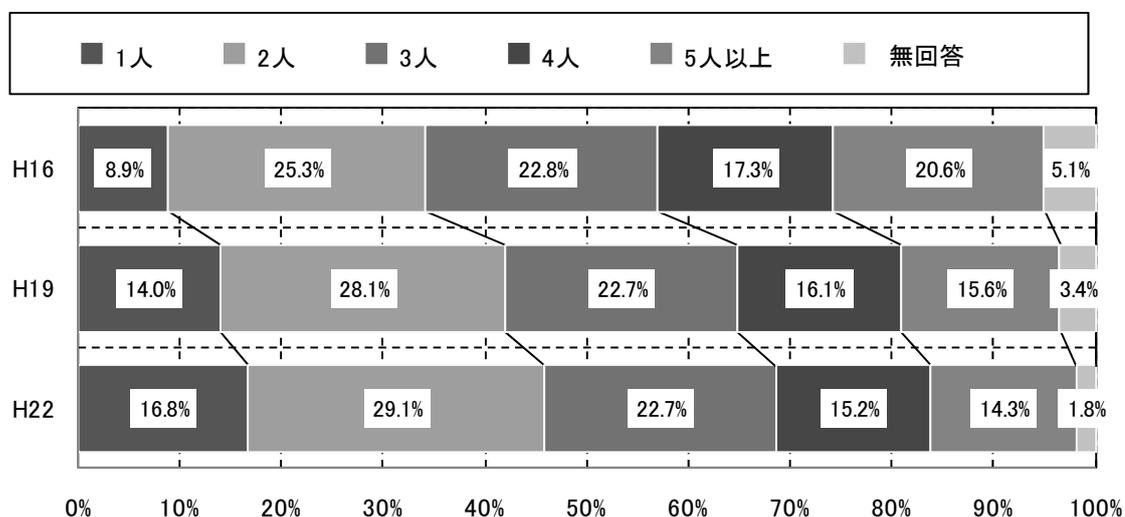


図 7-1-4 年度別世帯人員 構成比率

## 7-2 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

7-2-1 問 1 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？

1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

「身の回りに必要でないものがあふれている」という意識は、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が調査年度ごとに増加してきている。

問 1-1		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,013	32.1%	1,137	30.9%	1,192	31.1%
2	少しそう思う	1,535	48.7%	1,824	49.5%	1,831	47.7%
1+2		2,548	80.8%	2,961	80.4%	3,023	78.8%
3	あまりそうは思わない	520	16.5%	577	15.7%	587	15.3%
4	まったくそうは思わない	71	2.3%	73	2.0%	83	2.2%
99	無回答	15	0.5%	71	1.9%	142	3.7%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-1 年度別「必要でないもの」 構成比率

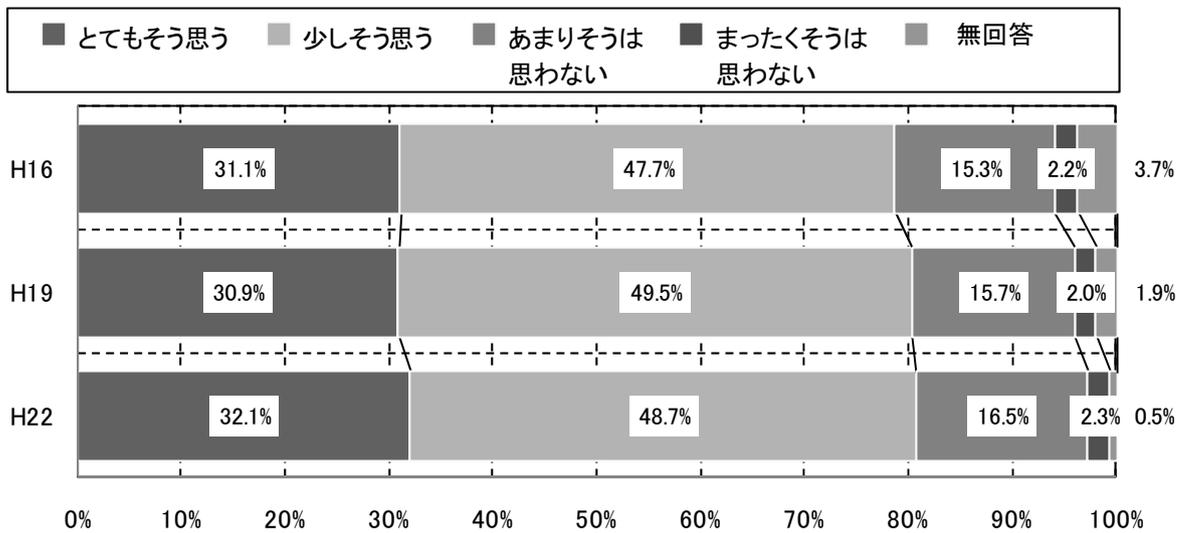


図 7-2-1 年度別「必要ないもの」 構成比率

2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。

「もったいない」の意識は、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が調査年度ごとに増加してきている。

問 1-2		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,098	34.8%	1,265	34.4%	1,277	33.3%
2	少しそう思う	1,626	51.6%	1,888	51.3%	1,980	51.6%
1+2		2,724	86.4%	3,153	85.7%	3,257	84.9%
3	あまりそうは思わない	357	11.3%	375	10.2%	355	9.3%
4	まったくそうは思わない	54	1.7%	87	2.4%	79	2.1%
99	無回答	19	0.6%	67	1.8%	144	3.8%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-2 年度別「もったいない」 構成比率

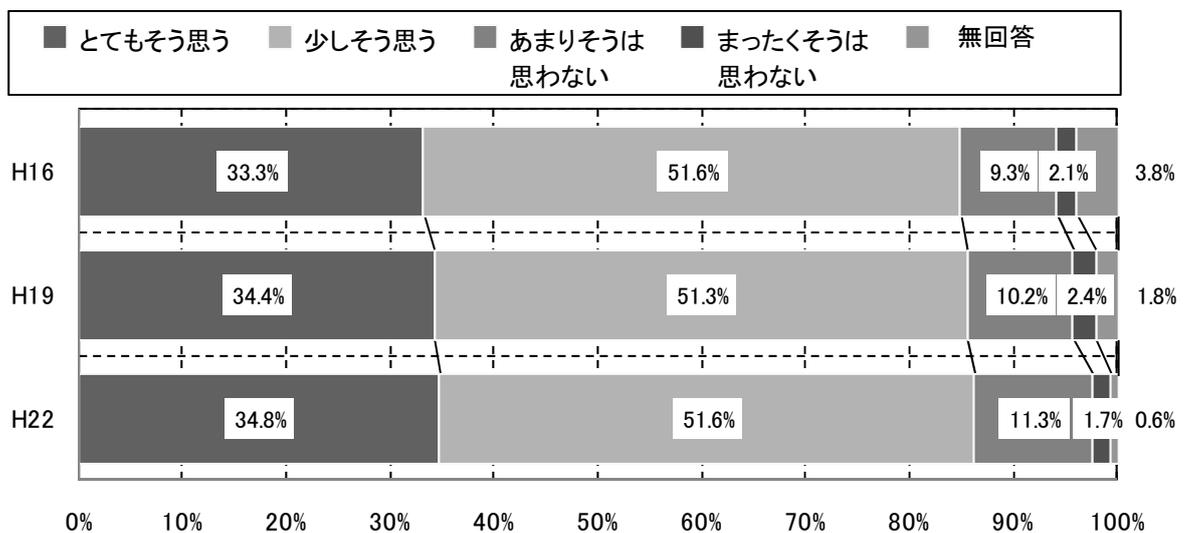


図 7-2-2 年度別「もったいない」 構成比率

3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。

「過剰容器や包装材」の意識は、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が調査年度ごとに増加してきている。

問 1-3		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,882	59.7%	2,356	64.0%	2,444	63.7%
2	少しそう思う	1,078	34.2%	1,069	29.0%	1,055	27.5%
1+2		2,960	93.9%	3,425	93.0%	3,499	91.2%
3	あまりそうは思わない	156	4.9%	166	4.5%	161	4.2%
4	まったくそうは思わない	17	0.5%	19	0.5%	29	0.8%
99	無回答	21	0.7%	72	2.0%	146	3.8%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-3 年度別「過剰容器や包装材」 構成比率

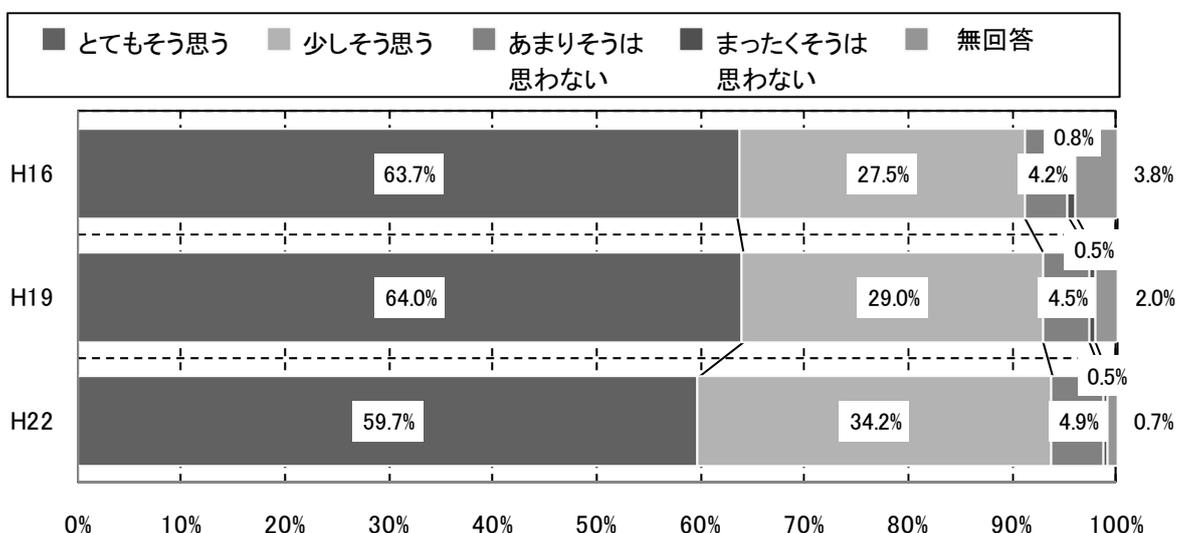


図 7-2-3 年度別「過剰容器や包装材」 構成比率

4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

「レンタル製品等への抵抗感はない」の意識は、「とてもそう思う」と「少しそう思う」ともに調査年度ごとに増加している。

問 1-4		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	556	17.6%	637	17.3%	622	16.2%
2	少しそう思う	1,364	43.2%	1,578	42.9%	1,543	40.2%
3	あまりそうは思わない	878	27.8%	1,003	27.2%	1,118	29.2%
4	まったくそうは思わない	301	9.5%	338	9.2%	334	8.7%
99	無回答	55	1.7%	126	3.4%	218	5.7%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-4 年度別「レンタル製品等への抵抗感」 構成比率

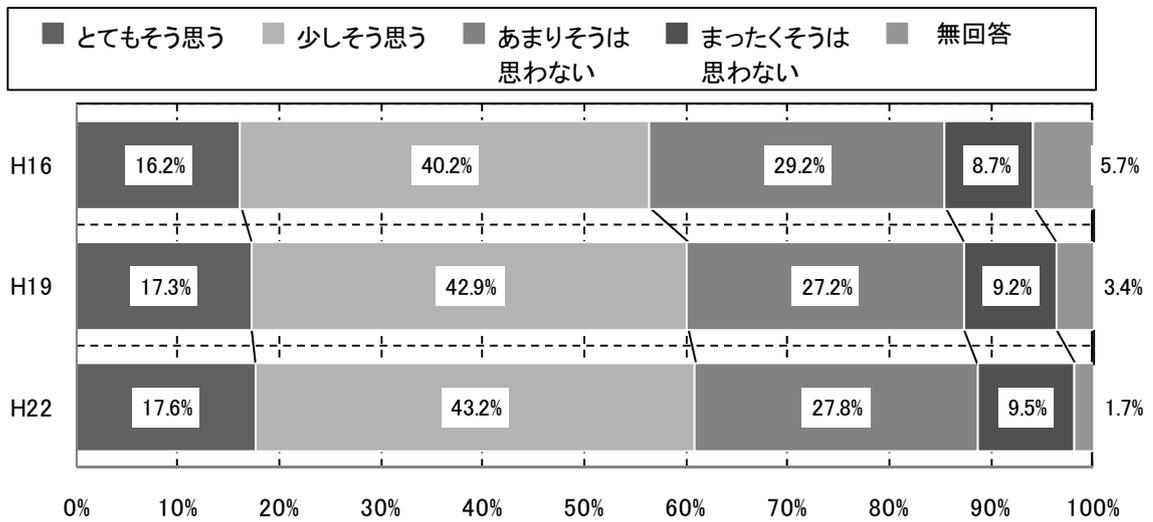


図 7-2-4 年度別「レンタル製品等への抵抗感」 構成比率

7-2-2 問2 次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？

- 1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう。

「必要なくても買ってしまう」は、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の計が調査年度ごとに増加してきている。

問2-1		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくあてはまる	204	6.5%	240	6.5%	215	5.6%
2	少しあてはまる	988	31.3%	1,131	30.7%	1,174	30.6%
3	あまりあてはまらない	1,205	38.2%	1,350	36.7%	1,450	37.8%
4	まったくあてはまらない	738	23.4%	888	24.1%	852	22.2%
3+4		1,943	61.6%	2,238	60.8%	2,302	60.0%
99	無回答	19	0.6%	73	2.0%	144	3.8%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-5 年度別「必要なくても買ってしまう」 構成比率

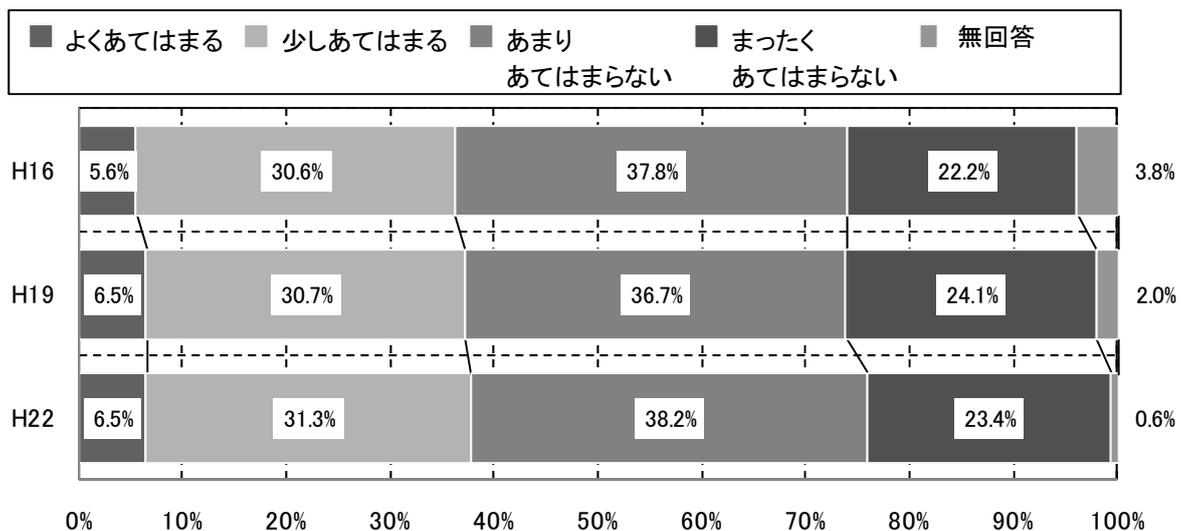


図 7-2-5 年度別「必要なくても買ってしまう」 構成比率

2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。

「修理より買い替える」は、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の計が平成 22 年度は平成 19 年度より若干増加した。

問 2-2		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくあてはまる	379	12.0%	431	11.7%	455	11.9%
2	少しあてはまる	942	29.9%	1,108	30.1%	1,060	27.6%
3	あまりあてはまらない	1,185	37.6%	1,293	35.1%	1,432	37.3%
4	まったくあてはまらない	621	19.7%	764	20.7%	734	19.1%
3+4		1,806	57.3%	2,057	55.8%	2,166	56.4%
99	無回答	27	0.9%	86	2.3%	154	4.0%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-6 年度別「修理より買い替え」 構成比率

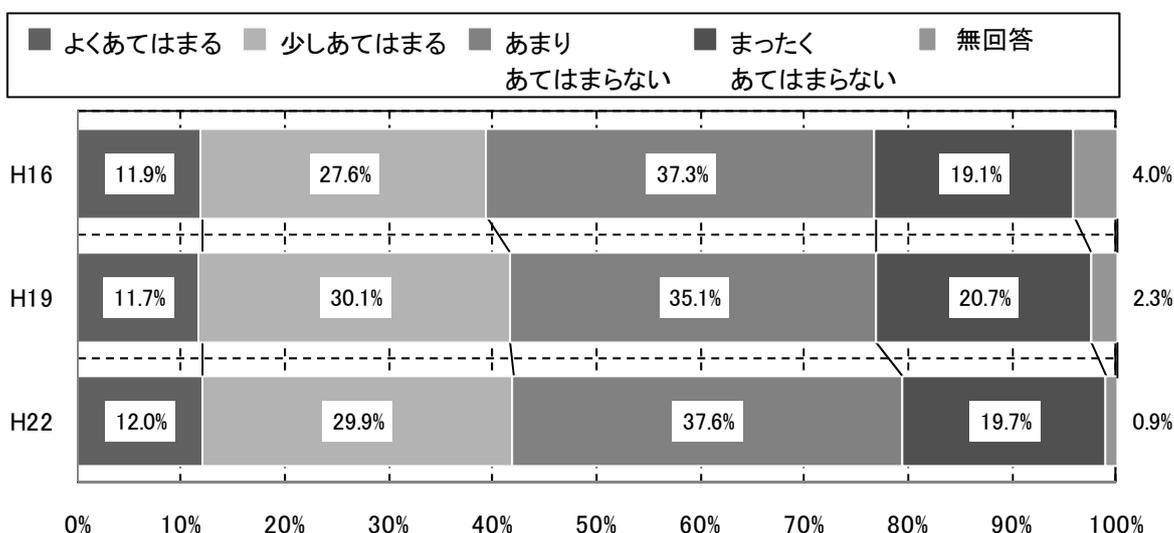


図 7-2-6 年度別「修理より買い替え」 構成比率

3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。

「環境やごみを考えずに商品を選ぶ」は、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の計が増加してきている。

問 2-3		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくあてはまる	533	16.9%	652	17.7%	670	17.5%
2	少しあてはまる	1,399	44.4%	1,601	43.5%	1,624	42.3%
3	あまりあてはまらない	952	30.2%	1,089	29.6%	1,121	29.2%
4	まったくあてはまらない	248	7.9%	260	7.1%	256	6.7%
3+4		1,200	38.1%	1,349	36.7%	1,377	35.9%
99	無回答	22	0.7%	80	2.2%	164	4.3%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-7 年度別「環境やごみを考えずに商品を選ぶ」 構成比率

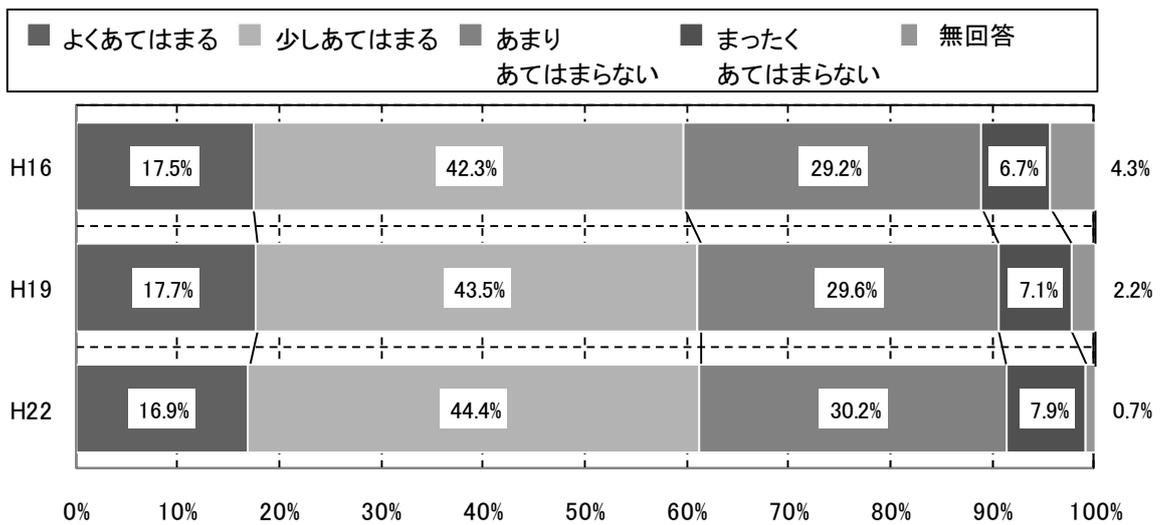


図 7-2-7 年度別「環境やごみを考えず商品を選ぶ」 構成比率

4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

「レンタルよりも新品購入」は、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の計が調査年度ごとに増加してきている。

問2-4		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくあてはまる	637	20.2%	771	20.9%	789	20.6%
2	少しあてはまる	1,076	34.1%	1,209	32.8%	1,235	32.2%
3	あまりあてはまらない	883	28.0%	1,043	28.3%	1,050	27.4%
4	まったくあてはまらない	520	16.5%	567	15.4%	595	15.5%
3+4		1,403	44.5%	1,610	43.7%	1,645	42.9%
99	無回答	38	1.2%	92	2.5%	166	4.3%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-8 年度別「レンタルよりも新品購入」 構成比率

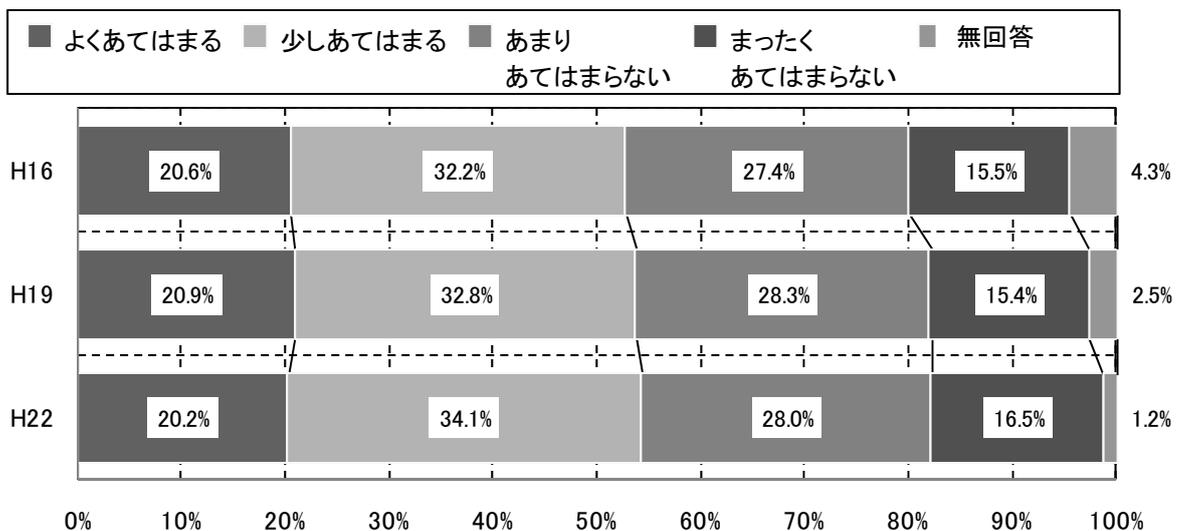


図 7-2-8 年度別「レンタルよりも新品購入」 構成比率

7-2-3 問4 食べ物のごみについてお聞きします。

1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

「食材を捨てる」は、「あまりない」と「ほとんどない」とともに増加してきている。

問4-1		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくある	402	12.7%	624	16.9%	651	17.0%
2	たまにある	1,571	49.8%	1,843	50.1%	2,004	52.3%
3	あまりない	624	19.8%	651	17.7%	642	16.7%
4	ほとんどない	541	17.2%	502	13.6%	494	12.9%
99	無回答	16	0.5%	62	1.7%	44	1.1%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-9 年度別「食材を捨てる」 構成比率

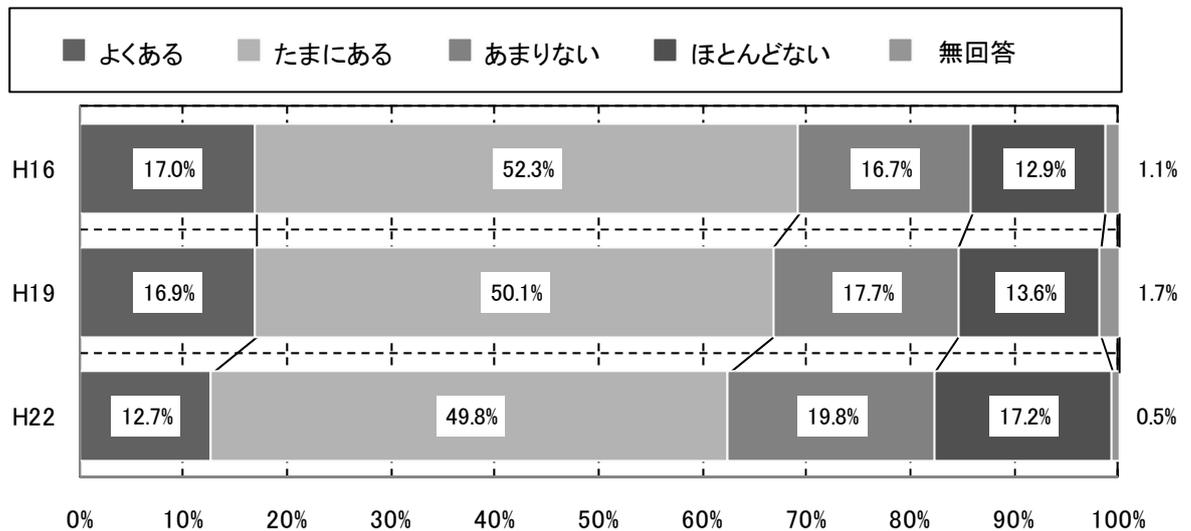


図 7-2-9 年度別「食材を捨てる」 構成比率

2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

「食べきれず料理を捨てる」は、「あまりない」と「ほとんどない」とともに大幅に増加してきている。

問4-2		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくある	199	6.3%	368	10.0%	400	10.4%
2	たまにある	1,119	35.5%	1,410	38.3%	1,578	41.1%
3	あまりない	886	28.1%	928	25.2%	970	25.3%
4	ほとんどない	930	29.5%	906	24.6%	845	22.0%
99	無回答	20	0.6%	70	1.9%	42	1.1%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-10 年度別「食べきれず料理を捨てる」 構成比率

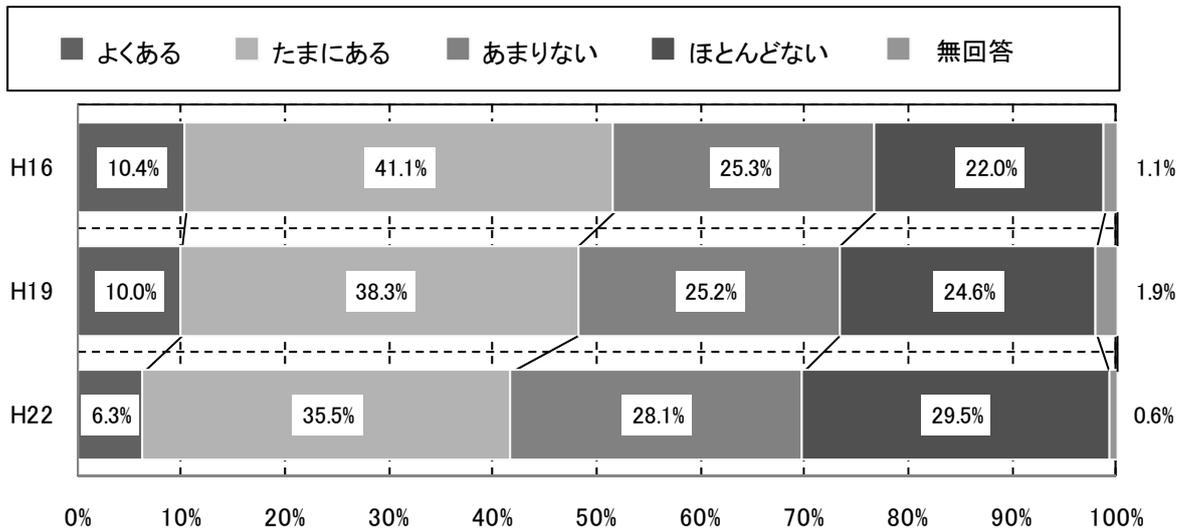


図 7-2-10 年度別「食べきれず料理を捨てる」 構成比率

7-2-4 問7 使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？

使い捨て商品と大量のごみでは、「どちらかというと疑問を感じる」が減少してきている。

問7		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	特に疑問は感じていない	137	4.5%	131	3.6%	152	4.0%
2	どちらかというと疑問を感じる	2,641	86.9%	3,298	89.6%	3,463	90.3%
3	よくわからない	216	7.1%	173	4.7%	166	4.3%
99	無回答	44	1.4%	80	2.2%	54	1.4%
計		3,038	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-11 年度別「使い捨て商品と大量のごみ」 構成比率

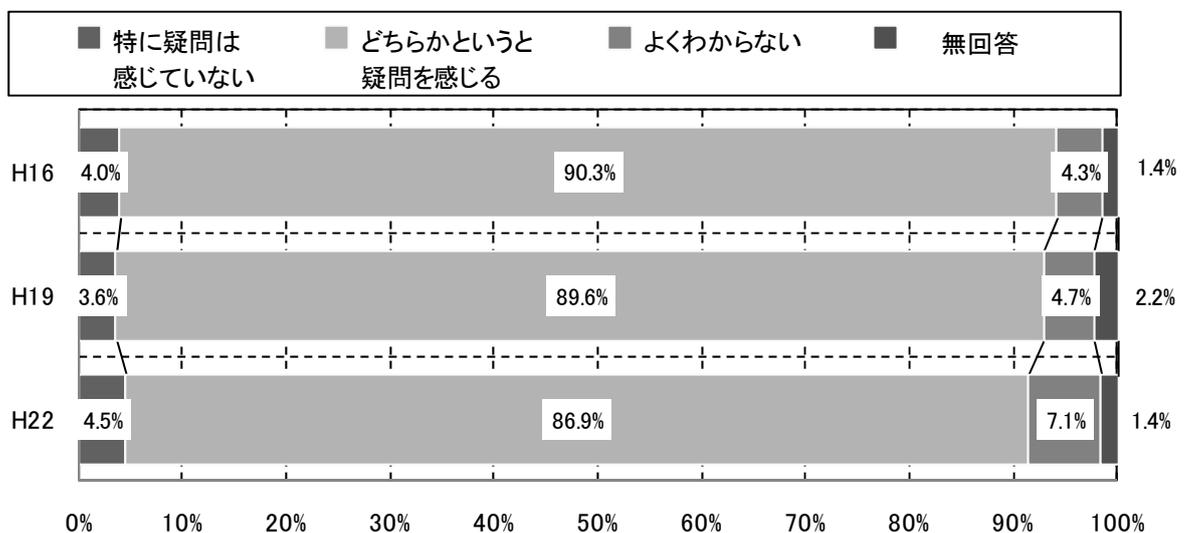


図 7-2-11 年度別「使い捨て商品と大量のごみ」 構成比率

7-2-5 問8 ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？

コストをかけた資源としての有効活用については、「とてもそう思う」が年々大幅に減少し、「少しそう思う」は年々増加している。「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は年度ごとに減少している。

問8		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,420	46.7%	2,057	55.9%	2,293	59.8%
2	少しそう思う	1,353	44.5%	1,333	36.2%	1,320	34.4%
1+2		2,773	91.2%	3,390	92.1%	3,613	94.2%
3	あまりそうは思わない	186	6.1%	194	5.3%	142	3.7%
4	まったくそうは思わない	24	0.8%	26	0.7%	28	0.7%
99	無回答	55	1.8%	72	2.0%	52	1.4%
計		3,038	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-2-12 年度別「コストをかけた資源としての有効活用」 構成比率

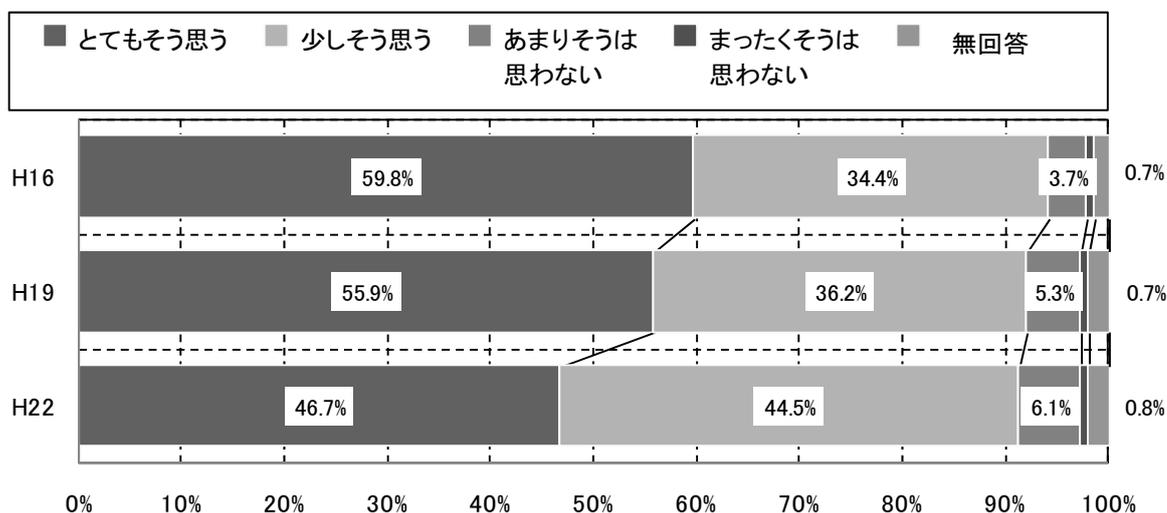


図 7-2-12 年度別「コストをかけた資源としての有効活用」 構成比率

7-3 現在行っているごみ減量やりサイクルの取組について

7-3-1 問9 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？

1) 最も大切だと思うごみを減らす取組

いずれの年度においても「最も大切な取組」は、「ごみの発生を減らすこと」が最も高い。

問9-1		平成22年度		平成19年度		平成16年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	ごみの発生を減らすこと	1,811	57.4%	2,149	58.4%	2,146	56.0%
2	製品等を繰り返し使うこと	451	14.3%	490	13.3%	522	13.6%
3	原材料として有効利用すること	791	25.1%	703	19.1%	838	21.9%
99	無回答	101	3.2%	340	9.2%	329	8.6%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-3-1 年度別「最も大切な取組」 構成比率

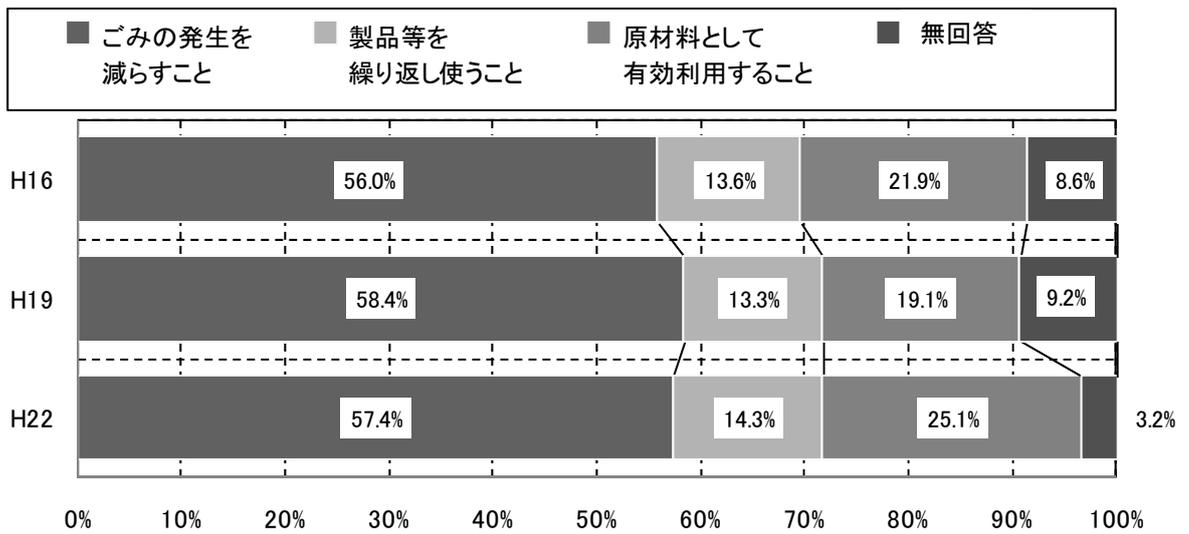


図 7-3-1 年度別「最も大切な取組」 構成比率

2) 次に大切だと思うごみを減らす取組

いずれの年度においても「次に大切な取組」は、「原材料として有効利用すること」が最も高い。

問9-2		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	ごみの発生を減らすこと	481	15.3%	433	11.8%	491	12.8%
2	製品等を繰り返し使うこと	1,114	35.3%	1,228	33.4%	1,036	27.0%
3	原材料として有効利用すること	1,211	38.4%	1,541	41.9%	1,551	40.4%
99	無回答	348	11.0%	480	13.0%	757	19.7%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-3-2 年度別「次に大切な取組」 構成比率

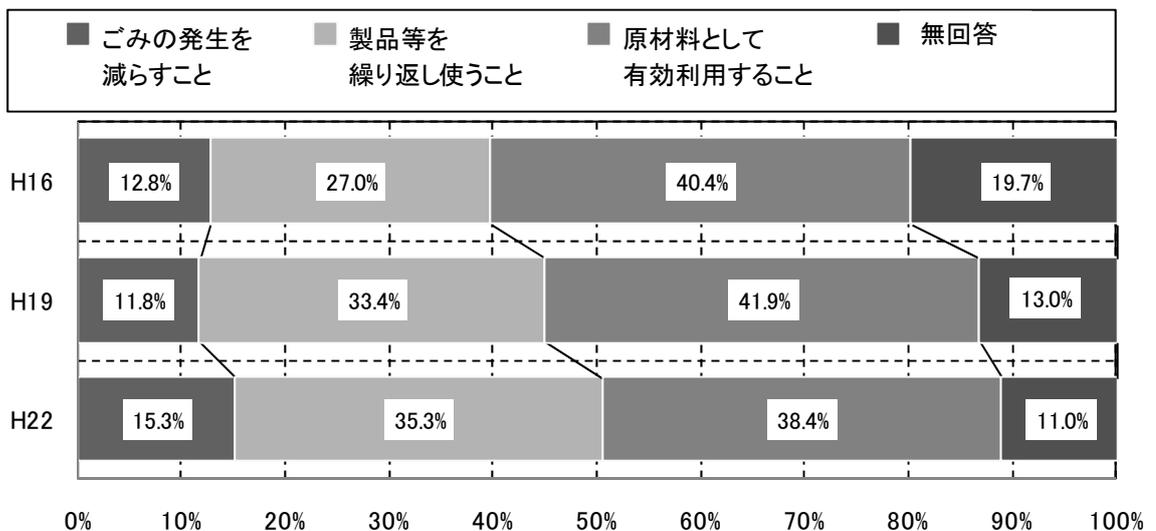


図 7-3-2 年度別「次に大切な取組」 構成比率

7-3-2 問 10 あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？

「市町の収集に資源ごみとして出している品目」の各年度の上位 5 品目は、順位は変化しているが、「空きびん」、「アルミ缶」、「ペットボトル」、「新聞」、「雑誌」で、いずれもほぼ 8 割と高い割合になっている。

問 10		平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	新聞	3,168	82.6%	3,001	81.5%	2,567	81.4%
2	雑誌	2,967	77.4%	2,872	78.0%	2,542	80.6%
3	牛乳パック	2,165	56.5%	1,957	53.2%	1,811	57.4%
4	古布や衣類	2,144	55.9%	2,282	62.0%	2,133	67.6%
5	食品トレイ	2,197	57.3%	1,957	53.2%	1,863	59.1%
6	ペットボトル	3,042	79.3%	2,996	81.4%	2,669	84.6%
7	アルミ缶	3,201	83.5%	3,039	82.5%	2,711	86.0%
8	スチール缶	2,841	74.1%	2,677	72.7%	2,464	78.1%
9	空きびん	3,111	81.1%	2,983	81.0%	2,713	86.0%
10	蛍光管	1,630	42.5%	1,598	43.4%	1,716	54.4%
11	電池類	1,977	51.6%	1,920	52.1%	2,066	65.5%
12	あてはまるものなし	50	1.3%	40	1.1%	36	1.1%
総回答数		28,493	743.0%	27,322	742.0%	25,291	801.9%
有効回答数		3,835		3,682		3,154	

表 7-3-3 年度別「市町の収集に出している品目」 回答状況

問 10 順位表		平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
1	空きびん	3	4	1
2	アルミ缶	1	1	2
3	ペットボトル	4	3	3
4	新聞	2	2	4
5	雑誌	5	5	5
6	スチール缶	6	6	6
7	古布や衣類	9	7	7
8	電池類	10	10	8
9	食品トレイ	7	8	9
10	牛乳パック	8	9	10
11	蛍光管	11	11	11
12	あてはまるものなし	12	12	12

表 7-3-4 年度別「市町の収集に出している品目」 順位表

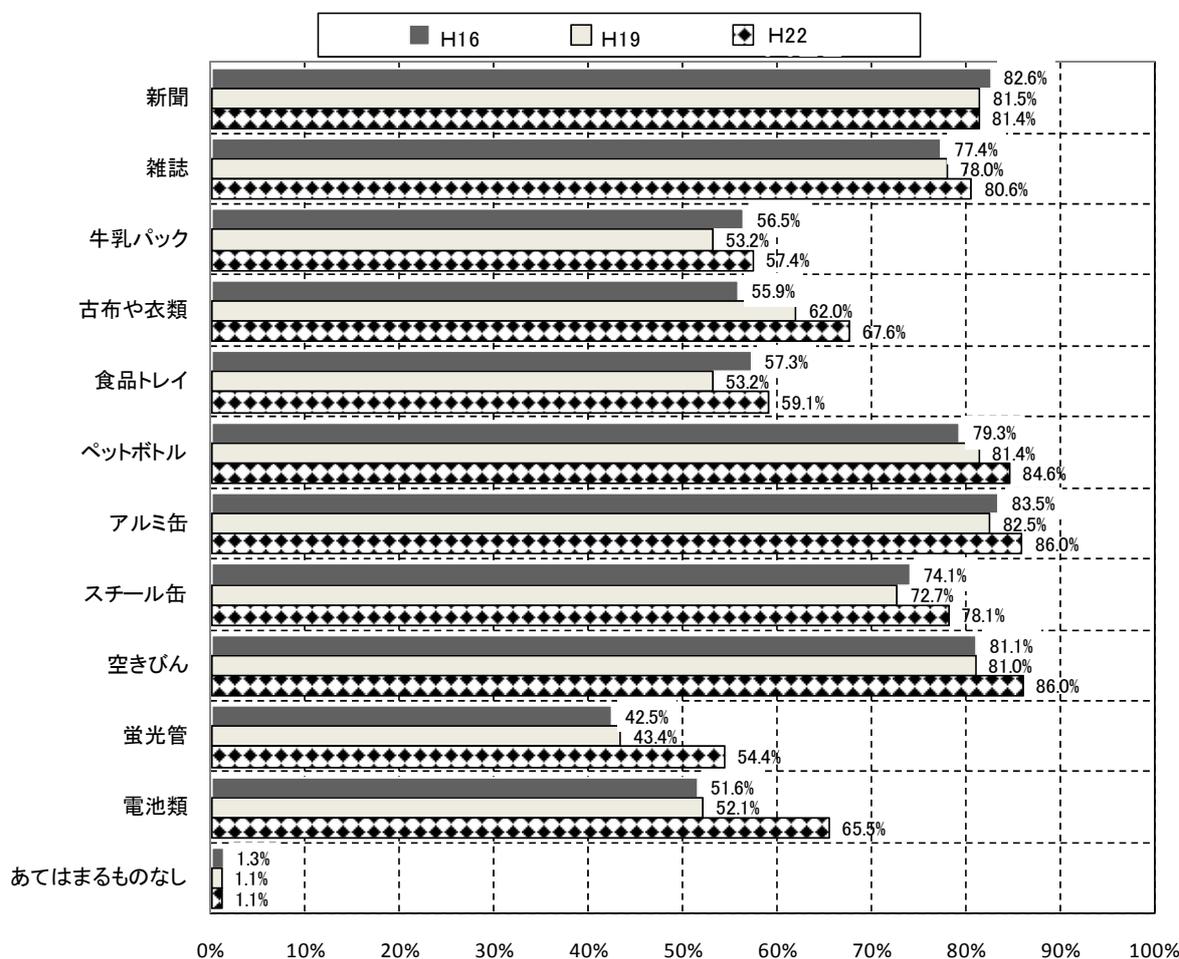


図 7-3-3 年度別「市町の収集に出している品目」 回答率

7-3-3 問 11 あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？

「店頭で回収してもらっている品目」は、いずれの年度も上位3品目は順位は変化しているが、「食品トレイ」、「ペットボトル」、「牛乳パック」となっている。

問 11	平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 新聞	179	4.7%	215	5.8%	288	9.1%
2 雑誌	126	3.3%	163	4.4%	226	7.2%
3 牛乳パック	1,070	27.9%	1,018	27.6%	899	28.5%
4 古布や衣類	60	1.6%	83	2.3%	134	4.2%
5 食品トレイ	1,487	38.8%	1,364	37.0%	1,298	41.2%
6 ペットボトル	1,073	28.0%	1,126	30.6%	1,029	32.6%
7 アルミ缶	507	13.2%	569	15.5%	619	19.6%
8 スチール缶	277	7.2%	270	7.3%	321	10.2%
9 空きびん	549	14.3%	444	12.1%	355	11.3%
10 蛍光管	354	9.2%	297	8.1%	288	9.1%
11 電池類	592	15.4%	506	13.7%	453	14.4%
12 あてはまるものなし	1,119	29.2%	1,107	30.1%	943	29.9%
総回答数	7,393	192.8%	7,162	194.5%	6,853	217.3%
有効回答数	3,835		3,682		3,154	

表 7-3-5 年度別「店頭で回収してもらっている品目」 回答状況

問 11 順位表		平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
1	食品トレイ	1	1	1
2	ペットボトル	3	2	2
3	あてはまるものなし	2	3	3
4	牛乳パック	4	4	4
5	アルミ缶	7	5	5
6	電池類	5	6	6
7	空きびん	6	7	7
8	スチール缶	9	9	8
9	蛍光管	8	8	9
10	新聞	10	10	10
11	雑誌	11	11	11
12	古布や衣類	12	12	12

表 7-3-6 年度別「店頭で回収してもらっている品目」 順位表

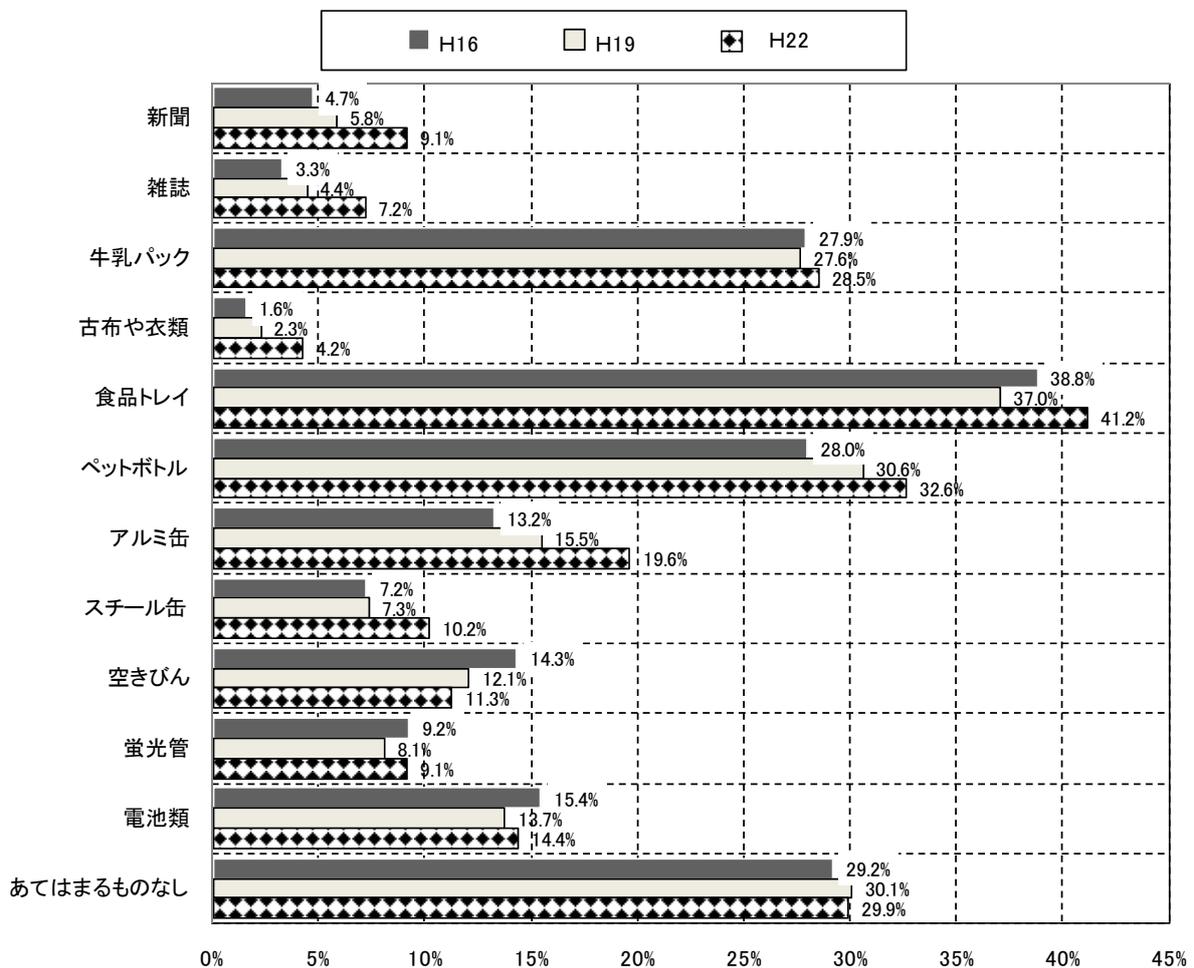


図 7-3-4 年度別「店頭で回収してもらっている品目」 回答率

7-3-4 問 12 あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？

「集団回収に出している品目」は、上位5品目の順位は同じである。

問 12		平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	新聞	2,445	63.8%	2,169	58.9%	1,958	62.1%
2	雑誌	2,102	54.8%	1,884	51.2%	1,794	56.9%
3	牛乳パック	783	20.4%	760	20.6%	765	24.3%
4	古布や衣類	1,295	33.8%	1,225	33.3%	1,170	37.1%
5	食品トレイ	621	16.2%	536	14.6%	580	18.4%
6	ペットボトル	893	23.3%	885	24.0%	969	30.7%
7	アルミ缶	1,528	39.8%	1,364	37.0%	1,367	43.3%
8	スチール缶	976	25.4%	882	24.0%	967	30.7%
9	空きびん	1,255	32.7%	1,083	29.4%	1,140	36.1%
10	蛍光管	579	15.1%	584	15.9%	675	21.4%
11	電池類	644	16.8%	655	17.8%	715	22.7%
12	あてはまるものなし	684	17.8%	808	21.9%	696	22.1%
総回答数		13,805	360.0%	12,835	348.6%	12,796	405.7%
有効回答数		3,835		3,682		3,154	

表 7-3-7 年度別「集団回収に出している品目」 回答状況

問 12 順位表		平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
1	新聞	1	1	1
2	雑誌	2	2	2
3	アルミ缶	3	3	3
4	古布や衣類	4	4	4
5	空きびん	5	5	5
6	ペットボトル	7	6	6
7	スチール缶	6	7	7
8	牛乳パック	8	9	8
9	電池類	10	10	9
10	あてはまるものなし	9	8	10
11	蛍光管	12	11	11
12	食品トレイ	11	12	12

表 7-3-8 年度別「集団回収に出している品目」 順位表

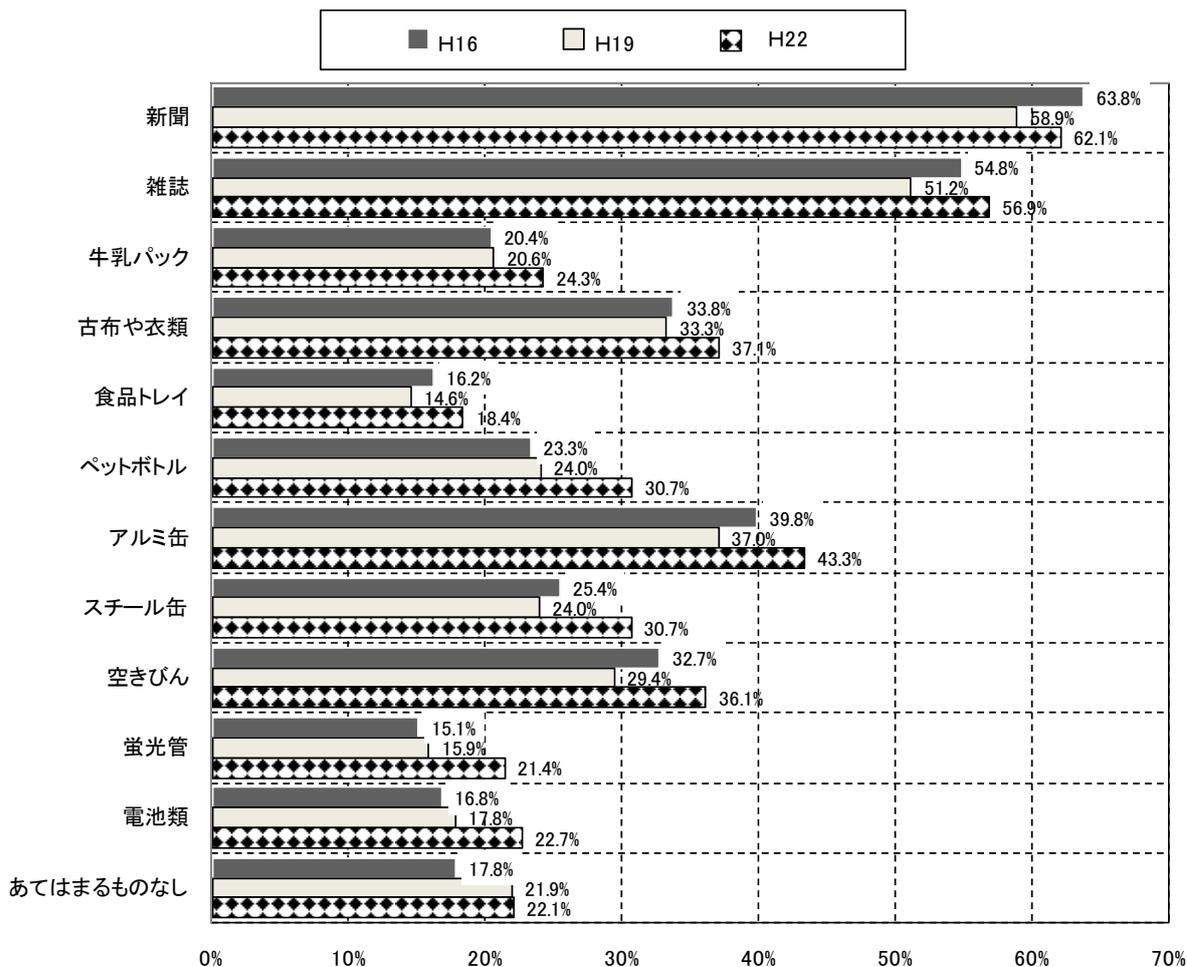


図 7-3-5 年度別「集団回収に出している品目」 回答率

7-3-5 問 14 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？

平成 22 年度の「ごみの分別時間」は、他の年度と比較すると「1 時間以上」が約 6%増加し、「ほとんどかけていない」が約 6%減少している。他の時間帯はほとんど変化がない。

問 14		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	1 時間以上	269	8.5%	73	2.0%	66	1.7%
2	30 分～1 時間	173	5.5%	170	4.6%	195	5.1%
3	10 分～30 分	874	27.7%	958	26.0%	1,131	29.5%
4	数分程度	1,433	45.4%	1,740	47.3%	1,704	44.4%
5	ほとんどかけていない	341	10.8%	609	16.5%	615	16.0%
99	無回答	64	2.0%	132	3.6%	124	3.2%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-3-9 年度別「ごみの分別時間」 回答状況

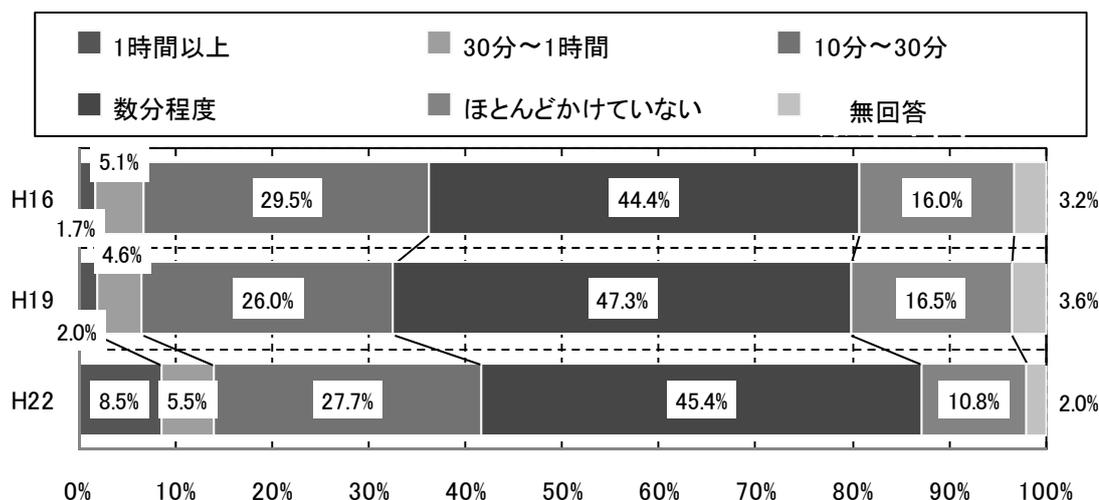


図 7-3-6 年度別「ごみの分別時間」 回答率

7-3-6 問 17 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？

「ごみを出すにあたっての問題」は、「収集日時が限られている」が各年度で最も高いが、徐々に減少している。各年度の順位は多少の変化はあるが、上位 4 項目は同じである。

問 17		平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	分別ルールが複雑でわかりにくい	770	20.1%	701	19.0%	700	22.2%
2	市町ごとにルールが異なり覚えにくい	327	8.5%	356	9.7%	378	9.9%
3	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	900	23.5%	693	18.8%	639	16.7%
4	収集日時が限られている	1,609	42.0%	1,384	37.6%	1,197	31.2%
5	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	401	10.5%	350	9.5%	284	7.4%
6	洗ったり束ねたり手間がかかる	1,216	31.7%	975	26.5%	753	19.6%
7	その他	408	10.6%	313	8.5%	137	3.6%
8	特に問題はない	-	-	-	-	1,000	26.1%
総回答数		5,631		4,772		5,088	
有効回答数		3,835	146.8%	3,682	129.6%	3,154	136.6%

表 7-3-10 年度別「ごみを出すにあたっての問題」 回答状況

問 17 順位表		平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
1	収集日時が限られている	1	1	1
2	洗ったり束ねたり手間がかかる	2	2	2
3	分別ルールが複雑でわかりにくい	4	3	3
4	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	3	4	4
5	市町ごとにルールが異なり覚えにくい	7	5	5
6	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	6	6	6
7	その他	5	7	7

表 7-3-11 年度別「ごみを出すにあたっての問題」 順位表

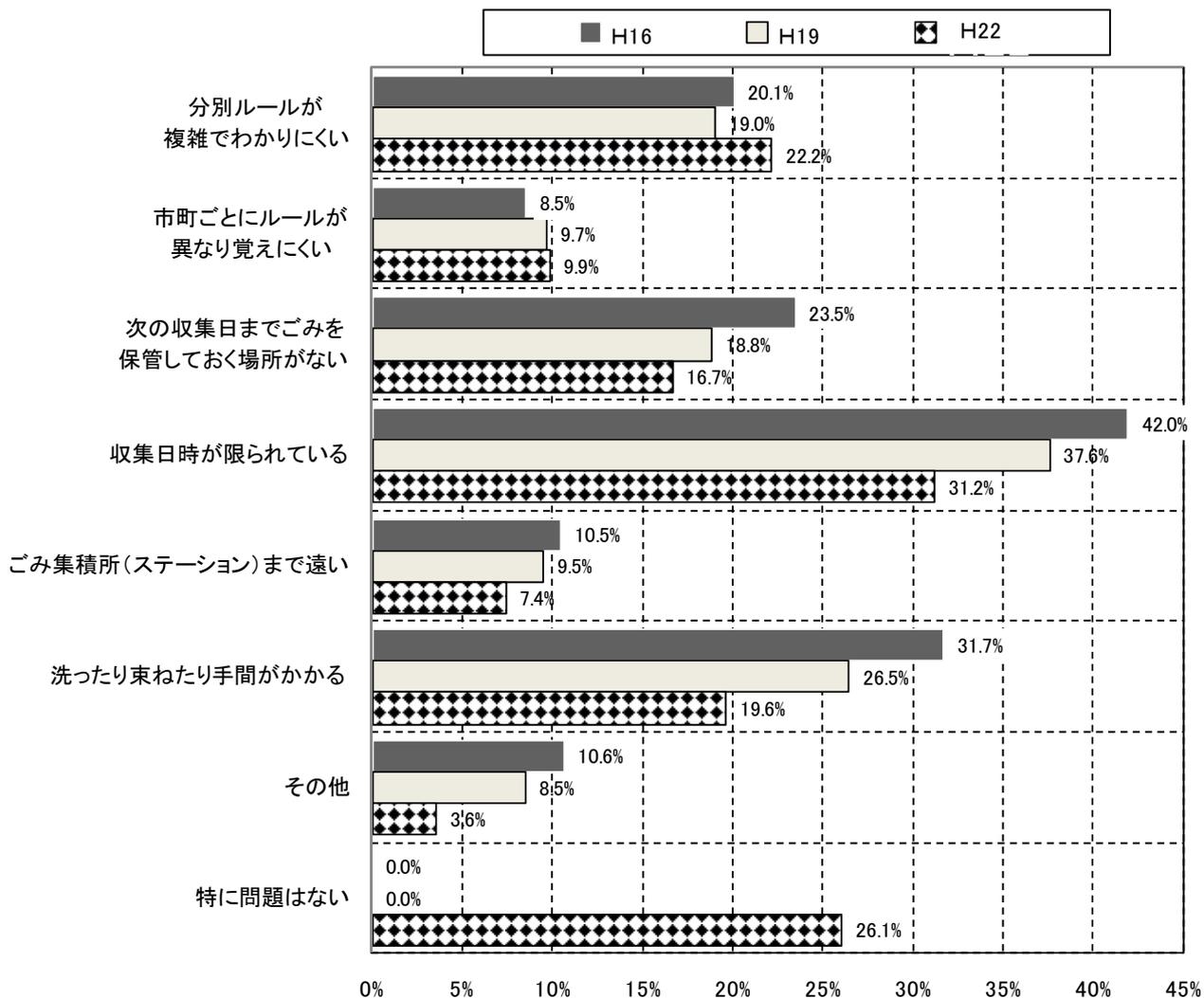


図 7-3-7 年度別「問題」 回答率

#### 7-4 今後の方策に対する意向について

7-4-1 問 18 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？

「家庭から出る量を減らせるごみ」の各年度の上位 5 項目を比較すると、「食べ残し」、「調理くず」、「賞味期限切れ食品」といった食べもののごみが上位を占めている。また、「レジ袋」は平成 16 年度及び平成 19 年度では 50%程度であったが、平成 22 年度では 1.5%と低下している。このことから「レジ袋」の有料化とマイバッグ運動の効果があらわれているのではないかとと思われる。

問 18		平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	調理くず	1,653	43.1%	1,512	41.1%	1,432	45.4%
2	食べ残し	2,131	55.6%	2,173	59.0%	2,001	63.4%
3	賞味期限切れ食品	2,143	55.9%	2,060	55.9%	1,030	32.7%
4	紙容器、紙袋や包装紙	1,262	32.9%	1,201	32.6%	286	9.1%
5	新聞	381	9.9%	386	10.5%	98	3.1%
6	チラシ	658	17.2%	675	18.3%	137	4.3%
7	雑誌	613	16.0%	645	17.5%	89	2.8%
8	段ボール	501	13.1%	501	13.6%	10	0.3%
9	紙パック	381	9.9%	383	10.4%	9	0.3%
10	古着類	780	20.3%	809	22.0%	35	1.1%
11	ペットボトル	722	18.8%	802	21.8%	30	1.0%
12	レジ袋	1,754	45.7%	1,883	51.1%	47	1.5%
13	プラスチック容器	671	17.5%	706	19.2%	14	0.4%
14	びん	414	10.8%	435	11.8%	4	0.1%
15	缶	372	9.7%	386	10.5%	1	0.0%
16	粗大ごみ	686	17.9%	688	18.7%	26	0.8%
17	その他	64	1.7%	49	1.3%	29	0.9%
総回答数		15,186	396.0%	15,294	415.4%	5,278	167.3%
有効回答数		3,835		3,682		3,154	

表 7-4-1 年度別「家庭から出る量を減らせるごみ」 回答状況

年度別順位表	平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
食べ残し	2	1	1
調理くず	4	4	2
賞味期限切れ食品	1	2	3
紙容器、紙袋や包装紙	5	5	4
チラシ	10	10	5
新聞	14	14	6
雑誌	11	11	7
レジ袋	3	3	8
古着類	6	6	9
ペットボトル	7	7	10
その他	17	17	11
粗大ごみ	8	9	12
プラスチック容器	9	8	13
段ボール	12	12	14
紙パック	15	16	15
びん	13	13	16
缶	16	15	17

表 7-4-2 年度別「家庭から出る量を減らせるごみ」 順位表

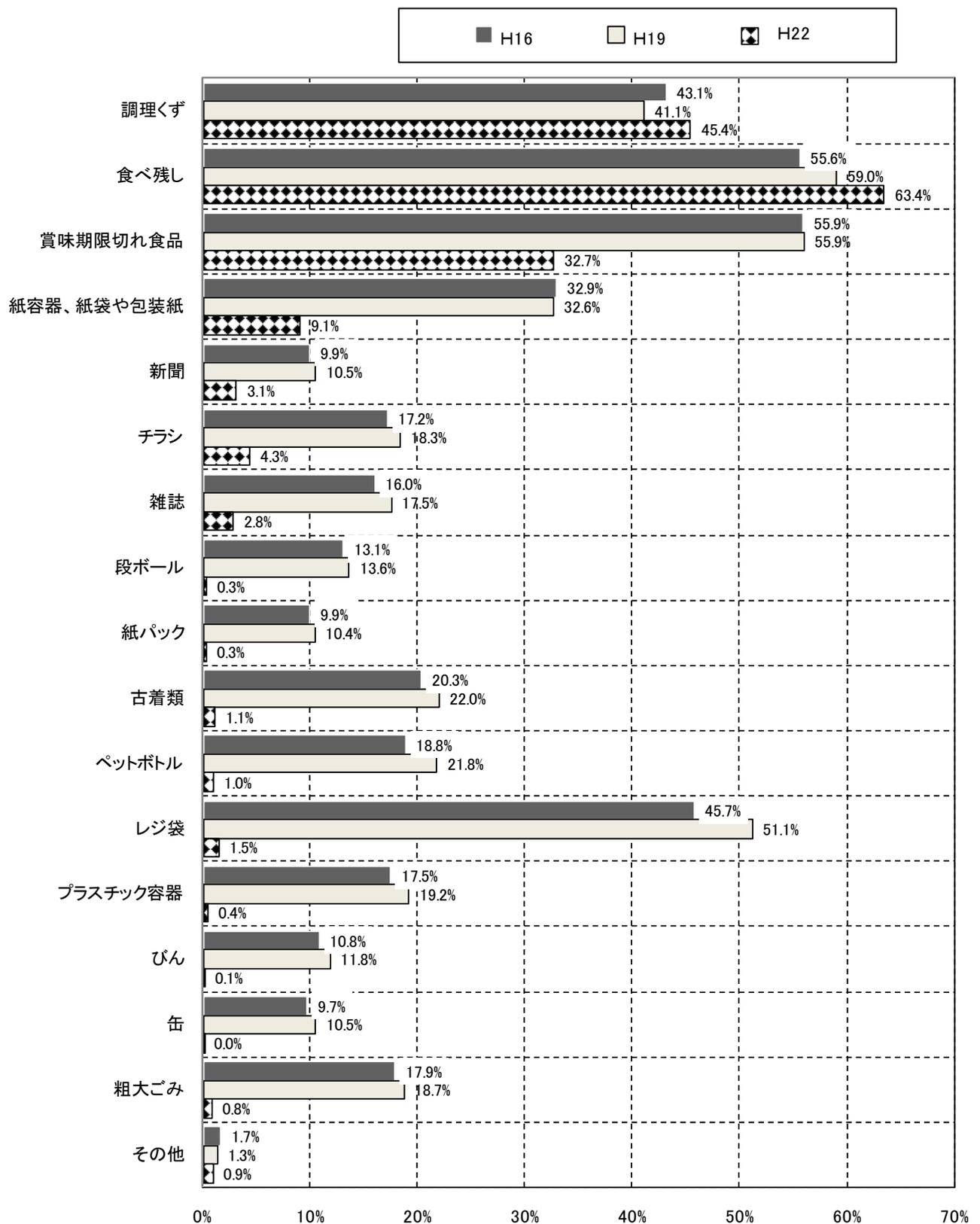


図 7-4-1 年度別「家庭から出る量を減らせるごみ」 回答率

7-4-2 問 25 増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えています。税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？

「税金を使ってごみ処理を行うこと」は、「量に応じ出す人が負担する」が各年度で最も高い。「税金で処理する」が27.6%⇒22.1%⇒24.5%、また、「量に応じ出す人が負担する」は、44.8%⇒49.5%⇒46.8%と変化している。

問 25		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	税金で処理する	773	24.5%	815	22.1%	1,058	27.6%
2	量に応じ出す人が負担する	1,475	46.8%	1,821	49.5%	1,718	44.8%
3	福祉や教育等に使うのがよい	372	11.8%	521	14.1%	485	12.6%
4	よくわからない	403	12.8%	076	2.1%	80	2.1%
5	その他	53	1.7%	292	7.9%	241	6.3%
99	無回答	78	2.5%	157	4.3%	253	6.6%
計		3,154	100%	3,682	100.0%	3,835	100%

表 7-4-3 年度別「税金を使ってごみ処理を行うこと」 回答状況

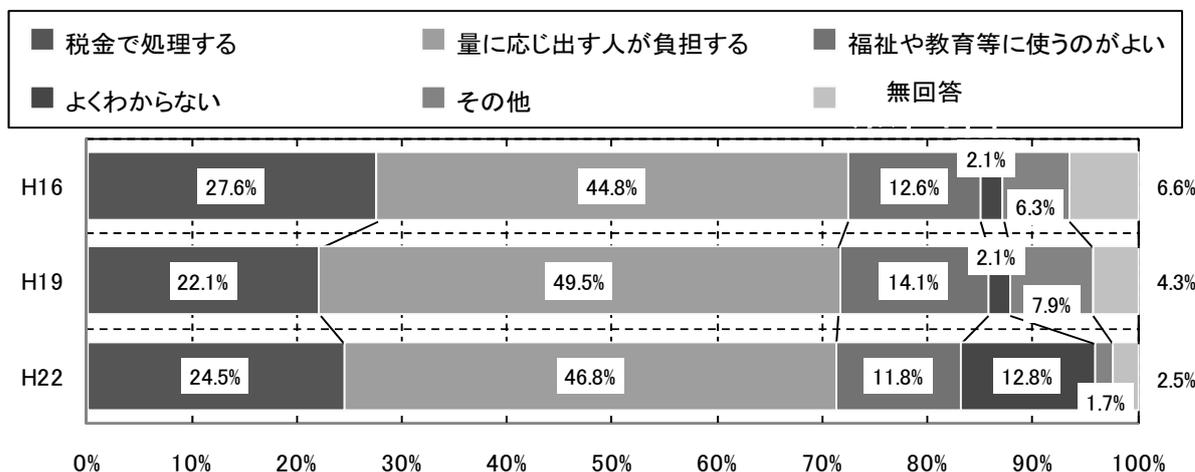


図 7-4-2 年度別「税金を使ってごみ処理を行うこと」 回答率

7-4-3 問 26 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？

「ごみの量に応じたごみの有料化」は、「賛成（“賛成” + “どちらかという賛成”）」で各年度で65%以上となっているが、「反対（“どちらかという反対” + “反対”）」は平成22年度が最も高い。

問 26		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	賛成	744	23.6%	1,149	31.2%	1,064	27.7%
2	どちらかという賛成	1,353	42.9%	1,474	40.0%	1,460	38.1%
1+2		2,097	66.5%	2,623	71.2%	2,524	65.8%
3	どちらかという反対	644	20.4%	577	15.7%	653	17.0%
4	反対	309	9.8%	316	8.6%	400	10.4%
3+4		953	30.2%	893	24.3%	1,053	27.4%
99	無回答	104	3.3%	166	4.5%	258	6.7%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-4-4 年度別「ごみの量に応じたごみの有料化」 回答状況

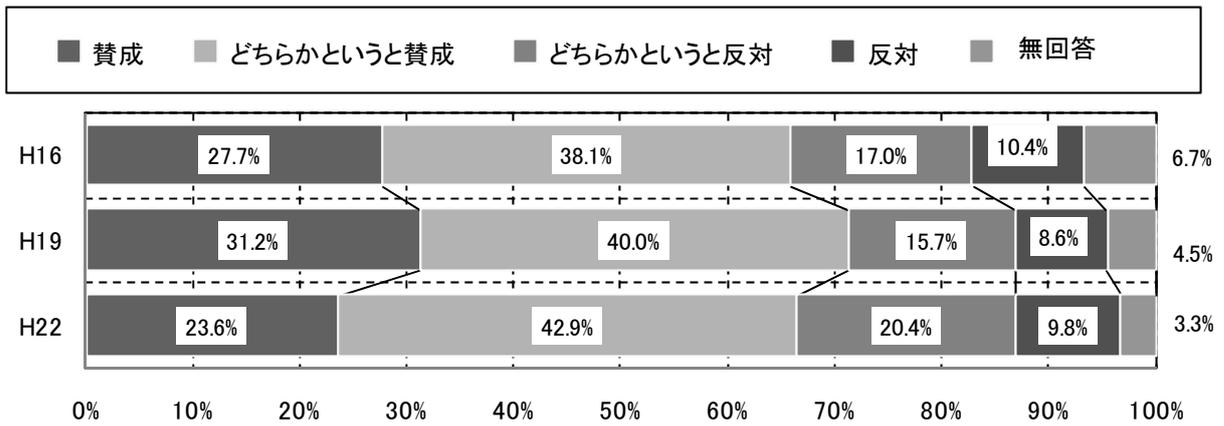


図 7-4-3 年度別「ごみの量に応じたごみの有料化」 回答率

7-4-4 問 27 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？

「ごみ有料化で重視すべきこと」は、「家計への負担が少ない料金とすること」、「ルール違反（不法投棄など）を許さないこと」、「ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること」が各年度いずれも上位3位となっている。

問 27		平成 16 年度		平成 19 年度		平成 22 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なしくみとすること	1,104	28.8%	1,037	28.2%	1,092	34.6%
2	家計への負担が少ない料金とすること	1,655	43.2%	1,628	44.2%	1,641	52.0%
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびに一定程度の負担が感じられる料金とすること	459	12.0%	343	9.3%	404	12.8%
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること	702	18.3%	710	19.3%	669	21.2%
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	961	25.1%	1,020	27.7%	1,017	32.2%
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	1,901	49.6%	1,483	40.3%	1,160	36.8%
7	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	1,589	41.4%	1,541	41.9%	1,332	42.2%
8	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること	1,227	32.0%	920	25.0%	715	22.7%
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	399	10.4%	459	12.5%	338	10.7%
10	その他	82	2.1%	58	1.6%	59	1.9%
総回答数		10,079		9,199		8,427	
有効回答数		3,835	262.8%	3,682	249.8%	3,154	267.2%

表 7-4-5 年度別「ごみ有料化で重視すべきこと」 回答状況

問 27 順位表		平成 16 年度	平成 19 年度	平成 22 年度
1	家計への負担が少ない料金とすること	2	1	1
2	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	3	2	2
3	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	1	3	3
4	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なくみとすること	5	4	4
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	6	5	5
6	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること	4	6	6
7	一人ひとりを取り組めるごみ減量メニューを配布すること	7	7	7
8	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびにある程度の負担が感じられる料金とすること	8	9	8
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	9	8	9
10	その他	10	10	10

表 7-4-6 年度別「ごみ有料化で重視すべきこと」 順位表

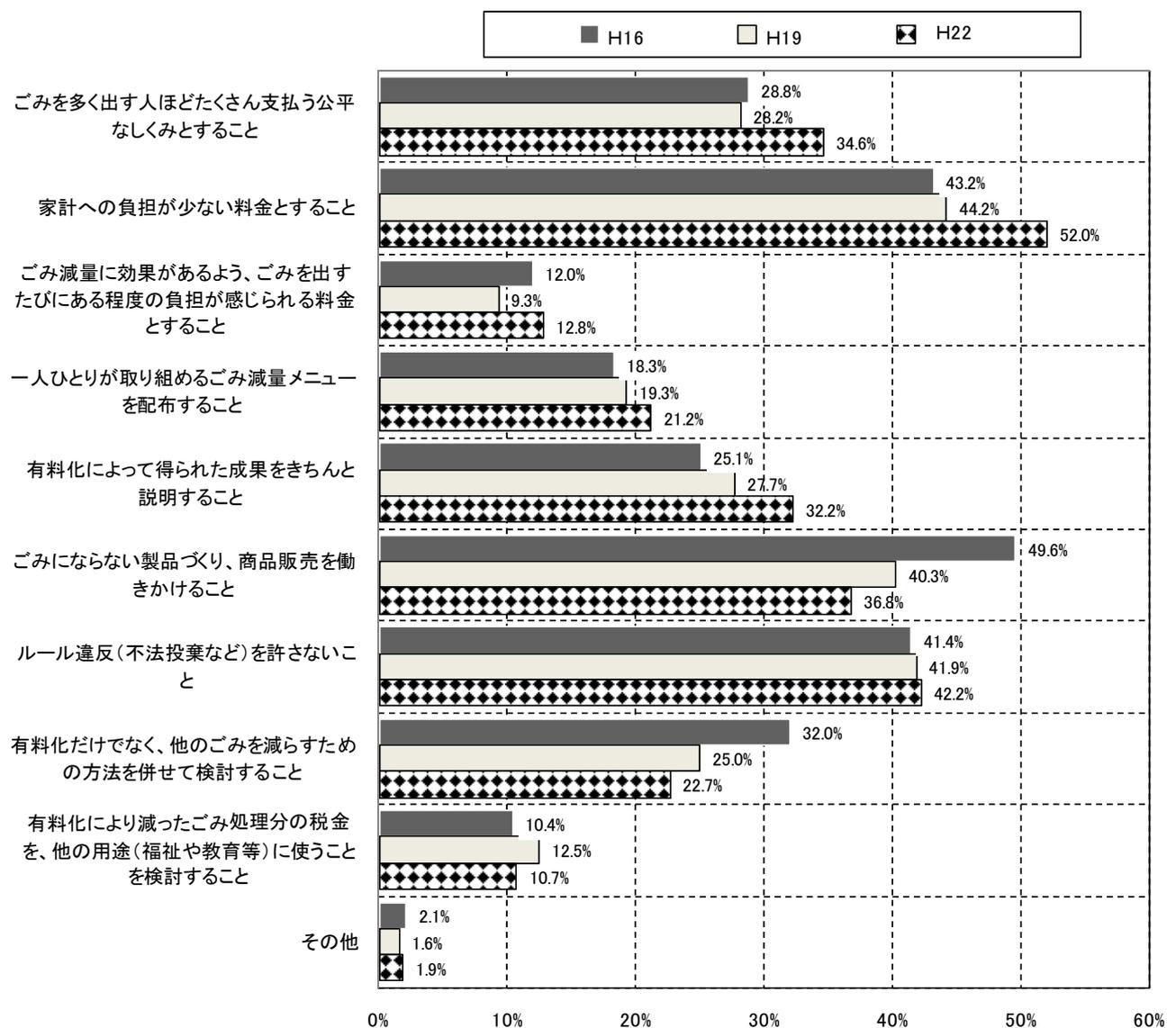


図 7-4-4 年度別「ごみ有料化で重視すべきこと」 回答率

7-4-5 問 28 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？

「ごみ有料化の料金」は、「10円」が各年度55%前後で最も高く、次いで「50円程度」が28%強となっている。

問 28		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	10円	1,755	55.6%	2,095	56.9%	2,038	53.1%
2	50円程度	900	28.5%	1,041	28.3%	1,097	28.6%
3	100円程度	258	8.2%	258	7.0%	349	9.1%
4	200円程度	50	1.6%	38	1.0%	32	0.8%
5	それ以上	11	0.3%	12	0.3%	24	0.6%
99	無回答	180	5.7%	238	6.5%	295	7.7%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-4-7 年度別「ごみ有料化の料金」 回答状況

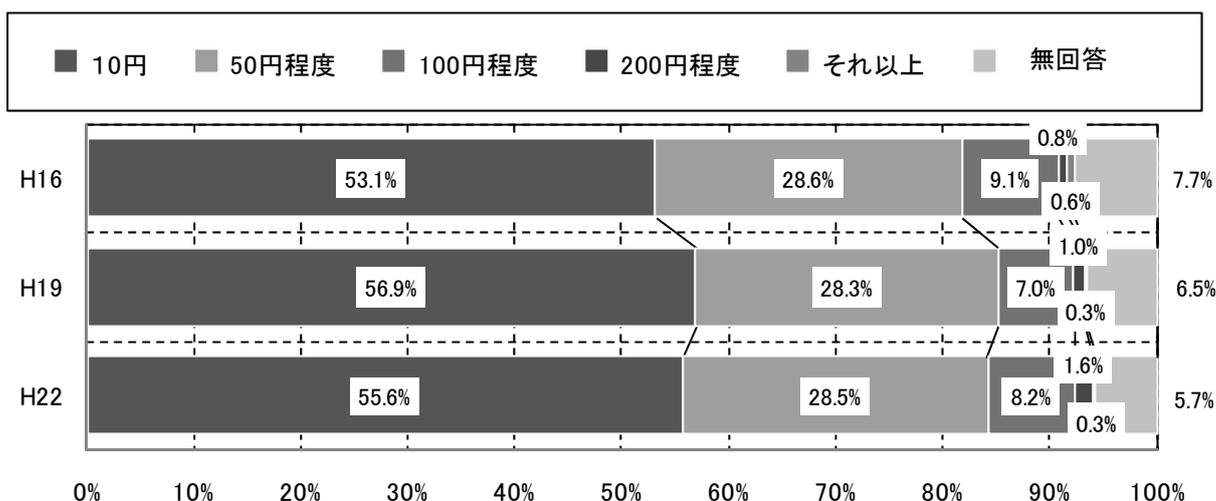


図 7-4-5 年度別「ごみ有料化の料金」 回答率

7-4-6 問 31 あなたのご家庭から出る可燃ごみに限っていえば、努力によりどれだけ減らせるとお考えですか？

「ごみの減らせる量」は、「10%～30%」が各年度いずれも 50%前後で最も高く、次いで「10%未満」が 20%台となっている。

問 31		平成 22 年度		平成 19 年度		平成 16 年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	10%未満	740	23.5%	757	20.6%	969	25.3%
2	10%～30%	1,629	51.6%	1,832	49.8%	1,802	47.0%
3	30%～50%	347	11.0%	516	14.0%	430	11.2%
4	50%～80%	70	2.2%	93	2.5%	99	2.6%
5	80%以上	17	0.5%	32	0.9%	24	0.6%
6	減らせない	256	8.1%	279	7.6%	306	8.0%
7	無回答	95	3.0%	173	4.7%	205	5.3%
計		3,154	100%	3,682	100%	3,835	100%

表 7-4-8 年度別「ごみの減らせる量」 回答状況

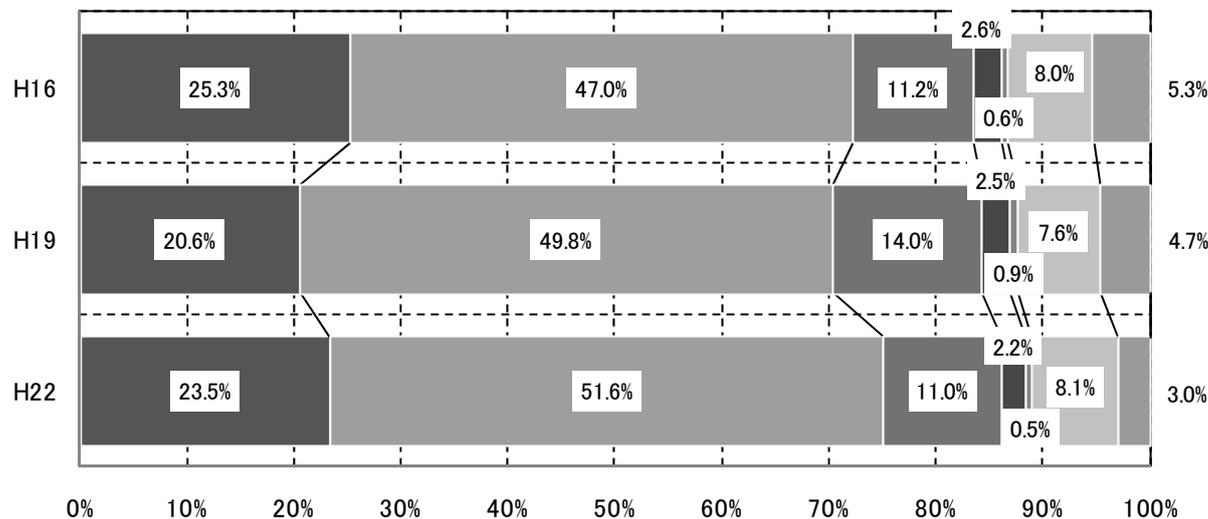
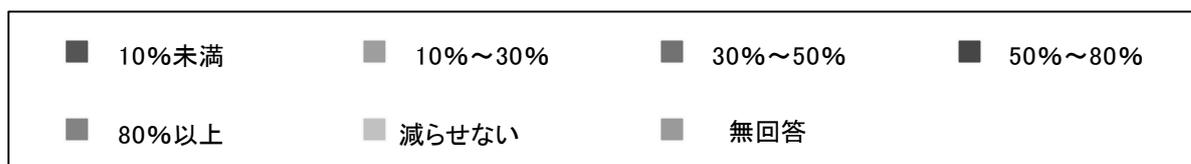


図 7-4-6 年度別「ごみの減らせる量」 回答率

## 8 平成 19 年度・平成 22 年度比較

### 8-1 現在行っているごみ減量やりサイクルの取組について

8-1-1 問 15 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？

年度別「分別数の増加について」は、「賛成（「賛成」＋「どちらかという賛成」）」、「反対（「反対」＋「どちらかという反対」）」ともに平成 22 年度が増加している。

問 15		1	2	1+2 賛成	3	4	3+4 反対	5	計
		賛成	どちらか という 賛成		どちらか という 反対	反対		無回答	
平成 22 年 度	回答数	1,152	1,449	2,601	410	94	504	49	3,154
	回答率	36.5%	45.9%	82.5%	13.0%	3.0%	16.0%	1.6%	100.0%
平成 19 年 度	回答数	1,411	1,584	2,995	446	70	516	171	3,682
	回答率	38.3%	43.0%	81.3%	12.1%	1.9%	14.0%	4.6%	100.0%

表 8-1-1 年度別「分別数の増加について」 回答状況

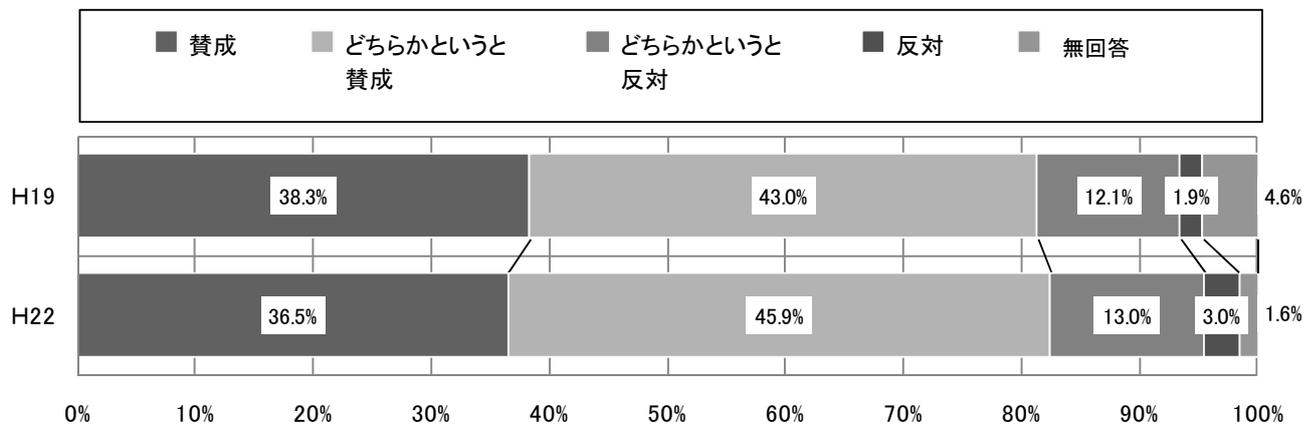


図 8-1-1 年度別「分別数の増加について」 回答率

## 8-2 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画について

8-2-1 問 32 ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。

1) 計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？

「ごみ処理基本計画への住民参画」は、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「思う（“とてもそう思う” + “少しそう思う”）」は 0.9%減少し、「思わない（“あまりそうは思わない” + “まったくそうは思わない”）」は 1.8%増加している。

問 32-1		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とてもそう 思う	少しそう 思う		あまりそう は 思わない	まったくそ うは 思わない		無回答	
平成 22 年度	回答数	1,317	1,381	2,698	335	28	363	93	3,154
	回答率	41.8%	43.8%	85.5%	10.6%	0.9%	11.5%	2.9%	100.0%
平成 19 年度	回答数	1,715	1,466	3,181	320	37	357	144	3,682
	回答率	46.6%	39.8%	86.4%	8.7%	1.0%	9.7%	3.9%	100.0%

表 8-2-1 年度別「ごみ処理基本計画への住民参画」 回答状況

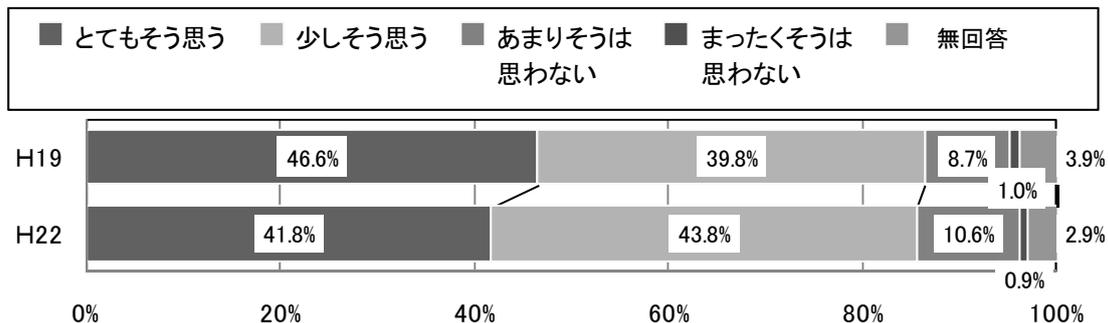


図 8-2-1 年度別「ごみ処理基本計画への住民参画」 回答率

2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

「計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」は、平成 22 年度年度は平成 19 年度年度と比較して、「思う（“とてもそう思う” + “少しそう思う”）」、「思わない（“あまりそうは思わない” + “まったくそうは思わない”）」ともに若干増加している。

問 32-1		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とてもそう 思う	少しそう 思う		あまりそう は 思わない	まったくそ うは 思わない		無回答	
平成 22 年度	回答数	865	1,718	2,583	423	51	474	97	3,154
	回答率	27.4%	54.5%	81.9%	13.4%	1.6%	15.0%	3.1%	100.0%
平成 19 年度	回答数	1,172	1,835	3,007	481	54	535	140	3,682
	回答率	31.8%	49.8%	81.7%	13.1%	1.5%	14.5%	3.8%	100.0%

表 8-2-2 年度別「計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」 回答状況

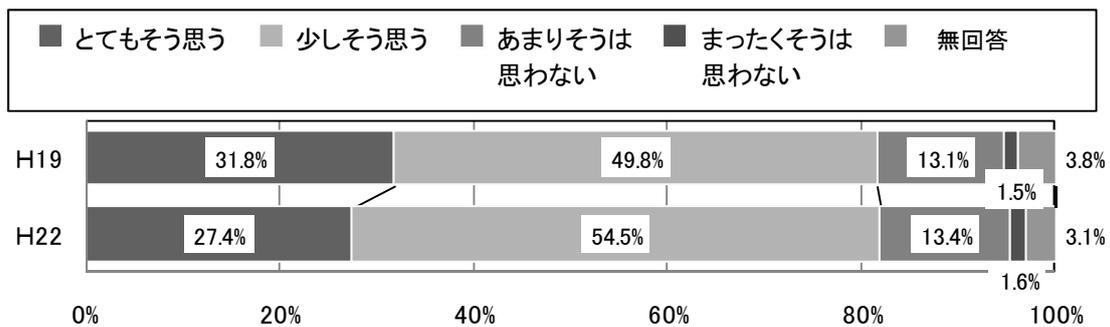


図 8-2-2 年度別「計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」 回答率

3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

「計画は市町が主体的につくる方がよい」は、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「思う（“とてもそう思う” + “少しそう思う”）」が 4.9%増加し、「思わない（“あまりそうは思わない” + “まったくそうは思わない”）」が 3.9%減少している。

問 32-1	1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計	
	とてもそう 思う	少しそう 思う		あまりそう は思わない	まったく そうは思わ ない		無回答		
平成 22 年度	回答数	942	1,418	2,360	566	110	676	118	3,154
	回答率	29.9%	45.0%	74.8%	17.9%	3.5%	21.4%	3.7%	100.0%
平成 19 年度	回答数	1,077	1,495	2,572	747	185	932	178	3,682
	回答率	29.3%	40.6%	69.9%	20.3%	5.0%	25.3%	4.8%	100.0%

表 8-2-3 年度別「計画は市町が主体的につくる方がよい」 回答状況

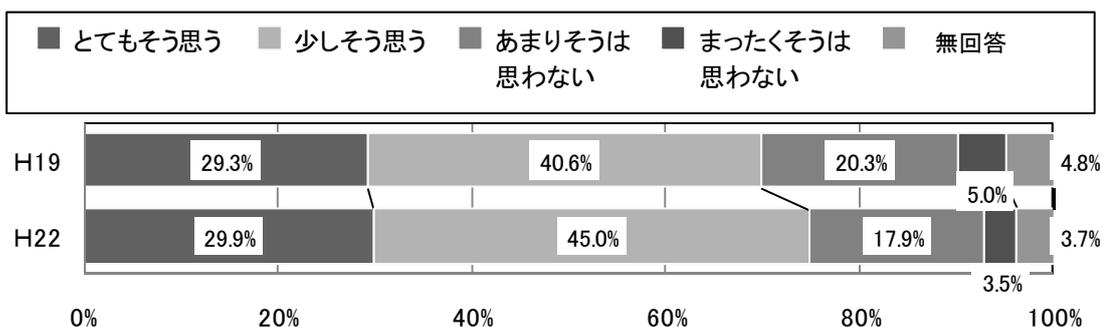


図 8-2-3 年度別「計画は市町が主体的につくる方がよい」 回答率

4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

「計画づくりに参画することによる情報の入手」は、平成 22 年度年度は平成 19 年度年度と比較して、「思う（“とてもそう思う” + “少しそう思う”）」が 0.8%増加し、「思わない（“あまりそうは思わない” + “まったくそうは思わない”）」が 0.2%減少している。

問 32-1		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とてもそう 思う	少しそう思 う		あまりそう は 思わない	まったくそ うは 思わない		無回答	
平成 22 年度	回答数	593	1,802	2,395	558	85	643	116	3,154
	回答率	18.8%	57.1%	75.9%	17.7%	2.7%	20.4%	3.7%	100.0%
平成 19 年度	回答数	809	1,955	2,764	671	88	759	159	3,682
	回答率	22.0%	53.1%	75.1%	18.2%	2.4%	20.6%	4.3%	100.0%

表 8-2-4 年度別「計画づくりに参画することによる情報の入手」 回答状況

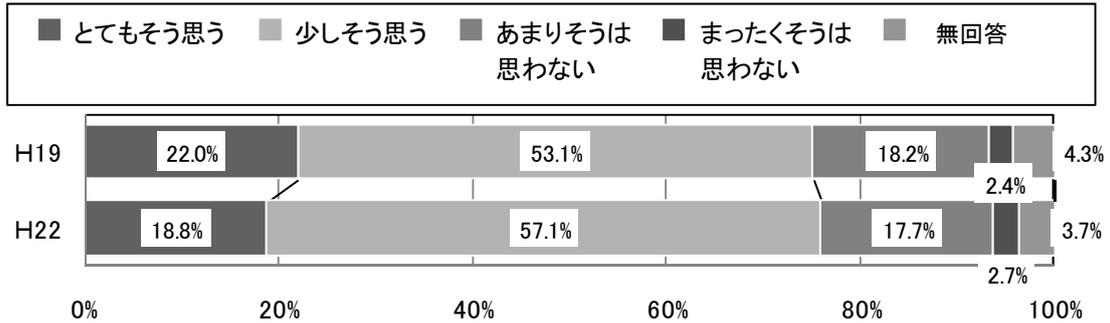


図 8-2-4 年度別「計画づくりに参画することによる情報の入手」 回答率

5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

「計画づくりには時間や手間がかかり大変である」は、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「思う（“とてもそう思う”＋“少しそう思う”）」が 1.2%増加し、「思わない（“あまりそうは思わない”＋“まったくそうは思わない”）」が 0.4%減少している。

問 32-1		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とてもそう 思う	少しそう思 う		あまりそう は 思わない	まったくそ うは 思わない		無回答	
平成 22 年度	回答数	929	1,786	2,715	275	48	323	116	3,154
	回答率	29.5%	56.6%	86.1%	8.7%	1.5%	10.2%	3.7%	100.0%
平成 19 年度	回答数	1,063	2,061	3,124	327	65	392	165	3,681
	回答率	28.9%	56.0%	84.9%	8.9%	1.8%	10.6%	4.5%	100.0%

表 8-2-5 年度別「計画づくりには時間や手間がかかり大変である」 回答状況

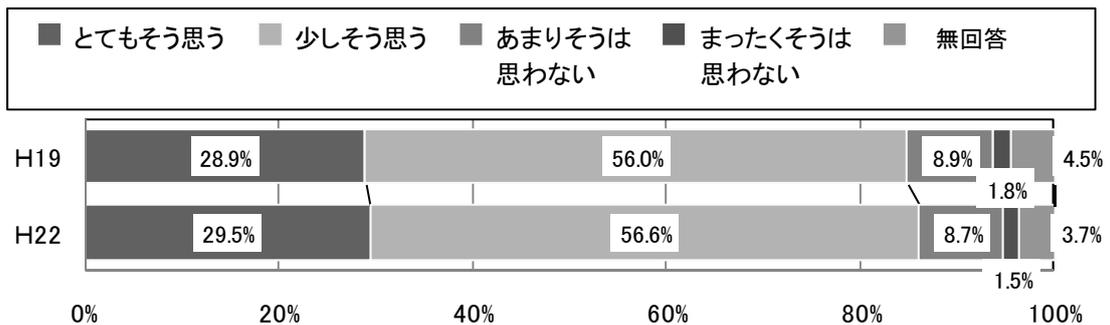


図 8-2-5 年度別「計画づくりには時間や手間がかかり大変である」 回答率

6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？

「計画づくりへの参画の意向」は、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「思う（“とてもそう思う” + “少しそう思う”）」が 2.7%減少し、「思わない（“あまりそうは思わない” + “まったくそうは思わない”）」が 3.5%増加している。

問 32-1		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とてもそう 思う	少しそう 思う		あまりそう は 思わない	まったくそ うは 思わない		無回答	
平成 22 年度	回答数	224	1,487	1,711	1,038	279	1,317	126	3,154
	回答率	7.1%	47.1%	54.2%	32.9%	8.8%	41.8%	4.0%	100.0%
平成 19 年度	回答数	323	1,772	2,095	1,134	277	1,411	176	3,682
	回答率	8.8%	48.1%	56.9%	30.8%	7.5%	38.3%	4.8%	100.0%

表 8-2-6 年度別「参加の意向」 回答状況

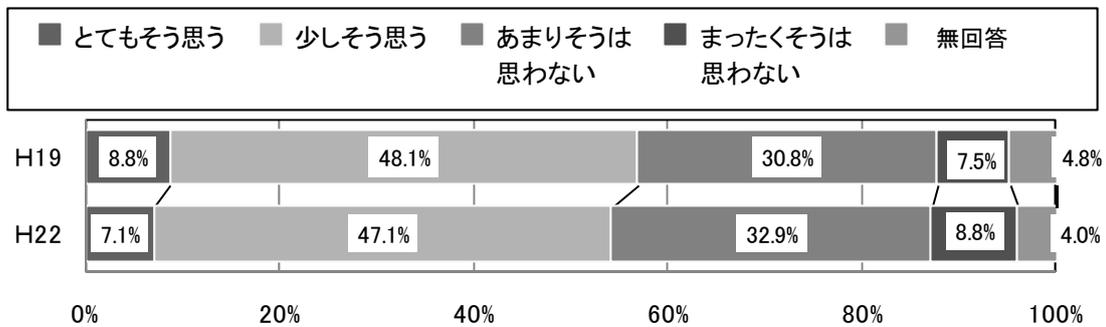


図 8-2-6 年度別「参加の意向」 回答率

### 8-3 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」について

#### 8-3-1 問 33 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存じですか？

##### 1) 全体

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、全体で見ると、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「知っている」、「名前は聞いたことがある」がそれぞれ 4.0%から 4.6%減少し、「知らない」が 9.6%増加している。

問 33-1：全体		平成 22 年度		平成 19 年度		回答率差 平成 22 年度- 平成 19 年度
		回答数	回答率	回答数	回答率	
1	知っている	156	4.9%	351	9.5%	-4.6%
2	名前は聞いたことがある	1,006	32.0%	1,328	36.1%	-4.0%
3	知らない	1,920	60.7%	1,882	51.1%	9.6%
99	無回答	72	2.4%	121	3.3%	-0.9%
計		3,154	100%	3,682	100%	*

表 8-3-1 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答状況

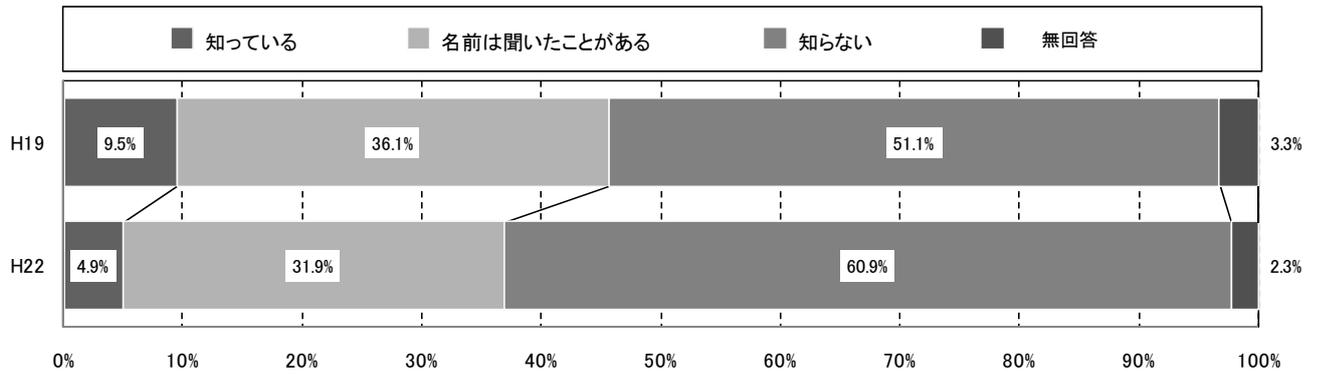


図 8-3-1 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答率

2) 年代別

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、年代別で見ると、「知っている」はすべての年代で減少し、「知らない」もすべての年代で増加している。「名前は聞いたことがある」は、「20代以下」、「70代以上」で増加している。

問 33：年代別：回答数		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
20代以下	平成 19 年度	18	58	154	3	233
	平成 22 年度	5	60	140	2	207
30代	平成 19 年度	22	144	289	11	466
	平成 22 年度	10	96	309	1	416
40代	平成 19 年度	39	185	337	11	572
	平成 22 年度	19	118	306	1	444
50代	平成 19 年度	74	314	436	23	847
	平成 22 年度	25	198	413	2	638
60代	平成 19 年度	88	344	351	25	808
	平成 22 年度	56	305	446	8	815
70代以上	平成 19 年度	99	247	268	32	646
	平成 22 年度	41	225	298	18	582

表 8-3-2 年代別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答数

問 33：年代別：回答率		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
20代以下	平成 19 年度	7.7%	24.9%	66.1%	1.3%	100.0%
	平成 22 年度	2.4%	29.0%	67.6%	1.0%	100.0%
30代	平成 19 年度	4.7%	30.9%	62.0%	2.4%	100.0%
	平成 22 年度	2.4%	23.1%	74.3%	0.2%	100.0%
40代	平成 19 年度	6.8%	32.3%	58.9%	1.9%	100.0%
	平成 22 年度	4.3%	26.6%	68.9%	0.2%	100.0%
50代	平成 19 年度	8.7%	37.1%	51.5%	2.7%	100.0%
	平成 22 年度	3.9%	31.0%	64.7%	0.3%	100.0%
60代	平成 19 年度	10.9%	42.6%	43.4%	3.1%	100.0%
	平成 22 年度	6.9%	37.4%	54.7%	1.0%	100.0%
70代以上	平成 19 年度	15.3%	38.2%	41.5%	5.0%	100.0%
	平成 22 年度	7.0%	38.7%	51.2%	3.1%	100.0%

表 8-3-3 年代別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答率

問 33：年代別：回答率差		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答
20代以下	平成 22 年度-平成 19 年度	-5.3%	4.1%	1.5%	-0.3%
30代		-2.3%	-7.8%	12.3%	-2.1%
40代		-2.5%	-5.8%	10.0%	-1.7%
50代		-4.8%	-6.0%	13.3%	-2.4%
60代		-4.0%	-5.2%	11.3%	-2.1%
70代以上		-8.3%	0.4%	9.7%	-1.9%

表 8-3-4 年代別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答率差

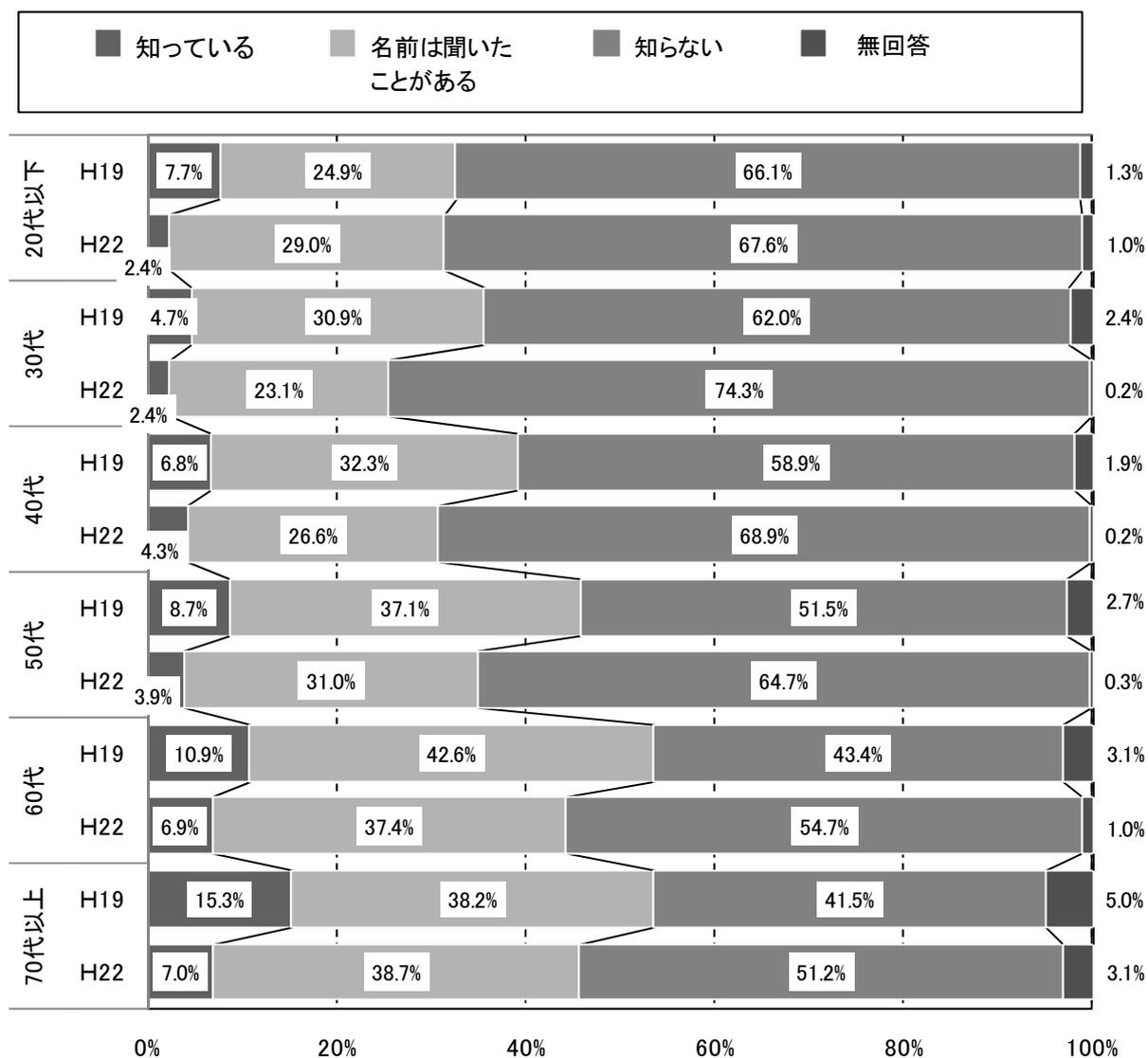


図 8-3-2 年代別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答率

3) 性別

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、性別で見ると、「知っている」、「名前は聞いたことがある」は男女ともに減少し、「知らない」も男女ともに増加している。「知っている」は、女性の方が減少率が高く、「知らない」も女性の増加率が高い。

問 33：性別別：回答数		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
女性	平成 19 年度	202	779	1049	67	2097
	平成 22 年度	80	632	1150	19	1881
男性	平成 19 年度	135	508	783	35	1461
	平成 22 年度	74	369	759	12	1214
問 33：性別：回答率		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
女性	平成 19 年度	9.6%	37.1%	50.0%	3.2%	100.0%
	平成 22 年度	4.3%	33.6%	61.1%	1.0%	100.0%
男性	平成 19 年度	9.2%	34.8%	53.6%	2.4%	100.0%
	平成 22 年度	6.1%	30.4%	62.5%	1.0%	100.0%
問 33：性別：回答率差		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	
女性	平成 22 年度 -平成 19 年度	-5.4%	-3.5%	11.1%	-2.2%	
男性		-3.1%	-4.4%	8.9%	-1.4%	

表 8-3-5 性別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答状況

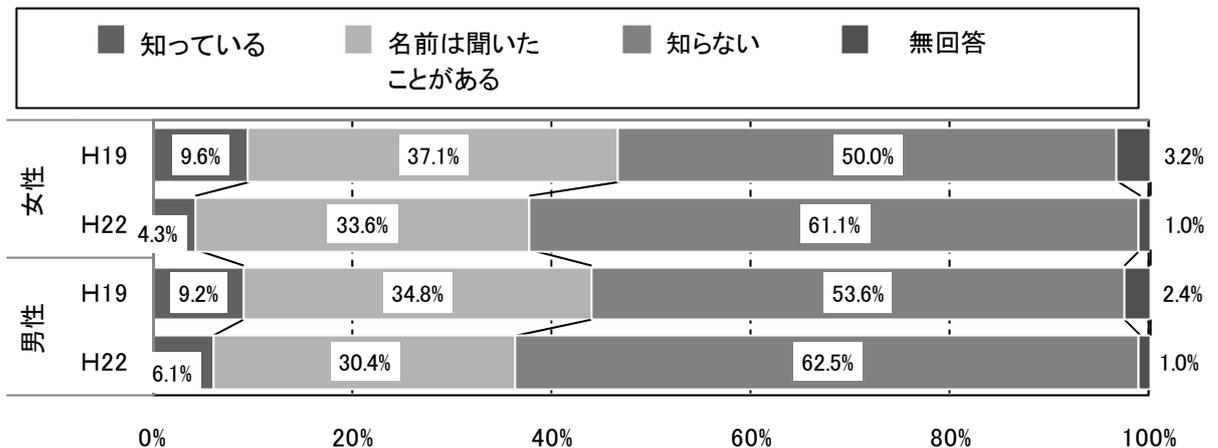


図 8-3-3 性別 年度別「ごみゼロ社会実現プランの認知度」 回答率

8-3-2 問 34 三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」をご存じですか？

1) 全体

三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」の認知度は、全体で見ると、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「知っている」、「見たことはある」がそれぞれ 4.1%、4.0%減少し、「知らない」が 9.0%増加している。

問 34-1：全体		平成 22 年度		平成 19 年度		回答率差 平成 22 年度- 平成 19 年度
		回答数	回答率	回答数	回答率	
1	知っている	156	5.1%	341	9.3%	-4.1%
2	見たことはある	423	13.9%	660	17.9%	-4.0%
3	知らない	2,393	78.8%	2,569	69.8%	9.0%
99	無回答	66	2.2%	112	3.0%	-0.9%
計		3,038	100%	3,682	100%	*

表 8-3-6 全体 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答状況

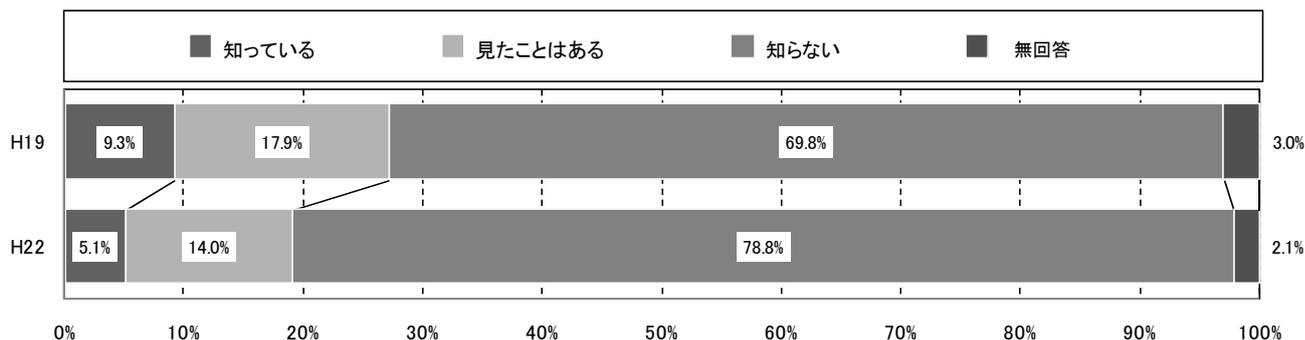


図 8-3-4 全体 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率

## 2) 年代別

認知度は、年代別で見ると、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、「知っている」は 2.5 から 5.8%減少し、「知らない」が 0.4 から 13.8%増加している。  
「知らない」は年代が高くなるほど増加率が高くなる傾向となっている。

問 34：年代別：回答数		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
20 代以下	平成 19 年度	17	18	195	3	233
	平成 22 年度	6	25	174	2	207
30 代	平成 19 年度	46	36	374	10	466
	平成 22 年度	23	36	357	0	416
40 代	平成 19 年度	58	78	425	11	572
	平成 22 年度	30	45	367	2	444
50 代	平成 19 年度	60	163	602	22	847
	平成 22 年度	29	76	531	2	638
60 代	平成 19 年度	74	186	524	24	808
	平成 22 年度	41	128	641	5	815
70 代以上	平成 19 年度	74	161	383	28	646
	平成 22 年度	33	129	405	15	582

表 8-3-7 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答数

問 34：年代別：回答率		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
20代以下	平成 19 年度	7.3%	7.7%	83.7%	1.3%	100.0%
	平成 22 年度	2.9%	12.1%	84.1%	1.0%	100.0%
30代	平成 19 年度	9.9%	7.7%	80.3%	2.1%	100.0%
	平成 22 年度	5.5%	8.7%	85.8%	0.0%	100.0%
40代	平成 19 年度	10.1%	13.6%	74.3%	1.9%	100.0%
	平成 22 年度	6.8%	10.1%	82.7%	0.5%	100.0%
50代	平成 19 年度	7.1%	19.2%	71.1%	2.6%	100.0%
	平成 22 年度	4.5%	11.9%	83.2%	0.3%	100.0%
60代	平成 19 年度	9.2%	23.0%	64.9%	3.0%	100.0%
	平成 22 年度	5.0%	15.7%	78.7%	0.6%	100.0%
70代以上	平成 19 年度	11.5%	24.9%	59.3%	4.3%	100.0%
	平成 22 年度	5.7%	22.2%	69.6%	2.6%	100.0%

表 8-3-8 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率

問 34：年代別：回答率差		知っている	見たことはある	知らない	無回答
20代以下	平成 22 年度 -平成 19 年 度	-4.4%	4.4%	0.4%	-0.3%
30代		-4.3%	0.9%	5.6%	-2.1%
40代		-3.4%	-3.5%	8.4%	-1.5%
50代		-2.5%	-7.3%	12.2%	-2.3%
60代		-4.1%	-7.3%	13.8%	-2.4%
70代以上		-5.8%	-2.8%	10.3%	-1.8%

表 8-3-9 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率

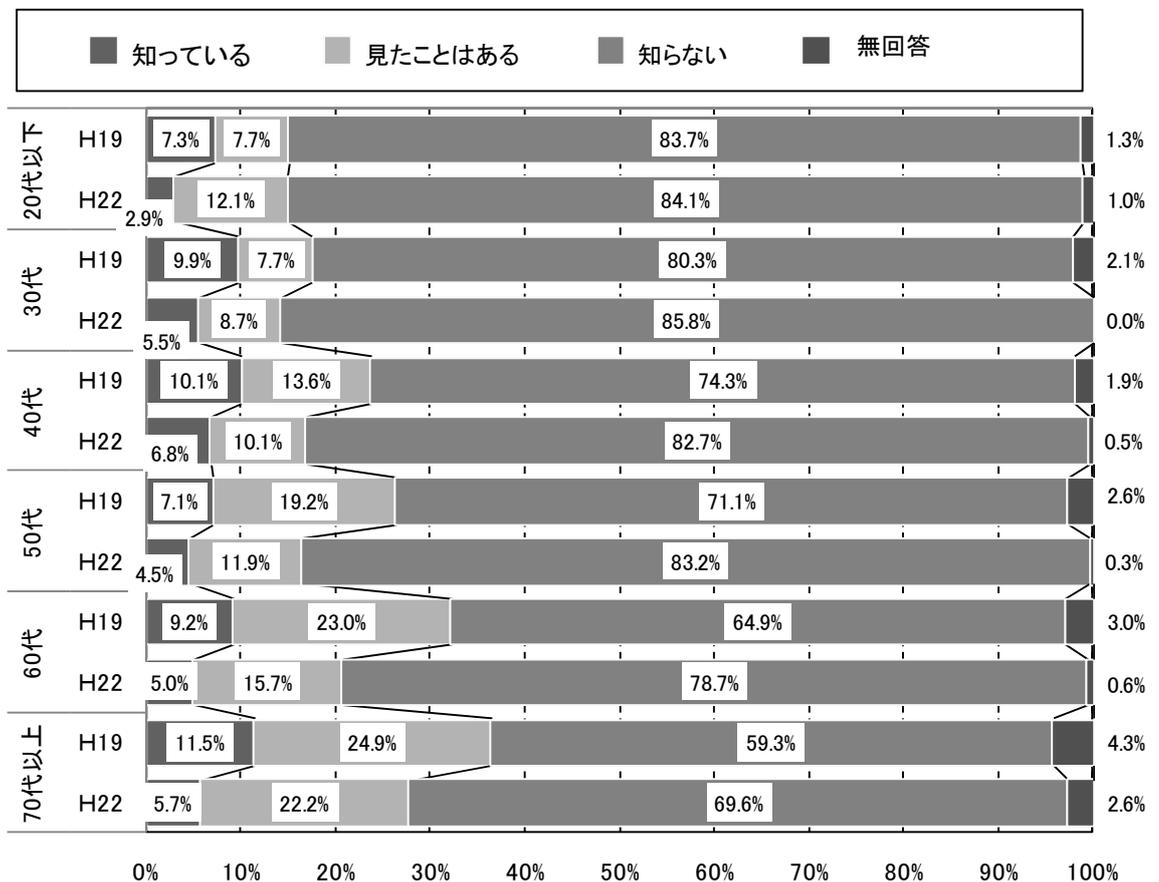


図 8-3-5 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率

3) 性別

認知度は、性別で見ると、平成 22 年度年度は平成 19 年度年度と比較して、「知っている」は男女ともに減少し、「知らない」も男女ともに増加している。なお、減少率、増加率ともに女性が高い。

問 34：性別別：回答数		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
女性	平成 19 年度	202	779	1049	67	2097
	平成 22 年度	80	632	1150	19	1881
男性	平成 19 年度	135	508	783	35	1461
	平成 22 年度	74	369	759	12	1214
問 34：性別：回答率		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
女性	平成 19 年度	9.6%	37.1%	50.0%	3.2%	100.0%
	平成 22 年度	4.3%	33.6%	61.1%	1.0%	100.0%
男性	平成 19 年度	9.2%	34.8%	53.6%	2.4%	100.0%
	平成 22 年度	6.1%	30.4%	62.5%	1.0%	100.0%

表 8-3-10 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答状況

問 34：性別：回答率差		知っている	見たことはある	知らない	無回答
女性	平成 22 年度- 平成 19 年度	-5.4%	-3.5%	11.1%	-2.2%
男性		-3.1%	-4.4%	8.9%	-1.4%

表 8-3-11 年代別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率差

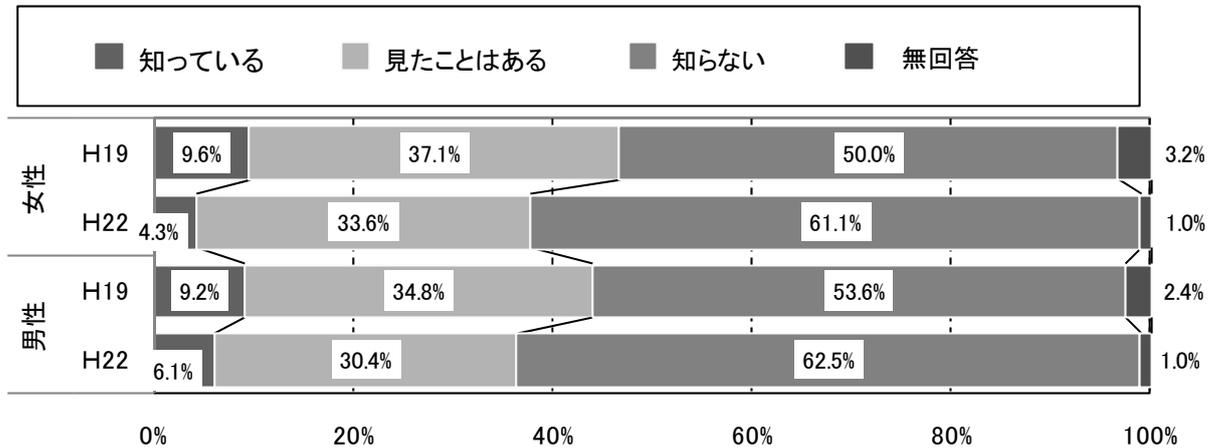
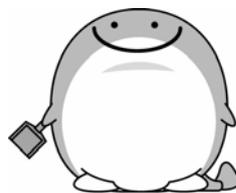


図 8-3-6 性別 年度別「ゼロ吉の認知度」 回答率



三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

8-3-3 問 35 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取組に参加したいと思いますか？

1) 全体

「県民参画の取組への参加」は、平成 22 年度は平成 19 年度と比較して、すべての取組項目で減少している。「いずれにも参加したいとは思わない」は 6.3%増加している。

問 35	平成 19 年度		平成 22 年度		回答率差 平成 22 年度 -平成 19 年 度	
	回答数	回答率	回答数	回答率		
1	地域ごみゼロ交流会に参加したい	421	11.4%	289	9.2%	-2.3%
2	ごみゼロに関する講演会やセミナーに参加したい	488	13.3%	352	11.2%	-2.1%
3	ごみゼロプランに関する情報をホームページ等で読みたい	808	21.9%	619	19.6%	-2.3%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	360	9.8%	215	6.8%	-3.0%
5	ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読みたい	993	27.0%	741	23.5%	-3.5%
6	アンケートなどに協力したい	1,382	37.5%	1,152	36.5%	-1.0%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	112	3.0%	68	2.2%	-0.9%
8	ごみゼロプランの進捗状況などを評価検証する「ごみゼロプラン推進委員会」を傍聴したい	115	3.1%	92	2.9%	-0.2%
9	いずれにも参加したいとは思わない	657	17.8%	762	24.2%	6.3%
10	いずれにも参加したいとは思わない	82	2.2%	82	2.6%	0.4%
総回答数		5,418		4,372		
有効回答数		3,682	147.1%	3,154	138.6%	

表 8-3-12 全体 年度別「県民参画の取組への参加」 回答状況

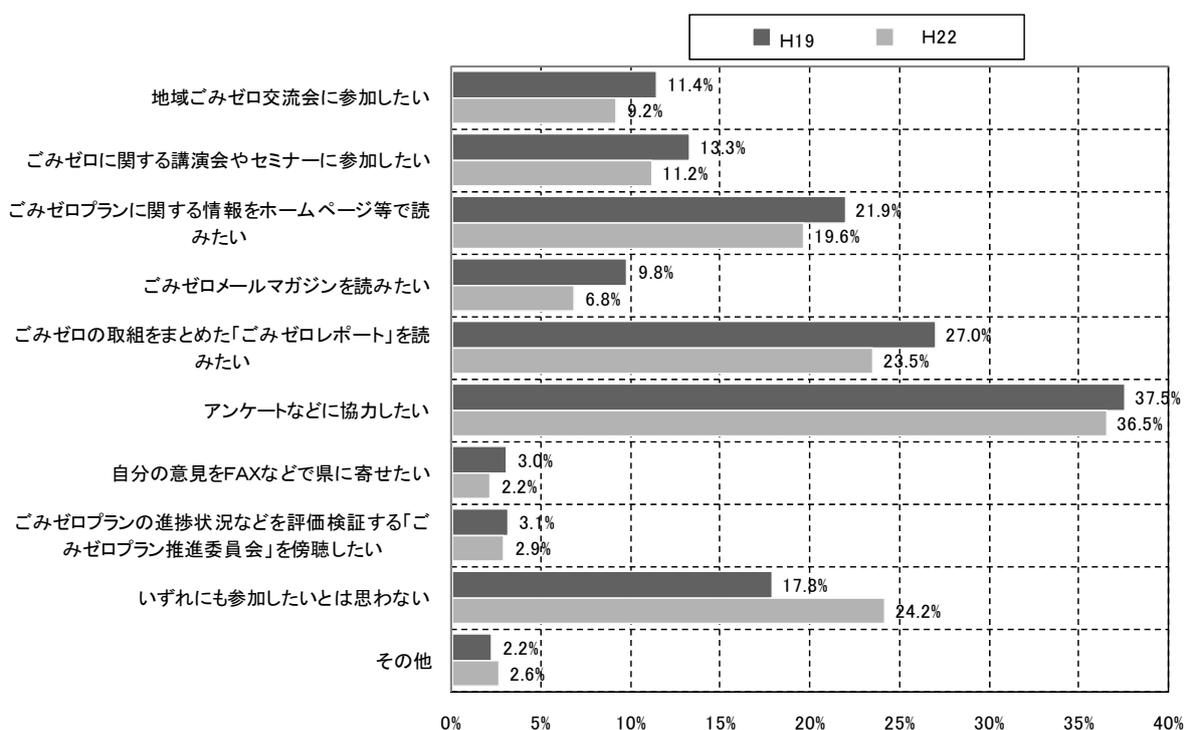


図 8-3-7 全体 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率

2) 年代別

「県民参画の取組への参加」の年代別では、「いずれにも参加したいと思わない」が平成 22 年度は 19 年度と比較してすべての年代で 3%以上増加している。特に 40 代以下が 9%以上の増加である。  
 「地域ごみゼロ交流会に参加」、「講演会やセミナーへの参加」、「『ごみゼロレポート』を読みたい」ではすべての年代で減少している。

問 35 年代別：回答率		年度	1	2	3	4	5	6	99
			20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
1	地域ごみゼロ交流会に参加	平成 22 年度	3.9%	5.5%	5.0%	6.4%	12.9%	15.3%	1.9%
		平成 19 年度	6.9%	5.8%	7.2%	9.1%	16.5%	17.0%	15.6%
2	講演会やセミナーへ参加	平成 22 年度	5.3%	4.8%	7.7%	11.8%	15.6%	14.6%	0.0%
		平成 19 年度	6.4%	9.0%	11.2%	11.9%	17.9%	16.6%	12.8%
3	情報をホームページ等で読みたい	平成 22 年度	30.4%	29.1%	29.5%	20.2%	13.4%	11.2%	1.9%
		平成 19 年度	30.5%	33.7%	30.9%	21.8%	13.1%	14.2%	18.3%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	平成 22 年度	8.2%	6.3%	7.9%	9.7%	6.4%	3.8%	1.9%
		平成 19 年度	11.2%	12.9%	14.3%	11.7%	5.6%	5.7%	10.1%
5	「ごみゼロレポート」を読みたい	平成 22 年度	23.7%	21.2%	23.2%	22.9%	28.1%	21.5%	1.9%
		平成 19 年度	24.9%	24.2%	28.3%	26.8%	31.3%	24.9%	17.4%
6	アンケートなどに協力したい	平成 22 年度	43.5%	43.0%	35.1%	36.2%	36.8%	33.0%	7.7%
		平成 19 年度	44.6%	40.6%	36.7%	37.9%	38.6%	32.4%	33.9%
7	自分の意見を F A X などで県に寄せたい	平成 22 年度	2.4%	2.4%	2.7%	2.7%	1.7%	1.7%	0.0%
		平成 19 年度	4.3%	5.8%	3.5%	2.6%	1.9%	2.3%	2.8%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	平成 22 年度	2.9%	2.6%	2.3%	2.2%	3.8%	3.4%	0.0%
		平成 19 年度	1.7%	4.9%	2.6%	2.6%	3.0%	3.4%	4.6%
9	いずれにも参加したいとは思わない	平成 22 年度	26.6%	27.4%	25.2%	24.6%	23.2%	22.5%	7.7%
		平成 19 年度	17.6%	17.2%	15.9%	19.4%	17.1%	19.3%	15.6%
10	その他	平成 22 年度	1.0%	1.0%	2.9%	2.5%	2.0%	5.3%	0.0%
		平成 19 年度	0.9%	1.7%	2.1%	1.9%	2.5%	3.1%	3.7%

表 8-3-13 年代別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率

問 35 年代別：回答差		1	2	3	4	5	6
		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	地域ごみゼロ交流会に参加	-3.0%	-0.3%	-2.2%	-2.7%	-3.6%	-1.7%
2	講演会やセミナーへの参加	-1.1%	-4.2%	-3.5%	-0.2%	-2.4%	-2.0%
3	情報をホームページ等で読みたい	0.0%	-4.6%	-1.4%	-1.6%	<b>0.3%</b>	-3.1%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	-2.9%	-6.6%	-6.5%	-2.0%	<b>0.8%</b>	-1.9%
5	「ごみゼロレポート」を読みたい	-1.2%	-3.1%	-5.1%	-3.9%	-3.2%	-3.4%
6	アンケートなどに協力したい	-1.2%	<b>2.5%</b>	-1.6%	-1.7%	-1.8%	<b>0.6%</b>
7	自分の意見を F A X などで県に寄せたい	-1.9%	-3.4%	-0.8%	<b>0.1%</b>	-0.1%	-0.6%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	<b>1.2%</b>	-2.3%	-0.4%	-0.4%	<b>0.8%</b>	0.0%
9	いずれにも参加したいとは思わない	9.0%	10.2%	9.3%	5.2%	6.1%	3.2%
10	その他	0.1%	-0.8%	0.8%	0.6%	-0.5%	2.2%

表 8-3-14 年代別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率差

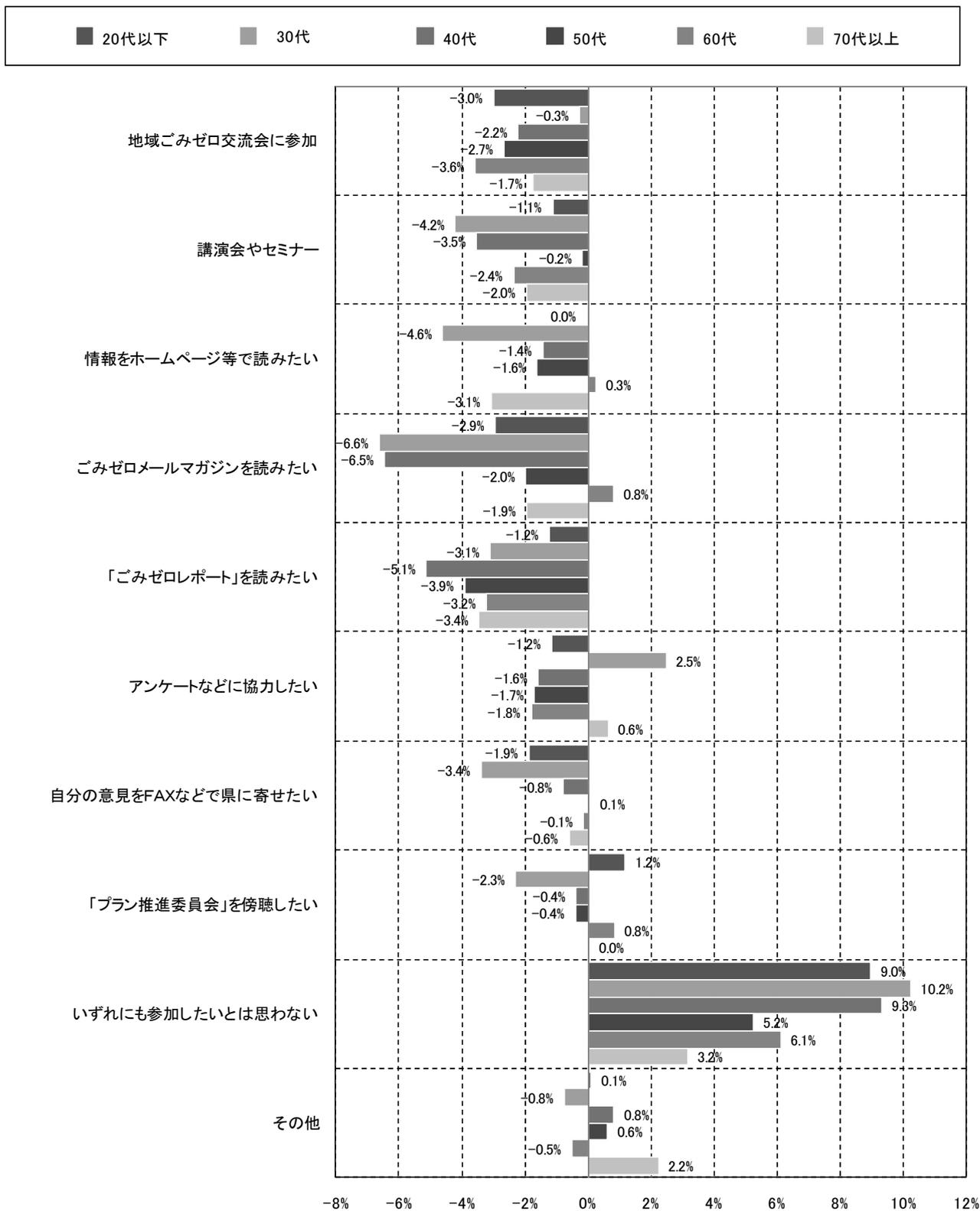


図 8-3-8 年代別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率差

3) 性別

「県民参画の取組への参加」の性別は、「いずれにも参加したいと思わない」が、平成22年度は、平成19年度と比較して男女ともに6%強の増加となっている。個別の取組では、「ごみゼロメールマガジンを読みたい」、「ごみゼロレポート」を読みたいで女性が3%以上減少している。

問35 性別：回答率		年度	1	2	99
			女性	男性	無回答
1	地域ごみゼロ交流会に参加	平成22年度	9.0%	9.8%	1.7%
		平成19年度	10.4%	12.5%	17.2%
2	講演会やセミナー	平成22年度	10.7%	12.4%	0.0%
		平成19年度	12.0%	15.0%	13.9%
3	情報をホームページ等で読みたい	平成22年度	19.9%	19.9%	5.1%
		平成19年度	22.2%	22.0%	15.6%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	平成22年度	6.5%	7.5%	1.7%
		平成19年度	9.9%	9.7%	9.0%
5	「ごみゼロレポート」を読みたい	平成22年度	23.4%	24.5%	3.4%
		平成19年度	27.4%	27.2%	17.2%
6	アンケートなどに協力したい	平成22年度	35.4%	39.8%	5.1%
		平成19年度	36.1%	39.8%	36.1%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	平成22年度	2.0%	2.6%	0.0%
		平成19年度	2.2%	4.1%	4.9%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	平成22年度	1.9%	4.7%	0.0%
		平成19年度	2.1%	4.4%	4.9%
9	いずれにも参加したいと思わない	平成22年度	24.5%	24.5%	6.8%
		平成19年度	17.7%	18.3%	13.1%
10	その他	平成22年度	3.1%	1.9%	1.7%
		平成19年度	2.5%	1.8%	3.3%

表 8-3-15 性別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率

問35 性別：回答差		1	2
		女性	男性
1	地域ごみゼロ交流会に参加	-1.4%	-2.7%
2	講演会やセミナー	-1.3%	-2.6%
3	情報をホームページ等で読みたい	-2.3%	-2.1%
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい	-3.3%	-2.2%
5	「ごみゼロレポート」を読みたい	-3.9%	-2.7%
6	アンケートなどに協力したい	-0.7%	0.0%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	-0.2%	-1.6%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	-0.2%	0.2%
9	いずれにも参加したいと思わない	6.7%	6.2%
10	その他	0.6%	0.1%

表 8-3-16 性別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率差

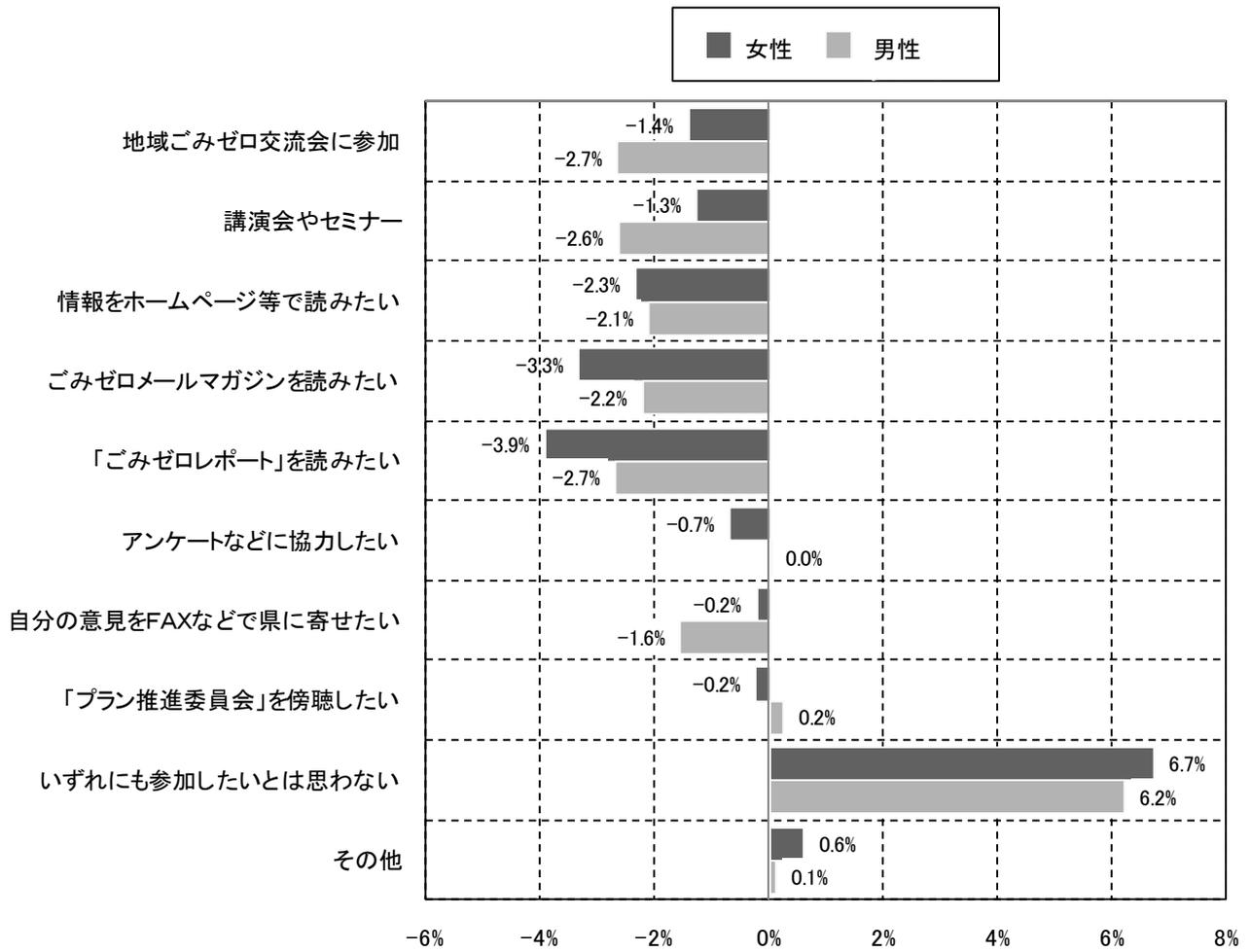


図 8-3-9 性別 年度別「県民参画の取組への参加」 回答率差

## 9 国との比較

国において、平成 21 年 6 月に行われた「環境問題に関する世論調査」及び同年 11 月に行われた「循環型社会に関する意識・行動調査」の調査項目と今回（平成 22 年度三重県調査）の調査項目が同じ内容のものを抽出して比較した。

### 9-1 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

問 1	次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？ それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
-----	---

(5) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

「日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」での「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は、三重県 95.1%、国 94.9%とほぼ同じであるが、「とてもそう思う」は三重県が 19.1%高い。三重県では「一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」の割合はかなり高いと思われる。

問 1-5		1	2	3	4	5	計
		とても そう思う	少し そう思う	あまり そうは 思わない	まったく そうは 思わない	無回答	
平成 22 年 度：三重県	回答数	2,230	769	109	19	27	3,154
	回答率	70.7%	24.4%	3.5%	0.6%	0.9%	100.0%
H21:国調査	回答率	51.6%	43.3%	4.1%	1.0%	0.0%	100.0%
三重県一国調査		19.1%	-18.9%	-0.6%	-0.4%	0.9%	—
問 1-5 まとめ		思う (1+2)		思わない (3+4)		無回答	計
平成 22 年度：三重県		95.1%		4.1%		0.9%	100.0%
H21：国調査		94.9%		5.1%		0.0%	100.0%
三重県一国調査		0.2%		-1.0%		0.9%	—

表 9-1 問 1-5 回答状況

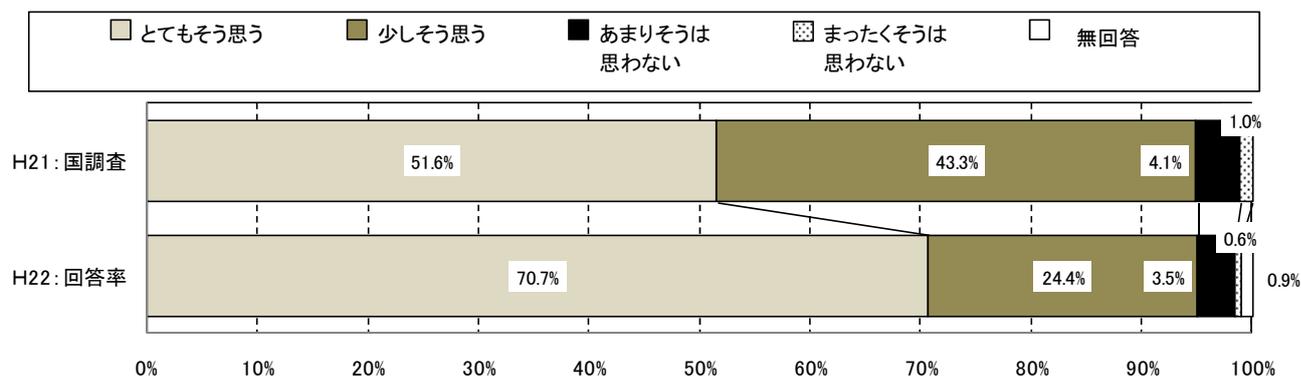


図 9-1 問 1-5 回答率

(6) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う」の「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は、三重県 88.0%、国 94.3%と三重県が 6.3%低いですが、「とてもそう思う」は、三重県が 9.4%上回っている。

問 1-6		1	2	3	4	5	計
		とても そう思う	少し そう思う	あまり そうは 思わない	まったく そうは 思わない	無回答	
平成 22 年 度：三重県	回答数	1,702	1,074	303	36	39	3,154
	回答率	54.0%	34.1%	9.6%	1.1%	1.2%	100.0%
H21：国調査	回答率	44.6%	49.7%	5.1%	0.6%	0.0%	100.0%
三重県一國調査		9.4%	-15.6%	4.5%	0.5%	1.2%	—
問 1-6 まとめ		思う		思わない		無回答	計
平成 22 年度：三重県		88.0%		10.7%		0.9%	100.0%
H21：国調査		94.3%		5.7%		0.0%	100.0%
三重県一國調査		-6.3%		5.0%		0.9%	—

表 9-2 問 1-6 回答状況

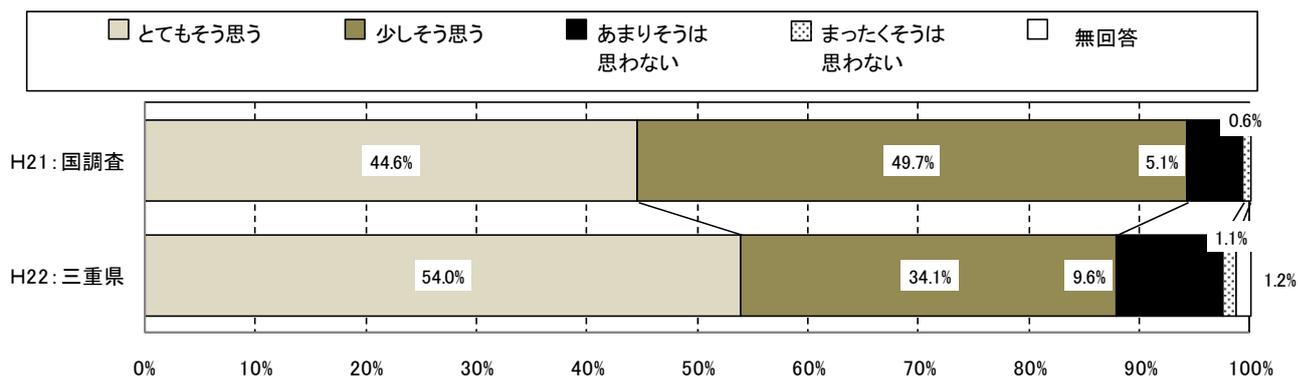


図 9-2 問 1-6 回答率

問 3 物を買うときの環境への配慮について、あなたはどう感じていますか？  
最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。

積極的配慮（選択肢1～3の計）では、三重県は2.3%低くなっている。消極的配慮（選択肢4～6）は、国調査と同率である。

問 3	積極的配慮	消極的配慮	その他（無回答含む）
平成 22 年度：三重県調査	80.2%	9.1%	10.7%
H21：国調査	82.5%	9.1%	8.4%
三重県調査-国調査	-2.3%	0%	2.3%

表 9-3 問 3 まとめ 回答状況

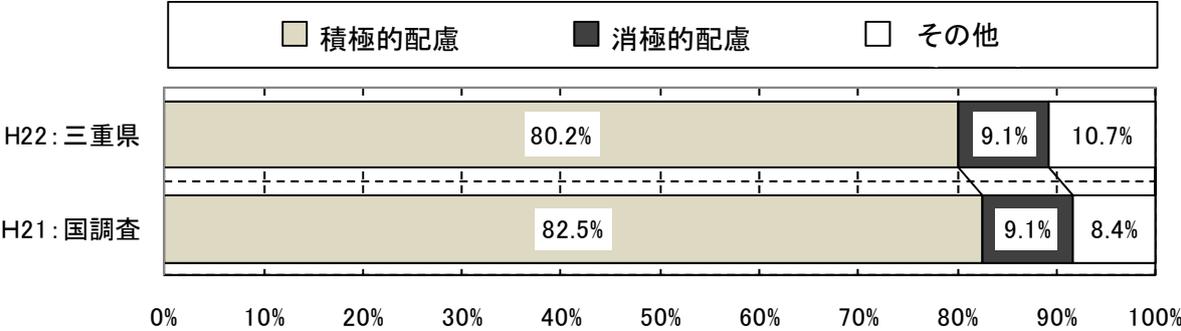


図 9-3 問 3 まとめ 回答率

問 3		1	2	3	4	5	6	7	8	8	計
		環境保全のために良いことなので、常に意識している	習慣になっており、特に意識することではない	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する	家計の圧迫につながるのを避けた	手間や時間がかかる・面倒だ	生活の利便さや快適さを損なう	その他	わからない	無回答	
平成 22 年度： 三重県	回答数	466	549	1,513	184	72	32	58	227	53	3,154
	回答率	14.8%	17.4%	48.0%	5.8%	2.3%	1.0%	1.8%	7.2%	1.7%	100%
H21：国調査	回答率	9.5%	20.2%	52.8%	4.7%	3.5%	0.9%	1.8%	6.6%	0%	100%
三重県-国		5.3%	-2.8%	-4.8%	1.1%	-1.2%	0.1%	0.0%	0.6%	1.7%	5.3%

表 9-4 問 3 回答状況

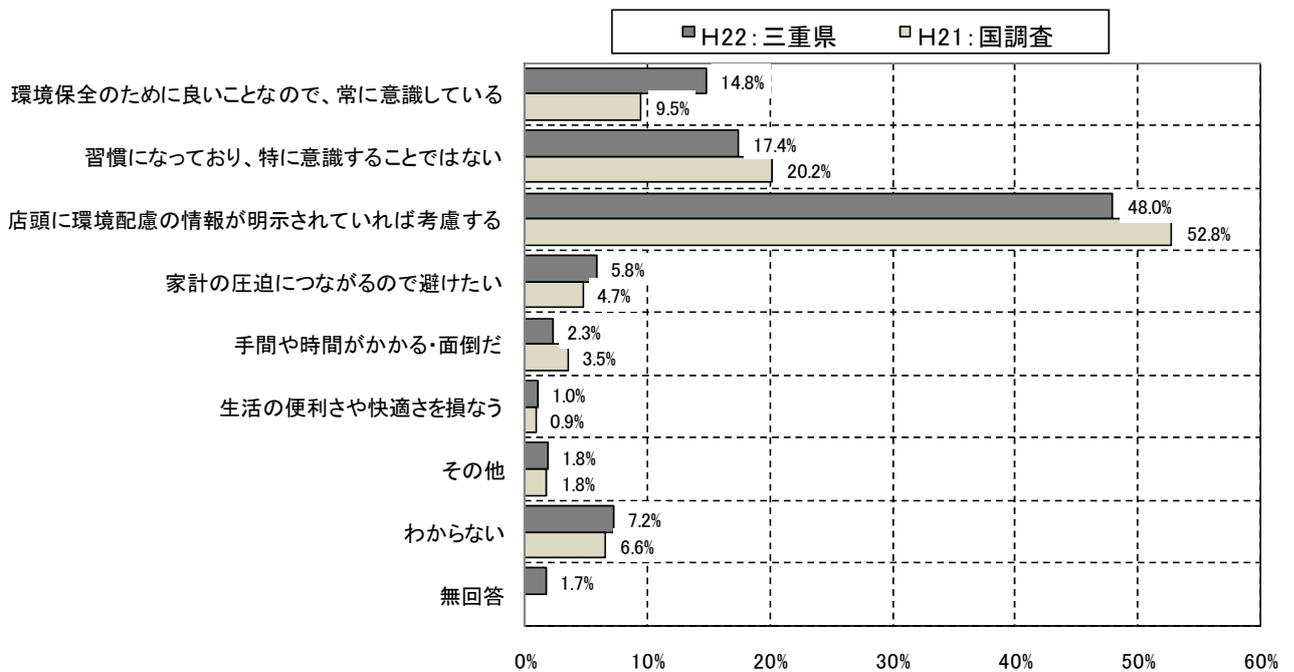


図 9-4 問3 回答率

問 6 あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？  
 あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。 (複数回答)

ごみ問題の知識では、8項目中5項目を三重県が上回っている。

番号	選択肢	平成22年度：三重県		H21 国調査	三重県-国
		回答数	回答率		
1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている	1,817	57.6%	59.7%	-2.1%
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対すると考えている人が多い	2,177	69.0%	55.1%	13.9%
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されている	1,344	42.6%	41.4%	1.2%
4	野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題になっている	2,641	83.7%	79.1%	4.6%
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの名目で、放置されている	1,225	38.8%	40.5%	-1.7%
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている	2,542	80.6%	72.1%	8.5%
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしていきっていないものがある	1,165	36.9%	30.4%	6.5%
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じている	1,300	41.2%	47.1%	-5.9%
9	その他	43	1.4%	0.1%	1.3%
10	特に知っているものはない	56	1.8%	3.7%	-1.9%
総回答数		14,310	453.7%	429.2%	-
有効回答数		3,154			

表 9-5 問6 回答状況

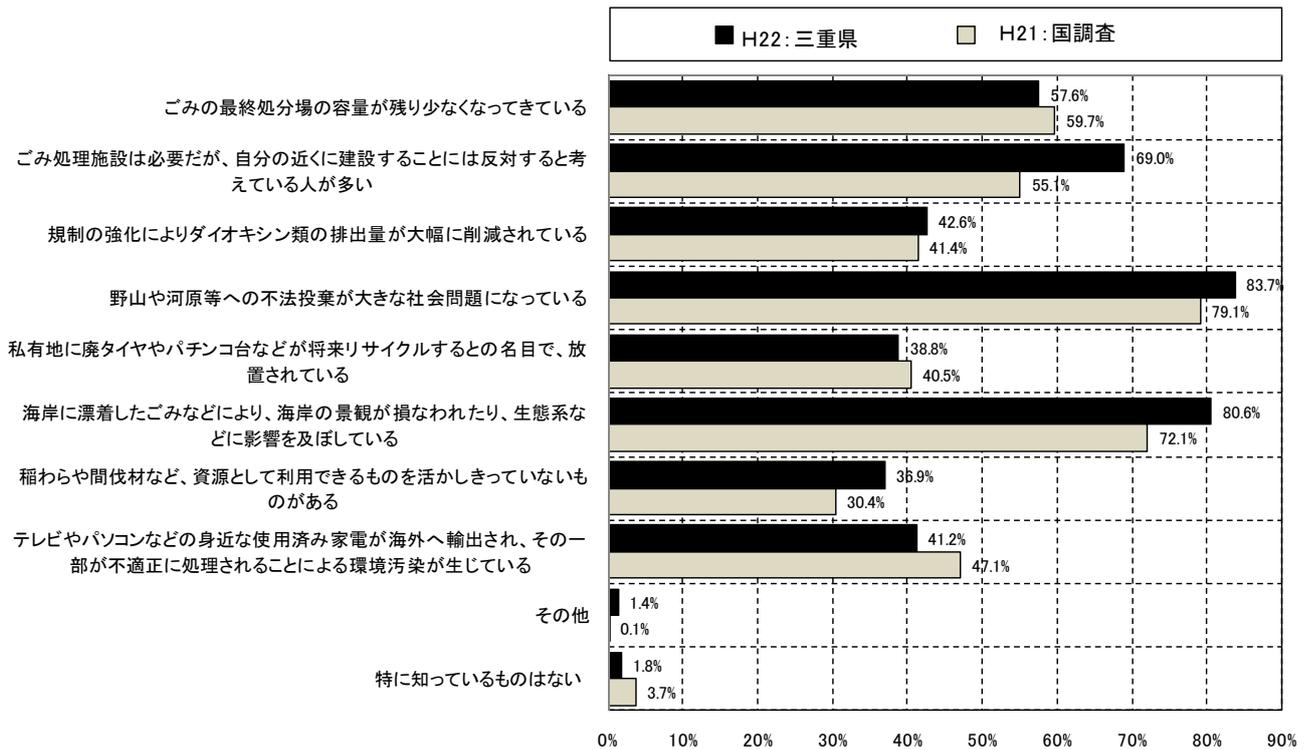


図 9-5 問6 回答率

## 9-2 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組について

問 13	あなたは、分別したごみがあなたの市町でどのように処理・リサイクルされるかご存 知ですか？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
------	--

市町のごみの処理・リサイクルについて、知っている（「知っている」と「少し知っている」の計）で国調査より20.2%低い。市町のごみの処理・リサイクルの状況をもっと県民に周知する必要があると思われる。

問 13		1	2	3	4	5	計
		知っている	少し 知っている	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	
平成22年 度：三重県	回答数	348	817	1,195	747	47	3,154
	回答率	11.0%	25.9%	37.9%	23.7%	1.5%	100.0%
H21:国調査	回答率	7.2%	49.9%	35.1%	6.0%	1.8%	100.0%
三重県-国調査		3.8%	-24.0%	2.8%	17.7%	-0.3%	—
問 13 まとめ		知っている		知らない		無回答	計
平成22年度：三重県		36.9%		61.6%		1.5%	100.0%
H21：国調査		57.1%		41.1%		1.8%	100.0%
三重県-国調査		-20.2%		20.5%		-0.3%	—

表 9-6 問13 回答状況

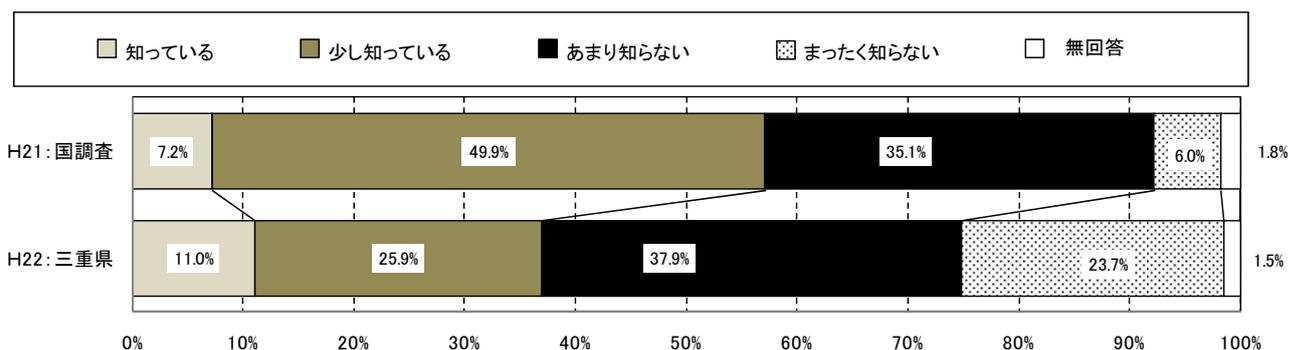


図 9-6 問 13 回答率

### 9-3 今後の方策に対する意向について

問 21	イベント等において、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどのように思いますか？ あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。
------	--

リユースカップの使用については、「使った方がよい」（選択肢の1と2の計）では、三重県は国調査より14.8%低い。

「使わない方がよい」（選択肢の3と4の計）では、三重県は国調査より19.8%高い。

リユースカップの使用の意識は、国の調査結果とかなりギャップがある。

問 21		1	2	3	4	5	計
		ぜひ使うべきである	できれば使った方がよい	どちらかというって使ってほしくない	使うべきでない	無回答	
平成22年度：三重県	回答数	396	1,211	1,113	299	135	3,154
	回答率	12.6%	38.4%	35.3%	9.5%	4.3%	100.0%
H21:国調査	回答率	19.5%	46.3%	21.3%	3.7%	9.2%	100.0%
三重県-国調査		-6.9%	-7.9%	14.0%	5.8%	-4.9%	—
問 21 まとめ		使った方がよい		使わない方がよい		無回答	計
平成22年度：三重県		51.0%		44.8%		4.3%	100.0%
H21：国調査		65.8%		25.0%		9.2%	100.0%
三重県-国調査		-14.8%		19.8%		-4.9%	—

表 9-7 問 21 回答状況

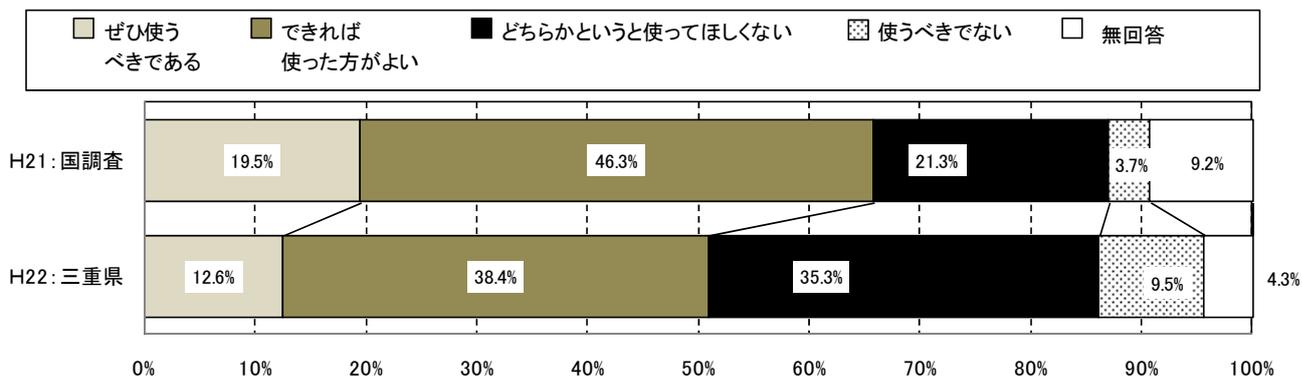


図 9-7 問 21 回答率

問 22 (問 21 で「1 ぜひ使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ)  
 「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？  
 あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。(複数回答)

リユースカップの「使った方がよい」(選択肢の1と2の計)の理由では、三重県・国調査ともに「ごみの減量化につながるから」が最も多く、次いで「資源の有効利用につながるから(使い捨てコップはもったいない)」が2番目に多い。

番号	選択肢	平成 22 年度：三重県		H21 国調査	三重県-国
		回答数	回答率		
1	資源の有効利用につながるから (使い捨てコップはもったいない)	1,253	78.0%	72.9%	5.1%
2	ごみの減量化につながるから	1,354	84.3%	87.4%	-3.1%
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	490	30.5%	30.5%	0.0%
4	環境問題への意識向上に役立つから	696	43.3%	44.4%	-1.1%
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから	31	1.9%	1.4%	0.5%
6	その他	28	1.7%	0.9%	0.8%
7	特にない	3	0.2%	0.5%	-0.3%
総回答数		3,855	239.9%	238.0%	-
有効回答数		1,607			

表 9-8 問 22 回答状況

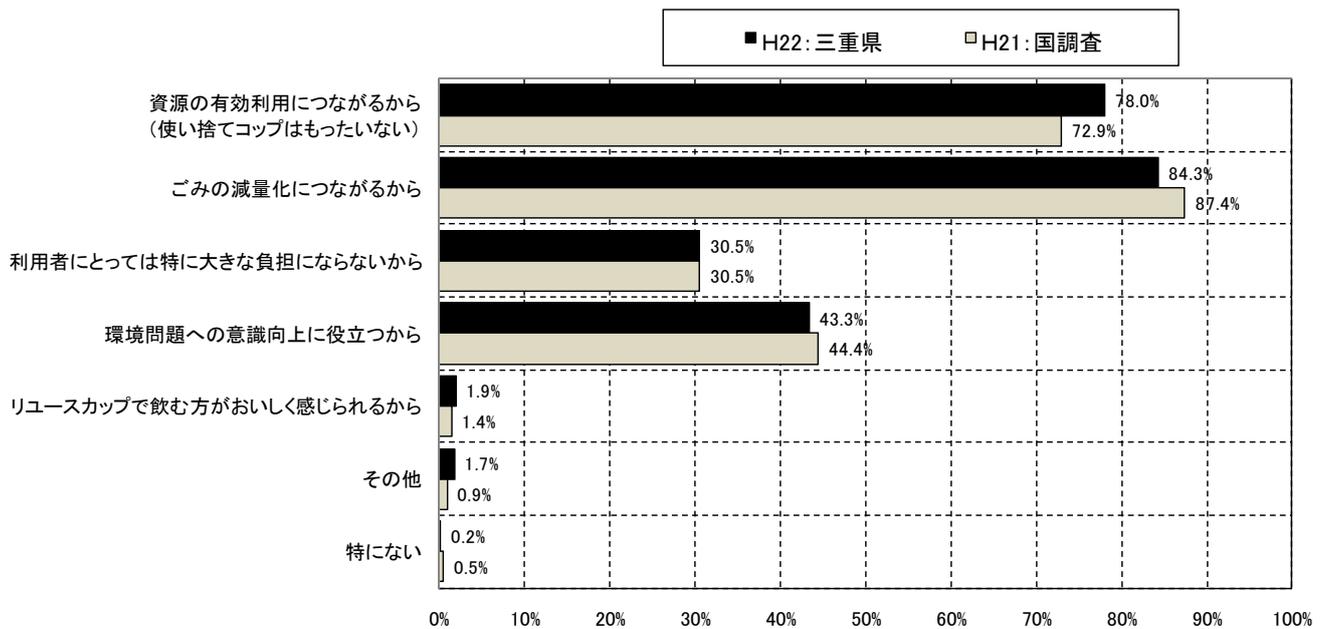


図 9-8 問 22 回答率

問 23	(問 21 で「3 どちらかというと思ってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ)
	「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由はなんで すか? あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。 (複数回答)

リユースカップの「使わない方がよい」(選択肢の3と4の計)の理由では、三重県・国調査ともに「衛生上の不安があるから」が最も多く、次いで「リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから」が2番目に多い。

番号	選択肢	平成 22 年度：三重県		H21 国調査	三重県-国
		回答数	回答率		
1	指定場所への返却など、手間がかかるから	107	7.6%	5.6%	2.0%
2	商品の値上げにつながる可能性があるから	42	3.0%	6.4%	-3.4%
3	衛生上の不安があるから	1,257	89.0%	89.6%	-0.6%
4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから	595	42.1%	38.8%	3.3%
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから	95	6.7%	3.2%	3.5%
6	その他	57	4.0%	2.4%	1.6%
7	特にない	9	0.6%	0.8%	-0.2%
総回答数		2,162	153.1%	146.8%	-
有効回答数		1,412			

表 9-9 問 23 回答状況

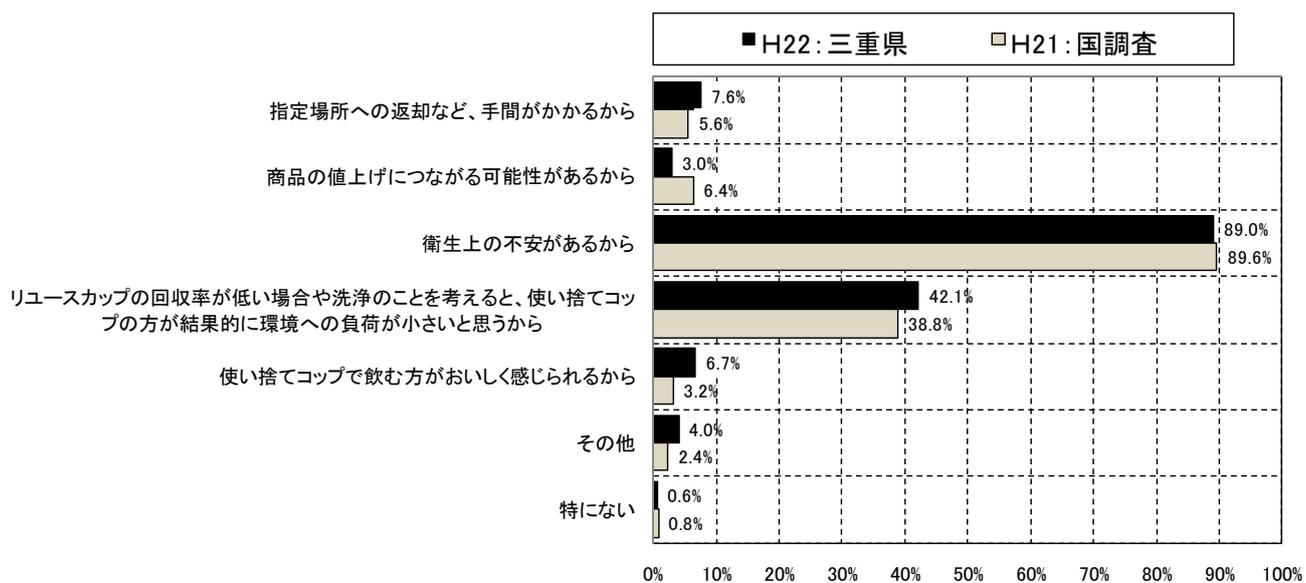


図 9-9 問23 回答率

## 10 自由記入意見まとめ

有効回答数 3,154 のうち、自由記入意見は 845 件あり、多種多様な意見が寄せられている。分類ごとに主な意見をまとめると、次のとおりである。

### ①発生・排出抑制に関して（152 件）

#### i) ごみの有料化について（50 件）

- ・ゴミ袋を高くすれば、（少しだけ）ゴミも減ると思う
- ・ゴミ有料化について、これ以上住民負担が増えるとゴミ減量化どころか不法投棄が増え、町が汚くなるような気がします。今でさえ、ゴミが捨てられているのをよく見かけます。

#### ii) レジ袋有料化について（3 件）

- ・レジ袋の有料化があたり前の生活に慣れました。どこの市町村も実施すべきだ。
- ・買い物袋について。スーパーでは、一枚 5 円で売っているけれど、量販店では、まだ、タダで袋をくれるけど、すべてこれも有料化した方がいいのではないですか？ダラダラと出しているといつまでたってもレジ袋 0 にはならないと思う。

#### iii) 暮らしの工夫によるごみ減量について（99 件）

- ・台所のゴミは、有機肥料にして少しの畑の作物の手助けをしております。少しの心がけでゴミの量を少なくできると思います。
- ・生ゴミは、水切りは勿論だが、干してからだと軽くなり量も減ります。余分な買物は止めにしましょう。各自に「ゴミをいかに減少に」と関心を持たせる為に、度々回覧板にて、注意を促してはどうでしょうか

### ②分別・収集に関して（174 件）

#### i) ごみの分別について（87 件）

- ・ゴミの分別方法が時々変わるなど、分かりにくい。しっかりと決めて行なってほしい。
- ・分別方式が、複雑で分かりにくく、手間がかかり困っている

#### ii) ごみ出し・収集について（64 件）

- ・資源ゴミ回収の日数を増やしてほしい。日数が増える事で分別する人も増えると思う。店舗での回収品目も増やして欲しい。
- ・時々ゴミ集積所に無記名のいろいろなゴミが入っていて、当番にあたると分別にとっても困る、なんとかならないかと思う。

#### iii) ごみ収集後の処理について（23 件）

- ・手間をかけて分別している資源ゴミは、本当にリサイクルされているのでしょうか。とても疑問を感じます

### ③経済活動に関して（116 件）

#### i) ごみを出さない製品づくり・商品販売について（93 件）

- ・市民一人一人のゴミの分別も必要だと思うが、販売側の考え方の方が大切だと思う
- ・ゴミ減量のためには、個人の意識を高めると共に、生産者自身にも意識改革が必要だと思います

#### ii) ごみの回収・処理に関する企業責任について（23 件）

- ・根本的な社会の考え方がまちがっていると思う。ごみがでない様販売側、生産側で考えてもらう。すべて昔の様にばら売り。リユースの容器にして当然です。買い物かごをもって（容器をもって）買えばよい（以前にそういう形で売る）こんな問題が出ていることが社会の根本的思想が狂ってる。
- ・デポジット制度により、販売業者が積極的に廃品を回収するとよい、また、企業は包装等のゴミが発生しない商品販売に取り組むべきである

#### ④意識・モラルに関して（158件）

- i) 一人ひとりの心がけについて（53件）
  - ・会社や家庭で、絶対ゴミは出ます。必要最低限にするには、一人一人の心がけ次第ですが、なかなか難しいと思います。
  - ・一人ひとりの意識の向上させる為に県で啓発活動にとりこんでほしい。
- ii) マナー違反について（60件）
  - ・不法投棄している人々に対し、非常に腹立たしく感じます
- iii) 教育・広報啓発活動について（45件）
  - ・すべてにおいて子供からの教育。指導（きびしい）が重要。コツコツとこの教育指導を継続することが第一と思う。

#### ⑤ごみ対策全般に関して・その他（245件）

- i) 現代の生活スタイルについて（23件）
  - ・安く大量生産が当たり前になっていて、物を大切にできる気持ちがなくなってきているような気がします。少々高くても良い製品なら大切に使い、壊れても修理して使うと思います。
- ii) ごみゼロ社会の実現について（65件）
  - ・意見：1、家計への負担はなるべく少なくしてほしい。2、一律の負担を家庭に求める際は事前に十分な説明をしてほしい。3、ごみゼロ社会の実現への取組については、随時進捗状況を情報提供してほしい。
- iii) 住民参加によるごみゼロ運動について（10件）
  - ・住民が参加しやすいものにしなければ続きません。広告は最小限にして節約し、尚且つ、地域住民に知らせる為の広報を行なってほしいです。例えば、ゴミ袋代金の一部を、そうした活動にまわすなど、必ず全住民の目にふれ、参加が簡単にできている実感と意識改革からスタートしてはどうでしょうか
- iv) 行政の姿勢について（34件）
  - ・三重県が、積極的にリサイクルに関する研究を行なうべきと考える
  - ・行政が積極的に市民のゴミに対する意識向上の対策等をして下さい。
- v) 今回のごみゼロアンケートに関するもの（23件）
  - ・アンケートの必要もあろうが、アンケート容量も考慮すべきでは？余りにも多いと・・・。
- vi) その他（90件）
  - ・「ごみゼロ社会」の実現は、日本の国のみではなく、世界の人々が共に参加しなければ。海を渡って流れ着く「ゴミ」、油の流出など、多くの問題がありますが、まず第一歩から頑張ってみます。

## 11 県民アンケート 調査票

### ◎ 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動についてお聞きします。

問1 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？  
それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

- (1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

- (2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

- (3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

- (4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

- (5) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

- (6) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

問2 次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？  
それぞれの場合について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

- (1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

- (2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

- (3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

(4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

問3 物を買うときの環境への配慮について、あなたはどのように感じていますか？  
最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	環境保全のために良いことなので、常に意識している
2	習慣になっており、特に意識することではない
3	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する
4	家計の圧迫につながるのを避けたい
5	手間や時間がかかる・面倒だ
6	生活の便利さや快適さを損なう
7	その他（具体的に )
8	わからない

問4 食べ物のごみについてお聞きします。  
それぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

1	よくある	2	たまにある
3	あまりない	4	ほとんどない

(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

1	よくある	2	たまにある
3	あまりない	4	ほとんどない

問5 次のうち、だいたい意味がわかる言葉はどれですか？  
あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	循環型社会	2	低炭素社会
3	ごみゼロ社会	4	リデュース
5	リユース	6	リサイクル
7	3R（さんアール、スリーアール）	8	エコライフ
9	スローライフ	10	容器包装リサイクル法
11	家電リサイクル法	12	食品リサイクル法
13	排出者責任	14	拡大生産者責任
15	マイバッグ	16	レジ袋の有料化
17	ごみの有料化	18	どれも知らない

問 6 あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？  
**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対している人が多い
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されている
4	野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題になっている
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの名目で、放置されている
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしきっていないものがある
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じている
9	その他（具体的に _____）
10	特に知っているものはない

問 7 使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？  
**あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	どちらかという、便利で暮らしやすく、特に疑問は感じていない
2	どちらかという、将来のことを考えると「このままでいいのか」という疑問を感じる
3	よくわからない

問 8 ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？  
**あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

◎ **現在行っているごみ減量やリサイクルの取組についてお聞きします。**

問 9 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？  
**それぞれの枠内に番号を1つずつ記入してください。**

1	ごみそのものの発生を減らすこと
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること

設問	番号を記入
最も大切だと思う	
次に大切だと思う	

問 10 あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？  
**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問 11 あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？  
**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問 12 あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？  
**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問 13 あなたは、分別したごみがあなただの市町でどのように処理・リサイクルされるかご存知ですか？  
**あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	知っている	2	少し知っている
3	あまり知らない	4	まったく知らない

問 14 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？  
**あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	1時間以上	2	30分～1時間くらい
3	10分～30分くらい	4	数分程度
5	ほとんどかけていない		

問 15 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？

**あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	賛成	2	どちらかという賛成
3	どちらかという反対	4	反対

問 16 次のうち、あなたのご家庭でやっていることはどれですか？  
 あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	台所ごみの水切りをしている
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている
7	紙くずなどを庭や畑で焼却している
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んで
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している
13	食品は買いすぎないように注意している
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている
15	食事を食べ残さないようにしている
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている
17	資源とごみの分別を徹底している
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている
21	マイ箸を携帯している
22	携帯電話の店頭回収に協力している
23	その他（具体的に
24	これらいずれもやっていない

問 17 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？  
 あてはまるものを 3 つまで選び、番号に○を付けてください。

1	分別ルールが複雑でわかりにくい	2	市町ごとにルールが異なり覚えにくい
3	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	4	収集日時が限られている
5	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	6	洗ったり束ねたり手間がかかる
7	その他（具体的に		)
8	特に問題はない		

◎ 今後の方策に対する意向についてお聞きします。

問 18 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？  
 あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	調理くず	2	食べ残し
3	賞味期限切れ食品	4	紙容器、紙袋や包装紙
5	新聞	6	チラシ
7	雑誌	8	段ボール
9	紙パック	10	古着類
11	ペットボトル	12	レジ袋
13	プラスチック容器	14	びん
15	缶	16	粗大ごみ
17	その他（具体的に		)

問 19 ごみに関する情報を、あなたはどのような方法で手に入れていますか？

**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	市町の広報や分別マニュアルを通じて	2	市町村のホームページを通じて
3	公共施設などでのポスターやチラシを通じて	4	地域の回覧板や掲示物を通じて
5	防災無線や広報スピーカーで	6	住民説明会を通じて
7	新聞などマスコミを通じて	8	企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書で
9	家族や友人・知人を通じて	10	子供（学校などの情報）を通じて
11	書籍で	12	スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者を通じて
13	エコ製品やサービスを展示するイベントを通じて	14	PTA・自治会などの地域の活動を通じて
15	勤務先・取引先など仕事を通じて	16	環境保護団体・環境 NGO の広報誌やパンフレットを通じて
17	生協活動・ボランティア活動など社会活動を通じて	18	シンポジウムや講演会、市民大学などで
19	その他（具体的に _____）		
20	あてはまるものなし		

問 20 今後、ごみに関してどのような情報がほしいですか？

**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	わかりやすい分別方法	2	ごみ処理コスト
3	ごみの減量方法	4	地域の集団回収（資源回収）
5	生ごみ処理機等の購入費助成制度	6	ごみ減量・リサイクル推進活動団体の紹介
7	ごみ減量・リサイクルに関する講座・セミナー	8	ごみ減量によるCO <sub>2</sub> 削減量を表示するなど、地球温暖化防止効果の見える化
9	市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況		
10	その他（具体的に _____）		
11	あてはまるものなし		

問 21 イベント等において、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどう思いますか？

**あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。**

1	ぜひ使うべきである⇒問 22 へ	2	できれば使った方がよい⇒問 22 へ
3	どちらかというと思ってほしくない⇒問 23 へ	4	使うべきでない⇒問 23 へ

問 22 （問 21 で「1 ぜひ使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ）

「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？

**あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。**

1	資源の有効利用につながるから（使い捨てコップはもったいない）	2	ごみの減量化につながるから
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	4	環境問題への意識向上に役立つから
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから		
6	その他（具体的に _____）		
7	特になし		

問 23 (問 21 で「3 どちらかというと思ってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ)  
 「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由はなんですか？  
あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	指定場所への返却など、手間がかかるから	2	商品の値上げにつながる可能性があるから
3	衛生上の不安があるから	4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから		
6	その他(具体的に )		
7	特になし		

問 24 家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	知っている	2	少し知っている
3	あまり知らない	4	まったく知らない

問 25 増え続けるごみを減らすため、ごみ(可燃ごみ)の排出に料金を課す市町が増えていきます。  
 税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？  
あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい
2	最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい
3	ごみ処理費用はごみの量に応じて出す人が負担する仕組みとすることで、これまでごみ処理に使っていた税金を福祉や教育などにまわすのがよい
4	よくわからない
5	その他(具体的に )

問 26 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	賛成	2	どちらかというとな賛成
3	どちらかというとな反対	4	反対

問 27 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？  
特に重要と思われるものを3つまで選び、番号に○を付けてください。

1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なしくみとすること
2	家計への負担が少ない料金とすること
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびにある程度の負担が感じられる料金とすること
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること
7	ルール違反(不法投棄など)を許さないこと
8	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途(福祉や教育等)に使うことを検討すること
10	その他(具体的に )

問 28 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？

あてはまるものを 1つ 選び番号に○を付けてください。

1	ごみ袋大（45リットル）が1袋10円	2	ごみ袋大が1袋50円程度
3	ごみ袋大が1袋100円程度	4	ごみ袋大が1袋200円程度
5	それ以上		

問 29 あなたの市町でごみの有料化が実施された場合、どのようにごみを減らしますか？既に実施している市町の方については、どのように減らしていますか？

あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	台所ごみの水切りをする
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋める
3	台所ごみを堆肥化処理する
4	紙くすなど少量のごみを庭や畑で焼却する
5	買い物袋（マイバッグ）等を持参しレジ袋をもらわない
6	詰め替え容器を使用した商品を買う
7	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選ぶ
8	包装を断ったり、簡易包装を依頼する
9	食品は買いすぎないように注意する
10	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにする
11	食事を食べ残さないようにする
12	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりする
13	資源とごみの分別をより徹底する
14	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用する
15	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにする
16	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにする
17	マイ箸を携帯する
18	その他（具体的に )
19	これらいずれもしない

問 30 あなたの家の近くに中古の家電製品や家具を扱うお店（リサイクルショップ）ができたとします。この店がどんな店だったら、あなたは足を運んでみようと思いますか？

あてはまるものを 3つまで 選び、番号に○を付けてください。

1	店舗がきれい、明るい	2	取り扱っている商品がきれい
3	商品の品ぞろえがある	4	商品が探しやすい
5	品質など信頼できる	6	販売金額は安く、買取金額は高め
7	その他（具体的に )		
8	どんな店でも足は運ばないと思う		

問 31 あなたのご家庭から出る可燃ごみに限って言えば、努力によりどれだけ減らせると思いますか？

あてはまるものを 1つ 選び番号に○を付けてください。

1	10%未満	2	10%～30%
3	30%～50%	4	50%～80%
5	80%以上	6	これ以上は減らせない

◎ 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてお聞きします。

問 32 ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きします。  
それぞれの意見について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

(1) 計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

◎ 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」についてお聞きします。

問 33 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存じですか？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	知っている	2	名前は聞いたことがある
3	知らない		



問 34 この三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」をご存じですか？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

三重県のごみゼロキャラクター

1	知っている	2	見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった	3	知らない
---	-------	---	-------------------------------------	---	------

問 35 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取組に参加したいと思いませんか？  
あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。

1	地域ごみゼロ交流会に参加したい
2	ごみゼロに関する講演会やセミナーに参加したい
3	ごみゼロプランに関する情報をホームページ等で読みたい
4	ごみゼロメールマガジンを読みたい
5	ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読みたい
6	アンケートなどに協力したい
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい
8	ごみゼロプランの進捗状況などを評価検証する「ごみゼロプラン推進委員会」を傍聴したい
9	いずれにも参加したいとは思わない
10	その他（具体的に )

◎ あなた自身や世帯についてお聞きします。

問 36 あなたの年齢は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	20代以下	2	30代	3	40代
4	50代	5	60代	6	70代以上

問 37 あなたの性別は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	女性	2	男性
---	----	---	----

問 38 あなたのお仕事は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	会社員・公務員	2	パート・アルバイト
3	農林水産業	4	自営業
5	家事・家事手伝い	6	学生
7	無職	8	その他（具体的に )

問 39 いっしょに住んでいる家族の人数は？  
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	1人	2	2人	3	3人
4	4人	5	5人以上		

問 40 お住まいの市町は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	津市	2	四日市市	3	伊勢市
4	松阪市	5	桑名市	6	鈴鹿市
7	名張市	8	尾鷲市	9	鳥羽市
10	熊野市	11	志摩市	12	伊賀市
13	東員町	14	菟野町	15	紀宝町

問 41 お住まいの形態は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	戸建住宅	2	ワンルームのマンションや アパート	3	学校や会社の寮
4	その他のマンションや アパート	5	その他（具体的に )		

問 42 お住まいの周辺の様子は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

1	住宅地	2	住宅とお店や工場などが混在している地域
3	住宅が点在する農山漁村	4	その他（具体的に )

